

仙台市文化財調査報告書第113集

富 沢 遺 跡

24次調査 富沢中学校地区

発掘調査報告書

昭和63年3月

仙 台 市 教 育 委 員 会

仙台市文化財調査報告書第113集

富 沢 遺 跡

24次調査 富沢中学校地区

発掘調査報告書

昭和63年3月

仙 台 市 教 育 委 員 会



Ⅲ層水田跡南部溝跡群・掘立柱建物跡（近世～中世・東より）



Ⅲ層水田跡中央部（近世～中世・南より）



V層水田跡中央部（平安時代・東より）



VI b 層小溝状遺構群（古墳時代・東より）



VI b 層水田跡（古墳時代・東より）



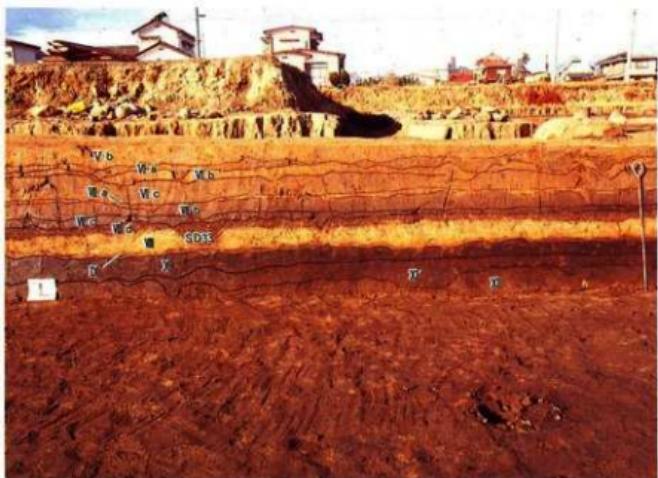
VII b 層水田跡（古墳～弥生時代）



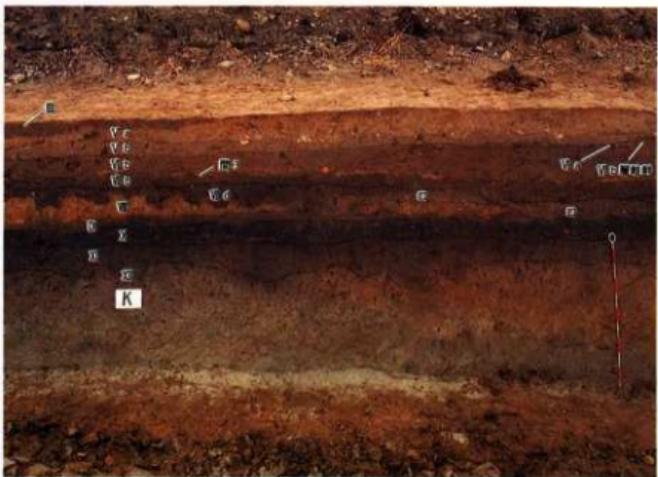
Vc層水田跡・SR-3河川跡（弥生時代・東より）



X層水田跡南部（弥生時代・東より）



土層断面(E37ラインーL区・東より)



土層断面 (E72ラインーK区・西より)

序

仙台市は昨年11月に宮城町を、そして今年3月には泉市と秋保町と合併し、市域を拡大するとともに充実した「都市」へのさらなる発展を目指しております。都市社会の充実は市民の多様な要求を生み出しますが、その一つに精神的あるいは空間的な「ゆとり」があります。精神的意味合いでのゆとりを考えるとき、縁の豊かさと歴史の追体験と文化の継承がすぐに思いうかばれます。この歴史と文化を身近に伝えるものが文化財であり遺跡であります。近年、遺跡の調査成果についてたびたび報道されるのも、このような事情を反映しているものと思われます。

仙台市教育委員会では、市民の皆様が遺跡をはじめとする文化財とより多く接することが出来ますように、広報誌の発行・現地説明会の実施・体験発掘の実施等を行なっております。特に体験発掘の実施については、本書にも記載がありますように、学校教育との連携をとりながら積極的に取り組んでおるところです。

また、空間的なゆとりと言う意味では、今回の調査地に建設した富沢中学校の校舎は、これまでの箱型の校舎を改め、より多くの空間を生かして作られました。そしてそのゆとりの空間の一つである多目的ホールには、壁面を利用して富沢中学校の地下に「埋もれていた歴史」を多種の手法によって展示し、空間的なゆとりと精神的なゆとりの和合も試みられました。

遺跡をはじめとする文化財は、都市の開発とたびたび摩擦を生じておりますが、これをいかに残し、どのように活用していくかは、これから益々発展してゆく都市の「ゆとり」と大きくかかわるものと思われます。教育委員会をいたしましても、このことにつきましてさらに努力してまいりますが、市民の皆様のさらなるご支援とご助言をお願い申し上げまして刊行のご挨拶といたします。

最後になりましたが、調査と整理に参加された皆様と、本書の作成にあたりご助言・ご指導くださいました各位に心から感謝いたします。

昭和63年3月

仙台市教育委員会

教育長 藤井 粒

例　　言

1. 本書は、仙台市富沢中学校の建設に伴う、富沢遺跡の24次調査の発掘調査報告書である。
2. 本調査において検出された遺構については、次の遺構略号を使用し、発見順にそれぞれの遺構ごとに番号を付した。遺構の分類のうち、土坑としたものとその他の遺構としたもの明確な定義分けはしていない。

S B = 据立柱建物	S D =溝　　跡	S K = 土　　坑
P = ピット(小穴)	S R = 旧河道・河川跡	S X = その他の遺構

3. 本調査書においては、出土遺物の分類と登録には下記の分類と分類記号を使用した。

A = 繩文土器	B = 弦生土器	C = 土師器(非ロクロ)
D = 土師器(ロクロ)	E = 須恵器	F = 丸瓦・軒丸瓦
G = 平瓦・軒平瓦	H = その他の瓦	I = 陶　　器
J = 磁　　器	K = 石器・石製品	L = 木器・木製品
M = 木　　簡	N = 金属製品	O = 自然遺物
P = 土　製 品	Q = 骨角製品	R = 紙・布
S = 塗　　輪	X = そ の 他	

4. 本書の記述における土色は、「新版標準土色帳」(小山・佐原:1970)に基づいている。
5. 本書に使用した建設省国土地理院発行の地形図・空中写真は、図中に示した。
6. 遺物観察表の法量の単位は、特にことわりのない場合は<cm>単位である。また、法量に(　　)が付されているものは、復元推定値または残存値である。
7. 古銭の拓影は実寸で掲載した。
8. 杭の実測図及び観察表の記載にあたっては、後述の分類・技術法に従った。
9. 遺構図中における数値(例=13.52)はその地点の標高を示している。
10. 溝跡等の断面図の実測ポイントにはA~Xの符号が付されているが、この符号は遺構配置図の実測ポイントの符号と一致している。
11. 遺物の実測図中、土器類の中心線が一点破線<—・—>になっているものは、復元径によるものである。
12. 遺物の写真是種別ごとに掲載し、写真には遺物の登録番号と出土層位または出土遺構名の

みを記述してある。写真から実測図を見る場合には、末尾の登録遺物目録で実測図の番号を調べることができる。

13. 石器・石製品の材質の同定にあたっては、調査員が類似性の強いものを肉眼で分類し、各分類から1点ないし数点をピックアップしたもの（全出土量の約1/3）を、仙台市科学館佐々木 隆氏に鑑定していただいた。
14. 富沢中学校周辺の地形については、東北大学地理学研究室豊島正幸氏に執筆していただいた。
15. プラント・オパールの分析調査は、古環境研究所にお願いした。
16. 本文の執筆は下記の通り担当し、編集は工藤が行なった。

太田昭夫 V (V-1)

工藤哲司 I、II (II-1-2) を除く、III (III-4 を除く)、IV (IV-14 を除く)、V (V-1 を除く)

17. 本書の作製にあたっては、次の通り分担して行なった。

遺物実測・トレース……太田昭夫・平間亮輔・森 剛男・浅理千賀・神尾紀以子・佐藤正祐・白鳥 修・高橋明美・千葉良樹・堀 龍彦・砂金よしえ・金沢君代・湯浅ます枝

遺構トレース……工藤・神尾

遺物写真撮影・割付け……神尾

登録遺物目録作成……神尾・浅理

18. 本調査書に係わる各種実測図・写真及び出土遺物は、仙台市教育委員会が一括して保管している。
19. 本書の弥生土器についての報告にあたっては、佐藤信行氏の助言を得た。

〈杭の観察について〉

1. 素材

素材は、枝を払っただけの自然木を「丸材」と呼び、2分割以上に割られた材を「分割材」と総称した。丸材には樹皮付きのものと、樹皮を剥いだものが存在すると考えられるが、意図的に樹皮を剥いだものを特定することは出来なかった。

2. 末端の加工

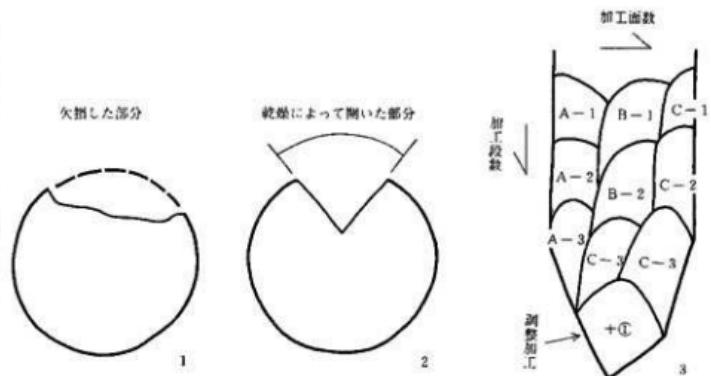
杭の末端は、「未加工のもの」と「加工されたもの」がある。未加工のものは折れ口や切断面がそのまま杭の先端となっている。折れ口か切断面かは不明確である。

先端が加工されたものには、1面だけ加工された「単面加工」のものと、2面から

杭の先端を一周して数面の加工がされる「多面加工」のものがある。なお、ここでの面数の数え方は下図3に示した通り、A・B・C面はそれぞれ上から下へ3回の加工がされているが、加工の面としてはA-1・A-2・A-3は一連のものと考えられるので、同一面とすることにした。B・Cについても同様である。従ってこの杭の主要な加工面は3面である。

各加工面は、面に対する利器による加撃の痕跡が「1段の」ものと「多段」のものがある。図3のA・B・C面はそれぞれ3段の加撃の痕跡が数えられる。

- * 分割材の場合、分割面は加工面の数に含まない。
- * 加工の段数は、明確な加撃の痕跡のみを数えた。
- * 加工面の長さは、加工面が複数の場合には、そのうち最長のものを計測した。
また、先端部が欠損している場合には、残存長の後に「く」の記号を付した。
- * 一連の加工面とは別に、先端部のみに調整の加工がなされている場合には、その数を加工面数の後に「+① (調整加工の数)」として表した。



3. 欠損部の表示

杭材が、腐食又は調査時に欠損している部分については、図1のように欠損部分を破線で復元した。また、調査中に乾燥して亀裂が入り、広く開いた部分については、図2のように開口部の両端を示しこれを弧線で結んだ。

- * 乾燥による開きや反り返りの著しいものに付いては、計測の一部を省略した。

目 次

序	
例言	
I. 調査に至る経緯と調査過程	1
1. 調査に至る経緯	1
2. 調査経過	1
3. 体験学習の実施	3
4. 調査体制	7
II. 遺跡の環境	9
1. 富沢遺跡の位置と地理的環境	9
1) 富沢遺跡の位置	9
2) 仙台平野の地形の概要	9
3) 流路跡の分布状態と微地形	11
4) 発掘区周辺の沖積層の概観	12
2. 周辺の遺跡と歴史的環境	13
3. 富沢遺跡の過去の調査概要	18
III. 調査の方法	25
1. 測量基準とグリッド配置	25
2. 試掘調査の概要	25
1) 試掘区の設定	25
2) 各区の概要	25
3. 基本層位	34
4. プラント・オバール分析による予備探査	49
IV. 発見遺構と出土遺物	58
1. I・II層出土遺物	58
2. III層検出遺構と出土遺物	58
1) 遺構の構成	58
2) 水田跡の概要	58
3) 掘立柱建物	70
S B - 1	S B - 2
4) 溝 跡	71
S D - 1	S D - 2
S D - 10	S D - 11
S D - 59	S D - 12
5) 土 坑	S D - 18
	77

	SK-1	SK-3	SK-4	
6) 杭列				79
	SD-9杭列		SD-10シガラミ遺構	
	SD-10杭列			
7) その他の遺構				93
	SX-4	SX-5	SX-6	SX-7
	SX-8	SX-9	SX-10	SX-12
	SX-13	SX-14	SX-15	SX-16
3. IV層出土遺物				105
4. Va・Vb層検出遺構と出土遺物				105
1) 遺構の構成		105	2) 水田跡の概要	106
3) 溝跡				109
	SD-13	SD-14	SD-15	SD-16
	SD-17	SD-20		
4) その他の遺構				111
	足跡	SX-11		
5) V b層出土遺物				113
5. VI b層検出遺構と出土遺物				113
1) 遺構の構成		113	2) 水田跡の概要	113
3) 小溝状遺構				118
4) 溝跡				125
	SD-19	SD-21	SD-22	SD-23
	SD-24	SD-25	SD-26	SD-29
	SD-30			
5) 土坑				126
	SK-5	SK-6		
6) 出土遺物				128
6. VII b層検出遺構と出土遺物				128
1) 遺構の構成		128	2) 水田跡の概要	128
3) 溝跡				131
	SD-31	SD-37		
7. VII c層検出畦畔状遺構				132

8. VII c 層検出遺構と出土遺物	132
1) 遺構の構成	132
2) 水田跡の概要	133
3) 河川跡	136
S R - 2 + 3	
4) 溝 跡	138
S D - 32	S D - 35
S D - 36	S D - 47
S D - 52	
5) 土 坑	140
S K - 22	S K - 23
S K - 24	S K - 25
6) 出土遺物	141
9. VII d 層検出遺構と出土遺物	141
1) 溝 跡	141
S D - 38	S D - 39
2) 出土遺物	143
10. VIII・IX層検出遺構と出土遺物	144
1) 遺構の構成	144
2) 溝 跡	145
S D - 5	S D - 33
S D - 34	S D - 40
S D - 41	S D - 42
S D - 43	S D - 44
S D - 45	S D - 46
S D - 48	S D - 49
S D - 50	S D - 51
S D - 60	S D - 61
S D - 62	S D - 63
S D - 64	S D - 65
S D - 66	
3) 土 坑	149
S K - 2	S K - 11
S K - 12	S K - 13
S K - 14	S K - 15
S K - 16	S K - 17
S K - 18	S K - 19
S K - 20	S K - 26
S K - 38	S K - 39
S K - 40	S K - 41
S K - 42	S K - 43
S K - 44	
4) 出土遺物	158
11. X層検出遺構と出土遺物	158
1) 遺構の構成	158
2) 水田跡の概要	159

3) 溝 跡				175
S D -27	S D -28	S D -54	S D -55	
S D -56	S D -57	S D -58		
4) 土 坑				177
S K -10	S K -35	S K -45	S K -46	
5) その他の遺構				179
S X -35				
12. XI層検出遺構と出土遺物				179
1) 遺構の構成				179
2) 陥し穴				181
S K -27		S K -31		
3) 配石遺構				181
第一配石遺構		第二配石遺構		
4) 土 坑				182
S K -28	S K -29	S K -30	S K -32	
S K -33	S K -34			
5) 杭 列				184
O・P-5・6区		O-5区		
D・E-8・9区		D・E・F-4・5区		
O・P-7・8・9区				
6) その他の遺構				194
S X -18	S X -19	S X -20	S X -36	
S X -37				
7) 出土遺物				195
13. XII層検出遺構と出土遺物				215
1) 遺構の構成				215
2) 土 坑				218
S K -7	S K -8	S K -9	S K -21	
S K -36	S K -37			
3) その他の遺構				220
S X -21	S X -22	S X -23	S X -24	
S X -25	S X -26	S X -27	S X -28	

S X - 29	S X - 30	S X - 31	S X - 32
S X - 33	S X - 34	S X - 38	S X - 39
S X - 40	S X - 41	S X - 42	S X - 43
4) 旧河川跡			230
S R - 4			
5) 出土遺物			231
14. 富沢中学校VI b 層・X層プラント・オバール分析調査報告書			235
1) はじめ			235
2) 試 料			236
3) 分析法			236
4) 分析結果			238
5) 考 察			238
V. 調査成果のまとめと考察			241
1. 弥生土器について			241
2. 小溝状遺構について			248
3. プラント・オバール分析と調査結果			251
4. まとめ			252
VI. 登録遺物目録			361
写真図版			255

挿 図 目 次

第1図 遺跡位置図	8	第35図 III層水口実測図	62
第2図 仙台平野の微地形区分	10	第36図 III層 SD-9溝跡断面図	63
第3図 郡山低地の流路跡	11	第37図 SD-9溝跡出土遺物実測図(1)	64
第4図 富沢周辺の微地形	12	第38図 SD-9溝跡出土遺物実測図(2)	65
第5図 地層断面図	13	第39図 SD-9溝跡出土遺物実測図(3)	66
第6図 周辺の遺跡	15	第40図 III層出土遺物実測図(1)	67
第7図 富沢遺跡平面図	21	第41図 III層出土遺物実測図(2)	68
第8図 調査区位置図	23	第42図 III層出土遺物実測図(3)	69
第9図 潟量基準点と国土座標	24	第43図 SB-1掘立柱建物跡実測図	70
第10図 調査区の設定とグリッド配置図	27	第44図 SB-2掘立柱建物跡実測図	71
第11図 基本層位上柱図	27	第45図 III層検出溝跡断面図	72
第12図 D21区Ⅲ層検出柱樹実測図	29	第46図 SD-10溝跡出土遺物実測図(1)	73
第13図 J21区Ⅲ層検出溝断面図	30	第47図 SD-10溝跡出土遺物実測図(2)	74
第14図 J21区Ⅵ層検出溝断面図	30	第48図 SD-10溝跡出土遺物実測図(3)	75
第15図 J27区Ⅷ層検出溝断面図	31	第49図 SD-12溝跡出土遺物実測図	76
第16図 D21区X層杭実測図	31	第50図 III層検出土坑実測図	77
第17図 試掘トレンチ出土遺物実測図(1)	31	第51図 SD-9溝跡杭列実測図	78
第18図 試掘トレンチ出土遺物実測図(2)	32	第52図 SD-9溝跡杭列杭材実測図(1)	80
第19図 試掘トレンチ出土遺物実測図(3)	33	第53図 SD-9溝跡杭列杭材実測図(2)	81
第20図 基本層位概念図	36	第54図 SD-9溝跡杭列杭材実測図(3)	82
第21図 開層1-7層間の各層分布概念図	39	第55図 SD-9溝跡杭列杭材実測図(4)	83
第22図 E37ライン南北断面図	41	第56図 SD-9溝跡杭列杭材実測図(5)	84
第23図 東壁断面図(1)	42	第57図 SD-9溝跡杭列杭材実測図(6)	85
第24図 東壁断面図(2)	43	第58図 SD-9溝跡杭列杭材実測図(7)	86
第25図 ES4ライン南北断面図	44	第59図 SD-9溝跡杭列杭材実測図(8)	87
第26図 N30ライン東西ペルト断面図	45	第60図 SD-10溝跡シガラミ遺構実測図	88
第27図 北壁断面図	46	第61図 SD-10溝跡シガラミ遺構 杭材実測図(1)	89
第28図 J3区試掘トレンチ東壁断面図	47	第62図 SD-10溝跡シガラミ遺構 杭材実測図(2)	91
第29図 Q3区試掘トレンチ東壁断面図	48	第63図 SD-10溝跡杭列実測図	94
第30図 J9区試掘トレンチ東壁断面図	48	第64図 SD-10溝跡杭列杭材実測図(1)	95
第31図 イネ機動細胞プラント・オバール 出現状況	54	第65図 SD-10溝跡杭列杭材実測図(2)	96
第32図 各植物の推定生産量と推移	55	第66図 SX-4遺構実測図	97
第33図 I層・II層出土遺物実測図	59	第67図 SX-5遺構実測図	98
第34図 出土層位不明遺物実測図	60		

第68図	SX-5 遺構出土遺物実測図	98	第100図	VII c 層出土遺物実測図	134
第69図	SX-7 遺構出土遺物拓影	98	第101図	SR-3 河川跡断面図	136
第70図	SX-6 遺構実測図	99	第102図	SR-3 河川跡出土遺物実測図(1)	137
第71図	SX-6 遺構杭材実測図	100	第103図	SR-3 河川跡出土遺物実測図(2)	138
第72図	SX-7 遺構実測図	101	第104図	VII c 層検出構跡断面図(1)	139
第73図	SX-8・9 遺構実測図	101	第105図	SD-32 溝跡出土遺物実測図	139
第74図	SX-10 遺構実測図	102	第106図	VII c 層検出溝跡断面図(2)	140
第75図	SX-10 遺構出土遺物実測図	102	第107図	VII c 層出土遺物実測図	141
第76図	SX-13 遺構実測図	103	第108図	VII d 層検出溝跡断面図	142
第77図	SX-12・14・15 遺構実測図	103	第109図	VII d 層出土遺物実測図	142
第78図	SX-13 遺構出土杭材実測図	104	第110図	VII層出土遺物実測図(1)	143
第79図	SX-16 遺構実測図	104	第111図	VII層出土遺物実測図(2)	144
第80図	IV層出土遺物実測図	105	第112図	VII・IX層検出溝跡断面図(1)	146
第81図	V層出土遺物実測図(1)	107	第113図	SK-2 土坑出土遺物実測図	150
第82図	V層出土遺物実測図(2)	108	第114図	SK-12 土坑出土遺物実測図	150
第83図	V b 層検出溝跡断面図	109	第115図	VII・IX層検出土坑実測図(1)	151
第84図	SD-13 溝跡出土遺物実測図	110	第116図	VII・IX層検出土坑実測図(2)	152
第85図	SD-20 溝跡出土遺物実測図	110	第117図	VII・IX層検出土坑実測図(3)	153
第86図	VI b 層上面検出足跡実測図	111	第118図	VII・IX層検出土坑実測図(4)	154
第87図	V b 層検出SX-11 遺構実測図	111	第119図	VII層出土土器実測図	155
第88図	V b 層出土遺物実測図	112	第120図	IX層出土遺物実測図	156
第89図	VI b 層水田跡畦畔断面図	115	第121図	VII・IX層出土石器実測図	157
第90図	VI b 層検出溝跡断面図(1)	116	第122図	X層水田跡断面図	160
第91図	SD-19 溝跡出土遺物実測図	117	第123図	X層水田跡南東部平面図	161
第92図	VI b 層出土遺物実測図	117	第124図	SD-28 溝跡断面図	163
第93図	VI層小溝状遺構断面図	120	第125図	X層出土遺物実測図(1)	165
第94図	VI b 層上面出土遺物実測図	120	第126図	X層出土遺物実測図(2)	166
第95図	小溝状遺構平面図	121	第127図	X層出土遺物実測図(3)	167
第96図	小溝状遺構群別分布図	123	第128図	X層出土遺物実測図(4)	168
第97図	VI b 層検出溝跡断面図(2)	125	第129図	X層出土遺物実測図(5)	169
第98図	SK-5 土坑実測図	126	第130図	X層出土遺物実測図(6)	170
第99図	SK-5 土坑出土遺物実測図	127	第131図	X層出土遺物実測図(7)	171
第100図	SK-6 土坑実測図	127	第132図	X層出土遺物実測図(8)	172
第101図	SK-6 土坑出土遺物実測図	127	第133図	X層出土遺物実測図(9)	173
第102図	VI層出土遺物実測図	128	第134図	X層出土遺物実測図(10)	174
第103図	VII b 層出土遺物実測図	130	第135図	SD-27 溝跡断面図	175
第104図	SD-37 溝跡断面図	131	第136図	SD-27 溝跡上におけるVII層断面図	175
第105図	VII c 層検出畦畔状遺構土層概念図	132			

第14回	X層検出溝跡断面図	176	第13回	X層出土遺物実測図(1)	211
第15回	X層検出土坑実測図	178	第18回	X層出土遺物実測図(10)	212
第16回	SX-35 遺構実測図	178	第19回	X層出土遺物実測図(9)-1	213
第17回	SX-35 遺構出土遺物実測図	179	第20回	X層出土遺物実測図(9)-2	214
第18回	SK-27 土坑実測図	180	第21回	X層出土遺物実測図(9)-3	215
第19回	SK-31 土坑実測図	180	第22回	X層出土遺物実測図(10)	216
第20回	配石遺構実測図	182	第23回	X層出土遺物実測図(11)	217
第21回	X層検出土坑実測図	183	第24回	SK-7・8・9 土坑実測図	218
第22回	O・P-5・6区検出杭列実測図	184	第25回	SK-21 土坑実測図	218
第23回	O・5区杭列実測図	185	第26回	SK-36・37 土坑実測図	218
第24回	O・P-5・6区杭列杭材実測図(1)	186	第27回	SX-21 遺構実測図	219
第25回	O・P-5・6区杭列杭材実測図(2)	187	第28回	SX-22 遺構実測図	220
第26回	O・P-5・6区杭列杭材実測図(3)	188	第29回	SX-23・24・25 遺構実測図	221
第27回	D-E-8・9区検出杭列実測図	189	第30回	SX-26・27 遺構実測図	222
第28回	D-E-8・9区検出杭列杭材実測図	190	第31回	SX-28 遺構実測図	223
第29回	D-E-F-4・5区検出杭列実測図	191	第32回	SX-29・30 遺構実測図	224
第30回	D-E-F-4・5区検出杭列杭材 実測図	192	第33回	SX-31 遺構実測図	225
第31回	O-P-7・8・9区検出杭列杭材 実測図	193	第34回	SX-32 遺構実測図	226
第32回	SX-18 遺構実測図	194	第35回	SX-33 遺構実測図	226
第33回	SX-19 遺構実測図	194	第36回	SX-34 遺構実測図	226
第34回	SX-20 遺構実測図	195	第37回	SX-38・39 遺構実測図	227
第35回	SX-36・37 遺構実測図	196	第38回	SX-40 遺構実測図	228
第36回	X層出土遺物実測図(1)	199	第39回	SX-41 遺構実測図	228
第37回	X層出土遺物実測図(2)	200	第40回	SX-42・43 遺構実測図	229
第38回	X層出土遺物実測図(3)	201	第41回	SR-4 河川跡断面図(Dトレンチ 東北壁面)	230
第39回	X層出土遺物実測図(4)	202	第42回	X層出土杭材実測図	231
第40回	X層出土遺物実測図(5)	203	第43回	X層出土遺物実測図(1)	232
第41回	X層出土遺物実測図(6)	204	第44回	X層出土遺物実測図(2)	233
第42回	X層出土遺物実測図(7)	205	第45回	X層出土遺物実測図(3)	234
第43回	X層出土遺物実測図(8)	206	第46回	X層出土遺物実測図(4)	235
第44回	X層出土遺物実測図(9)	207	第47回	VI b 層(小溝状遺構) 土壌採取地点 位置図	236
第45回	X層出土遺物実測図(10)	208	第48回	X層イネ根動細胞プラント・オパール 検出状況	237
第46回	X層出土遺物実測図(11)	209	第49回	VII b-X層出土洗生土器集成図	243
第47回	X層出土遺物実測図(12)	210			

写 真 目 次

写真-1 富沢遺跡と周辺の遺跡	257	写真-31 SX-4 遺構断面(北より)	264
写真-2 III層全景(南より)	258	写真-32 SX-6 遺構断面(西より)	264
写真-3 第1水口	258	写真-33 SX-6 遺構(南より)	264
写真-4 第2水口	258	写真-34 SX-6 遺構石組(西より)	264
写真-5 III層南部全景(東より)	259	写真-35 SX-6 遺構杭列断面(西より)	264
写真-6 III層南部全景(西より)	259	写真-36 SX-5 遺構断面(西より)	265
写真-7 SB-1 捩立柱建物跡	260	写真-37 SX-7 遺構(東より)	265
写真-8 SB-2 捩立柱建物跡	260	写真-38 SX-8 遺構(北より)	265
写真-9 SD-1溝跡(東より)	260	写真-39 SX-8 遺構断面(北より)	265
写真-10 SD-1溝跡断面A(東より)	260	写真-40 SX-9 遺構(北より)	265
写真-11 SD-9溝跡傷痕(南より)	260	写真-41 SX-9 遺構断面(北より)	265
写真-12 SD-9溝跡断面D(東より)	260	写真-42 SX-13 遺構(東より)	266
写真-13 SD-10溝跡断面E(西より)	261	写真-43 SX-13 遺構杭列(東より)	266
写真-14 SD-10溝跡断面F(東より)	261	写真-44 SX-10 遺構断面(南より)	266
写真-15 SD-11溝跡断面G(東より)	261	写真-45 SX-16 遺構断面(北東より)	266
写真-16 SD-12溝跡断面H(南より)	261	写真-46 SD-10溝跡出土状況	266
写真-17 SK-3土坑(北より)	261	写真-47 III層鉄製品N-8出土状況	266
写真-18 SK-3土坑断面(西より)	261	写真-48 V層北部全景(東より)	267
写真-19 SK-4土坑(西より)	262	写真-49 V層中央部全景(東より)	267
写真-20 SK-4土坑断面(西より)	262	写真-50 V層中央部全景(東より)	268
写真-21 SD-9溝跡杭列検出状況	262	写真-51 Vb層畦畔(北より)	268
写真-22 SD-9溝跡杭列(南より)	262	写真-52 Vb層火山灰検出状況(南より)	268
写真-23 SD-9溝跡杭列(南東より)	262	写真-53 V層K-2区足跡検出状況(北より)	268
写真-24 SD-9溝跡杭列(東より)	262	写真-54 V層牛足跡(東より)	269
写真-25 SD-10溝跡シガラミ遺構検出		写真-55 V層牛足跡(東より)	269
状況(東より)	263	写真-56 SD-13溝跡断面(東より)	269
写真-26 SD-10溝跡シガラミ遺構検出		写真-57 SX-11遺構(南東より)	269
状況(南より)	263	写真-58 SX-11 遺構断面(南西より)	269
写真-27 SD-10溝跡シガラミ遺構杭列		写真-59 VI層中央部全景(東より)	270
断面南側	263	写真-60 VI層中央部畦畔(東より)	270
写真-28 SD-10溝跡シガラミ遺構杭列		写真-61 小溝状遺構(南より)	271
断面北側	263	写真-62 小溝状遺構(東より)	271
写真-29 SD-10溝跡P-12区杭列L-72		写真-63 小溝状遺構(東より)	272
~75(南より)	263	写真-64 小溝状遺構断面No.4(南より)	272
写真-30 SX-4 遺構(南より)	264	写真-65 SD-19溝跡(東より)	272

写真-66 SD-19溝跡断面 A (東より)	272	写真-102 SD-38溝跡	279
写真-67 SD-19溝跡断面 B 北 (東より)	272	写真-103 SD-38溝跡遺物出土状況 (B-65 ~68)	279
写真-68 SD-19溝跡断面 B 南 (東より)	272	写真-104 O-7区遺物出土状況 (B-40~ 46)	279
写真-69 SD-21溝跡 (南より)	273	写真-105 K-11区遺物出土状況 (B-8)	279
写真-70 SD-21溝跡断面 (北より)	273	写真-106 VII層北部全景 (南より)	280
写真-71 SD-22溝跡 (北より)	273	写真-107 VII層北部全景 (南より)	280
写真-72 SD-23・24・25溝跡 (東より)	273	写真-108 VII層中央部全景 (東より)	281
写真-73 SK-5土坑 (南より)	273	写真-109 VII層南部全景 (東より)	281
写真-74 SK-6土坑 (東より)	273	写真-110 SD-30溝跡 (北西より)	282
写真-75 SD-26溝跡 (南より)	274	写真-111 SD-30溝跡 (南より)	282
写真-76 SD-26溝跡 (南より)	274	写真-112 SD-44・45・46溝跡 (東より)	282
写真-77 SD-26溝跡断面 H (南より)	274	写真-113 SD-48溝跡 (西より)	282
写真-78 SD-26溝跡土器出土状況	274	写真-114 SD-49・50溝跡 (西より)	282
写真-79 唯14 (K-9区) 断面	274	写真-115 SD-61溝跡 (東より)	283
写真-80 VIIb層全景 (東より)	275	写真-116 SD-62溝跡 (東より)	283
写真-81 唯7 (M-6区) (西より)	275	写真-117 SD-63溝跡 (東より)	283
写真-82 唯7 (M-6区) (東より)	275	写真-118 SD-65溝跡 (東より)	283
写真-83 唯13 (K-9区) 断面	275	写真-119 SK-2土坑 SD-5溝跡 (北より)	283
写真-84 VIIb層 N・O-7・8区 (南より)	276	写真-120 SK-11土坑 (南より)	283
写真-85 VIIb層 N・O-7・8区 (東より)	276	写真-121 SK-12土坑 (東より)	284
写真-86 VIIb層 N・O-7・8区拡大 (南より)	276	写真-122 SK-13土坑 (南東より)	284
写真-87 VIIc層南部 SR-3河川跡 (東より)	276	写真-123 SK-14土坑 (南東より)	284
写真-88 SR-2河川跡 (東より)	277	写真-124 SK-14土坑断面 (東より)	284
写真-89 SR-2河川跡断面 (西より)	277	写真-125 SK-15土坑 (南東より)	284
写真-90 SR-3河川跡 SD-32溝跡 (西より)	277	写真-126 SK-16土坑 (東より)	284
写真-91 SR-3河川跡断面 (東より)	277	写真-127 SK-18土坑 (南西より)	285
写真-92 SD-52溝跡 (南より)	277	写真-128 SK-17・19土坑 (南より)	285
写真-93 SD-52溝跡断面 (北より)	277	写真-129 SK-20土坑 (西より)	285
写真-94 SD-35・36溝跡 (東より)	278	写真-130 SK-38土坑 (南より)	285
写真-95 SD-47溝跡 (東より)	278	写真-131 SK-38土坑断面 (南より)	285
写真-96 SK-23土坑 (南東より)	278	写真-132 SK-39・40土坑 (南より)	286
写真-97 SK-24土坑 (南東より)	278	写真-133 SK-40土坑断面 (南より)	286
写真-98 SK-25土坑 (西より)	278	写真-134 SK-43土坑 (南より)	286
写真-99 L-4・5区遺物出土状況	278	写真-135 SK-43土坑断面 (南より)	286
写真-100 SD-39溝跡 (南東より)	279	写真-136 SK-44土坑 (西より)	286
写真-101 SD-39溝跡断面	279	写真-137 SK-44土坑断面 (西より)	286

写真-138	X層北部全景（南より）	287
写真-139	X層北部全景（南より）	287
写真-140	X層中央部畦畔全景（東より）	288
写真-141	X層中央部畦畔全景（西より）	288
写真-142	X層南部畦畔全景（南より）	289
写真-143	X層南部畦畔全景（東より）	289
写真-144	X層L・M-6区足跡（西より）	290
写真-145	X層L・M-6区足跡（南より）	290
写真-146	X層北部足跡（南より）	290
写真-147	X層北部足跡（東より）	290
写真-148	H-8区足跡（南より）	291
写真-149	H-8区足跡（東より）	291
写真-150	X層水田④と⑦の断面	291
写真-151	SD-28溝跡（東より）	291
写真-152	SD-28溝跡断面（東より）	291
写真-153	SD-27溝跡（南より）	292
写真-154	SD-27溝跡断面A	292
写真-155	SD-27溝跡断面B	292
写真-156	SD-54・55溝跡SK-35土坑 (西より)	292
写真-157	SD-54溝跡断面（西より）	292
写真-158	SD-56・57溝跡（南西より）	293
写真-159	SD-56溝跡（西より）	293
写真-160	SD-56溝跡断面H（南西より）	293
写真-161	SD-56溝跡断面K（南西より）	293
写真-162	SD-58溝跡（南西より）	293
写真-163	SK-10土坑（東より）	294
写真-164	SK-45土坑（西より）	294
写真-165	SK-45土坑断面（南より）	294
写真-166	SK-46土坑（西より）	294
写真-167	SK-46土坑断面（西より）	294
写真-168	SX-35遺構断面a（西より）	295
写真-169	K-2区遺物出土状況（B-6）	295
写真-170	SD-57溝跡石鏡K-88出土状況	295
写真-171	O-6区石包丁K-36出土状況	295
写真-172	H-2区石歌K-27出土状況	295
写真-173	XI層北部全景（南より）	296
写真-174	XI層北部全景（南より）	296
写真-175	SK-27土坑（南より）	297
写真-176	SK-27土坑断面（北より）	297
写真-177	SK-31土坑（北東より）	297
写真-178	SK-31土坑（東より）	297
写真-179	SK-31土坑断面（西より）	297
写真-180	第1・第2配石遺構（東より）	298
写真-181	第1配石遺構（北より）	298
写真-182	第1配石遺構断面（北より）	298
写真-183	第2配石遺構（北より）	298
写真-184	第2配石遺構断面（北より）	298
写真-185	SK-28土坑（東より）	299
写真-186	SK-28土坑断面（東より）	299
写真-187	SK-29土坑（東より）	299
写真-188	SK-29土坑断面（東より）	299
写真-189	SK-30土坑（東より）	299
写真-190	SK-30土坑断面（東より）	299
写真-191	SK-32土坑（東より）	300
写真-192	SK-34土坑（東より）	300
写真-193	SK-33土坑（西より）	300
写真-194	SK-33土坑断面（東より）	300
写真-195	SX-18遺構（北より）	300
写真-196	SX-18遺構断面（北より）	300
写真-197	SX-19遺構（東より）	301
写真-198	SX-19遺構断面（南東より）	301
写真-199	SX-20遺構（南より）	301
写真-200	SX-37遺構（南西より）	301
写真-201	SX-36遺構（北西より）	301
写真-202	SX-36遺構断面（南西より）	301
写真-203	O-P-5・6区杭列L-76~79 (南西より)	302
写真-204	O-P-5・6区杭列L-84・85 (北東より)	302
写真-205	O-P-5・6区杭列L-86~89 (東より)	302
写真-206	O-5区杭列L-102・L-177~179 (南より)	302
写真-207	XI層D-7区立木痕跡（南より）	302
写真-208	D-E-4・5区杭列（南より）	303

写真-20 D・E-4・5区杭列 L-185~188 (東より).....	303
写真-210 D・E-4・5区杭列 L-193・194 (東より).....	303
写真-211 D・E-8・9区杭列 (南より).....	303
写真-212 D・E-8・9区杭列 L-198・199 (東より).....	303
写真-213 O-7区石塚 K-33出土状況	304
写真-214 J-6区遺物出土状況 (A-2)	304
写真-215 L-8区遺物出土状況 (南より)	304
写真-216 E-3区遺物出土状況 (南より)	304
写真-217 C・D-4・5区遺物出土状況 (A-45・46) (南より)	304
写真-218 III層北部全景 (南より)	305
写真-219 III層北部全景 (南より)	305
写真-220 III層中央部全景 (東より)	306
写真-221 III層南部全景 (東より)	306
写真-222 SK-7土坑 (東より).....	307
写真-223 SK-8土坑 (東より).....	307
写真-224 SK-9土坑 (東より).....	307
写真-225 SK-21土坑 (北東より)	307
写真-226 SK-21土坑 (北より)	307
写真-227 SK-21土坑断面 (北より)	307
写真-228 SX-22遺構 (南より)	308
写真-229 SX-22遺構断面 (南より)	308
写真-230 SX-24遺構 (南より)	308
写真-231 SX-24遺構断面 (西より)	308
写真-232 SX-25遺構 (南より)	308
写真-233 SX-25遺構断面 (南より)	308
写真-234 SX-26遺構 (東より)	309
写真-235 SX-26遺構断面 (南より)	309
写真-236 SX-27遺構 (東より)	309
写真-237 SX-28遺構 (南より)	309
写真-238 SX-29遺構 (東より)	309
写真-239 SX-29遺構断面 (南東より)	309
写真-240 SX-30遺構 (西より)	310
写真-241 SX-30遺構断面 (西より)	310
写真-242 SX-31遺構 (西より)	310
写真-243 SX-31遺構断面 (西より)	310
写真-244 SX-32遺構 (東より)	310
写真-245 SX-32遺構断面 (東より)	310
写真-246 SX-34遺構 (西より)	311
写真-247 SX-34遺構断面 (南より)	311
写真-248 SX-38遺構 (西より)	311
写真-249 SX-38遺構断面 (南より)	311
写真-250 SX-39遺構 (北より)	311
写真-251 SX-39遺構断面 (東より)	311
写真-252 SX-40遺構 (西より)	312
写真-253 SX-40遺構断面 (東より)	312
写真-254 SX-41遺構 (南東より)	312
写真-255 SX-41遺構断面 (南より)	312
写真-256 SX-42遺構 (南より)	312
写真-257 SX-42遺構断面 (西より)	312
写真-258 SX-43遺構 (南より)	313
写真-259 SX-43遺構断面 (南東より)	313
写真-260 SR-4河川跡Dトレンチ北東壁 断面 (南より)	313
写真-261 SR-4河川跡Dトレンチ全景	313
写真-262 SR-4河川跡Dトレンチ北東壁	313
写真-263 繩文土器 (XI層)	314
写真-264 繩文土器 (XI層・他)	315
写真-265 弥生土器 (VII層・他)	316
写真-266 弥生土器 (VIIc層・SR-3)	317
写真-267 弥生土器 (VId層～VII層)	318
写真-268 弥生土器 (IX層～X層・第2配石)	319
写真-269 土師器 (Vb層～VIb層)	320
写真-270 須恵器・陶器 (II層～VIb層)	321
写真-271 陶器・磁器 (I層～III層)	322
写真-272 磁器・埴輪・金属製品 (I層～ VI層)	323
写真-273 石器・石製品 (試掘トレンチ・ III層)	324
写真-274 石器・石製品 (III層～IV層)	325
写真-275 石器・石製品 (V層～VIIc層)	326
写真-276 石器・石製品 (VIII層～IX層)	327

写真-27	石器・石製品(X層)	328
写真-28	石器・石製品(X層)	329
写真-29	石器・石製品(X層)	330
写真-30	石器・石製品(X層)	331
写真-31	石器・石製品(X層)	332
写真-32	石器・石製品(X層)	333
写真-33	石器・石製品(X層)	334
写真-34	石器・石製品(X層)	335
写真-35	石器・石製品(X層)	336
写真-36	石器・石製品(X層)	337
写真-37	石器・石製品(X層)	338
写真-38	石器・石製品(X層)	339
写真-39	石器・石製品(X層)	340
写真-40	石器・石製品(X層)	341
写真-41	石器・石製品(X層)	342
写真-42	石器・石製品(X層～Ⅹ層)	343
写真-43	石器・石製品(Ⅹ層)	344
写真-291	石器・石製品(X層～Ⅹ層)	345
写真-295	疊石器(VIIc層～X層)	346
写真-296	疊石器(X層)	347
写真-297	疊石器(X層～Ⅹ層)	348
写真-298	木製品・杭(Ⅲ層・X層)	349
写真-299	SD-9溝検出杭列杭材(Ⅲ層)	350
写真-300	SD-9溝検出杭列杭材(Ⅲ層)	351
写真-301	SD-9溝検出杭列杭材(Ⅲ層)	352
写真-302	SD-9溝検出杭列杭材(Ⅲ層)	353
写真-303	SD-9溝・シガラミ遺構検出坑	354
写真-304	シガラミ遺構・SD-10溝検出坑	355
写真-305	P-5・6・12区検出坑(Ⅲ層)	356
写真-306	SD-10溝・SX-6遺構検出杭	357
写真-307	SX-6・13遺構検出杭(Ⅲ層)	358
写真-308	O・P-5・6区検出杭(X層)	359
写真-309	D・E-8・9、D・E-4・5、 O・P-7・8・9区検出杭	360

表 目 次

表-1	遺跡地名表	14
表-2	富沢遺跡検出水田跡の面積の概要	20
表-3	基本層位記表	37
表-4	各種植物の換算計数	51
表-5	プラント・オパール定量分析結果	53
表-6	イネ機動細胞プラント・オパールの 検出結果	54
表-7	小溝状遺構の方向と角度別分布	119
表-8	資料1 ccあたりのプラント・オパール 個数	239
表-9	小溝状遺構の中軸間隔と方向	250
表-10	登録遺物目録(1) 織文土器・弥生土器	361
表-11	登録遺物目録(2) 弥生土器	362
表-12	登録遺物目録(3) 弥生土器・土師器	363
表-13	登録遺物目録(4) 土器類・須恵器	364
表-14	登録遺物目録(5) 瓦・陶器	365
表-15	登録遺物目録(6) 磁器・石器・石製品	366
表-16	登録遺物目録(7) 石器・石製品	367
表-17	登録遺物目録(8) 石器・石製品	368
表-18	登録遺物目録(9) 石器・石製品	369
表-19	登録遺物目録(10) 石器・石製品	370
表-20	登録遺物目録(11) 木器・木製品	371
表-21	登録遺物目録(12) 木器・木製品	372
表-22	登録遺物目録(13) 木器・木製品	373
表-23	登録遺物目録(14) 塙輪・金属製品	374
表-24	出土遺物集計表(1)	375
表-25	出土遺物集計表(2)	376

富沢遺跡

24次調査 富沢中学校地区

I. 調査に至る経緯と調査過程

1. 調査に至る経緯

今回、富沢中学校建設に伴い発掘調査された土地は、富沢地区の土地区画整理事業の設計段階から中学校建設予定地となっていた。区画整理事業の終了後は、仙台市の管理のもとに近接する仙台市体育館の臨時駐車場と野球グランドとして利用されていた。

西多賀・富沢地区は近年宅地化が進んでいたが、富沢地区の区画整理が完了すると共に個人住宅やアパート・マンションの建築が進み、人口が著しく増加した。さらに富沢地区は、昭和62年7月の地下鉄開業に伴って人口の急激な増加が予想されている。この様な人口増加によつて、当該地区を学区に含む西多賀・長町両中学校は生徒数が増加し、特に1学年が10クラスを越す西多賀中学校では教育環境の悪化が危ぶまれ、周辺市民からも中学校の新設が望まれるようになつた。そこで仙台市は、昭和63年4月開校を目指し「富沢中学校」の建設に取掛かることになった。

富沢中学校建設予定地は、区画整理事業終了と前後して始まった地下鉄建設や体育館建設に伴う発掘調査によって発見された「富沢遺跡（旧 富沢水田遺跡）」の西南隅に当たるため、事前に発掘調査を実施する事となり、昭和61年4月より調査に着手した。

2. 調査経過

富沢中学校新設の決定とともに、仙台市教育委員会では昭和61年度発掘調査、昭和62年度建設、昭和63年4月開校という計画のもとに準備にかかった。計画に当たっては、これまでの中学校のような箱形で機能一辺倒の校舎ではなく、建物自体にも「ゆとり」をもたせることが要

求された。このような設計計画のため、昭和61年度当初には校舎本体の規模と位置が未だ決定されておらなかった。したがって4月当初からの発掘調査は不可能となった。そこで文化財課としては、校舎の規模と位置が決まるまでの間は学校の敷地全域に渡る試掘調査を実施し、地下遺構の種類・密度・文化層の枚数等を把握し、校舎部分の本調査に備えることとした。また、この方針の決定とともに、関係部局には早急に校舎の設計が行われるように依頼した。

試掘調査は、昭和61年4月12日から開始した。試掘調査の詳細は後述するが、試掘区は6m×6mで約30m間隔の13地点に設定した。4月12日から20日までは試掘区の地区設定、レベル原点の移設、プレハブ事務所設置、調査器材運搬、重機による表土排土を行ない、実質的な試掘は22日より着手した。試掘は西部から東部に向かって行われ、調査の進展とともに次のような知見を得ることができた。

- ①、基本層は、大別すると旧水田土層から疊層まで13層に分けられる。
 - ②、富沢遺跡の平安期の水田面上や作土中に広く認められている灰白色火山灰が、南辺を除く各区のV層で認められ、これに伴う畦畔も検出されたことから、平安期の水田跡が広く分布している。
 - ③、V層を挟んだIII層とVII層からそれぞれ中世と弥生時代の遺物が出土し、この時期の遺構の存在も予想される。
 - ④、XI層中からは石器が出土するが、XII層としたグライ層になると遺物が出土しない。
 - ⑤、現地形では当該地は丘陵部からの傾斜に沿って西から東へ傾斜しているが、旧地形としては南側にのびている自然堤防の影響も受け、南西から北東方向に傾斜している。
 - ⑥、敷地南辺には、水路跡または河川跡が存在する。
- 試掘で基本層位がほぼ明らかになった5月15日には、水田土壤が何層まで存在するか確認するため、古環境研究所に依頼してプラント・オパール分析用のサンプリングを行った。一週間後に受けた分析の速報では、X層までが水田跡の存在する可能性があるということであった。試掘調査は5月27日に終了した。

試掘区の調査終了直前の5月20日になって、校舎のうち屋内運動場と柔剣道場の配置図が届けられた。同日直ちに両建物を包括する範囲に本調査地区を設定し、5月22日から重機により盛土層と旧水田土層の排土にかかった。数日後校舎本体の配置図も届けられ、先の2棟の建物分を合わせると、本調査区は「コ」字形を呈し、面積は約5850m²となった。

本調査区の表土排土は大型バックホー3台（1台は排土場整理）、11tダンプカー3台で行い、6月12日に終了した。表土排土と共にIII層上面の遺構検出を行い本調査に入った。本調査に当たり、広範な調査区内の排土方法を検討した結果、八輪車を導入することとした。このため調査区周囲と中央に広いベルトを設定した。

6月から7月にかけては、調査の進展について、近隣小学校の児童等による発掘調査の体験学習を実施した。これについては、後段に詳述する。

8月5日には宮城県内は集中豪雨に見舞われ、調査区内も全域が60cm程水没し、排水に一週間を要した。

9月中旬にはV、VI層の調査が終了したが、調査の進捗状況、当地区の堆積の複雑さ、校舎の設計の決まる以前に想定していた校舎の規模が4000m²であったのに対し、実際の校舎の規模がその1.5倍の5850m²となつたなどの事情から、昭和61年度中に調査を終えることが困難であるという見解に達した。そこで、次年度予算案作成の始まる以前の9月16日に関係部局と協議会をもつた。協議の結果、校舎本体部分（約4000m²）については昭和61年度中に調査を終了し、残る屋内運動場と柔剣道場（約2000m²）については、昭和62年7月末までに調査を完了させることで合意した。また、試掘段階での極小規模の溝掘り調査では遺構・遺物の検出されなかつたX層以下の遺構・遺物の存否の確認のため、本調査区内にある試掘区の内の3箇所を先行トレンチとして掘下げ、調査計画の資料とすることとした。3トレンチの調査は、本調査と平行して9月18日から行われ、10月29日に終了した。その結果、X層としたグライ層から遺構・遺物は発見されなかつた。

昭和61年の調査は12月26日まで行い、校舎本体部分の内その南半分についてはX層上面まで調査を終了した。この間12月10日から12日まで調査の公開日としたところ、30人の見学者があつた。また、12月13日土曜日には周辺住民に対して調査成果の説明会を開催した。

昭和62年1月6日から3月7日までは野外調査を冬期休止とし、図面・遺物・写真的室内整理を行つた。野外調査は3月9日から再開し、3月27日までに校舎本体部分の残りの北半分におけるX層及びXI層上面の調査を完了した。

昭和62年度の調査は4月13日から開始し、屋内運動場と柔剣道場にかかる調査区のうち残りの約1400m²を調査した。この部分はV層上面まで調査を終了しており、またVI、VII層が欠落しているので、VIII、X、XIの調査が主となつた。X層については、校舎本体部分の調査で一部で水田跡が検出されたものの、水田の範囲は不明確であったので、その手掛かりを得るために平面的なプランツ・オパール分析調査を行つた。野外調査は6月16日に全て終了した。以後残務整理をし、6月末日をもつて現場事務所を閉鎖した。7月から報告書の作成に着手し、昭和63年3月にこれを終えた。

3. 体験学習の実施

仙台市教育委員会では昭和51年以来、文化財の啓蒙・普及活動の一貫として機会があること

に発掘調査の体験学習を行っている。これによって「むかしの人々」の生活・歴史の迫体験ができる、郷土…自分達のすむ身近な土地…にも教科書と同様な歴史が連続と統いていることに気付くことを期待し、さらに発掘の体験をすることによって、文化財の愛護精神が育ち高まることが望まれる。この企画の実施のため、富沢中学校の調査に際しても近隣の小学校に発掘調査の体験学習の案内を出したところ、仙台市立西多賀小学校と同鹿野小学校から第6学年の学校行事として参加させたい旨の回答があった。実施に当たってはそれぞれの学校の担当教諭と現場で日程・手順等を打合わせた。その結果、西多賀小学校は6月13日に事前指導を行い、6月19・21・23・24日にそれぞれ1クラスずつ体験発掘をした。鹿野小学校は7月7日に事前指導を行い、7月9日と11日に2クラスずつ体験調査を実施した。

事前学習は両校とも全クラスと一緒に体育館で行った。指導に当たった調査員は市内から出土した各時期の遺物および市内の各種類の遺跡のスライド・発掘調査器材を持込み、約2時間に渡り、仙台市の古代遺跡とその歴史の概要や発掘の道具の使い方、遺跡を掘るに当たっての諸注意について話をした。調査体験の当日は午前の学習時間を使った。まず調査の状況と出土遺物の説明をしたあと、各クラスを4グループに分け、各グループはさらに交替で掘る人・土を集めめる人・1輪車で土を運ぶ人に分かれ、それぞれ水路跡の掘下げや遺構の確認作業を行った。

両校の体験学習の他に、夏休み期間中には「体験！発掘調査－君は古代人に会えるだろうかー」と題し、小中学生を対象とした一般公募による体験調査を昭和61年7月26日に実施した。この企画には市内の小学生22人、中学生17人の参加があった。

体験学習の事後指導として、時間の都合の取れた西多賀小学校については、遺跡の概要がほぼ把握出来た昭和61年12月10日に調査現場の見学会を実施した。この見学会では写真パネルや出土遺物の展示及び現場の弥生時代や繩文時代の遺構を使用して、体験調査後の調査成果の説明を行った。

体験学習に参加した児童生徒からは、「土」を通しての歴史との触れ合いに驚きや歓びなどさまざまな反応があった。止むをえず遺跡を壊さざるえない場合は、今後ともこのような企画を通して、より多くの人に遺跡と触れ合える機会が作られるべきであろう。

体験学習に参加した西多賀小学校の児童の感想文2編を次に掲載しておく。

『富沢水田遺跡を見学して』

西多賀小学校 6年2組 渡辺 実代

富沢水田遺跡が発見された場所は、私が幼稚園のころ、クローバーをつんだり、走り回ったりした場所でした。その場所に、何百年も前の生活のあとがあったなんて、ちょっとおどろいた。

人が生活するには、水がなければ生きていけないんだから、やっぱり川が流れていたのではないかかなと思った。そのころは、名取川などは、あったのだろうか……。

遺跡を見ながら、何百年も前のけしきを想像してみた。このへんは、草や木がいっぱいはえていて、きれいな水が流れている、すみやすい場所だったんだろうなあと思った。でも、気候的には、東北地方だから、冬は雪も多いし、生活は大変だったんだろうと思う。私は前に、三神峯遺跡について、勉強したことがある。たしか、繩文時代のころの遺跡が発見された所だ。大昔のひとたちは、気候のあたたかい場所にだけ住んでいたのかと思っていたのに、東北地方のようなさむい所にも、大むかしの人たちが住んでいたことがわかった。

私が、発掘したかった所は、水田のあとと、人の足あとだった。でも、こんかいはみぞだけであつた。でも、じゃりがいっぱいあった所をみつけたので、きいてみたら、川のあとだということがわかった。それをきいた時、私は、この川はのみ水や田につかわれたんだろうと思った。そして、私はその川も、頭の中で想像してみた。私の頭の中は、大むかしと、今のけしきとでいっぱいだった。私たちは、いろいろな時代の上に生活しているのだ。

これからも、もっともっと、古い遺跡が発見されるかもしれない。そしたらまた、行って、自分の目で見てみたい。

『発掘体験学習 富沢水田遺跡』

西多賀小学校 6年4組 片倉 照夫

今日は、みんな待ちに待った発掘体験学習の日だった。仕事はたいへんだったがみんな楽しもうにやっていた。最初に溝を掘った。掘っていると石しかあまり出なかった。しかし、ずんずん掘っていったら木などが出てきた。

「これ、木だ。」

とだれがいったかわからなかったが、確かにこう言った。ぼくは、一輪車で土などを運んでいた。ぼくは、ここは溝だと言っていたけれど、どうして木なんかあるのかなあと考えたりもした。けれどどうしてもわからなかった。

ぼくは、この発掘体験学習のこといろいろと勉強になった。ぼくは、少しは考古学に興味を持っているが、これがきっかけで考古学にまた興味をもった。しかし、ぼくは、将来は考古学者になるつもりはないので、あまり覚える気にはなりませんが、いがいとやりたい気持ちがあるのでやりました。ぼくはさっきも言ったように一輪車をやっていました。あと勝田君もやりました。あの人は土をけずったり運んだりしました。30分ぐらいやって交換しました。ぼくは庄子貴史君といっしょに土をけずったり運んだりしました。庄子貴史君が掘っていたらくいのような物が出てきたので、現場の先生にきてもらって見てもらったら、やっぱりくいだつ

た。貴史君はまたその辺りをほったら木のくいを見つけた。

10分くらいして、ぼくも、その近くで掘っていたが何もでてこなかった。しかし、庄子貴史君はまた、くいのような物をみつけた。また、先生を呼んだら、

「うん、これもくいかもしないね。」

貴史君も

「やっぱり。」

と言ったが、先生は

「でも、こういうのはちゃんと調べて見ないとわからないよ。流木かもしれないから。」

と言いました。貴史君も

「ふーん、そうだったのか。」

と言って感心していた。あっという間に30分すぎて、次は足あと掘りだ。最初に土をならしてから掘った。あまり時間もなかったが一個しかぼれなかった。最後に地層なども見せてもらった。地層は12段か14段のどちらか忘れたけれど見せてもらった。縄文時代の下の地層には土器も見つかっていないと言ってたけどぼくは、そこは恐竜がいた時代だと思う。

これでぼく達が楽しみにしていた体験学習は終わってしまった。ぼくは、もう少し溝掘りをやりたかったです。でも、ぼく達の家のすぐ近くにこんな立派な遺跡があると聞いただけでびっくりすると思います。TV会社の人も来ていたので、ぼくもうつっているか心配です。ぼくは、この体験学習をしてなんだかもう一度発掘したくなってしまいます。ぼくも、近い将来考古学者になろうかなあ。



4. 調査体制

1. 遺跡の名称 富沢遺跡（仙台市 遺跡登録番号 C-301）

2. 調査次数 第24次調査（富沢中学校地区）

3. 野外調査期間 昭和61年4月12日～昭和61年12月26日

昭和62年3月9日～昭和62年3月27日

昭和62年4月13日～昭和62年6月16日

4. 整理期間 昭和62年1月6日～昭和62年3月7日

昭和62年7月1日～昭和63年3月7日

5. 学校敷地面積 約20000m²

6. 調査対象面積 5670m²

7. 調査面積 5850m²

8. 調査主体 仙台市教育委員会

9. 調査担当 仙台市教育委員会文化財課調査係

課長 早坂春一

調査係長 佐藤 隆 管理係長 成田時雄

調査員 教諭 太田昭夫（61年度）

主事 佐藤甲二（61年度） 工藤哲司

鈴木善弘（61年度） 平間亮輔

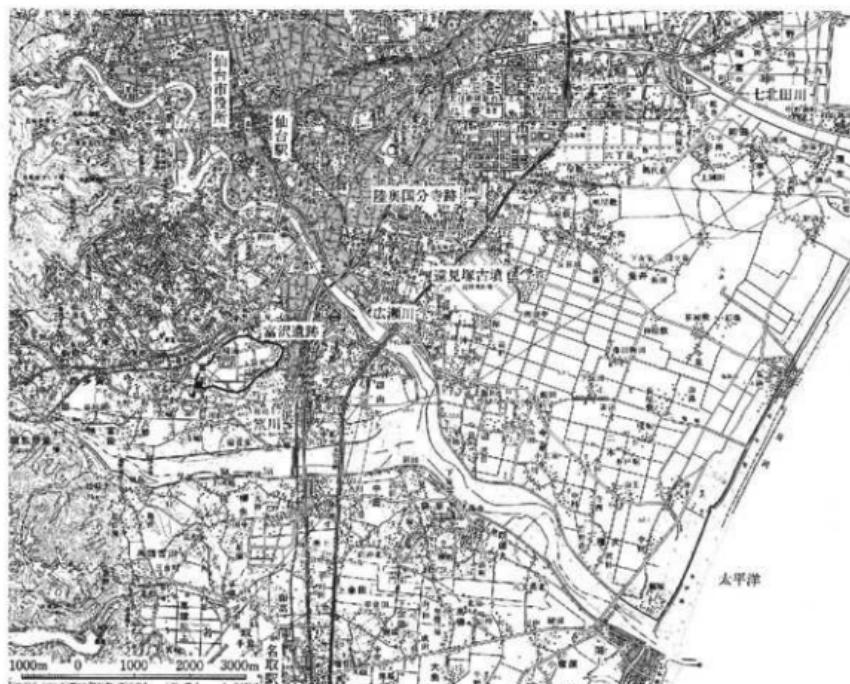
10. 調査参加者 補助員 森 剛男・神尾紀以子・相沢史子

浅理千賀・安達八千代・阿部八重子・阿部祐子・阿部よね子・阿部洋子・有住てる子・
石田育子・石山真理子・板橋静江・板橋孝子・伊藤敦子・伊藤律子・乾真智子・植野
幸子・遠藤いな子・遠藤金蔵・遠藤照子・大友 勇・大友利蔵・小田島智恵子・小原
謙弘・加賀美要子・加藤あゆみ・上村安子・窪田俊一・河野えい子・郡山和子・小林
国子・昆野賢一・齊藤慶子・齊藤雅子・佐竹 昭・佐藤祥子・佐藤さつえ・佐藤ちよ
し・佐藤まさ・佐藤正裕・佐藤正志・佐藤美恵子・佐藤光男・佐野たみえ・澤田孝子・
庄司武夫・庄子恵美子・白鳥 修・菅井忠吉・鈴木孝子・瀬戸君子・高橋明美・高橋
たづよ・高橋富紀子・高橋真樹・高橋みち子・高谷恵子・千田タイ子・千葉良樹・角
田賢一・豊村幸宏・中沢正吉・中野かず子・長瀬富美子・根深はつえ・早坂鏡子・藤
代雅俊・堀 龍彦・松下桂子・三浦えみ子・三浦きよの・三浦フミ江・村田博見・森
金蔵・森屋初太郎・矢口久子・結城康子・吉尾 徹・吉武あや子・吉田八重子・渡辺
幸子・渡辺久子・渡部麗子・和野しのぶ

遺物・図面整理

砂金よしえ・石井多賀子・金沢君代・近藤昌一・平 照子・湯浅ます枝・吉川陽子・
村田佳子

11.調査協力 片倉建設株式会社



第1図 遺跡位置図（国土地理院1：50,000「仙台」を複製）

II. 遺跡の環境

1. 富沢遺跡の位置と地理的環境

1) 富沢遺跡の位置

富沢遺跡は宮城県仙台市の南部中央、仙台市富沢・泉崎・袋東・長町南等の地区に渡る広大な遺跡で、面積は82haに及ぶ。JR仙台駅の南方に約4km、JR長町駅の西方1kmの地点にあたり、標高は9~16m位の平坦な沖積低地に立地する。太平洋岸から9km程内陸に入り、遺跡西部は丘陵裾部と接している。

今回の第24次調査地点は仙台市富沢二丁目4番地内で、富沢遺跡の南西隅にあたり、沖積低地中でも丘陵・段丘地域に近い部分に当たる。

2) 仙台平野の地形の概要

仙台市の地形は西半部と東半部とに大きく二分される。西半部は奥羽山脈から派生する七北田丘陵・青葉山丘陵・高館丘陵と名取川支流の広瀬川が中流域に形成した段丘地形からなる。この段丘は、古期から青葉山段丘・台ノ原段丘・上町段丘・中町段丘・下町段丘と命名されている。伊達政宗の開府以来、現仙台市に至るまでの市街地の中心はこれらの段丘地帯に形成されている。

これに対し東部には海岸沿いに幅約10kmに及ぶ「宮城野海岸平野」が、北は宮城郡七ヶ浜町から南は亘理郡山元町まで40kmに渡って三日月形に広がっている。この沖積平野は、七北田川・名取川・阿武隈川の運搬物質によって形成され、流域には扇状地・自然堤防・後背湿地・旧河道など多くの沖積低地特有の地形を複雑に形成している。また沿岸部には幅3kmに渡って4~5列の浜堤が形成されている。

富沢遺跡の南方1.5kmを東流する名取川は、奥羽山系の南大東岳付近に源を発し、青葉山丘陵と高館丘陵の間の谷口に位置する「余方」付近から平野部に流れ込むが、ここから広がる扇状地性の沖積面は、左岸では「郡山低地」右岸では「名取低地」と呼ばれている。郡山低地は略三角形を呈し、その範囲は北東縁を広瀬川、南縁を名取川、北西縁を長町-利府構造線で画される。名取・広瀬両河川とも両岸に自然堤防が良く発達している。

富沢遺跡はこの郡山低地の中央西寄りに位置し、北東側を広瀬川の自然堤防、北西縁を長町-利府構造線に沿う崖、南側を名取川の支流で青葉山丘陵の太白山付近に源を発する荒川とその左岸の自然堤防に囲まれた後背湿地に立地している。遺跡の立地する後背湿地および近接する自然堤防からは現在の荒川に繋がると考えられる旧河道が数条検出され、後背湿地自体も複雑

な形成過程を経たものと考えられる。郡山低地の開拓は古く、荒川流域の自然堤防からは縄文時代中期の集落が発見され、さらに深層からは土器とともに縄文時代早期の「陥し穴」も発見されている。

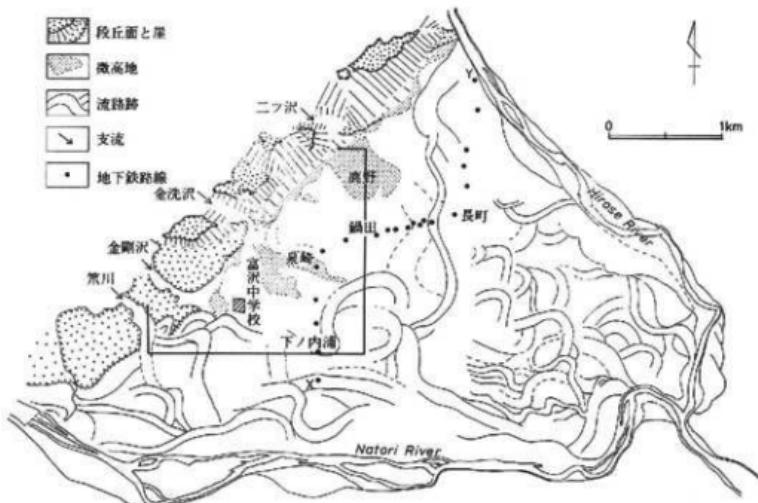


第2図 仙台平野の微地形区分 (「新編仙台の地学」地学団体研究会)
仙台支部編を再編集

3) 流路跡の分布状態と微地形

豊島 正幸

縮尺4万分の1空中写真(米軍撮影)の判読によって検出できた流路跡を第3図に示す。これによれば、泉崎や鍋田を中心とする一帯には、広瀬川や名取川に関連する流路跡がみられないことから、この地帯が西方から流入する諸支流(二ツ沢、金洗沢、金剛沢および笊川)の影響下で形成されたことが推察される。



第3図 郡山低地の流路跡

第3図中の直線で囲まれた範囲について、2500分の1地形図(昭和46年測量)から等高線をぬきだしたのが第4図である。等高線は金洗沢の谷口を中心として扇状に配列しており、小規模ながら明瞭な扇状地が形成されていることがわかる(泉崎付近の微高地はこの扇状地のうち侵食からまぬがれた部分として理解し得る)。一方、笊川に沿う微高地は自然堤防である。以上のような微地形スケールで言えば、富沢中学校の発掘調査区は、金剛沢の扇状地の末端部(扇端部)と笊川の自然堤防背後の後背湿地という2つの地形特性を兼ね備えた地点としてとらえることができる。

富沢中学校周辺についてさらに詳細な空中写真判読を行うと、金剛沢や金洗沢の流路跡が検出される(第4図)。このうち発掘区に直接関係するものは、図AとBの流路跡である。流路跡Aは発掘区の北西隅から南東隅方向にのびる。これより新しい流路跡Bは発掘区の南半部を横

断する。いずれの流路跡も上流方向へ追跡すると、金剛沢の谷に連続する。旧流路の方向や発掘区との関係、および、旧流路どうしの新旧関係に基づいて、流路跡A及びBに関する堆積物は、それぞれ後述する基本層のVII層（砂層）およびIII層（SD-9、10溝跡内および周辺の疊、砂層）に当たると考えられる。

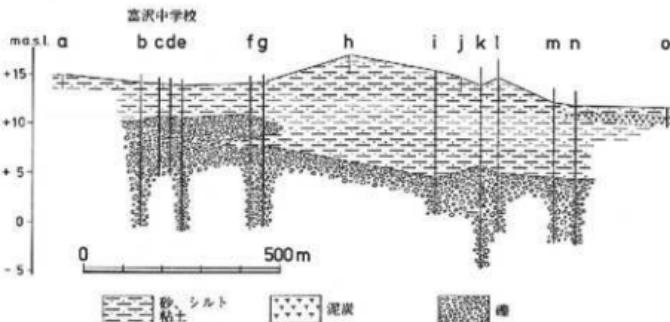


第4図 富沢周辺の微地形

4) 発掘区周辺の沖積層の概観

豊島 正幸

富沢中学校を通り金洗沢扇状地を横断するNE-SW方向の測線に沿って15地点(a~o)のボーリング調査結果を集めて地質断面図を作成すると第5図のようになる。h地点を中心とする厚さ10m余の砂～粘土層は、金洗沢起源の扇状地堆積物と判断される。富沢中学校付近(b~e地点)では、この扇状地堆積物と指交関係にある疊層が海拔10m前後の層準に見出だされる。(基本層位のXIII層)。指交状態からみて、この疊層の起源は荒川に求めるのが妥当と考える。



第5図 地層断面図

2. 周辺の遺跡と歴史的環境

近年、富沢地区は地下鉄の建設・開業を契機に、これと有機的に関係あるいは誘発されて様々な開発が行われている。これに伴って遺跡の調査も自然堤防・後背湿地を問わず各所で行われ、市内でも最も調査の進んだ地域となっている。ここでは、これらの調査成果とさらにその周辺を含む地域の歴史環境を時間を追って概観してみたい。

旧石器時代

名取川流域の旧石器時代の遺跡には、本地区の西方約3kmに位置する山田上ノ台遺跡と北前遺跡がある。両遺跡は現在国道286号線を境に分けられているが、地形・地質からみると同一の段丘上に立地している。この段丘は上町段丘あるいは台ノ原段丘に対比されている。山田上ノ台遺跡からは2万数千年前から3万数千年前に降下堆積した川崎スコリア層（板垣 1985）を挟んでその上下からそれぞれ後期と前期の旧石器が出土している。

市内にはこのほかに青葉山B遺跡からも旧石器が出土しているが、この遺跡では後期旧石器のほか、山田上ノ台遺跡の立地する上町段丘が形成される以前に降下した愛島輕石層よりも下の層からも石器が発見されている。

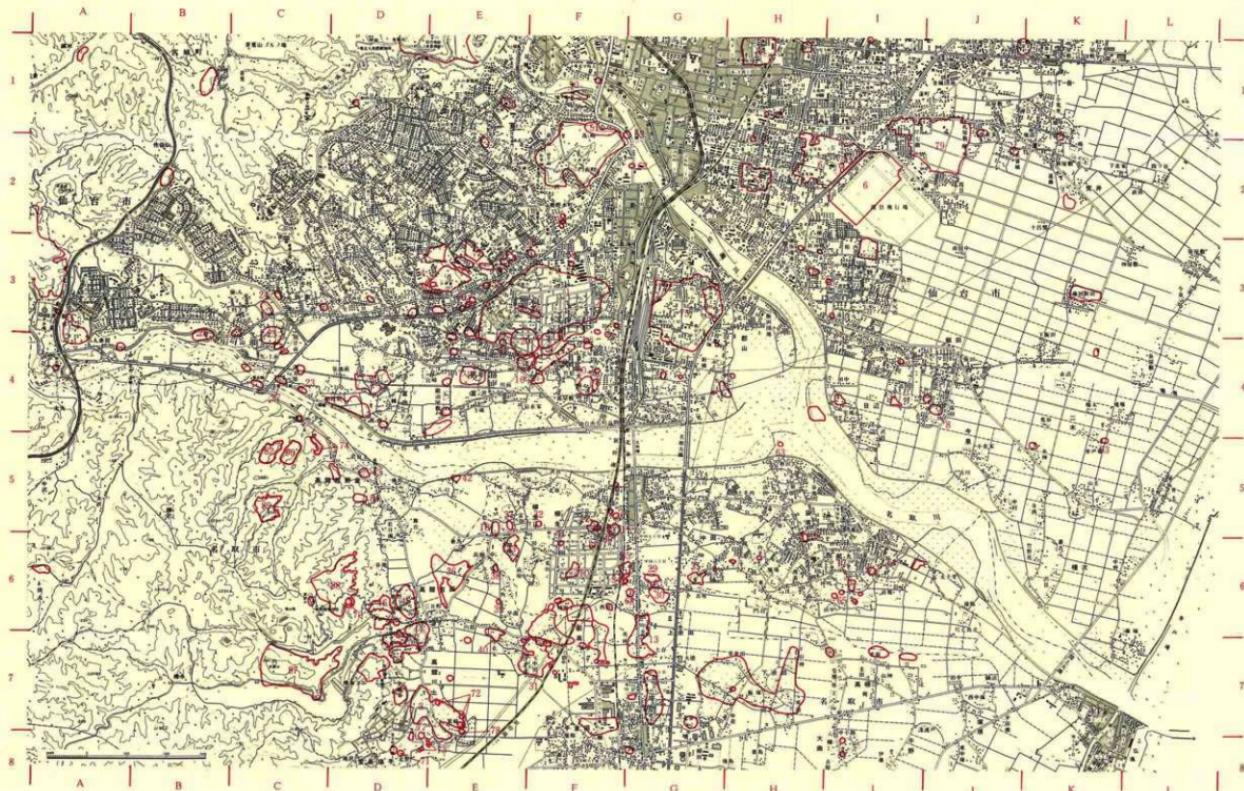
このように仙台市における人類の活動の痕跡は非常に古くから始まっており、その遺跡の立地は現在の丘陵地帯や高位段丘に限られている。

縄文時代

早期の遺跡としては、山田上ノ台遺跡・北前遺跡・三神峯等が知られ、条痕文土器・沈線文土器・貝殻腹縁文土器等が出土している。北前遺跡ではこの時期の住居跡が8軒発見されてい

表1 通跡地名表

No	地名	釋義	之地	年代	地圖	地名	釋義	之地	年代	地圖
1	直訖道	水	三	漢	F3	新	新	水	古	F2
2	金剛守寶	井	井	魏文、齊主、梁武、宋文	F4	47	漢	漢	金剛守寶	F2
3	今就把通路	西	坂	漢文、齊主、古漢、梁武、宋文	F5	48	法	法	今就把通路	F2
4	丁ノ内通路	東	西	西	F6	49	新	新	丁ノ内通路	F2
5	下ノ内通路	東	西	西	F7	50	同	同	下ノ内通路	F2
6	南小里通路	南	北	北	F8	51	大	大	南小里通路	F2
7	夢田新通路	東	西	西	F9	52	永	永	夢田新通路	F2
8	今京通路	東	西	西	F10	53	三	三	今京通路	F2
9	三仲革通路	東	西	西	F11	54	三	三	三仲革通路	F2
10	東通路	東	西	西	F12	55	合	合	東通路	F2
11	安久里通路	東	西	西	F13	56	真	真	安久里通路	F2
12	安久里通路	東	西	西	F14	57	一	一	安久里通路	F2
13	上今三通路	東	西	西	F15	58	二	二	上今三通路	F2
14	通水通路	東	西	西	F16	59	命	命	通水通路	F2
15	西台通路	北	南	南	F17	60	大	大	西台通路	F2
16	伊佐田通路	東	西	西	F18	61	秋	秋	伊佐田通路	F2
17	芦ノ内通路	東	西	西	F19	62	無	無	芦ノ内通路	F2
18	松木通路	東	西	西	F20	63	南	南	松木通路	F2
19	大又通路	東	西	西	F21	64	缺	缺	大又通路	F2
20	山口通路	北	南	南	F22	65	赤	赤	山口通路	F2
21	重岡通路	北	南	南	F23	66	安	安	重岡通路	F2
22	上野通路	北	南	南	F24	67	伊	伊	上野通路	F2
23	板谷通路	北	南	南	F25	68	神	神	板谷通路	F2
24	北前通路	北	南	南	F26	69	安	安	北前通路	F2
25	山田上ノ通路	北	南	南	F27	70	高	高	山田上ノ通路	F2
26	深原通路	北	南	南	F28	71	北	北	深原通路	F2
27	須田西通路	北	南	南	F29	72	須	須	須田西通路	F2
28	中田屋通路	北	南	南	F30	73	莫	莫	中田屋通路	F2
29	中田北通路	北	南	南	F31	74	施	施	中田北通路	F2
30	中山通路	北	南	南	F32	75	春	春	中山通路	F2
31	日高通路	北	南	南	F33	76	富	富	日高通路	F2
32	宝来通路	北	南	南	F34	77	宝	宝	宝来通路	F2
33	阿良通路	北	南	南	F35	78	北	北	阿良通路	F2
34	猪腳通路	北	南	南	F36	79	寶	寶	猪腳通路	F2
35	後川通路	北	南	南	F37	80	後	後	後川通路	F2
36	高倍通路	北	南	南	F38	81	高	高	高倍通路	F2
37	苦通路	北	南	南	F39	82	苦	苦	苦通路	F2
38	健三通路	北	南	南	F40	83	石	石	健三通路	F2
39	北宮神社通路	北	南	南	F41	84	北	北	北宮神社通路	F2
40	東内通路	北	南	南	F42	85	南	南	東内通路	F2
41	各地三通路	北	南	南	F43	86	富	富	各地三通路	F2
42	八ツ口通路	北	南	南	F44	87	大	大	八ツ口通路	F2
43	若口上通路	北	南	南	F45	88	肥	肥	若口上通路	F2
44	若上通路	北	南	南	F46	89	肥	肥	若上通路	F2
45	肥野東通路	北	南	南	F47	90	小	小	肥野東通路	F2



第6図 周辺の道路（国土地理院1/25,000「仙台西南部」「仙台東南部」を複製）

る。昭和57年までは早・前期の遺跡は丘陵部に限られると考えられていたが、この年の山口遺跡の調査で沖積面の遺跡として初めて貝殻条痕土器や繩文条痕土器が出土し、早期段階の遺跡も沖積面に存在することが明らかになった。さらに、昭和59年の下ノ内浦遺跡の調査では、早期前葉にまで遡る押型文土器と共に、陥し穴や住居跡の可能性も考えられる竪穴遺構も検出されている。

前期の遺跡には三神峯遺跡があり、前期前葉の住居跡が8軒発見されている。また名取川を挟んだ対岸の今熊野遺跡では50軒の住居跡が検出されている。沖積面ではこの時期の遺構は明らかでないが、富沢遺跡第15次調査で早期末から前期前半にかけての遺物が出土している。

中期には上野遺跡や山田上ノ台遺跡などの段丘上に大規模な集落が形成される。また、荒川流域の自然堤防上にも明確に集落が営まれるようになり、六反田遺跡や下ノ内遺跡で中期中葉と末葉の住居跡が検出されている。

後期になると段丘上の遺跡は激減し、変わって中期と重複する荒川流域の自然堤防上が集落の中心となる。後期初頭には泉崎浦遺跡・山口遺跡・六反田遺跡・下ノ内遺跡・下ノ内浦遺跡などによる遺跡群が形成され、六反田遺跡では住居跡が、下ノ内浦遺跡では墓跡と考えられる配石遺構や土坑や大規模な遺物包含層が検出されている。後期中葉以降になると集落はふたたび移動し、富沢周辺では伊古田遺跡で遺物包含層が検出されている以外は、希に遺物が出土するに過ぎなくなる。ただし、後期後葉にはこれまで遺跡の形成された痕跡のなかった郡山低地東部の郡山遺跡でも遺物がまとまって出土するようになり、沖積地での生活圏のいっそうの広がりを感じさせる。

晩期になると確認されている遺跡はさらに減少する。この時期の明確な遺構は検出されておらず、六反田遺跡で小規模な遺物包含層が検出されていると、山口遺跡で河川跡が検出されているだけである。

弥生時代

この時代は郡山低地の六反田遺跡・山口遺跡・西台畠遺跡、名取低地西部の安久東遺跡・清水遺跡・田高遺跡など自然堤防に立地する遺跡が増え、遺跡の分布も繩文時代よりも東進し、南小泉遺跡や今泉遺跡が形成され、さらに浜堤上にも進出して藤田新田遺跡が営まれる。丘陵や段丘上の遺跡としては、名取市の北西部の十三塚遺跡や宮下遺跡がある。

この時期沖積面に遺跡が拡大した背景には、沖積面の一層の安定と稻作の開始にその要因が求められる。この時期からの水田跡として富沢遺跡がある。

古墳時代

前代に比べると集落の規模は拡大し、遺跡の分布も小規模な自然堤防や浜堤にまで広がる。

古墳としては、先ず今熊野遺跡・戸ノ内遺跡・安久東遺跡に方形周溝墓が出現し、続いて高

館山古墳（名取市）・飯野坂古墳群（名取市境）などに前方後方墳が造営され、5世紀初頭前後墳になると遠見塚古墳（110m）・雷神山古墳（162m）といった大型古墳が築かれる。宮沢周辺には、5世紀後半から6世紀中葉にかけて裏町古墳・大野田古墳群・春日社古墳・鳥居塚古墳など埴輪を持つ古墳が次々に築かれる。後期に入ると法領塚古墳・三神峯古墳群などの高塚を経て、終末期には大年寺及び向山周辺等に横穴群が出現する。

古墳時代の末期から奈良時代の初頭にかけては、郡山遺跡に官衙とその付属寺院が造営される。この遺跡からは畿内産の暗文土器や関東産の土師器も出土し、活発な中央との交流が伺われる。

奈良時代

仙台平野北端部の低丘陵上に国府多賀城が創建される。また、陸奥国分寺・同尼寺も建立され、仙台付近も確実に中央政府の支配下に組込まれた事が伺われる。と同時にこれらの遺跡の存在からこの付近が陸奥国の中心地域であったことが推察される。

官衙や寺院の造営にともなって、仙台市北部の台ノ原丘陵には瓦や須恵器の生産にあたった大規模な窯跡群が形成される。

平安時代

この時期の遺跡は奈良時代とほぼ重複している。集落は古墳時代以来の沖積地に立地する遺跡ではその規模を拡大し、遺跡の分布も増大する。台ノ原丘陵の窯業は前代に引続いて操業され、仙台市西部の茂庭嶺山C遺跡では製鉄も行われている。

中世

中世の遺跡としては城館があるが、仙台市内では名取川流域の茂庭地区と七北田川流域の岩切地区に多くの山城が築かれている。また沖積地にも富沢館跡をはじめいくつかの館跡が存在する。この時期の調査例は少ないが、岩切鴨ノ巣遺跡や安久東遺跡・松木遺跡では平安時代までの堅穴住居に替わり、掘立柱建物によって集落が形成されるようになる。集落内からは平安時代までは希にしか発見出来なかった井戸跡が多数検出されるようになる。出土遺物も多彩になり磁器や、県内産に混じって常滑産や瀬戸産・瀬美産などの陶器も出土している。

3. 富沢遺跡の過去の調査概要

仙台市では昭和57年に山口遺跡において、プラント・オパール分析法による水田探査に基づき初めて水田跡が検出された。水田跡が検出されたのは山口遺跡の立地する自然堤防からその北側の後背湿地にかけての部分であり、水田跡はさらに北方の後背湿地へと伸びていくような状況を呈していた。同じ頃山口遺跡北方の後背湿地では地下鉄建設工事にともなう試掘調査が

行われていたが、山口遺跡の調査成果をもとに水田跡の検出に努めたところ、同じ後背湿地内の泉崎前・泉崎浦・中谷地・鳥居原の4地区で中世・平安及び平安以前の水田跡が検出された。これらの調査に因って、富沢地区の後背湿地には広く水田跡が存在することが明らかとなった。そこで昭和58年6月にはこの後背湿地を富沢水田遺跡（C-301）として遺跡登録した。以後昭和62年12月現在まで34次の調査が行われている。

昭和58年には青森県の垂柳遺跡について富沢遺跡でも、弥生時代の水田跡が、泉崎前地区と鳥居原地区で発見された。鳥居原地区の水田は大きな畦に因って6～10m²くらいに小さく区画された水田跡であった。泉崎前地区では水田区画は明らかにできなかったが、水路跡が発見され、ここから鋤・鍬といった木製農具が出土した。

以後、遺跡の北東部を中心に、地下鉄工事や都市計画道路（長町一折立線）および各種建設工事に伴って各所で調査が行われてきた。（第7図・表-2参照）調査が進むにつれて、富沢遺跡は沖積活動の活発な後背湿地に立地しているため、活動の弱まる平安期に至るまで基本層は多くの細層によって構成されていることが明らかになった。その結果水田跡も重層的に多数が確認されている。層位関係と遺物等による時代判定により、昭和62年末までに確認された水田面の数は表-2のとおり21を数える。内訳は弥生時代8時期、古墳時代5時期、平安時代4時期、中世から近世4時期ほどとなっている。

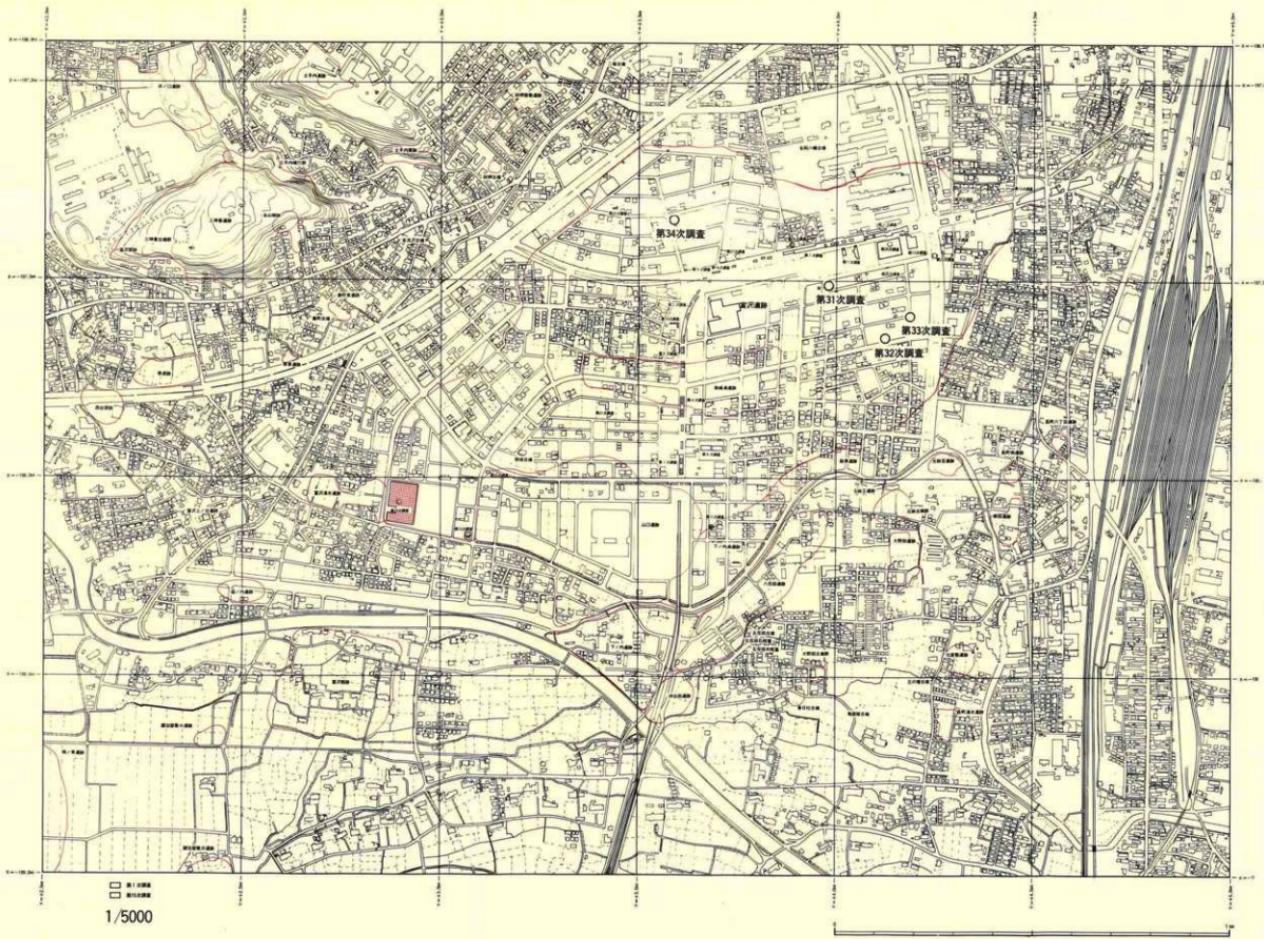
このように本遺跡は発見以来、後背湿地に堆積した泥炭質粘土層とその粘土ないしシルト層における水田跡の調査を中心に行われてきた。調査中には調査の関連としてプラント・オペール分析では水田跡の存在する可能性のない下部の泥炭質粘土層や更にその下の粘土ないしシルト層を疊層まで掘下げることも行われた。その結果8次調査では泥炭質粘土層直下から縄文時代後期の土器と石器が出土し、15次調査では基盤疊層近くのシルトないし粘土層中より縄文時代早期から前期前半頃の土器と石器が出土した。このような状況や、山口遺跡や下ノ内浦遺跡など周辺遺跡の下部層から、縄文時代早期の遺物や遺構が出土していることから、本遺跡は、水田以外の遺跡も内包していることが明らかになった。このため、昭和62年より富沢水田遺跡は「富沢遺跡」と改称された。

表-2 富沢遺跡検出水田跡の面数の概要

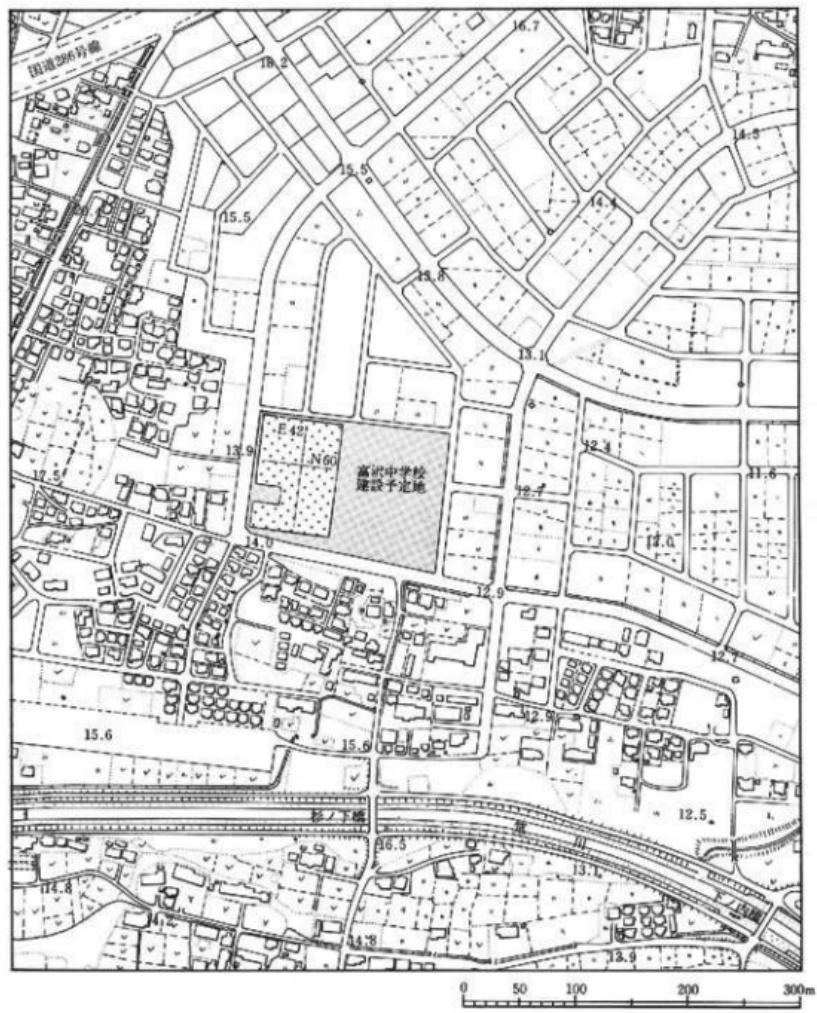
時代	通算 面数	標準水田面 調査次数	層位	時期	備考
弥生時代	1 15	13番	13番	青形圓式以前	(8次調査の9層で青形圓式以前の寺下園式土器と石棺 丁を出土した層を検出)
	2 15	12番	12番	青形圓式以前	
	3 1・5・7・12・13・15・17	11a層	11a層	青形圓式	17次11a層の下層の水田跡は15次12番水田跡との対 応は不明
	4 5・7・15・17	11a～10番			
	13	11番		青形圓式以後～十三層式以前	
	28	10d層			
	5 15	10b層		青形圓式以後～十三層式以前	
	6 5・7・15・17	9a層			
	12	7層		十三層式	
	13・16	7層			
古墳時代	7 24	10番	天王山式		
	8 24	7e層	天王山式		一部層により複数
	9 24	7b層	天王山～古墳時代		
	10 15	7a層	南小泉式		
	11 24	6b層	古墳時代中期～後期		
平安時代	12 30	8a古	古墳時代後期		一部層により複数
	13 30	8a新	古墳時代後期		
	14 15	6番	10世紀前半以前		
	15 12	5層			
中世	13	5層			
	15	5a層	10世紀前半前後	一白色丸山G層下	
	24	5a層			
	16 12	4層			
	13	4層	10世紀前半以前		
	15	4b層			
	17 5・7・17	3層			
近世	12	3層	10世紀前半以前		
	13	3層			
	18 30	6層	鎌倉前期		
	19 30	4層	中世中期		
	20 24	3層			
	30	3層	中世～近世		
	21 30	2層	江戸時代		

*作表にあたっては、北東部調査の層位関係を基準に各調査区の層位による新旧関係と、出土
遺物による時代区分を併用した。

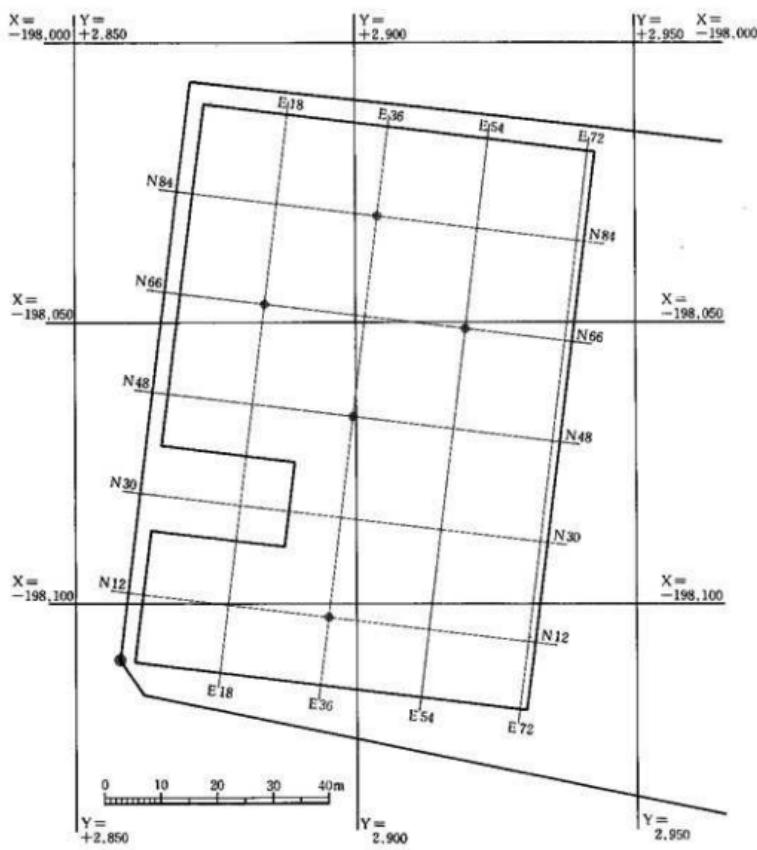
*30次調査における各水田跡の時期的な位置付けについては、現地説明会資料によっているた
め、本報告の結果によりこの表の改正が必要な場合もある。



第7図 富沢遺跡平面図



第8図 調査区位置図



測量基準点	國土座標値	
	X 軸	Y 軸
N84-E18	-198,031. ⁰⁹	+2,903. ⁰⁹
N66-E18	-198,046. ⁶⁶	+2,883. ⁷⁵
N66-E36	-198,051. ¹⁵	+2,919. ⁰⁰
N48-E36	-198,066. ⁰⁰	+2,899. ⁰⁰
N12-E36	-198,102. ⁰⁰	+2,895. ⁰⁰

第9図 測量基準点と國土座標

III. 調査の方法

1. 測量基準とグリット配置

測量基準 測量原点は学校敷地南西隅の境界杭2本のうち、北西側の境界点とした。(第9図)そしてこの測量原点と学校敷地北西隅の境界点を結ぶ線と、これと原点上で直交する線をそれぞれ東西・南北方向の測量基準線とした。測量にあたっては、測量原点をOとし、原点からの距離を方向の略号の後にm単位で示し、北側はN□(m)・南側をS□(m)・東側をE□(m)として座標を組んで実測を行った。

グリット配置 グリットは測量原点を基準に、6m毎に測量基準線によって敷地内を区画して設定した。これによって区画すると、敷地内は南北21、東西29に分割された。各グリットは南北方向をA～U、東西方向を1～29の符番の組合せ(ex, D3区、J21区)で表した。

国土座標と測量基準点 富沢中学校の本調査区は国土座標では南北がX=-198,000～-198,150 東西がY=+2,850～Y=+2,950の範囲内に位置する。調査の測量基準点と国土座標値との関係は第9図のとおりである。本調査の測量南北基準線は、国土座標の南北軸(Y軸)及び真北軸より約7°、磁北より約14°東に偏している。

2. 試掘調査の概要

1) 試掘区の設定

昭和61年度の調査は4月当初には校舎の設計プランが出来ておらなかったが、設計プラン決定後に調査が円滑に出来るように予め試掘を実施することになった経緯は既に述べた通りである。

試掘区の設定は、敷地全域の造構の概要が分り、かつ設計決定の予定される5月中旬までの約1ヶ月で調査可能な面積を勘案して、30～36m間隔で1グリットを調査することにした。これにより試掘区はD・J・Qラインと3・9・15・21・27ラインの交差するグリットに設定した。ただし、敷地南東部の盛土整地後さらに盛土され駐車場となっている部分(Q21・Q27区)は校舎建設の予定から外れる見通しであると関係当局から連絡があったため、試掘の対象から外した。これにより試掘は13グリットで行った。

2) 各区の概要

D3区 基本層I・II・IV・V・X・XI・XII・XIII層を検出した。II層以下を平面的にX層

上面まで調査したが、遺構は検出されなかった。試掘で XIII 層と考えられた礫層は本調査によって旧河川の堆積物であることがわかった。

J 3 区 基本層 I・II・III・V・IX・X・XI・XII 層を検出した。V 層には灰白色火山灰がブロック状に含まれていたことにより、V 層 (Va 層) は平安時代 (10世紀中頃) と考えられるようになった。III 層以下を平面的に X 層上面まで調査したが、遺構は検出されなかった。ただし、トレンチ北東コーナー付近で III 層が V 層上面より 1 段下がる部分を確認した。本調査中の先行調査で XIII 層中で旧河川跡と XIII 層の礫層を検出した。

Q 3 区 基本層 I・V～VI・間 5・VIIc・X・XI・XII 層を検出した。V～VI 層相当の土層上面で土坑 1 基 (SK-1)・溝跡 2 条 (SD-1・2)・旧河川跡 1 条 (試掘時は Q 9 区検出の SR-1…後に SD-9 と改称…と同一の旧河川跡と考えていたが本調査で別の遺構と判明し、SD-10 とした) を検出した。土坑・溝とも堆積土は II 層に類似する。SR-1 とした遺構の堆積土は砂礫を主とする。

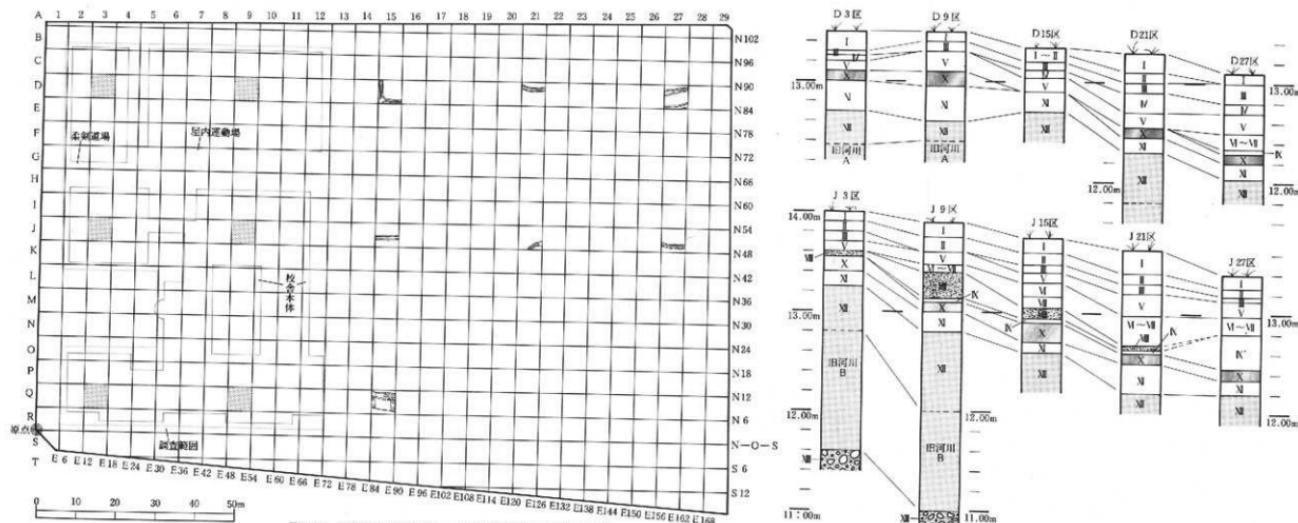
D 9 区 基本層 I・III・V・X・XI・XII・XIII 層を検出した。X 層上面まで調査したが、遺構は検出されなかった。V 層は試掘時には 5・6a・6b 層に分けられているが、5・6a 層中からロクロ土器片が出土している。XIII 層は本調査の結果、XII 層検出の旧河川堆積物と判明した。

J 9 区 基本層 I・II・V・VI～VII・VIII・IX・X・XI・XII 層を検出した。このグリットでは VII 層の砂層が 30cm 程堆積し、その上面で土坑 1 基 (SK-2) とこれに切られる溝跡 1 条 (SD-5) を検出した。本調査中の先行調査で、XII 層中で J 3 区から続くと見られる旧河川跡と礫層の XIII 層を検出した。

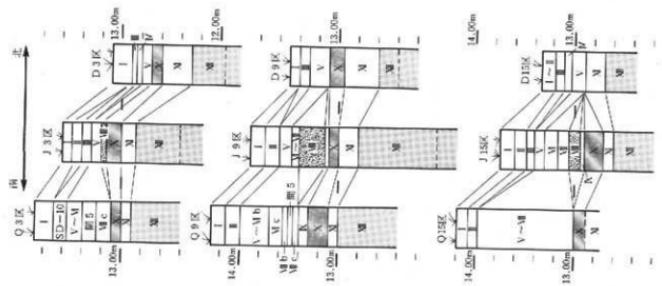
Q 9 区 基本層 I・II・III・V～VIb・VIIc・VIIb・間 5・VIIc・IX・X・XI・XII 層を検出した。V～VIb 層上面で溝跡 1 条と旧河川跡 1 条 (SR-1 = 本調査で SD-9 と改称) を検出した。I 層中から相馬屋と考えられる近世の陶器片 (碗) が 2 点出土している。

D 15 区 基本層 I～II・III・IV・Va・Vb・XI・XII 層を検出した。Va 層上面で畦畔を検出した。畦畔は D15 区の南壁際と西壁際沿ってそれぞれ東西・南北方向に伸び、南西コーナー付近で直交する。畦畔の幅は上面で 30～50cm、下面 50～80cm、高さは 2～4 cm を計る。IV 層中から常滑産と考えられる捏鉢片 1 点が出土した。また XI 層より石器 (剝片) が 5 点出土した。

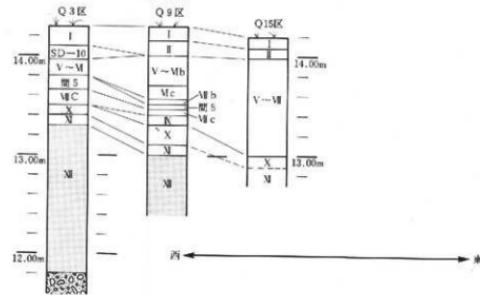
J 15 区 基本層 I・II・III・V・VI・VII・VIII・IX・X・XI・XII 層を検出した。V 層上面の北壁側で、壁と平行し壁側に下がる幅約 1 m の段を 2 段検出した。下がった部分にも III 層が堆積していることから III 層水田の耕作に係わる痕跡と考えられる。V 層は南寄りの検出面で灰白色火山灰が分布している面と、北寄りの V 層 (Va 層) を除去してから灰白色火山灰の分布を認めることができる面があり、その間のグリット中央南寄りは東西に幅 1.3m 灰白色火山灰が全く検出されなかった。灰白色火山灰のない部分には畦畔が存在したと考えられ、灰白色火山灰の



第10図 調査区の設定とグリッド配置図(試験区の構造はV層)



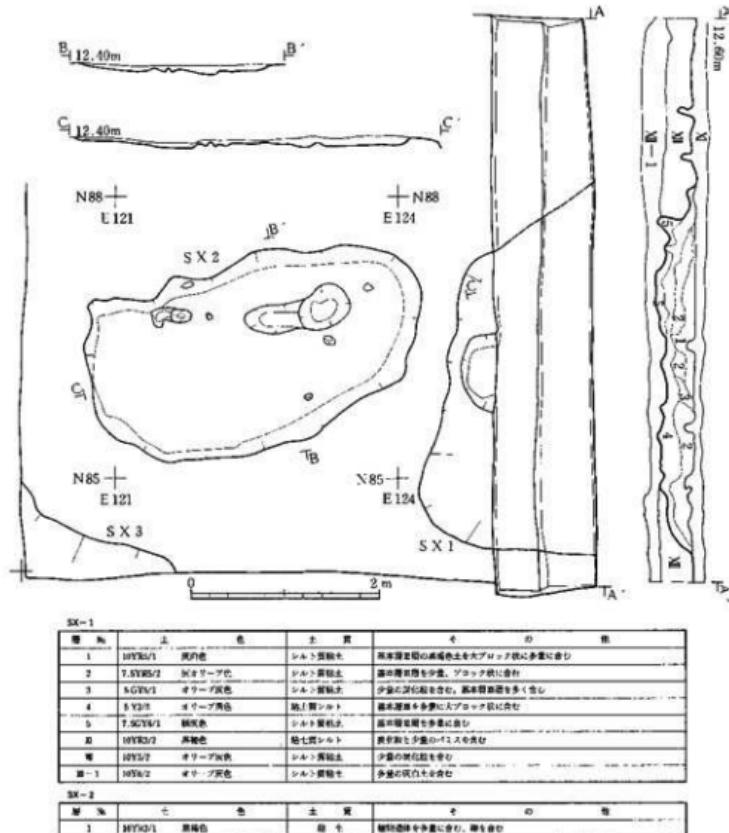
基本層位土柱図(2)



第11図 基本層位土柱図(1)

検出面の上下から、南が高く北に低い水田であったと考えられる。VI層上面ではグリットほぼ中央を東西に伸びる畦畔を検出した。上面幅約40cm、下面幅約50cm、高さ2cmを計る。

遺物はII層から須恵器片1点（第18図7）、III層から6本1単位の筋目をやや間隔をおいて付けた擂鉢片が出土。V層からロクロ土師器片1点（第18図9）、VII層から弥生土器片3点（第18図10～12）が出土している。



第12図 D21区 XII層検出遺構実測図

Q15区 基本層I・II・V～VII・XI・XII層を検出した。V層上面でQ9区検出のSR-1河川跡の続き見られる旧河川跡1条と、その北側に平行する溝跡1条（SD-4）を検出した。両遺

構は断面観察によると堆積土を共有しており、同一の遺構とも考えられた。遺物は I 層中から須恵器の甕片が 2 点（第18図17・18）出土。

D21区 基本層 I・II・III・IV・V・X・XI・XII 層を検出した。V 層上面でグリット北寄りに東西に伸びる畦畔を 1 条検出した。上面幅 70cm、下面幅 100cm、高さ 4 cm を計り、北側に弦が来るよう緩く湾曲している。X 層ではグリット中央付近で 3 本の杭を検出した。杭のうち 1 本は 40° 程度傾斜しているが、いずれも分割材で先端に加工痕をもつ。（第16図参照）

XII 層上面では楓倒木痕と考えられる落込みが 2 基（SX-1・2）検出された。遺物は I 層から近世以降の施釉陶器が 2 点出土し、うち 1 点は 18~19 世紀頃の唐津産と考えられる。III 層中からは 13~14 世紀頃と見られる中国青磁の蓮弁文をもつ皿が出土。（第18図 2）V 層からはロクロ使用の内黒土師器环と須恵器环が出土した。（第18図 3~6）XI 層からは不定形石器が 2 点出土している。

J21区 基本層 I・II・III・V・VI~VII・VIII・IX・X・XI・XII 層を検出した。II 層を排除すると III 層と V 層面が現れ、両層を切る溝（SD-6）が検出された。V 層は南側 4 分の 1 に分布する。溝跡は上幅約 70cm、底面幅約 20cm、深さ 25cm 前後を計り、断面は U 字形を呈し、南北方向よりやや東に傾く。III 層はグリットの北側 3 分の 1 が III a 層に相当し、この部分は III 層が 1 段下がる。

VI 層上面では南西隅付近を南西から北東方向に横切る溝跡 1 条が検出された。規模は上幅約 50cm、底面幅約 20cm、深さ 10cm を計り、断面形は逆台形を呈する。

遺物は、I 層から 19 世紀後半頃と考えられる相馬産の甕片 1 点、III 層から名取川系の中世陶器片 1 点、V b 層からは鎌の基部の破片と考えられる鉄製品の断片が出土している。



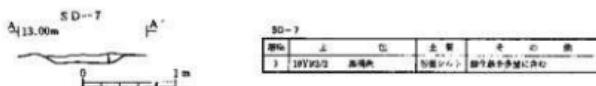
第13図 J21区 III 層検出溝断面図



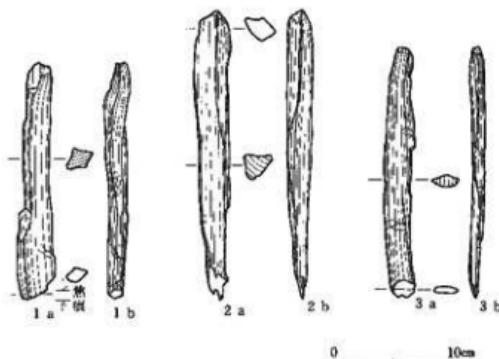
第14図 J21区 VI 層検出溝断面図

D27区 基本層 I・III・IV・V・VI~VII・IX・X・XI・XII 層を検出した。V 層上面でグリットの北側と南側に平行して東西方向に伸びる 2 条の畦畔を検出した。畦畔はほぼ同規模で、北側で上幅約 70cm、下幅約 140cm、高さ 5 cm を計る。畦畔間は下場で計測すると 280cm 離れてい

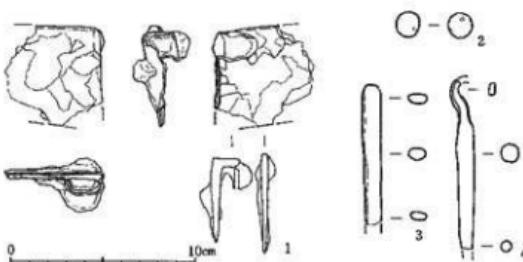
る。この珪畔の方向は真東西に近い。VI～VII・IX・X・XI・XII層上面も精査を行ったがXII層上面で石鐵が1点出土しただけで、遺構は検出されなかった。



第15図 J27区 VI層検出溝断面図

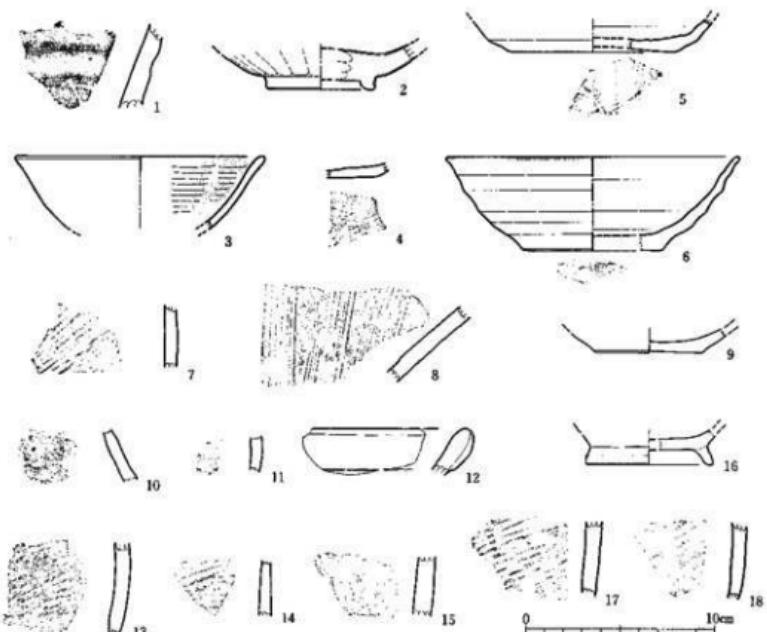


第16図 D21区 X層杭実測図



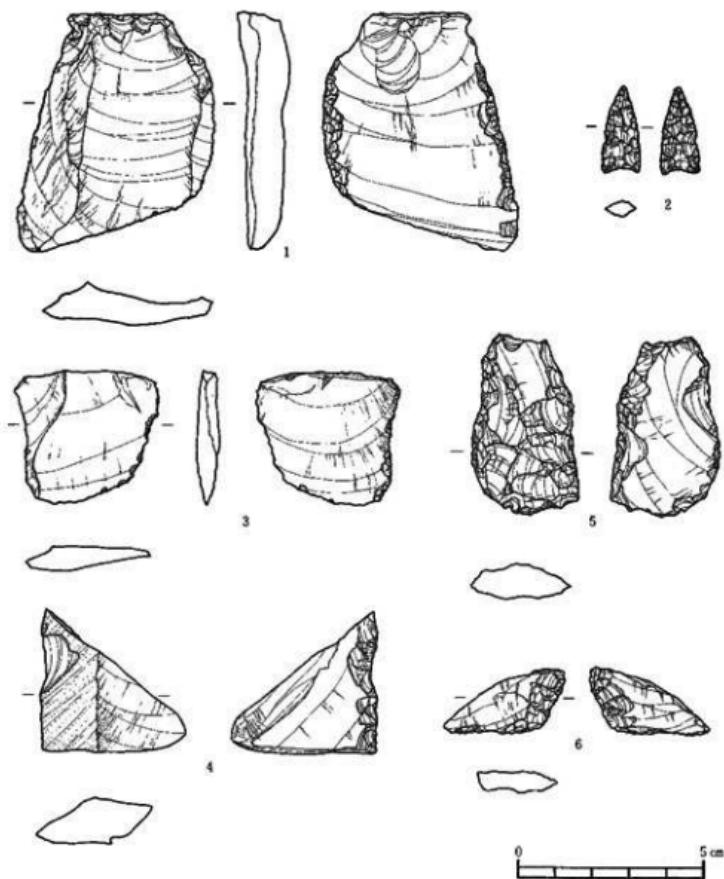
遺物番号	遺物名	基本層位	出土地区	遺物名	層位	質	寸	備考	参考圖版
1	N-5	Vb層	J-21			鉄製品	縦?	横径約3.4cm、高さ約5.5cm、底アガリ2.4cmより底部分削り取られ縦に深さ約1.5cm	272
2	N-4	不規	J-21			鉄製品	横?	横径約4cm、高さ約12.4cm	273
3	N-6	不規	J-27			鉄製品	中空圓筒	横径約7.4cm、高さ約1.6cm、厚さ約0.6cm	272
4	N-7	不規	J-27	鉄製品	鉄鍛錠?	横径約9.2cm、高さ約1.4cm、厚さ約0.6cm			272

第17図 試掘トレンチ出土遺物実測図(1)



出発地番号	遺物番号	基木	出土地区	遺物名	部位	種別	形態	寸法 (cm)	外観	内観	筆者	年代	参考図版
1	J-12	石器	D-15	1	石刀	鉢	円筒	内径：直径：鉢高	カクタケ型	共通	光復	12-13C	270
2	J-9	石器	D-23	2	石刀	鉢	円筒	内径：直径：鉢高	平行印凹面	共通	光復	中国	271
3	J-6	V型?	D-21	3	土器底	片	円筒	内径：直径：鉢高	カクタケ型	共通	光復	日本	272
4	J-36	V型?	D-21	4	土器底	片	円筒	内径：直径：鉢高	カクタケ型	共通	光復	日本	273
5	J-4	V型?	D-21	5	土器底	片	円筒	内径：直径：鉢高	カクタケ型	共通	光復	日本	274
6	J-3	V型?	D-21	6	土器底	片	円筒	内径：直径：鉢高	カクタケ型	共通	光復	日本	275
7	J-35	石器	J-15	7	石刀	鉢	円筒	内径：直径：鉢高	カクタケ型	共通	光復	日本	276
8	J-24	石器	J-15	8	石刀	鉢	円筒	内径：直径：鉢高	カクタケ型	共通	光復	日本	277
9	(J-4	V型?	J-15	9	土器底	片	円筒	内径：直径：鉢高	カクタケ型	共通	光復	日本	278
10	J-92	陶器	J-15	10	陶器	片	円筒	内径：直径：鉢高	カクタケ型	共通	光復	日本	279
11	J-93	陶器	J-15	11	陶器	片	円筒	内径：直径：鉢高	カクタケ型	共通	光復	日本	280
12	J-105	陶器	J-15	12	陶器	片	円筒	内径：直径：鉢高	カクタケ型	共通	光復	日本	281
13	J-18	石器	J-27	13	石刀	鉢	円筒	内径：直径：鉢高	平行印凹面	共通	光復	日本	282
14	J-22	石器	J-27	14	石刀	鉢	円筒	内径：直径：鉢高	平行印凹面	共通	光復	日本	283
15	J-40	石器	J-27	15	石刀	鉢	円筒	内径：直径：鉢高	平行印凹面	共通	光復	日本	284
16	J-5	V型?	J-27	16	土器底	片	円筒	内径：直径：鉢高	カクタケ型	共通	光復	日本	285
17	J-6	V型?	Q-15	17	土器底	片	円筒	内径：直径：鉢高	カクタケ型	共通	光復	日本	286
18	J-7	V型?	O-15	18	土器底	片	円筒	内径：直径：鉢高	カクタケ型	共通	光復	日本	287

第18図 試掘トレンチ出土遺物実測図(2)



第19図 試掘トレンチ出土遺物実測図(3)

J 27区 基本層 I・II・III・V・VI～VII・IX' (VIII?)・X・XI・XII層を検出した。IX'層はにぶい黄褐色の粘土質シルト層で、基本層のIX層に類似しているがVII層の砂層ともIX層の粘土層と

回収番号	遺物番号	高さ(mm)	出土地質	有・無	種別	復元度	測定値(cm・g)				性	材	写真面積
							長さ	幅	厚さ	重量			
1	K-2	灰層	D-21	-	不定形石器	6.4	5.35	1.4	37.00	複合貝殻(一部不規則)	-	-	273
2	K-4	粘土上層	D-27	-	切削	2.3	1.8	0.4	9.6	西側	-	-	273
3	K-3	粘土上層	D-27	-	不定形石器	2.6	2.9	0.7	7.30	東北	-	-	273
4	K-5	粘土上層	D-27	-	不定形石器	3.8	4.0	1.05	14.25	南側	-	-	273
5	K-18	粘層	J-15	-	不定形石器	4.85	2.0	0.95	22.05	東北	-	-	273
6	K-25	粘土上層	J-27	-	不定形石器	1.8	3.2	0.6	2.55	西北部	-	-	273

も土質を異にし、試掘ではこのグリットにのみ見られた。

III層を除去したところ、グリットの南側3分の1のところで耕作深度の差による段差が検出された。段は東西方向に続き、段の上部はV層で、低い方の北側はVI層となった。段の上部には畦畔が有ったものと考えられる。VI層上面ではグリット南寄りに東西に伸びる畦畔が検出された。畦畔は上幅約40cm、下幅約70cm、高さ2cmを計る。IX'層の上面ではグリット北東隅を斜めに横切る溝跡(SD-7)が検出された。上幅約50cm、底面幅約35cm、深さ8cmで断面形は浅い逆台形を呈する。

遺物は、I層から近世以降の白磁の碗片1点、III層から須恵器壺片3点、VI層からロクロ使用の高台付土師器环片が出土、VI層から棒状の鉄製品2点、VII層から不定形石器1点、その他層位の分からぬ近世磁器と鉛の弾丸が各1点出土している。(第17・18図)

3. 基本層位

試掘調査と本調査の結果から24次調査地区の基本層位は大別13層、細別28層+ α に分層された。(第20図)層の名称は大別層をI・II・III……のローマ数字で表し、その細別層にはa・b…のアルファベットの小文字を付して表した。基本層の名称はこの大別名と細別名を基本としているが、ほかに各大別と細別層にあってさらに分層可能な土層には、客体的な方に「□」をして(ex, VIIc・X)分けた。また、これらの付番方法によって分けた細別土層間に、土質・土色の類似する間層(大部分は薄層)を挟むところがあった。この間層については、間層1・間層2……という細別番号を付した。各層の概要は以下の通りである。

I a層 区画整理以前(昭和50年前後)の水田耕作土で、調査区の全面に認められる。暗褐色のシルトからなる。層厚は10~20cm。

I b層 I a層水田耕作土に伴う酸化鉄集積層で、I a層水田の床土。土質はI a層とほぼ同質であるが鉄分が密に集積し、オレンジ色に見え、乾田として長く耕作されてきたことを物語る。層厚は5cm前後。

II a層 近世から近代にかけての水田耕作土層。灰黄褐色を基調とする砂質シルトからなる。調査区のほぼ全域に分布するが、I層水田に食われている部分もある。

II b層 II a層水田の床土でI b層同様に酸化鉄が集積している。土質はII a層とほぼ同質である。

III層 暗褐色の砂質シルト層で、N42ライン付近以北の調査区北半部に分布する。北半部でも東側が厚く、西側ほどII層水田によって食われて薄くなっていく。N42ライン以南にもSD-9・10溝跡近くまでIII層が存在したと考えられるが、調査区南部は広範囲にII層水田に食

われているようである。中世から近世初頭の水田跡が検出された。

IV 層 黒褐色の粘土質シルトで、本調査区北東部に分布する。試掘調査でもD列のグリットだけで検出されるだけであった。層厚は10cm以下。水田跡は発見されなかった。

V a層 にぶい黄褐色の粘土質シルト層が基調となるが、北端部付近では下層のVII層を巻込んで砂質が強くなったり、X層を巻込んで黒っぽくなっている。調査区のN18ライン付近以北に分布する。層の下部からV b層との境にかけて灰白色火山灰の小ブロックを含む。灰白色火山灰のブロックの含まれている割合とこなれ具合は場所によって異なっている。平安時代の水田が検出された。

V b層 V a層と同様ににぶい黄褐色の粘土質シルト層が基調となるが、V a層より粘土分に富み、また土色はやや黒っぽい。N30～N66の間の調査区中央付近に分布する。それ以外の場所ではV a層水田又はそれより新しい時期の水田耕作土となってしまったところもあると推察される。

次の間層1からVII d層までは薄層が多く、分布はVII層の堆積で出来た北側の高まりのより南(N66ライン以南)の地域に限られる。また調査区中央付近では、VII層の高まりのあるE24ライン以西にはこれらの層は認められない。

間層1 にぶい黄褐色のシルト質粘土層で、M・N-7・8区付近の狭い範囲に分布。層厚は5cm以下。(第21図)

VI a層 褐色のシルト層で、上層(I・II層)の影響と見られるマンガン粒が疎らに含まれる。N52以南・N23以北、E30以東の調査区中央付近に分布。

間層2 にぶい黄褐色の砂質シルト層。N・M・O-6・7・8・9区付近に分布する。

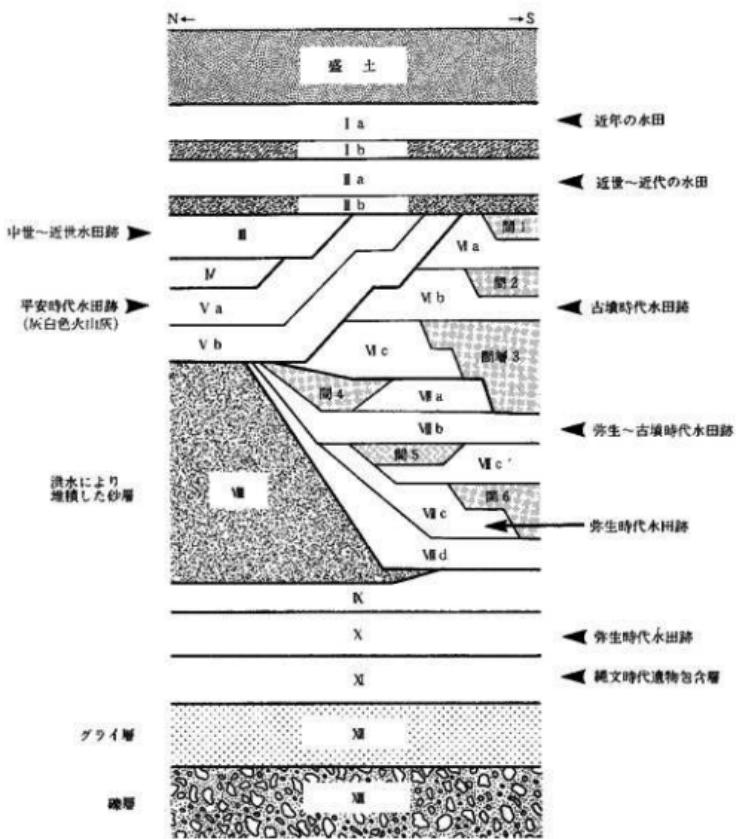
VI b層 暗褐色のシルト層。N60以南、E24以東の調査区中央から南部の東半部に分布する。層厚は南東部が厚く20cm程あるが、北部または西部に移行するにつれて薄くなる。古墳時代の水田跡が検出された。

間層3 にぶい黄褐色を呈する細砂層。VI bの下にくる間層で、その下はVII b層となっている。N 9区から幅12mくらいで北東方向に向かって分布する。層厚は4cm前後。

VI c層 にぶい黄褐色を呈する砂質シルトで、間層を形成している土層に類似性が強い。J 6区付近から南西のP11付近まで25mくらいの幅で分布する。層厚は南東部が厚く、25cm程あるが北東部では10cm以下となる。土層上面の傾斜は、南東から北西に向かってわずかに下がる。

間層4 黄褐色を呈するシルトで、VI c層に類似する。N・O-9・10区付近の極限られた範囲に分布する。

VII a層 にぶい黄褐色を呈する砂質シルト層である。第22図に図示したように、E37ラインのN33～N51間に2～3cmの薄層として分層でき、J・K・L・M-6・7・8区周辺に分布する。



第20図 基本層位概念図

VII b 層 暗褐色を呈する粘土質シルト層からなる。K-L-5 区付近から N54 ライン以南の南東方向に、扇形に開いて分布する。弥生時代から古墳時代にかけての水田跡が検出された。

間層 5 暗褐色を呈するシルト層からなる。N36 以南の調査区南部に分布している。層厚は 5 cm 程度であるが東側は厚く、20cm 前後ある。

VII c 層 黒褐色を呈する粘土質シルト層からなる。M-N-O-8・9・10・11・12 区付近に分布する。層厚は 5 cm 程度であるが、東部では 10cm ほどある。

表-3 基本層記表

層名	土の色	土質	その他の
I a	10YR4/3 硫褐色	シルト	古墳時代以前の近年の小耕耕土
I b	10YR4/4 黒色	シルト	Iの深土、酸化鉄を含む
II a	10YR4/2 深赤褐色	砂質シルト	古墳から近代の水田耕土
II b	10YR5/4 に近い黄褐色	砂質シルト	IIaの底土、酸化鉄の集積層
III	10YR3/4 褐褐色	砂質シルト	
IV	10YR2/2 黑褐色	粘土質シルト	
V a	10YR5/4 に近い黄褐色	シルト質粘土	灰白色火山灰岩を少量含む
V b	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト質粘土	
間層 I	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト質粘土	(Vb層)
Via	10YR4/6 黒色	シルト	マンガニ酸・酸化鉄を含む
間層 2	10YR6/4 に近い黄褐色	砂質シルト	
Vib	10YR3/4 黑褐色	シルト	
間層 3	2.5YR6/3 黑色	粘土	
Vic	10YR6/3 に近い黄褐色	砂質シルト	
間層 4	2.5YR5/4 黑褐色	シルト	Fe鐵に富む
Via	10YR6/3 黑褐色	砂質シルト	
Vib	10YR3/3 黑褐色	粘土質シルト	
間層 5	10YR4/4 黑色	シルト	2.5YR6/4 黄褐色シルトの部分もある。SR=3 単純土+層
Vic'	10YR2/3 黑褐色	粘土質シルト	
間層 6	10YR4/4 黑色	シルト	10YR6/4 に近い黄褐色砂質シルトを多量に含む
Vic'	10YR2/3 黑褐色	粘土質シルト	
Vid	10YR3/3 黑褐色	砂質シルト	
Vii	10YR6/4 に近い黄褐色	砂	
IX	10YR4/2 深赤褐色	粘土	
X	10YR2/3 黑褐色	粘土	
XI	10YR3/3 増毛色	粘土質シルト	
XII (a)	10YR5/6 黑褐色	粘土質シルト	以下の層はグライ層
(b)	2.5YR6/3 に近い黄褐色	粘土	露頭以下もさらに細分される
XIII	無層		上部には耕開に粘土混入

間層 6 に近い黄褐色砂質シルトを多量に含む褐色のシルト層からなる。M-N-O-7・8・9・10・11・12区内に分布する。層厚は4 cm前後。

VII c 層 黒褐色を呈する粘土質シルト層からなる。J-K-5・6区付近から南方向へ扇形に広がって分布する。南端部で弥生時代の水田跡が検出された。

VII d 層 暗褐色を呈する砂質シルト層からなる。K-L-M-5・6区を一方の頂点として北東に半梢円形に広がる。ただし、その中心部にはこの土層が皆無または希薄になっているため、実際は馬蹄形に近い分布となっている。層中に含まれる砂はVII層に起因する。

VIII 層 に近い黄褐色を呈する砂層からなる。VII d 層の外側にVII d 層と同様に馬蹄形に分布し、南東側は東側に開く。VIII層は下層(IX-X層)上面より盛上がり土手状に堆積し、中央の窪地は南東方向に開く浅い谷状の微地形を形成している。VI-VII層とその間層の各層はこの窪地を埋めるように堆積している。

IX 層 灰黄褐色を呈する粘土層。分布域はVII層とほぼ重なるが、南部ではVIII層より広がる。VIII層と重ならない部分では南及び西に行くに従って土色は黒っぽく変化していく。層厚はVIII層下では2cmと薄いが、調査区南部のVI層外では次第に厚くなり、南東部では10cmほどになる。

X 層 黒褐色を呈する粘土層からなる。F・G・H区付近以北になると、北側に移行するに従って有機質分が次第に増え泥炭質の粘土層となる。調査区全域に分布したと考えられるが、調査区北東隅からD15区にかけてはV層の水田耕作による削平をうけているため存在しない。層厚は10~20cm。南部で弥生時代の水田跡が検出された。

XI 層 暗褐色を呈する粘土質シルト層からなる。調査区全域に分布し、他の敷地にかかる全試掘区でも検出されている。層厚は10~20cm。縄文時代の遺構と遺物が検出された。

XII a層 黄褐色を呈する粘土質シルト層からなる。XII層の上部を形成し、広範囲に分布している。この層以下はグライ層となっている。

XII b層 にぶい黄褐色を呈する粘土層などからなり、この層以下も更に細分される。XII b層以下では旧河川跡が検出されている。

XII層の層厚は、XIII層まで深掘りした試掘区で160cm~240cmを計る。

XIII 層 踊層で、拳大から人頭大までの躰が密に堆積する。

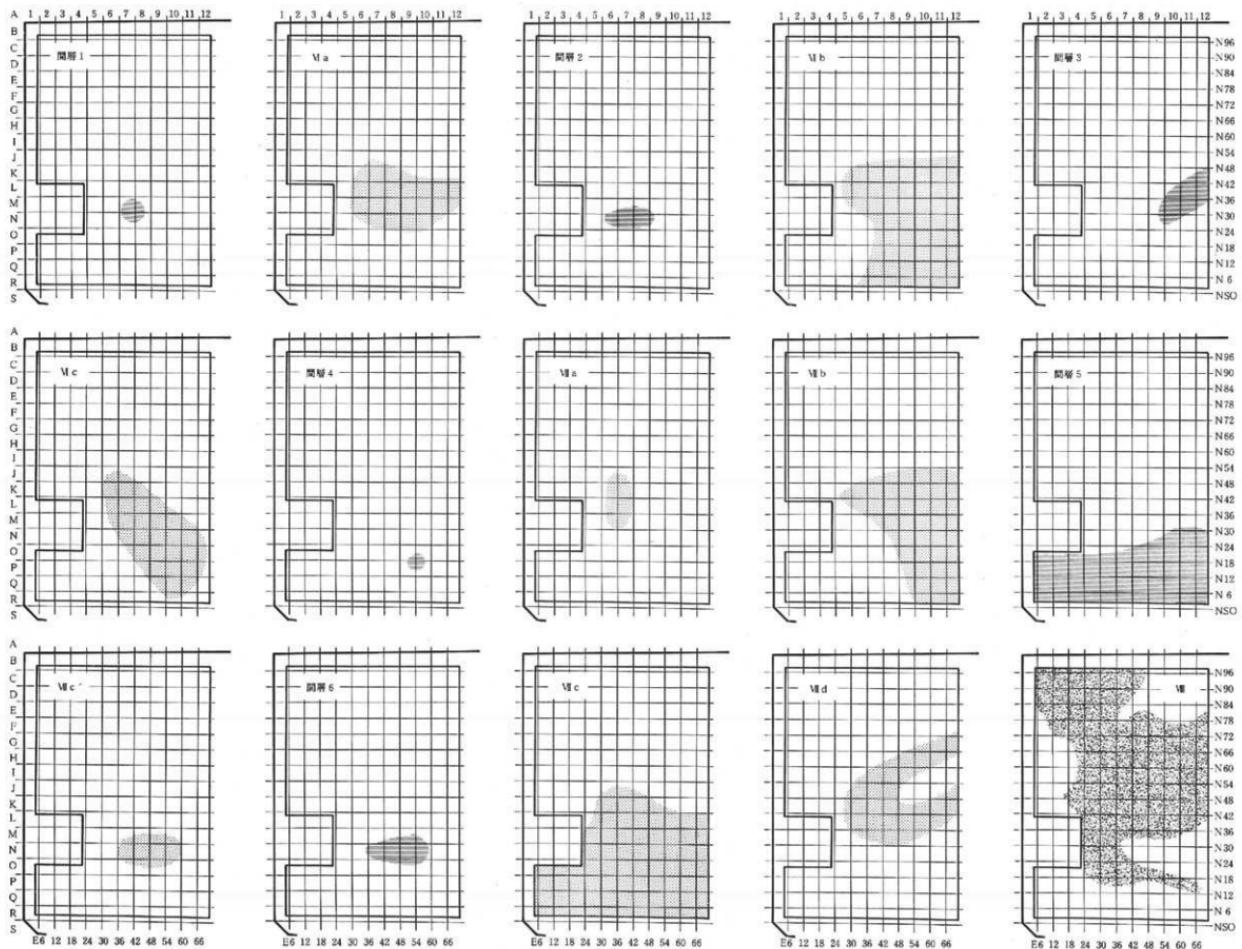
基本層の傾斜 試掘区の土層柱状図によって基本各層の傾斜をみると、第11図のような状況となっている。

まず、東西方向についてみると、D列・J列・Q列とも全体として西から東へと下がっている。これは丘陵側から後背湿地への傾斜に一致する。南北方向は、3列・9列・15列・21列・27列とも南側から北側へ下がっており自然堤防から後背湿地への傾斜と一致する。そして二つの傾斜が合さって全体としては南西から北東方向に下がる。この傾斜の上位と下位にあたるQ3区とD27区のI層・X層・XI層上面の落差はそれぞれ120cm前後となっており、この傾斜は長期に渡って存続していたことが伺われる。

基本層の微起伏 XII層ではD15区付近が東西・南北方向とも隣接試掘区よりも数cmから數十cm高くなっている。これがXI層とX層に影響を及ぼし、両層とも周辺に比べて傾斜が緩むか周辺よりやや高くなっている。

本調査区の微起伏に大きな影響を与えたのはVII層の砂層で、先に述べた通りこの層の堆積によって南東に開く谷状の微地形が形成された。VII層からVI層の多くの薄層はこの谷を埋めるように堆積している。

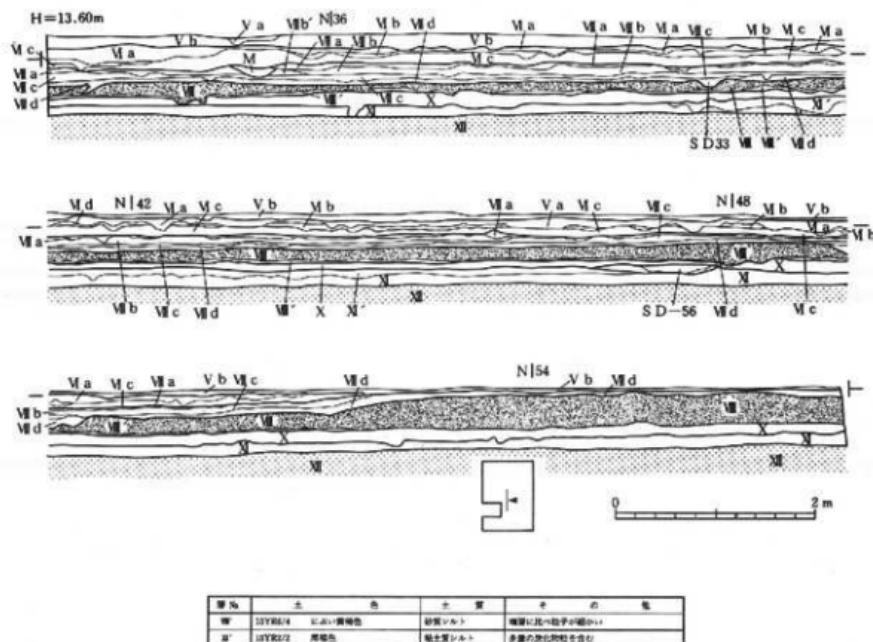
V層が堆積すると調査区南部は東西方向の傾斜はほとんどなくなる。ただし中部から北部は以前として西から東に傾斜する。南から北への傾斜はこの時期にも認められる。その後北部か



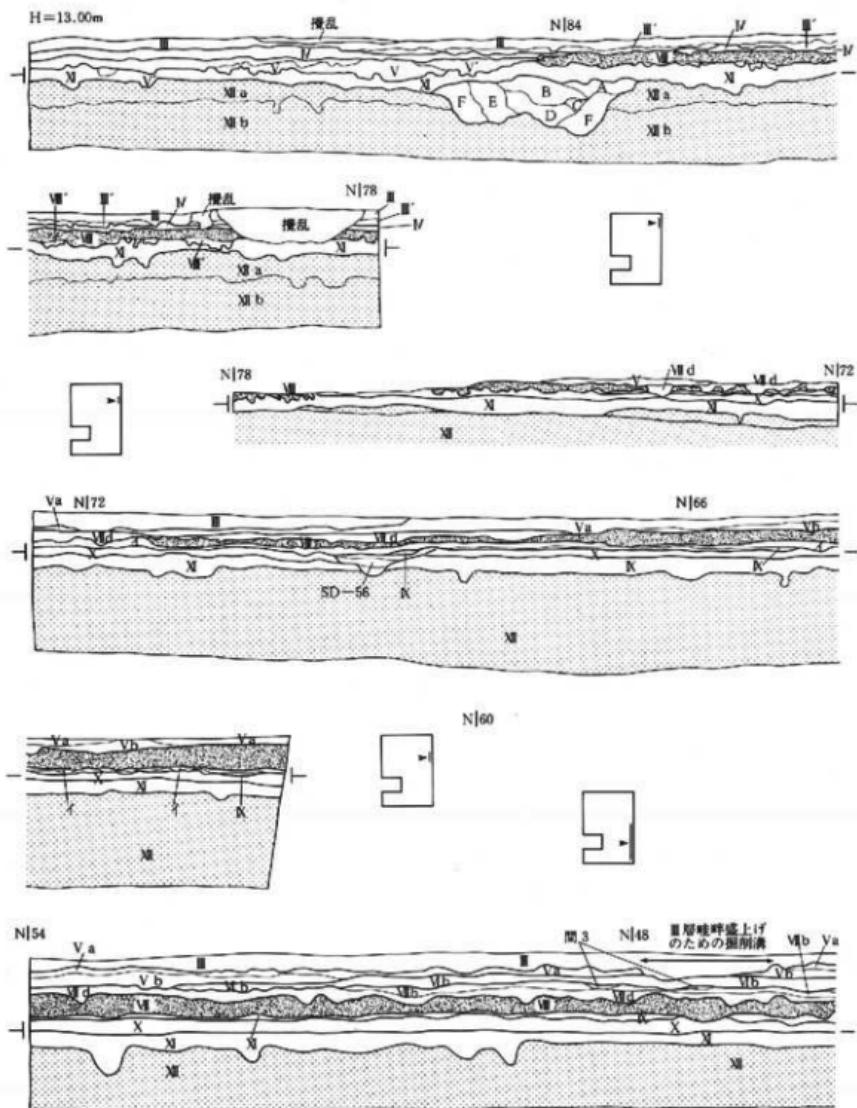
第21図 間層1～隔層間の各層分布概念図

ら北東部にかけてはIV層が堆積して傾斜の緩和が進む。

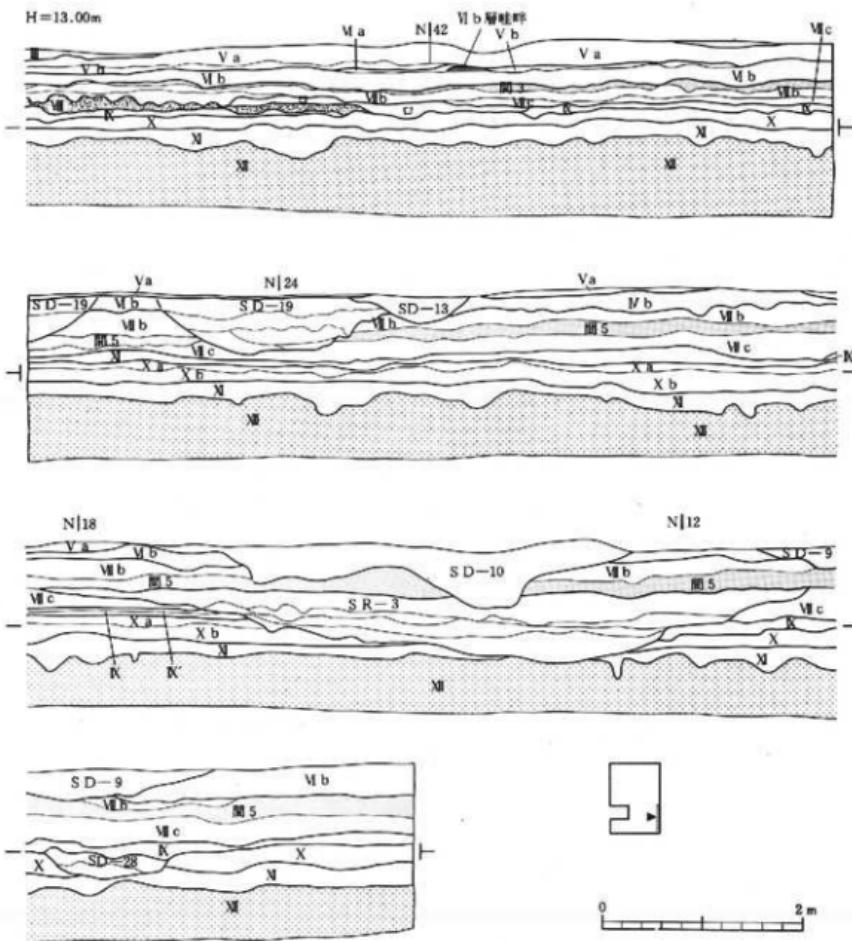
III層からII・I層は多少の微起状はあるものの、全体としてはやはり南西から北東へ傾斜している。



第22図 E37ライン南北断面図

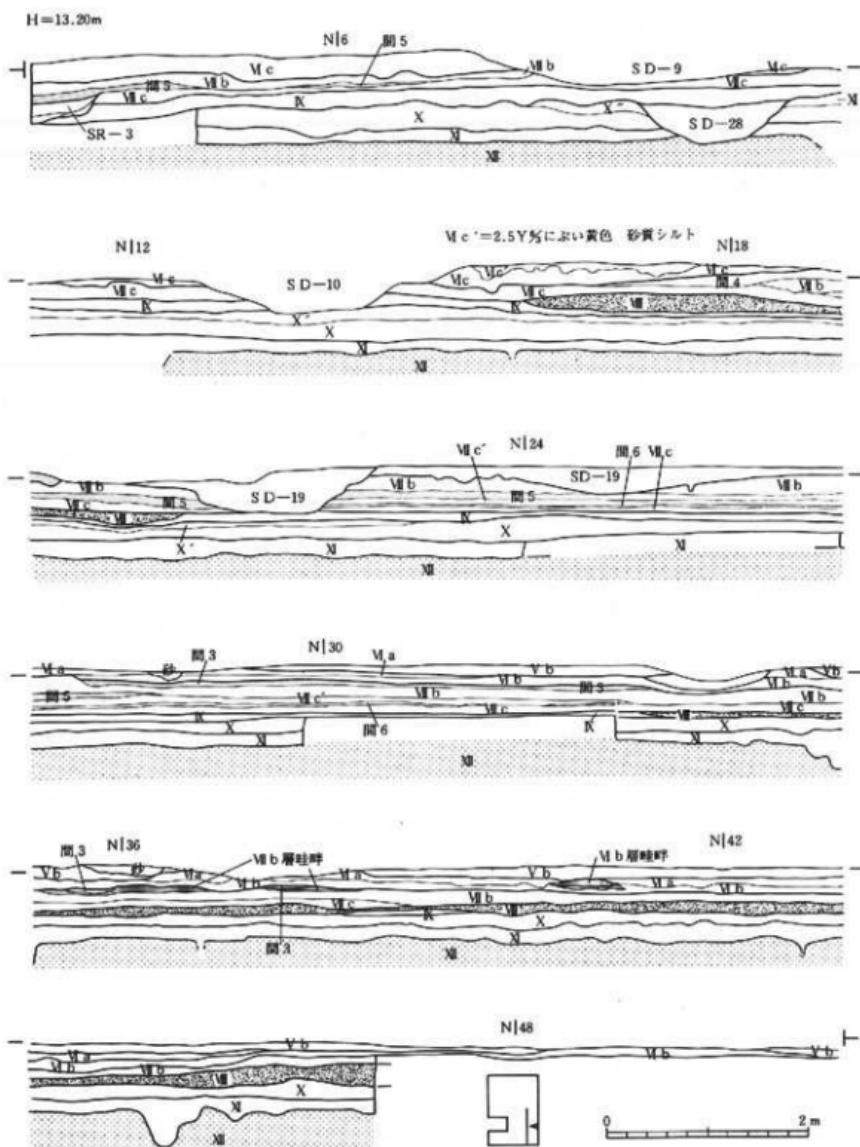


第23図 東壁断面図(1)



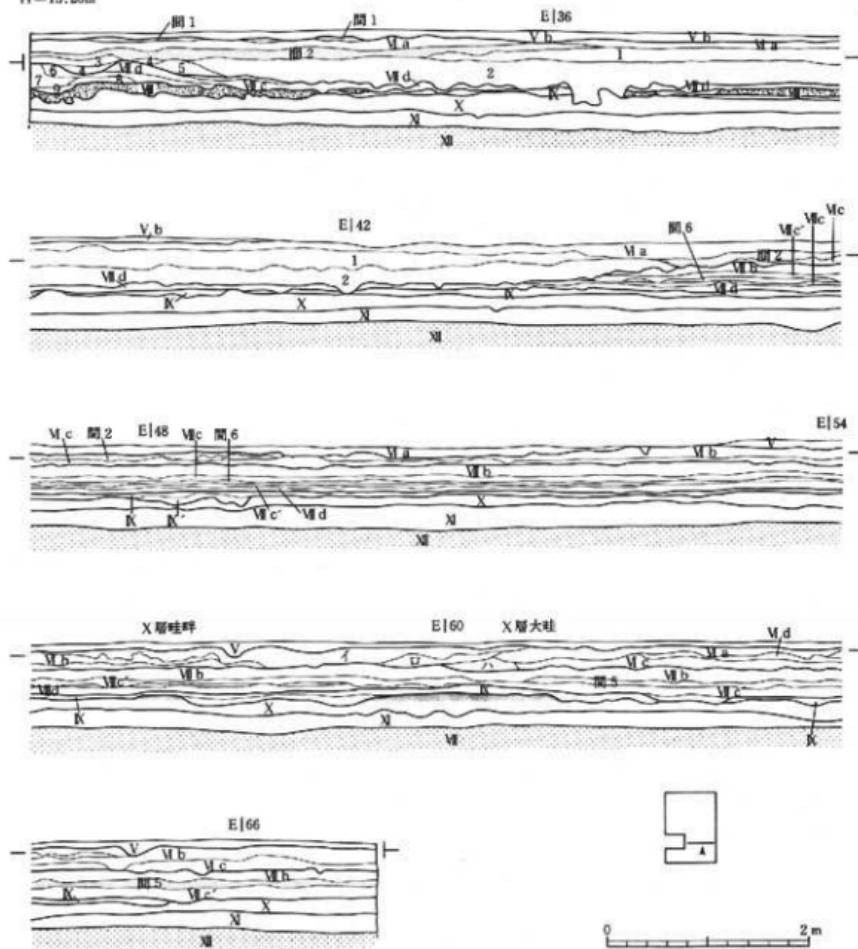
No.	土色	土質	構造
II'	MYR2/3 棕褐色	粘土質	
III'	1.5YR2/3 に2.5Y7/2	砂質	
IV'	MYR2/2 黑褐色、シミ付		
V'	紅褐色が発達したもの	粘土質	柱状構造
Xa	赤褐色	砂質	柱状構造
Xb	赤褐色	砂質	柱状構造
Ma	1.5YR2/2 棕褐色	粘土質	柱状構造
Mb	2.5Y6/2 に2.5Y7/2	粘土質	柱状構造
No.	土色	土質	構造
I	MYR2/4 C.2.5Y7/2	粘土質	柱状構造
II	2.5Y7/2 砂質	砂土	風化砂粒・砂粒を多く含む
A	MYR2/2 黑褐色	粘土質	シミ付
B	2.5Y5/3 灰褐色	粘土	泥炭を含む
C	2.5Y4/2 C.2.5Y7/2	粘土	
D	2.5Y7/2 に2.5Y7/2	粘土	褐色粘土を含む
E	2.5Y6/2 に2.5Y7/2	粘土	に2.5Y7/2 黄褐色粘土を少量含む
F	MYR4/7 に2.5Y7/2	粘土	

第24図 東壁断面図(2)



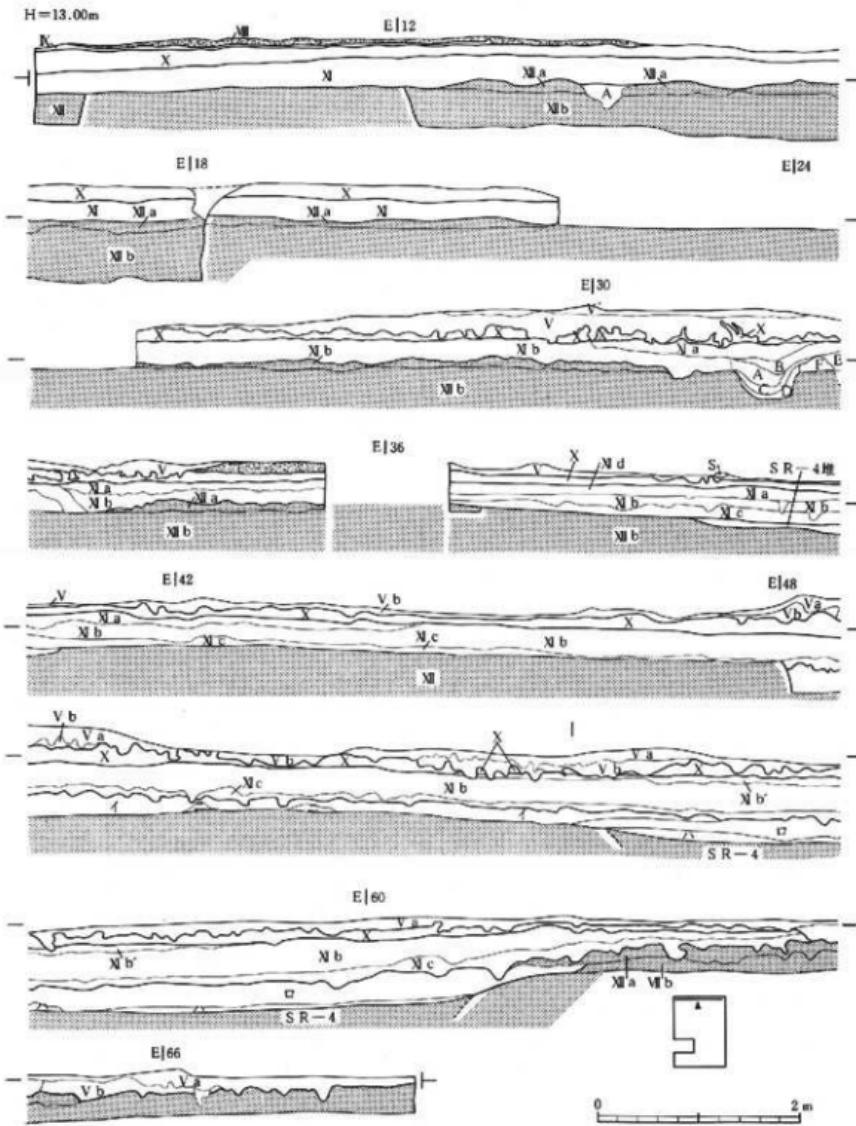
第25図 E54ライン南北断面図

H = 13.20m



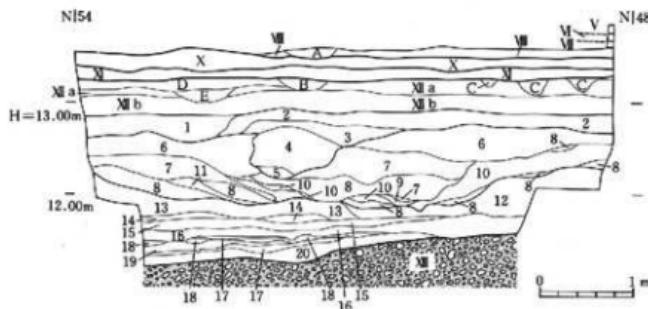
No	土色	土質	層号	No	土色	土質	層号
1	HYTR4 緑色	砂質	1	10YRD2/4 に近い黄褐色	砂質	SD-1堆積土、基岩侵蝕面に一帯	
2		シルト	2	10YR5/2 に近い黄褐色	砂質	SD-1堆積土、基岩侵蝕面に一帯	
3	HYTR4/2 暗褐色	砂質	3	10YR5/2 に近い黄褐色	砂質	SD-1堆積土、基岩侵蝕面に一帯	
4	HYTR4/4 暗褐色	シルト	4	10YR5/2/3 に近い黄褐色	砂質	SD-1堆積土、基岩侵蝕面に一帯	
5	HYTR4/2 暗褐色	砂質	5	10YR4/4 緑色	シルト	SD-1堆積土、基岩侵蝕面に一帯	
6	HYTR4/2 暗褐色	粘土質	6	10YR4/4 緑色	シルト	ツバギン粘土多く含む	

第26図 N30ライン東西ベルト断面図



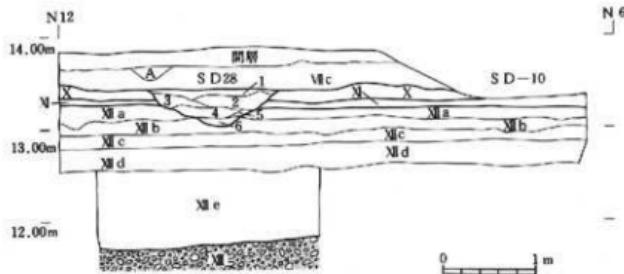
第27図 北壁断面図

層名	土色	土質	特徴
A	MV2/3 黒褐色	砂質シルト	塊状
B	MV2/2 黒 色	砂質シルト	塊状、硬塑化物を多く含む
C	MV2/1 黒 色	砂質シルト	塊状
D	LY2/2 オーピー褐色	シルト質砂	・無鉄本底
E	MV3/2 黒褐色	砂質シルト	塊状由小プロックを多量に含む
F	MV3/4 黒 色	シルト	小石・鐵鉱石小ブロックを大量に含む
Ga	MV3/2 黑褐色	粘土質シルト	鐵鉱石を多量に含む
Gb	MV3/3 黑褐色	粘土	鉄質
G	S-GT4/1 鐵オーピー褐色	砂質シルト	鉄質
H	S-GT4/1 鐵オーピー褐色	粘土質シルト	塊状
Ia	S-G2/1 オーピー褐色	シルト	SR-4 施工上の上部
Ib	S-GT4/4 オーピー褐色	砂質の鉄鉱物	



J-3断面	層名	土色	土質	標号	層名	土色	土質	標号
V	MV3/2 黒褐色	粘土質	シルト	5 S-GT4/1 鐵鉱物	粘土	サヤシルトを含む		
VI	MV3/2 黒褐色	シルト	シルト	6 S-GT4/1 砂質	シルト	シルト		
VI	MV3/2 にJ1-1鉄鉱物	シルト	シルト	7 S-GT4/1 鐵鉱物	シルト	シルト		
X	MV2/2 黒褐色	シルト	砂質粘土を少量含む	8 S-GT4/1 黒褐色	粘土			
XI	MV2/2 黒褐色	シルト	砂質粘土を少量含む	9 S-GT4/1 黑褐色	粘土			
XII	MV3/2 にJ1-1鉄鉱物	シルト	砂質粘土を少量含む	10 S-GT4/1 黑褐色	シルト			
XIII	MV3/2 黑褐色	シルト	砂質粘土を少量含む	11 S-GT4/1 鐵鉱物	シルト	7号2-5号が多い		
XIV	MV3/2 黑褐色	シルト	砂質粘土を少量含む	12 S-GT4/1 黑褐色	シルト			
A	MV2/2 黑褐色	粘土	シルト	13 S-GT4/1 黑褐色	粘土			
B	MV3/2 黑褐色	シルト	砂質粘土を多量に含む	14 S-GT4/1 黑褐色	シルト			
C	MV2/2 にJ1-1鉄鉱物	シルト	砂質粘土を多量に含む	15 HGTV4/1 鐵鉱物	シルト			
D	MV2/2 にJ1-1鉄鉱物	シルト	砂質粘土を多量に含む	16 HGTV4/1 鐵鉱物	シルト			
E	MV3/2 黑褐色	シルト	砂質粘土を多量に含む	17 HGTV4/1 鐵鉱物	粘土			
F	S-GV4/1 オーピー褐色	粘土	砂質多く含む	18 HGTV4/1 鐵鉱物	シルト			
G	S-GV4/1 オーピー褐色	粘土	砂質多く含む	19 HGTV4/1 鐵鉱物	シルト			
H	S-GV4/1 黑褐色	シルト	砂質多く含む	20 HGTV4/1 鐵鉱物	シルト			
I	S-GV4/1 オーピー褐色	粘土	砂質多く含む					

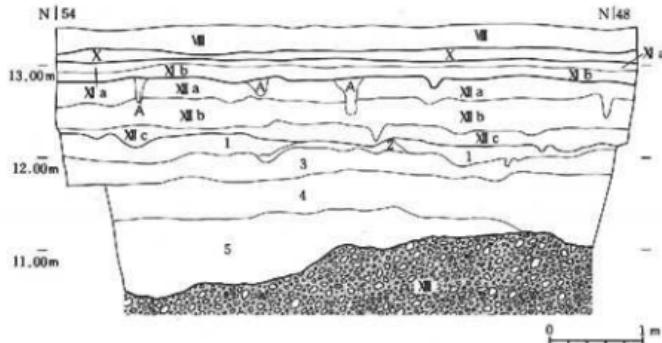
第28図 J-3区試掘トレンチ東壁(E12ライン)断面図



Q-3

No.	土色	土質	層号	No.	土色	土質	層号
地盤5	10YR4/4 に赤い褐褐色	砂質		6	10YR3/1 黄褐色	粘土	粘土質土 (5~10cm)
A	10YR4/4 に赤い褐褐色	シルト		7	7.5YR2/1 黄褐色	粘土	粘土質土を少量含む
Wu	10YR2/3 黄褐色	粘土質		8	7.5YR2/4 黄褐色	粘土質	細粒物質を少量含む
SD-10	SD-10 黄褐色	シルト		9	2.5YR4/1 黄褐色	粘土	粘土質
1	10YR2/2 黄褐色	粘土	SDH-10a	10	2.5YR4/1 褐オーブン色	粘土	シルトを含む堅固な粘土
2	10YR2/3 黄褐色	シルト		11	7.5YR1/1 黄褐色	粘土	生じた土は
3	10YR2/2 黄褐色	シルト		12	7.5YR1/1 黄褐色	粘土	よく縮まっている
4	10YR2/2 黄褐色	シルト粘土		13	7.5YR1/1 黄褐色	粘土	切削面は多く崩れ、崩壊
5	10YR2/3 黄褐色	シルト		XII			

第29図 Q-3区試掘トレーンチ東壁(E12ライン)断面図



J-9

No.	土色	土質	層号	No.	土色	土質	層号
W	10YR5/4 に赤い褐褐色	砂砂		XII	SGY5/1 オリーブ灰色	粘土	崩れ上り(硬い)、崩れを含む
X	10YR2/1 黄褐色	シルト		1	7.5YR6/1 粗砂色	砂土	
Xa	10YR2/2 黄褐色	シルト		2	7.5YR4/1 黄褐色	砂	砂と粘土の混合層
Xb	10YR2/2 黄褐色	粘土質		3	10YR5/1 オリーブ灰色	粘土	砂砂質
A	10YR2/3 黄褐色	シルト		4	10CY5/1 粗砂色	砂土	砂土
Ma	2.5YR5/3 黄褐色	粘土質		5	7.5YR5/1 黄褐色	粘土	砂質
Mb	SGY5/1 オリーブ灰色	粘土		XIII			

第30図 J-9区試掘トレーンチ東壁(E54ライン)断面図

4. プラント・オパール分析による予備探査

敷地内における試掘調査がほぼ終了し、基本層の概要を把握できた段階で、水田跡の検出されたV層以深において水田跡の存在を念頭に置いた調査が必要であるかどうかの判断材料として、プラント・オパール分析による予備探査を「古環境研究所」に依頼して実施した。この段階では校舎の位置が決定していなかったため、プラント・オパール分析のための土壌の採取地点は、敷地の中央を南北に通る15ラインの試掘区(D15区・J15区・Q15)とした。以下にその分析結果について掲載する。

プラント・オパール分析結果報告書

— 古環境研究所 —

1. 調査の目的

当遺跡では試掘の結果より、III層に中世の水田址が、V・VI層に平安の水田址が存在するのではないかと見られていた。今回のプラント・オパール分析調査の目的は、これらの層における水田址の分析的確認と、その他の層、とりわけVII層以深における水田址の事前探査である。

2. プラント・オパール分析法

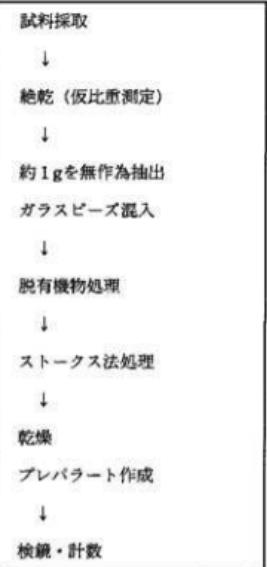
① プラント・オパール¹⁾

イネ科植物には、ススキ、ヨシ、タケ、ササなど数多くの野草・雑草の他に、イネ、ヒエ、アワ、キビ、ムギなどの重要な栽培植物が含まれている。このイネ科植物は別名珪酸植物とも言われ、多量の珪酸(SiO₂)を吸収することで知られている。植物体内に吸収された珪酸は葉身中の特定の細胞の細胞壁に選択的に集積され、植物学的にはこれを「植物珪酸体」とよんでいる。植物珪酸体は、その主成分が化学的に安定な珪酸であるため、植物が枯死した後も土壤中で永く残り、「プラント・オパール(Plant Opal)」と呼ばれる微化石となる。

このうち機動細胞珪酸体(葉身の強度を保ち、乾燥の著しい時に葉身を巻き込んで水分の蒸発を防ぐ作用をしていると思われる)に由来するプラント・オパールは、比較的大形(約0.05mm)で植物種により固有の形状をもつていてことから、これを用いて給源植物を同定することが可能である。

② プラント・オパール定量分析法の手順²⁾

試料は、サンプル管を用いて各土層ごとに採取される。土壌試料は実験室に持ち返り、乾燥器で105°C、24時間絶乾後、重量を測定する。この重さをサンプル管の体積100ccで割って仮比



重（乾燥密度）を求めておく。

つぎに、絶乾させた試料土から約1gを無作為に抽出し、これにプラント・オパールと同じ成分・粒径（約0.05mm）を持ったガラスピースを一定量混入させる。（精度：1万分の1g）ガラスピースの単位重量あたり個数はあらかじめ測定してあるので、試料土中に混入されたガラスピースの個数は計算により求めることができる（約30万個）。

プラント・オパールと土粒子を分離し、プラント・オパールに付着した汚れを取り除いたりガラスピースを均等に分散させるために、脱有機物処理、超音波処理、ストークス法処理が行われる。

こうした処理の後、サンプル瓶の中に残っているのは粒径0.02mm～0.1mmの土粒子とプラント・オパール、それにガラスピースである。

このうち土粒子はそのほとんどが結晶質物であるため、偏光顕微鏡で観察すると非晶質であるプラント・オパールやガラスピースとは容易に識別できる。

検鏡時に、視野の中にあるプラント・オパールを同定し、その数をカウントしながら同時にガラスピースの数をカウントする。この比率をとることにより、1gの試料土中に含まれているプラント・オパール個数（単位：個/g）が算出される。この値に比重をかけることにより、試料1ccあたりのプラント・オパール個数（単位：個/cc）が求められる。

③ 農耕生産地（水田地、畑作地等）の探査⁵⁾⁶⁾

以上のようにして、各土層におけるイネのプラント・オパール密度を測定していくと、水田地等が埋蔵されている層にピークが現れるのが通例である。

通常、イネのプラント・オパール密度が5千個/cc以上の場合、水田地等の可能性があると判断しているが、直上にさらに高密度の層があった場合は、その層からプラント・オパールが落ち込んだ危険性を考慮して、慎重な判断を行っている。また5千個/cc以下の密度の場合には、直上にイネのプラント・オパールの見られない層があった場合でも、プラント・オパールの水

平的な流れ込みの可能性を考慮して慎重な判断を行っている。

④ 植物体生産量の推定¹⁾

植物体中に含まれる機動細胞珪酸体の密度は植物種により固有であり、各植物についての換算係数（機動細胞珪酸体1個に対する植物体各部の乾燥重量）が求められている。（表-4）

プラント・オパール密度にこの換算係数を掛けることにより、試料土1cc中に供給された植物体量を推定することができる。

たとえばイネの場合、1ccの土壤中から1万個のイネ機動細胞プラント・オパールが検出されれば面積10a(1000m²)換算で1cm堆積期間中に、イネ地上部で約3t、イネ穂で約1t(ともに乾燥重量)の植物体が生産されたことが推定される。

なおこの生産量の値は、収穫方法が穗刈りで行われ、イネの葉身がすべて水田内に残されたことを前提として求められている。従って、収穫が株刈りで行われ植物体の大部分が水田外に持ち出されていた場合や、堆肥などの形で稻わらが水田内に還元されていた場合は、その割合に応じて推定値は修正されなければならない。

イネの換算係数は、赤米など古い系統とされる日本稻(Japonica)数品種から求められている。

⑤ 古環境の推定

イネ科植物の中で、特にヨシ(アシ)やマコモは低湿地などの湿潤な土壤条件の所に成育し、逆にススキやタケ・ササは比較的乾いた土壤条件を好む。

このことから、これらの植物の生産量とその推移を調べることにより、当時の周辺の土壤水分条件(乾湿環境)と変遷を推定することが可能である。

3. 試 料

サンプリング地点は、D15、J15、Q15地点の3地点である。基本層序は、I層からⅢ層まで12の層に区分されているが、地点間で対応の困難な部分も見られた。試料は、容積100ccのサンプル管やポリ袋を用いて、土層壁面の最上層から最下層まで各層ごとに5cm～10cm間隔で採

表-4 各植物の換算計数(単位:10⁻³g)

植物名	葉身	全部上部	穂実
イネ	0.51	2.94	1.03
栽培ヒエ	1.34	12.20	5.54
ヨシ	1.33	6.31	—
ゴキダケ	0.24	0.48	—
ススキ	0.38	1.24	—

取された。試料数は合計36試料である。

4. 分析結果

イネ、キビ族（ヒエ等）、ヨシ属、タケ亜科（竹籜類）、ウシクサ族（ススキ等）について同定・定量を行い、数値データーを表-5に示した。

このうちイネについては、機動細胞プラント・オパールの出現状況をグラフで表し、第31図に示した。またプラント・オパール密度の多少を4段階の記号で表し、表-6に示した。これらは、水田址の可能性を判定する際の基礎的な資料となる。

イネ、ヨシ属、タケ亜科については植物体生産量（1 cm の堆積期間中に面積10aあたりで生産された植物体乾燥重量）を推定し、第32図にグラフで示した。これは、イネ類の生産総量を推定したり、周辺の古環境を推定する際に基礎資料となる。土柱図左側のポイントは、最上面から1 m深ごとに付けられたスケールである。

5. 考査

① 水田址の探査・確認

< D15地点 >

中世の水田址と見られていたIII層と、平安の水田址と見られていたV、VI層にイネ機動細胞プラント・オパールの明瞭なピークが見られたことから、これらの層で稻作が行われていた可能性は大きいと考えられる。

X層以深では、イネのプラント・オパールは検出されなかった。

（編者註—上記の土層は本調査区での成果を基にした検討によって、V層はVa層に、VI層はVb層に、X層はXI層にそれぞれ対応させるべきであると判明した。）

< J15地点 >

中世の水田址と見られていたIII層に、イネ機動細胞プラント・オパール明瞭なピークが見られたことから、この層で稻作が行われていた可能性は大きいと考えられる。

平安の水田址と見られていた層のうちVI-1層はイネのプラント・オパールは検出されなかった。またV-1、V-2、VI-2層では、イネのプラント・オパールは検出されたものの量的に少ないため、ここで稻作が行われていた可能性は小さいと考えられる。

VII層以深では、VII-1層、X-1層、X-2層にイネ機動細胞プラント・オパールの明瞭なピークが見られた。上層からプラント・オパールが落ち込んだこと等は考えにくいため、これ

表-5 プラント・オパール定量分析結果 (単位:万個/cc)

試料 1 cc 当り プラント・オパール 個数 (仙台、富沢中学校予定地 D-15 地点)

試料名	イネ (O. sati.)	キビ属 (Pani.)	ヨシ属 (Phrag.)	タケ亞科 (Bamb.)	ウシクサ族 (Andro.)
2	14,085	0	1,280	30,732	0
3	9,487	0	2,795	46,124	0
4	1,299	0	3,896	40,259	0
5	5,437	0	0	32,623	0
6	9,435	0	2,359	21,230	0
10	0	0	3,032	40,170	758
10	0	0	1,540	32,350	0
10	0	0	0	51,758	719
11?	0	0	0	10,080	0
12	0	0	1,337	2,675	0

試料 1 cc 当り プラント・オパール 個数 (仙台、富沢中学校予定地 J-15 地点)

試料名	イネ (O. sati.)	キビ属 (Pani.)	ヨシ属 (Phrag.)	タケ亞科 (Bamb.)	ウシクサ族 (Andro.)
3	15,837	0	0	37,432	0
5-1	3,830	0	0	15,320	0
5-2	1,300	0	0	32,497	0
6-1	0	0	0	21,758	0
6-2	1,197	0	0	35,919	0
7-1	4,284	0	1,266	28,190	0
7-2	4,284	0	6,427	27,849	1,071
8	4,576	0	3,051	3,051	0
10-1	10,609	0	1,117	71,472	558
10-2	14,319	0	4,773	33,411	1,591
11	0	0	2,467	33,302	0
11	0	0	0	55,851	1,140
12	0	0	0	87,862	1,440
12	0	0	2,645	10,580	0

試料 1 cc 当り プラント・オパール 個数 (仙台、富沢中学校予定地 Q-15 地点)

試料名	イネ (O. sati.)	キビ属 (Pani.)	ヨシ属 (Phrag.)	タケ亞科 (Bamb.)	ウシクサ族 (Andro.)
5	2,882	0	0	12,969	0
5	0	0	0	23,967	0
6-1	0	0	0	23,761	1,251
6-2	0	0	0	20,606	0
(1)	0	0	0	23,646	0
(1)	0	0	0	20,090	0
(2)	0	0	0	19,454	0
(3)	0	0	0	29,056	0
(3)	0	0	0	11,364	0
10	0	0	1,065	30,899	0

表-6 イネ機動細胞プラント・オバールの検出結果

仙台、富沢水田遺跡（富沢中学校建設地区）

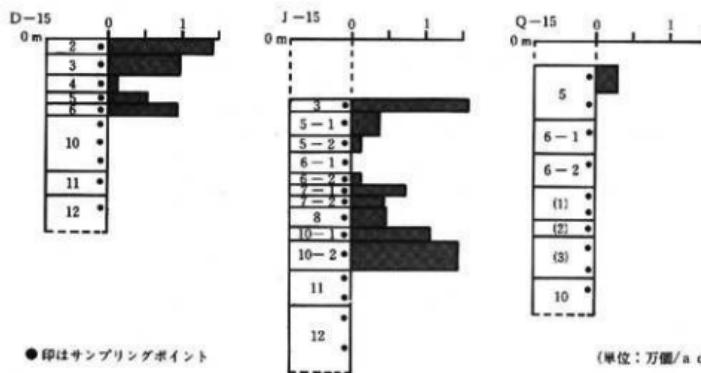
×…検出されず

○… 5,000個/cc以上～10,000個/cc未満

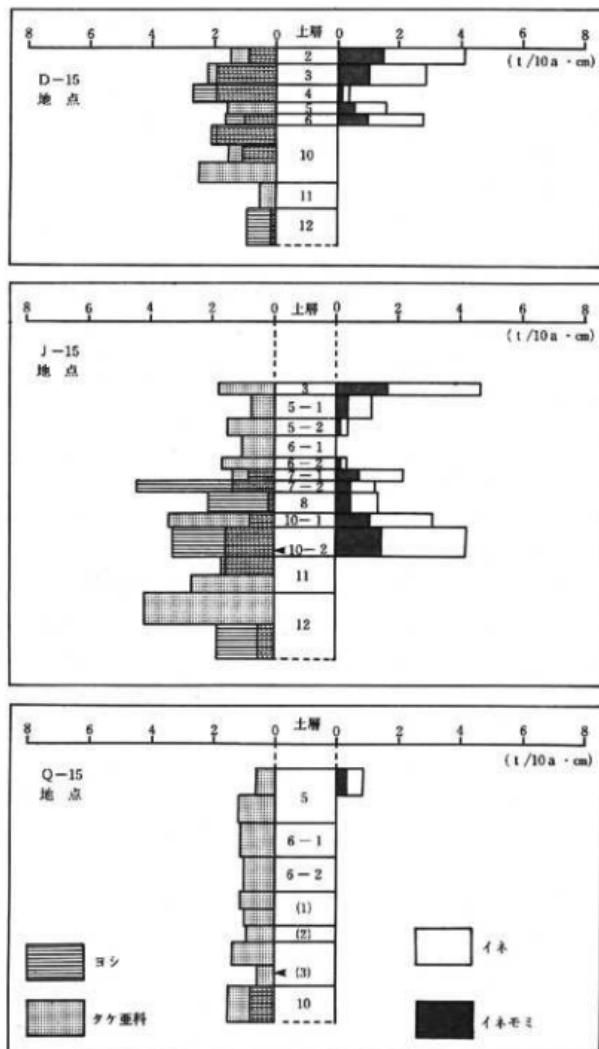
△…5,000個/cc未満

◎…10,000個/cc以上

D-15地点		J-15地点		Q-15地点	
層位	検出結果	層位	検出結果	層位	検出結果
2	◎	3	◎	5	△
3	○	5-1	△	6-1	×
4	△	5-2	△	6-2	×
5	○	6-1	×	(1)	×
6	○	6-2	△	(2)	×
10	×	7-1	○	(3)	×
11	×	7-2	△	10	×
12	×	8	△		
		10-1	◎		
		10-2	◎		
		11	×		
		12	×		



第31図 イネ機動細胞プラント・オバール出現状況



第32図 各植物の推定生産量と推移

らの層で検出されたプラント・オパールは、ここで生産されたイネに由来するものと考えられる。とりわけX-1、X-2層では、イネのプラント・オパール密度が1万個/cc以上と高くなっていることから、ここで稻作が行われていた可能性は特に大きいと考えられる。

VII-2層、VIII層では、イネのプラント・オパールが5千個/cc程度検出されているため、稻作が行われていた可能性は考えられるが、上層にさらに高密度のVII-1層があるため、そこからプラント・オパールが落ち込んだ危険性も考えられる。

XI層以深ではイネのプラント・オパールは検出されなかった。

<Q15地点>

V層でイネのプラント・オパールが検出されたものの、量的に少ないため、ここで稻作が行われていた可能性は小さいと考えられる。ここで検出されたプラント・オパールは、上層からの落ち込みか、もしくは近傍の水田からの水平的な流れ込み等を想定するのが自然であろう。

VII層以深ではイネのプラント・オパールは検出されなかった。

② 稲穀生産総量の推定

J15地点のX-1、X-2層は、稻作が行われていた可能性が高いと考えられるところである。この時期の収穫方法を穂刈りだと仮定して、これらの層が水田として利用された期間のイネ穀生産総量を算出した結果、面積10a (1000m²)あたり25.7tと推定された。

吉田武彦(1975)によると、奈良時代～平安時代初期の10aあたり年間生産量は、約100kgであったとされている。この値で25.7tを割ると、X-1・X-2層でイネが生産された期間は、およそ260年間であったと推定される。

参考文献

1. 藤原宏志(1976)：プラント・オパール分析による古代栽培植物遺物の探索、考古学雑誌 62: 148-156
2. 藤原宏志(1976)：プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)—数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—、考古学と自然科学 9: 15-29
3. 藤原宏志・佐々木章(1978)：プラント・オパール分析法の基礎的研究(2)—イネ科(*Oryza*)植物における機動細胞珪酸体の形状—、考古学と自然科学 11: 9-20
4. 藤原宏志(1979)：プラント・オパール分析法の基礎的研究(3)—福岡・板付遺跡(夜白式)水田および群馬・日高遺跡(弥生時代)水田におけるイネ(*O. sativa*L.)生産総量の推定—、考古学と自然科学 12: 29-41
5. 杉山真二・藤原宏志(1984)：プラント・オパール分析による水田址の探査、那珂君体遺跡II、福岡市埋蔵文化財調査報告書(福岡市教育委員会)第106集: 5-9、11-14
6. 藤原宏志・杉山真二(1984)：プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)—プラント・オパール分析による水田址の探査—、考古学と自然科学 17: 73-85

IV. 発見遺構と出土遺物

1. I・II層出土遺物

I層からII層の上部にかけてはバックホーによって排土を行ったため、採取した遺物は少なく、採取された遺物はいずれも小破片だけである。実測したものは第33図に示した。

I層出土遺物は1~5で、須恵器壺、須恵器甕、見込みに鉄絵のある施釉陶器、染付の磁器等がある。各遺物ともI層と直接の関係は考え得ない。

II層出土遺物は6~13で、赤焼土器壺、土師器壺、須恵器甕、瓦質土器擂鉢、無釉陶器甕、施釉陶器擂鉢、染付磁器がある。このうち瓦質土器擂鉢、施釉陶器擂鉢、染付磁器は近世の遺物と考えられ、II層水田跡の時期を反映しているものと推察される。

このほか、出土層位が不明となった遺物がいくつかあるが、それらは第34図に示した。

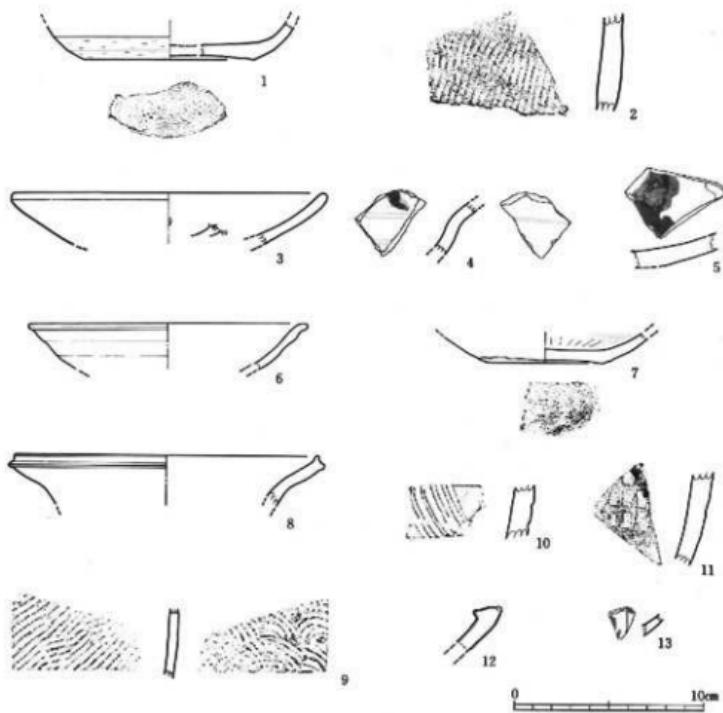
2. III層検出遺構と出土遺物

1) 遺構の構成

III層はN42以北に残存し、この部分では水田跡が検出された。これに伴う遺構には畦畔・水口・足跡等がある。N42以南ではIII層は存在せず、I・II層の直下はV層となり、北側より自然堤防に向かって徐々に高くなっている。この南側部分では水路と考えられる東西方向の溝跡が数条とこれに伴う杭列等が検出され、溝跡のさらに南側では小規模な掘立柱建物が2棟検出された。V層上面での検出遺構の大部分は堆積土と出土遺物からV層・III層・II~I層の各層に分類出来た。分類によるとIII層に伴うと考えられる溝跡はSD-1・9・11・12・18・59溝跡で、SD-2・3・10はI~II層に、SD-13はV層に伴う遺構と判断された。III層の溝跡のうち水田跡の基幹水路となっていたのは規模からみてSD-9と考えられる。

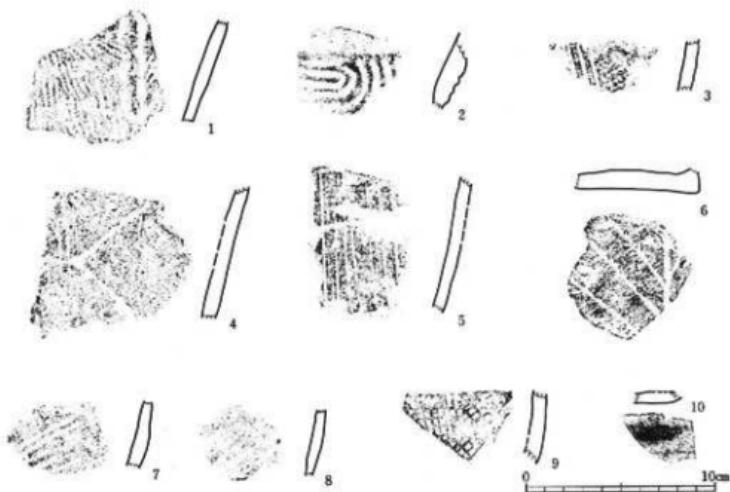
2) 水田跡の概要

水田跡の遺存状況 III層水田跡が検出されたのは、既に述べた通りN42ライン付近以北の地域である。III層は上層(II層)の水田耕作による削平を直接受けているために遺存状態が悪く畦畔もほとんど残存しておらず僅かに畦畔の基底部ないし畦畔の痕跡が残っているだけである。このような状況のため、面積の分かる水田面は1面(水田面⑥)しかない。N42ライン以北でも、I・J・K-2・3区および調査区中央のH・I・J・K-7・9・10区にはV層がすでに露出し、III層の水田跡は検出出来なかった。



器物 番号	遺物番号	基木 位置	出土地区	遺物名	部位	種別	断面	寸 法 (cm)			外 面		内 面		分類	参考文献
								口径	底径	高さ	外 面	内 面	产地	年代		
1	E-2	I層		埴輪器	片			(3.0)	(2.7)		リクレ調査、埴輪切削痕 平行凹凸線					
2	E-16	I層		埴輪器	裏			5.5×8.0			リクレ調査、埴輪切削痕 平行凹凸線					
3	I-1	I層	出土地区	埴輪器	裏	輪列	断面	口径	底径	高さ						
4	J-1	I層		埴輪器	裏			(8.4)		(2.7)						
5	J-2	I層		埴輪器	裏						斜め凹凸					
6	D-13	II層		漆器	片			口径	底径	高さ	リクレ調査					
7	D-2	II層		漆器	片			(6.0)	(3.7)	(3.7)	リクレ調査、表面凹凸 平行凹凸					
8	E-20	II層		漆器	底			(8.6)		(3.7)	リクレ調査					
9	E-5	II層		漆器	裏			4.8×7.3			平行凹凸線					
10	I-2	II層		瓦質	瓦片			寸 法 (cm)			外 面	内 面	产地	年代	参考文献	
11	I-3	II層		瓦質	瓦片			口径	底径	高さ	リクレ調査→ハラ透写					
12	I-4	II層		瓦質	瓦片?						火候、形状	瓦片	高さ	13~14c	229	
13	J-3	II層		瓦質	瓦片						斜め凹凸	瓦片?	高さ	16~17c	271	
14	J-4	II層		瓦質	瓦片?							瓦片	高さ	17c	271	

第33図 I層、II層出土遺物実測図



番号	遺物番号	断面	出土地区	遺物名	部位	種別	断面	体積 (cm³)			外 壁	内 壁	可視面
								口幅	底径	高さ			
1	A-30	不明		陶文土片				8.0×7.2			縫合部(左)→縫合部	1.0cm	264
2	A-9	不明		陶文土片				3.2×8.3			縫合部	縫合部	264
3	A-22	不明	C.FK-5	陶文土片				5.4×5.5			縫合部(LR)→縫合部	縫合部	264
4	A-13	不明		陶文土片				8.0×8.8			縫合部	縫合部	264
5	A-12	不明		陶文土片				8.2×5.6			縫合部(LR)→縫合部	縫合部	264
6	B-29	不明	Q-4	陶文土片				6.7×6.6			木頭底	1.0cm	264
7	B-92	不明		陶生土片				3.9×6.6			縫合部(HL)	縫合部	265
8	B-98	不明		陶生土片				4.5×4.5			縫合部(HL)	縫合部	265
9	E-13	不明	L.O-3.6	陶器部	裏			3.5×8.0			手作成の印加版		
10	E-19	不明		陶器部	环						凹部へタケナリ	ロクロ調査	

第34図 出土層位不明遺物実測図

III層上面で畦畔が検出出来なかった部分での特異な例として、畦畔を盛り上げる際に掘削した痕跡が溝状の掘り込みとなって下層に残っていることがあり、G・H・I-3・4区やC-K-9~12区ではこれによって畦畔の存在を想定することも出来た。(付図-1青線)

水田の形状と規模 III層の水田跡はC-7区からL-7区まで7区を南北に縦断する畦畔によって、西部と東部に二分されている。等高線を見ると分かるように、この畦畔の東側は畦畔そのものはほとんど残っていないにもかかわらず10~15cmの段差となって下がっている。畦畔の規模自体は他の畦畔と差は認められないが、III層水田の主要な区画を成した畦畔と考えられる。この畦畔については「7ライン畦畔」と仮称する。III層の水田はこの畦畔の両側に方形ないし長方形を基調として区画されている。

7ライン畦畔の西側は、N42ライン付近の標高13.85mからN96ライン付近の標高13.40m

まで南から北へ傾斜（45cm/54m）している。この間、水田に要求される高低差10cm以下の面を形成するには4から5条の東西畦畔が必要となるが、畦畔が検出されたのはN75ライン（F-5・6区）とN84ラインの2条だけである。ただし、N50ラインとN61ライン・N64ライン付近にIII層水田の区画を反映していると考えられる土層の相違を確認しているので、東西方向に4～5条の畦畔が通っていたことが推定出来よう。

N75ライン（F-5・6区）とN84ラインの2条の畦畔は、7.3mの間隔を置いて平行し、7ライン畦畔にほぼ直交する。N75ラインから南側の土層の境界までは9.5m前後、この境界から南の境界まで3m前後、さらに南の境界まで10.5m前後を計る。

7ライン以西の南北畦畔は、N84畦畔に直交してE19ラインとE30ライン付近の2条が検出されている。E30ライン付近畦畔は7ライン畦畔より水田面⑤で9m前後、水田面⑥でも9m前後の間隔をとり、E30ライン付近畦畔からE19ライン畦畔までは水田面③で10m前後、水田面④で8.5m前後の間隔となっている。

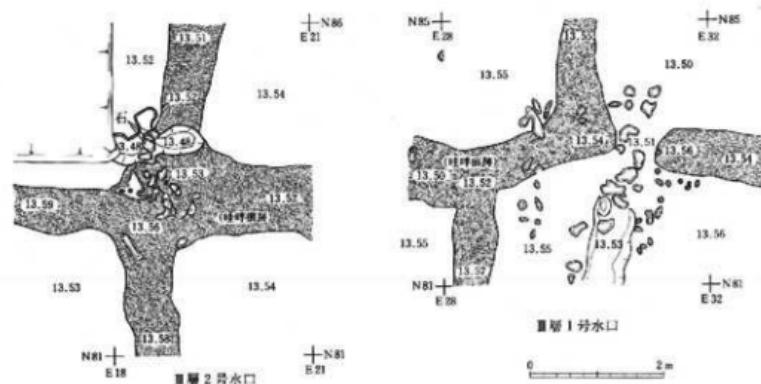
7ライン畦畔以西の水田面で1面の大きさが完全に分かるものはないが、四辺の残る水田面⑥は、東西約9m、南北約7m、面積約65.2m²を計る。水田面⑥は傾斜の関係からか東西方向にやや長く区画されている。この区画は平均的区画よりやや小さいくらいに観察される。

7ライン畦畔の東側は標高13.60mのN42付近から標高13.20mのN96まで北に傾斜（40cm/54m）する。東側も西側同様標高差からみて4～5条の東西畦畔が必要と考えられるが、検出された畦畔はF・G-9区からG-10～12区へL字に曲がる畦畔ただけであった。その後III層を除去したところ、C～K-10～12区でIII層の畦畔を築く土を得るために、畦畔の位置に沿って掘削した溝状の落ち込みが検出された。水田面⑧・⑨はこの溝状の落ち込みによって水田区画が推定出来たものである。水田面⑧は東西幅が溝の内側から検出部分で9.5m、南北がN68ライン畦畔から溝の内側までで9.5mを計る。溝の上端幅は1m前後ある。水田面⑨は溝の内側で東西の検出部幅は8m前後、南北幅は7m前後ある。溝の幅は北側が約1m、西から南側は1.3m前後ある。このほかE・F-10・11区にもL字に曲がる溝状の落ち込みが検出されているが、これについてはF・G-9区からG-10～12区へL字に曲がる畦畔と同時にこの位置に畦畔が存在したとは考え難いので、III層上面で検出した畦畔よりも古い時期の畦畔と考えるべきものであろう。このほか調査区の北西隅では、III層内の土層の違いによって⑩～⑪の水田区画が想定されている。（ただし⑫の境界についてはかなり不明瞭である。）

畦畔 畦畔の幅は7ライン畦畔が120cm前後。西側のE19ラインの南北畦畔痕跡が110cm前後、E30ライン南北畦畔痕跡が60～80cm、N84ライン畦畔痕跡が50～120cmを計る。西側のF・G-9区からG-10～12区へL字に曲がる畦畔は、南側で100～130cmを計る。現存の畦畔から大畦・小畦といった区別をすることは出来ない。

畦畔の方向についてみると、N19 ライン畦畔で N-11°-E を示し、N84 ライン畦畔で N-99°-E を示す。

畦畔の接続部分についてみると、西側の N84 ラインの東西畦畔痕跡と E19 ラインの南北畦畔痕跡は直交するが、同じ N84 ラインの東西畦畔痕跡に対して、E30 ライン畦畔痕跡は直交せず多少のずれがある。



第35図 III層水口実測図

水口 水口は西側の N84 ライン畦畔痕跡と E30 ライン畦畔痕跡の交点と、N84 ライン畦畔痕跡と E19 ライン畦畔痕跡の交点の 2箇所で検出され、それぞれ 1号水口・2号水口と呼称した。

1号水口は水田面⑥の北西隅よりやや東寄りの所と水田面⑥の南西隅を結んで開けられている。開口部の幅は 60cm 前後であり、水口周辺には他所に比べて褐色の砂が多く堆積し、この砂を除去すると足跡状の窪みが多数検出された。等高線の流れからは水田面⑥から水田面⑤へと水が流れていると考えられるが、現状のレベルは必ずしもそれを反映していない。

2号水口は水田面①の南東隅と水田面③の南西隅を結んで開口している。開口部は中央部が脹らんでいる。この水口は水田面①から水田面③へ水を流したと観察される。水口の西端（高位の水田面①側）には 3 個の河原石が並べられていた。石は長軸 20cm 前後、短軸 15~18cm のやや偏平な物で、大きさはほぼ揃っている。この石は現在でも見られるような水量調節や水口閉鎖のために使用された物と考えられる。

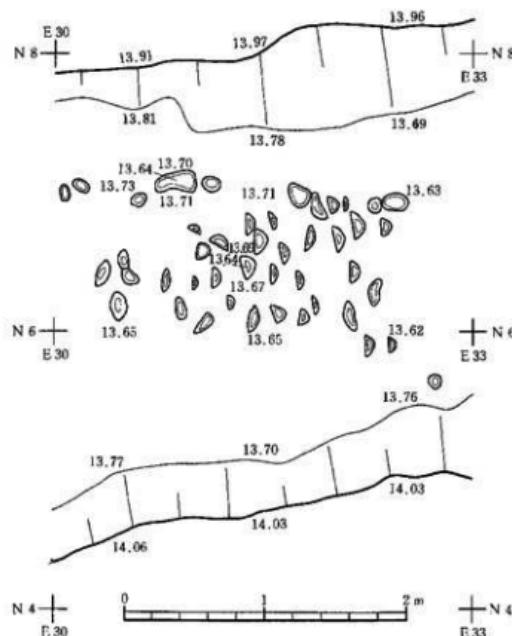
作土 III層水田跡の作土は、暗褐色の砂質シルトが主体となっている。粗い砂が多く混じっているためか粘土分が少ないように感じられた。作土の下面に酸化鉄の集積は認められなかっ

た。

水路 水田跡の検出された部分では畦畔を伴うような明確な水路は検出されなかった。調査区南部ではV層上面で溝跡が数条検出された。これらの溝の中では古いSD-9溝跡が出土遺物からIII層水田跡の時期と一致するものと考えられ、その規模からIII層水田跡の基幹となる水路であったと推察される。SD-9溝跡は西端部をSD-10溝とSX-4遺構に切られているが、調査区南辺に沿って東西方向(N-95'-E)に伸びている。溝の上面幅はE20ラインで180cm、E42ラインで280cm、E69ラインで250cmをはかる。断面形は浅い舟底条を呈し、検出面からの深さは40~50cmを計る。溝底面の西端と東端のレベル差は13cmであり、東側が低くなっている。ただし底面が最も低くなるのはQ9区付近で、西端よりも30cm程低くなる。この付近のSD-9溝では後述するような杭列が検出されている。

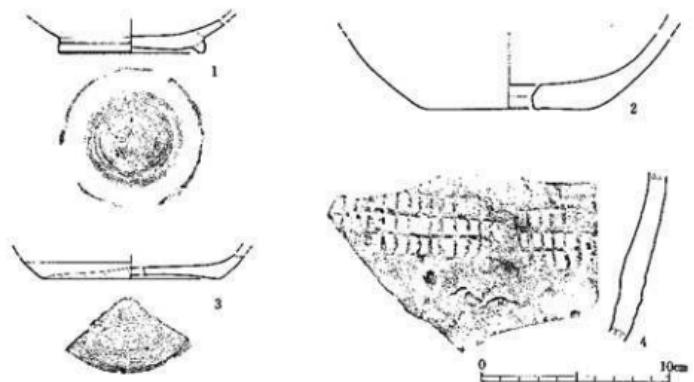
SD-9溝の堆積土は大

きく上下2層に分けられる。上層は第45図の1層にあたる砂混じりの疊層で、洪水等による急激な土砂の堆積状況を示している。下層は2~5層にあたりシルトないし砂層からなる。溝の底面のうちQ-R-3区付近では、第36図に示したような溝掘削の際の鉄の痕跡が検出された。痕跡の幅は、良く形の整ったもので18cmあり、深さは3~5cmを計る。痕跡は西側がほぼ直ぐなのに対し、東側は脹らんでいるものが多いことから作業者は東を向いていたと推察される。痕跡内には砂質シルトが堆積していた。



第36図 III層 SD-9溝跡鉄痕跡

SD-9溝跡からの出土遺物には第37図に示したような赤焼土器壊・土師器壊・須恵器壊・無釉陶器壊（常滑産・12~13c）・施釉陶器皿（志野織部・17c初頭）及び木材の断片等がある。



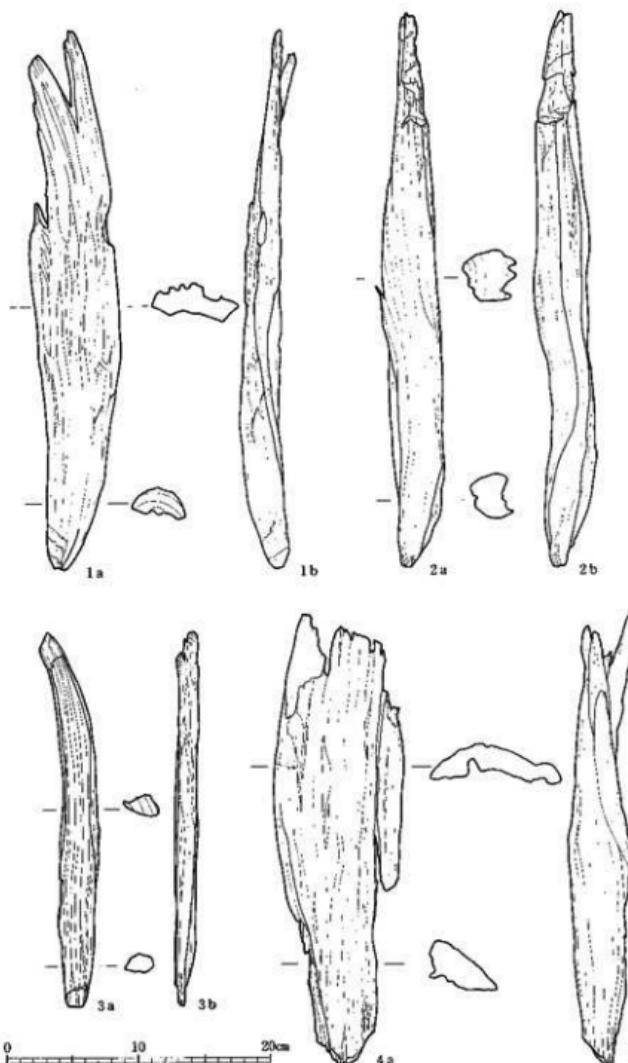
測量 番号	遺物番号	基木 番号	出土地区	測量名	層位	標高	幅	長軸	径 寸 (cm)			外 観	内 面	可視部
									口径	底径	壁厚			
1	D-3	田堀		SD-9	上層	赤燒土器	10.5	7.8	(1.8)	(1.8)	(0.8)	リクレ調査 モルタル、瓦質の内側	リクレ調査 モルタル	
2	D-16	田堀		SD-9	上層	壺	10.8	9.8	(2.7)	(2.7)	(0.8)	リクレ調査 モルタル、ロクコ調査 モルタル	モルタル	
3	E-5	田堀		SD-9	中層	壺	9.2	6.5	(1.2)	(1.2)	(0.8)	リクレ調査 モルタル、瓦質の内側・ラテ アリ	リクレ調査 モルタル	
4	E-7	田堀		SD-9	下層	施釉陶器	10.5	8.5	(2.5)	(2.5)	(0.8)	リクレ調査 モルタル	モルタル	
	1-8	田堀		SD-9	下層	植物骨格	10					赤燒土	赤燒土、鉄粉 赤燒土	年 气 写真調査

測量 番号	遺物番号	基木 番号	出土地区	測量名	層位	標高	幅	長軸	径 寸 (cm)			外 観	内 面	度 数	年 气	写真調査	
									口径	底径	壁厚						
4	I-7	田堀		SD-9	始端	泥炭	10					ナード調査 ナード調査	泥炭	13~240	278		
	1-8	田堀		SD-9	下層	植物骨格	10					赤燒土	赤燒土、鉄粉 赤燒土	赤燒土 (赤燒) 赤燒土 (赤燒)	170前	271	

第37図 SD-9溝跡出土遺物実測図(1)

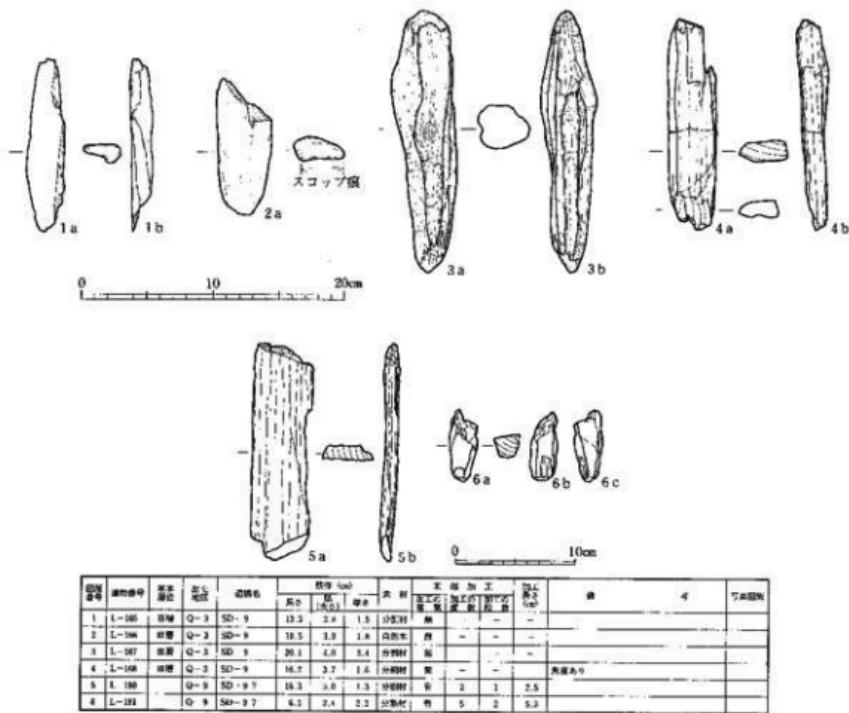
その他の施設 III層水田跡に伴う遺構としてはH-6・7区で検出したSX-13遺構がある。(第76図) この遺構は7ライン畦畔に直交するようにして畦畔の東半分を切り込んでおり、長軸268cm・短軸118cm・深さ30cm前後を計る。平面形が長楕円形を呈する。畦畔に切り込んだ部分の長軸端(西端)には、長さ72cm・幅28cm・深さ9cmの浅く短い溝状の落ち込みが続き、畦畔を更に切り込んでいる。長楕円形の落ち込み部と溝状の落ち込み部分の境には、60cmの間に6~15cm間隔で直径2~3cmの杭が5本並んで打たれている。堆積土は両方とも灰黄褐色のシルトである。この遺構のうち溝状の落ち込み部分から杭列部分までについては、7ライン畦畔が削平されて西側水田跡との関係が不明確ではあるが、高位にある西側の水田から低いほうの東側の水田に水を落とす水口状の施設であったと考えられる。また長楕円形の落ち込み部については、人工的な掘削によるものではなく、上の水田からの水流によって洗掘されて出来た窪みと考えるべきものであろう。

SX-13付近にはこのほかSX-12・14・15等の落ち込みが多数みられる。これらについても



器種 番号	通称番号	最大 寸法	出土 場所	遺物名	測定 (cm)		性別	年 代	本 属	分 類	口 部 形 状	頭 部 形 状	尾 部 形 状	頭 部 長 度	尾 部 長 度	全 長 度	備 考	参考文
					長さ (cm)	幅 (cm)												
1	E-129	Q-9	SD-9-3層		41.1	0.5	3.3	分離形	直	-	-	-	-	-	-	-	-	
2	L-129	Q-9	SD-9-3層		42.3	4.1	4.8	分離形	直	-	-	-	-	-	-	-	-	
3	L-131	Q-9	SD-9-1層		28.5	2.6	1.7	分離形	直	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	L-134	Q-9	SD-9-1層		34.3	0.6	2.1	分離形	直	-	-	-	-	-	-	-	-	

第38図 SD-9 溝跡出土遺物実測図（2）

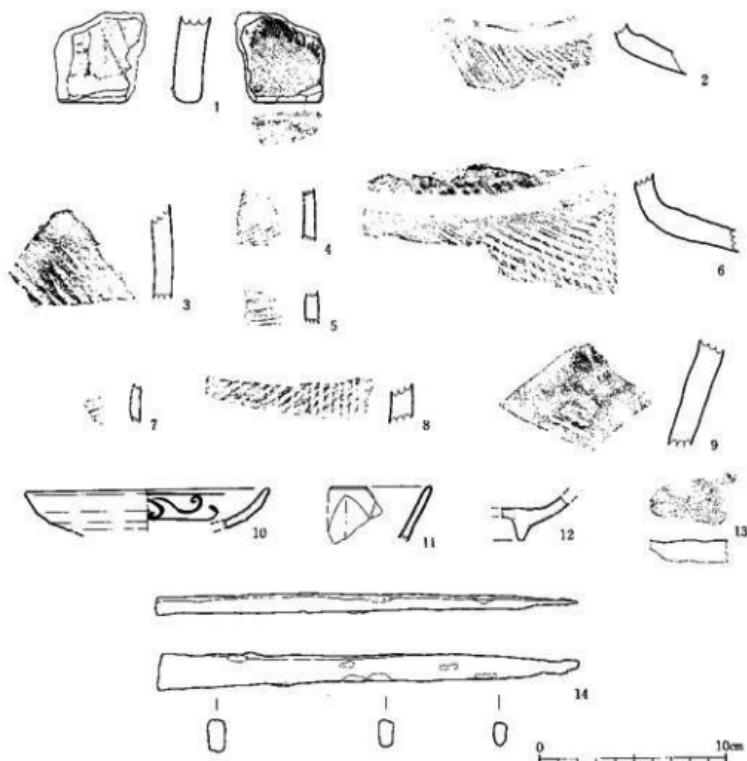


第39図 SD-9溝跡出土遺物実測図（3）

堆積土の状況や形状から SX-13 と同じ性格の落ち込みと考えられる。なお、これらの落ち込みの集中する部分で、7 ライン畦畔は西側に膨らんでいるが、これは SX-13 で認められたように水流によって畦畔の東側が洗掘された結果として、畦畔の位置が西側に移動したものと考えられる。従って 7 ライン畦畔は本来はもう少し直線的に伸びていたと推察される。

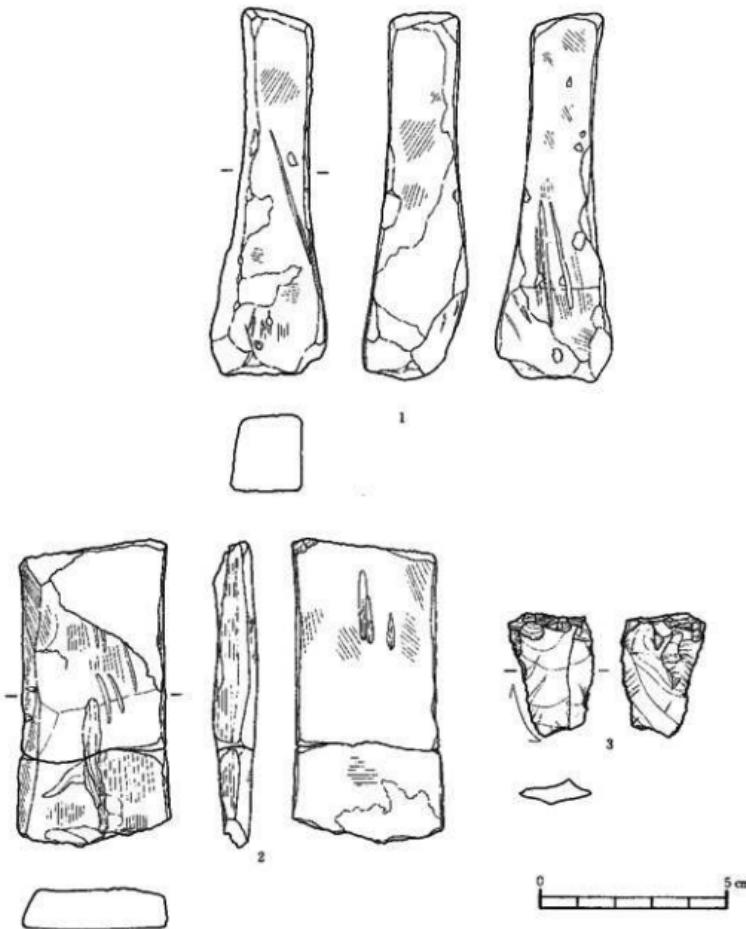
出土遺物 III層から出土遺物には第40図に示したような物がある。第40図1は円筒埴輪の基部の破片である。2～9は須恵器壺の体部付近の破片である。10は志野織部の鉄絵皿で17世紀初頭頃と考えられる。これと同類の破片は2号水口からも出土している。11・12は中国青磁で、13～14世紀頃の物と考えられる。13は古代の平瓦の小片である。14は使用不明の板状の鉄製品である。

第41図1・2は磁石で、1はいわゆる分銅形を呈し4面とも使用されている。2は偏平なもので、両平坦面のほか側面も使用されている。第41図3および第42図1～5は石器である。



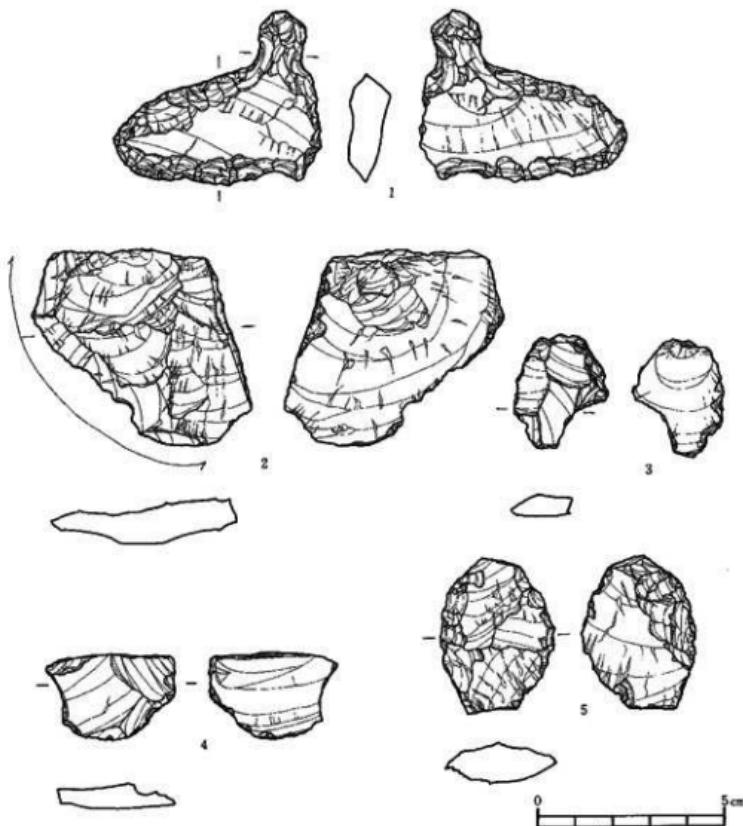
品名 番号	種類 器物	形状	出土地點	通稱名	部位	種別	形狀	法 長 (cm)			外 面	内 面	分 類	年 代 年表記	
								口徑	通徑	壁厚					
1. E-1.	骨器	柱状	——	柱状	——	柱状	圓柱	2.7	4.3	0.5	柱状骨器、直筒ナガ頭部	アズラーナナ頭部	——	270	
2. E-21.	骨器	柱状	作土中	柱状	棒	柱状	圓柱	3.7	4.3	0.5	平行刃切目	斜面、シクハ頭部	——	270	
3. E-26.	骨器	柱状	——	柱状	棒	柱状	圓柱	6.5	10.0	——	平行刃切目	斜面、シクハ頭部	——	270	
4. E-31.	骨器	柱状	——	柱状	棒	柱状	圓柱	2.8	4.5	0.5	平行刃切目	斜面、シクハ頭部	——	270	
5. E-33.	骨器	柱状	——	柱状	棒	柱状	圓柱	2.5	3.6	0.5	平行刃切目	斜面、シクハ頭部	——	270	
6. E-34.	骨器	柱状	——	柱状	棒	柱状	圓柱	4.5	13.6	0.5	レクリ頭部、平行刃切目	ヘクナゲ	——	270	
7. E-37.	骨器	柱状	——	柱状	棒	柱状	圓柱	1.7	4.3	0.5	平行刃切目	斜面、シクハ頭部	——	270	
8. E-22.	骨器	柱状	E-2	柱状	棒	柱状	圓柱	2.2	4.8	0.5	平行刃切目	斜面、シクハ頭部	——	270	
9. E-43.	骨器	柱状	GII-10. II	柱状	棒	柱状	圓柱	5.5	8.0	0.5	印加柄	——	——	270	
品名 番号	種類 器物	形状	出土地點	通稱名	部位	種別	形狀	法 長 (cm)			外 面	内 面	分 類	年 代 年表記	
								口徑	通徑	壁厚					
10. 1. 5.	骨器	柱状	——	柱状	棒	柱状	圓柱	(2.6)	(2.1)	0.5	直口柄	直口柄・鉗端	夷德(上野美術館)	17CE	270
11. 2. 5.	骨器	柱状	——	柱状	棒?	柱状	圓柱	——	——	——	直口柄	直口柄・鉗端	夷德(上野美術館)	17CE	270
12. J-6.	骨器	柱状	——	柱状	棒	柱状	圓柱	——	——	——	平行刃切目	——	中国	250	270
13. G-1.	骨器	柱状	作土中	柱状	棒	柱状	圓柱	——	——	——	平行刃切目	——	中国	250	270
14. G-8.	骨器	柱状	E-4	柱状	棒	柱状	圓柱	——	——	——	凸山・利根川・田原川・新潟県	——	——	——	270
法 長 (cm)														cm	
0														10cm	

第40図 Ⅱ層出土遺物実測図(1)



測定番号	遺物番号	基木層位	地上地層	測量	断面	種別	測定 (cm × m)				石 材	備 考	参考測定
							高さ	幅	厚さ	底面			
1	K-38	Ⅲ層				砾石	10.0	3.1	2.8	92.00	砾灰岩		274
2	K-34	Ⅲ層				砾石	6.3	4.0	3.1	93.45	安山岩		274
3	K-21	Ⅲ層	Q-3	SD-9		砾石	3.3	2.25	0.85	4.00	砂質凝灰岩	使用範例	273

第41図 Ⅲ層出土遺物実測図 (2)



遺物番号	遺物番号	基本層位	出土地区	通 略	埋位	種 別	体 量 (cm × g)				石 材	商 号	写真調査
							長	幅	厚	重			
1	K-1	Ⅲ層				石器	4.79	0.35	1.1	23.55	土器(メノワ)		274
2	K-49	Ⅲ層	Q-4			不定形石器	3.3	0.9	1.05	25.15	武藏器	使用痕あり	274
3	K-23	Ⅲ層	SD-9	I層		不定形石器	3.1	2.4	0.6	8.10	青磁		274
4	K-24	Ⅲ層	SD-15			不定形石器	2.35	3.4	0.7	6.00	地質褐色頁岩		274
5	K-33	Ⅲ層				不定形石器	4.25	2.8	1.1	16.93	鶴見石		274

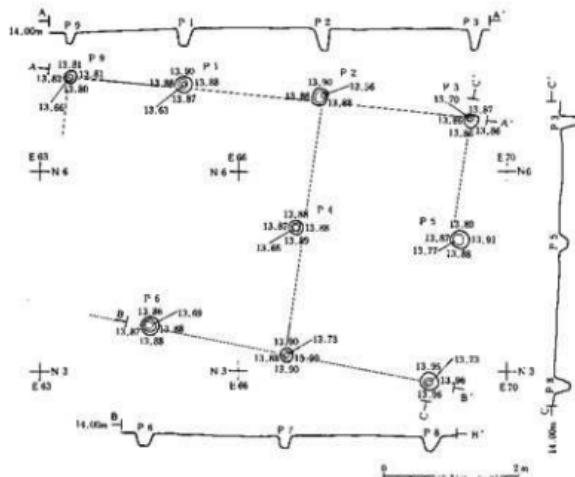
第42図 Ⅲ層出土遺物実測図 (3)

水田の時期 III層の水田及び水路等からは古墳時代の埴輪を最古に、奈良時代から平安時代頃の土師器（赤焼土器を含む）・須恵器、中世の陶磁器、近世の陶器まで出土し、遺物にはかなりの時間差がある。後に述べるようにV層水田跡は10世紀前半以降まで水田として使われていることから最も古く見ても10世紀中頃よりは遡り得ないであろう。IV層中からは平安時代頃の須恵器・土師器に混じて無釉陶器の擂鉢片が1点出土している。（第18図1）これは小破片であるが常滑產と考えられ、筋目が施されていないことなどから12世紀から13世紀代のものと見られる。この資料によりIII層水田跡の上限を求める12～13世紀となる。下限はIII層及びSD-9溝跡から出土した志野織部の鉄絵皿の年代によって17世紀頃と考えられる。以上のことからIII層水田跡は中世から近世初頭（12・13世紀から17世紀）に位置付けられる。

3) 掘立柱建物

掘立柱建物はⅤ層上面で2棟検出されている。柱穴から出土遺物はなく明確な年代決定資料はないが、2棟とも柱穴規模・柱痕が小さく、柱筋も乱れていることから古代の物ではなく中世ないし近世に位置付け、Ⅲ層に関連する遺構と判断した。

S B-1 据立柱建物 調査区の南東隅、Q・R-11・12区で検出された。重複はない。東西3間（総長596cm…北列）、南北2間（総長397cm…東列）である。西列の中央と南側の柱穴を欠



第43圖 SB-1 据立柱建物跡実測図

く。東より2列目の中間に間仕切り状の柱穴がある。建物の軸方向は東列でN-16°-Eである。

柱穴は、掘方の直径が22~28cmあり、柱痕跡は検出されたもので直径8~12cmであった。柱穴の深さは、検出面から14~32cmを計る。柱穴の堆積土はVa層に類似するにぶい黄褐色のシルトであるが、Va層より灰色を帯びている。

S B - 2 挖立柱建物 Q・R-8区で検出された。SD-9溝跡とSX-5遺構と近接するが重複はない。東西1間(長さ217cm…北列)、南北2間(總長327cm…東列)であるが、西列は東列より約30cm短い。建物の軸方向は東列でN-0°-Eである。

柱穴は、掘方の直径が25~29cmあり、柱痕跡は検出されたもので直径8~11cmであった。柱穴の深さは、検出面から10~24cmを計る。柱穴の堆積土はSB-2と同じでVa層に類似するにぶい黄褐色のシルトであるが、Va層よりは暗い灰色を帯びている。

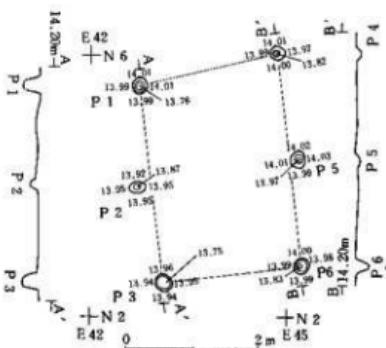
4) 溝 跡

SD-1溝跡 SD-9溝跡とSD-10溝跡に挟まれて、Qラインを東西に通る。SD-9溝跡・SK-3土坑を切り、SD-10溝跡・SX-4遺構に切られている。軸方向はN-92°-E前後であるが、途中やや蛇行し、Q-6・7区では不定形な支流を生じている。溝の幅は不規則で、上幅が110~230cm、底面幅が40~110cm、深さは20~30cmを計る。底面は西から東に下がり、両端のレベル差は37cm前後ある。

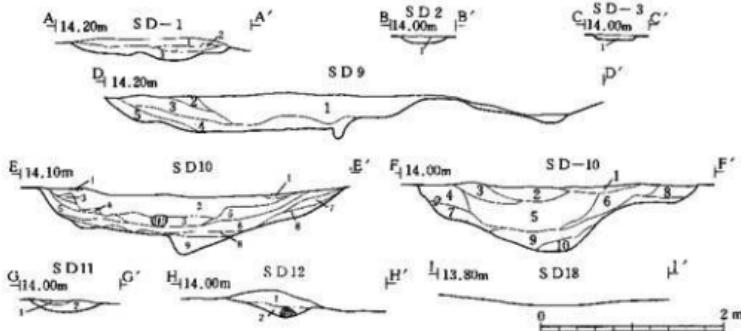
堆積土はベルト位置で3層に分けられ、にぶい黄褐色から黒褐色のシルト質砂層からなる。出土遺物はない。

SD-2溝跡 試掘調査の際にQ3区で検出された。SK-1土坑に切られる。軸方向はN-88°-Eである。上面幅は45~90cm、底面幅10~65cm、深さ5~8cmを計る。底面は西から東に傾斜し、東側が5cm程低い。堆積土は灰オリーブ色のシルト1層。出土遺物はない。

SD-3溝跡 Q3区でSD-2の北側にこれと平行して検出された。途中でとぎれ、Q3区の中央付近より東側では検出されなかった。軸方向はN-87°-Eである。上幅48cm、底面幅40cm前後、深さ3~5cmを計る。底面の傾きは認められない。



第44図 S B - 2 挖立柱建物跡実測図



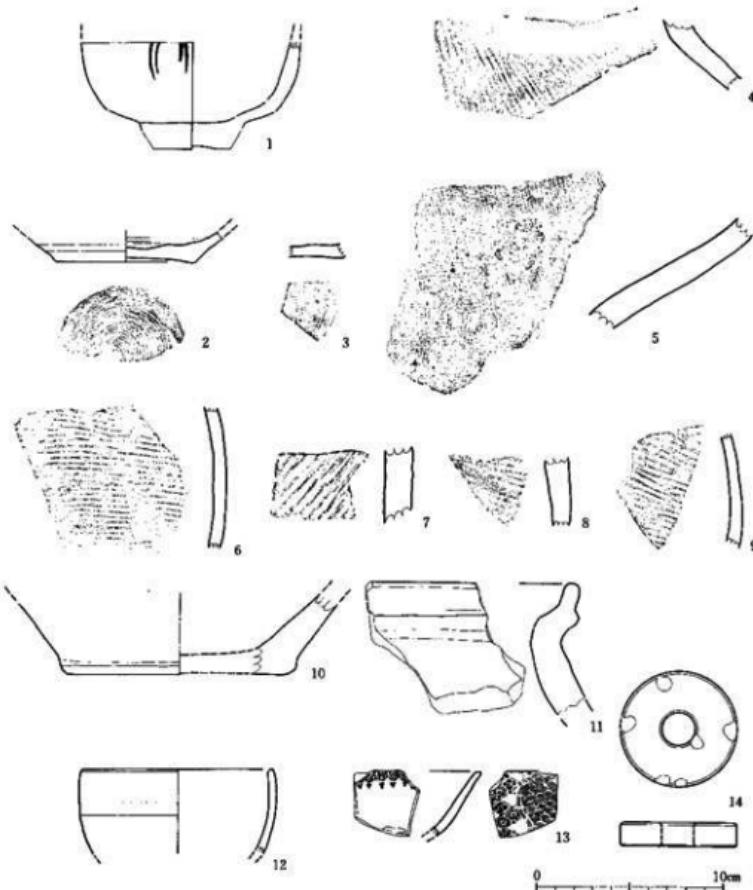
番号	土	色	主	要	の	等
S-1	1 HVYR13	暗赤褐色	シルト質	高粘性粘土をアリット化状に含む。液状化、マンゴンを含む		
	2 HVYR13	暗褐色	シルト質	高粘性粘土をアリット化に含む。軟泥を含む		
	3 HVYR13	黒褐色	シルト質	マンゴン、軟泥を含む。下部に砂を含む		
S-2	1 S-YR12	灰オリーブ色	シルト			
S-3	1 S-SVR12	暗緑褐色	シルト	灰褐色シルトをアリット化に含む		
S-4	1 HVYR13	灰褐色	シルト	灰褐色シルトをアリット化に含む		
	2 HVYR13	暗赤色	シルト	Si-O-Alの組合せを多く含む		
	3 HVYR13	暗赤色	シルト	酸化鉄を含む。砂を含む		
	4 HVYR13	暗褐色	シルト	酸化鉄を含む。褐色を含む		
	5 HVYR13	暗褐色	シルト	酸化鉄により暗褐色化に変化した砂を多量に含む。褐色を含む		

	規格	本 色	十 寅	子 の 色	
SD-10 (E-E)	1	WYR4/2	深赤褐色	色土黄シント	深木を含む植物連作色を含む
	2	SYR7/2	深褐色	暗紺	
	3	BSI7/4	深茶褐色	秋山黄シント	深木を含む植物連作色を含む
	4	SYR7/4	深褐色	紺シント	
	5	SYR7/1	深茶褐色	紺シント	樹木等シントと互換性になっている
	6	T/SV5/2	茶 色	暗紺	部分で使われている
	7	WYR5/2	山川青褐色	地土黃シント	
	8	SYR7/2	深褐色	深木黄シント	深木を含む植物連作色を含む
	9	SVS1/2	茶 色	暗紺	暗木の色を含む
	10	WYR5/2	深茶褐色	シント黄	酸化鉄が主な
SD-11 (E-F)	1	WYR5/2	深茶褐色	シント	5-colorの色を含む
	2	SYR7/2	深褐色	シント	
	3	WYR5/2	深褐色	シント	深褐色の、5-color色を含む
	4	WYR5/4	山川青褐色	暗紺シント	酸化鉄を含み、酸化鉄を含む
	5	SYR8/2	河川色	紺	5-colorの小色を含む、下層に黒鉛色を含む
SD-12 (E-F)	6	10YR8/2	灰褐色	シント黄	酸化鉄を含み、酸化鉄を含む
	7	10YR8/2	褐色	紺シント	深褐色を含み、酸化鉄の色を含む
	8	10YR8/2	山川青褐色	紺シント	河川の土の色を含む
	9	10YR8/2	山川青褐色	シント黄	5-colorの標準色を含む
	10	SYR2/2	茶 色	紺上	1~2colorの量を多く含む
SD-13 (E-E)	1	10YR8/2	深褐色	シント	酸化鉄を含む
	2	10YR8/2	山川青褐色	シント黄	酸化鉄、酸化鉄を含む
SD-14 (E-F)	1	10YR8/2	山川青褐色	紺シント	酸化鉄、ヤングソンを含む
	2	10YR8/2	河川色	紺シント	酸化鉄を含み、人の顔の色を含む

第45圖 Ⅲ層檢出遭跡斷面圖

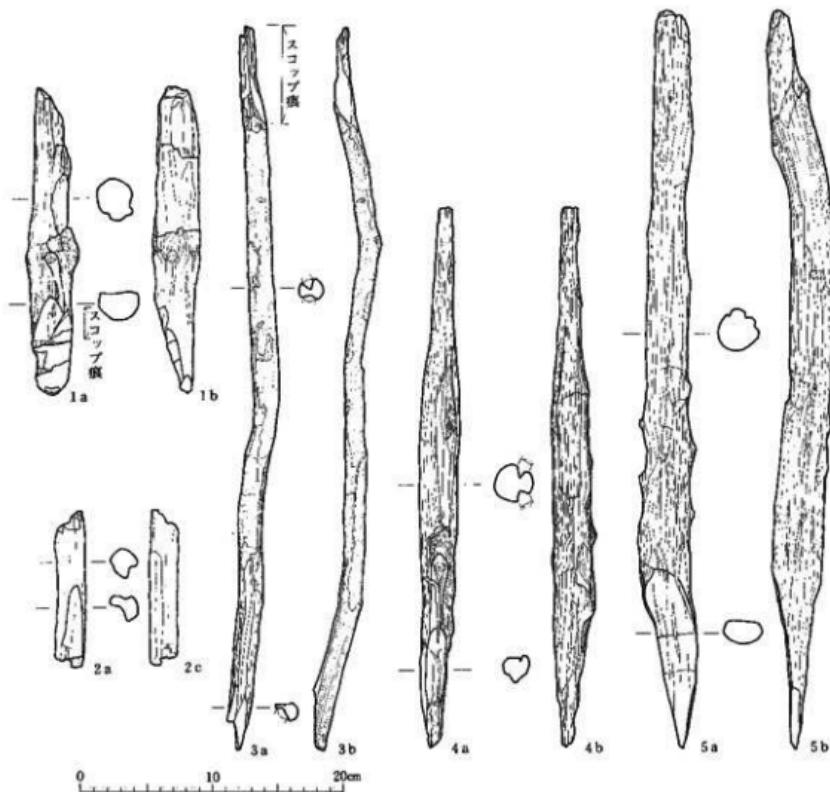
S D - 9 溝跡 三層木田の水路で記述の通り。

S D-10溝跡 調査区の南西隅から一度北東に伸び P 7 区付近で分岐して、一方は東方向へ伸びる。北東の方へ伸びた枝は N 9 区付近で立上がる。SD-1・9・13溝跡、SK-4 土坑、SX-6・8・9 遺構を切る。軸方向は北東方向の伸びで N-65°-E、東西方向の伸びで N-99°-E。



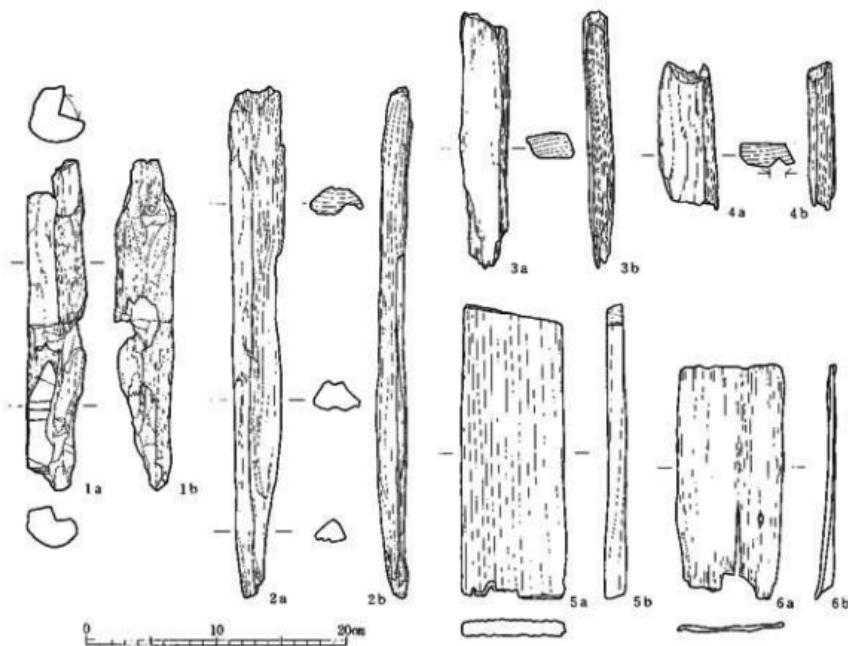
器物 番号	遺物番号	器物 部位	出土地区	遺物名	種類	幅 宽	深 形	活 墓 (cm)			外 表	内 面	写真図版
								内	外	高			
1	L-176	破片	P-12	SD-18	木製瓦	横	横	(3.2)	(5.7)		朱書き→朱書き文様	朱書き	236
2	E-1	破片	SD-18	漆器器	片			(3.2)	(1.3)		ロウソク調査、底面瓦松小切り	ロウソク調査	
3	E-20	破片	SD-18	漆器器	片	3.1	2.8				漆器リム漆器十野→底面ヘラタツリ	ロウソク調査	
4	E-25	破片	(北側文面)	SD-19	漆器器			3.6	11.9		平行印葉模	漆器フジワ印葉	
5	E-24	破片	(北側文面)	SD-19	漆器器	横	11.0	11.7			平行印葉模		
6	E-26	破片	(北側文面)	SD-19	漆器器	横	7.8	9.3					219
7	E-27	破片	(北側文面)	SD-19	漆器器	横	2.8	5.2			平行印葉模	漆面底底	270
8	E-28	破片	(北側文面)	SD-19	漆器器	横	3.7	4.5			平行印葉模		
9	E-29	破片	SD-19	漆器器	横	8.8	14.6				平行印葉模		
器物 番号	遺物番号	器物 部位	出土地区	遺物名	種類	幅 宽	深 形	活 墓 (cm)			外 表	内 面	写真図版
								内	外	高			
10	E-11	破片	SD-18	1層	漆器物	横	山形	(3.5)	(3.5)		漆面	中世	270
11	E-10	破片	SD-18	1層	漆器物	横					漆内壁	13-14世	270
12	E-12	破片	SD-18	1層	漆器物	横	(3.0)	(4.0)			漆物		271
13	J-8	漆器	SD-18	漆器	漆						漆物	漆物、鉢	272
14	J-7	漆器	(北側文面)	SD-18	漆器物						漆面文、花文	文様	272

第46図 S D-10溝跡出土遺物実測図 (1)



器物 番号	遺物番号	器種 記号	出土地区	遺物名	概算 (cm)		材 料	実 測 加 工	厚 さ (cm)	重 量 (g)	考 察	参考文献	
					長 さ (cm)	幅 さ (cm)							
1	L-135	石刀	O-Pm-1	SD-10	23.4	3.2	2.6	丸材	有	2	3	8.0	
2	L-139	石刀	O-Pm-5	SD-10	12.0	2.5	2.1	丸材	有	1	1	6.3	
3	L-136	石刀	O-Pm-2	SD-10	26.1	1.9	1.8	丸材	有	3	1	5.0	横抜孔
4	L-137	石刀	O-Pm-3	SD-10	41.1	3.6	2.8	丸材	有	2	1	9.1	
5	L-138	石刀	O-Pm-4	SD-10	36.0	3.2	-	丸材	有	2	1	15.9	

第47図 SD-10溝跡出土遺物実測図(2)



番号	遺物番号	遺物名	出土地點	遺構名	規格 (cm)		材	木場 22 号			規格 (cm)	等	等	実測値
					横 (cm)	高 (cm)		横 (cm)	高 (cm)	横 (cm)				
1	L-140	柱脚	O-Pm6	SD-10	25.5	6.2	—	丸材	右	2	1	70.1	—	—
2	L-141	柱脚	O-Pm7	SD-10	33.2	4.8	3.8	分岐脚	右	—	—	—	—	—
3	L-142	柱脚	O-Pm8	SD-10	19.7	2.4	2.0	分岐脚	左	—	—	—	—	—
4	L-143	柱脚	O-Pm9	SD-10	11.3	4.5	3.0	分岐脚	左	—	—	—	—	700
5	L-144	柱脚	O-Pm10	SD-10	22.6	7.9	1.2	丸材	左	—	—	—	—	700
6	L-145	柱脚	O-Pm11	SD-10	17.0	8.0	0.7	丸材	左	—	—	—	—	—

第48図 SD-10溝跡出土遺物実測図（3）

Eである。上幅は分岐する前の部分で3 m前後、分岐後の北東側の枝で3.5m前後、東へ伸びる枝で3 m前後ある。底面の幅は北東の伸びでは不規則であるが、分岐後の東の伸びの底面は70 cm前後で比較的一定している。溝の断面畦畔は不整形な舟底状を呈する。深さは底面の起伏が

一定せず、検出面から25~73cmまである。底面の傾斜は、基本的に西から東へ下がり、南西端と東へ伸びる枝の東端では36cmのレベル差がある。ただし、溝の分岐点付近も深くなっている。この部分では東端と5cmのレベル差しかない。

堆積土は第45図のように細分された。砂およびシルトが主体となり、これに疊の含まれる割合が多い土層が挟まれている。

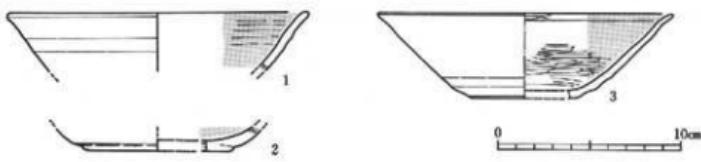
出土遺物は、第46~47~48図に示したようなものがある。第46図1は口縁部を欠損する漆塗りの木製の椀、2~3は須恵器坏片、4~9は須恵器残片、10は常滑産の無釉陶器壺、11は県内産と考えられる無釉陶器壺、12は肥前周辺の製品と見られる施釉陶器、13は明治以後と考えられる摺絵の磁器碗、14は磁器製の有孔円盤で周縁部は擦られている。使途は不明。第47図1~4及び第48図1は先端に加工痕跡のある杭状の丸材。2~4は分割材の断片。5~6は板材の断片である。

SD-10溝跡には付属施設と考えられる杭列と「シガラミ」遺構が有るが、これについては後述する。

SD-11溝跡 O·P-8~12区で検出された。西側はP8区で切れる。SD-13溝跡、SX-6~8~9遺構を切る。軸方向はN-100°-Eである。上幅は80cm前後であるが、西端部は一度狭まって大きく脹らむ。断面形は浅い舟底状で深さは15cm前後である。底面の傾斜は認められない。

堆積土は灰黄褐色シルトとにぶい黄褐色シルト質砂の上下2層に分けられた。出土遺物はない。

SD-12溝跡 J·K-7~8区で7ライン畦畔の東側に沿って検出された。軸方向はN-4°-Eである。上幅75cm、底面幅30cm、深さ15cmを計り、断面形は舟底状を呈する。底面は北側に3cm前後下がる。堆積土はにぶい黄褐色の砂質シルトと灰黄褐色砂質シルトの上下2層に分けられた。出土遺物には第49図に示したような平安時代の土師器坏片が3点ある。



回数	遺物番号	基点番号	地主地区	遺物名	厚さ	種別	造形	計量(cm)		外観	内観	可視部
								口径	幅			
1	D-7	無標	SD-12	2層 土師鉢	約	片	(18.0)	0.20	ヨコ彫刻	無色透明、ヘタミガキ彫刻		
2	D-10	無標	SD-12	2層 上側鉢	約	片	(7.0)	(1.5)	ヨコ彫刻、横筋彫刻	無色透明、ヘタミガキ彫刻		
3	D-26	無標	SD-12	2層 下側鉢	約	(14.0)	(3.0)	4.7	ヨコ彫刻	無色透明、ヘタミガキ彫刻		

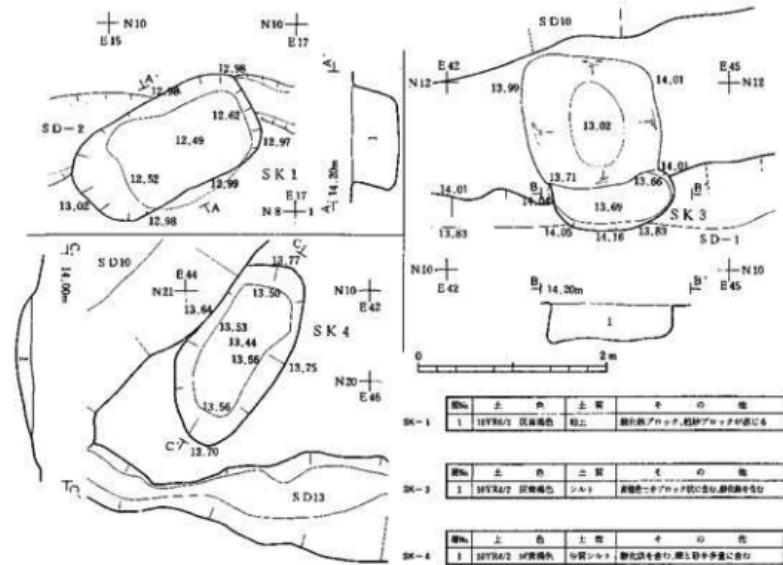
第49図 SD-12溝跡出土遺物実測図

SD-18溝跡 G-K-9・10区で南北方向に伸びて検出された。G 9区のIII層畦畔上部を切っている。軸方向はN-16°-Eである。規模は上幅150cm前後、底面幅70cm前後、深さは3cm前後の浅い溝である。底面は北側が南端より8cm程低い。堆積土はにぶい黄褐色の粘土質シルト。出土遺物はない。

SD-59溝跡 P・Q-11・12区で検出された。北側をSD-10溝跡に、南側をSD-9溝跡に切られている。軸方向はN-78°-Eであるが検出範囲が短いので実際の軸方向とはずれがあると考えられる。検出部の中央部分で上幅160cm、底面幅60cm、深さ20~25cmを計り、断面形は舟底状を呈する。底面は南西側から北東側に6cm程度下がる。検出時にはSD-9溝跡に切られた状況であったが、堆積土はSD-9に類似しているため、SD-9の支流と考えることも出来る。関係を明らかにすることはできなかった。出土遺物はない。

5) 土 坑

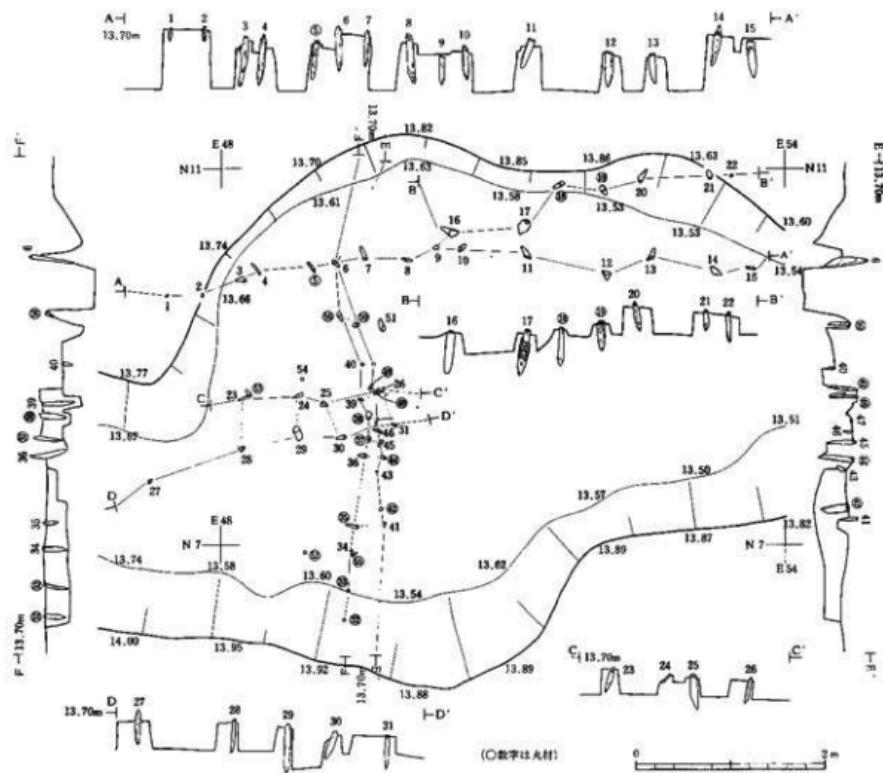
SK-1土坑 Q 3区で検出された。SD-2溝跡を切る。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸203cm、短軸106cm、深さ50cmを計り、断面形は箱形を呈する。底面はほぼ平坦である。堆積土は灰黄褐色粘土のブロックが主体となり、これに砂が混じっている。出土遺物はない。



第50図 III層検出土坑実測図

SK-3 土坑 Q 8 区で検出された。SD-1溝跡に南側の上部を切られ、北側を擾乱坑に切られる。平面形は東西方向に長軸をもつ橢円形を呈し、長軸130cm、残存短軸50cm、深さ42cmを計り、断面形は箱形を呈する。堆積土は灰黄褐色シルト1層で、黄橙色土のブロックを含む。出土遺物はない。

SK-4 土坑 O 8 区で検出された。北西部を SD-10 溝跡に切られる。平面形は長軸を南西から北東方向にもつ不整橢円形を呈し、長軸210cm、短軸103cm、深さ15cmを計る。断面形は浅い舟底状を呈する。堆積土は灰黄褐色砂質シルトで、礫や砂を含む。出土遺物はない。



第51図 SD-9 溝跡杭列実測図

6) 杭 列

SD-9杭列 SD-9に関係する杭列は、Q9区付近で検出された。検出された杭は56本を数える。SD-9はQ9区付近が北側に大きく膨らんでいるが、杭列はこの膨らんだ部分に位置する。杭列は3系統が各2列ずつ並び、第1列から第6列までの6列がある。(第51図)

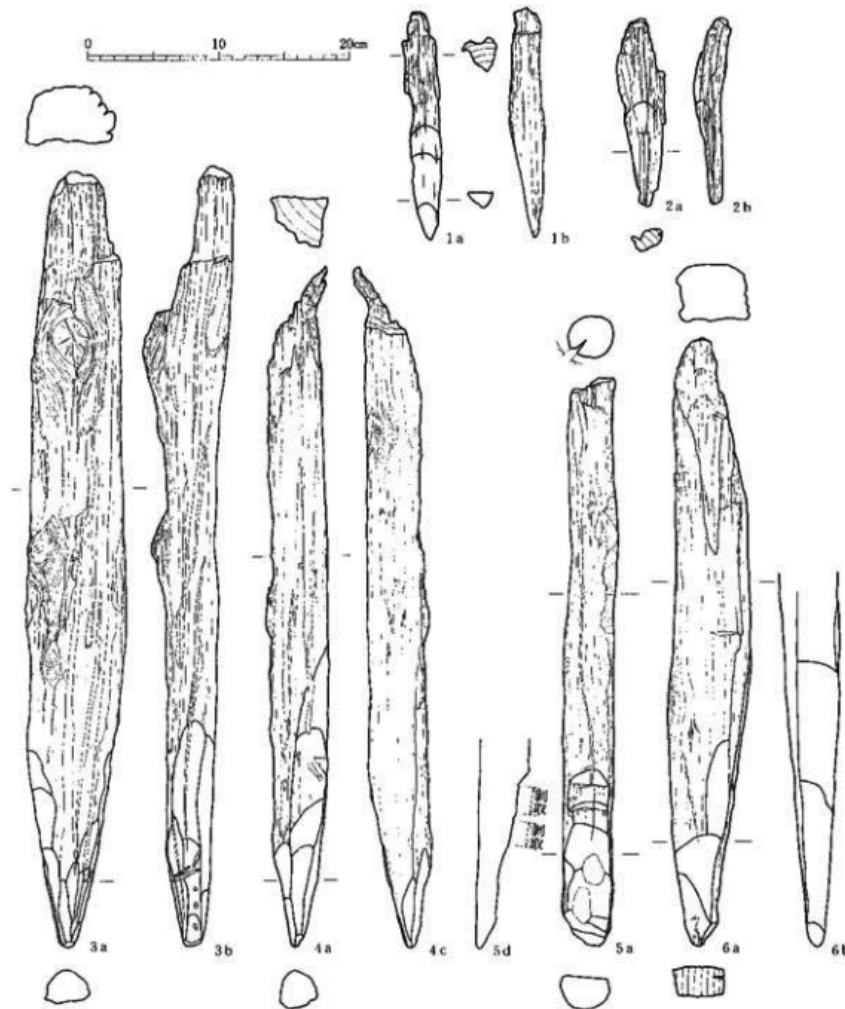
1系統の杭列はSD-9の膨らみ部分の北岸上またはこれに近接してSD-9と平行しているもので、No.1～No.22間での22本がある。第1列はNo.1～No.15の杭で、SD-9北岸から150cm前後離れたところを、芯距離が18～85cmの不等間隔で全長630cmに渡って直線的に並ぶ。杭材としてはNo.5を除いて末端に加工がされた分割材が使用されている。1系統の2列目(第2列)はNo.16からNo.22の7本である。第1列のNo.9のところから分岐して北東寄りに伸びてSD-9の北岸に接続する。杭の間隔は23～77cmの不等間隔で、No.9からの全長は324cmである。No.18・19が丸材、他は分割材でいずれも末端が加工されている。

2系列は北側に膨らむ以前のSD-9北岸の延長上に位置する杭列で、溝が膨らみだした地点から次に述べる3系統の杭列との交点付近にかけて位置し、40～50cm離れて2列ある。3系統と交差しているので、どちらに帰属させるべきか明らかでない杭もあるが、No.23～No.31までの9本がこの系統に属す。このうち北寄りのNo.23～No.26の4本を第3列とした。25～60cmの不等間隔で並び、全長は148cmを計る。いずれも分割材である。No.25が先端の加工がない以外はいずれも先端は加工されている。第4列はNo.27～No.31の5本で、第3列の南に平行する。50～102cmの不等間隔で並び、全長は267cmを計る。

3系統はSD-9に直交する杭列で、溝の南岸付近から2系統の杭列と交差し、1系統の1列の杭No.6から70cm位のところまで伸びる。3系統のうち、西側の第5列は、杭No.32～No.40およびNo.56の10本からなる。12～72cmの不等間隔で並び、No.6間での全長は383cmを計る。この列は丸材が6本、分割材4本で、丸材の先端は全て加工されている。分割材のうちNo.39・40は先端が加工されていない。東側の第6列はNo.41～No.50の10本からなる。10～66cmの不等間隔に並び、杭No.6までの全長は283cmを計る。丸材と分割材は各5本で、全ての先端が加工されている。

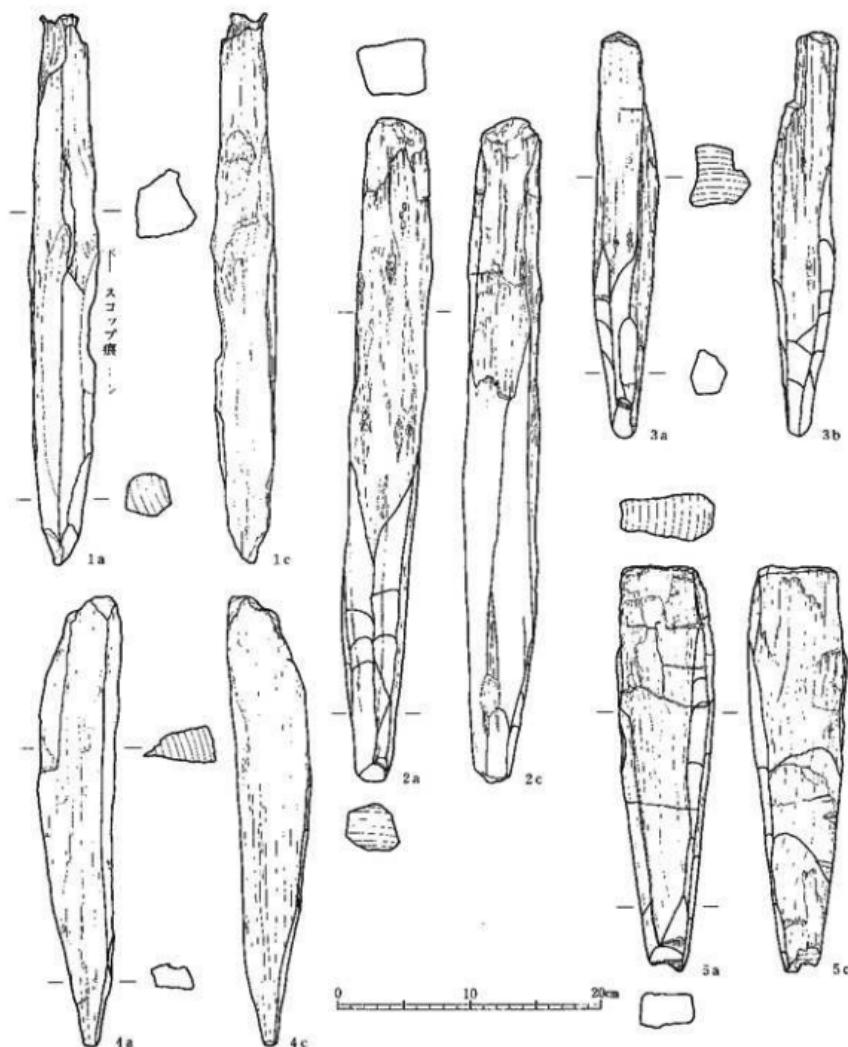
杭は以上のような状況で並んでいる。杭の先端部の深さは一定していない。杭材の傾向としてはSD-9溝跡と平行する第1～4杭列は丸材は少なく、分割材が多用されているが、溝に直交する第5・6列の半数は丸材が使用されている。各系統が2列になっていることについては、2列とも同時に機能したと見るよりは、一方が先行して存在し他方は後の補修と考えられる。ただし、その前後関係は明らかではない。それぞれの系統の機能としては、第1～4列については護岸施設と考えられるが、第5・6列については不明である。

各杭については、第52～59図に図示したとおりである。



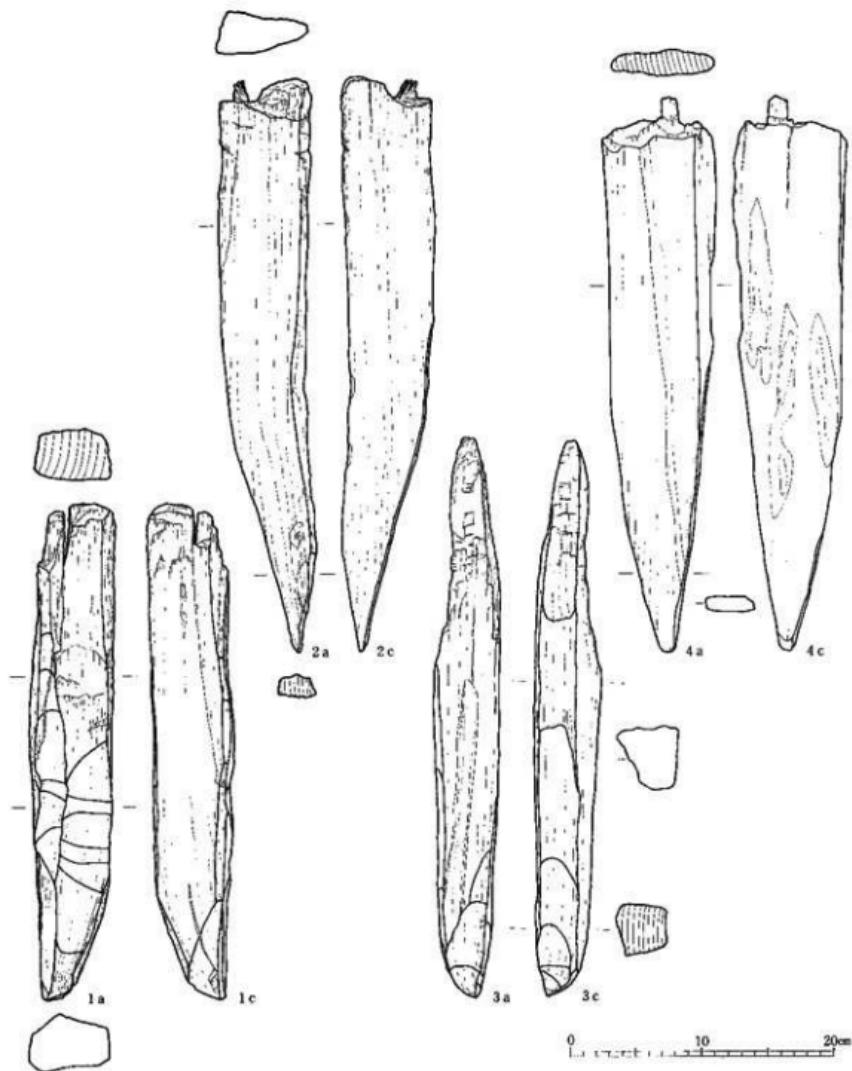
图号	遗物号	墓主位	出土地区	遗物名	规格 (cm)			木 材	木 竿 加 工	出 土 文 物	编 号	年 代	年 代 四 编
					高	宽	厚						
1	L-1	1号棺	Q-9号1	SD-9	17.5	2.0	2.0	分枝材	有	1	3	8.5	299
2	L-2	2号棺	Q-9号2	SD-9	14.3	3.6	2.2	分枝材	有	1	8.0		299
3	L-3	3号棺	Q-9号3	SD-9	59.2	7.5	4.3	分枝材	有	6	1	23.8	单面
4	L-4	4号棺	Q-9号4	SD-9	52.0	5.2	4.7	分枝材	有	4	5	23.1	
5	L-5	5号棺	Q-9号5	SD-9	43.6	3.0	2.3	无 材	有	1	2	13.7	锯齿刃
6	L-6	6号棺	Q-9号6	SD-9	44.5	6.0	3.0	分枝材	有	3	3	21.5	

第52图 SD-9 满跡杭列杭材实测图(1)



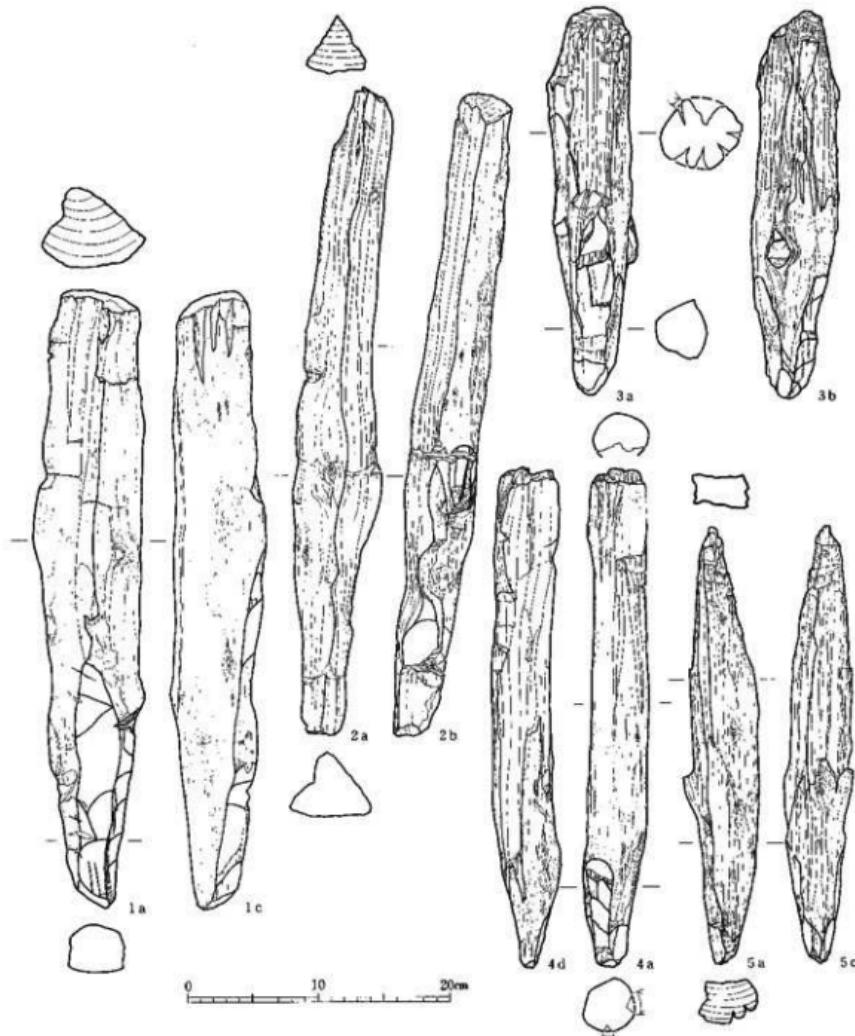
番号	通称番号	基点	出土地区	遺構名	寸法(cm)		材種	木工加工			割合(%)	備考	写真図版
					高さ	幅		削面材	削材	板			
1	L-T	基準	Q-9-Ng.7	SD-9	42.0	4.9	4.5	削面材	有	1	2	6.5	
2	L-B	柱櫛	Q-9-Ng.8	SD-9	53.0	5.5	4.2	削面材	有	5+1	6	23.5	296
3	L-V	柱櫛	Q-9-Ng.9	SD-9	29.8	4.8	4.6	削面材	有	5+1	6	21.3	300
4	L-10	柱櫛	Q-9-Ng.10	SD-9	34.6	5.8	2.8	削面材	有	2	4	21.4	300
5	L-11	柱櫛	Q-9-Ng.11	SD-9	39.2	7.5	3.0	削面材	有	4+1	6	29.1	300

第53図 SD-9 漏跡杭列杭材実測図 (2)



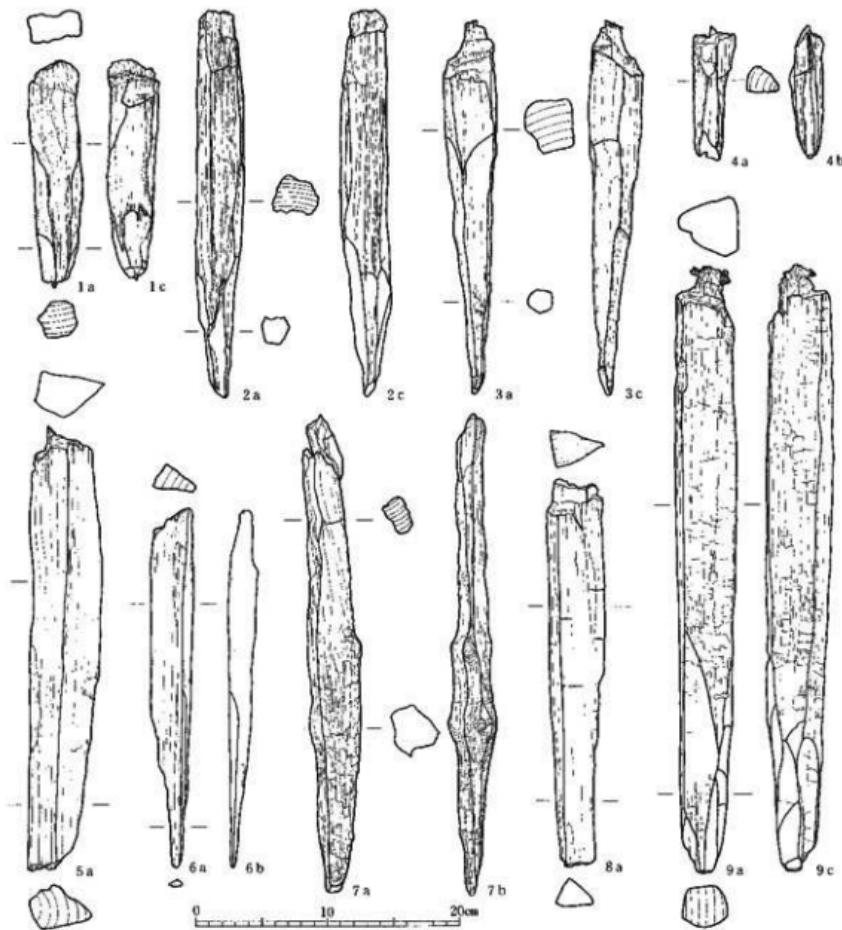
品种	作物番号	基本苗数	出土地点	播种量	施肥量 (kg)	灌水次数	灌水时间	始抽穗		结实率 (%)	千粒重 (g)	产量 (t)	评价
								株数 (株/m ²)	单穗重 (g)				
1	L-12	粗茎	Q-9穗L12	SD-9	38.2	6.1	4.3	分蘖期	有	5±2	7	26.2	高产
2	L-13	粗茎	Q-9穗L13	SD-9	44.5	6.6	3.2	分蘖期	有	5	5	35.3	高产
3	L-14	粗茎	Q-9穗L14	SD-9	43.1	4.9	4.8	分蘖期	有	4	5	20.8	抗病性好
4	L-15	细茎	Q-9穗L15	SD-9	42.4	8.4	2.0	分蘖期	有	2	3	21.9	高产

第54図 SD-9 清跡杭列杭材実測図 (3)



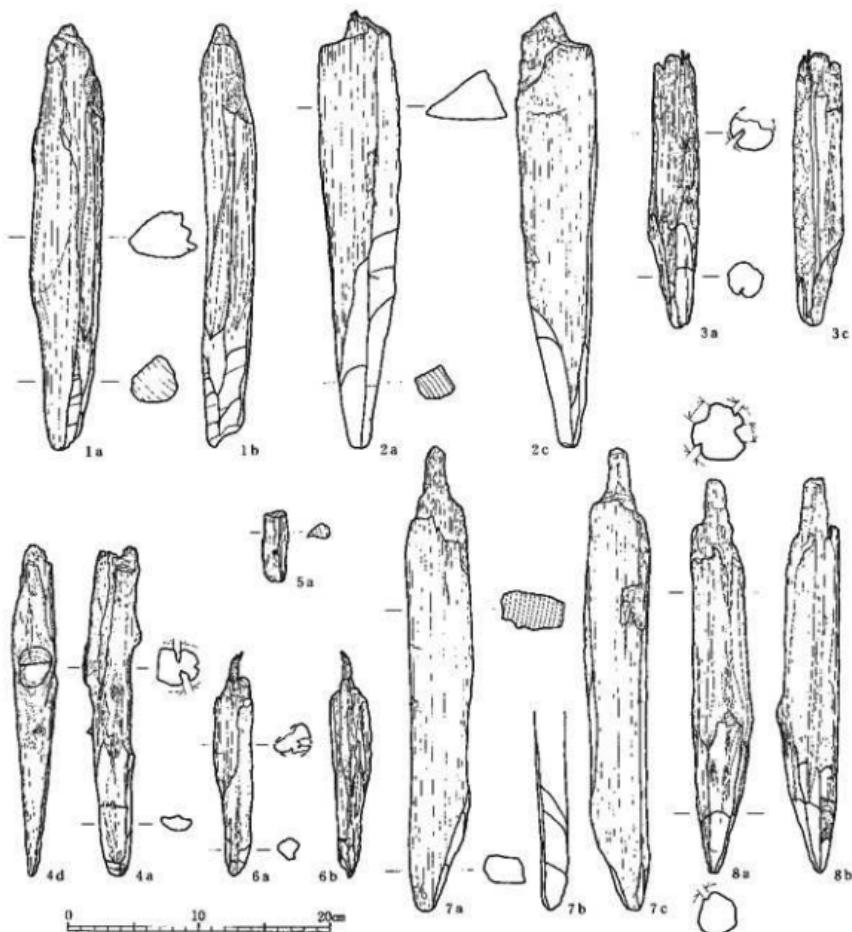
番号	測定番号	測定地	川上地区	道橋名	横幅 (cm)			断面	開削	加工	積上 高さ (cm)	目	考	写真番号
					幅 (m)	厚 (m)	幅 (m)							
1	L-16	日隈	Q-9m16	SD-9	47.3	7.7	6.1	分野材	有	4	8	27.7		301
2	L-17	日隈	Q-9m27	SD-9	49.7	5.6	5.1	分野材	有	1	2.7	11.9?		
3	L-18	日隈	Q-9m38	SD-9	39.6	6.1	5.1	丸材	有	4/1	3	23.0		301
4	L-19	日隈	Q-9m26	SD-9	38.1	4.5	4.1	丸材	有	2	3	8.2		301
5	L-20	日隈	Q-9m29	SD-9	39.3	5.6	3.1	分野材	有	2	2	9.3		

第55図 SD-9 溝跡杭排列杭材実測図(4)



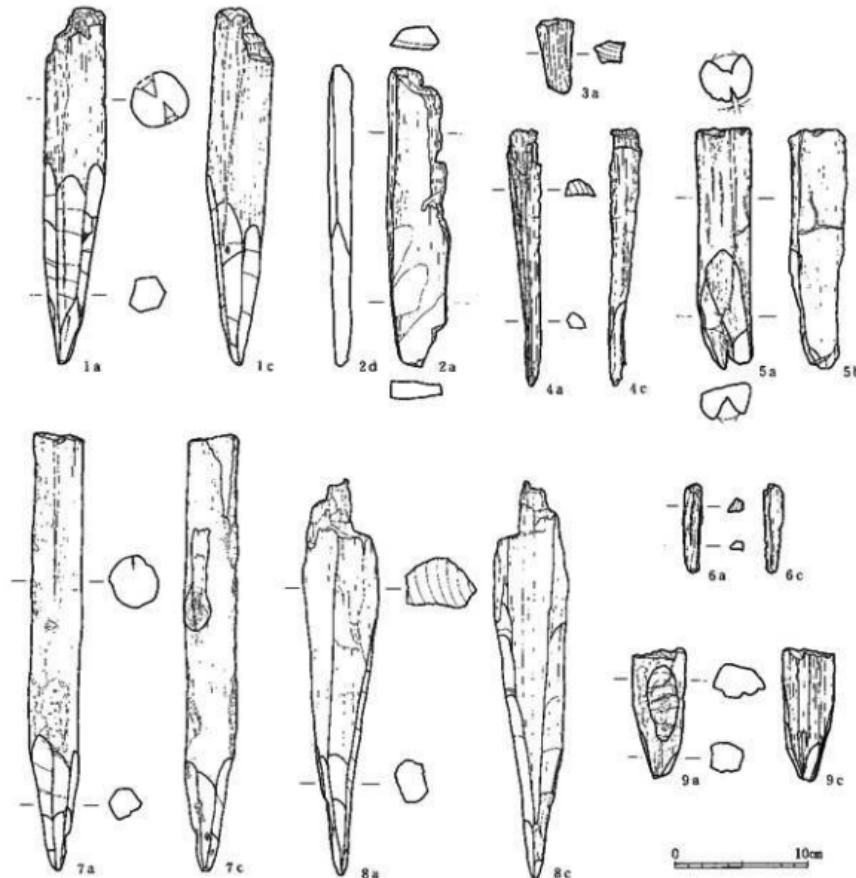
番号	遺物番号	大きさ	出土場所	溝跡名	横径(cm)			剥離材	木種	加工	工具	参考	写真図版
					高さ	幅 (横径)	厚さ						
1	L-21	柱脚	Q-9-Na21	SD-9	16.9	3.9	7.0	分離材	有	4	2	11.1	
2	L-22	柱脚	Q-9-Na22	SD-9	29.6	3.6	2.8	分離材	有	5	3	18.0	
3	L-23	柱脚	Q-9-Na23	SD-9	28.0	4.6	4.0	分離材	有	5	1	19.7	
4	L-24	柱脚	Q-9-Na24	SD-9	10.2	3.3	2.5	分離材	有	2-1	1	9.6	
5	L-25	柱脚	Q-9-Na25	SD-9	33.7	5.3	3.6	分離材	無	—	—	—	
6	L-26	柱脚	Q-9-Na26	SD-9	27.3	3.3	1.9	分離材	有	1	1	13.4	
7	L-27	柱脚	Q-9-Na27	SD-9	36.8	3.9	3.6	分離材	無	—	—	無観み	301
8	L-28	柱脚	Q-9-Na28	SD-9	29.8	4.1	2.8	分離材	無	—	—	—	
9	L-29	柱脚	Q-9-Na29	SD-9	46.2	5.0	4.5	分離材	有	2	4	18.5	

第56図 S D-9 溝跡杭列坑材実測図 (5)



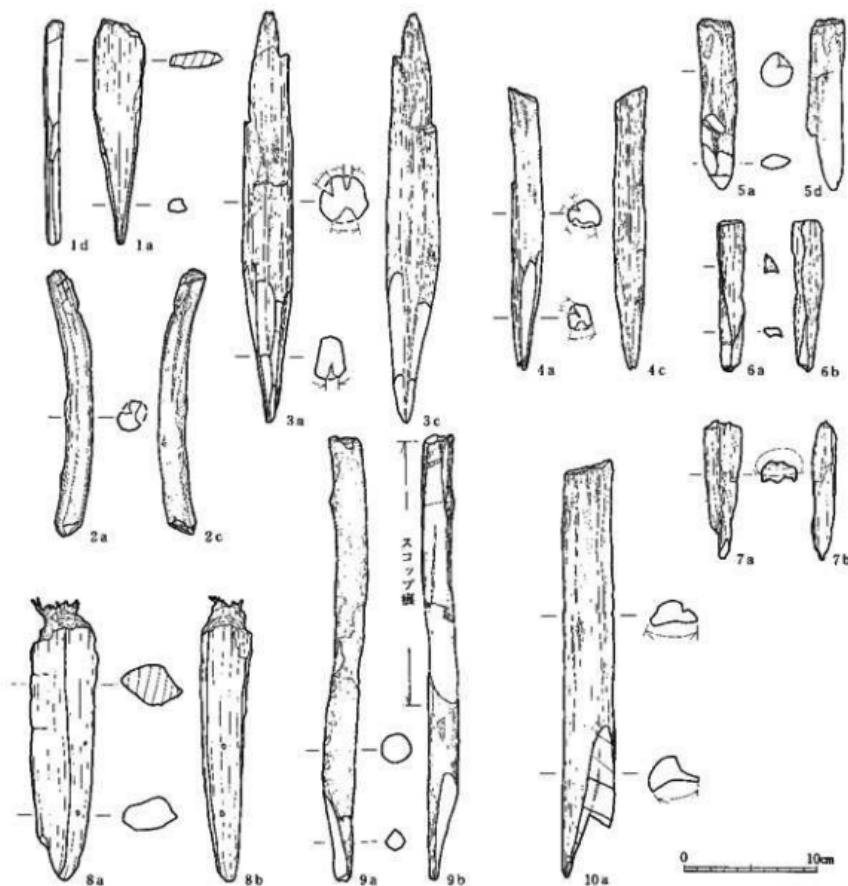
編號	標本番号	器名	出土地點	遺物名	測量 (cm)			用材	此 前 記 載 考 文	規 格 (cm)	備 考	参考文獻	
					高さ	幅	厚さ						
1	L-20	木棒	Q-9-9-20	SD-9	32.3	2.2	4.0	分離材	有	4	3	9.3	
2	L-21	木棒	Q-9-9-21	SD-9	33.1	6.1	3.5	分離材	有	5	3	16.7	362
3	L-22	木棒	Q-9-9-22	SD-9	21.1	2.6	2.7	丸材	有	4	3	8.1	362
4	L-23	木棒	Q-9-9-23	SD-9	29.4	3.4	3.1	丸材	有	2	3	10.8	362
5	L-24	木棒	Q-9-9-24	SD-9	5.3	2.0	1.1	分離材	無	—	—	—	
6	L-25	木棒	Q-9-9-25	SD-9	17.3	3.0	2.7	丸材	有	5	3	2.9	
7	L-26	木棒	Q-9-9-26	SD-9	35.3	4.8	2.9	分離材	有	3	3	18.4	
8	L-27	木棒	Q-9-9-27	SD-9	30.2	4.0	—	丸材	有	6	2	11.7	362

第57図 SD-9 溝跡杭列杭材実測図 (6)



序号	测木标号	测木位	山上海拔	进锯米	直径 (cm)		高 级 圆木 (大头) 直径 圆木 (小头) 直径	木 等 圆木 (大头) 等级 圆木 (小头) 等级	加 工 圆木 (大头) 等级 圆木 (小头) 等级	锯木 尺寸 (cm)	单 重 量 (kg)	单 方 积 (m³)	
					高 度 (cm)	厚 度 (cm)							
1	L-38	进锯	Q-93a36	SD-9	27.2	4.6	4.2	丸 切	有	6-1	3	13.3	300
2	L-39	进锯	Q-93a29	SD-9	22.0	4.6	3.8	分锯切	削	—	—	—	—
3	L-40	进锯	Q-93a40	SD-9	25.7	2.9	2.6	分锯切	削	—	—	—	—
4	L-41	进锯	Q-93a41	SD-9	19.5	2.3	1.2	分锯切	削	1	1	6.4	200
5	L-42	进锯	Q-93a42	SD-9	18.5	4.0	3.6	丸 切	有	2	2	6.1	200
6	L-43	进锯	Q-93a43	SD-9	20.8	1.6	1.0	分锯切	削	4.7	1	6.7	200
7	L-44	进锯	Q-93a44	SD-9	22.4	4.0	3.5	丸 切	削	6	3	10.3	300
8	L-45	进锯	Q-93a45	SD-9	20.4	5.2	3.5	分锯切	削	6	4	10.7	200
9	L-46	进锯	Q-93a46	SD-9	18.2	4.0	2.6	分锯切	削	4	2	8.3	200

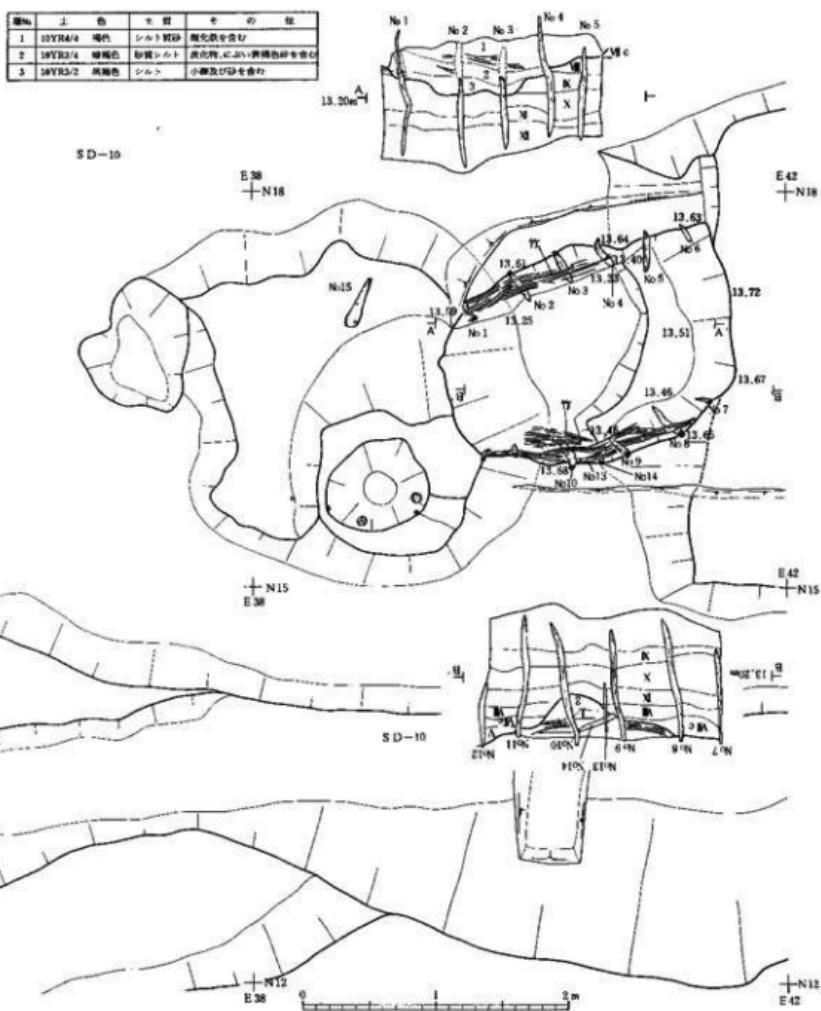
第58图 SD-9 满跡杭列杭材实测图 (7)



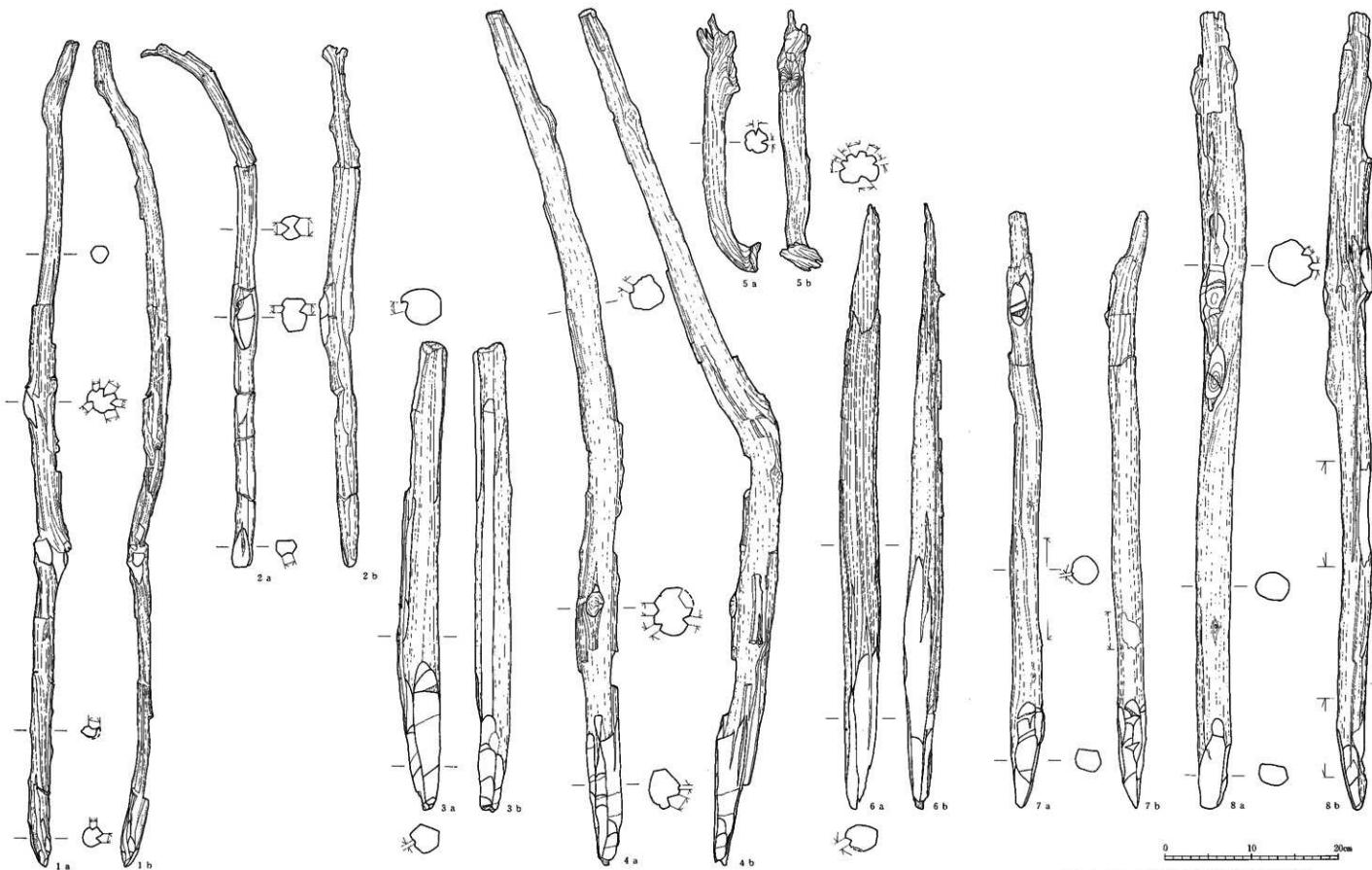
試験番号	測定番号	最大 直径	測定地	遺構名	直径 (mm)			材 種	本 幅 幅 厚 さ の 比		加工 方法	加工 度合	備 考	等高線
					周 長 (mm)	厚 さ (mm)	幅 (mm)							
1	L-47	直縫	Q-9Ma47	SD-9	17.2	3.9	1.5	少材材	有	2	2	9.9		
2	L-48	直縫	Q-9Ma48	SD-9	20.0	2.3	2.0	丸材	有	2.4	2	1.0		
3	L-49	直縫	Q-9Ma49	SD-9	21.6	2.6	3.3	丸材	有	5	3	12.5		
4	L-50	直縫	Q-9Ma50	SD-9	21.6	2.4	2.0	丸材	有	3	2	9.1		
5	L-51	直縫	Q-9Ma51	SD-9	13.0	2.6	3.4	丸材	有	2+1	2	5.7	削皮	
6	L-52	直縫	Q-9Ma52	SD-9	11.5	2.3	1.1	少材材	有	3	1	4.6		303
7	L-53	直縫	Q-9Ma53	SD-9	10.3	2.7	1.7	丸材	有	1	1	1.5		303
8	L-54	直縫	Q-9Ma54	SD-9	21.3	4.7	3.1	少材材	有	1	2	7.9		
9	L-55	直縫	Q-9Ma55	SD-9	33.0	2.3	2.2	丸材	有	2	1	8.8	削皮材	
10	L-56	直縫	Q-9Ma56	SD-9	23.0	3.9	2.7	丸材	有	1	4	11.6		

第59図 SD-9 溝跡杭列杭材実測図 (8)

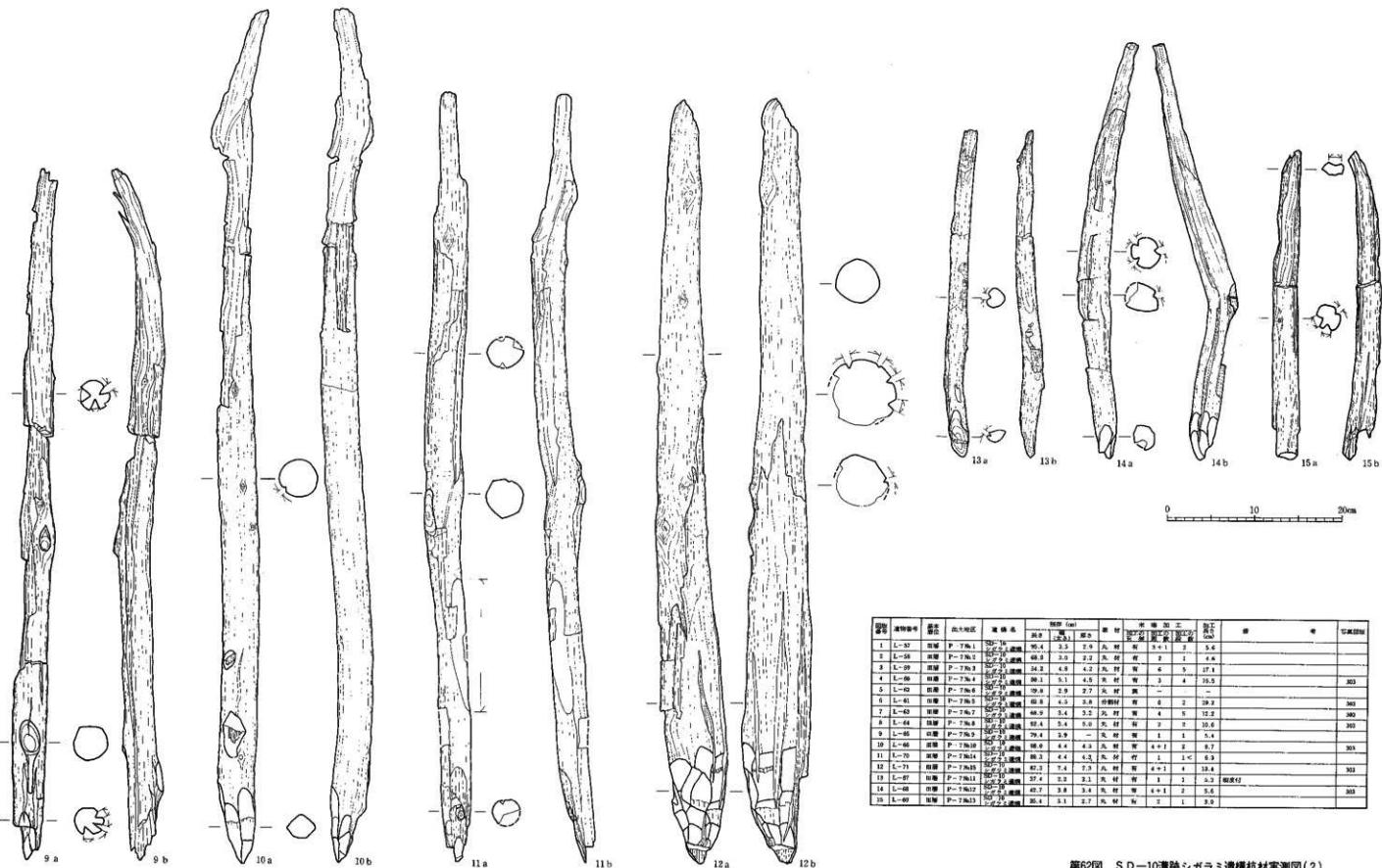
SD-10シガラミ遺構 SD-10溝跡が北東方向と東方向に分岐するP7区で検出された。
 (第60図) 分岐点の先端はE41ラインに沿って、ほぼ南北方向に320cmの直線的な岸面をなし
 ている。この岸面西側には2m程離れたところに、上面で南北240cm・東西210cm程の不整円



第60図 SD-10溝跡シガラミ遺構実測図



第61図 SD-10清跡シガラミ造構材実測図(1)



第62図 S D-10溝跡シガラミ造構材実測図(2)

試験番号	品種	直径 (mm)	断面積 (mm ²)	SDP (mm)		W	H	W/H	E	E/W	E/H	E/E	E/E/H	E/E/E	E/E/E/H
				上	下										
1	L-47	SDP	P-78.0	50.5	3.5	4.0	4.0	1.0+1	3	5.6	—	—	—	—	—
2	L-58	SDP	P-78.0	50.5	3.5	4.0	4.0	1.0+1	3	5.6	—	—	—	—	—
3	L-59	SDP	P-78.0	50.5	3.5	4.0	4.0	1.0+1	3	5.6	—	—	—	—	—
4	L-60	SDP	P-78.0	50.5	3.5	4.0	4.0	1.0+1	3	5.6	—	—	—	—	—
5	L-62	SDP	P-78.6	50.5	3.5	4.0	4.0	1.0+1	3	5.6	—	—	—	—	—
6	L-63	SDP	P-78.6	50.5	3.5	4.0	4.0	1.0+1	3	5.6	—	—	—	—	—
7	L-64	SDP	P-78.6	50.5	3.5	4.0	4.0	1.0+1	3	5.6	—	—	—	—	—
8	L-65	SDP	P-78.6	50.5	3.5	4.0	4.0	1.0+1	3	5.6	—	—	—	—	—
9	L-66	SDP	P-78.6	50.5	3.5	4.0	4.0	1.0+1	3	5.6	—	—	—	—	—
10	L-67	SDP	P-78.6	50.5	3.5	4.0	4.0	1.0+1	3	5.6	—	—	—	—	—
11	L-68	SDP	P-78.6	50.5	3.5	4.0	4.0	1.0+1	3	5.6	—	—	—	—	—
12	L-69	SDP	P-78.6	50.5	3.5	4.0	4.0	1.0+1	3	5.6	—	—	—	—	—
13	L-70	SDP	P-78.6	50.5	3.5	4.0	4.0	1.0+1	3	5.6	—	—	—	—	—
14	L-66	SDP	P-78.6	50.5	3.5	4.0	4.0	1.0+1	3	5.6	—	—	—	—	—
15	L-69	SDP	P-78.6	50.5	3.5	4.0	4.0	1.0+1	3	5.6	—	—	—	—	—

形の島状の高まりがある。島状の高まりのレベルは、最上面では岸と差はないが1段下がったところで20cm前後低くなる。SD-10シガラミ造構は、分岐点の岸と島状の高まりを結ぶようにして東西に伸びる2条が1対として存在している。北側のシガラミは、176cmの間に28~38cmの不等間隔で6本の長い杭が打たれており、この杭に箇を数本から十数本纏めたものを交互に縫うようにして絡めてシガラミとしている。南側のシガラミの作り方も北側と同様である。基本となる杭はNo.13・14を除く6本で、179cmの間に27~43cmの不等間隔で打たれている。北側のシガラミと南側のシガラミの間隔は150cm前後である。シガラミに挟まれた部分とその両側の堆積土は異なっている。両側の堆積土はSD-10溝跡の堆積土と同一であったのに対し、シガラミ内は小さなブロック状の土を含み人為的な堆積状況を呈していた。

杭はNo.6を除く検出面から浅いもので49cm、深いもので90cm程打たれている。杭の直径は2.9cm~7.4cmで、長さは保存の良いもので90cm以上残り、最長はNo.10の98cmである。杭材はNo.5以外は心持ちの丸材である。No.5は先端が加工された分割材が使われている。各杭材については第61~62図に図示したとおりである。

この造構の機能としては、分岐部分の岸と島状の高まりを結ぶ土橋の構築か、この間の水路を閉鎖するための施設と考えられ、いずれかを目的として、土留めのために組まれたものであろう。

SD-10杭列 SD-10溝跡の杭にはP-5・6・7区付近で検出された相互関係の不明な6本の杭と、P-11・12区で検出された直線的に並ぶ4本の杭列がある。

前者はIII-1~6と付番したものである。1を除く5本はSD-10溝跡の分岐点の手前に位置することからこの溝の水量または水流の調整施設の一部であった可能性があるが、現状では性格は明らかでない。

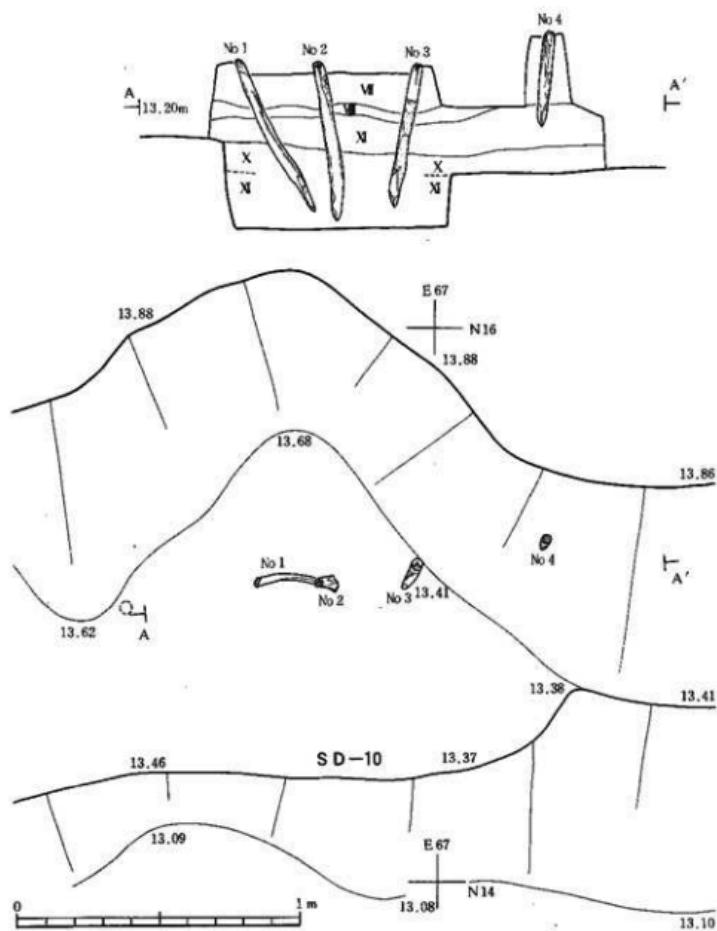
後者はP11区とP12区の境でSD-10の北岸が張らんだ部分に位置する。(第63図)実測時には105cm間に29~45cm間隔で4本の杭であったが、検出時にはこの西側に45cm程の所にもう一本の杭があった。この杭列については、張らむ以前のSD-10北岸付近に護岸施設として打たれたものと考えられる。

SD-10溝跡に伴う杭はIII-1の杭を除いて全て心持ちの丸材が用いられている。各杭については、第64~65図に図示した。

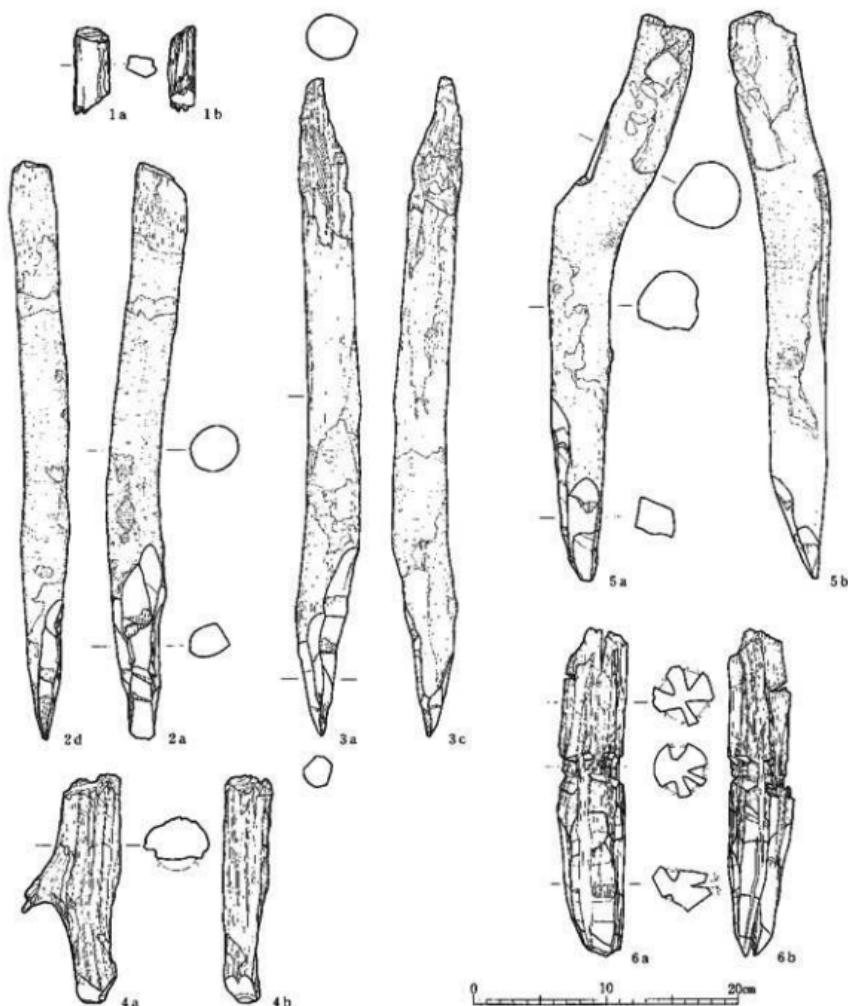
7) その他の造構

SX-4造構 Q・R-4・5区で検出された。南北方向に溝状に伸びる造構で南側は調査区外となる。SD-1・9を切る。軸方向はN-28°-Eで、上面幅196cm、検出部長340cm、底面幅50cm前後を計る。底面は北から南に下がり、南端で深さ75cmとなる。堆積土は8層に分け

られ、シルトが主体となる。出土遺物はない。



第63図 SD-10溝跡杭列実測図(P-12区)



第64図 S D-10溝跡杭列杭材実測図(1)

図面 番号	遺物番号	断面	出土地区	遺物名	直径 (cm)			材種	木種加工	出土 状況	備 考	参考文献
					高さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)					
1	L-122	丸太	P-5-688-1	SD-10	6.7	3.2	1.8	分別材	有	1	1	1.6
2	L-132	丸太	P-5-688-2	SD-10	44.2	3.7	3.5	丸材	有	3	7	14.9 被皮付、黒漆あり
3	L-134	丸太	P-5-688-3	SD-10	59.3	4.0	3.5	丸材	有	4	4	14.5 被皮付
4	L-135	丸太	P-5-688-4	SD-10	17.6	4.7	3.2	丸材	有	2	1	2.3
5	L-136	丸太	P-5-688-5	SD-10	43.0	5.0	—	丸材	有	3	3	33.9 被皮付
6	L-137	丸太	P-5-688-6	SD-10	29.7	4.0	—	(丸材)	有	5	4	11.6 先端近く抉り一箇



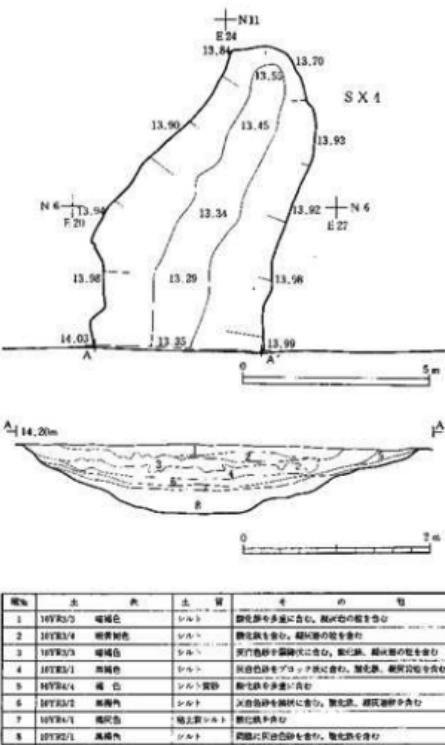
出 土 地 點	遺 物 編 號	基 本 形 狀	出 土 地 區	遺 物 名	度量 (cm)		材 種	木 幅 厚 度 mm	工 程 規 格 mm	總 長 度 (cm)	規 格 等 級	規 格 等 級	下 限 年 代
					高 度	寬 度 (公 分)							
1	L-72	柱樁	P-12区	SD-10	46.5	3.1	2.7	丸 柱	ø 3+1	6	17.6	365	365
2	L-73	柱樁	P-12区	SD-10	54.4	3.4	2.8	丸 柱	ø 6	6	14.3	365	365
3	L-74	柱樁	P-12区	SD-10	49.2	3.6	3.0	丸 柱	ø 6+2	6	11.6	365	365
4	L-75	柱樁	P-12区	SD-10	33.5	3.8	2.2	丸 柱	ø 4	3	13.9	365	365

第65圖 SD-10溝跡杭列 (P-12区) 杭材實測圖 (2)

S X-5 構造 R-8・9 区で検出された。南半分は調査区外に伸び、南東部は擾乱坑に切られている。平面は検出部で東西に長い長方形を呈する。長軸570cm、検出部短軸316cm、深さ10cmを計る。底面は平坦で、壁の立ち上がりは急である。堆積土は4層に細分されたが、灰黄褐色から褐色の砂質シルトからなる。出土遺物には1層から出土した須恵器壺片がある。

S X - 6 遺構 P - 8・9 区
で検出され、SD-10・11 溝跡に
それぞれ南端と北端を切られて
いる。この遺構は溝状の掘り方
と、その両岸に接する石、及び
石を固定する杭によって構成さ
れる。

溝は上幅50cm 前後、底面幅
25cm 前後、深さ15cm を計り、
断面形は舟底状を呈する。底面

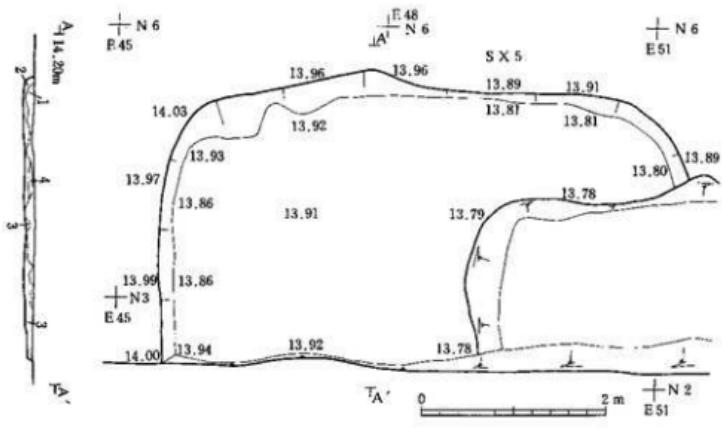


第66圖 SX-4 遊標實測圖

は北端より南端が6 cm 程低く、軸方向はN-16°-Eである。堆積土は10層に細分され、層中には礫が多く含まれていた。石は東岸側には一列に並んで5個、西岸側では溝南端に並んで2個と離れて2個の4個が検出された。石はいわゆる河原石で、長辺23~40cm、短片20~24cmでやや偏平なものが使われている。両岸の石の間隔は20cm 程ある。杭は東岸の石列に接して4本、西岸の石に接して1本検出されている。いずれも心持ちの丸材で、末端が加工されたものが、直立またはやや外傾して打たれている。出土遺物はない。

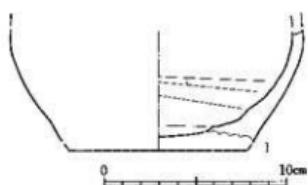
遺構の性格としては、堆積土がSD-10溝跡の堆積土の一部と類似し、底面がSD-10溝跡に向かって傾斜することから、SD-10溝跡のある時期に、この溝に付属したなんらかの水利施設と考えられる。

S X-7 遺構 H-I-2 区で検出された。西側半分は調査のための側溝により破壊された。



編號	土 色	千 貫	千 の 場
1	10YR4/2 灰褐色	砂質シート	砂を含む。鐵瓦軸の跡を含む。南北向に少びきり
2	10YR4/2 灰褐色	砂質シート	無光澤を含む
3	10YR4/4 褐 色	砂質シート	鐵瓦軸を含む
4	10YR4/4 褐 色	砂質シート	鐵瓦軸、鐵瓦軸の跡を含む

第67図 S X - 5 造構実測図



第68図 S X - 5 造構出土遺物実測図



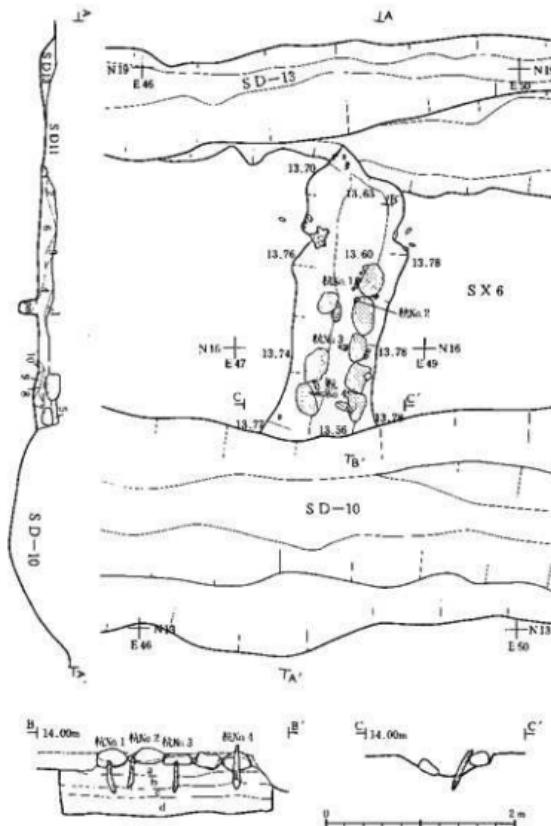
第69図 S X - 7 造構出土遺物拓影

区分	遺物番号	層位	出土地区	遺構名	性質	備考	経行	地 質	地 理	外 形	内 面	参考圖版
II	II-3	灰褐色	S X - 9	S X - 5	1	圓筒形	直	(8.1)	ロクロ風呂、底部斜傾	ロクロ風呂		

番号	書名	基準	出土地区	遺構名	層位	性質	経行	地 質	地 理	外 形	内 面	参考圖版
II-1	N-1	灰褐色	II-11	S X - 7	2層	圓筒形	直	無	無	無	無	

平面形は不整形で、長軸113cm、残存短軸182cmを計る。底面には不整で凹凸があり、最深部で深さ22cmを計る。堆積土は基本層III層に類似。聖宗元宝が1点出土している。

S X - 8 造構 P-11・12区で検出された。南辺と北辺をそれぞれSD-10・11溝跡に切られている。平面形は、北西から南東に長軸をもつ不整形円形を呈し、長軸183cm、短軸105cm、深



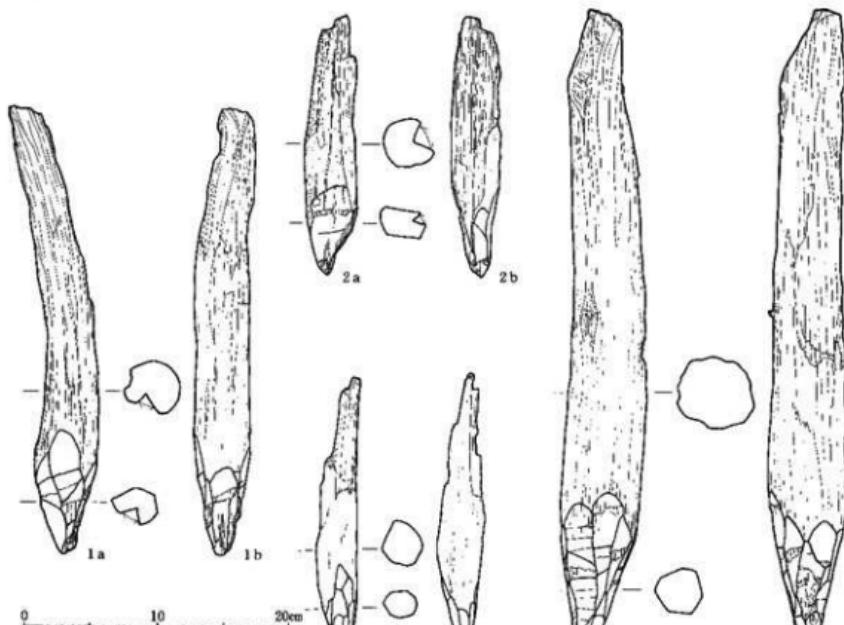
番号	上色	下質	その他の
1	10YR4/2 淡褐色	シルト質砂	酸化鉄を含む
2	10YR4/3 黄褐色	砂質シルト	酸化鉄、炭化物を含む。2cm位の隙を含む
3	10YR4/2	シルト	酸化鉄を含む。底2cmの隙を含む
4	10YR4/1 細灰土	シルト質砂	酸化鉄を含む。1~3cm, 20~30cmの隙を含む
5	10YR2/2 灰褐色	粘土質シルト	酸化鉄を少含む
6	10YR4/3 に少し黄褐色	砂質シルト	酸化鉄を含む。隙を含む
7	10YR4/2 黄褐色	シルト	酸化鉄を含む
8	10YR4/1 淡灰土	粘土	上層に酸化鉄を含む
9	10YR4/2 灰褐色	粘土	酸化鉄を含む
10	10YR4/3 に少し黄褐色	シルト	酸化鉄を含む
11	10YR4/2 黄褐色	シルト質粘土	酸化鉄を含む
12	10YR4/3 に少し黄褐色	シルト質粘土	酸化鉄を含む。炭化物を認めた（基本層）
13	10YR4/2 黄褐色	シルト質粘土	酸化鉄を含む

第70図 SX-6 遺構実測図

さ18cmを計る。堆積土は灰黄褐色からにぶい黄褐色の砂または砂質シルトの5層に分けられた。出土遺物はなく、底面から縫が1個出土しただけである。

SX-9遺構 P-10・11区で検出された。南辺と北辺をそれぞれSD-10・11溝跡に切られている。平面形は、東西に長軸をもつ不整橢円形を呈し、長軸235cm、残存短軸138cm、深さは最深部で52cmを計る。底面は全体が浅く舟底状に下がった後、中央部分が深く窪む。堆積土は7層に分けられ、灰黄褐色からにぶい黄褐色のシルト質砂からシルトが主体となっているが最下層は黒褐色の粘土質シルト層からなる。出土遺物はない。

SX-10遺構 P-8区で検出された。平面形は、東西に長軸をもつ橢円形を呈し、長軸281cm、短軸204cm、深さは20cmを計る。断面形は浅い舟底状を呈する。堆積土は7層に分けられた。堆積土中より須恵器蓋片が1点出土している。



番号	遺構番号	高さ cm	山土地段	遺構名	横幅/cm		材種	木筋 (横筋)	木筋 (斜筋)	木筋 (縦筋)	柱高 cm	備考	実測範囲	
					南北 (m)	東西 (m)								
1	L-148	16.0	P-8	SX-6	34.0	4.1	丸材	有	6	4	9.4		306	
2	L-149	17.0	P-8	SX-6	19.9	3.7	丸材	有	5	2	6.6		306	
3	L-150	13.0	P-8	SX-6	20.3	3.4	3.1	丸材	有	8	3	5.8		306
4	L-151	13.0	P-8	SX-6	18.3	7.0	5.2	丸材	有	10+3	3	11.7		307

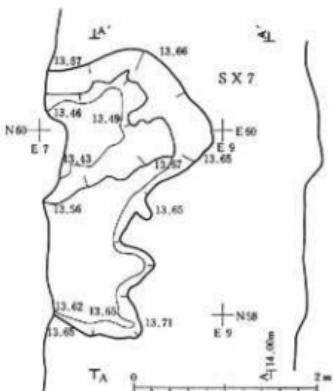
第71図 SX-6 遺構杭材実測図

S X - 12 遺構 G・H - 7 区で検出された。平面形は不整形で、北東から南西方向に長軸をもち、長軸333cm、短軸175cm、深さは13cmを計る。断面形は浅い舟底状を呈するが底面は凸である。堆積土は暗褐色砂質シルト1層。出土遺物はない。

S X - 13 遺構 形状はIII層水田遺構関連の、その他の施設 (p. 64) で記述のとおり。杭材は分割材1点と心持ち丸材3点からなり、いずれも末端は加工されている。

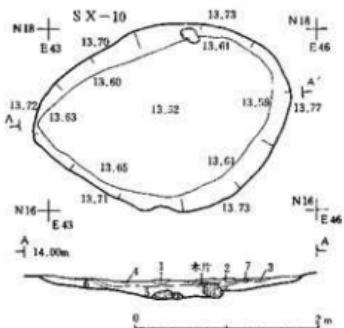
S X - 14 遺構 G - 6 区で検出された。平面形は不整円形で、長軸145cm、短軸113cm、深さは18cmを計る。断面形は浅いU字形を呈する。堆積土はぶい黄褐色の砂質シルト1層。出土遺物はない。

S X - 15 遺構 H - 7 区で検出された。平面形は長軸が北西から南東方向を向く不整橢円形で、長軸118cm、短軸84cm、深さは18cmを計る。断面形は浅いU字形を呈する。堆積土は灰

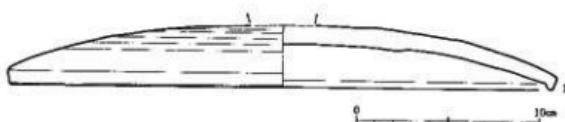


黄褐色砂質シルトと黒褐色シルトの2層からなる。出土遺物はない。

S X-16遺構 H-4・5区で検出された。遺構中央部の西寄りは擾乱坑によって切られている。平面形は長軸が南西から北東方向を向く不整な橢円長方形で、長軸691cm、短軸280cm、深さは34cmを計る。断面形は浅い舟底形を呈する。堆積土は褐灰色のシルト質粘土から暗灰黄色の砂質まで5層に分けられた。出土遺物はない。



第74図 S X-10遺構実測図



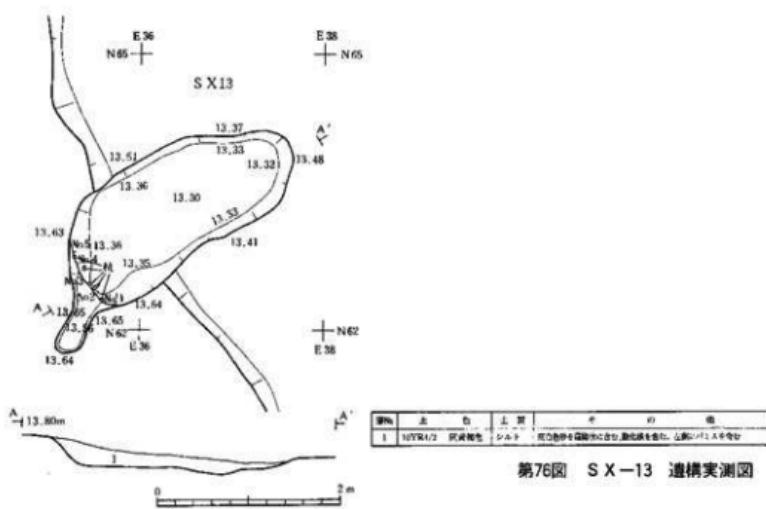
層番	遺物番号	遺物名	出土地點	遺物名	層位	種 類	特 徴	厚 度(cm)	外 観	内 観	写真図版
1	R-15	鉄器	R-8	SX-10	底部層	基 礎	(H-0)	0.3	トサ型鉄劍/ヘクタエツ	カタツムリ	

第75図 S X-10遺構出土遺物実測図

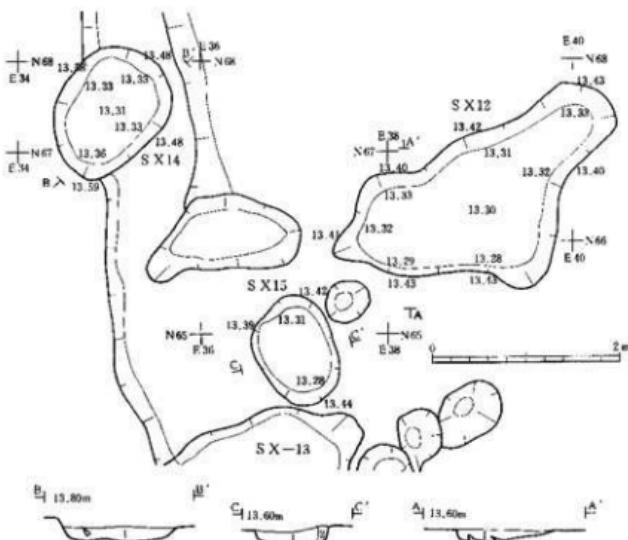
SX-13											
層番	土 名	土 質	そ の 他								
1	MYR3/1	灰褐色	砂質シルト 下層に褐色のシロッカ層を含む。酸化鉄、バミア、マンガンを含む								

SX-14											
層番	土 名	土 質	そ の 他								
1	MYR6/2	灰褐色	砂質シルト 酸化鉄、マンガンを含む。下層に鉄を含む(基木層と思)								
2	MYR2/2	褐色	シルト								

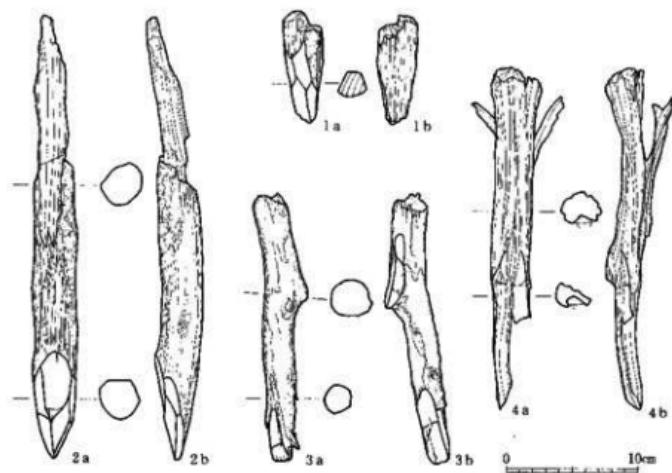
SX-15											
層番	土 名	土 質	そ の 他								
1	MYR4/3	にぼい黄褐色	砂質シルト 酸化鉄、マンガンを含む。石をブロック状に含む								



第76図 S X-13 造構実測図

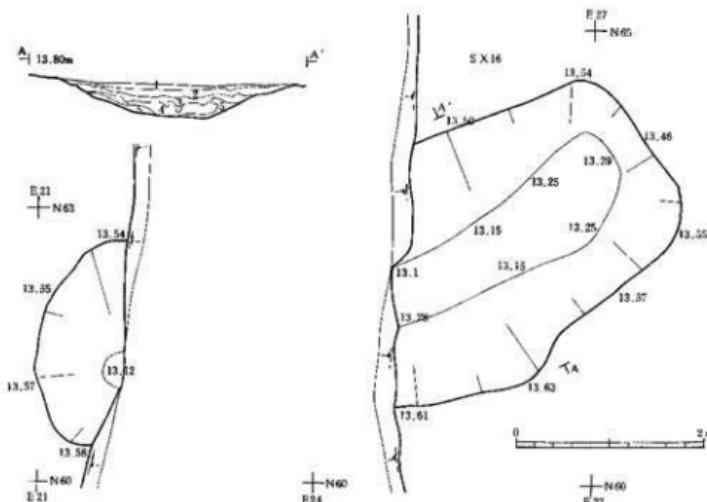


第77図 S X-12・14・15造構実測図



標本 番号	遺物名	基木 位置	出土場所	遺構名	直径(cm)		材 種	木 種 加工	柱 高 度 (cm)	柱 直 径 (cm)	束 考	分 類	草書圖版
					底 径 (cm)	高 度 (cm)							
1	L-92	柱體	H-6m.2	SX-12	8.5	3.0	1.9	柱頭切削	3	2	6.5<		307
2	L-93	柱體	H-6m.2	SX-13	32.8	3.5	2.1	丸材	3	1	6.4	柱頭切削	307
3	L-105	柱體	H-7m.2	SX-13	20.2	2.5	—	丸材	1	2	3.6	柱頭切削	307
4	L-106	柱體	H-7m.4	SX-13	26.2	2.9	2.4	丸材	1	1.7	12.1	柱頭切削	307

第78図 S X-13遺構出土杭材実測図

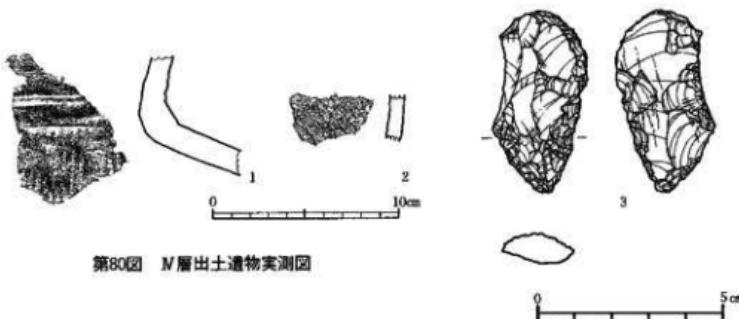


第79図 S X-16遺構実測図

層番号	土色	土質	その他の特徴
1	7.SYR6/1	褐色	シルト質粘土。酸化鉄を多く含む。白色の結晶をわずかに含む。(基本層剖面)
2	2.SY3/1	褐色	シルト質粘土。酸化鉄を多く含む。オーリーク色を示すシルトを細粒に含む。(基本層剖面)
3	5.Y3/1	茶色	Vg.土質シルト。酸化鉄を約10%含む。2層のシルト質粘土を多量に含む(基本層剖面)
4	10.YR3/2	赤褐色	均質シルト。表面に酸化鉄が局的に蓄積している。少量の粗粒混入を含む。
5	2.SY4/2	褐色	中。灰色の粗小粒子を含む。

3. IV 層出土遺物

本調査区のIV層からは出土遺物は少なく、土師器と須恵器の小破片が合わせて数十点と石器1点が出土しているに過ぎない。土師器片にはロクロの使用されているものが多い。出土遺物のうち実測したものを第80図に図示した。



第80図 IV層出土遺物実測図

層番号	遺物番号	遺物名	出土地点	遺構名	層位	種別	特徴	成・量 (cm)			外 国	内 国	参考図	
								上層	中層	下層				
1	R-35	V層	C-F 9-11	耕作跡	耕	土器	無	3.0	8.0	-	印加陶-クロロ陶	ヘタナゲ		
2	E-21	V層		耕作跡	耕	土器	無	2.0	4.3	-	印加陶			
3	X-16	N層	H-7		耕作	耕	河	底	幅	厚さ	底面	石 材	無	参考図
								4.0	2.6	2.0	12.54	突出	274	

4. Va・Vb層検出遺構と出土遺物

1) 遺構の構成

V層ではN20ライン付近を境にして遺構の分布状況が異なっている。N20以北ではVb層が残り、III層の水田耕作により削平が浅い部分で水田跡が検出された。N20以南ではII層直下がVb層またはVI層となり、Va層に関係があると考えられる遺構には数条の溝等があるだけであり、水田に直接関係する畦畔等は検出されなくなる。

水田跡の検出部分において検出された遺構には、畦畔・畦畔痕跡・牛足跡などがある。

2) 水田跡の概要

水田跡の遺存状況 Va 水田跡が検出されたのは N20 ライン付近以北の地域で、ちょうど SD-13 溝跡付近を境にしている。N20 ライン以北の地域でも E24 ライン以西や N60~N78 の間の部分は Va 層から Vb 層が削平されて、畦畔は検出出来なかつた。

畦畔が検出された部分でも V 層の残存状況が様々であったため、削平の程度によって畦畔の検出状況は様々である。また、水田として使用された最終時点と、次のIV層またはIII層の堆積するまでの間に、水田面を切って SD-13・20 の 2 条の溝が掘削されている。

水田の形状と規模 Va 層上面（部分的には Vb 層以下の層の上面）での調査区内の傾斜は、基本的に南側から北側へ下がり、緩く傾斜する。ただし、調査区の北東部の N84 ライン以北では等高線の間隔が狭く、傾斜が比較的急になっていることが分かる。調査区西半部の水田面の勾配は、N36 ライン付近の標高13.80m から N96 ライン付近の標高13.40m までの40cm/60m である。また、東半部の勾配は N18 ライン付近の標高13.75m から N84 ライン付近の標高13.25m までが50cm/60m、N84 ライン付近の標高13.25m から N96 ライン付近の標高13.00m までが25cm/18m である。

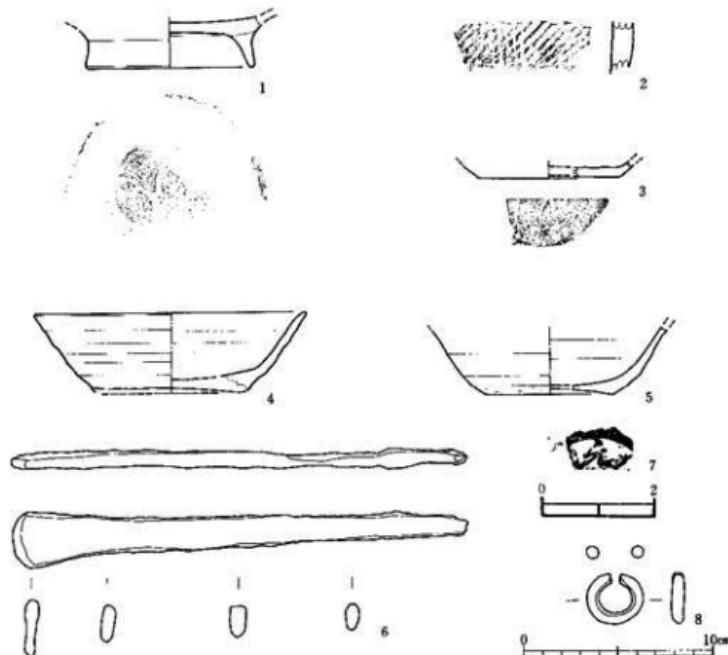
本調査区における水田跡は、畦畔等の規模に大きな差異は認められず、水田の大きなまとまりやその区画を想定することはできない。ただし畦畔の配置、すなわち水田面の形態は地形に即応して 2 通りあるようである。1 つは N18 ライン付近から N72 ライン間にある水田で、畦畔は東西または南北方向に配置され、水田面は水田①～③のように方形または長方形となっている地区である。他は、N72 以北での水田で、畦畔は東西・南北方向というより地形の傾斜に直交もしくは平行して作られ、水田面は水田⑨～⑫のように不整形となっている。これらの水田面を合わせると 14 画以上の水田面が想定される。

畦畔の軸方向は、畦畔 1 で N-88°-E、畦 4 で N-95°-E、畦 6・9・12 で N-1°-E 前後である。

水田 1 面の大きさの想定出来るのは水田②・③だけで、水田②が東西約8.1m、南北約7 m、面積54.8m² を計り、水田③は東西約12.9m、南北約7.7m、面積約96m² を計る。畦畔間の計測できる部分での幅は、水田①で 8 m 前後、畦 3 と畦 4 間で約7.1m、畦 1 と畦 3 間が約9.6m を計る。

畦畔 畦畔は III・IV 層または Vb 層上部を排除する過程で検出されたが、残存状況は次の 3 種類に大別される。1 は断面が台形状をなす高まりをもって残り、畦畔上部に灰白色火山灰が斑状に分布するもので、畦 4・5・6・10・15 等がある。2 は断面が台形状をなす高まりをもつ

て残るが、畦畔上部に灰白色火山灰が検出されないので、畦1・3・16~21がある。3は畦畔の高まりは検出されなかったが畦畔の存在していた部分の両側または片側が僅かに窪み、この部分に灰白色火山灰を含む土層が堆積していたために水田面と畦とを区別出来たもので、畦7・8・9・11~13等がある。残存状況の1と2の差異のできた要因としては、1の灰白色火山灰を含む畦頂部が削平されて2のような状況となったか、あるいは灰白色火山灰の降下後暫くして畦畔の作り替えがなされたために、畦畔上に灰白色火山灰が存在しないものと考えられ



番号	遺物番号	基本層位	出土場所	遺構名	層位	種別	断面	法面 (cm)	外 壁	内 面	外 横	内横	写真図版
1	D-11	V層	L-7			土師器	両台付环	8.8 (2.2)	クロ鉢形、直腹側面斜切 セロカクナメ	直腹側面	ヘラスガキ内横		
2	I-12	V層	L-7			泥器類	環	2.6×7.2 (2.5)	平行4面削	直腹	ロクロ鉢形	229	
3	E-11	V層	K-9			泥器類	环	(14.3) (7.8)	ロクロ鉢形、直底、四脚へテリワ	ロクロ鉢形			
4	E-44	V層				泥器類	环	(14.3) (8.6)	ロクロ鉢形	ロクロ鉢形			
5	E-45	V (D)層	D-11			泥器類	环	(13.4) (8.6)	ロクロ鉢形、直底、四脚へテリワ	ロクロ鉢形			
番号	遺物番号	基本層位	出土場所	遺構名	層位	種別	断面	法面 (cm)	外 壁	内 面	外 横	内横	写真図版
6	N-9	V層	K-8			陶製品	板状製品	残存高24.5cm 幅11.0~3.0cm 厚3.0cm					272
7	N-2	V層	H-6			陶製品	直底	深8.0cm (7.7)	直底盤、直底、深8.0cm (7.7)				272
8	K-3	V層	L-8			陶製品	直底	高さ2.7cm 幅3.0cm 厚0.7cm 重量13.4g 蓋合一部破損					272

第81図 V層出土遺物実測図（1）

る。

畦畔の規模について見ると、残存状況1・2のものの基底部幅で55~100cmまであるが、平均的には幅70cm前後で、畦畔規模の差を認めることは出来ない。残存畦畔の高さは3cm前後。

検出された畦畔の接続部は、N72以南の東西・南北を基準とした畦畔では十字またはT字に交差し、食違って交差する畦畔は認められない。

水口 Va層水田跡は保存状況が悪かったために、水口は検出出来なかった。

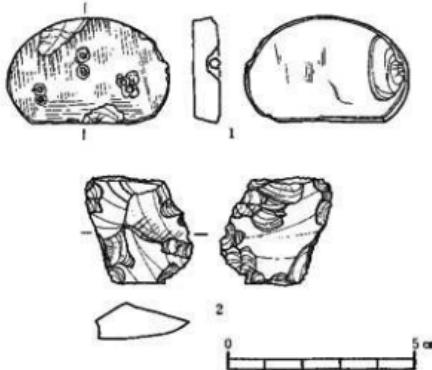
作土 Va層水田跡の作土にはぶい黄褐色のシルト質粘土で、作土下部からVb層上面にかけて灰白色火山灰のブロックまたは粒（径数mmから数cm）を含む。Va層の成因は、Va層に類似するがこの層よりは暗いぶい黄褐色のシルト質粘土であるVb層と、降下後の灰白色火山灰が水田の起耕の際に混ざって、色調がやや白っぽくなつてできたものと考えられる。従つて灰白色火山灰下降以前から水田が営まれていた事実（畦畔状に灰白色火山灰が乗っていることから考えられる。）からすると、Vb層も作土となっていたことが考えられる。

Va層及びVb層の下面には酸化鉄及びマンガンの集積層は検出されなかつた。

水路 Va層水田跡に伴うと考えられる水田は検出されなかつた。また畦畔以外には直接水田跡と関係すると考えられる遺構も検出されなかつた。

出土遺物 Va層出土遺物の大部分は土師器と須恵器の小破片である。図化できるものは少ないが実測したものは第81・82図

に図示した。第81図1は土師器高台付環で、底部は回転糸切痕があり、内面は黒色処理される。2は須恵器甕。3~5は須恵器環で、3の底部は回転ヘラ切りにより切り離される。5は切り離しの後、底部から体部下端にかけて回転ヘラ削りされる。5は棒状というより板状の偏平な鉄製品で、一端が扇状に広がっている。6は元祐通



測定番号	遺物番号	基本層位	出土地区	遺構	層位	種別	測定 (cm・g)			寸	尺	面	号	写真図版
							高さ	幅	厚さ					
1	K-26	V層	H-7			石器	2.40	4.4	0.95	10.40	10.40	10.40	275	
2	K-45	V層	G-8			小形骨器	2.9	2.05	0.95	7.85	7.85	7.85	275	青磁(アンペク磁を含む)

第82図 V層出土遺物実測図 (2)

宝と見られる古銭の破片である。あるいはIII層からの機械坑に落ち込んでいたことも考えられる。8は鍍金された銅製の耳環で、直径7mm程の丸い棒状の素材を块状に丸めて製作している。第82図1は石帶の飾りの石製品である。丸軸と呼ばれるもので、黒色の粘板岩製である。表面は擦痕が無くなるまで研磨され、光沢をもつていて。側面と裏面は平滑になっているが擦痕は残っている。裏面には3箇所に糸穴（潜り穴）が穿孔されている。2は二次加工のされた不定形石器である。

水田跡の時期 Va層水田跡には、畦畔上部や作土下部に10世紀前半下降したと考えられる灰白色火山灰が検出され、これを起耕して作土としていることから、10世紀前半を前後する時期が上限と考えられる。下限は、前述したようにIV層から12世紀から13世紀頃に位置付けられる常滑産の擂鉢が出土していることから、この時期が考えられる。

3) 溝 跡

SD-13溝跡 Oラインの東部のVb層上面で検出されたが、畦1から南に伸びる畦畔を切っていることからVa層水田跡より新しい時期の遺構である。この溝の辺りを境にして南側には灰白色火山灰を含むVa層は分布しなくなる。III層SD-10溝跡に切られる。軸方向はN-87°-Eである。溝の上幅は75~160cm、深さはベルト位置で27cmを計り、断面形は舟底状を呈する。底面の傾斜は東側が西側より15cm低くなっている。

堆積土は灰白色からにぶい黄褐色のシルトないし砂の層からなり、5層に分けられた。出土遺物には第84図に示したように、土師器壺、赤焼土器壺、須恵器壺の各破片がある。



第83図 Vb層検出溝断面図

S D -14溝跡 O・P-2・3区のVb層で検出された。SD-17溝跡とSX-11遺構を切る。軸方向はN-41°-Eである。西南端は浅くなつて無くなる。溝の上幅は2m前後で、深さはベルト位置で13cmを計り、断面形は浅い舟底状を呈する。底面の傾斜は北東側が南北側より9cm程低くなっている。

堆積土は灰黄褐色シルトと砂の混合層で上下2層に分けられる。出土遺物はない。

S D -15溝跡 O・P-3・4区で、SD-14の南東側にこれと平行してVb層で検出された。南西部は浅くなつて無くなる。軸方向はN-43°-Eである。溝の上幅は140cm前後で、ベルト位置で深さ16cmを計る。断面形は浅い舟底状を呈する。

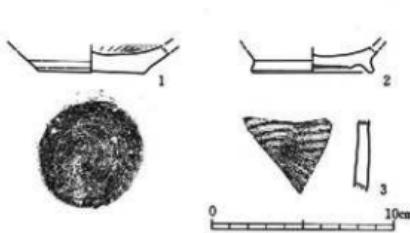
堆積土は疊を含む黒色の炭化物1層で、溝の底面には酸化鉄の集積が認められた。出土遺物はない。

S D -16溝跡 O 5区のVb層で検出された。軸方向はN-4°-Wである。東壁に入りがあるが溝の上幅は50~80cmで、深さはベルト位置で20cmを計る。

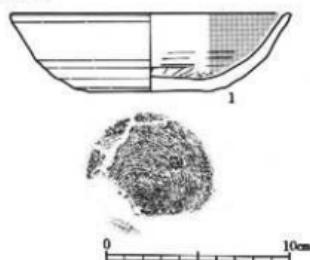
堆積土は褐色から褐色のシルトないし砂層からなり、4層に分けられる。出土遺物はない。

S D -17溝跡 O 3区のVb層で検出された。軸方向はN-106°-Eで、西端をSD-14溝跡に切られ、東端は浅くなつて立上がる。溝の幅は西部で60cm、東部で20cm。深さはベルト位置で4cmを計り、断面形は浅い舟底状を呈する。

堆積土はにぶい黄褐色のシルト質砂1層。出土遺物はない。



第84図 SD-13溝跡出土遺物実測図



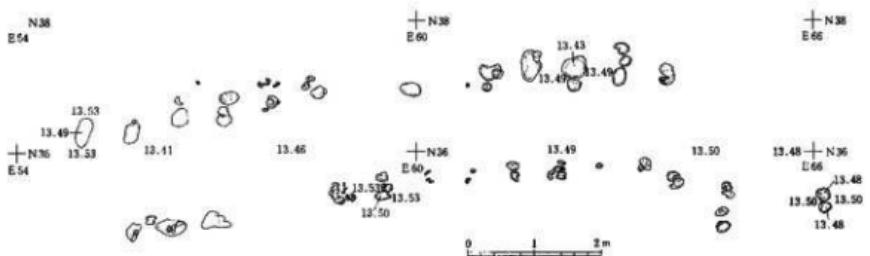
第85図 SD-20溝跡出土遺物実測図

番号	遺物番号	基盤	出土層	遺構名	部位	種別	断面	内 部 (cm)			外 面	内 面	写真
								口径	底径	深さ			
1	D-2	Vb層	O-11	SD-13	土壌層	坪	坪	5.8	(1.1)	ロクロ窓型、底部凹凸有り	黑色粘土へテラギキ窓型		
2	D-14	Vb層	O-11	SD-13	堆積土層	両面付坪	(8.6)	(1.3)		ロクロ窓型			
3	E-41	Vb層	O-11	SD-13	底板層	底	4.2×4.9			平行印痕	青銅鏡文の様な具像		

番号	遺物番号	基盤	出土層	遺構名	部位	種別	断面	内 部 (cm)			外 面	内 面	写真
								口径	底径	深さ			
1	D-9	Vb層	SD-20	土壌層	坪	15.0	5.8	4.2	ロクロ窓型、底部凹凸有り	黑色粘土へテラギキ窓型			260

S D-20溝跡 L-9~12区のVb層上面で検出された。軸方向はN-93°-Eである。東部はL12区のところで二股に別れる。また西側三分の一の部分はピット状の落込みが連続している。これは掘削の痕跡と考えられる。溝の上幅は中央付近で70cm前後、深さはベルト位置で9cmを計り、断面形は舟底状を呈する。

堆積土は灰白色の細砂層1層である。出土遺物には、溝の分岐部の底面から出土した土師器壺がある。(第85図) 底部の切り離しは回転糸切りによるもので、内面は黒色処理がされている。



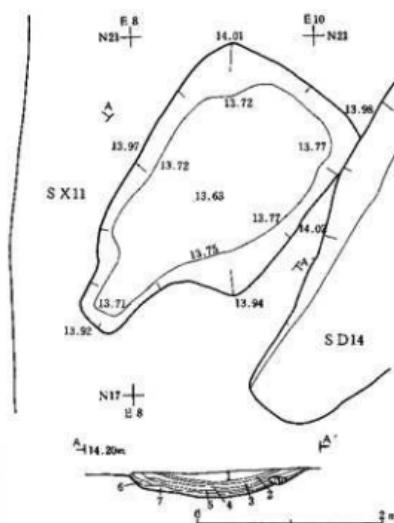
第86図 Vb層上面検出足跡実測図

4) その他の遺構

足跡 この遺構はL・M-10~12区のVb層上面で検出されたものであるが、足跡内の堆積土はVa層に類似し、Va層水印跡に関係する遺構と考えられるので、本項で説明する。

足跡は上記の区域で東西方向に伸びて2列検出されている。各列とも残りの良い部分では2個ずつほぼ平行に並んで検出される傾向がある。形状はかなり不規則であるが、いわゆる馬蹄形を呈するものや「こ」字状を呈するものが認められる。

番号	土色	土質	その他の
1	VTR2/1	褐色	シルト 日本式實地測量法で測定した 直角の距離を表示し 南北の距離を表示
2	VTR2/1	黒色	粘土質シルト 日本式實地測量法で測定
3	VTR2/2	褐色	シルト 日本式實地測量法で測定
4	VTR2/2	灰褐色	シルト 日本式實地測量法で測定
5	VTR2/2	褐色	粘土質シルト 日本式實地測量法で測定
6	VTR2/2	灰褐色	シルト 日本式實地測量法で測定
7	VTR2/1	褐色	シルト マンボンを含む。酸化鉄を含む



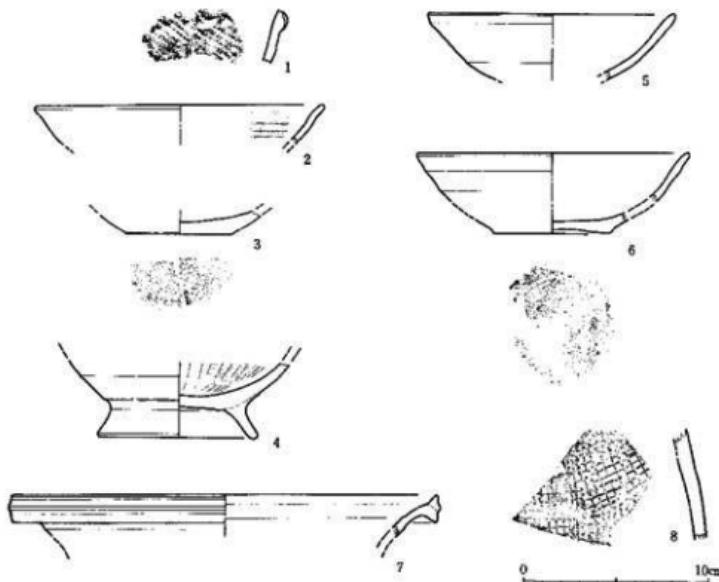
第87図 S X-11構造実測図

形状を良く止どめるものの大きさが、縦が14~20cm、横が11~15cmを計る。これらの足跡は、形態と大きさ及びこれまでの調査例から牛の足跡と考えられる。検出面からの深さは2~3cmから7cmまであるが、Va層上面からではこれに10~15cmプラスした深さとなる。

この様な牛足跡は、調査区の北東部でもV層下のX層上面でも検出されている。

S X-11遺構 O 2区のVb層で検出された。SD-14溝跡に一部を切られる。平面形は南西から北東方向に長軸をもつ長方形を基調とするが、南西辺に突出部をもつ。突出部を含む長軸350cm、短軸196cm、深さ28cmを計り、断面形は舟底状を呈する。

堆積土は4cm前後の薄い土層がレンズ状に堆積し、7層に細分された。7層のうち上部の1~3層は暗褐色から黒色のシルトないし粘土質シルトからなり、下部の4~7層は灰黄褐色から褐灰色シルトないし砂質シルトからなる。出土遺物はない。



番号	遺物番号	層名	川上地区	遺構名	部位	幅 cm	移動	寸法 cm	外観		内観	寸法概要
									幅	高さ	厚さ	
1	B-123	Vb層	D-10		空き土器	2.9×5.9			縦文(乳)交叉的交叉	縦溝		365
2	D-10	Vb層	N-12		土器部	3.5	(15.6)	(2.1)	ヨコアラシ溝	無色透明白	ヘタとガタ調節	
3	V-18	Vb層			土器部	3.6		5.2	(1.0)	ヨコアラシ溝	無色透明白	
4	D-8	Vb層			土器部	3.7		8.4	(4.1)	ヨコアラシ溝	無色透明白	ヘタとガタ調節
5	D-12	Vb層			土器部	3.7	(12.2)	(2.1)	ヨコアラシ溝	無色透明白	ヘタとガタ調節	369
6	E-14	Vb層	M-9		土器部	3.6	(16.6)	6.2	(4.4)	ヨコアラシ溝	無色透明白	ヘタとガタ調節
7	E-10	Vb層	K-2		土器部	3.6	(23.0)	(2.3)	ヨコアラシ溝	無色透明白	ヘタとガタ調節	
8	H-29	Vb層	M-6		土器部	3.6		6.1×7.4	子子山の帶円底			278

第88図 Vb層出土遺物実測図

5) Vb 層出土遺物

Vb 層は、10世紀前半頃に灰白色火山が降下する以前には水田の作土となっていたと考えられる土層である。この層からは第88図に図示したような遺物が出土している。1は弥生土器の口縁付近の破片で、交互刺突による模様帯がある。2～4はロクロによる調整痕跡のある土師器坏で、いずれも内面は黒色処理されている。5は赤焼土器坏片。6～8は須恵器で、6は坏、7は甕口縁部片、8は甕体部片である。坏類についてはいずれも平安時代に属するものと考えられる。ただし Vb 層は、10世紀前半以前に降下した灰白色火山灰を含む Va 層より古いことから、土師器・須恵器類の下限は10世紀前半を下らない時期に位置付けることが出来る。

5. VIIb 層検出遺構と出土遺物

1) 遺構の構成

VIIb 層は N60 ライン以南、E24 ライン以西の地域に分布する。この地域で検出される遺構は、P 2 区から N・O-12 区に向けて東西方向に伸びる水路と考えられる溝 (SD-19) を境にして、その北側と南側では様相が異なっている。すなわち溝の北側では、畦畔が検出されたことにより水田の存在が知られた。他方、自然堤防側に当たる溝の南側はやや標高が高く、この地域の東半部には小溝状遺構と呼称した遺構群が広く分布している。小溝状遺構は後述するように畑の「歎」に係わる遺構の可能性がある。これがそのまま畑であったとすれば、VIIb 層は自然堤防側に畑作地、自然堤防と後背湿地の境付近に東西に伸びる水路、その北側の後背湿地に水田域という遺跡の構成が復元出来る。

このほかの遺構としては数条の溝跡と数基の土坑がある。

2) 水田の概要

水田跡の遺存状況 VII層・VIII層は基本層位のところで既に述べた通り、VIII層の堆積に因って形成された、南西に開く浅い谷状の微地形内に分布している。従って VIIb 層検出水田跡もこの谷状の区域に分布している。分布範囲は I・J-4・5 区付近の谷頭から広がり、北側は N54 ライン付近を北限としてそれ以南の地域、西側は E24～E30 ライン付近が境界となるが、N・O・P 区での境界は不明確であった。南側は P 2 区から N・O-12 区に向けて東西方向に伸びる SD-19 溝跡を水田域の南限としている。VIIb 層は中央付近から南側に移行するにしたがって土層が厚くなるが、谷頭部分から北辺にかけては西または北側に寄るほど土層は薄くなって行き、VII d 層や VIII 層となる。この様な土層の分布にあって、畦畔は谷の中央部分で比較的良く残っている。また、SD-19 溝跡の北岸に沿って幅が広い畦畔が検出されている。M 区ラインと水田

域の周縁部の畦畔の遺存状況は良くない。

水田の形状と規模 VI b 層の水田跡は、検出部では狭隘な谷状の窪地に形成された状況を呈している。VI b 層は調査区の東部へさらに広がっているが、検出部での広さは南北が30m、東西が40mの範囲である。試掘調査において、D15 区ではVI b 層に相当する土層が検出されており、この付近までVI b 層水田跡が伸びていた可能性があるが、J21 区VI層検出の溝跡や J27 区VI層検出の畦畔については、本調査区のVI b 層水田跡と同時期のものであるかどうかは明らかでない。

水田跡となっている範囲のVI b 層は、谷頭から谷の広がりに沿って一度南東方向に下ったのち、検出部の中央付近から北東方向に向きを変えて湾曲しながら下がっている。谷頭から南側の SD-19 溝跡にかけての高い部分の標高は13.65m、一番低い J12 区での標高は13.35m である。この間の傾斜は30cm/42m である。

水田の区画は、谷の傾斜の影響があるにもかかわらず、基本的には東西・南北方向に畦畔を配置して方形ないし長方形の水田区画を形成している。ただし、水田域の縁辺部に接する水田面は、自然地形によって1辺あるいは2辺が制約を受けて不整形になっていたと考えられる。また、畦 6 は他の畦畔の方向とずれて配置され、これに関係する水田面は台形を呈している。検出状況からの概観では、水田の区分けは谷の傾斜に対して平行方向に長軸がくるようにしてある。

水田面は付図-3 に示したように14面以上数えられる。水田⑦・⑧・⑫は傾斜の状況から考えると、検出された区割よりも細かく分けされていた可能性がある。畦 2 から畦 4・12 の間の部分では畦 3 は検出されたが水田面については十分な把握ができなかった。検出された水田面のうち大きさの計れるものは②・④・⑤の3面がある。②は南北約4.2m・東西は中央部で約7 m、面積約28m² を計る。④は南北約4.2m・東西は中央部で約6.4m、面積約27.2m² を計る。⑤は南北約3.9m・東西は中央部で約6.9m、面積約24m² を計る。このほかの主な畦畔間の距離は畦 2 と畦 4 間が約13.5m、畦 10 と畦 11 間が約6.4m、畦 12 と畦 16 間が約4.5m、畦 21 と畦 13 間が約4.8m、畦 13 と畦 17 間が約4 m、畦 18 と畦 15 間が約5.7m、畦 15 と畦 20 間が約19m、畦 16 と北側の非耕作地間が約9.2m、畦 17 と北側の非耕作地間が約6.1m を計る。

畦畔 VI b 層水田跡に伴う畦畔には2種類ある。1は先に述べた水田を区画する畦畔で、水田域に広くみられる比較的幅の狭いものである。他は水路と考えられる SD-19 溝跡の北岸に沿って伸びる幅の広い畦畔である。前者は幅の狭い畦14で基底幅50cm、幅の広い畦13で基底幅110cm を計るが、平均的には基底幅で70cm 前後である。残存する畦畔の高さは3~5 cm であるが、畦13のように10cm 以上あるところもある。

後者の畦は最も広い N 9 区で330cm 計り、N 9 区以東では150~250cm、N 9 区以西では遺

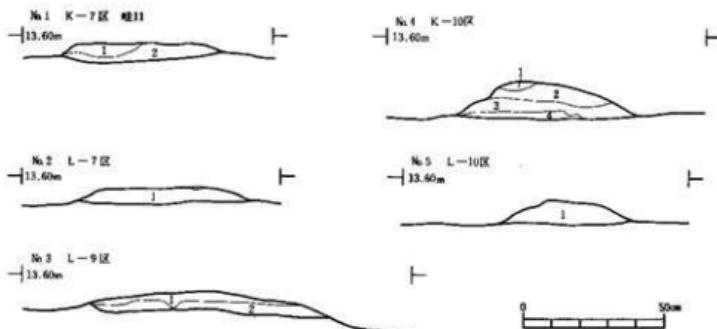


図 No.	土 色	土 質	そ の 他
No. 1-1	10YR4/3 にふい黄褐色	シルト	酸化鉄・マンガンが多く含む。
2	10YR4/3 暗褐色	シルト	酸化鉄・マンガン・わちを含む。
No. 2-1	20YR3/3 暗褐色	シルト	酸化鉄・マンガンを含む。砂をブロック状に含む。
No. 2-2	10YR4/4 褐 色	砂質シルト	酸化鉄・マンガンを多く含む。にふい黄褐色土をブロック状に含む。
2	10YR4/3 暗褐色	シルト	酸化鉄・マンガンを多く含む。
No. 4-1	10YR4/2 灰褐色	砂質シルト	酸化鉄・パミスを含む。
2	10YR4/2 灰褐色	細質シルト	酸化鉄・マンガンを含む。
5	10YR3/2 暗褐色	シルト	酸化鉄・マンガンを含む。にふい黄褐色土をブロック状に含む。
No. 5-1	10YR4/2 にふい黄褐色	砂質シルト	酸化鉄・マンガン・パミスを含む。

第89図 Vb層水田跡畦畔断面図

存状況が徐々に悪くなっている。この畦畔の高さは3~5 cmである。

畦畔の軸方向は、南北畦畔の畦6がN-27°-W、畦8~畦18がN-0°-E、畦10~畦15がN-5°-E、畦11がN-6°-E、畦20がN-7°-E。また東西畦畔の畦13~畦14がN-97°-E、畦16がN-100°-E、畦2がN-89°-Eである。

検出された畦畔の接続の状況について見ると、直交する畦（畦9-7と畦5-8、畦13-14畦8-18等）、T字状に接続する畦（畦11と畦12、畦11と畦16等）、T字状の接続が接近して食違った状態で接続する畦（畦10-15と畦14および畦16）の3種類が認められる。これらの接続部の差異の起因は不明であるが、水田域を区画していく際の手順との関係が考えられる。すなわち、水田域をある程度に区画する際の畦畔は傾斜などの制約があるため、接続部が必ずしも十字に交わらず、食違ったり、T字状に接続する。これに対し、ある程度の区画内を区割りする畦畔は傾斜の影響が少ない為に、十字に交差するような接続部が取れたと思われる。

水口 畦6、畦6と畦7の接続部、畦18の南端部で水口状に畦畔の切れる部分が検出されているが、これが本来水口であったのか、なんらかの要因で後になって畦畔が途切れたものなのか判断できなかった。

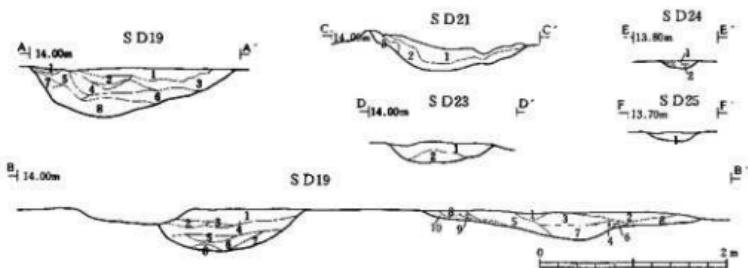
作土 Vb層水田跡の作土は暗褐色のシルトが主体で、幾分粘土が混じっている。層厚は水田域の中心部から南東部にかけては10~15cm程あるが、北部から西部にかけては徐々に薄く

なっていく。作土下面は酸化鉄集積層やマンガンの集積層は認められない。

水路 既に述べたように SD-19 溝跡は、北岸沿って畦畔と接続する畦状の土手(これも畦畔の 1 形態と考えている)を有することから、VI b 層水田跡に伴う水路と判断される。

この溝は、P 2 区から O12 区まで直線的に伸びる溝(以後「SD-19 本流」と仮称する。)と、O 6 区で分岐した後 SD-19 本流の北側に平行して N12 区に向かって伸びる溝(以後「SD-19 北支流」と仮称する。)とからなる。分岐部分での重複は認められなかった。SD-13 溝跡に切れ、SD-24 溝跡を切っている。既に述べた通り SD-19 北支流には北岸に沿って畦畔が付設されている。また SD-19 本流と SD-19 北支流に狭まれた部分も、畦状に高くなっている。溝の軸方向は、本・支流とも N-88°~89°E である。

溝の上幅は西端から分岐部までが 200~270cm、分岐部から東側の本流の上幅は 150~200cm とやや狭まる。SD-19 本流の検出面からの深さは 50cm 前後あり、断面形は舟底状を呈するが、北岸よりも自然堤防側の南岸の立上がりがやや急になっている。底面は西から東に向かって下がり、両端のレベル差は 24cm ある。SD-19 北支流の上幅は 120~170cm で、深さは 30cm 前後あり、断面形は浅い舟底状を呈する。SD-19 北支流の底面も西から東へ向かって下がってお



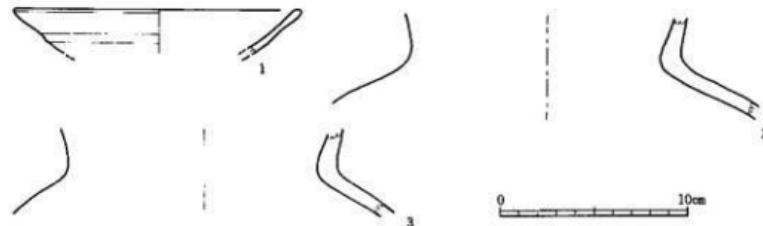
	地盤	土色	上 断	そ の 部
SD-19 A-E'	1	10YR4/3	北岸: 黄褐色 南岸: 灰褐色	砂質の地盤を含む、酸化鉄を少含む
	2	2.5YR4/2	暗赤褐色	シルト 酸化鉄を含む
	3	10YR4/3	にじむ黄褐色	酸化鉄を含む
	4	10YR4/2	にじむ黄褐色	酸化鉄を含む
	5	10YR4/4	褐色	シルト質粘土 酸化鉄を含む、酸化物を少含む
SD-19 B-E'	6	10YR4/3	にじむ黄褐色	3×1.5m の隙間に酸化鉄を含む
	7	10YR4/4	褐色	砂質シルト 酸化鉄を少含む
	8	10YR4/4	褐色	シルト 酸化鉄を少含む
	9	10YR4/2	暗赤褐色	シルト 酸化鉄を少含む
	10	10YR4/2	褐色	3×1.5m の隙間に酸化鉄を含む
SD-19 B-E'	11	10YR4/2	暗赤褐色	シルト質粘土 酸化鉄を少含む
	12	10YR4/2	暗赤褐色	シルト質粘土 酸化鉄を含む
	13	10YR4/3	にじむ黄褐色	シルト 酸化鉄を含む
	14	10YR4/3	にじむ黄褐色	シルト質粘土 酸化鉄を含む
	15	10YR4/2	褐色	シルト質粘土 酸化鉄を少含む

	地盤	土色	土 质	そ の 部
SD-19 B-E'	6	10YR4/2	暗赤褐色	砂質シルト 酸化鉄を少含む
	7	10YR4/2	暗赤褐色	砂質シルト 酸化鉄を含む
	8	10YR4/3	にじむ黄褐色	シルト 酸化鉄を含む
	9	10YR4/3	にじむ黄褐色	シルト質粘土 酸化鉄を含む
	10	10YR4/4	褐色	砂質シルト 酸化鉄を多含む
SD-21	1	2.5YR4/2	暗赤褐色	シルト質粘土 酸化鉄を少含む
	2	10YR4/2	暗赤褐色	シルト 酸化鉄を含む
	3	10YR4/3	にじむ黄褐色	シルト質粘土 酸化鉄を含む
	4	10YR4/2	暗赤褐色	シルト質粘土 酸化鉄を少含む
	5	10YR4/2	褐色	シルト 酸化鉄を少含む
SD-23	6	10YR4/2	暗赤褐色	シルト質粘土 酸化鉄を含む
	7	10YR4/2	暗赤褐色	シルト質粘土 酸化鉄を含む
	8	10YR4/2	暗赤褐色	シルト質粘土 酸化鉄を含む
	9	10YR4/2	褐色	シルト 酸化鉄を少含む
	10	10YR4/2	褐色	シルト 酸化鉄を少含む
SD-24	1	10YR4/2	にじむ黄褐色	シルト質粘土 酸化鉄を少含む
	2	10YR4/2	にじむ黄褐色	シルト 酸化鉄を少含む
	3	10YR4/2	褐色	シルト 酸化鉄を少含む
	4	10YR4/2	褐色	シルト 酸化鉄を少含む
	5	10YR4/2	褐色	シルト 酸化鉄を少含む
SD-25	6	10YR4/2	にじむ黄褐色	シルト質粘土 酸化鉄を少含む
	7	10YR4/2	褐色	シルト 酸化鉄を少含む
	8	10YR4/2	褐色	シルト 酸化鉄を少含む
	9	10YR4/2	褐色	シルト 酸化鉄を少含む
	10	10YR4/2	褐色	シルト 酸化鉄を少含む

第90図 VI b 層検出溝跡断面図 (1)

り、東側が20cm程低い。なお、分岐部と東端部ではSD-19本流とSD-19北支流とのレベル差はそれぞれ10cmと14cmあり本流側が低くなっている。堆積土は本・支流とも第90図のような状況になっている。SD-19溝跡からの出土遺物には、第91図に図示した3点の破片のほか数点の土師器片がある。このうちP5区のSD-19溝跡本流の堆積土の最上部から出土して赤焼土器片(第91図1)については、他のSD-19出土土師器およびVIb層水田作土出土遺物(ロクロ未使用の土師器片数十点と須恵器壺片1点がある。)とは時間差があるようなので、調査時には判別できなかった上層の掘り込みからの混入品の可能性が高く、水田跡及び水路跡の使用年代とは直接関係しないものと考えたい。

出土遺物 VIb層水田跡からの出土遺物は少なく、土師器片十数点と須恵器があるだけである。土師器は壺の体部と口縁部の小破片であるが、いずれもロクロを使用した痕跡は認められない。須恵器は第92図に図示した壺体部の破片で、外面に平行叩目痕、内面に青海波文が観察される。



図面番号	遺物番号	基木区分	出土地区	遺物名	埋位	種別	形状	出 収 (cm)	外 面	内 面	写真回数
1	D-12	VIb層	P-5	SD-19	I	赤焼土器	片	15.4	ロクロ無	ロクロ無	269
2	C-3	同層		SD-19	七輪器	壺	—	13.2	無	ナデ	269
3	C-4	同層	P-4	SD-19	土師器	壺	—	14.9	青焼	無	269

第91図 SD-19溝跡出土遺物実測図



図面番号	遺物番号	基木区分	出土地区	遺物名	埋位	種別	形状	法量 (cm)	外 面	内 面	写真回数
1	E-32	VIb層	G-5	須恵器	壺	—	6.5×12.8	平行叩目痕 青海波文の外側乳突	—	—	270

第92図 VIb層出土遺物実測図

水田跡の時期 VI b 層水田跡は水田層からの出土遺物が少なく、しかも特徴的な遺物がないため、水田層出土遺物によって時期決定は出来ないが、VI b 層上面検出の SK-5 土坑出土の土師器壺（第99図）によって水田跡の時期をある程度限定出来る。SK-5 土坑は VI a 層を堆積した後、VI b 層上面で検出された。また SK-5 土坑周辺の VI b 層上面から出土した土師器片が土坑内から出土した個体と接合したことから、この土坑が上層から掘り込まれた可能性はない。従ってこの遺構の時期は VI b 層が水田として使用を中止（水田放棄）又は停止（刈入れから起耕までの非耕作期間）してから、間層 2 および VI b 層が堆積するまでの間に掘削された遺構であることは間違いない。さらに VI b 層水田跡の畦畔が比較的良く残っていることを考慮にいれると、VI b 層水田の使用が中止又は停止してから VI a 層が堆積するまでの期間は長期に及ぶものとは考えられない。よって SK-5 土坑出土土師器壺（第99図）の年代をもって VI b 層水田跡の下限年代とする。この土師器壺は体部上半から口縁部にかけての破片である。口縁部は一部が残るだけであるが、体部はほぼ一周する。体部は球形を呈し、最大径は体部の中央付近に位置する。頸部と口縁部の境は、外面には僅かに軽い段が観察され、内面は丸くなっている。口縁部は直線的に外傾する。器面調整は体部外面が縦位のハケメ調整をされる。体部内部および口縁部の調整は器面の摩滅のため不明である。この様な特徴を有する土器は、栗廻式土器の特徴と重複する部分が多い。栗廻式土器は現在 7 世紀初めから 7 世紀末頃に位置付けられているので、VI b 層の年代も 7 世紀頃と考えられる。

3) 小溝伏遺溝

分布範囲 小溝伏遺構は SD-19 溝跡（水路）を境にして水田域の南側、自然堤防寄りの調査区南部で検出された。検出範囲は E33 ライン付近以東の地域で、南側と東側は調査区外へ伸びている。北側は N16 から N18 ライン付近まで伸び、各小溝の北端を結んだ線は SD-19 溝跡から 3 m 前後の間を空けて SD-19 溝跡とほぼ平行する。現状の分布範囲は東西 37 m、南北 15 m を計る。

分布範囲の標高は 13.80m から 13.65m まで、南西から北東方向へ緩く（15cm/35m）傾斜する。小溝状遺構の検出された区域の低い所の標高と、水田域の標高が高い所では標高差はない。

方向と重複 本調査で検出された小溝状遺構の方向は大まかに見ると、南北方向に伸びているものがほとんどで、東西方向に伸びているのは、R 8 区に 2 条あるだけである。2 条のうち南側の遺構は南北方向の遺構に切られた状況で検出されたが、北側のものは南北方向の遺構との新旧関係は明らかにできなかった。小溝状遺構の検出された区域のうち E-42 ライン以東では、溝状遺構間で切り合った状況を呈していたが、堆積土が非常に類似していた為に新旧関係

全てを正確に掌握することは出来なかった。このため、溝の方向と新旧関係及び間隔によって小溝遺構を分類し、遺構の形成過程を復元しようとした場合の新旧と、現地調査時点での前後関係の判断による遺構実測図の新旧とは矛盾を生じたところもある。現時点ではどちらが正しいか検証の方法が無いので、以下の分類と新旧関係については試案ということで記述する。

〔第1群〕 軸方向は N-O'-EW から N-6°-W を示し、真北より西に傾斜するのはこのグループだけである。E45 ライン付近以東に分布しており、11条を数える。中軸間隔は 150~190cm まであり 180cm 前後が中心となる。切合い関係では、ほとんどの箇所で切られているので、小溝遺構群の最古のグループと考えられる。

〔第2群〕 軸方向 N-14°-E から N-17°-E を示し、東へ比較的強く傾いている。E57 ライン付近以東に分布しており、8 条くらい数えられる。中軸間隔は 110~190cm まであり 140cm 前後が中心となる。切合い関係では、第1群よりは新しいようであるが、第4・5群との関係は判然としない。ただし、第4・5群が他の群に比べて検出状況が良好で、これが時期的に新しいことによるものであるとすれば、第2群は第4・5群より古いグループと考えられる。

〔第3群〕 軸方向は N-10°-E を示し、第2群程ではないが東に傾斜する。分布としては E42 ~E48 ラインの間に 2 条想定できただけである。中軸間隔は 180cm ある。切合い関係は第4・5群より古いようである。

〔第4群〕 軸方向は N-4~6°-E を主体に N-1°-E から N-6°-E を示し、東へやや傾いている。E33 ライン付近以東に分布しており、25 条くらい数えられるが、このうち西側の 6 条は N3~4 ライン以南には分布するが、このラインより北には伸びて行かず、N43 ライン付近より東側に限って N17 ラインまで掘削が及んでいる。中軸間隔は 100~180cm まであり、150cm 前後が中心となる。

〔第5群〕 軸方向は N-3~5°-E を主体に N-1°-E から N-5°-E を示し、東へやや傾いている。第4群と軸方向の類似性が強い。E33 ライン付近以東に分布しており、26 条を数え、小溝遺構の分布域の全域に渡って分布する。E43 ライン以西の地区でも N6 ラインよりも北側へ

表-7 小溝状遺構の方向と角度別分布

	E42	E48	E54	E60	E66		(度)																	
							3°	4°	5°	6°	7°	8°	9°	10°	11°	12°	13°	14°	15°	16°	17°	18°		
第1群	N-	3°	10°	6°	15°	-W	1	1	2	1	1	2	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	
第2群	N-			1°	16°	17°-E																		2
第3群	S-	10°	10°			-E																		1
第4群	S-	12°	5°	8°	9°	1°-E										2	2	1	3	3	4	1		
第5群	N-4°	5°	5°	5°	5°	5°										1	1	1	9	5				

伸びている。中軸間隔は120~180cmまであるが、140~160cmまでの間隔が中心となる。第5群と第4群との重複は4箇所で認められたが、これも新旧は判然としない。軸方向が非常に類似し、重複部が少ないとすると、一方の小溝遺構群の間に他方の小溝遺構を掘削した可能性がある。より広域な第5群を第4群からの拡大化ととらえた場合、第5群の方がより新しい遺構である可能性が考えられる。

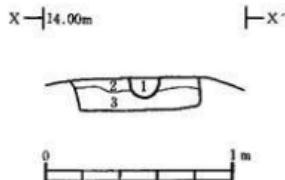
以上のように小溝遺構群は5群に分類された。新旧について若干述べたが、これをまとめると第1群→第2群→(第3群→)第4群→第5群という順が考えられる。第3群は第4群と第5群の以前に位置付けられるが、第1・第2群との関係は全く不明である。

規模 遺構の上幅は16cmから60cmを越すものまであるが、平均的には20~30cmくらいである。深さは3cmから十数cmくらいまである。断面形はU字形ないし舟底形を呈する。底面には細かな起伏が連続して認められるものがあった。また底面の傾斜は北側が10cm前後低くなっている。

堆積土 堆積土は第93図のような暗褐色シルト質砂ないしにぶい黄褐色のシルトからなっており、大体はその地区のVIb層の土壤と類似している。

出土遺物 小溝遺構群からの出土遺物はないが、R11区のVIb層上面で小溝遺構検出の際に土師器片が出土している。(第94図)長胴壺の底部下半分で、外面にはやや幅の広いハケメ調整痕とその後のナデ痕が、内面にはヘラナデによる調整痕跡が見られる。先のSK-5出土神器を栗田式期に位置付けたが、この神器の特徴もこれに矛盾するものではなく、栗田式の特徴も範囲内で考えられるものである。

遺構の時期 小溝遺構はVIb層上面で検出され、さらにVIb層水田跡の水路であるSD-19溝跡から意識的に3m程の間隔をおいて区域の設定が行われ、密接な関係が看取されているの



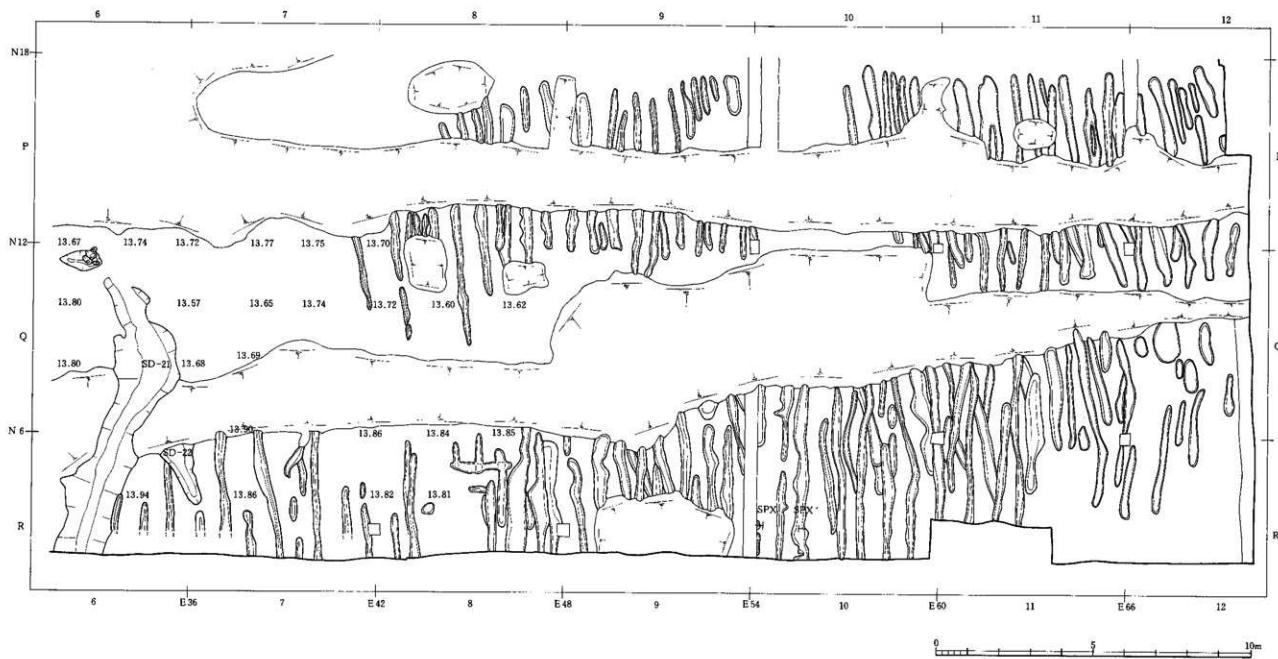
番号	上色	上質	その他
1	10YR5/3 暗褐色	シルト質砂	小溝付陶器底土
2	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト質砂	変化物を少く含む。セメント質
3	10YR4/3 C.21. 黄褐色	シルト質砂	変化を少く含む。セメント質

第93図 VI層小溝状遺構断面図

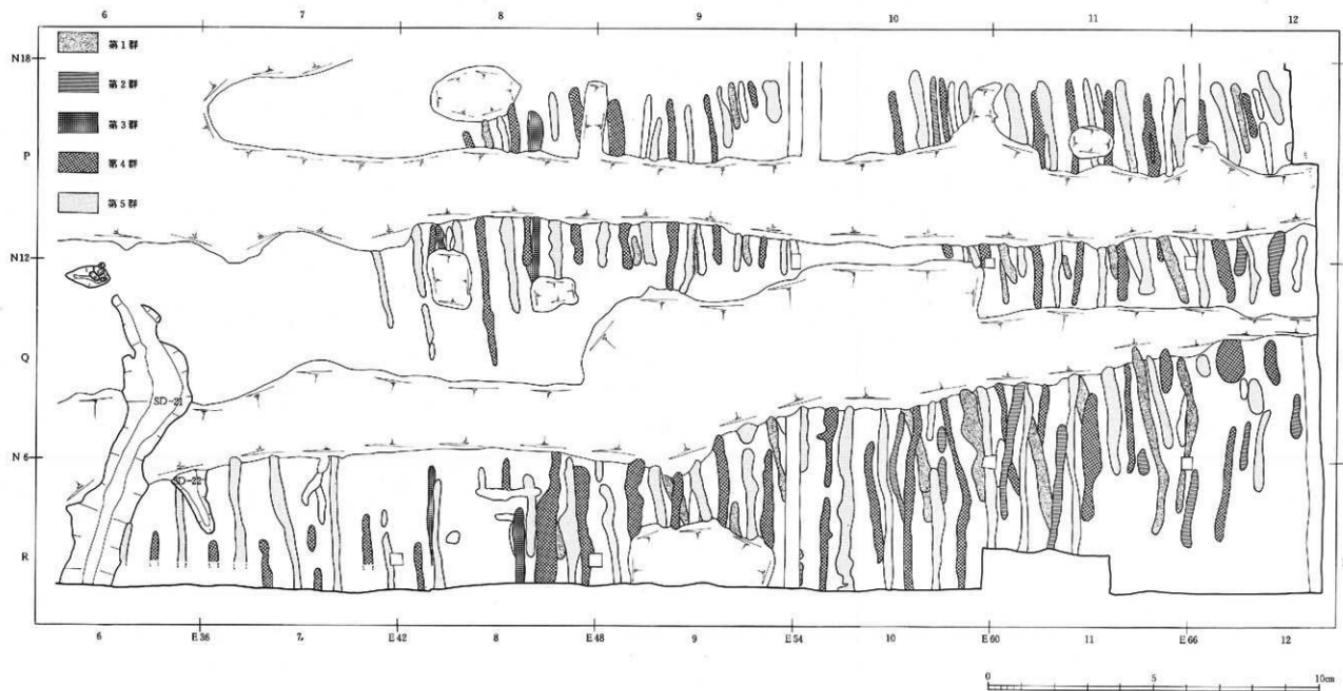


番号	遺物番号	層位	出土地区	遺構名	層位	幅	延長	計量 (cm)	外 質	内 質	参考図版
1	C-2	VIb層	R-11					8.4×0.5	無鉛、ハケメ付ケニア	底部ヘラナデ	360

第94図 VIb層上面出土遺物実測図



第95図 小溝状遺構平面図



第96図 小溝状造構群別分布図

で、VI b 層水田跡と同時期の遺構と考えられる。したがって小溝遺構群の時期も VI b 層水田跡と同じ 7 世紀代のものと考えられる。

なお、小溝遺構については VI b 層の調査終了後、遺構の実測図を見られた宮崎大学の藤原宏志氏から、これが陸稻栽培に関係する遺構の可能性もあると指摘を受けた。そこで遺構の性格究明のため調査区の一部を拡張して小溝遺構を検出し、「古環境研究所」に依頼して小溝遺構周辺の土層のプランクト・オパール分析を行なった。その結果の詳細は後述しているが、陸稻栽培を実証しうるだけのイネのプランクト・オパールは検出されなかった。

4) 溝 跡

SD-19溝跡 VI b 層水田跡の水路で記述の通り。

SD-21溝跡 Q-R-6 区で検出された。小溝遺構を切っている。軸方向は N-28°-E で北東に伸び、途中で N-13°-W 方向に逆「く」字に曲がる。上幅は不規則で一定しないが、削平を受けていない部分で 150~190cm を計る。深さは南端付近で 30cm 前後あり、断面形は舟底形を呈する。底面は南側が北側より 3 cm 程低くなっている。

堆積土は暗灰黄褐色のシルト質粘土又は黄褐色の細砂からなる。出土遺物はない。

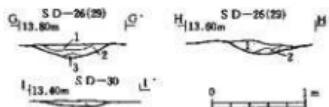
SD-22溝跡 R-6 区で検出された。小溝遺構を切り、SD-9 溝跡に切られている。軸方向は N-15°-E で南東から北西方向に伸びるが、南東部は浅くなっている。北西側がどこまで伸びるかは不明である。上幅は南東部で 40cm、北西部で 90cm を計る。深さは北西端付近で 15cm 前後あり、断面形は浅い舟底形を呈する。出土遺物はない。

SD-23溝跡 L-M-9・10 区の VI b 層水田上面で、畦 4 南側に沿って検出された。両端とも浅くなっている。軸方向は N-94°-E である。上幅は 40~70cm を計る。深さはベルト位置で 20cm あり、断面形は舟底形を呈する。底面の傾斜は認められない。

堆積土はにぶい黄褐色のシルト質粘土又は砂質シルトからなる。出土遺物はない。

SD-24溝跡 M-10~12 区の VI b 層水田上面で検出された。西端は浅くなっている。東端は調査区外へ伸びる。SD-26 溝跡を切る。軸方向は N-98°-E である。上幅は 30~36cm を計るが、西端が徐々に細くなっている。深さはベルト位置で 9 cm あり、底面は東側が西側よりも 5 cm 程低くなっている。

堆積土はにぶい黄褐色のシルト質粘土と砂質



順位	生	白	上	質	その
1	10Y3/5/2	にじむ・黄褐色	砂質シルト	黄褐色土、白色砂を含む	
2	10Y3/6/2	にじむ・黄褐色	砂質シルト	サンゴを含む	
3	10Y3/7/2	にじむ・黄褐色	砂質シルト	サンゴを含む	
4	10Y3/8/2	にじむ・黄褐色	砂質シルト	サンゴを多量に含む	
5	10Y3/9/4	にじむ・黄褐色	砂質シルト	サンゴを多量に含む	
6	10Y3/10/4	明黄色	シルト質砂	砂質、無機化度を含む	
7	10Y3/11/2	じぞう・黄褐色	シルト	アラビカムシナガバの葉	
8	10Y3/12/2	じぞう・黄褐色	シルト	アラビカムシナガバの葉	

第97図 VI b 層検出溝跡断面図（2）

シルト層の2層からなる。出土遺物はない。

S D - 25溝跡 L-10~12区のVIb層水田上面で検出された。両端とも浅くなつて立上がる。SD-26溝跡を切る。軸方向はN-91°-Eである。上幅は44~60cmを計る。深さはベルト位置で10cmあり、底面は東側が西側より5cm程低くなっている。

堆積土はにぶい黄褐色のシルト質粘土層1層からなる。出土遺物はない。

S D - 26溝跡 (SD-29溝跡も同一遺構) K~O-10~12区のVIb層水田土層の下面で検出された。北東部は調査区外に伸び、南西端はSD-19本流に接続して切れる。SD-19北支流・SD-24・25溝跡に切られる。SD-19本流とSD-19北支流間の畦畔部及びSD-19北支流の北側の畦畔部分では畦畔を削った面で検出された。この溝は緩く弧状に弯曲しているため軸方向は決め難いが、検出部の両端を結んだ軸方向はN-31°-Eである。上幅は北東部で60cm前後、南西端で130cmを計り、南西側に寄るに従って徐々に広くなっている。深さはGベルトの位置で15cmあり、断面形は浅い舟底状を呈する。底面は北東側が南西側より低くなつており、両端のレベル差は20cm程ある。

堆積土はにぶい黄褐色の砂質シルト層が主体となり、部分的に明黄褐色シルト質砂も堆積している。出土遺物はない。

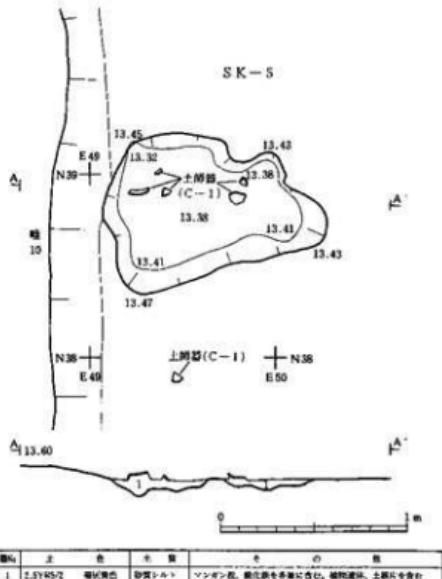
S D - 30溝跡 K-10・11区のVIb層水田層の下面で検出された。

東端は浅くなつて立上がり西端は不明である。SD-26溝跡を切る。軸方向はN-92°-Eである。上幅は55~70cmを計るが、西端は徐々に細くなっている。深さはベルト位置で6cmあり、底面は東側が西側より7cm程低くなっている。

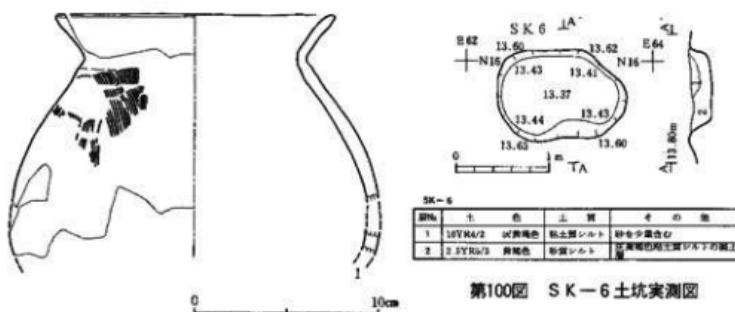
堆積土はにぶい黄褐色のシルト層1層からなる。出土遺物はない。

5) 土 坑

S K - 5土坑 L-9区のVIb層水田跡の上面で検出された。平面形は不整形で東西長軸240cm、南北短軸160cmを計る。底面の起伏



第96図 SK-5 土坑実測図



番号	遺物番号	基木層位	出土地区	遺物名	層位	筆跡	形状	出露 (cm)	外観	内観	参考図版
1	C-1	10YR4/2	L-9	SK-5	1層	土師器	楕円	(25.1)	(33.8)	口縁部クラゲ・伴遺ハケノ	269

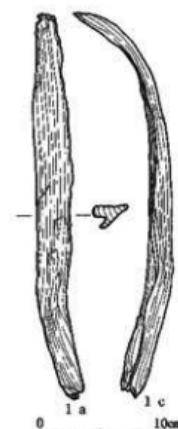
第99図 SK-5 土坑出土遺物実測図

が著しいために、断面形も不整形を呈する。深さは深いところで20cmを計る。

堆積土は暗黄褐色砂質シルト1層からなる。出土遺物にはVIb層水田跡の「水田跡の時期」のところで述べたように、栗頭式期と考えられる土師器壺の上半部の破片がある。(第99図)

SK-6 土坑 小溝状造構とSD-19 溝跡の間のO-P-11区
VIb層上面で検出された。平面形は楕円形を呈し、東西長軸138cm、南北短軸100cmを計る。深さは24cmで、断面形は逆台形を呈する。

堆積土は灰黄褐色粘土質シルト層と黄褐色の砂出土シルト層の2層からなる。出土遺物には堆積土中から出土した分割材と土器片がある。分割材は長さは32cm程で、加工痕跡は認められない。土器は土師器と考えられる細片で11点ある。



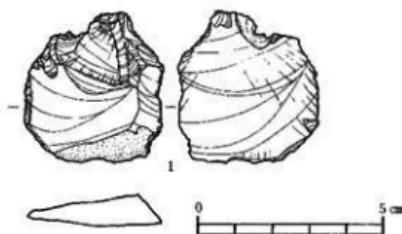
番号	遺物条件	基木層位	出土地区	遺物名	成形 (cm)	筆材	水 庫 加 T.	壁厚 (cm)	底面 (cm)	備 考	参考図版
1	L-168	VIb層	F-11	SK-6	32.2	2.9	1.0	0.5	—	—	—

第101図 SK-6 土坑出土遺物実測図

6) 出土遺物

VI b 層の出土遺物はこれまで遺構の各項で述べた通りである。

このほか IVa 層からはロクロ未使用とロクロ使用の土師器小片及び須恵器小片が出土している。また細別層は不明であるが、大別 VI 層中から不定形石器が 1 点出土している。(第102図)



団体番号	遺物番号	樹木埋立	川土地段	地 境	樹木	種 別	重 量 (kg・g)			石 材	種 号	年月日付
							壳	骨	厚			
1	K-34	有				不定形石器	4.1	3.7	0.85	13.40	青銅	275

第102図 VI層出土遺物実測図

6. VIIb 層検出遺構と出土遺物

1) 遺構の構成

VIIb 層は N60 ライン以南、E24 ライン以西の VIIc 層の堆積によってできた南東に扇形に開く谷状の窪地に分布する。分布範囲は VI b 層と重複するが、VI b 層より全体に狭い。特に南西部の端は E54 ライン付近まで狭まり、調査区の南東隅部にも VII b 層は分布しない。

VII b 層の分布範囲にあって、N18 以北の谷状の地域で水田跡が検出された。水田以外の遺構としては溝跡がある。

2) 水田跡の概要

水田跡の遺存状況 VII b 層水田跡は VII a 層から VII c 層の堆積によって VII b 層水田の耕作による擾乱が比較的少なかった部分と、VI b 層と V 層の水田耕作による影響を受けた部分とがある。擾乱を受けているのは、I~L-5・6 区付近の谷頭部分と調査区南東部の広い範囲である。

VII b 層水田跡の分布範囲は VII b 層の分布範囲と一致し、その外側は VII d 層ないし VIII 層からなる土手状の高まりとなり、これによって水田域の北・西・南西の境が限定されている。土手状の高まりの近くは、後世の耕作の影響が少ないため畦畔の残りが良く、水田の区画を知ることができた。

水田の形狀と規模 VII b 層の水田跡は、VI b 層水田跡よりもさらに狭隘な、北西から南東方向に開く谷状の窪地に形成されている。検出部での広さは東西約43m、南北約37m、谷頭から南東端部まで約46m を計る。試掘調査では VII b 層に対応する層は、J15 区で検出されているが、J21

区及び他の試掘区では検出されていないので、この層水田は東西幅は65mから95mの間であると推察される。

VII b 層水田面の傾斜は、谷頭から一度谷の中心方向である南東に向かって下がった後、谷の北岸に沿って東へ緩やかに下がっていく。またこれとは別に、N 6 区付近から北東方向に下がる傾斜も観察される。谷頭付近の標高は13.50m、調査区東端の低い方の水田の標高は13.25mで、この間の傾斜は25cm/41mである。

水田の区画について見ると、VII b 層水田にあって幅の広い畦7がN36 ライン付近を東西(N-91°-E)方向に伸びて、谷を斜めに区切っており、さらに畦13が畦7に平行していることから、東西・南北方向の区画が意図されたことが考えられる。しかし実際に残っている水田跡は湾曲している谷の縁辺に沿って、谷の傾斜方向に直交もしくは平行した畦畔によって区割りされており、東西・南北方向の区分けが全面に貫徹されていたとは考え難い状況にある。また見様によつては畦7・13も谷の傾斜に直交するようにも受けとれる。

VII b 層水田の区分けとしてとくに特徴的なのは、水田⑤・⑥・⑦・⑧と連なる水田で、谷地形の北岸に沿って湾曲しながら平行して伸びる畦18・14と畦17・13の間を細かく区切つて各水田面を作っている。

水田面は付図-4に示したように15面程数えられる。このうち面積を計り得るのは①・⑥・⑦の3面である。このほか⑤・⑪の2面も不明確ながら面積を推定できる。①は南東から北西方向に長軸を持つ不整長方形の水田面で、長軸4.6m、短軸2.4m、面積8.8m²を計る。北西・北東・南東の3辺に水口が開けられている。⑤も南東から北西方向に長軸を持つ不整長方形の水田面で、長軸約6.4m、短軸1.9~1.25m、面積約9.5m²を計る。水口は検出されなかった。⑥は北西角に溝状の突出部をもつ方形を呈する水田面で、南北2.7m、東西2.9m、面積約8.0m²を計る。水口は検出されなかった。⑦も方形を呈する水田面で、南北2.4m、東西2.2m、面積約5.4m²を計る。東辺に水田⑧と水田⑪に流れる2つの水口が検出された。⑪南北方向に長軸を持つ不整長方形の水田面で、長軸約4.8m、短軸3.35m、面積約13.5m²を計る。東辺に水田⑨と水田⑩に流れる2つの水口が検出された。

このほか水田⑩の東西両側の畦15と畦16の間が2.1m、畦7と畦13の間隔が8m前後、畦12と畦13の間隔が1.6~2.2m、水田⑧の南北両側の畦13と畦14間とは0.6~1.2mを計る。

畦畔 VII b 層水田跡に伴う畦畔には3種類ある。1は畦1・14・18のように谷の縁辺に沿っているもので、畦の幅は畦1の4mから畦18東部の80cmまであり一定していない。この畦畔は土を盛つて作ったものではなく、畦1はⅦb層を削り出したもので、畦14・18はVII b 層を削り残して畦としている。

2は土を盛つて作った畦畔のうち、畦7のように他いに比して幅の広い畦畔である。畦7の

幅は100~175cmを計る。この様な畦畔は水田域を大きく区画する際のものと考えられるが、ほかに明らかにこの類となって大きな区画が設定できるような畦がないので、性格付は十分になしえない。畦10・12等は規模的にはこの類に入れる事も可能である。

3は1と2以外の比較的幅の狭い畦畔である。この類の畦畔の幅は畦13の西半部を除くと35cmから80cm位である。この類のなかには規模的には区別出来ないが、畦17・13のように数面の水田の区分けに係わるように筋を通して作られた畦と、畦19・20のように畦畔の間をさらに区分けする畦とがあるように観察される。

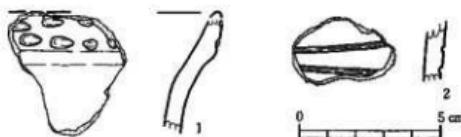
畦畔の軸方向は畦7がN-91°-E、畦13がN-92°-E、畦17がN-114°-E、畦7がN-117°-Eである。

畦畔の接続部は大体は十字に交差しているが、畦10・畦11交点および畦13・畦15交点のような水口が付く部分ではT字状に接続し、1枚の水田面から2枚の水田に水を振分けて流すようしている。残存する畦畔の高さは2~3cmである。

水口 VII b 層水田では水口が9箇所(付図-4中の→印部分)で検出されている。前記したように畦畔がT字状に接続する部分の高位側の畦畔には低位側から接続してくる畦畔の両側に水口が付き、1枚の水田面から2枚の水田に水を振分けて流すようになっている。また畦7と畦8・9が交差する部分を切る水口は、畦7を斜めに切って斜向かいの水田面に水を流している。他には、畦3・4を切る水口のように畦畔の中央に位置するものがある。

水口の特異なものとして、水田①から水田④へ通じる畦2を切る水口がある。ここでは水田①の水口付近から水田④の広い範囲に渡って、水流によって洗掘されたような砂の入った小さな落込みが多数検出されている。

特に施設を伴った水口はない。水口の幅(畦畔上面で計測)は畦2のものが120cm、畦3のものが26cm、畦4のものが49cm、畦7のものが32cm、畦8のものが49cm、水田⑫から水田⑪が101cm、水田⑫から水田⑬が117cm、水田⑦から水田⑪が31cm、水田⑧が76cmを計る。



番号	遺物番号	形状	山古地区	遺物名	部位	種別	寸法	寸法×ヨコ幅(cm)	外観	内観	年代(回)
1	8-23	VII b	K-9		鉢形土器	鉢	7.4×3.5	7.4×3.5	縦縞文	縦縞	26
2	8-21	VII b	K-9		鉢形土器	鉢	6.8×4.1	6.8×4.1	横縞文	横縞	26

第103図 VII b 層出土遺物実測図

作土 VII b 層水田跡の作土は暗褐色を呈する粘土質シルト層である。部分的にVII d 層ないしVIII 層起源の砂をやや多く含んでいる。層厚は中央部周辺で10~20cmを計り、谷の縁辺に寄るに従って薄くなっていく。

水路 VII b 層水田跡に伴う水路跡は検出されなかった。

出土遺物 VII b 層からは、数十点の土器片が出土している。全てが小破片で、しかも磨滅が著しい。口縁部の破片には第103図1に示したような口縁部が肥厚し横位の連続列点文が施されているものと、交互刺突文の施されている破片がある。体部の破片には外面がナデまたはヘラミガキによって平滑になっているものと、繩文が施されているもの、先端の鋭い工具によってハケメ調整されるもの、ヘラケズリされているもの等が混在している。また第103図2のように太めの沈線により模様の描かれているものもある。

これらの土器片には弥生土器と土師器が混在しているものと考えられる。なお、図示した2点の土器は弥生土器と考えられ、このうち口縁部資料B-22については、宮沢遺跡(斎藤吉弘他:1980)出土の弥生土器のうち、天王山式期に位置付けられている第3群に類似が求められる。

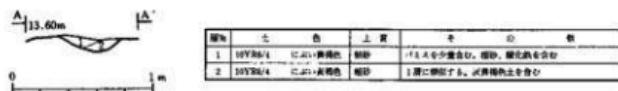
水田跡の時期 VII b 層水田跡からは、前記の通り弥生土器と土師器が混在して出土している。従ってこの水田の下限年代は土師器の使用される時代で、しかもVI b 層水田跡が栗畠式期に位置付けられているので、栗畠式期(7世紀代)以前の古墳時代と考えられる。細かい時期については土師器片がいずれも細片であるため限定し得ない。

上限は、後述するようにVII c 層が弥生後期の天王山式期に相当していることから、弥生後期天王山式期に求められる。

3) 溝 跡

SD-31溝跡 M-8・9区のVII b 層上面で検出された。VII b 層水田畦7の南側に沿って13m程伸び、畦畔の一部を切っている。溝の両端を結ぶ軸方向はN-88°-Eである。上幅は68~117cm、深さ10cmを計る。出土遺物はない。

SD-37溝跡 M-6・7区の畦7直下で畦畔を除去した面で検出された。軸方向はN-



第104図 SD-37溝跡断面図

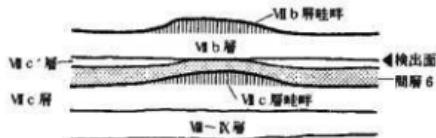
92°-Eである。上幅は東端で49、西端で58cmを計る。深さはベルト位置で8cmを計る。断面形は舟底形を呈する。底面は東端が西端より3~4cm程低い。

堆積土にはぶい黄褐色の粗砂からなるが、下部には灰黄褐色土を含む。出土遺物はない。

7. VIIc'層検出畦畔状遺構

この遺構はVII b層からVII c層に掘り進む過程で検出された。(付図-5参照)調査時点においては「VII b層-VII c層間畦畔」と呼称しており、独立した1時期の水田跡になるのか、VII b層またはVII c層のどちらかに関係する遺構なのか判断出来なかった。独立した1時期の水田跡と認め得なかった理由は、この遺構の畦畔にあたる部分が、人為的に手が加えられた可能性がないため「間層」と呼んで他の基本層と区別をしていた層の一つ(間層6層)であったからである。このため本来の畦畔は、VII c'層の上下どちらかにあると考えたのである。VII b層の畦畔の下部の痕跡とした場合には、VII c'層が広く見られるのに間層6だけが帯状に観察される説明がつかない。そこでこの遺構については第105図の概念図に示したように、VII c層水田畦畔の高まりに対応して間層6も盛り上がりをもつていたため、VII c層上面で間層6が畦畔伏のプランを呈して検出されたと考えたい。ただし、VII c'層及び間層6除去する過程で、このプランに対応するVI c層本来の畦畔を検出できなかったので、VII c層とは別に本項で説明を行なう。

この畦畔状の遺構はN-7・8・9区で検出された。N-96°-Eで東西に16.5m伸びる1条が主軸となり、これに南側に4条、北側に2条程の畦畔伏遺構が枝状に接続している。枝部の間隔は、南側が西から東に向かってそれぞれ約2.8m・1.4m・4.8m・を計り、北側が6.1mを計る。幅は主軸部西端が60cm、中央部が82cm、東端が45cmを計る。枝部は南側の東側のものが44cm、東から2番目のものが52cmを計る。



第105図 VIIc'層検出畦畔状遺構土層概念図

8. VIIc層検出遺構と出土遺物

1) 遺構の構成

VII c層上面は、付図-5にVIII層の堆積によって谷状の窪地が形成されており、谷頭付近では、谷上部と谷底部との落差が30cm前後にもなっている。また、北東側と南北側の両岸は堤防状の

高まりとなっている。この高まりによって調査区は3分割される。北東側の高まりより北側にはVIIc層が存在せず、中央部は谷状の窪地となり南側の地区と分断される。

谷状の窪地では調査区内の谷の末部で数条の溝が検出されている。南西側の堤防状の高まりの南側では大きく蛇行しながら東流する河川跡が検出され、河川跡が南側へ張らんだ部分の北岸側（袂部にあたる部分）で水田跡が検出されている。

2) 水田跡の概要

水田跡の遺存状況 VIIc層の水田跡は調査区南端のQ・R-9区で検出された。前記したようにSR-2・3河川跡が南側へ張らんだ部分の北岸側で、河川跡に囲まれるような状況で検出されている。水田跡と河川跡とはVIIc層上面で検出されているが、配置関係から共存していたとは考えられない。水田跡の方が新しいとすれば、河川跡の確認面で畦畔の続きが検出されようが、これを検出出来ず、河川跡の上部にVIIc層を覆っている間隔5が落込んだ状態で堆積している。このことから河川跡の方が新しく、水田跡を切っていると判断される。

Q・R-9区以外では、新しい時期の造構（SD-9・10等）による擾乱のため、広い地域で検出することは出来なかった。

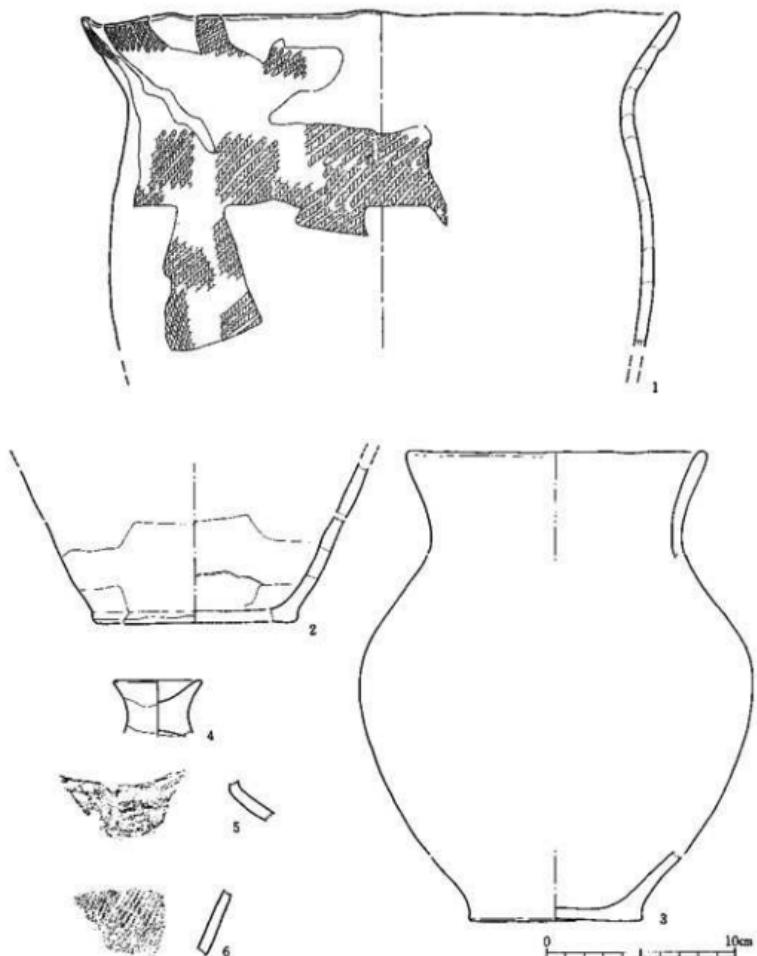
水田の規模と形状 VIIc層のQ・R-9区水田跡はVII層の堆積により形成された南西側の堤防状の高まりの南側に位置する。この段階の本調査区の主要な傾斜は丘陵部からの傾きを強く反映して西から東方向に向かって下がっており、自然堤防からの傾斜の少ないよう見られる。検出された水田面も西から東ないし南東方向の緩やかな傾斜に位置している。北側は堤防状の高まりによって画されるであろうから、N12ライン付近より北側に、調査区内で水田跡は統かないものと思われる。

水田跡の検出された部分の標高は13.45～13.40m付近で、傾斜は5cm/7mで西から東へ向かって下がっている。

水田の区画がどのように計画されたのかは、検出範囲が東西6.5m・南北4.5mと狭いため明らかではない。検出部分で東西・南北方向に畦畔を配置し、方形の水田面を作っている。水田面は5面程想定され、このうち水田①の1面だけが四辺が明らかで、東西2.8m・南北2.3m・面積約6.6m²を計る。他は畦1と畦5の間隔が2.3mを計る。

畦畔 検出部の畦畔は規模において大差なく、全て小規模な畦畔である。基底幅で畦畔1が幅38cm、畦2が幅46～58cm・畦4が幅50cm、畦5が幅48cmを計る。畦の軸方向は畦1～畦2がN-90°-E、畦3がN-1°-E、畦4がN-6°-Eである。

畦畔の接続部分は、畦1～畦2と畦3は直交する。他は検出範囲が狭いため不明である。検出された畦畔の高さは2～4cmを計る。



第106図 VIIc層出土遺物実測図

番号	遺物番号	器表	出土場所	地層名	層位	測定	形状	計 測 (cm)			外 周	内 周	厚さ(回復)
								口径	底径	高さ			
1	B-1	陶器	Q-10・11		御生土層	Ⅱ	(31.4)	(14)	(14)	円錐形小尖起・楕円(L.R.)	縦底		365
2	B-2	陶器	Q-10		御生土層	Ⅱ	(29.9)	(16.6)	(16.6)	縦底	横底		365
3	B-10	陶器	Q-9・Q-10		御生土層	Ⅱ	(31.4)	(19.0)	(19.0)	ナガ	ナガ		365
4	B-34	陶器	Q-10		御生土層	Ⅲ	つきみ幅4.6	(3.0)	(3.0)	縦底	横底		365
5	B-75	陶器	Q-8		御生土層		3.5×7.0			楕円(L.R.)→ミガキ	ナガ		365
6	B-119	陶器	L-11		御生土層		3.6×5.0			楕円(L.R.)	縦底		365

水口 水口は畦2の東寄りの部分で1箇所検出されている。畦畔上面での水口の幅は18cmを計る。水田④が北辺の一部しか検出されていないので確定は出来ないが、調査部でのレベルから見ると水田④から水田②へ移水したように観察される。

作土 VIIc層水田跡の作土は、黒褐色を呈する粘土質シルトである。未分解の植物の痕跡は肉眼では観察されず、泥炭質な状態ではない。作土の下面には酸化鉄やマンガンの集積は認められない。

水路 VIIc層では谷状の窪地の東部や南部地区の西部で溝跡は検出されているが、水田跡に伴う水路跡と考えられる遺構は、本調査区内では検出されなかった。

出土遺物 VIIc層水田跡からの出土遺物は、水田跡が検出されたQ・R-9区の北側から東側に隣接した地区を中心に、作土と同一層から破片となった状態で出土している。破片の数は多く、外面に縄文が施文されたものとそれ以外の調整によるもの、及び磨滅の著しいものが混在しているが、明らかに土師器と判別できる資料はない。実測図を作成したものについて第106図に図示した。1は壺の体部上半から口縁部にかけて破片で、頸部がやや括れ、口縁部は外反して端部がわずかに肥厚する。口縁部には小突起があり、口縁以下の外面には比較的太い捺のLR縄文が施されている。2は壺の体部下半近の破片である。内・外面とも磨滅している。3は壺と考えられる同一個体の体部下端部と口縁付近の破片である。頸部から口縁部にかけては緩やかに外反する。内外面ともナデによって調整される。4は蓋のツマミ部の破片である。5・6はそれぞれLR縄文・RL縄文によって施文されている土器片である。

水田跡の時期 VIIc層水田跡の時期をVIIc層出土土器で検討すると、第106図1は口縁部が肥厚し、さらに小突起が付されている点から天王山式に比定される。3は口縁部が肥厚しないで外反するだけの無文の土器で、このような口縁部の類例は宮沢遺跡（齊藤他：1980）出土資料の中にも見られ、当該遺跡の弥生土器分類の第3群として、天王山式期に位置付けられている。また、VIIc層検出SD-37溝跡から出土した弥生土器も受け口状の肥厚した口縁部となる壺で、口縁の頂部に刻みのある小突起が付き、天王山式期のものと考えられる。資料は少ないが、これらのことからVIIc層の時期は弥生時代後期の天王山式期のなかに位置付けられるものと考えられる。

次に下限と上限について検討すると、下限はVIIc層水田跡を切るSR-2・3河川跡からの出土遺物が参考になる。ここからは第108図に図示したような弥生土器片が出土しているが、VIIb層のように土師器片は出土していない。2はやや幅の広い浅めの沈線で文様が描かれ、天王山式期のものと考えられる土器がある。このことからVIIc層水田跡の下限は弥生後期の天王山式期中にあると判断される。

上限は、下層のVIId層から条の縦走する縄文の施文された弥生土器（第115図4・12）やVIII層

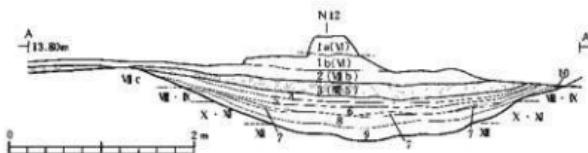
から肥厚した口縁部の下端に、下方向からの連続して押圧の加えられた弥生土器（第125図1・2）。及び小突起を有する肥厚した口縁部の破片（第125図3）が出土していることから、天王山式期を遡るものではないと考えられる。

3) 河川跡

SR-2・3河川跡 検出当初は調査区南東隅を斜めに横切るものをSR-2、調査区南部を西から東へ向かってのび、途中で南に折れるものをSR-3として、別々に遺構番号を付して調査を行なったが、平・断面形態、堆積土の類似、底面の傾斜などの状況から、同一の河川跡であることが明らかになった。

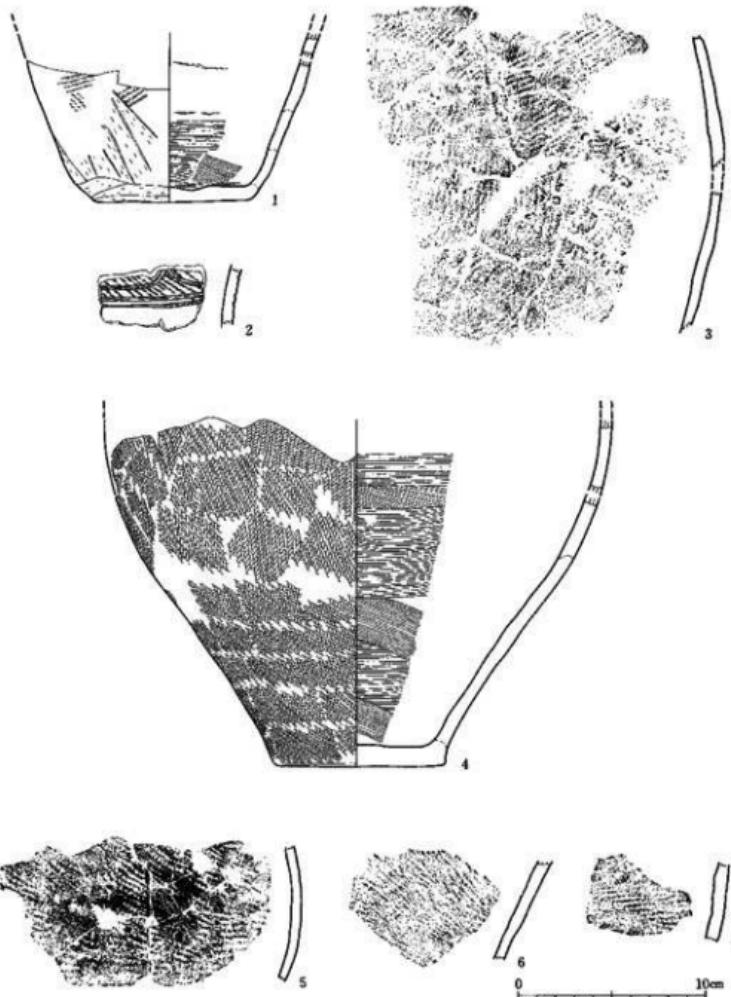
SR-3は河川跡はP2区から東へ伸びるやや細い河川と、O-3・4区から南東に伸びて来る幅の広い河川がP-3・4・5区で合流し、東南東方向へ暫く伸びて、P・Q-8区付近で南に折れてR5区で調査区の外に一度出てしまう。調査区の外では、直ぐに東から北東方向に折れてR-10・11区にふたたび現われて北東方向に伸び、P・Q-12区で調査区の外へ出していく。この間にSD-32溝跡・SD-52溝跡・VIIc脣水田跡を切っている。

河川跡の上面幅は、P2区で140~220cm、P7区で400cm前後、R7区の南壁部分で430cm、Q・R-11・12区で400cm前後、O-3・4区から南東に伸びて来る幅の広い部分が最大で500cm程ある。深さはベルトの位置で80cm前後あり、底面は多層に達している。断面形は舟底状を呈するが、P・Q-3・4・5区では溝状に1段下がっている部分がある。底面の傾斜は西から東に向かって向かって下がっており、両端のレベル差は43cmある。この差は確認面でのレベル差（約20cm）のほぼ2倍である。



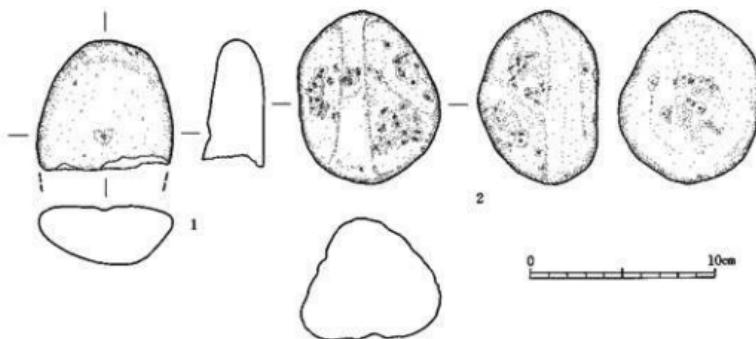
番号	土色	土質	その他の
1a	10YR5/2 灰青褐色	シルト	黒褐色土が部分的にこじら、基部は青褐色
1b	2.5Y5/2 灰褐色	シルト	砂質に近く、基部は青褐色
2	2.5Y5/2 灰褐色	シルト質粘土	基部は青褐色
3	10Y5/2 灰褐色	砂質シルト	草木の枯れ葉と瓦片との間隙（隙縫）
4	10YR5/2 灰褐色	砂質シルト	2.5Y5/2のシルト質粘土と接続している。
5	10YR5/2 灰褐色	シルト質粘土	上面のシルト質粘土と接続している。
6	10YR5/2 灰褐色	シルト質粘土	上部のシルト質粘土と接続している。
7	10YR5/2 灰青褐色	砂質シルト	砂質シルトを含む。上面に炭化物がうすくある。
8	10YR5/2 灰褐色	粘土	砂質シルトを含む。上面にうすい砂の層あり。
9	10YR5/2 灰褐色	粘土	砂質シルトを含む。上面にうすい砂の層あり。
10	10YR5/2 灰褐色	砂質シルト	砂質シルトの硬いくずれか？

第107図 SR-3河川跡断面図



番号	遺物番号	基点	出土地区	遺物名	部位	種別	地質	法面 (m)			外 壁	内 壁	参考図版
								上段	中段	下段			
1	R-7	Wc層	O-6	SR-3	2層	陶土器	固	8.2	(9.0)		無地模様(1)	ナゲ	366
2	B-15	Wc層	P-7	SR-3	2層	陶土器	固	3.4×2.8			無地模様(2)	ナゲ	366
3	B-64	Wc層	P-7	SR-3	3層	陶土器	固	18.0×16.4			無地模様(3)	カーボン付壁	366
4	B-3	Wc層	P-8	SR-3	3層	陶土器	堅	8.7	(8.4)		ナゲ、カーボン付壁	ナゲ	366
5	H-47	Wc層	P-6	SR-3	4層	陶土器	固	7.9×14.7			無文(4)	ナゲ	366
6	H-63	Wc層	P-6	SR-3	4層	陶土器	固	8.0×7.0			無文(5)	無模	366
7	H-114	Wc層	SR-3	4層	陶土器	堅	4.2×2.6			無文(6)	ナゲ	366	

第108図 SR-3河川跡出土遺物実測図 (1)



図版番号	遺物番号	基準層位	出土場所	層	構造	層位	測定	寸法 (cm・g)			石	材	備考	年次
								高さ	幅	厚さ				
1	K-125	地表		SR-3	4層	くびみ器		7.0	7.2	2.2	215.00			297
2	K-126	地表	P-4・7	SR-3	4層	くびみ器		9.3	7.7	6.05	140.25	宝山石		297

第109図 SR-3 河川跡出土遺物実測図（2）

堆積土の状況は、第107図のようになっている。この図からも、VIIc層を広く覆う間層5の堆積時に河川跡は窪みとなっていたことが伺われ、河川の窪みが完全に埋まったのはVIIb層が堆積してからと観察される。また、第107図7層は基本層の間層に類似する土層で、間層6に対応するならば、図の4～6層はVIIc'層時の堆積層に、図の8～10層はVIIc層時の堆積土層に対応することが考えられる。

遺物は主にSR-3側から出土しており、第108図に図示した土器と、第109図に図示した石器がある。土器はいずれも弥生土器の甕または壺の破片である。2は先に記したようにやや幅が広く浅い沈線で文様が描かれた天王山式期の物と考えられる破片である。石器としては、凹石が2点出土している。

4) 溝 跡

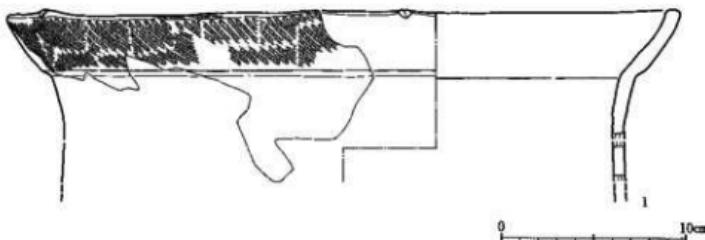
SD-32溝跡 O-P-2・3区で検出された。SR-3河川跡に切られている。軸方向はN-50°-Eである。溝の上幅は55cm前後、深さはベルトの位置で10cmを計り、断面形は舟底状を呈する。底面は南西から北東方向に下がっており、両端部でのレベル差は9cm程度である。

堆積土は灰白色の砂層を挟んで、黒色と黒褐色のシルト層からなる。遺物は、天王山式期の弥生土器甕の頸部から口縁部の破片が底面から出土している。

SD-35溝跡 SD-35溝跡はK-L-9・10・11区で検出されたが、N42ラインとE60ラインの交点付近で西側がY字状に二股に別れている。そこで分岐部から南側に通る方をSD-35a



第110図 VIIc 層検出溝跡断面図(1)



監査番号	発掘番号	基点	川上地区	遺跡名	緯度	緯度	緯度	緯度	底	底	底	底	外	内	年月日
1	SD-4	W4標	P-2	SD-32	北東	北東上部	東	東	36.4	(3.4)	0.5m	0.5m	0.5m	0.5m	2005

第111図 SD-32溝跡出土遺物実測図

溝跡、北側に通る方を SD-35b 溝跡とした。

SD-35a 溝跡は L 9 区の中央付近からやや北に寄りながら東へ伸びる。西端は浅くなつて立上がりする。検出部両端での軸方向は N-91°-E である。溝の上幅は分岐部の西側で 50~60cm 前後あるが、西端部の 110cm 前後と幅が広がる。深さはベルト C の位置で 11cm、ベルト D の位置で 7 cm を計り、断面形はベルト C が逆台形、ベルト D が舟底状を呈する。底面は西から東へ下がっており、両端でのレベル差は 7 cm ある。

堆積土は黒褐色を呈するシルト 1 層で、粗砂を含む。摩滅した土器片が数点出土している。

SD-35b 溝跡は K10 区の中央付近からやや北に寄りながら東へ伸びる。西端は SD-36 溝跡に切られる。検出部両端での軸方向は N-107°-E である。溝の上幅は分岐部の西側で 50cm 前後ある。深さは分岐部の西側の中央部で 2 cm、断面形は舟底状を呈する。底面は西から東へ下がっており、両端でのレベル差は 17cm ある。

堆積土は SD-35a 溝跡と同様であった。出土遺物はない。

SD-36 溝跡 K-10・11・12 区で検出された。SD-35b 溝跡を切っている。軸方向は N-100°-E である。溝の上幅は西部で 40cm 前後、東部で 20cm 前後、深さはベルトの位置で 6 cm を計り、断面形は舟底状を呈する。底面は南西から北東方向に下がっており、両端部でのレベル差は 5 cm 程ある。

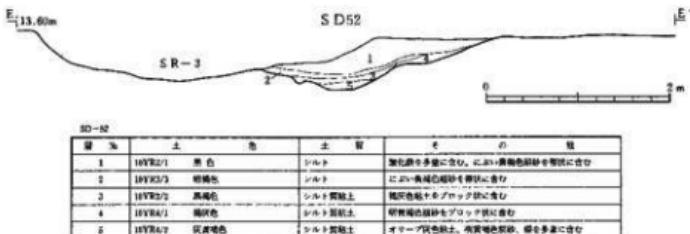
堆積土はにぶい黄褐色を呈するシルト層からなる。出土遺物はない。

SD-47溝跡 N-10・11・12区で検出された。西端は浅くなつて立上がり、東端は調査区の外へ伸びる。軸方向はN-91°-Eである。溝の上幅は110cm、深さは検出部の中央で16cmを計り、断面形は舟底状を呈する。底面の傾斜は認められない、出土遺物はない。

SD-52溝跡 Q・R-7・8区で検出された。SR-3河川跡に東半分を切られる。軸方向はN-4°-Wである。溝の残存部の最大幅は250cm、深さはベルトの位置でVIIc層上面から計測して55cmを計る。断面形は舟底状を呈する。検出部の底面は南から北方向に下がっており、両端部でのレベル差は6cmほどある。

堆積土は上部が黒色から暗褐色のシルト、下部が黒褐色から灰黃褐色を呈するシルト質粘土層からなる。出土遺物はない。

この溝は、規模と検出部の底面の傾斜および深さから見て、直線的な溝であればSR-3の北側に伸びていくはずであるが、実際には検出されなかった。このことからSD-52溝跡はSR-3の古い段階の流路とその堆積物であった可能性も考えられる。



第112図 VIIc層検出溝跡断面図(2)

5) 土 坑

SK-22土坑 L・M-10区で検出された。平面形は北西から南東方向に長軸を持つ橢円形を呈し、北西端をピットにより切られる。検出部で長軸118cm、短軸62cmを計る。断面形は逆台形を呈し、深さは16cmを計る。堆積土は黒色を呈する粘土層1層。出土遺物はない。

SK-23土坑 L-10区で検出された。平面形は南西から北東方向に長軸を持つ不整形を呈し、長軸135cm、短軸69cmを計る。断面形は不整な舟底形を呈し、深さは16cmを計る。堆積土は黒褐色を呈する粘土層が主体となり、南西隅の一部に黄橙色の砂質シルト層が見られる。出土遺物はない。

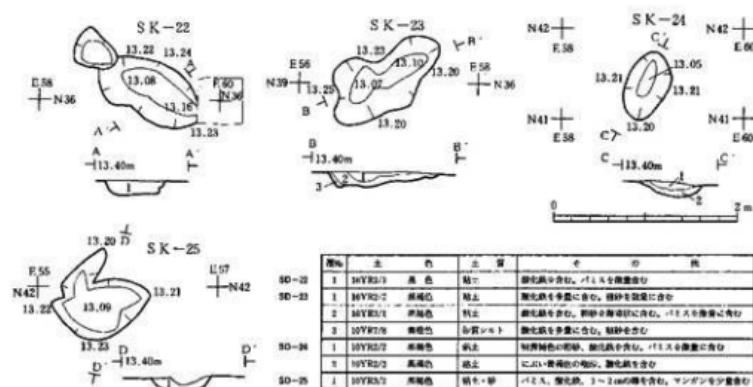
SK-24土坑 L-10区で検出された。平面形は南北方向に長軸を持つ橢円形を呈し、長軸76cm、短軸44cmを計る。断面形は舟底形を呈し、深さは15cmを計る。堆積土は黒褐色を呈する

粘土層からなる。出土遺物はない。

S K - 25 土坑 K・L-10 区で検出された。平面形は北側に突出部を持つ不整形を呈し、東西軸 106cm、南北軸 96cm を計る。断面形は舟底形を呈し、深さは 14cm を計る。堆積土は黒褐色を呈する粘土と砂の混合層である。出土遺物はない。

6) 出土遺物

VII c 層でこれまで述べた以外の出土遺物のうち、実測したものには第 117 図 3 に図示した不定形石器がある。



第 117 図 VII c 層検出土坑実測図

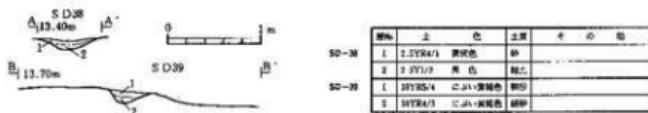
9. VII d 層検出遺構と出土遺物

VII d 層は暗褐色を呈する砂質シルト層であるが、この層は純粋な一次的な自然堆積層ではなく、にぶい黄褐色を呈する砂のⅦc 層と黒褐色を呈する粘土質シルトのⅦc 層が混合して出来た暫移層的な土層と観察され、VII d 層中の砂はⅦc 層に起因すると考えられる。

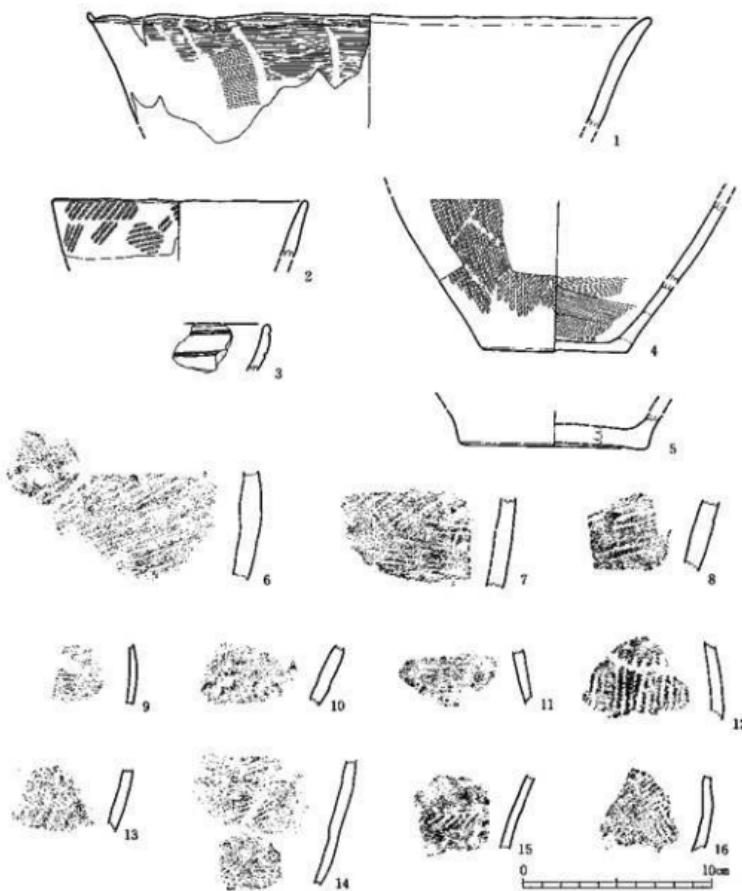
この層の上面では 2 条の溝跡が検出されている。

1) 溝 跡

S D - 38 溝跡 N-O-6 区で、VII 層の堆積によって出来た高まりを横切るような位置で検出された。両端を結んだ軸方向は N-43°-E で、南端は SD-10 溝跡によって切られている。上



第114図 VII d層棲出溝跡断面図



第115図 VII d層出土遺物実測図

番号	遺物番号	基準	出土地区	遺跡名	層性	種別	断面	寸法 (cm)			外観	内観	写真図
								上幅	中幅	底幅			
1	B-3	堆積	O-7			弥生土器	縦	19.9	16.0	ナゲ	縦縫		266
2	B-13	堆積	J-8			弥生土器	縦	13.4	13.0	横縫文 (L)	縦縫		267
3	B-15	堆積	K-11			弥生土器		2.7	3.2	横縫文	縦縫		268
4	B-8	堆積	K-11			弥生土器	縦	7.5	10.0	横文 (KL)	ナゲ		267
5	B-12	堆積	X-11			弥生土器	縦	9.1	11.0	横縫	縦縫		267
6	B-10	堆積	O-7			弥生土器		21.1	19.0	横文 (R)	ナゲ		267
7	B-41	堆積	O-7			弥生土器		4.8	7.2	横文 (R)	ナゲ		267
8	B-42	堆積	O-7			弥生土器		4.9	4.3	横文 (R)	縦縫		267
9	B-46	堆積	O-7			弥生土器		3.2	2.6	横文 (LR)	ナゲ		267
10	B-88	堆積	J-10			弥生土器		3.3	5.2	横文 (LR)	縦縫		267
11	B-94	堆積	L-11			弥生土器		5.2	2.8	横文 (L)	ナゲ		267
12	B-100	堆積	L-11			弥生土器		6.5	5.4	横文 (R)	ナゲ		267
13	B-140	堆積	J-8			弥生土器		3.5	4.5	横文 (LR)	縦縫		267
14	B-95	堆積	O-8	SD-39	底面	弥生土器		7.1	6.2	横文 (LR)、ヨーボン付縫	ナゲ		267
15	B-66	堆積	O-6	SD-38	底面	弥生土器		4.2	4.0	横文 (LR)、ヨーボン付縫	ナゲ、ヨーボン付縫		267
16	B-67	堆積	O-6	SD-38	底面	弥生土器		6.3	4.2	横文 (LR)、ヨーボン付縫	ナゲ		267

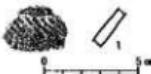
幅は30~145cm、深さはベルト位置で12cmを計る。断面形は舟底形を呈する。底面は南西から北東に下がり、両端部でのレベル差は20cm程ある。堆積土は黄灰色の砂層と黒色の粘土層からなる。堆積土中から摩滅した弥生土器片が十数点出土している。

SD-39溝跡 M・N・O-6区でVII層の堆積によって出来た高まりの東側の縁に沿って検出された。輪方向はN-3°-Wで、南端はSD-38溝跡によって切られている。上幅は18~36cm、深さはベルト位置で13cmを計る。断面形は舟底形を呈する。底面は北から南へ向かって下がり、両端部でのレベル差は7cm程ある。堆積土はにぶい黄褐色の粗砂と細砂層からなる。出土遺物はない。

2) 出土遺物

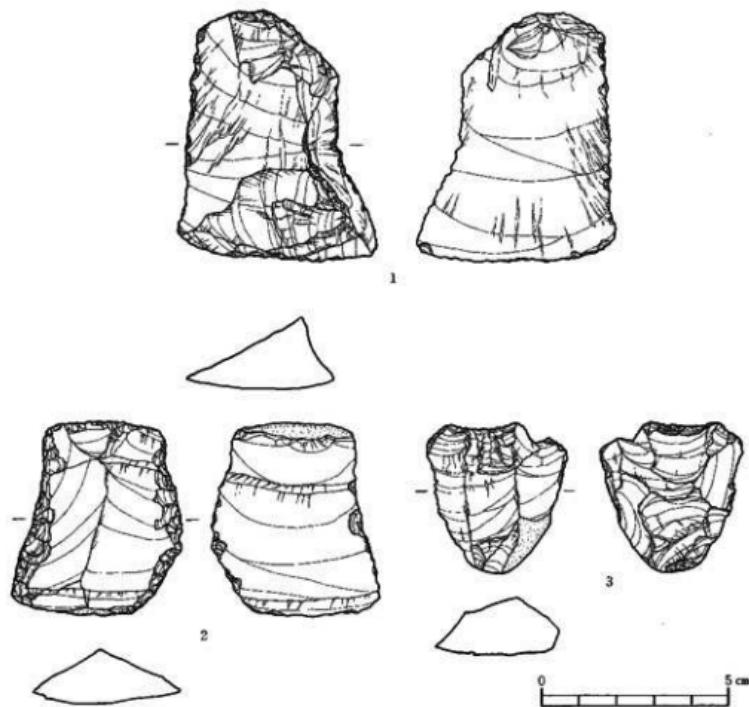
VII d層からの出土遺物には、第115図に図示したようなものがある。いずれも弥生土器片と考えられる。3は口縁の破片で沈線で文様が描かれている。また、4・12には天王山式の特徴の一つとされる条の縦走する縞文が施されている。

VII層からはこれまで図示した遺物のほか、第116図の土器及び第117図1・2の石器のような細別層位の不明な遺物がある。



番号	遺物番号	基準	出土地区	遺跡名	層性	種別	断面	寸法 (cm)			外観	内観	写真図
								上幅	中幅	底幅			
1	B-73	堆積	O-P-2-3			弥生土器		2.3	2.6	横文 (LR)、ヨーボン付縫	縦縫		265

第116図 VII層出土遺物実測図 (1)



試験番号	遺物番号	基本層位	出土地区	遺構	基位	種別	寸法 (cm · g)				石材	番号	平均地盤
							高さ	幅	厚さ	重量			
1	K-42	地盤上部	J-12			半球形石器	6.0	5.4	2.0	68.20	36質無色凸面		275
2	K-43	地盤	K-2			不定形石器	3.35	4.5	1.5	16.90	36質鏡面凸		276
3	K-50	地盤	K-2			不定形石器	4.1	3.8	1.05	16.70	36質鏡面凸		277

第117図 VII層出土遺物実測図（2）

10. VIII・IX層検出遺構と出土遺物

1) 遺構の構成

N54 ライン付近以南の地域ではVII c 層・VII d 層を、N54 ライン付近以北の地域ではV層を排除するとVIII層またはIX層（一部ではX層）が現われる。V層は調査区の北西隅から東南東の方向と南南東の方向へI・J-4・5区で2方向に別れて「入」字状になって堆積している。この土手状を呈する堆積によって、本調査区の中央南寄りには南東方向に扇状に開く谷状の微地形

(窪地) が形成され、以後の堆積層と遺構の形成に影響を与えている。

VIII層のうち東南東の方向に伸びる層は調査区の北東隅を除いて幅広く分布し、調査区中央周辺では層厚が平均的に20cm前後を計る。一方南南東の方向へ伸びている方は土層の幅は比較的狭いが層厚は厚い。ただし N・O-6 区で東南東に折れてから先は、土層の幅がより狭くなるとともに層厚も薄くなり、この先の調査区東端ではVIII層はほとんど見られなくなる。

IX層はVII層の下部に薄く堆積するほか、谷状の微地形(窪地)の南部から調査の南部にかけて分布する。

本項では、VII層除去後のIX層上面では独自の遺構は検出されず、また土層の観察ではVII層とIX層は土質としては砂と粘土という大きな違いはあるが、堆積作用としては一連のもの(いわゆる鉄砲水と考えている)であると判断されたので、上層を除去した跡のVII層とIX層の上面を同一面として遺構の説明を行なう。

VII層・IX層で検出された遺構には、小規模な溝跡と多数の土坑がある。溝跡は全体的に分布するが、土坑は N48 ライン以北(VII層の東南東側土手の北側)に分布している。これらの遺構のうちVII層上面で検出した遺構は、VII層起源の堆積土よりもその他の上層(V・VII層)に起因する堆積土と観察されるものがほとんどである。IX層もこのような状況にあるものと考えられるが、この部分での堆積土は上層との類別は出来なかった。

溝跡と土坑以外には、L・M・M-11 区に南北方向に伸びるIX層の堤防状の高まり(基底幅200~300cm、高さ10cm前後で、両端に溝状の落込みを伴う)があるが、これに付いて谷を塞き止めるための人工的な施設ないのか、一部がX層の大きな畦と重複しているので畦の影響による自然的なものなのか判断できなかった。

2) 溝 跡

SD-5 溝跡 J 9 区で試掘調査の際に検出された。本調査の SD-33 溝跡と同一遺構である。G12 区から M 6 区まで 50m に渡って調査を斜めに横断する。軸方向は N-52°-E である。SK-2 土坑を切る。溝の上幅は 30cm~80cm、深さはベルト C の位置で 11cm を計り、断面形は U 字ないし舟底状を呈する。溝の底面は南西から北東方向に下がっており、両端でのレベル差は 17cm である。

堆積土は場所によって異なり、ベルト C ではにぶい黄褐色シルト質砂、ベルト D では黒褐色シルト質砂となっている。出土遺物はない。

SD-33 溝跡 SD-5 に記載の通り。

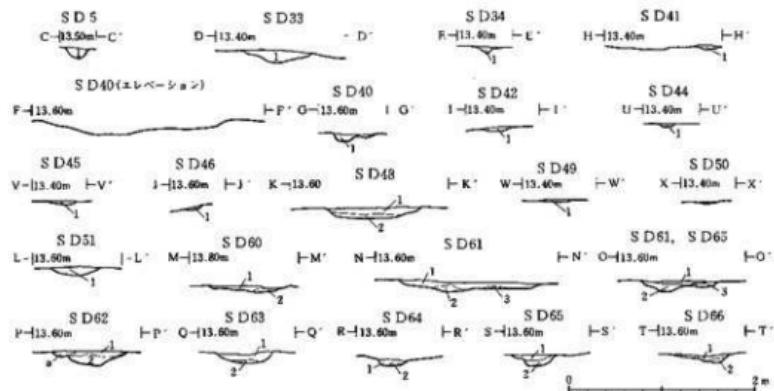
SD-34 溝跡 G・H-10 区で検出された。擾乱坑によって一部を切られる。軸方向は N-5°-E であるが、南端部が南西に折れる。溝の上幅は 25cm 前後、深さはベルト位置で 7 cm を

計り、断面形はV字ないし舟底状を呈する。溝の底面は北から南方向に下がっており、両端でのレベル差は5cmある。

堆積土は黒褐色を呈するシルト層である。出土遺物はない。

SD-40溝跡 谷頭のI・J-5区からK10区まで、VII層の東南東側の土手に沿って、土手から2m程離れたところを、調査区を北西から南東方向に斜めに横切って検出された。SD-33溝跡に切られ、SD-41溝跡を切る。軸方向はN-117°-Eである。溝の上幅は西部の土手部を切ったところが110cm、西部の土手の下が25cm前後、東側が70cm前後、深さはベルトGの位置で8cmを計り、断面形は舟底状を呈する。溝の底面は北西から南東方向に下がっており、両端でのレベル差は16cmある。

堆積土は暗褐色を呈するシルト質砂層である。出土遺物はない。



名	色	性質	名							
SD 5	1. 10YR8/2 深褐色	シルト質砂	オーリーフ高褐色ニオキハシク灰に含む							
SD 33	1. 10YR8/2 黄褐色	シルト質砂	同上							
SD 34	-	-	同上							
SD 41	H-13.40m	I-H	-							
SD 40 (エレベーション)	F-13.60m	J-F G-13.60m I-G	S D 42	I-13.40m J-I	S D 44	U-13.60m J-U				
SD 45	V-13.40m J-V	S D 46	J-13.60m I-J K-13.60	S D 48	J-K W-13.40m	S D 49	J-W X-13.40m	S D 50	X-13.60m J-X	
SD 51	L-13.60m J-L	M-13.80m	S D 60	J-M' N-13.60m	S D 61	J-N O-13.60m	S D 65	J-O'		
SD 62	P-13.60m J-P	Q-13.60m	S D 63	J-Q R-13.60m	S D 64	J-R S-13.60m	S D 65	J-S T-13.60m	S D 66	T-T'
SD 66	3	10YR8/2 深褐色	シルト質砂	10YR8/2/1 黑色	SD 61	10YR8/2 黑褐色	シルト質砂土			
SD 67	2	10YR8/2 黄褐色	シルト質砂	10YR8/2/1 黑色	SD 61	10YR8/2 黑褐色	シルト質砂土			
SD 68	3	10YR8/2 深褐色	シルト質砂	10YR8/2/1 黑色	SD 61	10YR8/2 黑褐色	シルト質砂土			
SD 69	2	10YR8/2 黄褐色	シルト質砂	10YR8/2/1 黑色	SD 61	10YR8/2 黑褐色	シルト質砂土			
SD 70	3	10YR8/2 深褐色	シルト質砂	10YR8/2/1 黑色	SD 61	10YR8/2 黑褐色	シルト質砂土			
SD 71	2	10YR8/2 黄褐色	シルト質砂	10YR8/2/1 黑色	SD 61	10YR8/2 黑褐色	シルト質砂土			
SD 72	3	10YR8/2 深褐色	シルト質砂	10YR8/2/1 黑色	SD 61	10YR8/2 黑褐色	シルト質砂土			
SD 73	2	10YR8/2 黄褐色	シルト質砂	10YR8/2/1 黑色	SD 61	10YR8/2 黑褐色	シルト質砂土			
SD 74	3	10YR8/2 深褐色	シルト質砂	10YR8/2/1 黑色	SD 61	10YR8/2 黑褐色	シルト質砂土			
SD 75	2	10YR8/2 黄褐色	シルト質砂	10YR8/2/1 黑色	SD 61	10YR8/2 黑褐色	シルト質砂土			
SD 76	3	10YR8/2 深褐色	シルト質砂	10YR8/2/1 黑色	SD 61	10YR8/2 黑褐色	シルト質砂土			
SD 77	2	10YR8/2 黄褐色	シルト質砂	10YR8/2/1 黑色	SD 61	10YR8/2 黑褐色	シルト質砂土			
SD 78	3	10YR8/2 深褐色	シルト質砂	10YR8/2/1 黑色	SD 61	10YR8/2 黑褐色	シルト質砂土			
SD 79	2	10YR8/2 黄褐色	シルト質砂	10YR8/2/1 黑色	SD 61	10YR8/2 黑褐色	シルト質砂土			
SD 80	3	10YR8/2 深褐色	シルト質砂	10YR8/2/1 黑色	SD 61	10YR8/2 黑褐色	シルト質砂土			
SD 81	2	10YR8/2 黄褐色	シルト質砂	10YR8/2/1 黑色	SD 61	10YR8/2 黑褐色	シルト質砂土			
SD 82	3	10YR8/2 深褐色	シルト質砂	10YR8/2/1 黑色	SD 61	10YR8/2 黑褐色	シルト質砂土			
SD 83	2	10YR8/2 黄褐色	シルト質砂	10YR8/2/1 黑色	SD 61	10YR8/2 黑褐色	シルト質砂土			
SD 84	3	10YR8/2 深褐色	シルト質砂	10YR8/2/1 黑色	SD 61	10YR8/2 黑褐色	シルト質砂土			
SD 85	2	10YR8/2 黄褐色	シルト質砂	10YR8/2/1 黑色	SD 61	10YR8/2 黑褐色	シルト質砂土			
SD 86	3	10YR8/2 深褐色	シルト質砂	10YR8/2/1 黑色	SD 61	10YR8/2 黑褐色	シルト質砂土			
SD 87	2	10YR8/2 黄褐色	シルト質砂	10YR8/2/1 黑色	SD 61	10YR8/2 黑褐色	シルト質砂土			
SD 88	3	10YR8/2 深褐色	シルト質砂	10YR8/2/1 黑色	SD 61	10YR8/2 黑褐色	シルト質砂土			
SD 89	2	10YR8/2 黄褐色	シルト質砂	10YR8/2/1 黑色	SD 61	10YR8/2 黑褐色	シルト質砂土			
SD 90	3	10YR8/2 深褐色	シルト質砂	10YR8/2/1 黑色	SD 61	10YR8/2 黑褐色	シルト質砂土			
SD 91	2	10YR8/2 黄褐色	シルト質砂	10YR8/2/1 黑色	SD 61	10YR8/2 黑褐色	シルト質砂土			
SD 92	3	10YR8/2 深褐色	シルト質砂	10YR8/2/1 黑色	SD 61	10YR8/2 黑褐色	シルト質砂土			
SD 93	2	10YR8/2 黄褐色	シルト質砂	10YR8/2/1 黑色	SD 61	10YR8/2 黑褐色	シルト質砂土			
SD 94	3	10YR8/2 深褐色	シルト質砂	10YR8/2/1 黑色	SD 61	10YR8/2 黑褐色	シルト質砂土			
SD 95	2	10YR8/2 黄褐色	シルト質砂	10YR8/2/1 黑色	SD 61	10YR8/2 黑褐色	シルト質砂土			
SD 96	3	10YR8/2 深褐色	シルト質砂	10YR8/2/1 黑色	SD 61	10YR8/2 黑褐色	シルト質砂土			
SD 97	2	10YR8/2 黄褐色	シルト質砂	10YR8/2/1 黑色	SD 61	10YR8/2 黑褐色	シルト質砂土			
SD 98	3	10YR8/2 深褐色	シルト質砂	10YR8/2/1 黑色	SD 61	10YR8/2 黑褐色	シルト質砂土			
SD 99	2	10YR8/2 黄褐色	シルト質砂	10YR8/2/1 黑色	SD 61	10YR8/2 黑褐色	シルト質砂土			
SD 100	3	10YR8/2 深褐色	シルト質砂	10YR8/2/1 黑色	SD 61	10YR8/2 黑褐色	シルト質砂土			

第118図 VII・IX層検出溝跡断面図(1)

SD-41溝跡 K-9・10区で検出された。SD-40によって西端を切られ、東端は浅くなつて立上がる。軸方向はN-94°-Eである。溝の上幅は26cm前後、深さはベルト位置で4cmを計り、断面形は舟底状を呈する。

堆積土は黒褐色を呈する砂質シルト層である。出土遺物はない。

SD-42溝跡 K-9・10区で検出された。西端は浅くなつて立上がり、東端はIX層の堤防状の高まりの北端付近まで伸びる。軸方向はN-114°-Eである。溝の上幅は20~38cm、深さはベルト位置で4cmを計り、断面形は舟底状を呈する。溝の底面は西から東方向に下がっており、両端でのレベル差は7cmある。

堆積土は暗褐色を呈する粘土質砂層である。出土遺物はない。

SD-43溝跡 J・K-10・11・12区にある方形に一段下がる部分の北辺に沿って、J-11・12区で検出された。溝跡と言うよりも落ち込み一部とも取ることもできる。上面の幅は28cm前後、深さは西端近くの段の上から計って5cmある。底面は西から東方向に下がっており、両端でのレベル差は5cmを計る。

SD-44溝跡 N-7・8・9区で検出された。浅い溝で、切れ切れに検出された。軸方向はN-93°-Eである。溝の上幅は20cm前後、深さはベルト位置で3cmを計り、断面形は舟底状を呈する。溝の底面にはレベル差はほとんどない。

堆積土は灰黄褐色を呈する砂質シルト層である。出土遺物はない。

この溝跡は、VIIc層で検出された畦畔状の遺構のうち、東西方向に伸びるもののが南縁に沿って位置している。この位置関係に着目すると、SD-44はこの畦畔状遺構(VIIc層畦畔を反映した間層6)の実体と考えられるVIIc層畦畔を盛り上げるために掘削の痕跡の可能性が指摘される。これが正しければSD-45・46溝跡についても、位置・規模・堆積土・方向の類似性から同様の性格が考えられる。

SD-45溝跡 N-O-8・9区で検出された。両端は浅くなつて立上がる。軸方向はN-105°-Eである。溝の上幅は30~52cm、深さはベルト位置で4cmを計り、断面形は浅い舟底状を呈する。溝の両端の底面にはレベル差はない。

堆積土は灰黄褐色を呈する砂質シルト層である。出土遺物はない。

SD-46溝跡 O-7区で検出された。両端は浅くなつて立上がる。軸方向はN-106°-Eである。溝の上幅は15~30cm、深さはベルト位置で3cmを計り、断面形は浅い舟底状を呈する。溝の両端の底面にはレベル差はない。

堆積土は灰黄褐色を呈するシルト質粘土層である。出土遺物はない。

SD-48溝跡 O-P-9・10・11区で検出された。VIII層の堤防状の高まりの南縁に沿って西から東へ伸びた後、P10区中央で北東へ折れて、VIII層の高まりを斜めに切る。両端とも浅くなつ

て立上がる。途中に南東方向に伸びる溝状の突出部がある。溝の上幅は86~140cm、深さはベルト位置で10cmを計り、断面形は浅い舟底状を呈する。溝の底面は西から東へ下がり、両端のレベル差は15cmある。

堆積土は黒褐色の砂質シルト褐灰色を呈するシルト層からなる。出土遺物はない。

SD-49溝跡 O・P・11・12区で、とぎれながら「形に折れて検出された」。軸方向は東西辺がN-87°-E、南北辺がN-23°-Wである。溝の上幅は13~30cm、深さはベルト位置で3cmを計り、断面形は浅い舟底状を呈する。溝の底面のレベル差は、南端より東端が5cm程低い。

堆積土は褐色を呈するシルト層である。出土遺物はない。

SD-50溝跡 O-11・12区で検出された。軸方向はN-90°-Eである。溝は上幅は20~28cm、深さはベルト位置で2cmを計り、断面形は浅い舟底状を呈する。溝の底面そのレベル差は、西端より東端5cm程低い。

堆積土は黒褐色を呈するシルト層である。出土遺物はない。

SD-51溝跡 I・J・K-3区で、VII層からX層に渡って検出された。J3区では試掘調査の際には検出できなかった。南端は南東方向へ折れ、両端は浅くなつて立上がる。溝の上幅は20~56cm、深さはベルト位置で9cmを計り、断面形は浅い舟底状を呈する。溝の底面は北から南へ下がり、両端のレベル差は10cmある。

堆積土は黒褐色のシルトと粗砂層からなる。出土遺物はない。

SD-60溝跡 G-3・4区で検出された。不整な溝で、両端とも浅くなつて立上がる。軸方向はN-93°-Eである。溝の上幅は52~115cm、深さはベルト位置で8cmを計り、断面形は浅い舟底状を呈する。溝の底面にはレベル差はない。

堆積土は黒褐色を呈する砂質シルト層と黒色の粘土層からなる。出土遺物はない。

SD-61溝跡 D-E-4~7区で検出された。不整な溝で、数箇所に突出部があり、両端とも浅くなつて立上がる。SD-65溝跡を切っている。軸方向はN-94°-Eである。溝の上幅は30~204cm、深さはベルトNの位置で10cmを計る。溝の底面は西から東へ下がつており両端のレベル差は10cmある。

堆積土はベルトNの位置で3層、ベルトOの位置で2層に分けられたが、いずれもこの付近のVII層の上層であるV層水田跡の作土に類似している。従つてこの溝に付いてはV層関連の遺構と考える。この様な堆積土の状況はSD-62・63・64・65溝跡においても同様であり、一連の遺構と考えられる。出土遺物はない。

SD-62溝跡 E-4~7区で検出された。SD-61溝跡と同様に不整な溝で、突出部がある他、西端部は二股に別れる。両端とも浅くなつて立上がる。SD-63・64溝跡との切合の前後

関係は明らかではない。両端を結んだ軸方向は N-89°-E である。溝の上幅は28~118cm、深さはベルト位置で15cm を計る。溝の底面は西から東へ下がっており両端のレベル差は 6 cm ある。

堆積土はベルト位置で黒褐色から暗褐色の粘土質砂層から砂層まで 3 層に分けられた。このうち第118図 P-P' の a 層に灰白色火山灰が認めることから、この遺構が平安期のものであることが分る。出土遺物はない。

SD-63溝跡 E-4~6 区で検出された。不整な溝跡で突出部がある他、細かく蛇行する。両端は浅くなつて立上がる。両端を結んだ軸方向は N-84°-E である。溝の上幅は24~133cm、深さはベルトの位置で 8 cm を計る。溝の底面は西から東へ下がっており両端のレベル差は 5 cm ある。

堆積土は黒色のシルト質粘土と粘土層からなる。出土遺物はない。

SD-64溝跡 D-E-6・7 区で検出された。SD-62 溝跡の北側に接して平行し、両端は浅くなつて立上がる。両端を結んだ軸方向は N-86°-E である。溝の上幅は24~92cm 深さはベルトの位置で 7 cm を計る。溝の底面は西から東へ下がっており両端のレベル差は 4 cm ある。

堆積土は灰黄褐色のシルト質砂層と黒色の粘土層からなる。出土遺物はない。

SD-65溝跡 D-E-6・7 区で検出された。SD-61 溝跡に切られ、両端は浅くなつて立上がる。両端を結んだ軸方向は N-91°-E である。溝の上幅は38~74cm、深さはベルト O の位置で 6 cm を計る。溝の底面は西から東へ下がっており両端のレベル差は 4 cm ある。

堆積土はにぶい黄褐色の砂層からなる。出土遺物はない。

SD-66溝跡 D-6・7 区で検出された。西から東へ 3 m ほど伸びた後、北へ折れて調査区のそとへ伸びる。西端は浅くなつて立上がる。溝の上幅は33~63cm、深さはベルトの位置で 9 cm を計る。溝の底面のレベル差は認められない。

堆積土は極暗褐色の砂質粘土層と、黄褐色の砂層からなる。出土遺物はない。

3) 土 坑

SK-2 土坑 J 9 区で検出された。SD-2 (33) 溝跡を切っている。平面形は東西方向に長軸をもつ不整橢円形を呈し、長軸294cm、短軸174cm を計る。深さは20cm で、断面形は逆台形を呈する。堆積土は黒褐色のシルト質粘土 1 層からなる。磁石が 1 点出土している。

磁石は一端が楔状に尖った四角柱を呈するもので、全面に擦痕が観察される。(第119図)

SK-11 土坑 H 5 区で検出された。平面形は 8 字状を呈し、小さい方の南北長軸102cm、短軸76cm、大きい方の南長軸207cm、短軸184cm を計る。深さは大きい方で18cm を計る。断



留置番号	遺物番号	基木番号	出土地区	場 標	附註	種 別	寸 法 (cm・g)			外 面	内 面	備 考	参考文献
1	K-33	0000	J-9	SK-2		瓦 破	長さ	幅	厚さ				778

第119図 SK-2 土坑出土遺物実測図

面形は不整形を呈する。堆積土は暗褐色の砂質シルト層からなる。出土遺物はない。

SK-12土坑 G-H-6区で検出された。平面形は南東から北東方向に長軸をもつ梢円形を呈し、南西端部に直径45cm程の略円形の突起部が付く。長軸231cm、短軸113cmを計る。深さは19cmで、断面形は不整形を呈する。堆積土は暗褐色のシルト層からなる。遺物は堆積土中よりロクロ使用の土師器環片が1点出土している。従ってこの遺構はV層またはそれよりより上の層から掘り込まれたことが分る。



留置番号	遺物番号	基木番号	出土地区	遺物名	部位	種 別	寸 法	重 量 (kg)	外 面	内 面	備 考	参考文献
1	D-17	0000	G-H-6	SK-12	土師器	片	口径 幅 厚	136.0 (3.1)	ロクロ調査	裏地貼糊、ヘリシガラ調査		

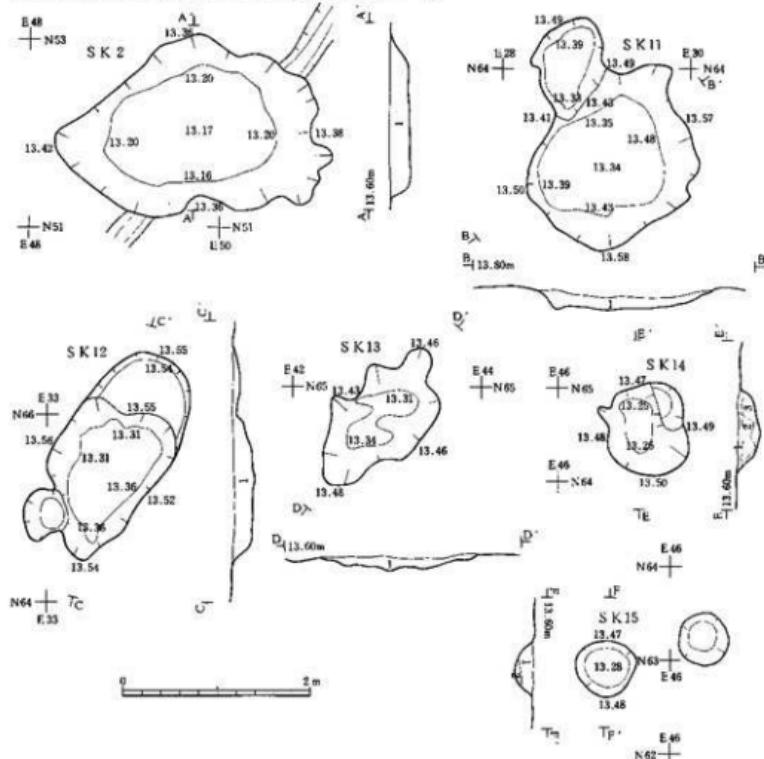
第120図 SK-12 土坑出土遺物実測図

SK-13土坑 H 8区で検出された。平面形は不整形を呈し、南北長軸175cm、短軸100cmを計る。深さは15cmで、断面形は不整形を呈し、底面は凹凸が著しい。堆積土はにぶい黄褐色の砂質シルト層からなる。出土遺物はない。

SK-14土坑 H 8区で検出された。平面形は不整梢円形を呈し、南北長軸98cm、短軸86cm

を計る。深さは24cmで、断面形は舟底形を呈する。堆積土は3層に分けられ、灰黄褐色からにぶい黄褐色の砂質シルトないしシルト層からなる。出土遺物はない。

S K-15土坑 H 8区で検出された。平面形は円形を呈し、南北軸60cm、東西軸65cmを計る。深さは19cmで、断面形は舟底形を呈する。堆積土は2層に分けられ、褐色のシルト質砂層とにぶい黄褐色の粗砂層からなる。出土遺物はない。

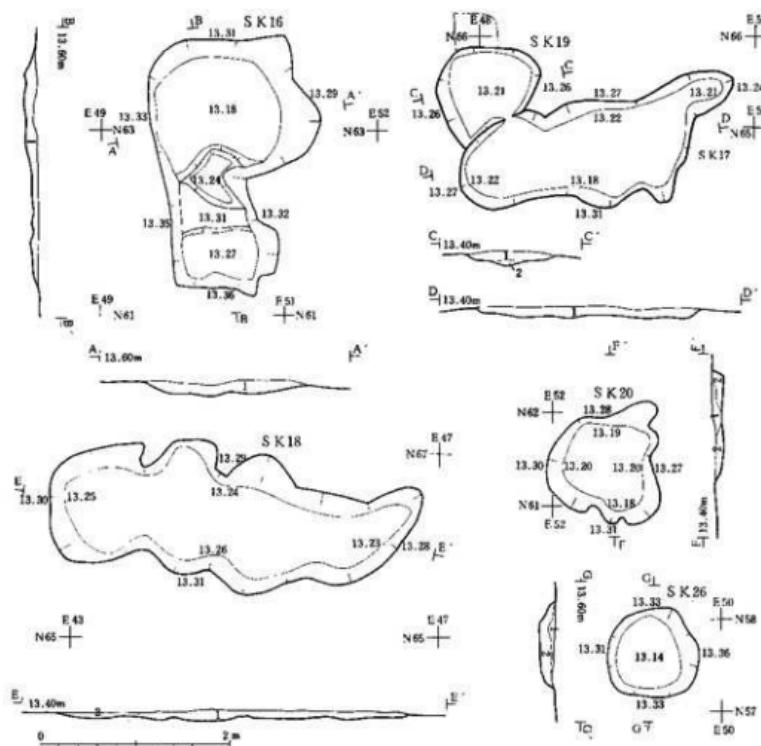


坑名	土 色	土 質	その他の
SK-2	1 10YR5/2 黄褐色	シルト質粘土 軟化鉢、バクスを含む	
SK-11	1 10YR3/2 黄褐色	砂質シルト 天台の粗砂をブロック状に含む。バクス、軟化鉢、マンダンを含む	
SK-12	1 10YR5/3 黄褐色	シルト じぶい、黒褐色を軟化鉢に含む。バクスを多量に含む。軟化鉢を含む	
SK-13	1 10YR4/2 こぶし青褐色	砂質シルト バクスを含む。軟化鉢、マンダンを含む	
SK-14	1 10YR5/2 灰褐色	砂質シルト 軟化鉢を多量に含む。バクス、マンダンを含む	
SK-15	2 10YR4/2 芦葉緑色	シルト 軟化鉢、マンダンを含む	
	3 10YR4/2 こぶし青褐色	砂質シルト 鉢を多量に含む。鉢を含む。バクスを多量に含む	
	4 10YR4/4 鮎色	シルト質粘土 バクスを多量に含む。軟化鉢を含む	
	5 10YR7/2 こぶし青褐色	砂質 8.2~20cmの鉢を多量に含む	

第121図 VII・IX層検出土坑実測図(1)

SK-16土坑 H-9区で検出された。平面形は「形を呈し、南北軸263cm、東西軸は北側で182cm、南側で114cmを計る。深さは14cmで、断面形は不整な舟底形を呈す。堆積土は黒褐色のシルト質粗砂層からなる。出土遺物はない。

SK-17土坑 H-8・9区で検出された。SK-19土坑を切る。平面形は不整梢円形を呈し、

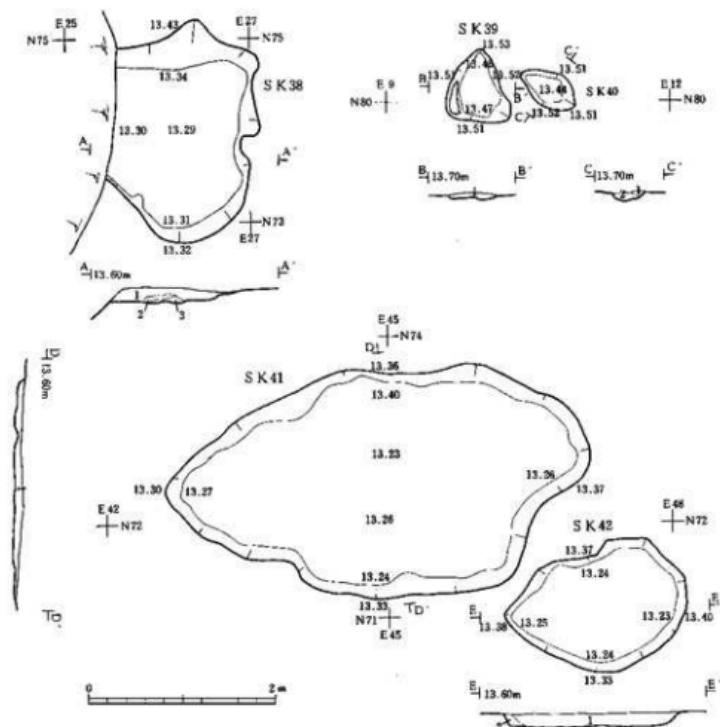


地図	土色	土質	特徴
SK-16	10YR3/2 黒褐色	シルト・砂質	黒褐色シルト、葉枯れ土を含む。5mm粒のパラスを多く含む。
SK-18	1 10YR3/2 黒褐色 2 10YR4/2 深黒褐色	シルト質粘土	灰褐色の粘土ブロック状に含む。バニスを含む。
SK-19	1 10YR3/1 黒褐色 2 10YR4/2 深黒褐色	シルト質粘土	黒褐色シルトをブロック状に含む。
SK-20	1 10YR3/2 黒褐色	粘土	細粒を含む。
SK-26	1 10YR4/3 ないし黒褐色 2 10YR4/2 黑褐色	粘土・シルト シルト	灰褐色シルト質粘土をブロック状に含む。下層に黑色粘土を含む。 灰褐色粘土質シルトをブロック状に含む。バニスを含む。礫を含む。

第122図 VII-X層検出土坑実測図(2)

東西長軸310cm、南北短軸は113cmを計る。深さは12cmで、断面形は逆台形を呈す。堆積土は黒褐色のシルト層からなる。出土遺物はない。

SK-18土坑 G・H-8区で検出された。SK-19土坑を切る。平面形は不整な長楕円形を呈し、東西長軸393cm、南北短軸は150cmを計る。深さは12cmで、底面には凹凸がある。堆積土は暗褐色と灰黄褐色のシルト質砂層からなる。出土遺物はない。



層	土色	土質	特徴
SK-38	1 HYTR2/1 黒色	粘土質砂	
	2 HYTR2/2 黒色	粘土質砂	
	3 HYTR6/4 黒褐色・黄褐色	砂	
SK-39	1 HYTR6/2 黄褐色	砂	暗褐色粘土を含む
SK-40	1 HYTR6/2 黄褐色	砂	暗褐色粘土を含む
SK-41	1 HYTR5/1 黑褐色・黄褐色	砂質シルト	
SK-42	1 HYTR2/2 黑褐色	砂質シルト	
	2 HYTR5/3 黑褐色	砂	

第123図 VII・IX層検出土坑実測図（3）

SK-19土坑 H-8・9区で検出された。SK-17土坑に切られる。平面形は不整な長円形を呈し、東西軸111cm、南北軸110cmを計る。深さは16cmで、断面形は舟底形を呈する。堆積土は黒褐色シルト層と灰黄褐色の砂疊層からなる。出土遺物はない。

SK-20土坑 H-9区で検出された。平面形は不整形で、東西軸117cm、南北軸127cm、深さは12cmを計る。堆積土は黒褐色の粘土層と、にぶい黄褐色の粗砂とシルトの混合層からなる。弥生土器と見られる燃糸文の施された土器片が1点出土している。(第125図17)

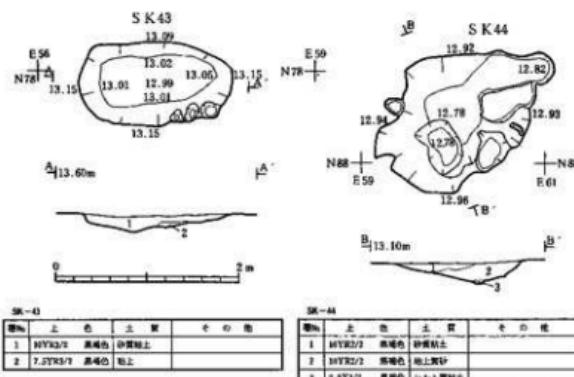
SK-26土坑 I-9区で検出された。平面形は円形を呈し、東西軸97cm、南北軸95cmを計る。断面形は舟底状を呈し、深さは16cmである。堆積土はにぶい黄褐色と灰黄褐色の粗砂の層からなる。出土遺物はない。

SK-38土坑 F-5区で検出された。平面形は不整形を呈し、西辺は擾乱坑に切られる。残存東西軸151cm、南北軸240cmを計る。深さは14cmである。堆積土は黒色の粘土質砂とにぶい黄褐色の砂層からなる。出土遺物はない。

SK-39土坑 E-2区で検出された。平面形は隅丸三角形を呈し、東西軸69cm、南北軸76cmを計る。深さは6cmである。堆積土は灰黄褐色の砂層からなる。出土遺物はない。

SK-40土坑 E-2区で検出された。平面形は北西から南東方向に長軸を有する不整橢円形を呈し、長軸65cm、短軸37cmを計る。断面形は舟底状で、深さは8cmである。堆積土は灰黄褐色の砂質シルトと砂層からなる。出土遺物はない。

SK-41土坑 F・G-8区で検出された。平面形は東西方向に長軸を有する不整橢円形を呈し、長軸450cm、短軸240cm、深さは8cmを計る。堆積土はにぶい黄褐色の砂質シルト層1層。出土遺物はない。



第124図 VII・IX層検出土坑実測図(4)



器物番号	遺物	採取部位	出土地点	遺物名	部位	種別	長さ	幅	厚さ	外観		内面	写真説明
										口端	腹端		
1	B-37	堆積上部	P-10	野生土器		片打	4.1×3.0			磨文 (BL)	→斜面	ナゲ	267
2	B-38	堆積上部	P-10	野生土器		片打	3.7×3.0			磨文 (BL)	→斜面	ナゲ	267
3	B-31	堆積	J-8	野生土器		片打	7.2×3.4			口縁部斜面付	磨滅	ナゲ	267
4	B-32	堆積	L-O-9-6	野生土器	鉢	7.4×6.0				磨文	磨滅	ナゲ	267
5	B-14	堆積	X-11	野生土器	鉢	(9.6) (2.3)				磨滅		ナゲ	267
6	B-57	堆積	N-7	野生土器		片打	2.8×1.9			磨文 (L)	カーボン付	ナゲ、ヘラナゲ	267
7	B-34	堆積	N-7	野生土器		片打	4.4×5.2			磨文 (L)	カーボン付	磨滅	267
8	B-48	堆積	N-7	野生土器		片打	19.8×10.1			磨文 (L)	カーボン付	ナゲ、ヘリナゲ、斜面	267
9	B-50	堆積	N-7	野生土器		片打	8.3×4.9			磨文 (L)	カーボン付	磨滅	267
10	B-49	堆積	N-7	野生土器		片打	4.5×7.7			磨文 (L)		ナゲ、ヘラナゲ	267
11	B-51	堆積	N-7	野生土器		片打	4.8×3.9			磨文 (L)	カーボン付	ナゲ、ヘラナゲ	267
12	B-53	堆積	N-O-6	野生土器		片打	3.1×7.1			磨文 (L)		磨滅	267
13	B-22	堆積	N-7	野生土器		片打	3.7×2.9			磨文 (L)		ナゲ、ヘリナゲ	267
14	B-29	堆積	N-9	野生土器		片打	5.4×7.0			磨文 (BL)		磨滅	267
15	B-30	堆積	L-8	野生土器		片打	5.0×7.2			磨文 (L)		磨滅	267
16	B-57	堆積	L-O-9-6	野生土器		片打	5.3×6.0			磨文 (L)		磨滅	267
17	B-78	堆積	SK-38 1層	野生土器		片打	2.7×3.2			磨文 (BL)		磨滅	267

第125図 VII層出土土器実測図

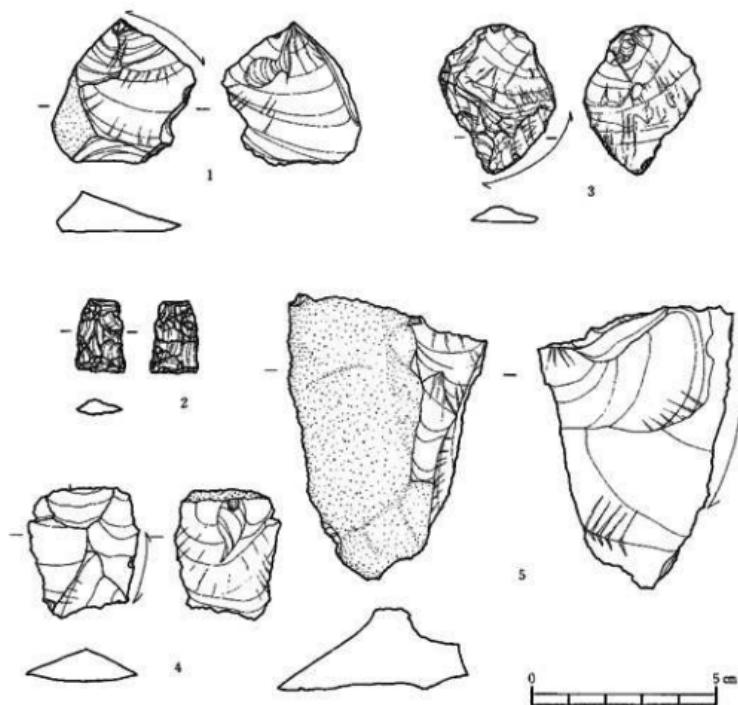


第126図 K層出土遺物実測図

番号	遺物名	基本層位	出土地所	遺物名	層位	種別	基部形	長・幅・高さ (cm)					
								Y横	Y直	厚さ			
1	B-18	灰褐色上部	F-Q-9-9	陶土器		陶土器	2.9×4.1				虎斑文→織文 (KL)	四輪	268
2	B-20	灰褐色上部	SD-10	陶器	陶土器	4.3×3.7					虎斑文→織文 (KL)	ナゲ	268
3	B-29	灰褐色上部	SD-10	陶器	陶土器	3.9×2.4					虎斑文→織文 (KL)	ナゲ	268
4	B-11	灰褐色	P-9	陶器	陶土器	小切妻 (13.4)					織文 (LR)	ナゲ	268
5	B-20	灰褐色	O-P-2-2	陶器	陶土器	縫	(30.8)	17.12			織文 (LR)	ナゲ	268
6	B-9	灰褐色	Q-R-7	陶器	陶土器	縫	7.9	(7.5)			織物紋 (L)	ナゲ	268
7	B-73	灰褐色	R-6	陶器	陶土器	7.1×6.0					織文文 (R)	四輪	268
8	B-74	灰褐色	R-6	陶器	陶土器	5.8×4.8					織文文 (R)	四輪	268
9	B-86	灰褐色	P-9	陶器	陶土器	2.4×2.8					織文 (LR)	四輪	268
10	B-90	灰褐色	P-9	陶器	陶土器	1.6×3.1					織文 (LR)	四輪	268
11	B-10	灰褐色	Q-8	陶器	陶土器	5.9×5.5					織文 (LR)	四輪	268
12	B-96	灰褐色	O-P-2-3	陶器	陶土器	1.9×2.7					織文 (KL)	ナゲ	268
13	B-10	灰褐色	P-8-9-9	陶器	陶土器	3.5×6.9					織文 (LR)	四輪	268
14	B-10	灰褐色	O-10	陶器	陶土器	2.3×4.3					織文 (KL)	四輪	268

S K - 42土坑 G - 8 区で検出された。平面形は東西方向に長軸を有する不整橢円形を呈し、長軸193cm、短軸139cmを計る。断面形は舟底形ないし逆台形で、深さは13cm。堆積土は黒褐色の砂質シルト層とぶい黄褐色の砂層2層からなる。出土遺物はない。

S K - 43土坑 E・F-10 区で検出された。平面形は東西方向に長軸を有する橢円形を呈し、長軸166cm、短軸90cmを計る。断面形は不整な舟底形で、深さは16cm。堆積土は黒褐色の砂質粘土と粘土の2層からなる。出土遺物はない。



留置番号	遺物番号	発見場所	南北地区	遺 墓	層 次	層 号	寸 法 (cm・g)			材 料	種 号	参考図版	
							高さ	幅	厚さ				
1	K-39	石器	○-8		剥片	1	9.5	3.8	1.1	12.06	石器	使用痕あり	274
2	K-37	石器	○-3		剥片	1	9.5	1.2	0.4	0.90	石器		275
3	K-48	石器	○-7-2		不規則石器	1	4.0	3.15	0.4	4.73	石器	使用痕あり	276
4	K-40	石器	○-2		剥片	1	3.5	2.9	0.35	6.70	石器	使用痕あり	276
5	K-66	石器	○-9		剥片	1	7.65	5.25	2.3	73.40	石器	石器	276

第127図 VI・K層出土石器実測図

S K - 44 土坑 D-10・11 区で検出された。平面形は南西から北東方向に長軸を有する不整橿円形を呈し、長軸220cm、短軸140cmを計る。断面形は舟底形で、深さは24cm。堆積土は黒褐色の砂質粘土・粘土質砂・シルト質粘土の3層からなる。出土遺物はない。

4) 出土遺物

VII層とIX層は同一時期の堆積と考えられることは既に述べた通りであるが、ここでは出土層に分けて説明する。

VII層出土遺物には第125図のような土器と、第127図(1)の石器がある。土器は全て弥生土器と見られるもので、口縁部6点、底部1点、体部片數十点がある。口縁部には、口縁部が幅広く肥厚し、縄文の施された口縁部外面下端に、下方から連続して刺突が加えられるものが2点(第125図1・2)と、無文の口縁部が肥厚し、口唇部に小突起が付くもの1点(3)、無文で体部から口縁部まで外傾して立つだけのもの1点(4)、撫糸部が施され、体部から口唇部が平坦な口縁部まで外傾して立つものの2点(6・7)がある。このうち1・2・3の口縁部については、弥生時代後期の天王式期の特徴を持つものと考えられる。体部片はLの撫糸文が施されているものが卓越しているように見られるが、これは破片のほとんどが同一個体のものであることに因るものと観察される。

石器は、第127図のような一辺に使用痕の観察される剝片が1点出土しているだけである。IX層からは第126図の様な土器と第127図(2~5)のような石器がある。土器はいずれも弥生土器と考えられるもので、肩部付近に体部最大径を有し、頸部が括れ、口縁部が外傾して伸び最大径となる縄文を施された小形の壺片1点(第126図4)、沈線によって円弧文の描かれた体部片3点(1~3)、底部片2点(5・6)、その他縄文や撫糸文の施された体部片がある。

石器には、石錐片、不定形石器、剝片等がある。

12. X層検出遺構と出土遺物

1) 遺構の構成

VII層を除去しX層上面を検出すると、VI・VII・VIII層に見られた谷状の微地形はなく、この微地形がVII層の堆積が主因であることが分る。

X層上面は再び西方の丘陵からと、南方の自然堤防からの傾斜の影響を受けて、西から東へ下がり、かつ調査区北部は北東方向へ下がっている。Iラインの西端と東端の標高差は55cm/55mとなっている。微地形としては、調査区内ではSD-27溝跡の西側(F~K-2~4区付近)が周辺より一段高くなっている。また、SD-28溝跡に沿った調査区南部も周辺よりやや高く

なっている。

X層で検出された遺構には、幅の広い畦畔と幅の狭い畦畔の2種類によって区画された水田跡と水路と考えられる溝跡(SD-28)、及び数条の溝跡と土坑などがある。水田跡の上面には無数の足跡も検出されている。

1) 水田跡の概要

水田跡の遺存状況 X層については、試掘調査時におけるプラント・オパール分析によって水田跡の存在が推定されており、しかも上層には砂層(VII層)が厚く堆積していることから水田跡が良好な状態で遺存しているものと予想していた。ところがVIII・IX層と除去してみると予想に反して遺構の残りは悪く、畦畔が検出できて水田の区画が明らかになったのは調査区南東部のN・O・P-9~12区付近の、VII層が無くてIX層に覆われていた部分だけであった。このような遺構の遺存状態となった原因としてはVII層の堆積作用が同時にX層の洗掘作用ともなって、X層畦畔を被覆する前に流してしまったものと考えられる。

X層の水田の分布域は、土層の広がり、地形、足跡の分布、関連遺構などから見るとSD-27溝跡以東、SD-28溝跡以北の調査区に広がる状況を呈していたが、考古学的手続きによってさらにこれを実証することはできなかった。そこで、再び「古環境研究所」に依頼してX層面の平面的なプラント・オパール分析を行ない、水田域の検証を行なった。その結果はIV-14項に掲載した通りである。これによると、第209図の通りSD-27溝跡の西側の周辺より一段高くなっている部分(等高線で標高13.40~13.45m以上)及び、SD-28溝跡以南の地域には水田が存在した可能性は低く、それ以外の調査区には広く水田が分布していたことが分かる。また、プラント・オパール分析調査報告にも触れているように、調査区北部から中央部にかけてのVII層の堆積の厚い地区ではイネのプラトン・オパールの検出量は、畦畔が検出された地域と比較すると少なく、前記の地区的X層作土及び畦畔が流出した可能性を示唆している。

水田の形状と規模 X層水田跡は標高13.40m~13.05mにあったと考えられ、この間の傾斜は35cm/45~60mである。実際に区画の分かれる水田跡が検出できたのはN・O・P-10・11・12区で、この間の標高13.20m~13.10mで、傾斜は15cm/18mである。

区画の分かれる部分の水田跡は、水路跡と見られるSD-28溝跡の北4~5mのところから20mくらいのところに位置し、E60~61ラインに中軸が来る幅の広い畦畔で東西に大きく二分される。水田跡とSD-28溝跡との接する部分は、IX層の溝状の落込みによって切られているためどのようにになっていたか明らかでない。幅の広い畦畔(畦1)はやや西に傾いて南北方向に伸び、N35ライン付近で検出出来なくなる。このような幅の広い畦畔は、L・M-6~9区に東西方向のものと、G・H-10区に南北方向のものがある。前者については畦4との関係が、また後

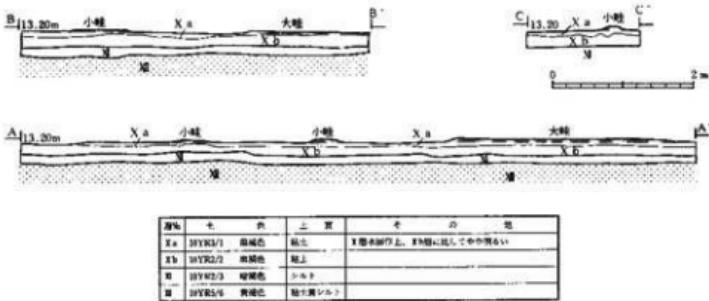
者については畦1の延長方向にあり、これと接続していた可能性も考えられなくもない。

畦1の西側の水田跡は非常に小さく区画された水田跡で、水田②から⑨までは南北8m、東西6mの範囲が8面に区分けされている。他の水田面も同様に小規模である。企画について見ると、水田①から⑪は東西方向の並びを主とし、さらに南北方向も描えて畦畔が配置されたよう観察され、かなり乱れてはいるが、方形ないし長方形の平面プランの水田面が形成されていたと考えられる。一方畦1の東側は、東西方向に伸びる畦2・3・4が検出されているが、南北方向の畦畔は検出されなかった。畦1の東側も西側と同じような非常に小さな区画の水田であったのか、それとも検出状況そのままの規模の区画の水田であったのかは、X層水田跡の遺存状況が良くないので判断できない。

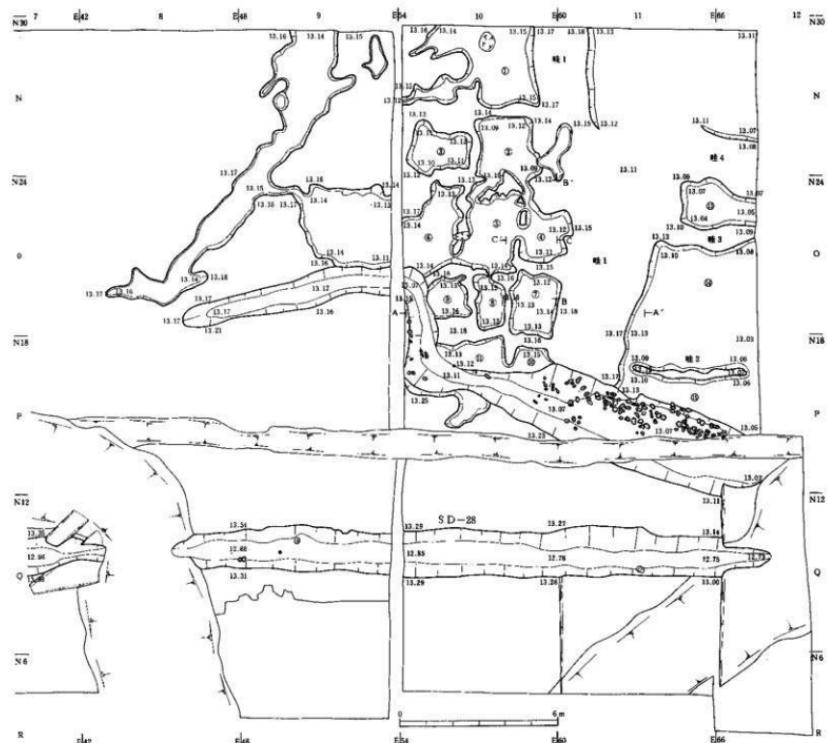
各水田面の大きさは、水田①が検出部の南北長2.8m・最狭部東西幅1.9m、水田②が南北長1.9m、南北幅1.2m・面積約3.8m²、水田③が南北長0.9~1.7m・東西幅2.0m・面積約2.3m²、水田④が南北長1.4m・東西幅1.3~1.6m・面積約2.0m²、水田⑤が南北長2.5m・東西幅1.5m・面積約4.1m²、水田⑥が南北長3m前後・検出部東西幅1.7m、水田⑦が南北長2.0m、東西幅1.5m、面積約3.0m²、水田⑧が南北長1.8m、東西幅0.9m、面積約1.3m²、水田⑨が南北長1.3m前後・検出部東西幅1.4mを計る。水田②・③・④・⑤・⑦・⑧の平均水田面積は約2.8m²である。なお、①から⑪の水田面は東西・南北方向とも、その両端部でのレベル差は2~4cm程度で、傾斜は小さい。

畦1の東側の水田は、水田②が検出部の南北長4m前後・検出部東西幅6m、水田③が南北長0.7~1.6m・検出部東西幅2.6m、水田⑩が南北長4.3m・検出部東西幅3.8~4.9m、水田⑪が検出部の南北長2m以上・検出部東西幅5.2mを計る。

畦畔 X層水田跡の畦畔は先に述べたように幅の広い畦と狭い畦の2種類がある。幅の広い畦の基底幅は、畦1が水田①と水田⑫の間で200m前後、水田⑦と水田⑪の間で230cm前後、畦



第128図 X層水田跡断面図 (セクションポイントは第129図)



第129図 Xianyang Water Conservancy Project Area Plan View

4が水田⑫と⑬の間で150~210cm、L・M-6~9区の東西方向の畦がL・M-7区で220cm、G・H-10区の南北方向の畦がN69ラインで200cmを計り、150cmを超す基底幅を有している。幅の広い畦の高さは畦1が2~6cm、畦4が2cm、L・M-6~9区の東西方向の畦が4~5cm、G・H-10区の南北方向の畦が2~3cmを計る。

幅の狭い方の畦は幅にばらつきがあり、基底幅50~70cmを中心にして40cmから1mを越すものまである。

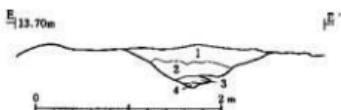
畦畔の軸方向は、畦1の北半部がN-5°-W、南半部がN-18°-E、L・M-6~9区の東西方向の畦がN-113°-Eである。

畦の接続部分には、十字に直交する箇所（水田②南西角）と、ややずれて交差する部分（水田④・⑤・⑦の南西角）が観察される。直線的に伸びる畦畔とこれにずれた位置で接続する畦畔との間に、方向等の規則性は現状では読み取ることは出来ない。

水口 区画の分かる水田跡の畦畔には所々の畦の切れ目があるが、X層自体が洗い流されている層であるため、本来の水口であるのか、後世の擾乱作用によるものか判断出来ない。あるいは両者が混在していることも考えられる。また、畦畔の切れ目を水口とした場合には、この区域の傾斜が極めて緩やかであるために、どちらの方向へ水を流したのかは遺構の平面レベルからだけでは判断できない。

作土 X層水田跡の作土は、黒褐色を呈する粘土層が主体となる。ただしF・G・H区付近より北側へ寄るに従って有機質分が次第に増えて泥炭質の粘土層に変化していく、特に北西隅は泥炭化が著しい。作土の下面には酸化鉄及びマンガンの集積は認められなかった。

水路 X層水田跡に伴う水路と考えられる遺構としてはSD-28溝跡がある。この溝は調査区西端のQ2区から調査区東端のQ12区まで60mに渡り、N10ライン付近を中軸として東西方向に直線的に伸びている。軸方向はN-97°-Eである。溝の上幅は140~180cmまであるが、比較的均一な感じを受ける。X層上面からの深さはベルトEの位置で45cmを計り、Q2区では30cm、Q11区では45~50cmを計る。底面は西側部分には多少の凹凸があるが大部分は均一な



番号	土色	土質	その他の
1	3YR1/1 オリーブ褐色	粘土	砂質有、根の通路有、パラミを含む、植物牙含む
2	10YR2/2 深褐色	シート質粘土	砂質有、黄褐色を含む
3	2.5Y3/1 黄褐色	粘土	砂質有、植物牙をロック状に含む
4	2.5Y2/2 褐色	粘砂	全層に2mmの礫を含む

第130図 SD-28溝跡断面図

傾斜で西から東へ下がり、両端のレベル差は32cmある。

溝の断面形はV字に近い舟底形を呈する。堆積土はベルトEの位置で4層に分けられた。いずれもX層との関わりを示すような黒色系の粘土又は粘土分の多い土を主体としている。底面付近には砂層も認められる。溝跡内からは、磨滅した土器片が2点出土しており、内1点には縄文が施されている。

SD-28をX層水田跡の水路と考えた理由としては、検出面が同じこと、この遺構が直線的に伸びる計画的なものであること、この溝を境として南側（自然堤防側）には水田跡が存在していないことからこの溝が水田域の南限を画する機能も具備し、水田跡と密接な関係を有していたと考えられること等がある。また、平面及び断面の観察では溝の両岸の畦畔は検出することはできなかったが、SD-28溝跡付近の等高線を見ると、溝の通る部分が舌状に高く張出しているのが観察される。これは溝に伴う畦畔の痕跡を示すものである可能性も考えられる。ただ水田面と直接繋がる取水・排水に關係する施設が検出されていないので、X層水田跡の水路とは断定出来ない。また、SD-28溝跡内にはVII層の砂やIX層が堆積していないことから、VII層・IX層の堆積作用があった時点ではほとんど埋まり、溝としての機能は果たしていなかったようである。

出土遺物 X層上面及びX層中からの出土遺物には第131図のような土器と第132～140図のような石器類などがある。

土器はいずれも小破片である。第131図1・2・11・15は交互刺突文の付された土器で、天王山式期に位置付けられる。このなかには口唇部の上からの刺突のあるもの（11）もある。3はかなり磨滅した口縁部付近の破片で、外面には2条の平行沈線とその下に平行する沈線で山形文が描かれ、内面の口縁端部に1条の沈線が巡る。樹形圓式ないし円田式期のものと考えられる。4は外面に3条、内面の口縁端部に1条の沈線が巡る。寺下印式期以前の弥生土器または縄文晚期後半の土器と考えられる。5～8は体部ないし体部から頸部にかけての破片で、いずれも弥生土器と考えられる。9は口縁部付近の破片で、縦長の連続刺突文が付されている。10は2条の平行沈線の下に小さな連続山形文の付された土器これも天王山式期のものと考えられる。12はミニチュア土器の底部片、13は甕の底部片である。14は高環の坏部と脚部の境の破片。16～19は弥生土器の甕体部付近の破片で、17には突帯が付いている。

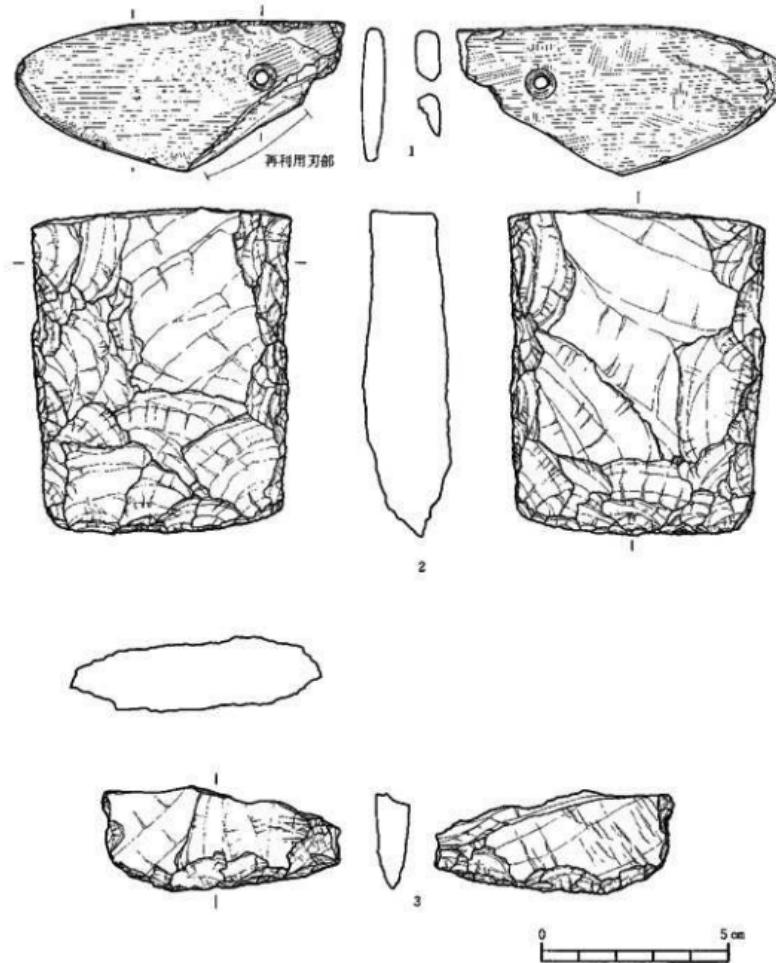
石器には石庖丁・石鉤・石鎌・不定形石器・使用痕跡のある剥片・その他の剥片・石核・磨石等がある。

石庖丁（第132図1）は長楕円形を呈するものが半分に割れたものが1点出土している。紐擦れの著しい紐穴が1穴残っている。本来の刃部は擦り潰されて、折れ断面をそのまま刃部として再使用している。



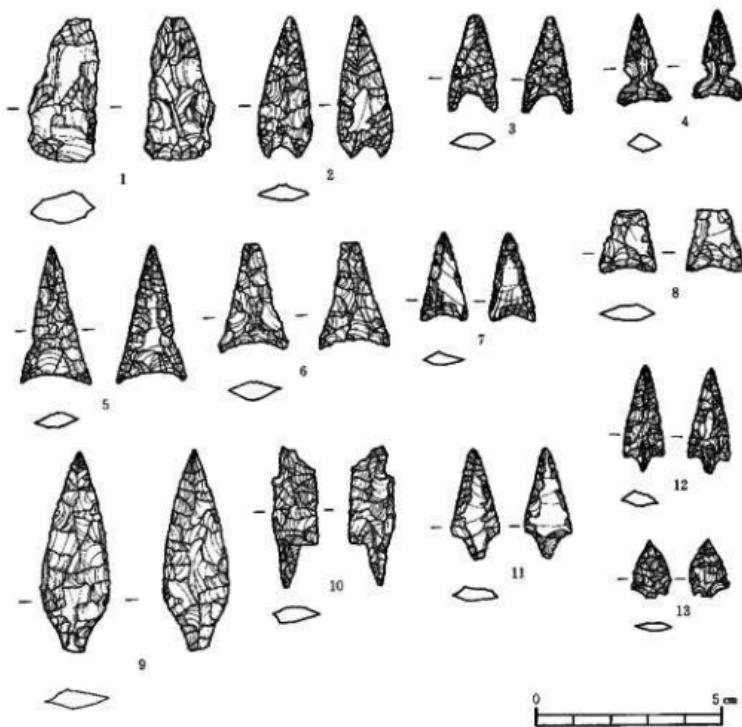
第131図 X層出土遺物実測図（1）

番号	器種名	基本地盤	川土地段	遺物名	層位	種類	形状	法 面 (cm)	外 面	内 面	可燃性
1	B-26	X層上部	J-3	陶土片		陶土片		1.7×2.4	文瓦陶文	燃燒	
2	B-29	X層上部	J-4	陶土片		陶土片		1.9×2.8	文瓦陶文→繩文 (LR)	燃燒	264
3	B-25	X層上部	K-9	陶土片		陶土片		2.6×4.9	波紋文	燃燒	265
4	B-15	X層上部	E-9	陶土片		陶土片		2.6×4.3	波紋文	燃燒	264
5	B-36	X層上部	N-O-10-11	陶土片		陶土片		3.2×5.5	繩文 (LR) →トゲ	燃燒	264
6	B-18	X層上部	N-O-10-11	陶土片		陶土片		3.5×4.3	繩文 (LR)	燃燒	264
7	B-33	X層上部	N-O-10-11	陶土片		陶土片		3.0×3.4	繩文 (LR)	燃燒	264
8	B-15	X層上部	N-O-10-11	陶土片		陶土片		2.4×4.8	繩文 (LR), カーボン付着	燃燒	264
9	B-19	X層	I-3	陶土片		陶土片		2.3×1.3	繩文 (LR), 波紋文	燃燒	265
10	B-24	X層	J-3	陶土片		陶土片		2.4×3.4	繩文 (LR) →平行划痕, 通鏡山形文	ナゲ	266
11	B-20	X層	K-2	陶土片		陶土片		2.6×3.1	口輪形山, 文瓦陶文, 繩文 (LR)	ナゲ	266
12	B-17	X層	K-10	陶土片		陶土片	1.7×7.9 上部	(5.2) (1.7)	繩文	燃燒	
13	B-6	X層	K-2	陶土片		陶土片		8.4	繩文 (LR), 波紋木製板	ナゲ, 波紋	265
14	B-33	X層	O-P-2-3	陶土片		陶土片		0.3	繩文	燃燒	266
15	B-25	X層	J-7	陶土片		陶土片		1.8×2.3	繩文 (LR), 文瓦陶文	燃燒	266
16	B-25	X層	J-2	陶土片		陶土片		3.5×3.6	繩文 (LR), カーボン付着	不明	264
17	B-70	X層	G-3	陶土片		陶土片		5.1×3.2	繩文 (LR)	燃燒	264
18	B-71	X層	O-P-2-2	陶土片		陶土片		3.6×2.2	繩文 (LR)	ナゲ	266
19	B-19	X層	I-J-2	陶土片		陶土片		4.0×2.3	繩文 (LR)	燃燒	266



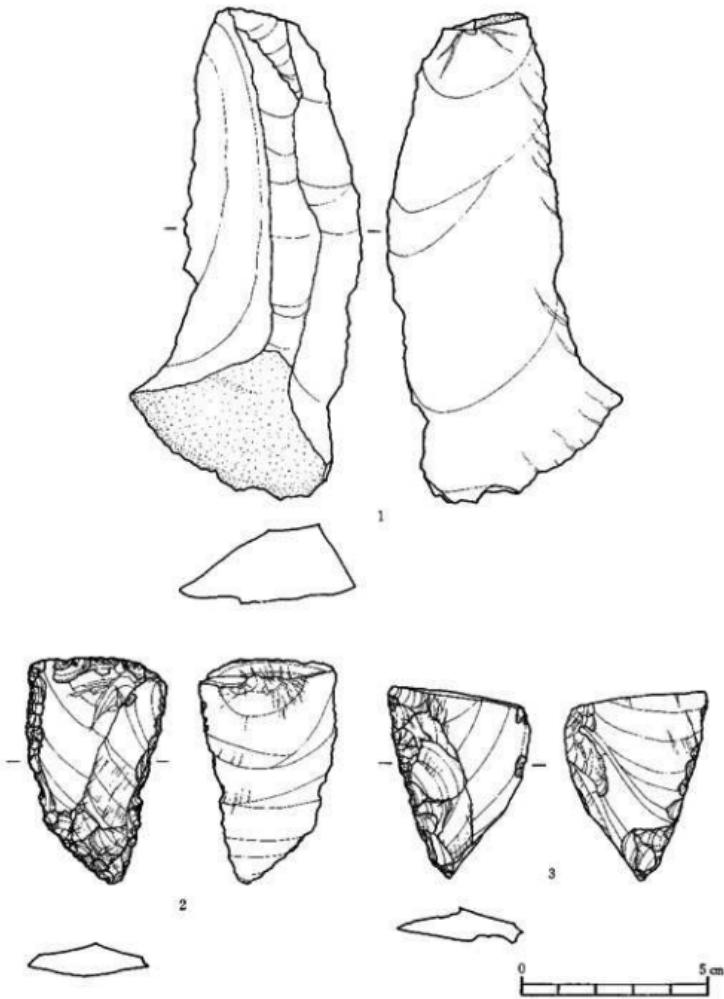
第132図 X層出土遺物実測図(2)

器物番号	遺物番号	基木番号	出土地区	遺 墓	層位	種 別	寸 法 (cm・g)				石 材	考 号	参考圖版
							長	幅	厚	重			
1	K-36	玉壁	O-5			刮削器	4.0	8.65	0.6	28.70	和田碧		277
2	K-37	玉璧	O-2			刮削器	8.0	6.79	1.05	396.35	碧玉碧		277
3	K-38	玉璧	O-3			刮削器	2.0	6.35	0.9	14.20	碧玉碧		277



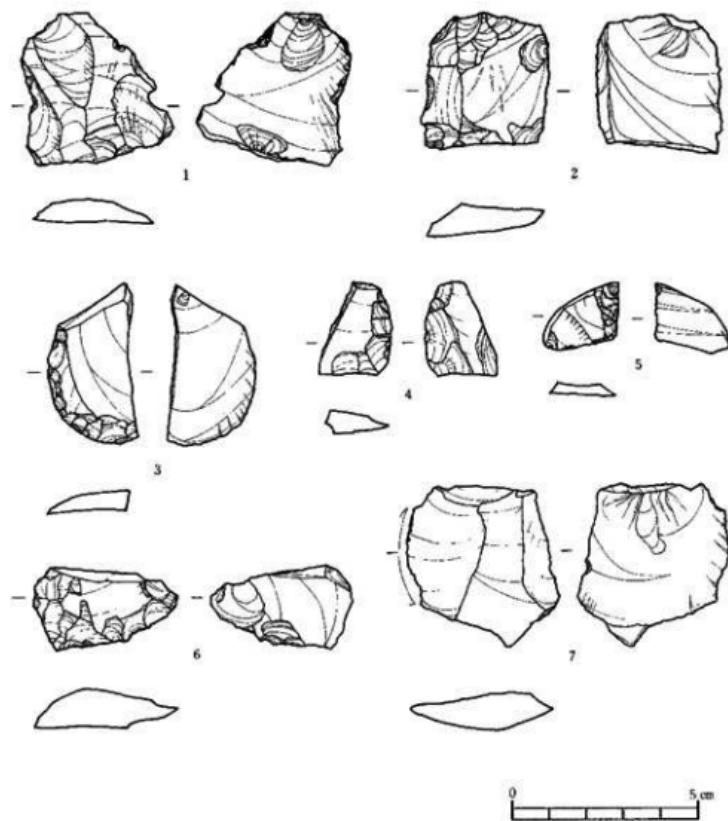
图版番号	遺物番号	地層階位	出土場所	遺 墓	形狀	規 別	重 量 (mm · g)			性 別	年 齡	器 物	参考圖版
							高さ	幅	厚さ				
1	K-28	X層	E-3		石器	U形	2.65	1.9	0.9	4.86	青銅		276
2	K-32	X層	E-11		石器	U形	3.15	1.45	0.4	1.80	青銅		276
3	K-39	X層	E-11		石器	U形	2.6	1.3	0.4	0.85	青銅		276
4	K-128	X層	E-5		石器	U形	2.45	1.5	4.0	0.85	青銅		276
5	K-30	X層	E-11		石器	U形	3.75	1.85	0.4	1.60	青銅		276
6	K-181	X層	F-5		石器	U形	2.65	1.9	0.5	1.50	青銅		276
7	K-33	X層	F-7	SD-58	1型	石器	2.35	1.25	0.3	0.65	青銅		276
8	K-148	X層	E-10		石器	U形	1.7	1.54	0.1	0.75	青銅		276
9	K-150	X層	F-10		石器	U形	5.4	2.7	0.6	4.00	青銅	青銅	276
10	K-92	X層	L-10		石器	U形	3.75	1.3	0.45	1.85	青銅		276
11	K-147	X層上部	E-3		石器	U形	3.0	1.2	0.35	1.05	青銅		276
12	K-68	X層	J-7	SD-57	1型	石器	2.9	1.4	0.4	0.90	青銅		276
13	K-149	X層	F-10		石器	U形	1.5	1.1	0.2	0.25	青銅?		276

第133図 X層出土遺物実測図(3)



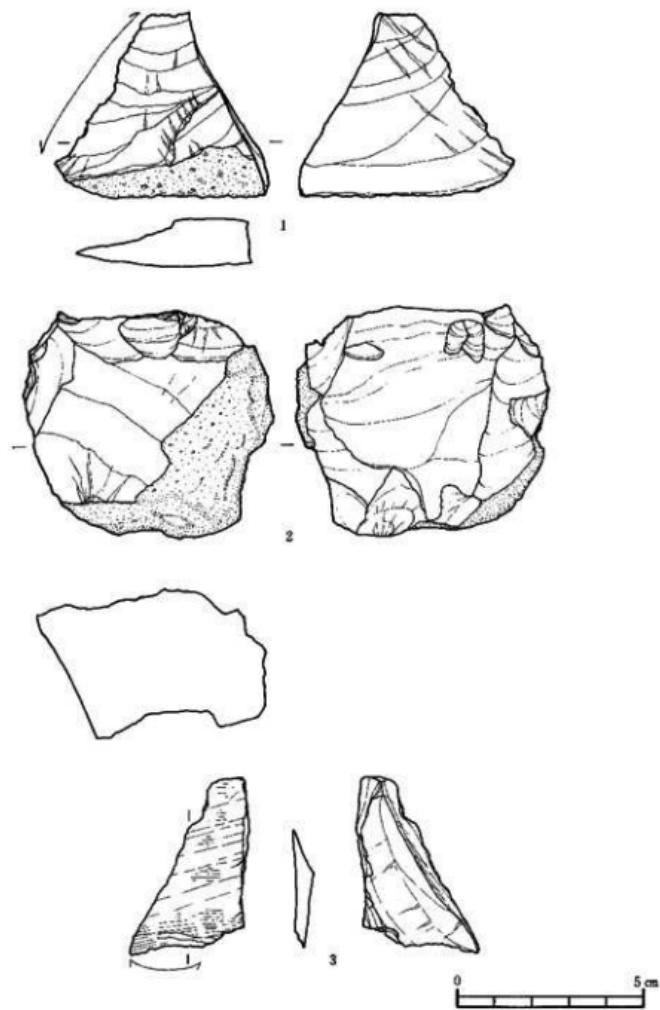
器物號	測物號	基本地性	出土地點	道	縣	層位	種類	尺 寸 (cm·g)			石	材	標	存
								長	寬	厚				
1	K-309	玄武岩	J-7				不规则石器	13.3	6.15	2.1	石器	石器	石器	279
2	K-44	玄武岩					不规则石器	6.1	3.75	0.9				279
3	K-78	玄武岩	G-1				不规则石器	9.1	3.8	0.9	16.05	黑色石器	石器	279

第134圖 X層出土遺物實測圖(4)



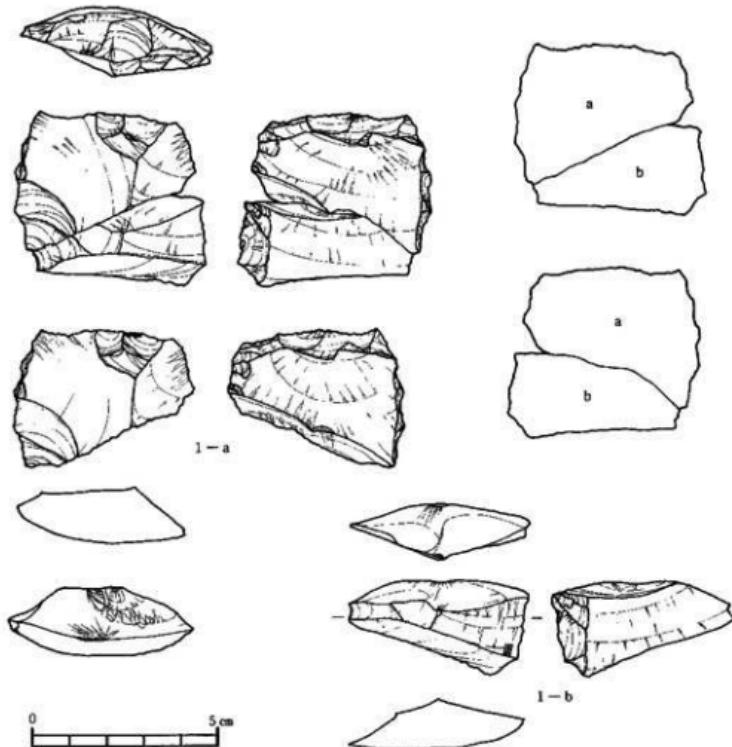
遺物番号	遺物番号	基本層位	出土地名	遺構	層位	種別	測定 (cm・g)			石材	器種	参考文献	
							長さ	幅	厚さ				
1	K-116	X 層	I-10			不定形石器	4.1	3.9	0.65	11.05	青田	219	
2	K-106	X 層	K-O-P-9			不定形石器	3.7	3.4	0.9	15.05	青田	279	
3	K-170	X 層上部				不定形石器	4.25	2.7	0.5	8.15	青田	280	
4	K-98	X 层	K-4	SE-27	3層	不定形石器	2.5	1.95	0.65	3.15	青田	280	
5	K-117	X 层	K-2			不定形石器	1.92	2.0	0.3	2.40	青田	280	
6	K-99	X 层	G-2			不定形石器	2.7	2.8	1.0	8.25	青田麻灰岩	280	
7	K-94	X 层	I-5			刮削器	4.3	4.3	1.9	15.20	洪都穴	使用済あり	280

第135図 X層出土遺物実測図(5)



出目番号	遺物番号	基本層位	出土地区	遺 墓	層位	種 別	法 量 (cm・g)	石 材	備 考	参考圖
1	K-103	X層	II-16			鉄片	長さ 5.0 幅 2.7 厚さ 1.5 重さ 16.96	磁鐵鋼鉄	磁鐵鋼による光沢あり	260
2	K-97	X層	II-4	SD-27	3層	石核	長さ 6.15 幅 4.7 厚さ 4.0 重さ 181.70	閃雲岩鉄	閃雲岩による光沢あり	260
3	K-98	X層	J-3			不明	長さ 4.75 幅 3.1 厚さ 0.5 重さ 5.15	花崗岩	花崗岩による光沢あり	260

第136図 X層出土遺物実測図 (6)



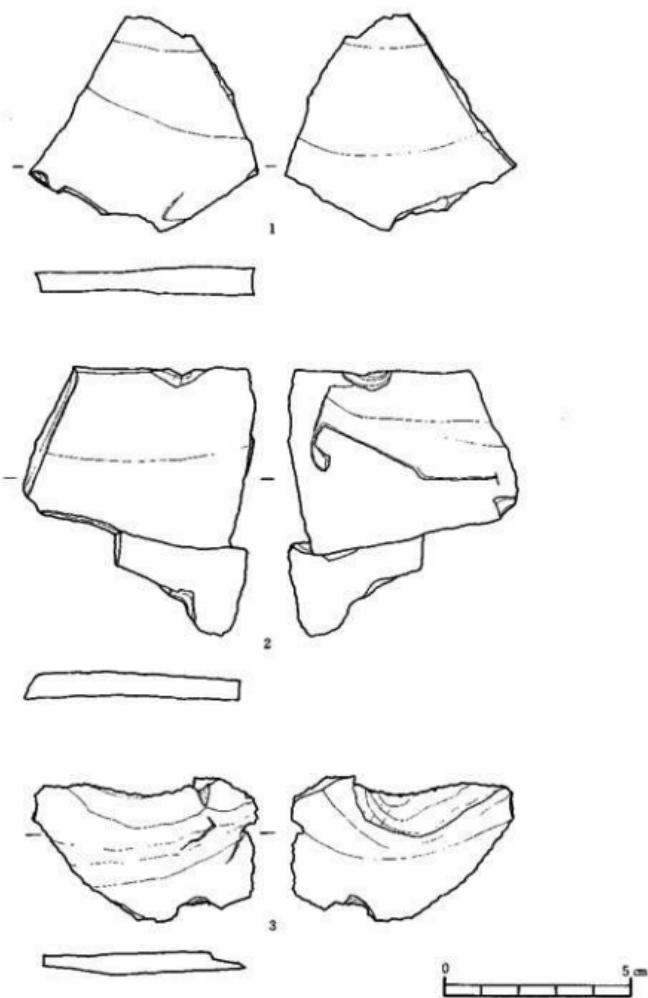
IDM番号	遺物番号	原本部位	出土地層	遺構	層位	種別	寸法 (cm・g)				石 材	種 号	年代表記
							長さ	幅	厚さ	重量			
1-a	K-235	X層	C-11			剥片	3.5	4.8	1.3	26.40	西砂		301
1-b	K-237	X層	D-17			剥片	2.56	4.8	1.3	12.90	東砂		301

第137図 X層出土遺物実測図(7)

石鉋は破片が2点出土している。(第132図2・3)2点とも打製で、刃部幅は6cm前後ある。本体部分も含め全体に偏平で、本来部が刃部より僅かに幅が広くなる。

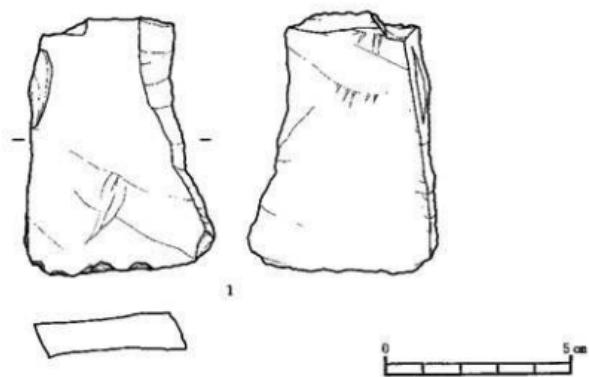
石鐵は第133図の通り、無茎で基部がやや外に膨らむもの(1)、無茎で基部が僅かに内側に抉られているもの(5~8)、無茎で基部が無側に半円形に抉られているもの(2・3)、いわゆるアメリカ型のもの(4)、有茎のもの(9~13)等が混在する。

不定形石器・使用痕跡のある剥片・その他の剥片(第134~138図)の中には、第136図1(K-



第138図 X層出土遺物実測図 (8)

回収番号	遺物番号	基準断面	出土地区	測 縦	幅	厚さ	重 量	山 量 (cm ³)				石 利	備 考	保管地番
								員 分	幅	厚さ	重量			
1	K-40	X層	H-2~10	—	—	—	—	5.75	8.2	0.73	21.25	東山北	—	261
2	K-41	X層	H-8~10	—	—	—	—	7.0	9.1	0.7	28.85	東山南	—	262
3	K-42	X層	H-2~10	—	—	—	—	3.9	6.0	0.6	13.15	東山南	—	263



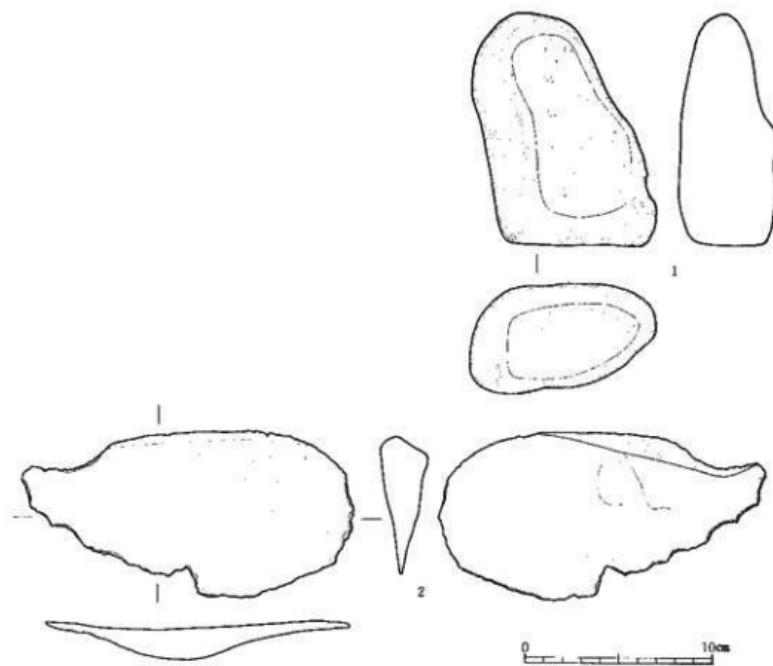
第139図 X層出土遺物実測図（9）

103) のように刃部に強い光沢を持つものや、第138図1～3及び第139図1、第140図2のように使途不明の安山岩製の偏平な剝片もある。

磨石（第140図1）はやや偏平で不定形な石で、2面が磨面となっている。

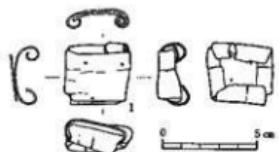
X層出土遺物として取上げたものには以上の他に、D10区から出土した桜の樹皮を2枚十字に組合わせて3cm角くらいの大きさに作ったもの（第141図）がある。これはD10区のX層上面で検出された砂の堆積する足跡状遺構の調査時に出土しているが、この堆積土はV層に類似していたことから、この遺物はV層に関係する可能性の方が強い。

水田跡の時期 X層水田跡の時期も少數のしかも破片の土器に拘らねばならない。時期の分かる土器としては、天王山式期に位置付けられるもの5点（第131図1・2・10・11・15）と楕円形圍式ないし円田式期に位置づけられるもの1点（3）、寺下圓式以前の弥生土器または縄文晚期後半に位置付けられるもの1点（4）などがある。このうち後2点（3・4）については、前者に比べて摩滅が著しく、しかも1点ずつ出土であることから、X層にあっては客体的存在と考えたい。うのうえでX層の時期を先の5点の土器をもって、弥生時代後期天王山式期に位置付けておく。



目録番号	遺物番号	基準断片	出土地点	遺物名	等級	種別	尺寸 (cm・g)				石	時	場	参考資料
							長さ	幅	厚さ	重量				
1	K-124	X層上部	L-17	大輪形器	複数	盤片	12.3	9.9	0.1	225.7g	石器類	新石器	新石器	297
2	K-75	X層	SD-27	輪形	複数	盤片	8.8	17.0	2.5	254.2g	石器類	新石器	新石器	297

第140図 X層検出遺物実測図 (10)



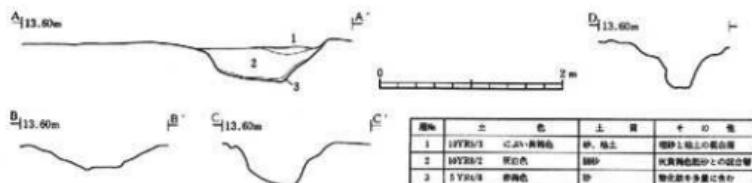
目録番号	遺物番号	基準	出土地点	遺物名	等級	種別	寸法				石	時	場	参考資料	
							長さ	幅	厚さ	重量					
1	L-205	(X層)	D-10	(手縫跡)	木製品	複数	舟状	8.3	4.5	0.1	1.9	木製品の舟	新石器	新石器	298

第141図 X層出土遺物実測図 (11)

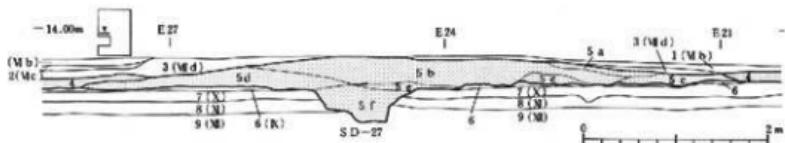
3) 溝 跡

SD-27溝跡 G 4区からP. 6区に至るまで、途中調査区の外に出ている部分があるが、南北方向に蛇行しながら伸びて検出された。北端は浅くなり二股に別れて立上がり、南端はSD-10溝跡及びSR-3河川跡に切られている。この間SD-54・56溝跡を切っている。この溝は標高13.40cmの等高線付近に沿うようにして位置しており、検出範囲の北半部は溝を境にして西側は一段高くなっている。先に述べたように、この溝を境として高い部分のX層中からはイネのプラント・オバールは検出されていない。

溝の上幅は90~200cmと変化に富み、特に北半部は両岸とも小刻みに入り出している。第143図の通り壁面や底面も滑らかなものではなく大小の凹凸がある。溝の深さは20~45cmを計る。底面の傾斜は両端を比べると南側が16cmほど低いが、底面レベルが最も低いのはN 6区、次いでJ 4区付近であり、底面に大きな起伏が認められる。堆積土は部分的に褐色の粘土のブロックを含む所もあるが、基本的に砂層が堆積している。なおこの溝における砂の堆積は第143図



第142図 SD-27溝跡断面図



順位	土色	土質	特徴
1	1YTR6/2 黄褐色	シルト	基本帶S層
2	2.YTR6/4 黄褐色	シルト	基本帶S層
3	1YTR6/2 黄褐色	砂質シルト	基本帶S層
4	1YTR6/2 黄褐色	砂	細砂、土水層地帶
5a	2.YTR6/4 黄褐色	砂	細砂、土水層地帶
5b	2.YTR6/3 黄褐色	砂	細砂、基本帶地帶
5c	2.YTR6/4 黄褐色	砂	上部に光沢層がある、基本帶地帶
5d	2.YTR6/4 黄褐色	砂	基本帶地帶
6e	2.YTR6/3 黄褐色	砂	間隔約2~4cmの根元削ぎが多く見られ、是非堆積
5f	2.YTR6/3 黄褐色	砂	光沢と茎の互層・軟化層を含む、基本帶地帶
6g	1YTR6/3 黄褐色	粘土	基本帶S層
7h	1YTR6/1 黑色	粘土	基本帶S層
8i	1YTR6/2 黄褐色	シルト	基本帶S層
9j	2.YTR6/3 黄褐色	シルト質的上	基本帶S層

第143図 SD-27溝跡上における縦断面図

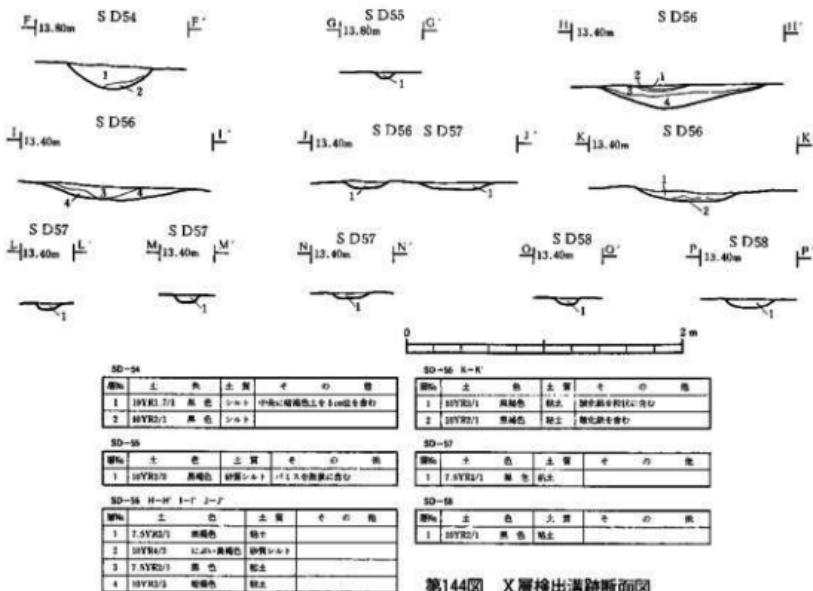
のように特殊な状況を呈している。すなわちX層上面と同じレベルで堆積が完了するのではなく、溝の上部付近には溝の掘り込み面から40cm前後の高さまで盛上がりて堆積し、さらにみぞの両側にも溢れ出したように堆積している。そして溢れた分が溝に沿って帯状に高くなっている。これがⅦ層の土手状の高まりのうち南南東側の成因と成っている。

出土遺物には、弥生土器と見られる2条の沈線を有する摩滅した土器片1点と石核1点(第136図2)、不定形石器1点(第135図4)、安山岩製の翼状の剝片1点(第140図2)、及び流木片がある。

この溝はⅦ層の砂が急激に堆積する過程で、ある程度形状が変わっていると考えられるが、本来の性格としては、溝の西側の高い方からの雨水又は湧き水(調査区の西隣の旧地名は「富沢清水」と言う。)が直接水田に流入しないように南方向(SD-28か?)に逃がすための排水路的な人工の施設なのか、なんらかの自然的な營力によってできたものか判然としない。

SD-28溝跡 11-2) 水路に記載の通り。

SD-54溝跡 G2区からK9区まで、途中部分的に切れながらも直線的に伸びて検出された。SD-27溝跡に切られる。軸方向はN-125°-Eである。溝は上幅25~50cmで、深さはベルトの位置で16cmを計る。断面形は舟底形を呈する。底面は北西から南東方向に下がっており、両端のレベル差は41cmある。堆積土は黒色を呈するシルトからなり、2層に分けられる。



第144図 X層検出溝跡断面図

遺物はI 5区から表面の摩滅した土器片が4点出土している。

S D - 55溝跡 H・I- 2区で検出された。軸方向はN-17°-Wである。溝の上幅は20~50cmで、深さはベルトの位置で5cmを計る。断面形は舟状形を呈する。底面の両端にレベル差はなく、傾斜は認められない。堆積土は黒褐色を呈する砂質シルトからなる。出土遺物はない。

S D - 56溝跡 L 6区からG12区にかけて検出された。H 9区以東は緩く蛇行するが、H 9区以西は直線的に伸びている。SD-57溝跡と接するが、前後関係は不明。両端を結ぶ軸方向はN-62°-Eである。溝の上幅は検出部の両端が50~100cmで、中央付近が30cmである。深さはベルトの位置で17cmを計る。断面形は舟底形を呈する。底面は南西から北東方向に下がっており、両端のレベル差は19cmある。堆積土は暗褐色から黒色を呈する粘土を主としているが、部分的ににぶい黄褐色の砂質シルトも含まれる。遺物は表面の摩滅した土器片が5点と石鐵が1点（第133図7）出土している。

S D - 57溝跡 J 7区からG12区にかけて検出された。H 9区を変換点として「く」字に折れている。H 9区以西の軸方向はN-50°-E、H 9区以東の軸方向はN-84°-Eである。溝の上幅は25~40cmで、深さはベルトMの位置で5cmを計る。断面形は舟底形を呈する。底面は南西から北東方向に下がっており、両端のレベル差は11cmある。堆積土は黒色を呈する粘土である。遺物は石鐵が1点（第133図12）出土している。

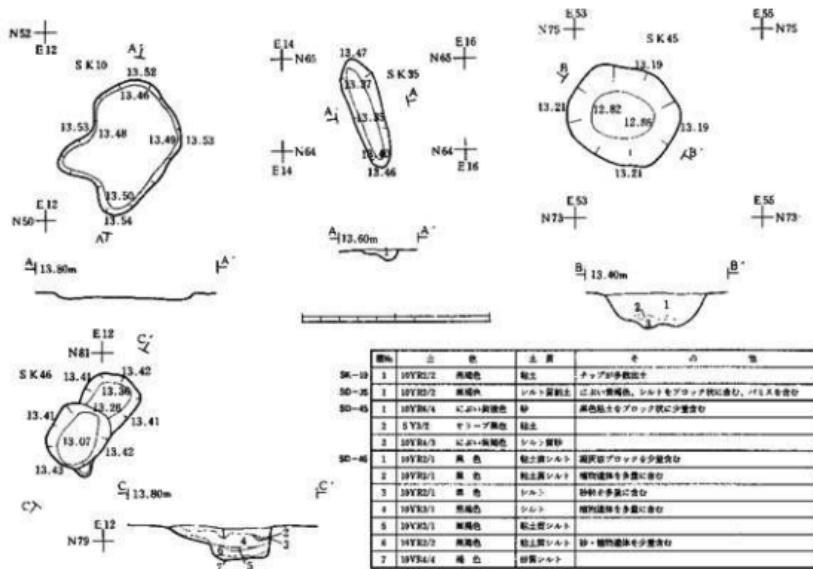
S D - 58溝跡 G10区からE12区にかけて検出された。軸方向はN-52°-Eである。SD-57溝跡はH 9区の変換点付近で検出出来なくなるが、中軸の方向と堆積土の類似性から判断するとSD-57溝跡と接続していたことが考えられる。溝の上幅は25~45cmで、深さはベルトPの位置で6cmを計る。断面形は舟底形を呈する。底面は南西から北東方向に下がっており、両端レベル差は8cmある。堆積土は黒色を呈する粘土である。出土遺物はない。

4) 土 坑

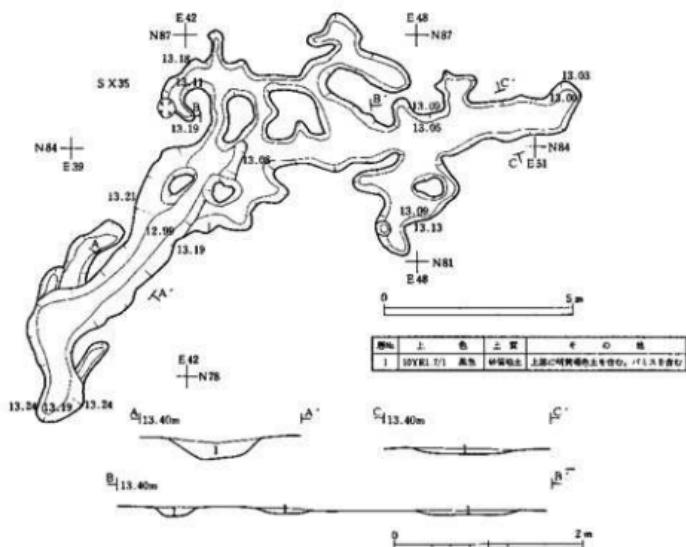
S K - 10土坑 J 3区で検出された。平面形は不整形を呈し、東西軸130cm、南北軸145cm、深さ6cmを計る。断面形は浅いU字形で、底面は平坦である。堆積土は黒褐色を呈する粘土である。出土遺物には、縄文の施された土器の細片が1点ある。

S K - 35土坑 H 3区で検出された。平面形は南北方向よりやや西寄りに長軸を持つ長楕円形を呈し、長軸119cm、短軸36cm、深さ10cmはを計る。断面形は不整な舟底形である。堆積土は黒褐色を呈するシルト質粘土である。出土遺物はない。

S K - 45土坑 F- 9・10区で検出された。平面形は略円形を呈し、東西軸120cm、南北軸102cm、深さ37cmを計る。断面形は不整な舟底形で、底面には凹凸がある。堆積土3層に分けられた。出土遺物はない。



第145図 X層検出土坑実測図

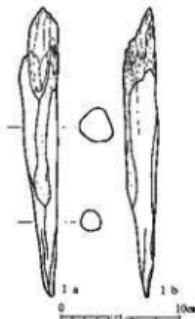


第146図 S X-35遺構実測図

SK-46土坑 E-2・3区で検出された。平面形は8字形を呈し、南西から北東方向に長軸を持ち、長軸114cm、短軸59cm、深さ34cmを計る。断面は長軸方向では南西側が1段低くなっている。断面形は南西側が箱形、北東側が舟底形を呈する。堆積土は7層に分けられた。出土遺物はない。

5) その他の遺構

SX-35遺構 D・E・F-7・8・9区で検出された。不整形な溝状の落込みで、複数に枝別れし、所々に島状に残る部分もある。落込みの範囲は東西5.8m、南北4.4mを計る。深さは4~18cmあり、堆積土は黒褐色を呈する砂質粘土層からなる。堆積土中から末端の加工された丸材が1点（第147図1）出土している。



層番号	遺構番号	基点位	川上地区	遺構名	堆積 (cm)			測定	水 域			地盤区分	地盤	地質
					高さ	幅	厚さ		北	東	南			
1	S-X-35	X標		SX-35	24.4	2.9	2.7	E	13.0	13.0	13.0	II	II	II

第147図 S X-35遺構出土遺物実測図

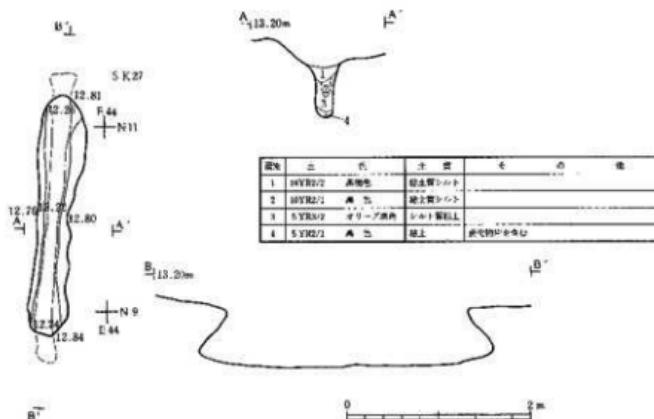
12. XI層検出遺構と出土遺物

1) 遺構の構成

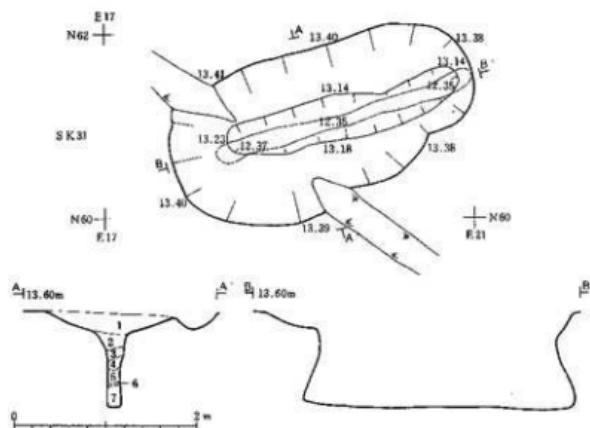
XI層は基本的には西側の丘陵部からの傾斜に従い、緩やかに西から東へと下がっている。N66ラインでの標高は西端が13.50m、東端が13.00mで、この間の傾斜は50cm/60mである。なお、XI層で一番低い調査区の北東端部付近で、標高12.85mである。

基本層が東へ向かって下がるなかで、F~K-2~4区付近からE12区にかけては舌状に周囲より僅かに高くなっているのが観察される。高くなっている部分の北側の東寄りは、調査区の他の部分に比べるとやや急に下がっており、半円形の窪地が形成されている。

XI層では、南辺と西辺の中央付近の調査区内では比較的標高の高いところで「陥し穴」と考えられる土坑が2基が検出されたのをはじめ、配石遺構2基、陥し穴以外の土坑6基、杭列4箇所、その他5基の遺構が検出されている。



第148図 SK-27土坑実測図



番号	七 セ キ	土 ジ シ	七 セ キ	の レ ビ
1	7.SVRS/2	赤褐色	砂土質シルト	やや硬い。基部層岩間に近い。
2	7.SVRS/2	黒褐色	砂土質シルト	
3	7.SVRS/1	黒褐色	粘土質シルト	
4	7.SVRS/1	赤褐色	粘土質シルト	
5	19VR2/1	灰褐色	粘土	ややグライヒングあり。基部層岩間にブロックを含む。
6	19VR2/1	黒褐色	粘土	
7	2.SVRS/1	赤褐色	粘土	基部層岩間に近い。

第149図 SK-31土坑実測図

2) 陥し穴

SK-27陥し穴 Q 8区で検出された。SD-52遺構によって削平されているため、検出面はSD-52溝跡底面のX層であるが、SK-31陥し穴との関連で、XI層の遺構とした。平面形は長楕円と言うより細い溝状を呈す。両端部の壁は底面に近付くほど深く抉れ、オーバーハングしている。両側の壁面は垂直に近い角度で立上がる。底面は両端がやや持ち上がるがほぼ平坦で、ピット等は検出されなかった。軸方向はN-13°-Eである。長軸は上面で258cm、底面で313cm、短軸は上面で32~50cm、底面で10~26cm、深さは62cmを計る。断面形は長軸方向では袋状を呈し、短軸方向ではU字形を呈する。堆積土は4層に分けられた。出土遺物はない。

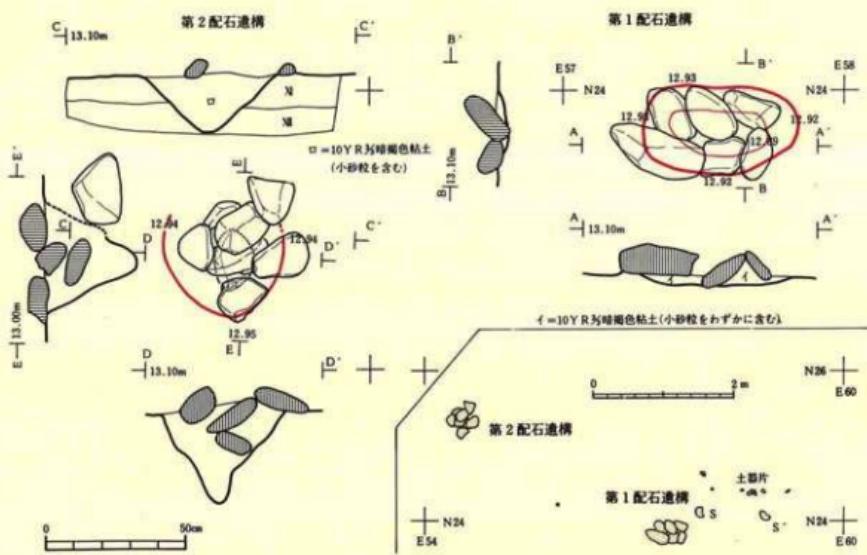
SK-31陥し穴 H 4区で検出された。SD-54溝跡によって一部が削平されている。平面形は検出面では長楕円を呈し、ここから20~30cm下がった面では細い溝状を呈す。溝状部の両端部の壁は底面に近付くほど深く抉れ、オーバーハングしている。両側の壁面は垂直に近い角度で立上がる。底面は両端がやや持ち上がるがほぼ平坦で、ピット等は検出されなかった。軸方向はN-80°-Eである。長軸は検出面で338cm、溝部上面258cm、底面で288cm、短軸は検出面で178cm、溝部上面で50cm、底面で12~21cm、深さは102cmを計る。断面形は長軸方向で袋状を呈し、短軸方向では漏斗状を呈する。堆積土は7層に分けられた。出土遺物はない。

3) 配石遺構

第1配石遺構 O10区で検出された。この遺構は6個の自然石からなり、東西方向に3個ずつ2列に並んでいる。石の傾きは様々で、特に規制性は認められない。石の大きさは長軸18~35cm、短軸10~15cm、厚さ4~11cmである。石の下部からは東西方に長軸に有し、長軸55cm、短軸30cmを計る楕円形の土坑状の落込みが検出された。落込みの深さは3cm程と浅く、堆積土は暗褐色の粘土層からなる。石の一部は落ち込みの中に埋まっている。配石中及び落ち込み内から遺物は出土しなかったが、この遺構の北東側から繩文土器片が数点出土している。また東側には配石に使用されているのと同じような自然石が2点存在する。

第2配石遺構 第1配石遺構から北西に3mほど離れ、N10区で検出された。この遺構は7個の自然石が不規則に並んでいる。石の大きさは長軸15~23cm、短軸13~17cm、厚さ6~10cmである。石の下部からは半径40cm前後の円形の土坑状の落込みが検出された。落ち込みの深さは34cm程あり、石の中には落ち込みに全て又は一部埋まっているものもある。堆積土は暗褐色の粘土層からなる。配石中及び落ち込み内からの出土遺物はない。

両端石遺構の石には使用痕跡の観察されるものは含まれていない。



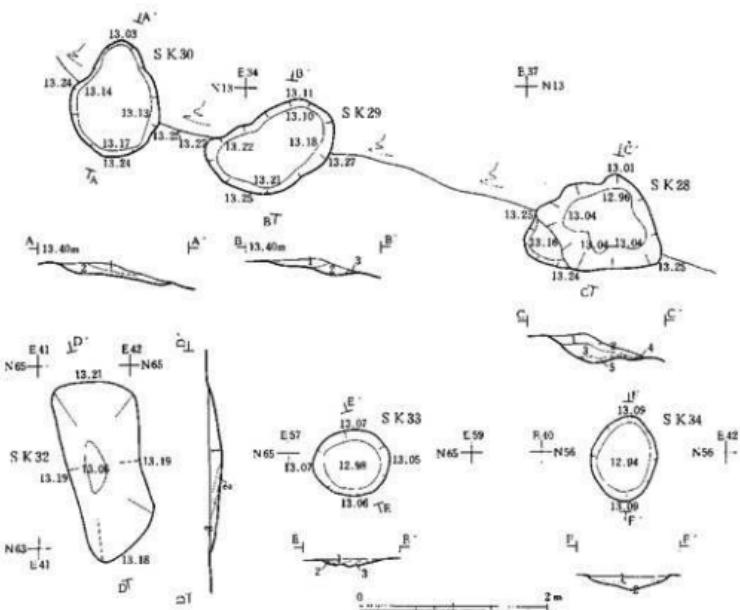
第150図 配石造構実測図

4) 土坑

SK-28土坑 Q 7区で検出された。SR-3河川跡に北半上部を削平されている。平面形は不整形で、西側は浅くなつて張出した部分がある。東西軸144cm、南北軸100cmを計る。深さは28cmで、断面形は不整な舟底形を呈する。堆積土は5層に分けられたが、黒褐色の粘土が主体となる。出土遺物はない。

SK-29土坑 P 6区で検出された。SR-3河川跡に北半上部を削平されている。平面形は南西から北東方向に長軸を有する不整な橢円形で、長軸139cm、短軸80cmを計る。深さは16cmで、断面形は不整な舟底形を呈する。堆積土は黒褐色を呈する粘土を主とし、3層に分けられた。出土遺物はない。

SK-30土坑 P 6区で検出された。SR-3河川跡に北半上部を削平されている。平面形は南北方向に長軸を有する不整な橢円形で、長軸124cm、短軸95cmを計る。深さは12cmで、断面形は不整な舟底形を呈する。堆積土は黒褐色を呈する粘土と灰黄褐色を呈する粘土の2層に分けられた。出土遺物はない。



SK-30	内	外	土	その他の
1 10YR2/2 黒褐色	粘土			
2 10YR2/1 黒色	粘土	成層付ける多量に含む		
3 10YR2/2 黒褐色	粘土	薄い切面を有する		
4 10YR4/4 黒い褐色	砂			
5 10YR2/2 黑褐色	粘土	成層付ける		

SK-29	内	外	土	その他の
1 10YR2/2 黑褐色	粘土			
2 10YR2/1 黑褐色	粘土			
3 10YR2/2 黑褐色	粘土			

SK-30	内	外	土	その他の
1 10YR2/2 黑褐色	粘土			
2 10YR2/2 黑褐色	粘土			

SK-32	内	外	土	その他の
1 10YR2/2 黑褐色	粘土			
2 10YR2/1 黑褐色	粘土			
3 10YR2/2 黑褐色	粘土			

SK-33	内	外	土	その他の
1 10YR2/2 黑褐色	粘土			
2 10YR2/1 黑褐色	粘土			
3 10YR2/2 黑褐色	粘土			

SK-34	内	外	土	その他の
1 10YR2/2 黑褐色	粘土			
2 10YR2/1 黑褐色	粘土			

第151図 第11層出土坑実測図

SK-32土坑 H-7・8区で検出された。平面形は南北方向に長軸を有する不整な隅丸長方形で、長軸193cm、南北軸87cmを計る。深さは12cmで、断面形は浅い舟底形を呈する。堆積土は黒色の粘土、黒褐色のシルト及び黒褐色のシルト質粘土の3層に分けられた。出土遺物はない。

SK-33土坑 H10区で検出された。平面形は東西方向がやや長い円形で、東西軸84cm、南北軸70cmを計る。深さは8cmで、断面形は浅い舟底形を呈する。堆積土は黒色の粘土質シルト、黒褐色のシルト及び黒褐色の粘土の3層に分けられた。出土遺物はない。

SK-34土坑 I-7区で検出された。平面形は南北方向に長軸を有する楕円形で、長軸90cm、

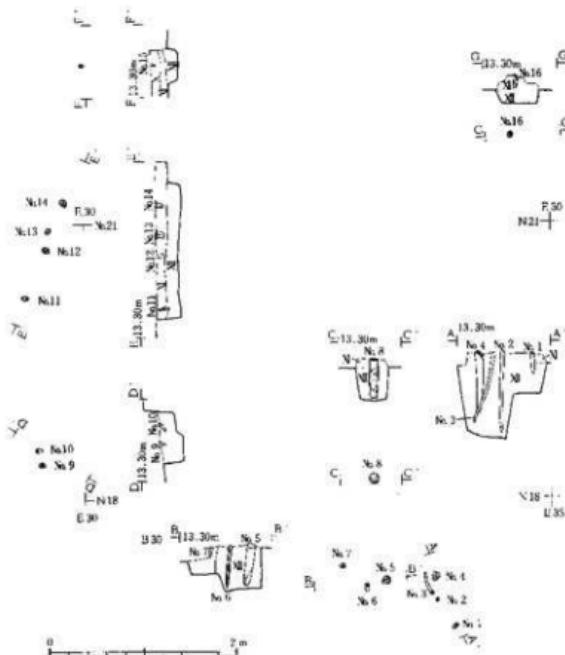
短軸70cmを計る。深さは13cmで、断面形は浅い舟底形を呈する。堆積土は黒色の粘土と黒褐色の粘土の2層に分けられた。出土遺物はない。

XII層上面検出のSK-28・29・30・32・33・34土坑の堆積土の大部分は、黒色ないし黒褐色の粘土が主体となっている。この土層はX層に非常に類似し、X層を起源とする堆積層と観察される。従って、これらの土坑の掘り込み面はX層であったと考えられる。

5) 杭 列

O・P-5・6区杭列 O・P-5・6区ではX層から1本とXII層から15本の杭が検出された。(第152図 No 1~16) これらの杭は並びと位置関係からNo 1~7、No 9~10、No 11~15、No 8~16の4つのグループに分けられる。

No 1~7は北西から南東の143cmの間に7本の杭が不規則に並ぶ。杭材はいずれも先端が加工された心持ちの丸材であるが、太さ、長さに大小がある。No 1~7は直径3cm前後と細



第152図 O・P-5・6区検出杭列実測図

く、また長さも短いもので、検出面（XII層上面）から杭先端までの深さは約23cm（No.1）である。No.2・3・6は直径3cm前後と細いが、長さは約46～90cmと長く、深くまで刺さっていた。No.4・5は直径が6～8cmと太く、また長さも約46～77cmと長いものである。

No.9・10は18cmの間隔を置いて2本の杭が南北に並んでおり、XII層上面で検出された。2本とも分割材である。No.9は先端が加工されている。No.10は分割の際に出来た尖った部分を、そのまま杭の先端としている。検出面から先端までの深さは8cm前後である。

No.11～15はNo.11～14がXII層上面、No.15がX層上面で検出されたが、杭の並び方から同一の杭列と考えられる。杭No.11～15間の距離は260cm、杭No.11～14の間隔は20～55cm、No.14～15の間隔は150cmを計る。No.12は丸材であるが、他の4本は分割材である。5本とも先端は加工が施されている。

No.8・16は単独で分布しているもので、他の杭列との関係は明らかでない。杭No.8は長さ約38cm、直径8cmの心持ち丸材で先端には加工の痕跡と切断の痕跡が観察される。No.16は長さ14cmの先端未加工の分割材である。

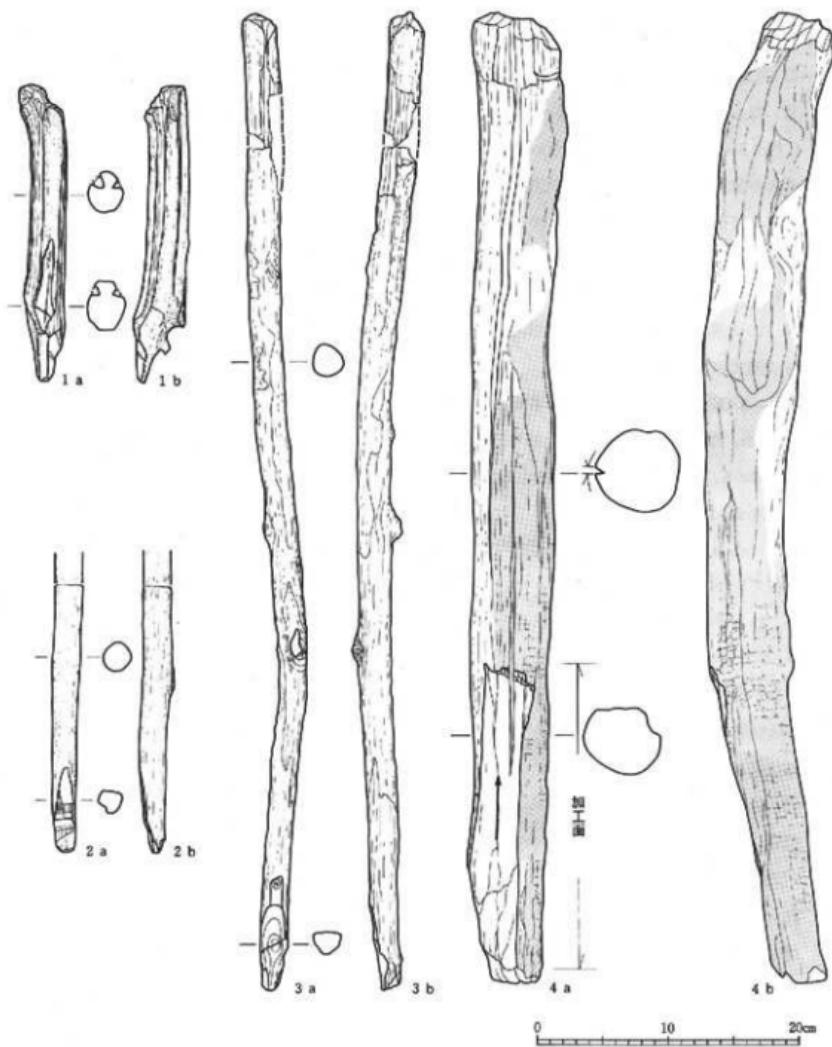
杭列No.9・10と杭列No.11～15は方向性が一致することや、No.12を除き分割材が多用されていることからすると一連の杭列の可能性もある。

各グループの所属時期は明らかではないが、No.1～7についてはSR-3河川跡の北岸の側にこれと平行な位置にあることから、VIIc層の時期の可能性が指摘されるが、十分な確証はない。

O 5 区杭列 O 5 区で東西方向に直線的に5本の杭が検出された。5本のうち東から2本目の杭は腐朽が進み、原型を止どめていなかった。また東端の杭（第153図 No.17）も取り上げの際に崩壊した。杭列の東西両端間の距離は190cmを計り、杭の間隔は42～57cmである。取上げた3本の杭材には心持ちの丸材と分割材があり、両方とも先端には加工が施されている。No.1～7と同じくSR-3河川跡の北岸の側にこれと平行な位置にあることから、同様にVIIc層の時期の可能性が指摘される。

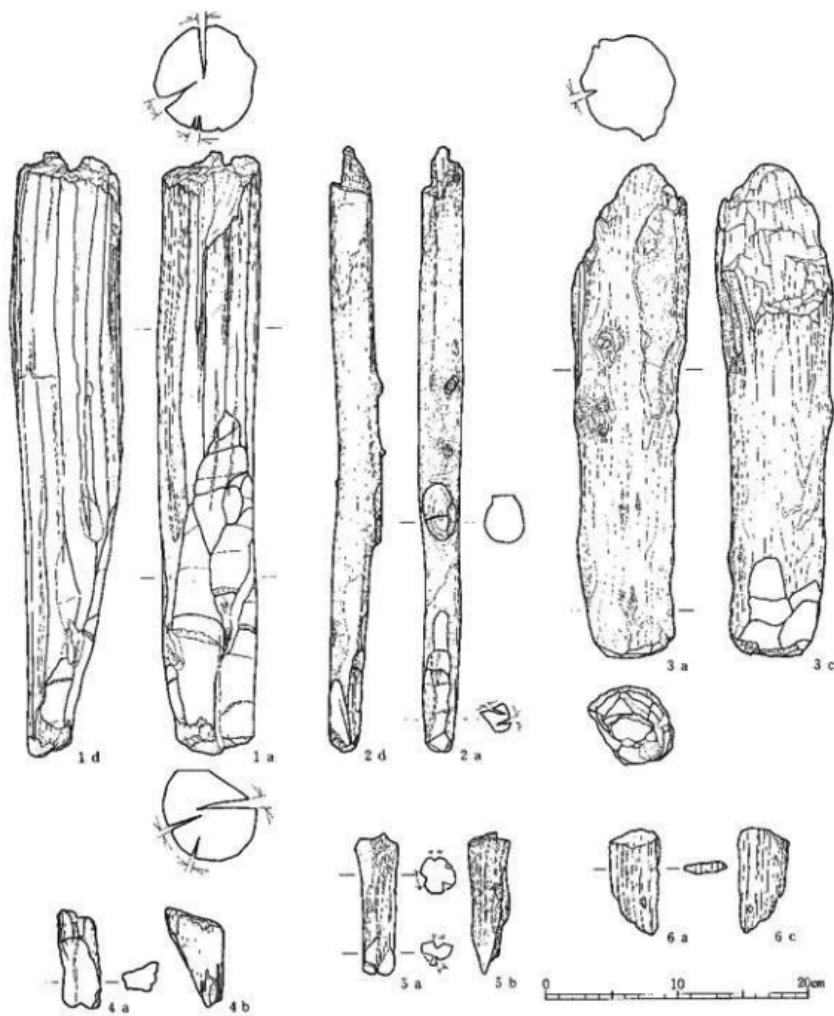


第153図 O-5区杭列実測図



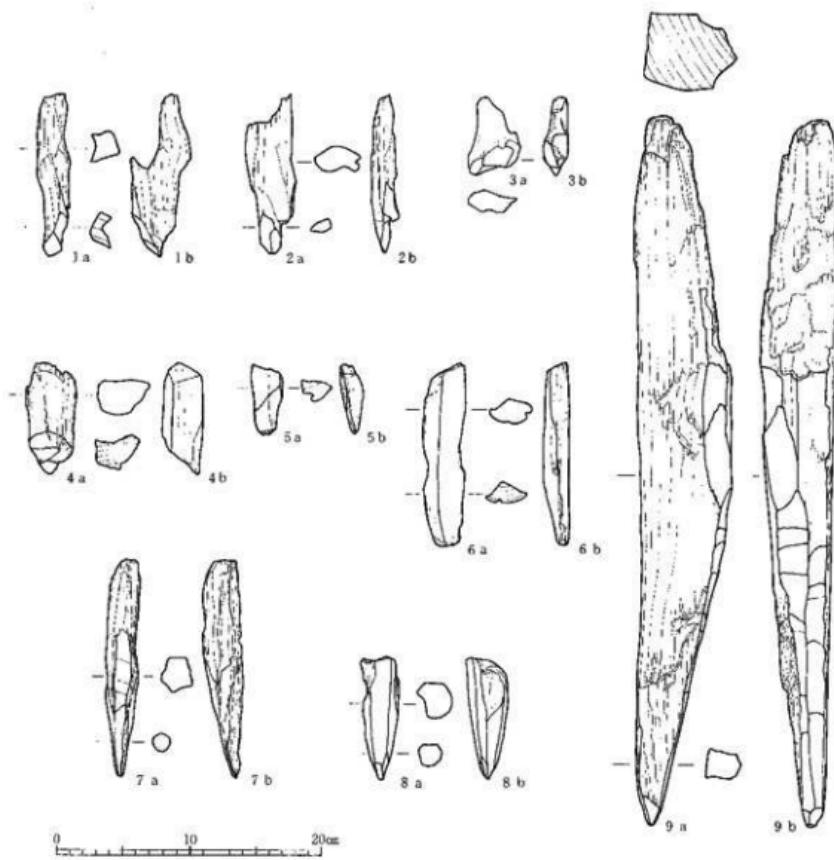
番号	測定番号	高さ mm	柱先 直径 mm	測定名	横径 mm		横 幅 mm	柱 幅 mm	大 幅 加 工 寸 法 mm		柱 厚 mm	備 考	年 代 推 測
					奥 方 幅 mm	前 方 幅 mm			左 右 幅 mm	左 右 幅 mm			
1	L-76	-	O.P-5.494	SR-3.7	22.7	2.3	2.7	丸 柱	有	2	2	12.9	繩接合
2	L-77	-	O.P-5.495	SR-3.7	22.5	2.3	2.7	丸 柱	有	1	2	6.5	2段以上接合
3	L-78	-	O.P-5.496	SR-3.7	74.8	2.4	2.3	丸 柱	有	1	3	8.8	繩接合
4	L-79	-	O.P-5.496	SR-3.7	74.4	6.4	6.3	丸 柱	有	1	1	24.2	山根あり、加工下+上
300													

第154図 O・P-5・6区杭列杭材実測図(1)



番号	樹種番号	木名	出土地點	標識名	直径 (cm)			高さ	上枝	202 年数 (年)	考	参考文献	
					横径 (cm)	右側 (cm)	左側 (cm)						
1	L-80		O-P-5-6	SR-37	46.3	8.3	8.1	丸材	有	3	5	26.1	
2	L-81		O-P-5-6	SR-37	46.3	3.3	3.1	丸材	有	2	4	16.9	
3	L-82		O-P-5-6	SR-37	37.7	8.0	7.9	丸材	有	3	3	7.5	光輪切材
4	L-84		O-P-5-6	SR-37	7.5	4.1	2.6	△割材	有	1	1	5.4	
5	L-82		O-P-5-6	SR-37	10.8	2.8	2.7	丸材	有	1	1	3.0	
6	L-86		O-P-5-6	SR-37	8.1	4.0	0.3	△割材	無	—	—	—	

第155図 O・P-5・6区杭列杭材実測図(2)



番号	採取場所	標本	材半径	通幅	横幅 mm			木 材 部 分 数	本 材 部 分 数	二 次 部 分 数	HT 高さ (cm)	度 角	年 代
					外 径 (mm)	内 径 (mm)	厚 さ (mm)						
1 L-45	O-P-5	5-a	—	—	12.5	4.0	2.4	分離材	右	1	2	5.7	—
2 L-47	O-P-5	5-b	—	—	12.1	3.6	1.9	丸材	左	3	1	9.4	—
3 L-48	O-P-5	6-a	—	—	4.0	2.9	1.9	分離材	右	2	2	2.1<	—
4 L-49	O-P-5	6-b	—	—	8.6	3.0	2.6	分離材	右	1	1	3.3	308
5 L-50	O-P-5	7-a	—	—	5.4	2.3	1.8	分離材	右	1	2	5.4<	—
6 L-51	O-P-5	7-b	—	—	14.0	3.8	3.5	分離材	左	—	—	—	—
7 L-176	O-P-5	8-a	—	—	16.2	2.7	2.5	丸材	右	2	2	11.2	—
8 L-179	O-P-5	8-b	—	—	9.4	2.7	—	丸材	左	2	2	9.4	—
9 L-182	O-P-5	9-a	—	—	53.6	7.0	3.5	分離材	右	4	10	35.6	308

第156図 O-P-5-6区杭列杭材実測図(3)

D・E-8・9区杭列 D・E
…8・9区のX層上面では7本の杭が検出された。(第157図)
このうち杭No.1～3と杭No.4～6がそれぞれ3本ずつの列をなし、No.7は単独で存在する。

杭No.1～3は南西から北東方向に並び、両端間の距離は260cmを計る。杭の間隔はNo.1とNo.2が42cm、No.2とNo.3が218cmである。

杭No.4～6は南東から北西に並び、両端間の距離は325cmを計る。杭の間隔はNo.4とNo.5が153cm、No.2とNo.3が172cmである。

杭材はNo.2を除き、直径1.4～7.1cmの心持ちの丸材からなる。先端部はいずれも加工されている。

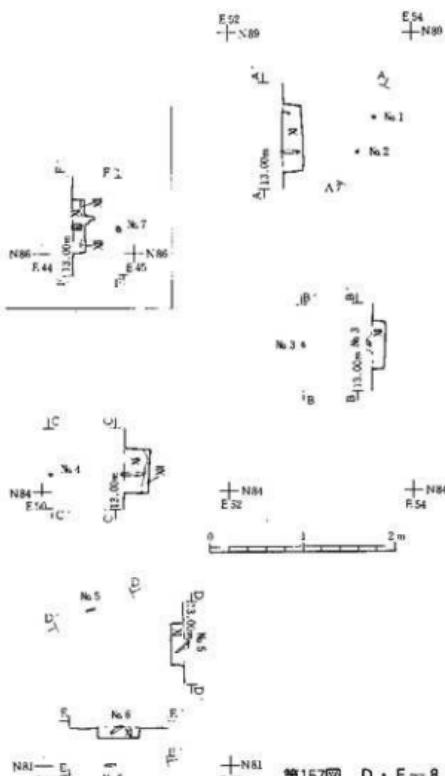
D・E・F-4・5区杭列
D・E・F-4・5区のX層上面では16本の杭が検出された。(第

159図)これらの杭は、杭No.2～7の5本からなる列、杭No.9～16の8本からなる列、及び単独に存在する杭No.1・8のグループに分けられる。杭No.2～7の列と杭No.9～16の列は120cm前後の間隔で平行に伸びている。

杭No.2～7は、N-4°-Wの方向に伸び、両端間の距離は270cmを計る。杭の間隔は18cm～165cmである。

杭No.9～16は、N-4°-Wの方向に伸び、両端間の距離は545cmを計る。杭の間隔は33cm～150cmである。

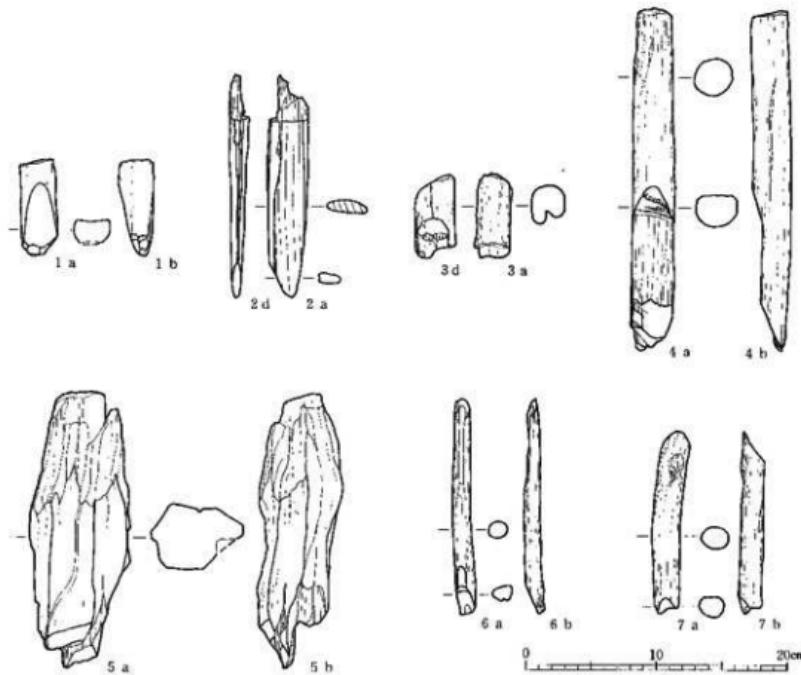
この地区的杭材は全て心持ちの丸材からなっており、分割材は含まれていない。材の直径は



第157図 D・E-8・9区検出杭列実測図

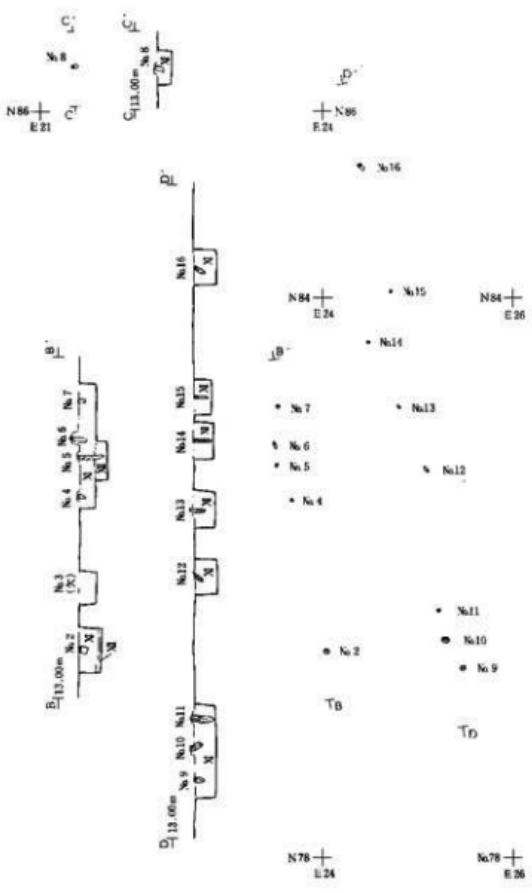
1.9~4.8cm であるが、2 cm 代の比較的細いものが多い。先端は加工されたものと未加工のものがあり、その割合は杭 No 2~7 の列も杭 No 9~16 の列も半々くらいである。

O・P-7・8・9区杭列 O・P-7・8・9区では8本の杭が検出された。(付図-8、No 1~8) これらの杭には方向性(並び)が認められず、個別的な存在として検出されている。その意味では杭列と言うより杭と呼べるものである。杭材となっているのはいずれも心持ちの丸材で、直径は1.2~2.9cm の比較的細いものである。先端は加工されたものと未加工のものが混じっている。(第161図)



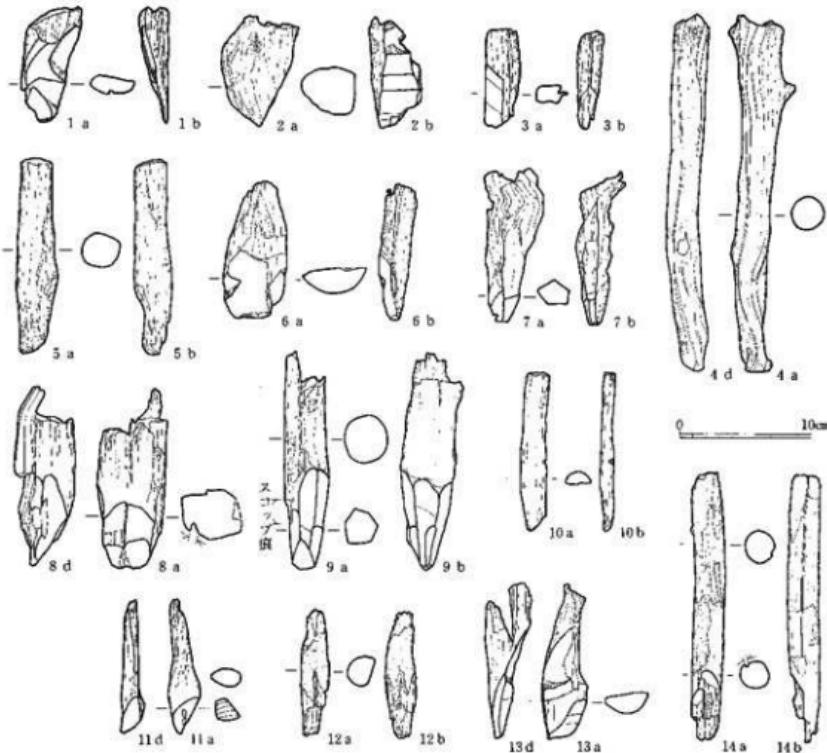
番号	遺物番号	発生部位	出土No.	断面形	直径(cm)		材質	長さ(cm)		幅(?)		厚さ(cm)		年	測定者
					外径	内径		(A-C)	(B-D)	(C-E)	(D-F)				
1	L-198	石室上部	D-9No.1	7.4	2.6	1.8	丸材	7.4	7.4	1+7	?	3.6	—	—	309
2	L-199	石室上部	D-9No.2	17.1	3.0	1.9	丸材	—	—	1	1	2.7	—	—	—
3	L-200	石室下部	D-9No.3	6.5	3.0	2.5	丸材	—	—	2	1	3.1	—	—	—
4	L-201	石室下部	D-9No.4	10.2	2.1	2.4	丸材	—	—	1	1	2.5	—	—	—
5	L-204	石室上部	D-9No.7	21.1	7.1	5.0	(丸材)	21.1	21.1	3-4	?	11.2-12.5	—	—	309
6	L-202	石室下部	E-9No.5	16.0	1.4	1.3	丸材	—	—	1	2	4.0	中國木	—	309
7	L-203	石室下部	E-9No.6	14.0	2.1	1.7	丸材	—	—	1	2	1.3	中國木	—	—

第158図 D-E-8・9区検出杭列杭材実測図



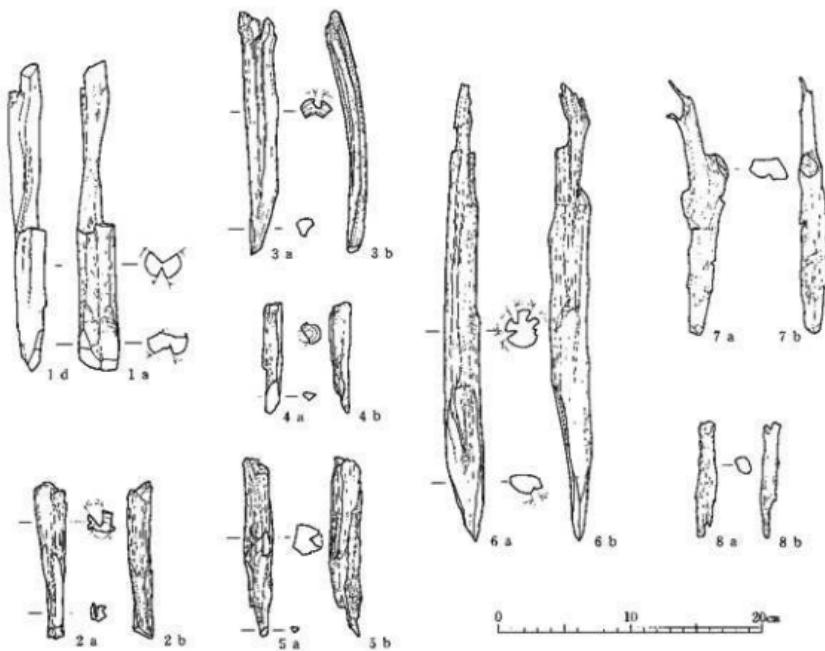
第159図 D・E・F-4・5区
検出杭列実測図





器種	器物番号	基本復元	出土場所	遺物名	残存長 (cm)		測定者	測定長 (cm)		測定者	測定者	測定者
					左端	右端		左端	右端			
1	L-183	石器上部	E-5 No.1		8.9	3.3	1.4	8.9	3.3	1	6	7.9
2	L-184	石器上部	E-5 No.2		8.5	4.1	3.6	8.5	4.1	2	4	3.7
3	L-185	石器上部	E-4 No.4		7.9	2.3	7.4	7.9	2.3	1	2	4.9
4	L-186	石器上部	E-4 No.5		22.3	2.9	—	22.3	2.9	—	—	—
5	L-187	石器上部	E-4 No.6		14.9	2.7	2.6	14.9	2.7	—	—	—
6	L-188	石器上部	D-4 No.6		10.3	2.6	2.1	10.3	2.6	2	2	8.3<
7	L-189	石器上部	E-5 No.7		21.6	2.4	1.9	21.6	2.4	3	3	20.6<
8	L-191	石器上部	E-5 No.10		13.8	4.6	3.3	13.8	4.6	4	2	7.0
9	L-192	石器上部	E-5 No.11		58.7	3.7	3.2	58.7	3.7	6-1	6	7.7
10	L-196	石器上部	D-5 No.15		12.2	3.9	3.0	12.2	3.9	—	—	半體
11	L-190	石器上部	E-5 No.12		10.3	2.3	2.6	10.3	2.3	3	3	2.6
12	L-194	石器上部	E-5 No.13		9.7	2.3	2.1	9.7	2.3	—	—	測定者
13	L-197	石器上部	D-5 No.16		11.9	3.3	1.7	11.9	3.3	2	2	8.6
14	L-195	石器上部	E-5 No.14		26.5	2.2	2.1	26.5	2.2	1	2	5.3

第160図 D・E・F-4・5区検出杭列杭材実測図



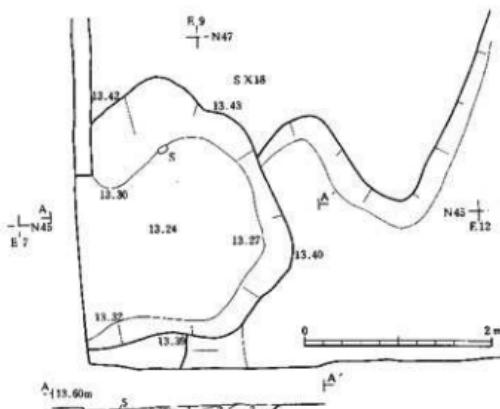
編號	發掘地點	器物名	出土地點	遺 墓 号	刀 (Dol)		木 材	木 墓 70		鐵工	銅	考	可比照品
					高	寬		(公分)	厚	形	量		
1 L-24	O·P-7 L-24.2.3.4.5.	刀	西漢	24-10	28.5	2.7	1.8	8.5	0.2	圓	3	2	3.2
2 L-95	O·P-7 L-95.2.3.4.5.	刀	西漢	24-10	23.1	2.9	1.7	8.5	0.2	圓	—	—	0.9
3 L-96	O·P-7 L-96.2.3.4.5.	刀	西漢	24-10	26.9	2.9	2.3	8.5	0.2	圓	2	—	2.6
4 L-97	O·P-7 L-97.2.3.4.5.	刀	西漢	24-10	23.5	1.5	1.4	8.5	0.2	圓	—	—	3.5
5 L-98	O·P-7 L-98.2.3.4.5.	刀	西漢	24-10	23.7	2.4	2.2	8.5	0.2	圓	—	—	4.2
6 L-99	O·P-7 L-99.2.3.4.5.	刀	西漢	24-10	24.7	2.9	2.7	8.5	0.2	圓	6	1	11.9
7 L-100	O·P-7 L-100.2.3.4.5.	刀	西漢	24-10	24.2	2.9	1.8	8.5	0.2	圓	—	—	—
8 L-101	O·P-7 L-101.2.3.4.5.	刀	西漢	24-10	23.9	1.2	—	8.5	0.2	圓	—	—	—

第161圖 O·P-7·8·9區檢出杭列杭材實測圖

6) その他の遺構

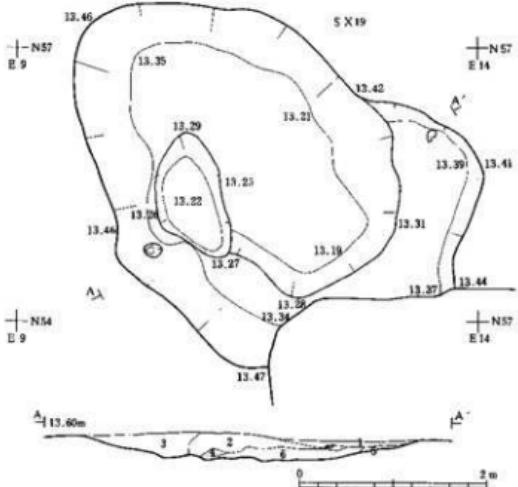
S X-18遺構 K 2区で検出された。西半部は調査区の外へ伸びている。検出部の平面形は不整形を呈し、南北軸長272cm、検出部東西軸長226cmを計る。深さは15cm程で底面はほぼ平坦である。堆積土は7層に分けられた。出土遺物はない。

第162図 S X-18遺構実測図



番号	土色	土質	その性	番号	土色	土質	その性
1	10YR2/2 黄褐色	シルト	酸化鉄を含む。バクスを含む	5	10YR2/2 黄褐色	シルト	酸化鉄を含む。バクスを含む
2	10YR2/3 黄褐色	粘土質	酸化鉄を含む。バクスを含む	6	10YR3/3 に近い 黄褐色	シルト	酸化鉄を含む。バクスを含む
3	10YR4/2 黄褐色	シルト	酸化鉄を含む。バクスを含む	7	10YR4/4 黄褐色	シルト	酸化鉄を含む。バクスを含む
4	10YR5/1 黄褐色	シルト	酸化鉄を含む。下半分に灰白色土を含む				

S X-19遺構 I・J-2・3区で検出された。南東部は試掘区に切られている。検出部の平面形は北西から南東方向に長軸を有する不整な橢円形を呈し、検出部の長軸385cm、短軸346cmを計る。深さは28cm程で底面には緩い凹凸がある。断面形は舟底形を呈し、南東部に段を有する。堆積土は6層に分けられた。出土遺物はない。

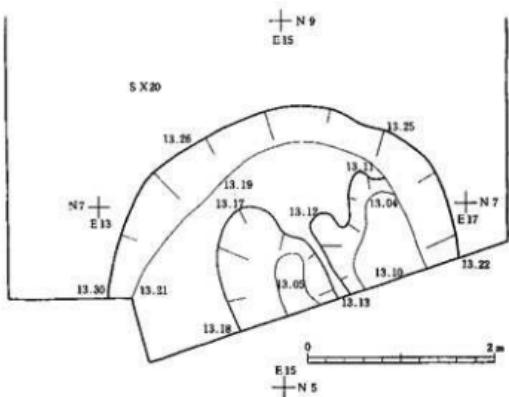


番号	土色	土質	その性	番号	土色	土質	その性
1	10YR3/2 黄褐色	粘土	1cm以上のバクスを含む	4	10YR3/2 に近い 黄褐色	シルト	酸化鉄を含む
2	10YR5/4 に近い 黄褐色	粘土	酸化鉄を含む。酸化鉄を含む	5	10YR4/4 黄褐色	粘土	バクス、酸化鉄を含む
3	10YR2/2 黄褐色	シルト	9.3cm以上のバクスを含む。酸化鉄を含む	6	10YR2/1 黄褐色	シルト	バクスを含む

第163図 S X-19遺構実測図

S X-20遺構 Q・R-3

区で検出された。南部は調査区の外に伸びている。検出部の平面形は半径1.9m程の半円形を呈し、検出部の東西軸363cm、南北軸224cmを計る。深さは21cmで底面には凹凸がある。石匙が1点出土している。(第172図5)



第164図 S X-20遺構実測図

S X-36遺構 E・F-10区で検出された。平面形は北西から南東方向に長軸を有する不整な梢円形を呈し、長軸520cm、短軸325cmを計る。深さは64cmで底面には緩い凹凸がある。

断面形は短軸方向では舟底形を呈し、長軸方向では逆台形に近いが、南東部に階段状の段を有する。堆積土は12層に分けられた。堆積土の大部分は基本層X層を起源とする褐色からにぶい黄褐色の粘土が主体となり、大きな塊となって堆積しており、X層起源の土層は壁際に僅かに分布するに過ぎない。X層上面から見るとX層が盛上がった状態となっている。このような堆積は通常の自然堆積と考えられないので、この遺構については風倒木痕と判断される。出土遺物はない。

S X-37遺構 D-11・12区で検出された。北東部の壁の一部を2個のピットに切られている。平面形は北西から南東方向に長軸を有する不整な梢円形を呈し、長軸192cm、短軸94cmを計る。深さは10cm程で底面には緩い凹凸がある。断面形は不整な舟底形を呈する。堆積土は黒褐色のシルト層からなる。出土遺物はない。

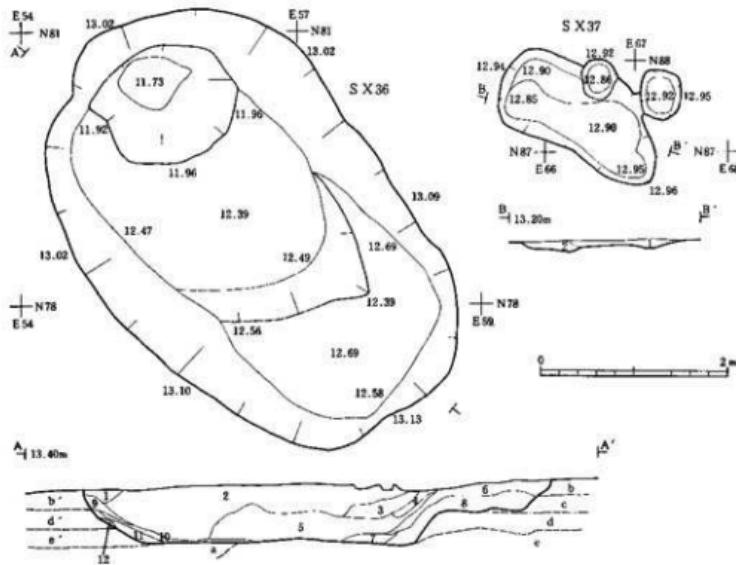
7) 出土遺物

X層から出土した遺物には土器片と石器がある。

土器 出土した土器には縄文土器と弥生土器がある。弥生土器片(第169図)は配石遺構を検出した際等にX層上面から出土しているが、明確にX層中から出土したものはない。従ってこれらの弥生土器片はX層下面ないしX層の落込みのものと解釈している。

縄文土器のうち文様のある土器片は、その特徴により次の14類に分けられる。

1類 変形爪形文と半載竹管により施文されるもの。(第166図1)



S X-36			
No.	土色	土質	その他の
1	10YR4/1 黒褐色	粘土	有機物を多く含む
2	10YR4/4 黒	粘土	黒褐色粘土の小ブロックを多く含む
3	10YR4/4 に近い黒褐色	粘土	粗粒の 5cm 粒径のブロックから成る。
4	10YR4/2 黒褐色	粘土	に近い黒褐色粘土の小ブロックを含む
5	10YR4/1 に近い黒褐色	粘土	下半部はオーバー成層に変化している
6	10YR4/2 黒褐色	粘土	に近い黒褐色粘土をブロック状に含む
7	5-GV1/1 オリーブ灰色	粘土	暗褐色ブロックを少數含む
8	10YR5/3 暗褐色	粘土	黒褐色粘土上に黄褐色粘土の小ブロックを含む。下部はグライ化している
9	10YR4/1 黒 色	粘土	有機物を多量に含む。に近い黄褐色シルト質粘土の小ブロックを含む
10	10YR4/4 黒 色	シルト	暗褐色上のブロックを含む
11	10YR4/2 黒褐色	粘土	オリーブ灰粘土のブロックを多量に含む
12	10YR5/3 に近い黒褐色	粘土	黒褐色粘土のブロックを含む
a	5-GV1/1 暗オリーブ灰色	砂質粘土	凹凸面の風化
b	10YR5/2 黒褐色	粘土	基本地盤
c'	6	6	6
c	10YR4/3 に近い黒褐色	粘土	基本地盤埋蔵上限
d	10YR4/1 に近い黒褐色	粘土	基本地盤
e'	5-GV1/1 オリーブ灰色	粘土	基本地盤
e	10YR5/2 黑褐色	シルト	66 領域

S X-37			
No.	土色	土質	その他の
1	HSTR5/3 黒褐色	シルト	
2	HSTR2/7 黑褐色	シルト	

第165図 S X-36・37造構実測図

2類 隆線により連結「S」状文が付され、文様間は充填繩文により施文されているもの(第166図2)

3類 肥厚する口縁部付近の破片で、太い沈線によって渦巻き文ないし同心円文が描かれているもの。(第166図3・4)

4類 肥厚する口縁部付近の破片で、縦位籠帯の間を数条の横位沈線が巡るもの。(第166図5)

5類 肥厚する口縁部付近の破片で、横位に2条の沈線が巡り、その間に連続して横位の刺突が付されるもの。(第166図6・7・8)

6類 体部の破片で、半截竹管状の2条同時に書ける道具により、多条の沈線で渦巻き文ないし同心円文が描かれるもの。(第167図1)

7類 体部の破片で、半截竹管状の2条同時に描ける道具により、横位と縦位と交互に多条の平行沈線文が描かれているもの。(第167図2・7)

8類 体部の破片で、半截竹管状の2条同時に書ける道具により、縦位に平行沈線文の描かれるもの。(第167図3~6、8~11、13)

9類 体部の破片で、1条の沈線で文様が描かれ、文様内が磨消されるもの。(第167図12)

10類 薄い体部の破片で、沈線により文様が描かれるもの。(第169図2)

11類 体部の破片で、隆線と沈線で文様が描かれているもの。(第167図13)

12類 体部が丸みを持って立上がり、体部上端が括れて、僅かに内湾する幅の広い波状口縁部へいたる鉢形の土器で、括れの上から口縁部の下半が磨消繩文により波状の文様が描かれているもの。(第168図1)

13類 口縁から体部上端にかけて破片で、口縁部には頂部と外面から刺突が加えられた山形突起が付いており、体部は数条の沈線により文様が描かれるもの。(第169図1)

14類 繩文の付された体部から研摩された口縁部の下半にかけての破片で、体部と口縁部と境の外面には沈線が巡り、内面は突出しているもの。(第169図3)

各類型の時期について見ると、1類は爪形文や半截竹管文で施文されており、施文の手法から見ると大木3式に該当する。しかし管見した県内の大木3式の資料中には、1類の様な文様構成のものはない。この土器のような口縁部付近に幅の広い変形爪形文を数条配し、口唇部には縦に刻み目を連続して入れ、体部に半截竹管で平行沈線を施文している土器は、福島県南部の芹沢遺跡(藤間・木本:1975)や茨城県貝ケ窪貝塚(西村:1966)などに類例があり、むしろ関東地方の編年浮島II式期の土器と特徴が一致する。浮島II式期と大木3式の関係については触れないが、いずれにしても1類の土器については繩文時代前期中葉に位置付けられる。

2類は大木10式期の特徴を有することから、繩文時代中期後半に位置付けられる。丹羽茂氏

の大木10式土器の変遷案では第II段階に当たり（丹羽：1981）、福島県田地ヶ岡遺跡（梅宮・八卷：1975）等に類例がある。

3・4・5・6・7・8・9・11類の土器はいずれも縄文時代前期前葉の宮戸Ib位置付けられるものであろう。そのほか12類は縄文時代後期中葉の宮戸II式、13類は縄文時代後期後葉の宮戸III式にそれぞれ位置付けられる。10・14類は縄文時代後期頃のものと考えられるが、細別形式は不明である。

縄文土器には以上のような文様を有する破片の地に、底部資料（第169図4～7）や粗製土器（第168図2）、及び地文だけの破片、あるいは摩滅して地文も明らかでない破片もある。摩滅して地文も明らかでない破片には胎土中に纖維が含まれているものも数点ある。

以上のようにX層中には、前期から後期までの幅をもった縄文土器が包含されている。これらがそのままX層の形成された年代幅を示すものなのか、あるいは幾つかの時期のものは丘陵上部等から流入したものか、各時期の明確な遺構が検出されていないので明らかでない。

石器 X層からは多数の石器が出土している。石器の種類には石斧・石籠・石匙・尖頭器・石錐・石鎌・不定形石器・使用痕のある剝片・その他の剝片・接合資料・石核・磨石・凹石・敲石がある。

石斧はいずれも磨製石斧で、刃部付近の破片3点と、刃部の剝離片の3点の計6点が出土している。（第170図1～6）刃部付近の破片3点のうち1・2は中形の石斧で、1には刃に直交する擦痕が、2には刃に対して斜方向の擦痕が観察される。3は小形の石斧で、いわゆる偏平片刃石斧の形態となっている。これについては弥生時代特有の石斧の特徴を備えていることからX層からの混入品の可能性が強いと考えられる。

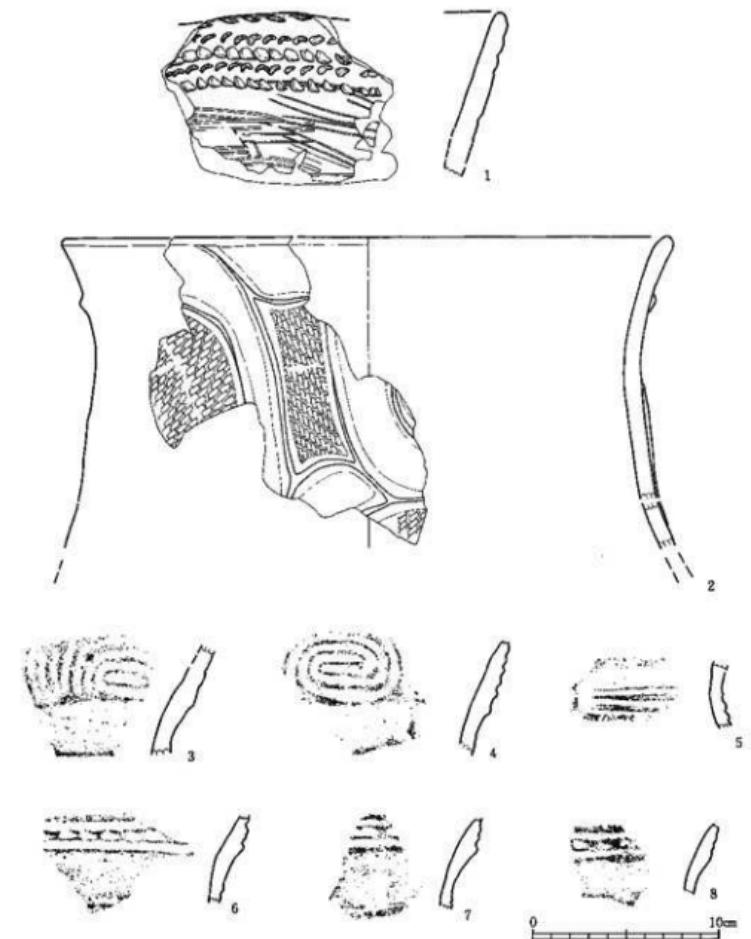
石籠ないし籠状石器は3点ある。（第171図1～3）1・2は短冊形の定形的な石籠で、一端に片面に寄った鈍角の刃部が形成されている。3は不定形な形態を呈するが、前2点と同様に一端に片面に寄った鈍角の刃部が形成されており、機能的には同一のものと考えられる。

尖頭器は1点ある。（第171図4）長さ6.25cm、幅2.3cmの縱長の木葉状を呈する小形のものである。基部は舌状になっている。

石錐は1点ある。（第171図5）剝片の一部を加工した簡単なもので、先端が折れているが、僅かに再調整して使用している。

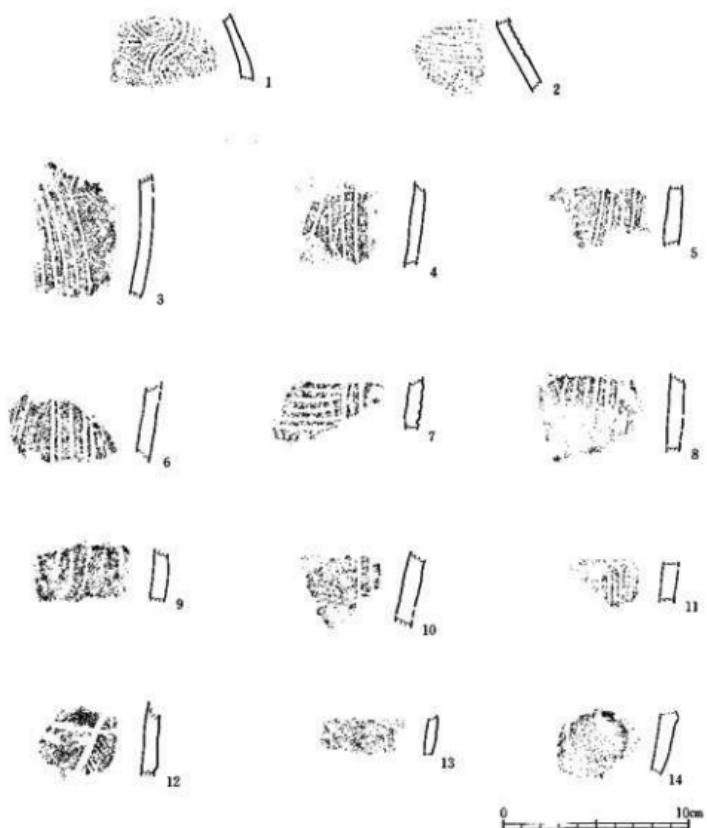
石匙はSX-20遺構出土のものを含めて6点ある。（第172図1～6）形態的には縱長のものが4点（2・3・5・6）と多く横長のものは1点（4）である。1については縱長と横長の中間的な形態である。

石鎌は15点ある。（第173図1～15）1は無茎で基部が直線となっている。2～7は無茎で基部が僅かに内側に抉られている。8～12は無茎で基部が内側に半円形に抉られている。13～14



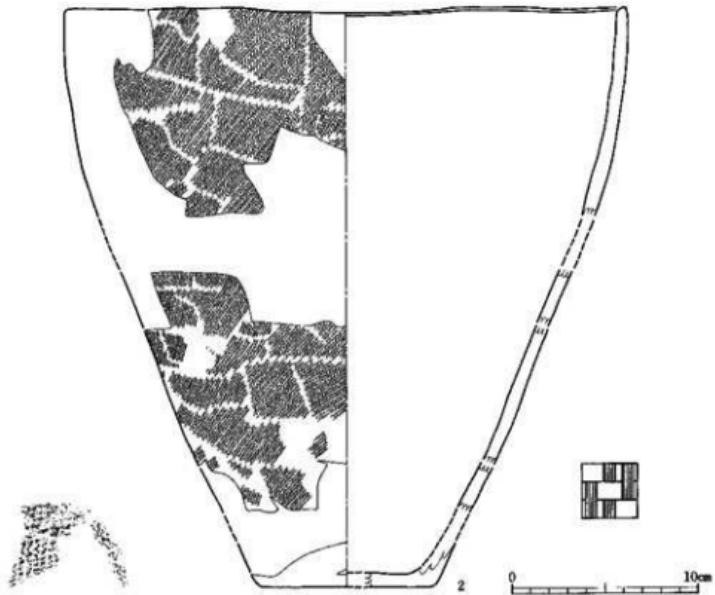
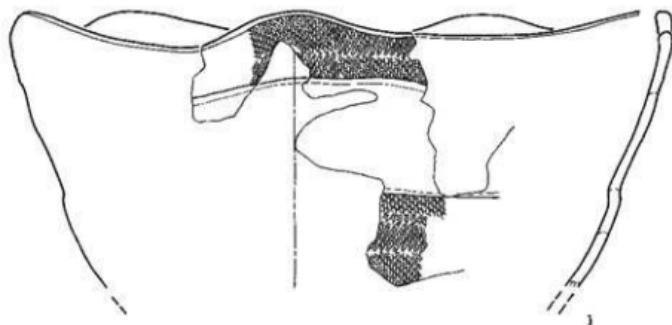
第166図 雨層出土遺物実測図（1）

器種番号	遺物番号	層位	出土地點	直 様	形 性	質 材	法 量 (cm)	外 面	内 面	写真圖版
1	A-6	瓦層	Q-9	陶文小盤	圓盤	口沿無	Φ 31.8 H 2.0	山字形飾・方陣形乳丁紋・管足	イテ	263
2	A-2	瓦層	J-6	陶文小盤	圓盤	(D. 41) (D. 4)	高文 (HL) 一輪乳丁	管足	263	
3	A-7	瓦層	O-2.2	陶文小盤	圓盤	4.3×6.7	高文	263		
4	A-8	瓦層	O.P-4.3	陶文小盤	圓盤	6.0×8.3	高文	263		
5	A-10	瓦層	O.P-4.5	陶文小盤	圓盤	3.5×6.9	高文・管足文	263		
6	A-23	瓦層	O-2.2	陶文小盤	圓盤	8.2×8.0	高文文・疣狀突	263		
7	A-24	瓦層	Q-4.3	陶文小盤	圓盤	5.2×5.0	高文文・疣狀突	263		
8	A-25	瓦層	Q-2.2	陶文小盤	圓盤	4.5×5.0	高文文・疣狀突	263		



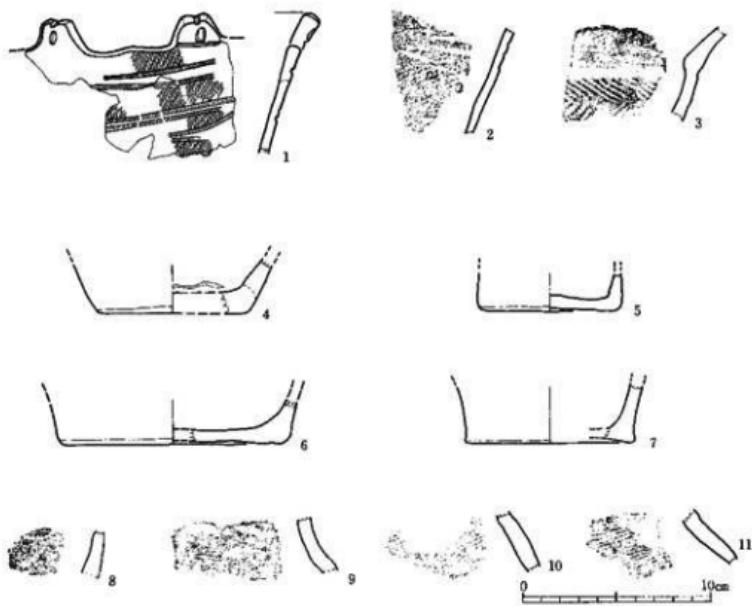
編號	遺物番号	層位	出土地點	遺物名	種類	體 汎	形狀	規 格 (cm)			外 形	內 形	年代表記
								口	底	高			
1	A-10	X層	K-2	繩文土器		4.5×6.6	柱狀文				圓底		263
2	A-11	X層	E-2	繩文土器		4.3×3.8	柱狀文・斜側文				圓底		263
3	A-12	X層	O-2.5	繩文土器		7.4×4.7	圓底 (L.R.) - 一弦繩文				圓底		263
4	A-14	X層	O-2.5	繩文土器		5.1×5.0	圓底 (L.R.) - 一弦繩文				圓底		263
5	A-15	X層	O-4.5	繩文土器		2.7×5.8	圓底 (L.R.) - 一弦繩文				圓底		263
6	A-16	X層	O-4.5	繩文土器		3.7×4.5	圓底 (L.R.) - 一弦繩文				圓底		263
7	A-17	X層	O-4.5	繩文土器		3.8×5.8	圓底 - 一弦繩文				圓底		263
8	A-18	X層	O-4.5	繩文土器		4.8×4.0	圓底 - 一弦繩文				圓底		263
9	A-19	X層	K-6	繩文土器		2.2×5.4	圓底 - 一弦繩文				圓底		263
10	A-20	X層	O-4	繩文土器		4.0×4.0	圓底 (L.R.) - 一弦 - 二弦繩文				圓底		263
11	A-21	X層	Q-4.5	繩文土器		2.6×3.7	柱狀文				圓底		263
12	A-22	X層	O.P-11	繩文土器		3.3×5.0	圓底 (L.R.) - 一弦繩文				圓底		263
13	A-26	X層	O-7	繩文土器		1.8×4.9	圓底 (L.R.) - 一弦繩文				圓底		263
14	A-28	X層	D-6	繩文土器		4.5×2.5	垂管文 - 二弦繩文				圓底		263

第167圖 XI層出土遺物測量圖 (2)



器名	器形	基本單位	出土地区	遺構名	層位	幅 厚	断面	体 量 (cm)	外 面	内 面	参考文献
1	A-1	井壁上部	J-12		繩文土壁	井		(14.7)			上井中 264
2	A-45	立壁	CJ-4.2		繩文土壁	井壁	29.0 9.0 31.0	繩文 (L2) 陶器時代底	上井中 264		

第168図 XI層出土遺物実測図（3）



番号	遺物	基本位置	山土地区	遺物名	部位	種別	大きさ (cm)			外観	内面	年次回数
							片面	両面	裏面			
1	石器上部	I-4		鶴丸土器		器	2.6×1.3			鶴丸(LR)→性線丸、新鶴丸	鶴丸	264
2	石器	H-5		鶴丸土器		器	4.1×6.3			鶴丸(LR)→性線丸	ミヅナ	264
3	石器上部	C-4.5		鶴丸土器		器	5.0×5.7			鶴丸(LR)、LR	ミヅナ	264
4	石器	D-6		鶴丸土器	片	器	0.45	0.40		鶴丸	鶴丸	264
5	石器	G-9		鶴丸土器	片	器	(0.8)	(2.1)		鶴丸	鶴丸	264
6	石器	H-6		鶴丸土器	片	器	(1.4)	(2.2)		鶴丸	鶴丸	264
7	石器	M-9		鶴丸土器	片	器	(0.8)	(2.0)		鶴丸	鶴丸	264
8	石器	I-4		鶴丸土器	片	器	2.5×2.0			鶴丸(LR)→カーボン付着	ナゲ	264
9	石器上部	NG-1	第2段H	鶴丸土器		器	3.7×6.1			鶴丸(LR)	ナゲ	264
10	石器上部	NG-1	第2段H	鶴丸土器		器	3.5×5.0			鶴丸(LR)→カーボン付着	ナゲ	264
11	石器上部	N-10	第2段H	鶴丸土器		器	4.0×4.0			鶴丸(LR)→カーボン付着	ナゲ	264

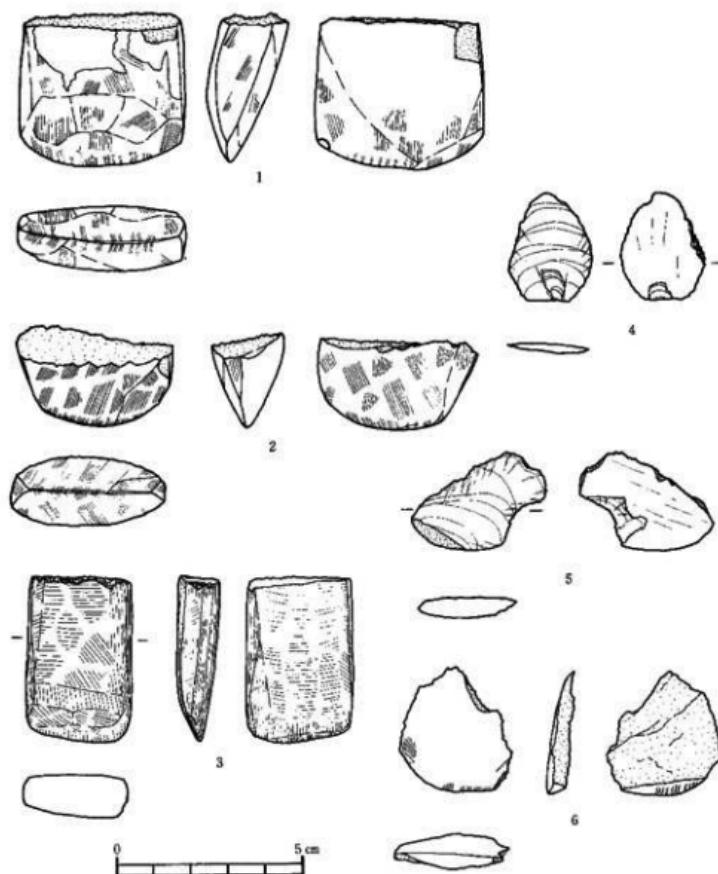
第169図 XI層出土遺物実測図 (4)

は有茎のものである。有茎のものは無茎に比較して小形である。

不定形石器及び使用痕のある剝片は15点ある。(第174・175・176図)このなかには第175図5・第176図3のように石匙の先端部の破片とみられるものも含まれている。

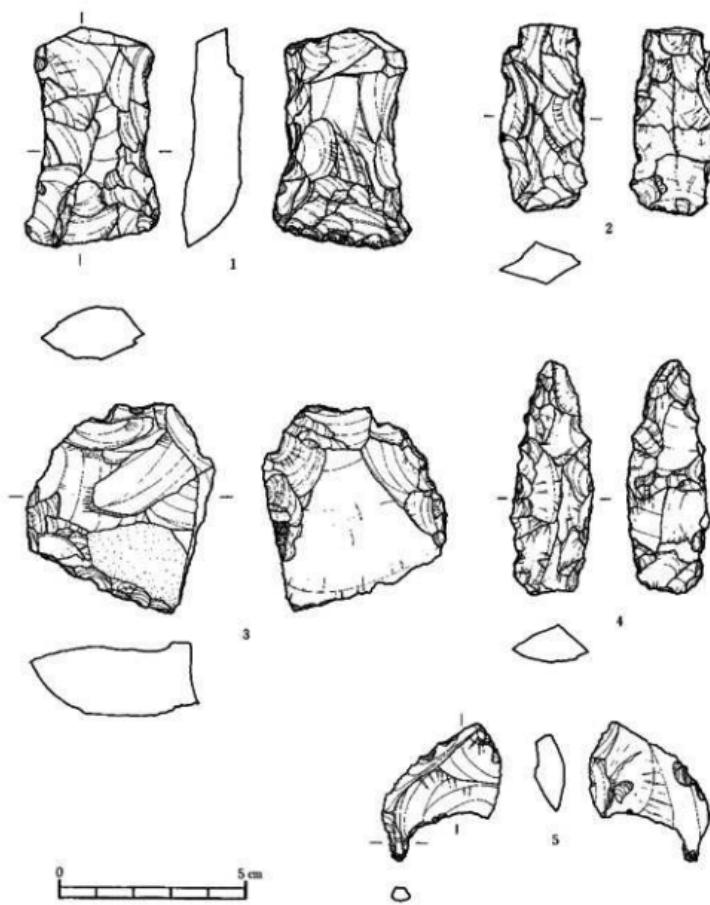
剝片は使用痕のあるものを除くと71点出土している。この中には第176図5・6のよあうに、X層で出土していると同様な安山岩製の偏平な剝片が含まれている。

接合資料は4点出土している。(第177~182図)接合資料の出土地点を見ると、F~K-2~4区からE12区にかけてのXI層が舌状に高くなっている部分にあたり、特にその先端付近のD・



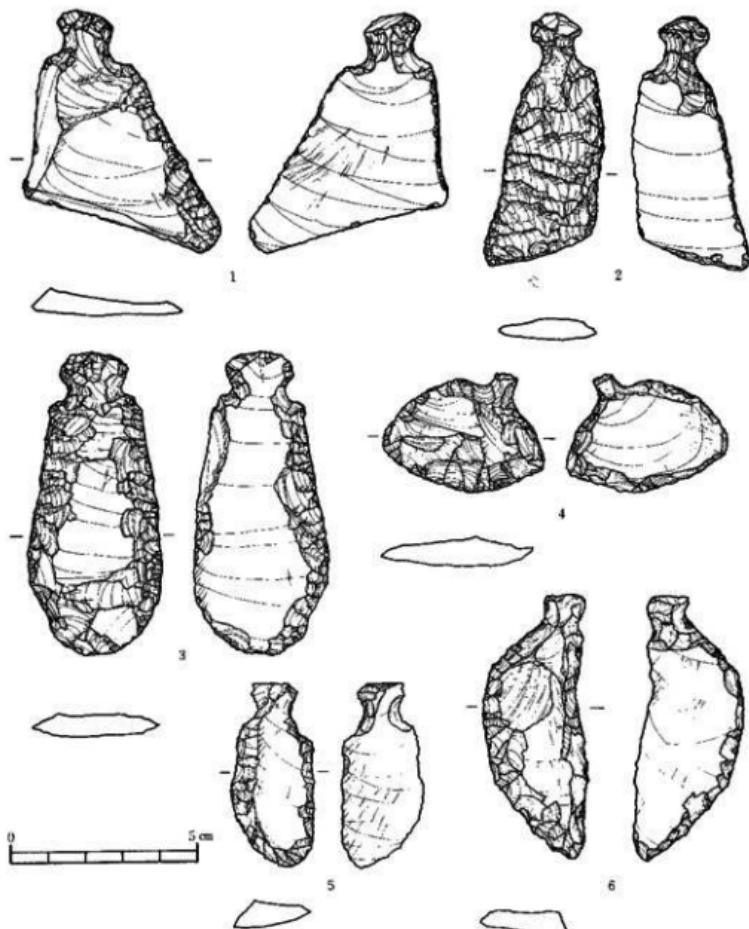
器物番号	遺物番号	基準層位	出土地點	遺 墓	種類	量 測	測 定 (mm)				石 材	備 考	参考文書
							長さ	幅	厚さ	面積			
1	K-175	基盤上部	F-4		磨製石斧	4.0	4.5	1.75	45.95	鉋状?			262
2	K-176	基盤	E-6		磨製石斧	2.6	4.15	1.9	32.75	鉋状			262
3	K-180	基盤	O-8		磨製石斧	4.5	2.8	1.1	27.40	鉋状石斧?			262
4	K-180	基盤	I-10		磨製石斧	2.6	2.5	0.25	1.45	小柄			262
5	K-179	基盤	K-2		磨製石斧	2.6	3.4	0.55	4.45	平柄			262
6	K-174	基盤	L-5		磨製石斧	3.35	3.05	0.95	6.50	短茎鉋形			262

第170図 XI層出土遺物実測図 (5)



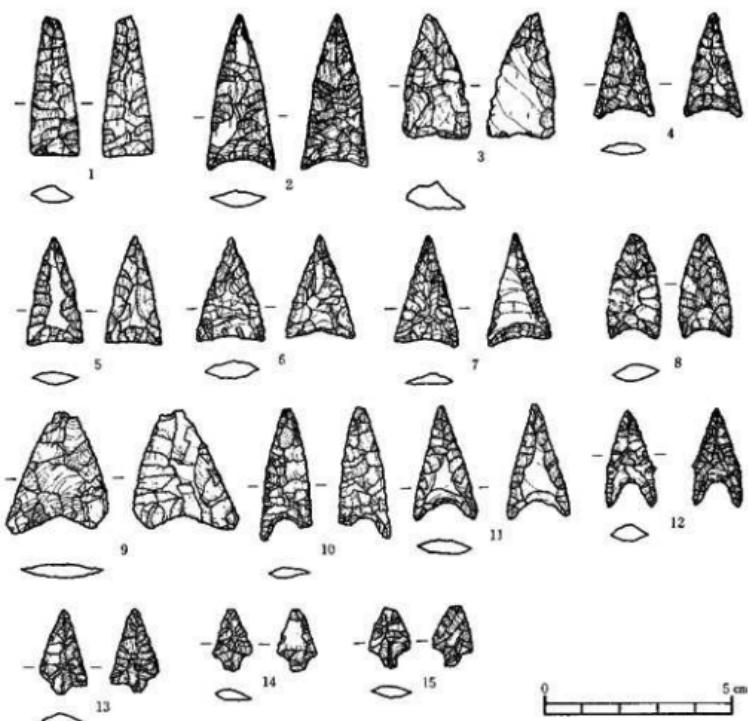
試験番号	遺物番号	基本層位	出土場所	種類	部位	種別	寸法 (cm・g)			材質	備考
							高さ	幅	厚さ		
1	K-36	Ⅲ層	H-4		石片		5.9	3.55	1.4	32.10	骨器
2	K-367	Ⅲ層	H-10		ヘラ状石器		5.0	2.4	1.1	32.35	往來網灰陶
3	K-386	Ⅲ層	H-11		ヘラ状石器		5.6	4.9	2.1	41.10	地質頭尖器
4	K-366	Ⅲ層	H-10		石器		6.35	2.3	1.0	32.30	往來網灰陶
5	K-36	Ⅲ層	P-4		石片		3.15	3.7	0.7	3.60	骨器

第171図 X層出土遺物実測図 (6)



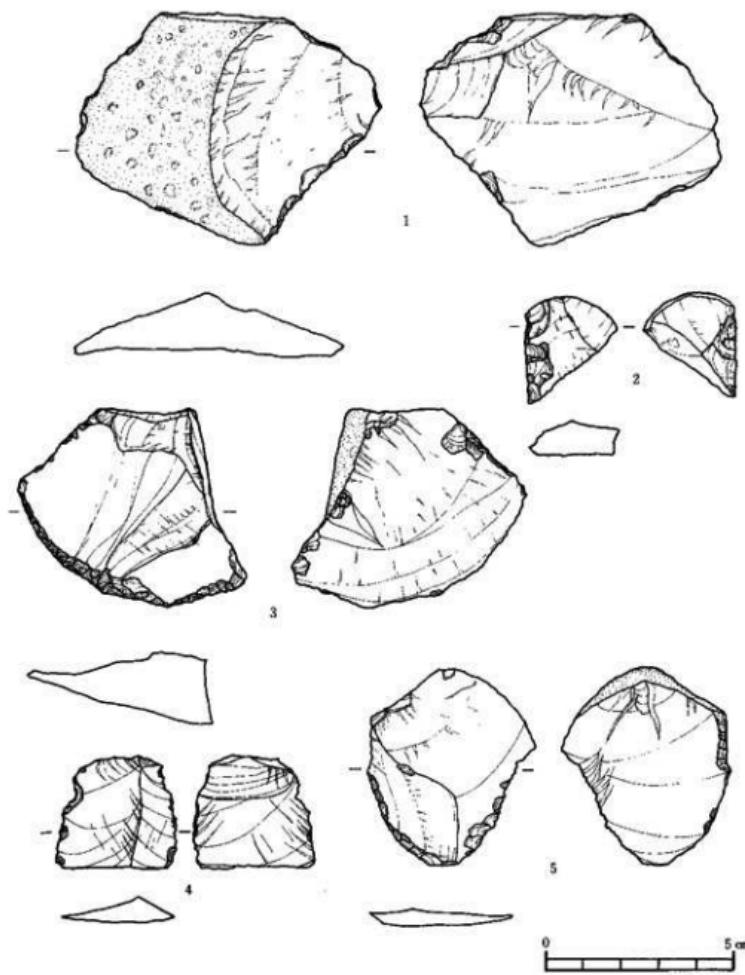
器物番号	着物番号	採取場所	出土地層	種類	性質	備考	測定 (cm・g)				石材	編 号	参考圖版
							高さ	幅	厚さ	重量			
1	K-35	瓦罐	L-8		陶器		6.5	9.35	0.7	19.65	黃泥		284
2	K-29	瓦罐	Q-2		陶器		6.95	9.05	0.6	11.30	黃泥		285
3	K-64	瓦罐	P-6		陶器		8.2	9.6	0.6	23.45	黃泥		286
4	K-354	瓦罐	E-11		陶器		3.2	4.4	0.75	4.20	黃泥		287
5	K-363	瓦罐	Q+R 3-5X-38	子器	石器		4.95	2.3	0.7	6.80	黃泥		288
6	K-365	瓦罐	F-2		陶器		7.1	2.8	0.7	17.85	黃泥		289

第172図 XI層出土遺物実測図 (7)



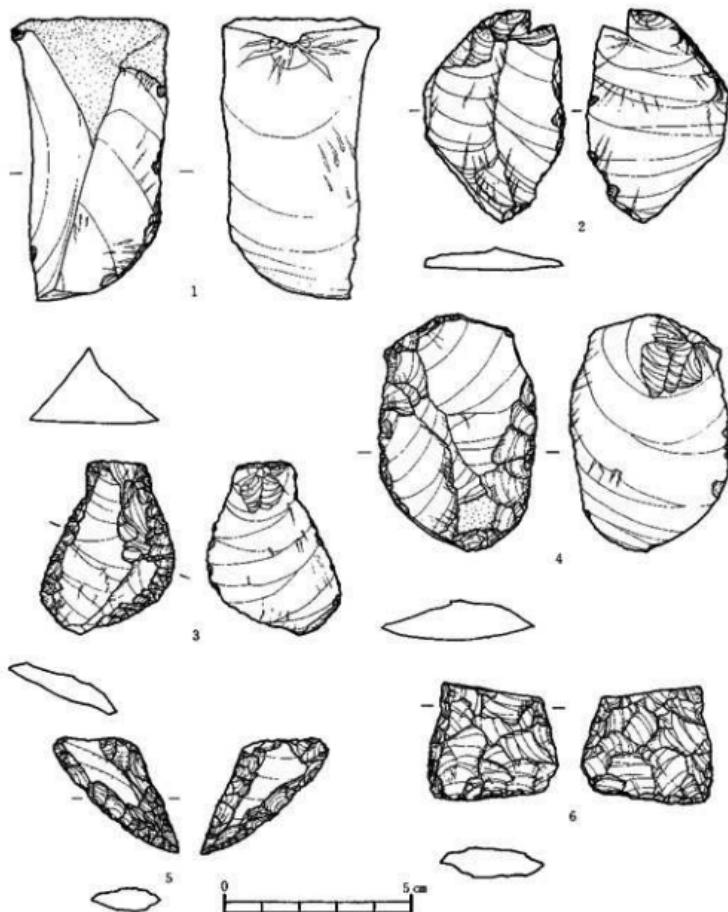
編號番号	遺物番号	採取場所	地層	遺物	形態	測定 (mm ± g)				材質	類別	時代	参考文献
						長さ	幅	厚さ	重さ				
1	K-87	石器	L-X	石器	石器	3.7	1.3	0.1	1.75	石器	石器	新石器	284
2	K-380	石器	N-2	石器	石器	4.15	1.85	0.3	2.40	石器	石器	新石器	284
3	K-352	石器	E-17	石器	石器	3.2	1.0	0.15	0.75	石器	石器	新石器	284
4	K-15	石器上部	K-12	石器	石器	2.8	1.05	0.2	0.90	石器	石器	新石器	284
5	K-158	石器	F-16	石器	石器	2.9	1.5	0.3	1.10	石器	石器	新石器	284
6	K-33	石器	O-7	石器	石器	2.8	1.8	0.4	1.40	石器	石器	新石器	284
7	K-76	石器	Q-4-5	石器	石器	2.0	1.7	0.3	1.15	石器	石器	新石器	284
8	K-112	石器下部	L-11	石器	石器	2.75	1.4	0.45	2.45	石器	石器	新石器	284
9	K-158	石器	F-9	石器	石器	3.2	2.0	0.4	2.25	石器	石器	新石器	285
10	K-72	石器	J-13	石器	石器	3.50	1.3	0.3	1.20	石器	石器	新石器	285
11	K-156	石器	O-8	石器	石器	3.05	1.75	0.25	1.30	石器	石器	新石器	285
12	K-35	石器	-	石器	石器	2.6	1.35	0.45	0.90	石器	石器	新石器	285
13	K-94	石器上部	L-10	石器	石器	2.2	1.3	0.4	0.65	石器	石器	新石器	285
14	K-21	石器上部	-	石器	石器	1.6	1.05	0.2	0.32	石器	石器	新石器	285
15	K-158	石器下部	K-5	石器	石器	1.6	1.1	0.3	0.42	石器	石器	新石器	285

第173図 XI層出土遺物実測図（8）



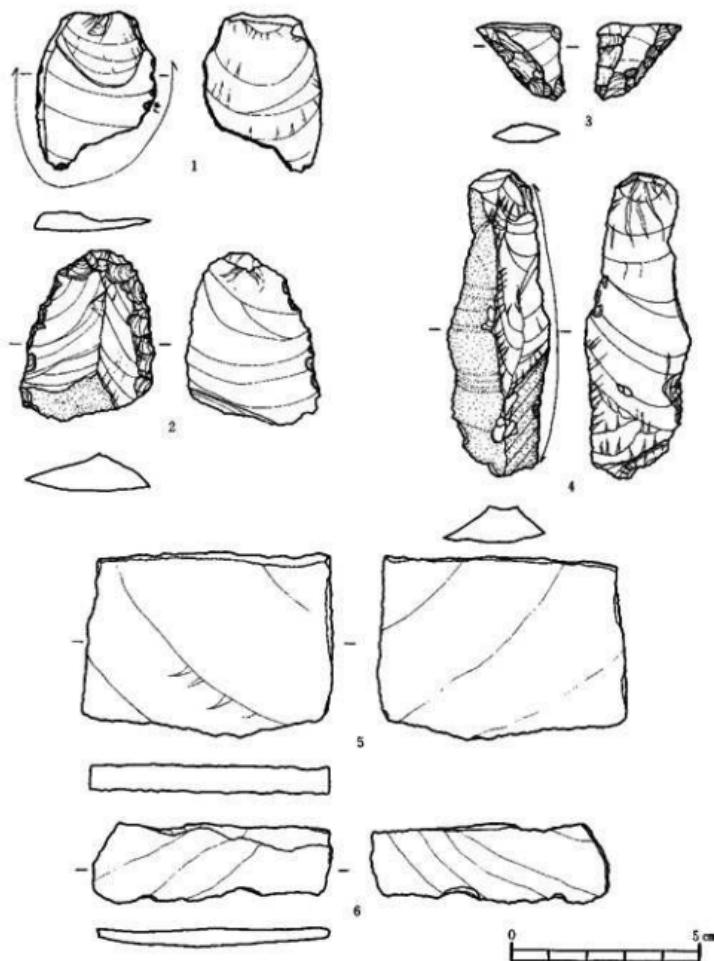
遺物番号	遺物番号	基部操作	底土地面	塊 様	厚さ	幅 高	寸 法 (cm・g)			石 種	考 号	刀曲面
							底	幅	厚さ			
1	X-18	刃端上端	D-12	不定形石器	4.2	8.1	1.7	29.10	石器頭(45西)		285	
2	X-77	刃端	Q-4	不定形石器	2.80	2.45	0.9	9.75	同前		286	
3	X-174	刃端	P-11	不定形石器	5.3	8.0	1.9	28.05	同上		286	
4	X-134	刃端	T-3	不定形石器	3.0	2.2	0.7	7.95	石器頭(45北)	使用痕あり	286	
5	X-173	刃端上端	P-3	不定形石器	9.2	4.4	0.45	12.10	同上		286	

第174図 X層出土遺物実測図 (9)



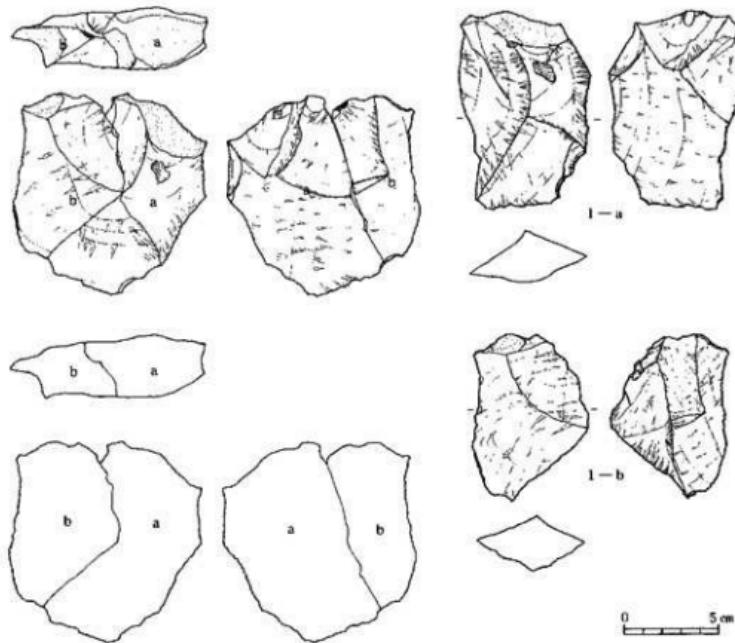
器物番号	遺物番号	基木層位	出土場所	直 深	層位	性 種	直 深 (cm・m)			材 素	備 考	写真圖版
							高さ	幅	厚さ			
1	K-185	Ⅲ層	ⅢF-22	SK-26		半定形石器	7.25	5.3	2.0	61.16	直刃	
2	K-113	Ⅲ層	-	L-11		不定形石器	6.7	3.75	0.6	13.13	直刃	
3	K-211	Ⅲ層上部	-	L-11		不定形石器	4.7	3.6	0.6	10.40	直刃	
4	K-115	Ⅲ層	-	H-11		不定形石器	6.35	4.2	1.1	22.59	直刃	
5	K-25	Ⅲ層	-	II-4	SK-33	不定形石器	2.1	2.5	0.6	9.25	直刃	
6	K-32	Ⅲ層	-	-		不定形石器	3.2	1.35	0.6	9.43	直刃	

第175図 XI層出土遺物実測図 (10)



图版番号	遺物番号	基本層位	出土地区	遺 様	器化	種 别	寸 量 (mm・g)				石 材	備 考	不真固率
							長	幅	厚	重			
1	K-172	II層	G-9	不定形石器	4.2	3.2	0.4	5.80	桂葉狀灰岩	使用痕あり	288		
2	K-154	II層上部	L-6	不定形石器	4.6	3.6	1.05	17.55	黑色頁岩		289		
3	K-171	II層	H-10	不定形石器	2.05	2.2	0.5	1.45	桂葉狀灰岩		288		
4	K-64	II層上部	K-9	刮削	8.3	2.7	0.35	23.65	黑色頁岩	使用痕あり	288		
5	K-101	II層	H-11	刮削	4.95	0.65	0.05	13.95	灰岩		292		
6	K-62	II層	H-10	刮削	2.15	0.3	0.5	10.25	灰岩		292		

第176図 II層出土遺物実測図 (11)



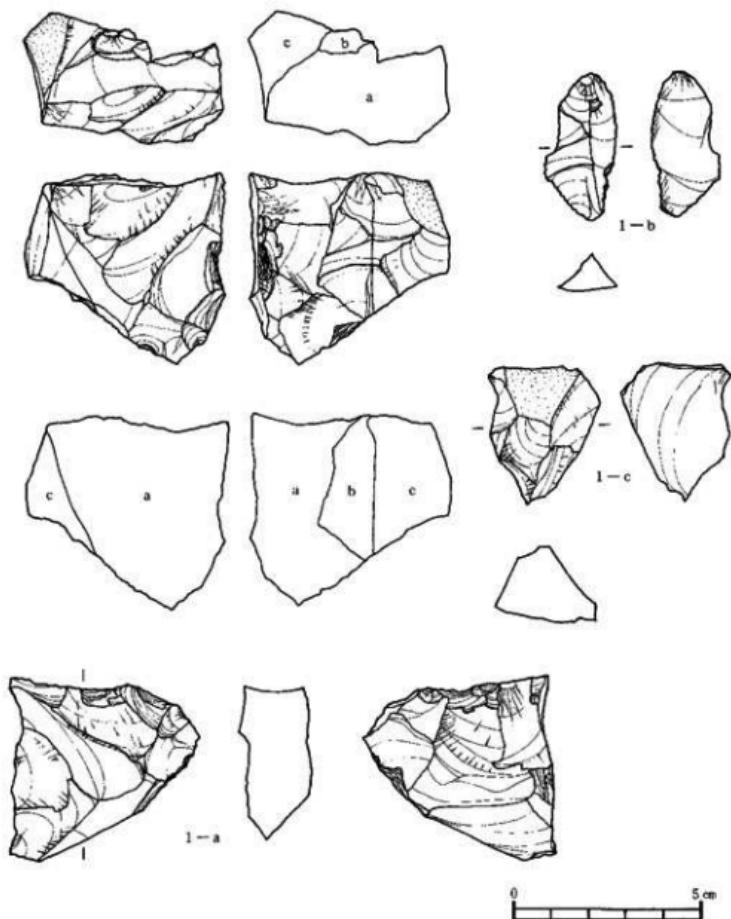
図版番号	遺物番号	基本層位	出土地点	遺構	部位	種別	計量 (cm・g)				石核	鉋	研磨	穿孔
							高さ	幅	厚さ	重量				
1-a	K-45	石壁上部	H-9			鉋片	10.55	7.05	2.75	171.90	直抜器			288
1-b	K-45	石壁上部	H-9			鉋片	8.9	8.0	2.95	118.05	直抜器			289

第177図 XI層出土遺物実測図 (12)

E・F-11・12区に多い。

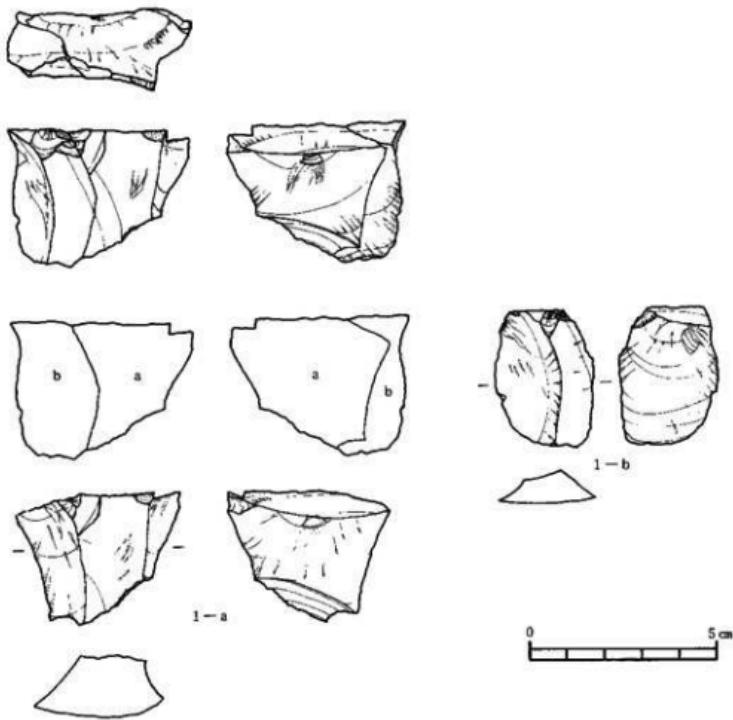
石核は接合資料に伴うもので、第178図 1-a がこれにあたる。

礫石器の磨石は1点(第183図1)、凹石は5点(第183図2・3、第184図1~3)、敲石1点(第183図4)がある。いずれも安山岩製の自然石が使用されているが、敲石以外の石の表面は風化が著しい。



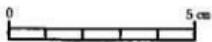
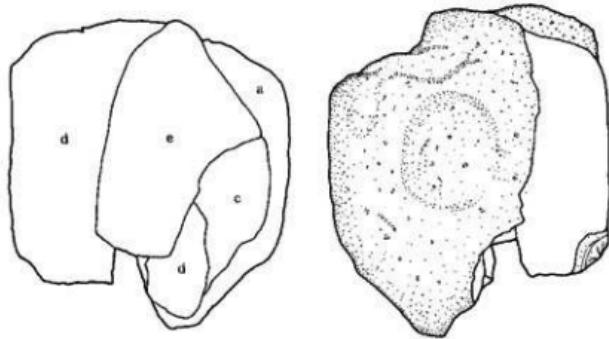
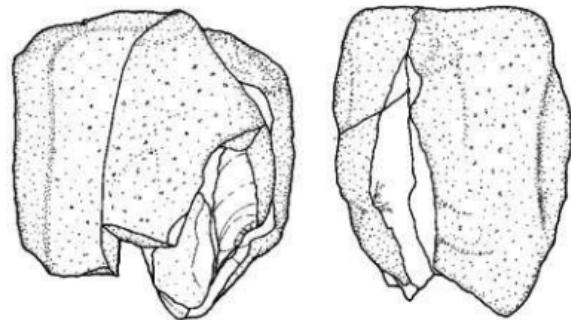
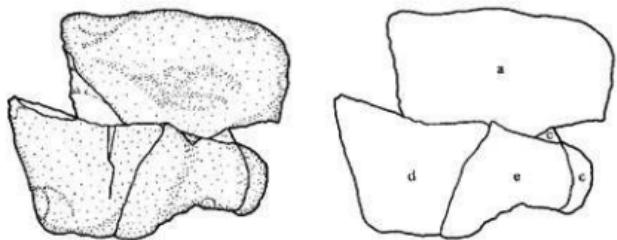
图版号	遗物编号	基本单位	出土地区	调 捕	层位	性 质	尺 寸 (cm·g)	石 种	考 参	年 代
I-a	K-252	基座上部	D-11			石核	5.2 4.95 1.9	53.35	四系	
I-b	K-351	不明	不明			刮片	3.95 1.9 1.0	4.80	四系	
I-c	K-268	基座	D-12			刮片	3.7 3.0 2.0	17.35	四系	

第178図 XI層出土遺物実測図 (13)

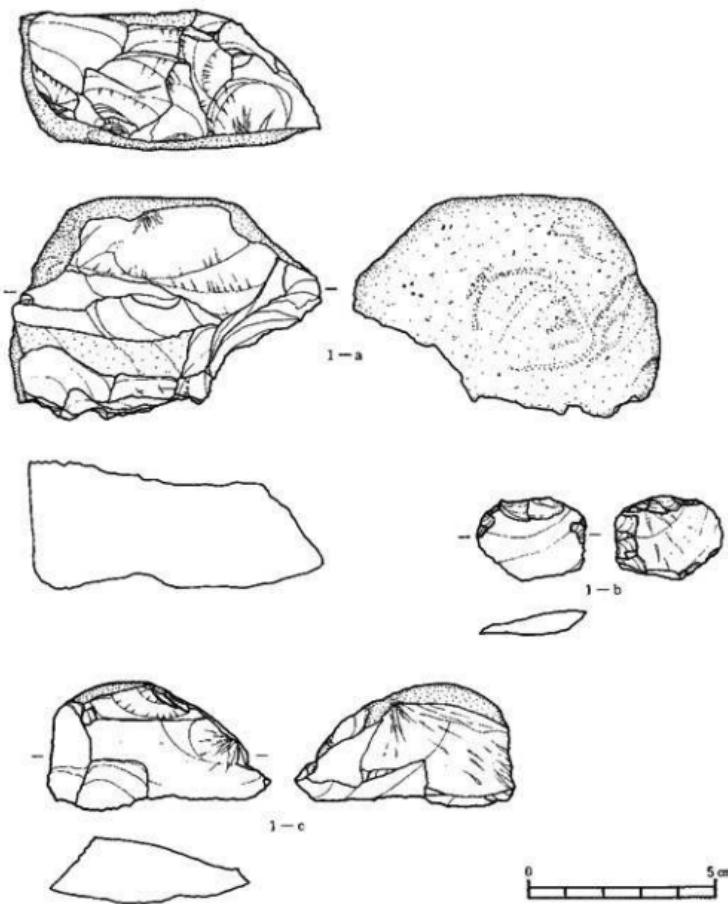


H号	遗物号	层位	出土地点	性	特征	量	尺寸 (cm×g)				石	竹	骨	金属
							高	幅	深	重				
1-a	K-295	层2	II-8		刮片	3.5	4.4	1.6	21.00	中质灰色石				290
1-b	K-295	层2	II-8		刮片	3.7	2.8	0.9	30.40	中质灰色石				290

第179图 对层出土遗物实测图 (14)

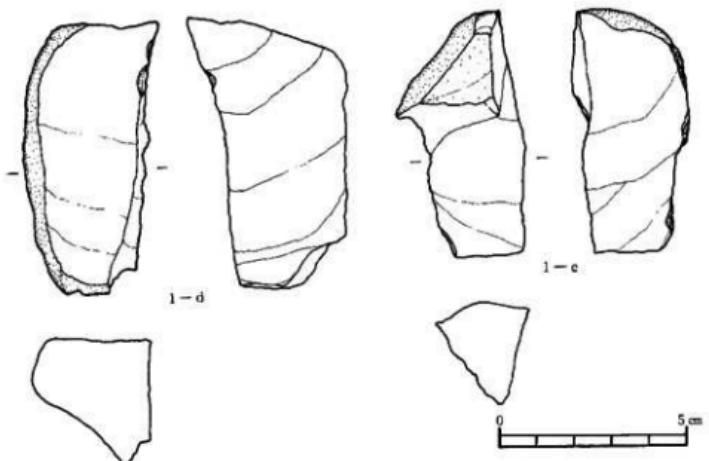


第180図 XI層出土遺物実測図 (15) - 1



器物番号	遺物番号	基本層位	出土地区	遺 物	層位	種 別	寸 法 (cm × g)				石 材	器 物	考 号	参考圖版
							長	幅	厚	重				
1-a	K-273	立窯	F-9			鉢片	8.0	8.4	3.45	267.10	西銅器			291
1-b	K-270	立窯	F-11			鉢片	2.2	2.9	0.6	3.20	西銅器			291
1-c	K-269	立窯	F-11			鉢片	3.5	5.0	1.8	37.15	西銅器			

第181図 XI層出土遺物実測図 (15)-2



出発番号	遺物番号	基点標高	出土場所	測定	部位	断面	寸法 (cm・g)				石	竹	木	等高線
							底	幅	厚	重				
1-d	K-283	X層	E-11			斜片	7.3	3.7	3.5	114.00	泥凝土			291
1-e	K-284	石塊	D-12			斜片	8.6	3.3	2.8	67.20	泥凝土			291

第182図 XII層出土遺物実測図 (15)-3

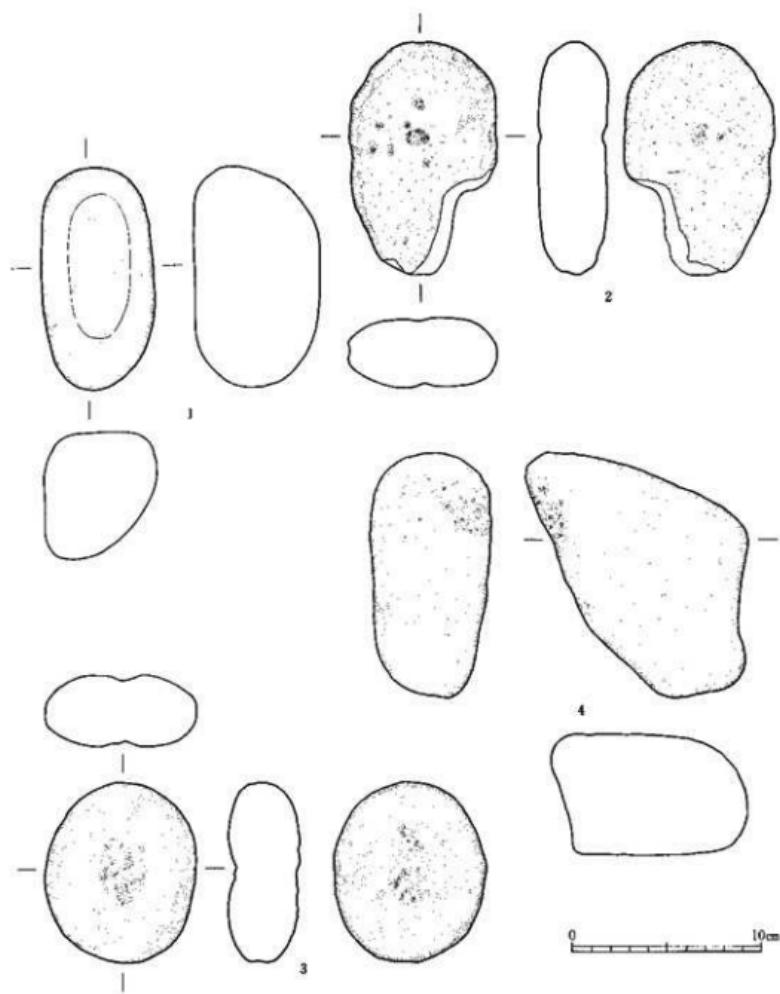
13. XII層検出構造と出土遺物

1) 遺構の構成

XII層上面は基本的に西方の丘陵部の傾斜の延長として、西から東方向に緩やかに下がっている。標高は調査区西部のG・H・I-2・3・4区付近の13.40mから調査区東部の12.80mに渡る。この間の傾斜は60cm/60mで、XII層(50cm/60m)より僅かに傾斜が急になる。この傾斜とは別に、調査区の北東部はXII層と同様に半円形の窪地が認められ、この部分の最深部の標高は12.40cmで、一段と低くなっている。またG・H・I-2・3・4区付近から12区にかけては尾根状に高くなっている。この高まりはXII層に引継がれている。

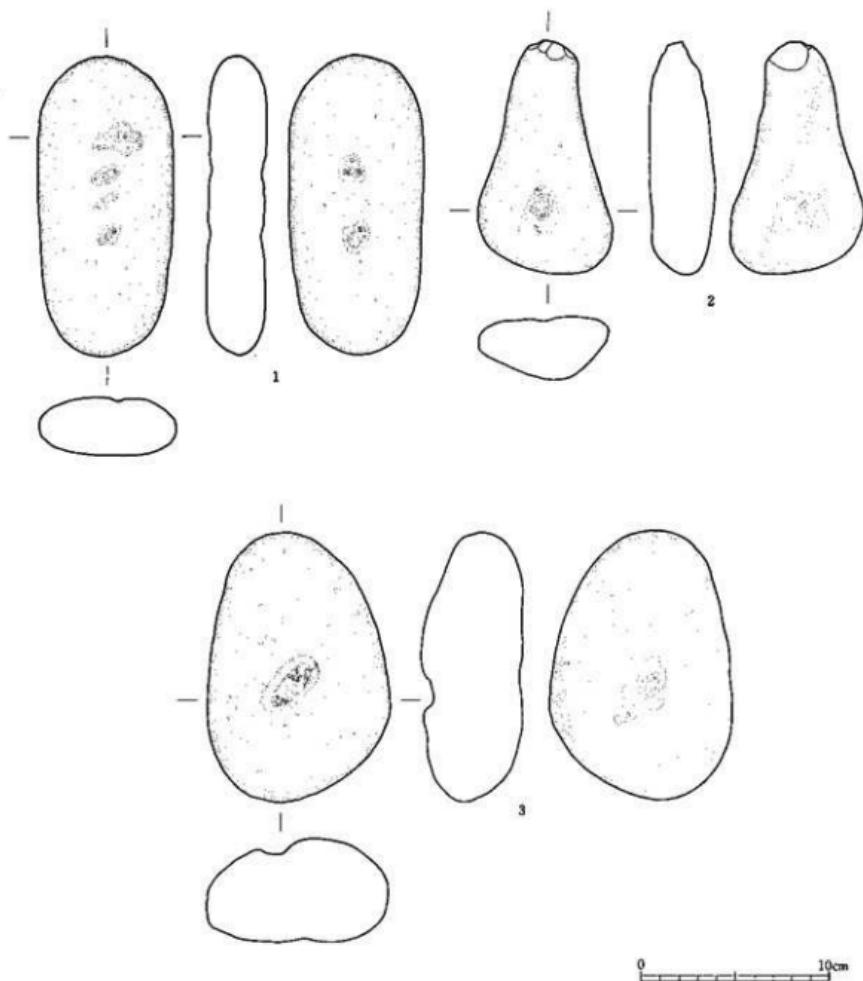
XII層上面で検出されたものは、数基の土坑状の落込みと風倒木痕がある。土坑状の落込みには基本層XII層から掘り込まれたと考えられるものと、人為的な遺構かどうか不明なものである。

なお、XII層として取上げた遺物がいくつかあるが、XII層は試掘区の深掘調査の結果及び調査区外周の排水溝の掘削状況から無遺層と判断されている。



器物番号	遺物番号	断面形状	出土場所	遺 墓	層 次	種 別	計量 (cm・g)				石 破	銅 号	参考図版
							大きさ	幅	深さ	重量			
1	K-125	丸筒	L-7			磨石	13.85	6.6	6.7	769.45			296
2	K-126	丸筒	J-1			くぼみ芯	12.4	7.95	3.7	477.85	空山物		296
3	K-127	丸筒	M-6			くぼみ芯	9.6	9.1	3.8	366.45	空山物		296
4	K-131	丸筒	L-7			ハシマー	13.1	11.4	6.5	1307.0	空山物		296

第183図 X層出土遺物実測図 (16)



試験番号	遺物番号	基準埋位	出土地区	種類	層位	測定	寸法 (cm・g)				G	材	備考	参考深度
							長さ	幅	厚さ	重量				
1	K-178	瓦盤	F-5			くぼみ石	16.0	7.1	3.1	380.96	東山西			297
2	K-179	瓦盤	F-5			くぼみ石	12.55	7.15	3.4	332.06	東山西?			297
3	K-180	瓦盤	D-6			くぼみ石	14.4	9.7	3.05	317.0	東山西			297

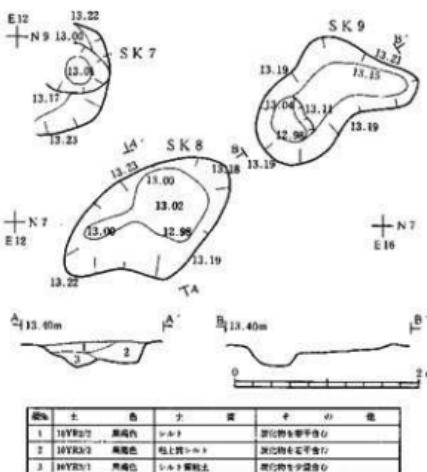
第184図 XI層出土遺物実測図 (17)

2) 土 坑

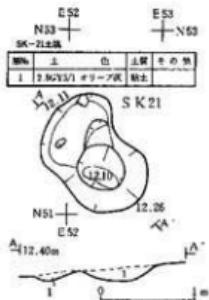
S K - 7 土坑 Q 3 区で試掘調査の際に検出された。西半部は試掘区の側溝に切られる。検出部の平面形は半円形を呈し、中央付近が一段低くなっている。検出部の南北軸125cm、東西軸64cm、深さ21cmを計る。堆積土は基本層 XII 層に類似する。出土遺物はない。

S K - 8 土坑 Q 3 区で試掘調査の際に検出された。平面形南西から北東方向に長軸を持つ不整規円形を呈し、長軸203cm、短軸116cm を計る。断面形は不整な舟底形ないし逆台形を呈し、褐色を呈するシルト・粘土質シリカ出土している。(第205図2)

S K - 9 土坑 Q 3 区で試掘調査の際に検出された。検出部の平面形は『状に曲がった不整梢円形』を呈し、南北軸143cm、東西軸174cm を計る。底面は南西部が一段低くなっており、

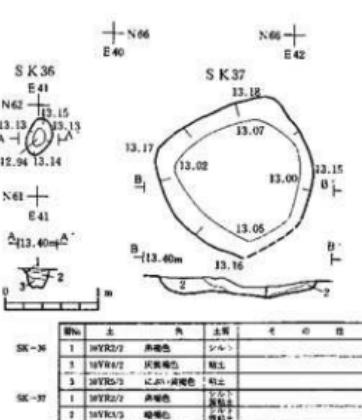


第185図 SK-7・8・9土坑窓測図



第186図 SK-21土壤測定図

第187回 S.K.=36・37±抗寒測回

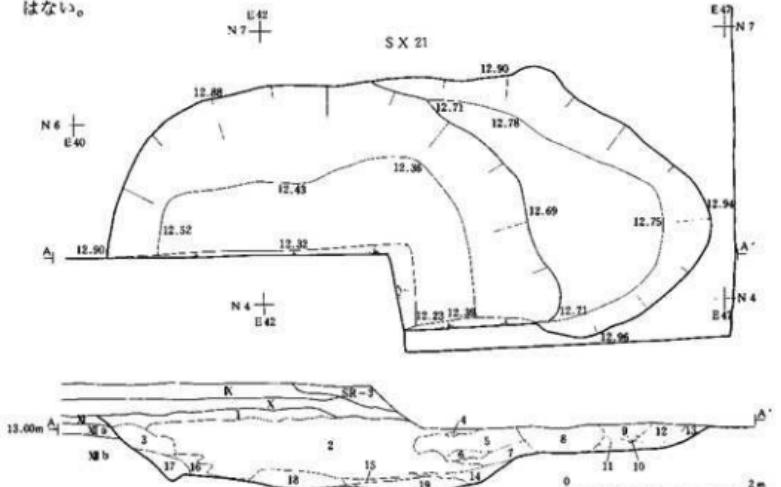


この部分で深さ16cmを計る。堆積土は基本層X層に類似する。出土遺物はない。

S K-21土坑 J 9区で試掘調査の際に検出された。平面形は北西から南東方向に長軸を持ち、中央部が括れる不整橢円形を呈し、長軸131cm、短軸95cmを計る。縦断面形は舟底形が二つ付いてW状を呈する。深さは12cmである。出土遺物はない。

S K-36土坑 H 7 区でされた。平面形は南北方向に長軸を有する梢円形を呈し、長軸40cm、短軸25cm を計る。断面形は逆台形を呈し、深さは20cm である。堆積土は黒褐色のシルト・灰黄褐色の粘土・にぶい黄褐色の粘土からなる。出土遺物はない。

S K - 37 土坑 H - 7・8 区でされた。平面形は不整形を呈し、東西軸 167cm、南北軸 175cm を計る。断面形は不整な舟底形を呈し、深さは 16cm である。堆積土は黒褐色と暗褐色のシルト質粘土層からなる。堆積土からみてこの土坑は XI 層から掘り込まれたと考えられる。出土遺物はない。



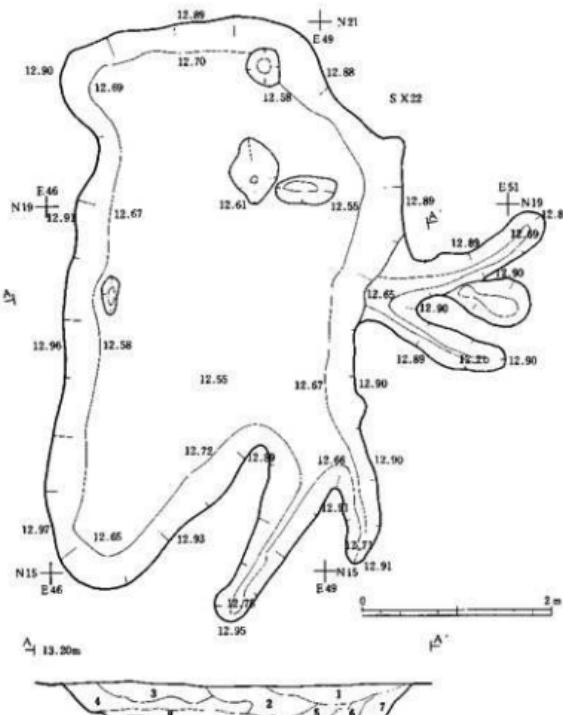
品目	土	色	土	質	そ の 他
1 HTRZ/3	黒系地		シルト質粘土	小粒状の膠化粘土を含む	
3 STV/1	オーバーカバ	シルト・粘土質	砂質地と少々泥炭質に含む		
4 MTRZ/1	赤 地	シルト質粘土	砂化粘土を含む		
4 MTRZ/1.5/1	黒 地	シルト質粘土	砂化粘土を含む		
5 STV/2	オーバーカバ	粘土質シルト	砂化粘土を含む		
6 STV/1	オーバーカバ	シルト質粘土	砂化粘土を含む		
7 MTRZ/1	黒 地	粘土質シルト	砂化粘土を含む		
8 STV/1	オーバーカバ	シルト質粘土	砂化粘土を含む		
9 MTRZ/1	黑 地	粘土質シルト	砂化粘土を含む		
10 MTRZ/1	黑 地	粘土質シルト	砂化粘土を含む		
11 STV/3	赤 地	シルト質粘土	オーバーカバ地質シルトを構成に含む		
12 MTRZ/1	黑 地	シルト質粘土	砂化粘土を含む		

	品種名	花色	土質	葉色	性状
13	MV73/1	黒紫色	粘土質シルト	暗褐色を帯び、含む	
14	10YR1.7/1	紫 色	シルト質粘土	淡オーラップ主に褐色に帯び	
15	5YR1	灰 色	粘土	淡オーラップをモザイクに含む	
16	5YV1	褐 色	粗粒土	粗粒土	
17	5YV2	黄 色	粘土	粗粒土	
18	7.5YV4/2	オーラップ色	粘土	ハバキ風を含む	
19	7.5YR3/1	オーラップ色	粘土	淡オーラップ主に、黒紫色を縦横にに含む	
20	10YR2/2	紫 色	シルト質粘土	シルト質粘土	
21	10YR2/3	紫 色	シルト質粘土	シルト質粘土	
22	10YR2/4	紫 色	シルト質粘土	シルト質粘土	
23	10YR2/5	紫 色	シルト質粘土	シルト質粘土	
24	10YR2/6	紫 色	シルト質粘土	シルト質粘土	

第188圖 SX-21連續室測圖

3) その他の遺構

S X-21遺構 Q・R-7・8区の廻層で検出されたが、調査区南壁の検討によると廻層上面まで立上がる。南部は調査区の外に伸びる。検出部の平面形は東西方向に長軸を有する楕円形を呈し、長軸638cm、検出部の短軸329cmを計る。断面形は東側から階段状に下がる変形の舟底形を呈し、深さは廻層上面から計測すると85cmである。堆積土は19層に分けられたが、層中にブロック状・粒状・霜降状・繊維状の夾雜土が多く含まれている。検出面では廻層起因の土

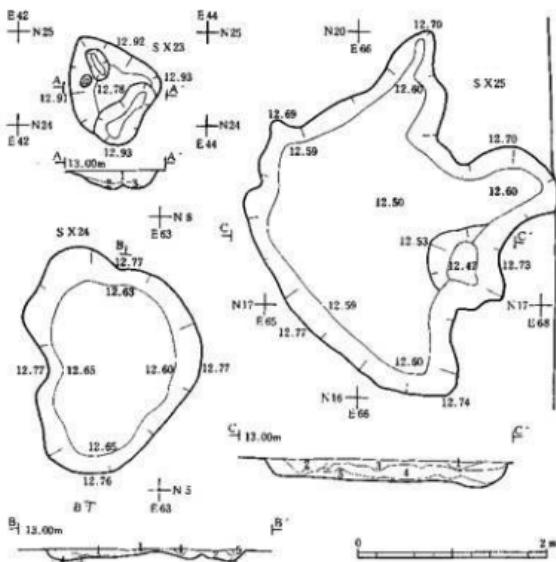


番号	生 命	土 質	水 溶 性
1	IPV3/1	单 色	粘土 有機質分を多く含む
3	IPV3/2	高褐色	シルト質土 高い黄色素&褐色素濃度と細胞間隙の豊富性に特徴化
3	IPV3/3	灰-黄褐色	粘土 有機質量と同一
4	IPV4/2	深褐色地	粘土 褐色地粘土とに高い有機物質（基本腐葉質）の少なさで異なる
5	5GIV/4	暗褐色	粘土 褐色をもつた少なめ
6	IPV4/1	黑 地	粘土 褐色より一歩進んだ褐色をもつた少なめ
7	IPV4/3	灰-褐色	粘土 褐色の「ブリッジ」を含む
2	2.05VA(3)	淡オーランジー	砂質粘土 表面地の細胞間隙が大きい、根はそれがある

第189図 S X-22遺構案測図

層が中央部に広く分布し、壁際にはⅪ層起因と考えられる黒褐色ないし暗褐色の土層が分布している。また、第188図のように、通常の堆積では見られない断面の状況を呈している。堆積土の状況からこの造構もⅪ層のSX-36造構と同じく、風倒木痕と考えられる。出土遺物はない。

S X - 22 造構 P・Q - 8・9 区での検出された。平面形は南北方向に長軸を有する不整形を呈し、東辺と南辺に溝状の張出し部がある。張出し部を含む長軸640cm、短軸495cmを計る。断面形は逆台形を呈し、深さは40cmである。底面にはピット状の落ち込みが4箇所ある。堆積



地名	土 色	土 質	その他の
1 HYR2/2	黒褐色	粘土質シルト	細粒砂を混じて含む
2 HYR2/3	黄褐色	粘土質シルト	細粒砂を含む
3 HYR2/5	黒褐色	粘土質シルト	細粒砂を少量含む
1 HYR2/6	にぶい黄褐色	砂質シルト	灰白色内土を多量に含む、マンガンを少量、バーミクセル質に含む
2 HYR2/7	黄褐色	シルト	細粒砂を少量含む、にぶい黄褐色土を上部を細粒砂に含む
3 HYR3/1	黒褐色	シルト	にぶい黄褐色土を少量含む
4 HYR3/2	にぶい黄褐色	砂質シルト	灰褐色土を多量に含む、マンガンを含む
5 HYR3/3	黒褐色	粘土質シルト	灰褐色土を多量に含む
6 HYR4/2	にぶい黄褐色	シルト・質土	基本層を隔てて紅色
1 HYR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	赤褐色シルトを灰状に含む、細粒砂を含む
2 HYR5/2	黒 色	シルト	細粒砂を少量含む
3 2.YM/1	黒褐色	砂質シルト	細粒砂シルトを灰状に含む、細粒砂を含む
4 HYR5/3	黒褐色	シルト	にぶい黄褐色土を多量に含む、細粒砂、バーミクセル質を少量含む
5 HYR5/4	黒 色	砂質シルト	細粒砂土を灰状に含む、細粒砂を少量含む

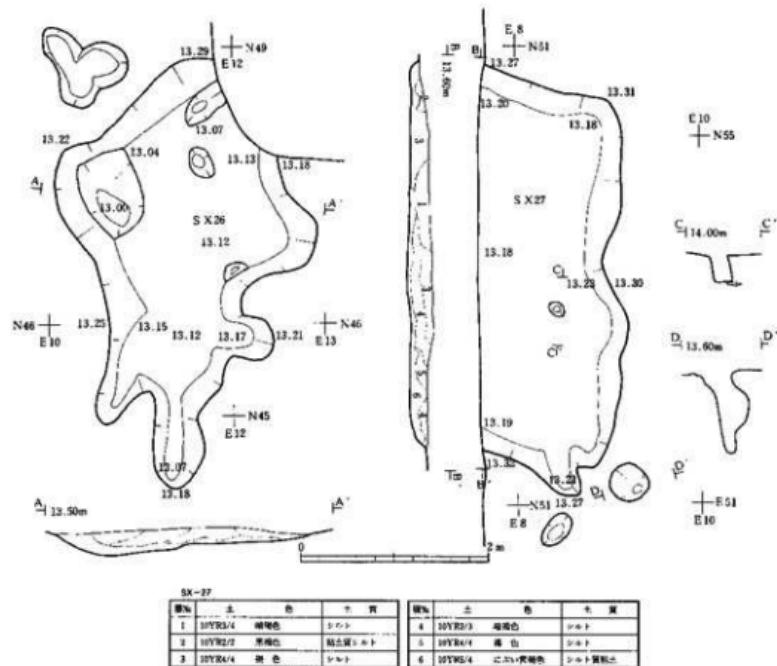
第190図 S X - 23・24・25 造構実測図

土は8層に分けられた。堆積土の状況と、根に起因するとみられる溝状の張出し部の存在から、この遺構も風倒木痕と考えられる。出土遺物はない。

S X-23造構 N・O-8区での検出された。平面形は不整形を呈し東西軸95cm、南北軸115cmを計る。断面形は変形の舟底形を呈し、深さは18cmである。底面から側面にかけてビット状の落ち込みが2箇所にある。堆積土は黒褐色の粘土質シルトからなり、3層に分けられた。
出土遺物はない。

S X-24遺構 Q・R-17 区での検出された。平面形は北西部に張出しのある南北方向に長軸を持つ不整橿円形を呈し、長軸225cm、短軸190cmを計る。断面形は変形の舟底形を呈し、深さは10cmである。堆積土は6層に分けられた。出土遺物はない。風倒木痕と考えられる。

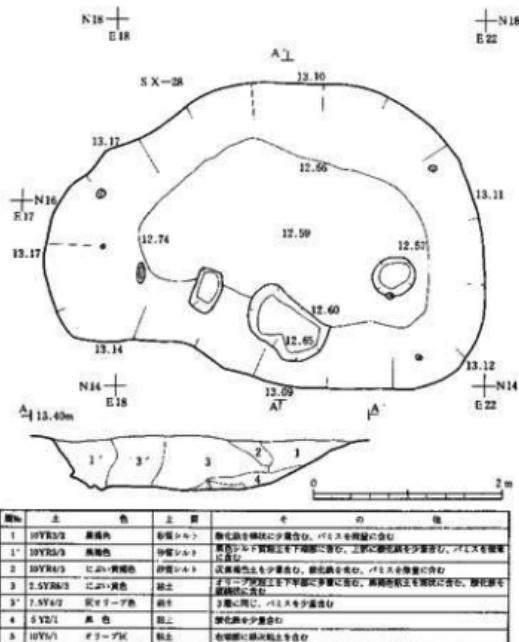
S-X-25遺構 O・P-11・12区で検出された。平面形は不整形を呈し、東西軸330cm、南北軸390cmを計る。断面形は変形の舟底形を呈し、深さは25cmである。堆積土5層に分けられる。SX-21遺構と類似した堆積状況を示すことから風倒木痕と考えられる。出土遺物はない。



第191図 S X-26・27造構実測図

S X - 26遺構 J・K - 2・3区で検出された。北東部を試掘坑に切られる。平面形は南北に長い不整形を呈し、南北軸455cm、東西軸275cmを計る。断面形は舟底形を呈し、深さは25cmである。堆積土5層に分けられる。出土遺物はない。

S X - 27遺構 I・J - 2区で検出された。西半部は調査区の外に伸びる。検出部分の平面形は南北に長い不整長方形を呈し、南北軸425cm、検出部東西軸146cmを計る。断面形は浅い舟底形を呈し、深さは26cmである。底面で直徑15cm前後、深さ28cmのピットが検出された。堆積土は6層に分けられる。出土遺物はない。



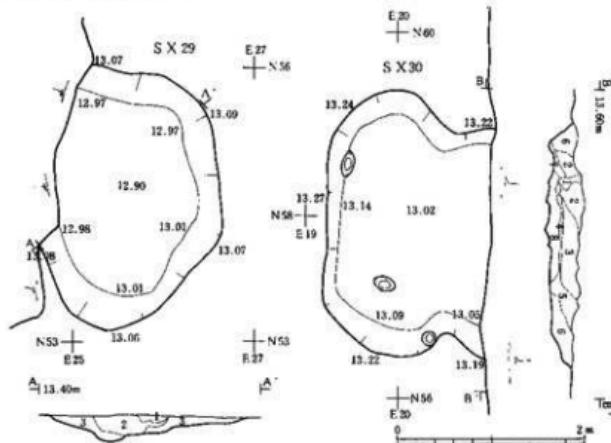
第192図 S X - 26遺構実測図

S X - 28遺構 P - 3・4区で検出された。平面形は東西に長い横円形を呈し、長軸465cm、短軸324cmを計る。断面形は舟底形を呈し、深さは56cmである。底面から壁面にかけて9個のピットが検出された。堆積土は5層に分けられる。堆積土の状況からこれも風倒木痕と考えられる。出土遺物はない。

S X - 29遺構 I・J - 5区で検出された。西端部が擾乱坑に切られる。検出部の平面形は南北に長い不整形を呈し、長軸280cm、検出部の短軸171cmを計る。断面形は変形の舟底形を呈し、

深さは26cmである。底面には凹凸がある。堆積土は3層に分けられ、中央部はにぶい黄褐色のシルトと灰黄色の粘土からなり、周辺部は暗褐色の粘土質シルトからなる。堆積土の状況からこれも風倒木痕と考えられる。出土遺物はない。

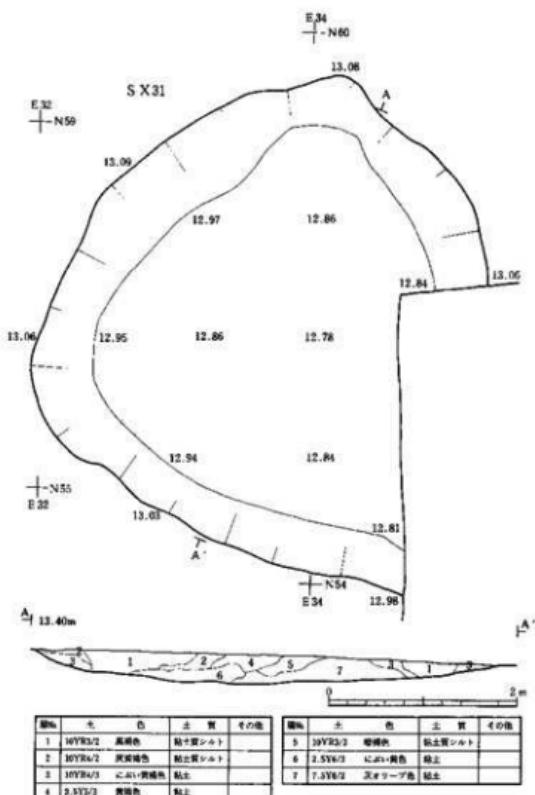
S X-20遺構 I-4区で検出された。東半部が擾乱坑に切られる。検出部の平面形は不整形を呈し、南北軸283cm、検出部の東西軸175cmを計る。断面形は変形の舟底形を呈し、深さは40cmである。底面には細かい凹凸がある。堆積土は8層に分けられる。堆積土の状況から風倒木痕と考えられる。出土遺物はない。



層番	土色	土質	その他の
1	灰褐色/にぶい黄褐色	シルト	
2	灰褐色	粘土	
3	灰褐色/薄	粘土質シルト	
4	高褐色	粘土質シルト	
5	高褐色	粘土質シルト	
6	にぶい黄褐色	シルト	高褐色粘土を小ブロック状に含む
7	灰褐色	粘土	
8	高褐色	粘土質シルト	2層の粘土質シルトを含む
9	高褐色	粘土質シルト	2層の粘土質シルトを含む
10	にぶい黄褐色	シルト質粘土	高褐色粘土を小ブロック状に含む
11	にぶい黄褐色	粘土	

第193図 S X-29・30遺構実測図

S X-31遺構 I-6・7区で検出された。南東部がベルトの下になる。検出部の平面形は略円形を呈し、南北軸532cm、検出部の東西軸485cmを計る。断面形は浅い舟底形を呈し、深さは32cmである。堆積土は7層とに分けられる。堆積土は7層に分けられる。堆積土の状況から風倒木痕と考えられる。出土遺物はない。

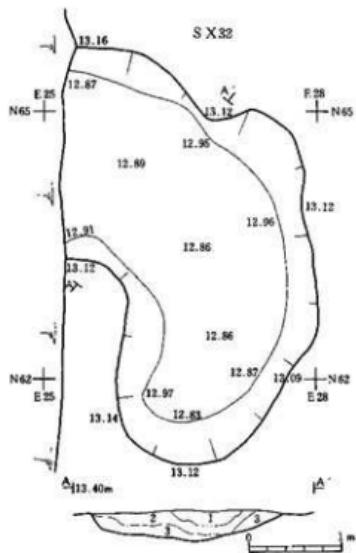


第194図 S X-31遺構実測図

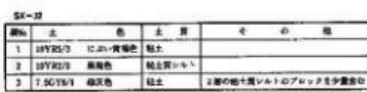
S X-32遺構 H 5 区で検出された。西部が擾乱坑に切られる。検出部の平面形は南西に向く弧状を呈し、南北約530cm、検出部の東西約270cmを計る。断面形は舟底形を呈し、深さは35cmである。堆積土は3層に分けられる。検出面での土層の分布状況と堆積土の状況から風倒木痕と考えられる。出土遺物はない。

S X-33遺構 K 2 区で検出された。西部と南部が調査区の外に伸びる。検出部の南北軸は220cm、東西軸75cmを計る。断面形は舟底形を呈し、深さは21cmである。堆積土は灰黄褐色の粘土質シルトとぶい黄褐色の粘土の2層に分けられる。出土遺物はない。

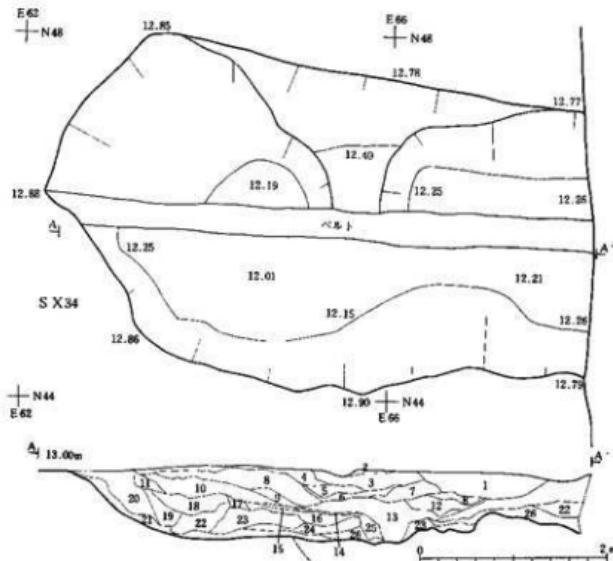
S X-34遺構 K-11・12 区で検出された。東部が調査区の外に伸びる。検出部の平面形は東西に長軸を有する楕円形を呈し、検出部の長軸は580cm、短軸345cmを計る。断面形は舟底



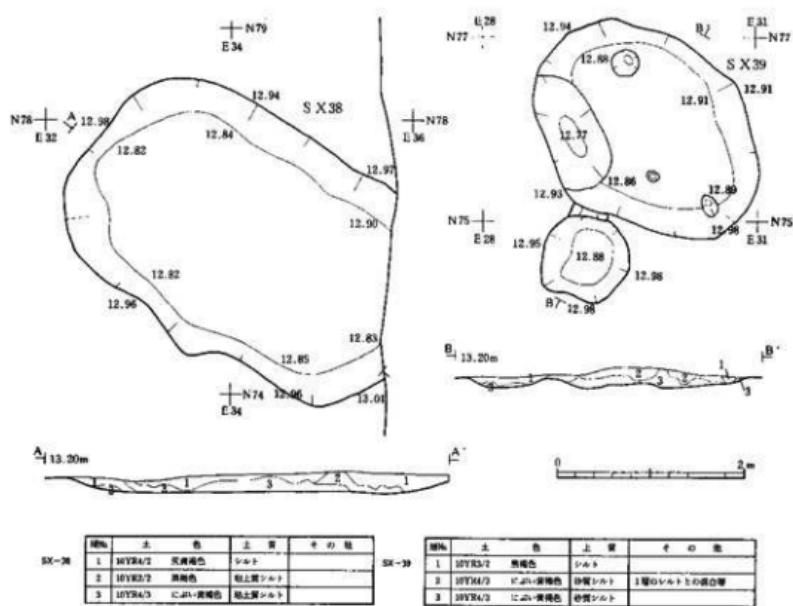
第196図 SX-33遺構実測図



第195図 SX-32遭構実測図



第197図 SX-34造構実測図



第198図 SX-38・39構造実測図

形を呈し、深さは75cmである。底面は大小の凹凸がある。堆積土は27層に分けられた。堆積土の状況から風倒痕と考えられる。出土遺物はない。

S X - 33構造 E-F-6区で検出された。東端部がベルトの下に伸びる。検出部の平面形は北西から南東に長軸を有する橢円形を呈し、検出部の長軸は395cm、短軸265cmを計る。断面形は浅い舟底形を呈し、深さは20cmである。堆積土は3層に分けられた。堆積土の状況から風

番号	土色	土質	その他
1	10YR5/3 黄褐色	粘土	
2	10YR2/2 黑褐色	粘土質シルト	
3	10YR5/3 黑褐色	シルト質粘土	
4	MYR5/2 黄褐色	粘土	2層のシルト質粘土をブロック状に含む
5	10YR2/2 黑褐色	粘土質シルト	
6	2.5Y7/1 黑褐色	粘土質シルト	
7	10YR4/2 黄褐色	粘土質シルト	
8	2.5Y6/2 黄褐色	粘土	6層の粘土質シルトのブロックを含む
9	2.5Y5/2 黄褐色	粘土	砂粒を少度に含む
10	2.5Y5/2 黄褐色	粘土	4層の粘土質シルトのブロックを含む
11	MYR6/2 黄褐色	粘土質シルト	
12	10YR5/1 黑褐色	粘土質シルト	
13	10YR2/1 黑褐色	粘土	
14	2.5Y4/2 黑褐色	シルト	
15	2.5Y5/2 黑褐色	シルト	

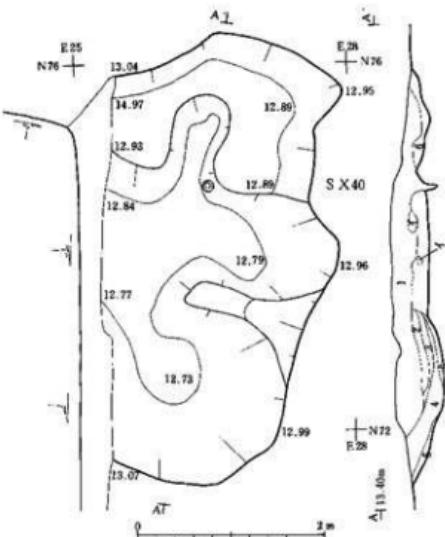
番号	土色	土質	その他
16	5 Y3/7 オリーブ褐色	シルト質粘土	13層の粘土を多量に含む
17	2.5Y5/2 オリーブ褐色	粘土質シルト	
18	2.5GY5/1 オリーブ褐色	粘土	
19	2.5GY5/1 オリーブ褐色	粘土	
20	MYR5/2 黑褐色	粘土質シルト	
21	2.5GY4/2 オリーブ褐色	粘土	
22	2.5GY5/1 オリーブ褐色	粘土	砂粒を少度含む
23	2.5GY5/1 オリーブ褐色	粘土	砂粒を多量に含む
24	2.5GY5/1 オリーブ褐色	粘土	砂粒を少度含む、12層の粘土を少度含む
25	2.5Y5/1 オリーブ褐色	シルト	24層の粘土を少度含む
26	2.5GY5/1 オリーブ褐色	粘土	
27	2.5GY5/1 オリーブ褐色	粘土	砂粒を多量に含む
28	2.5GY5/1 オリーブ褐色	シルト質粘土	砂粒を少度に含む
29	2.5GY5/1 オリーブ褐色	シルト質粘土	

倒痕と考えられる。出土遺物はない。

S X-39構造 F-5・6区で検出された。平面形は北西から南東に長軸を有する楕円形を呈し、検出部の長軸は266cm、短軸205cmを計る。断面形は浅く不整な舟底形を呈し、深さは20cmである。堆積土は3層に分けられる。風倒木痕の状況に類似する。出土遺物はない。

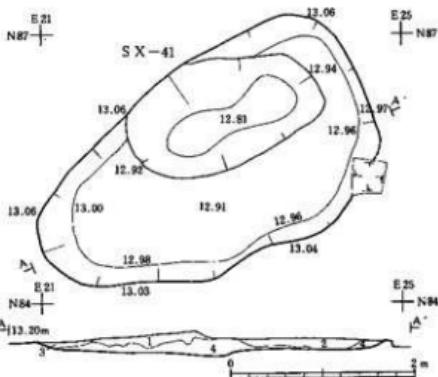
S X-40遺構 F-G-5区で検出された。西部が擾乱坑に切られる。検出部の平面形は南北に長い不整形を呈し、長軸は480cm、検出部の短軸250cmを計る。断面形は不整な舟底形を呈し、最深部は深さは50cmである。底面には大小の凹凸があり起伏に富む。堆積土は3層に分けられる。堆積土の状況から風倒木痕と考えられる。出土遺物はない。

S X-41遺構 D-4・5区で
検出された。平面形は南西から
北東方向に長軸を有する不整橢
円形を呈し、長軸は395cm、短軸

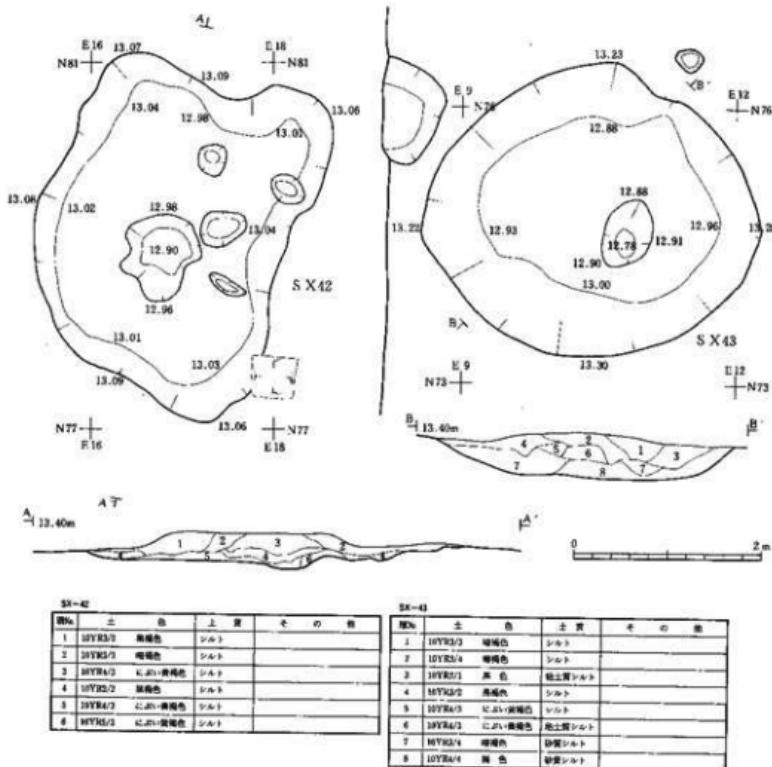


第199圖 S X-40 測量高測圖

標号	土色	土質	その他の特徴
1	IVYR/2	黒褐色	木質部シント、木質部の植物体を多量に含む
2	IVYR/1	黒 色	シント腐植土
3	IVYR/2	灰褐色	シント腐植土
4	IVYR/1	黒褐色	シント腐植土
5	IVY/1	オリーブ褐色	シント腐植土
6	IVYR/2	黒 色	暗褐色上のブロックを含む
7	IVYR/2	褐褐色	柱上シント、根毛セルラーピグメントをわずかに含む
8	IVYR/2	灰褐色	ワゴン球形に含む



第200図 SX-41造構実測図



第201図 S X-42・43遺構実測図

227cmを計る。断面は浅い舟底形を呈し、深さは25cmである。

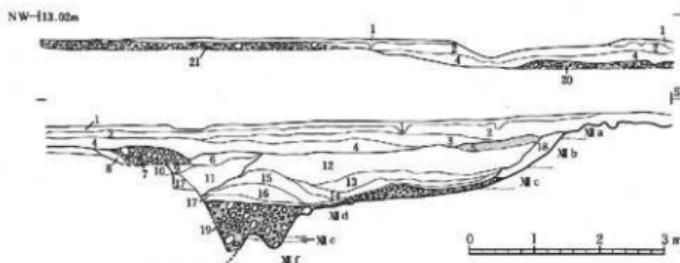
堆積土は4層に分けられる。堆積土中より石器の剝片が1点出土している。(第205図3)

S X-42遺構 E-3・4区で検出された。平面形は南北にやや長い不整形を呈し、南北軸は365cm、東西軸260cmを計る。断面形は不整形を呈し、最深部の深さは38cmである。底面には大小のビットがある。堆積土は6層に分けられる。堆積土の状況から風倒木痕と考えられる。堆積土5層中より石鐵が1点出土している。(第204図7)

S X-43遺構 F-2区で検出された。平面形は東西にやや長い略円形を呈し、南北軸310cm、東西軸362cmを計る。断面形は舟底形を呈し、深さは46cmである。底面の中央付近に南北75cm、東西50cm、底面からの深さは12cmを計る。堆積土は8層に分けられる。堆積土の状況から風倒木痕と考えられる。出土遺物はない。

4) 旧河川跡

Ⅲ層ではN72ライン以北の調査区北部と、J3区、J9区で旧河川跡が検出されている。調査区北部の河川跡はⅢa層上面で検出され、SR-4河川跡と命名した。J3区とJ9区の旧河川跡は両区の試掘調査で検出されたもので、J3区のものは同区のⅢb層に覆われ、細かな堆積層からなり(第28図)、J9区のものは同区のⅢc層に覆われ、厚く均質な堆積層からなる(第30図)。検出層位と堆積土の状況から、3地区の河川跡の形成時期は異なると考えられる。J3区とJ9区の河川跡は底面がⅢ層の疊層に達し、かなりの幅を持つ河川跡である。底面の傾斜から両区はその南岸側にあたるようであるが、試掘区の断面を主とする調査であるため詳細は不明である。



番号	土色	土質	その他の
1	SYW4/4	褐色	砂質シルト
2	SYW4/4	茶褐色	シルト
3	SYV4/2	灰褐色	粘土質シルト
4	T.GY5/2	灰褐色	粘土質シルト
5	SGY4/1	暗オリーブ灰色	シルト質粘土
6	SGY4/1	暗オリーブ灰色	シルト
7	HYR4/4	褐色	シルト
8	SGY4/1	暗オリーブ灰色	砂質シルト
9	SGY5/1	オリーブ灰色	シルト
10	SGY4/1	暗オリーブ灰色	砂質シルト
11	2.GY5/1	暗オリーブ灰色	シルト
12	HGY5/1	暗オリーブ灰色	シルト
13	T.GY5/2	褐色	シルト
14	3.GY4/1	暗オリーブ灰色	砂質シルト

番号	土色	土質	その他の
15	2.GY4/1	暗オリーブ灰色	シルト
16	7.GY4/1	褐色	シルト質砂
17	7.GY4/1	褐色	砂質シルト
18	3.GY4/1	暗オリーブ灰色	粘土質シルト
19	3.GY4/1	褐色	シルト
20	2.SY4/3	オリーブ灰色	砂質
21	3.Y4/2	浅オリーブ色	砂質
22	10.Y4/2	オリーブ色	粘土
23	7.GY5/1	灰色	粘土
24	7.GY4/1	褐色	シルト質粘土
25	10.GY4/2	褐色	粘土質シルト
26	10.GY4/1	褐色	シルト
27	10.GY4/1	褐色	粘土質シルト

第202図 SR-4河川跡断面図(Dトレンチ北東壁面)

SR-4河川跡 N72ライン以北の調査区北部で南岸側が検出された。北岸側は調査区の外へ伸びている。河川の最終段階の堆積層が壁の立上がりよりも広がってⅢ層上面に分布していることと、最終段階の堆積層とⅢa層と区別が困難であったため、Ⅲa層上面で河川跡の明確なプランは検討できなかった。そこで5本の試掘トレンチを入れて最終段階の堆積層とⅢa層の上部を20cm前後下げたところ、付図-9のように南岸はF2区からE-F-9・10区を通ってD11区へ抜ける弧状を呈していることが確認された。検出部分での河川幅は17.5m以上であ

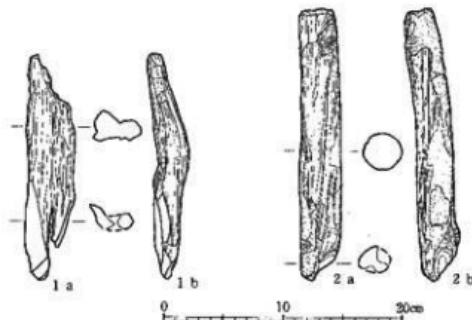
る。

河川跡の掘削は D トレンチで行ない、検出面より 2 m まで下げたが底面には至らなかった。堆積土は底面付近から検出面付近まで数層の疊層を挟み、複雑に堆積している。(第202図)

なお、SR-4 河川跡の南岸は、G・H・I・2・3・4 区から E12 区にかけて尾根状に伸びている高まりの北側の下部とほぼ一致している。これは、この尾根状に高い部分が SR-4 河川跡の自然堤防として形成されたことを示してしまるものと考えられる。

5) 出土遺物

XII 層として取上げた遺物には杭材と石器があるが、既に述べたように XII 層は無遺物層と判断されているので、これらの遺物は XI 層からの混入品と考えられる。このため、石器は XII 層上面に位置するものが多い。また SK-8 土杭、SX-22・41・42 遺構はそれぞれ石器が出土していることから、その形成年代は XI 層の時期と考えるべきであろう。

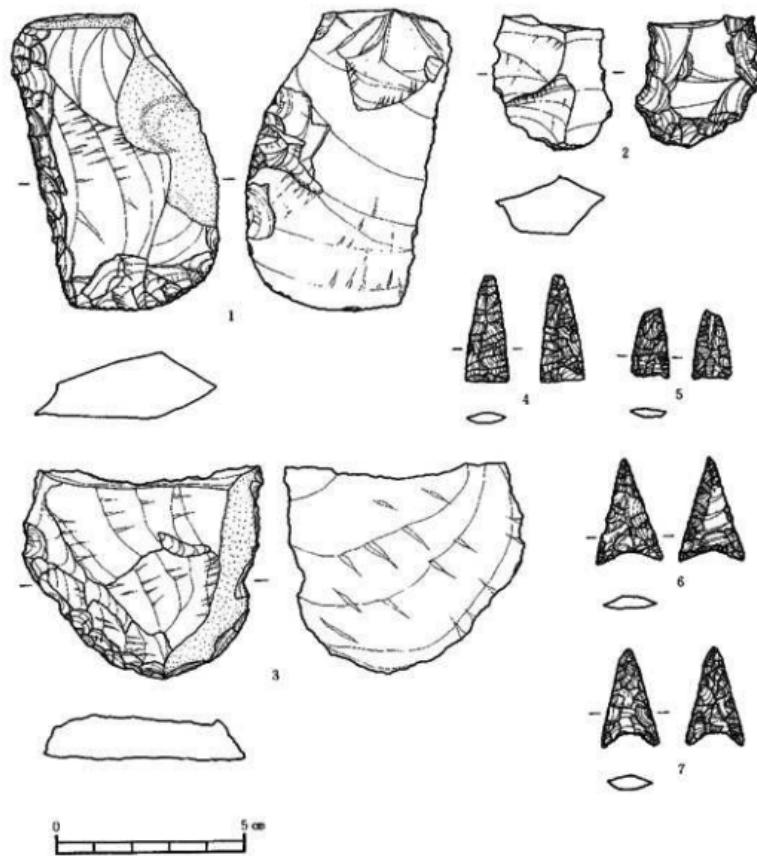


番号	標印番号	基点	出土層区	遺構名	実測 (cm)	素 材	直 径 (cm)	厚 (cm)	工 法	長 (cm)	幅 (cm)	号	参考図版
1	L-208	F-9			19.0	4.0	2.5	0.5	切	2	2	7.1	
2	L-209	F-12			23.0	3.4	3.1	0.5	削	—	—	—	削除

第203図 VI層出土杭材実測図

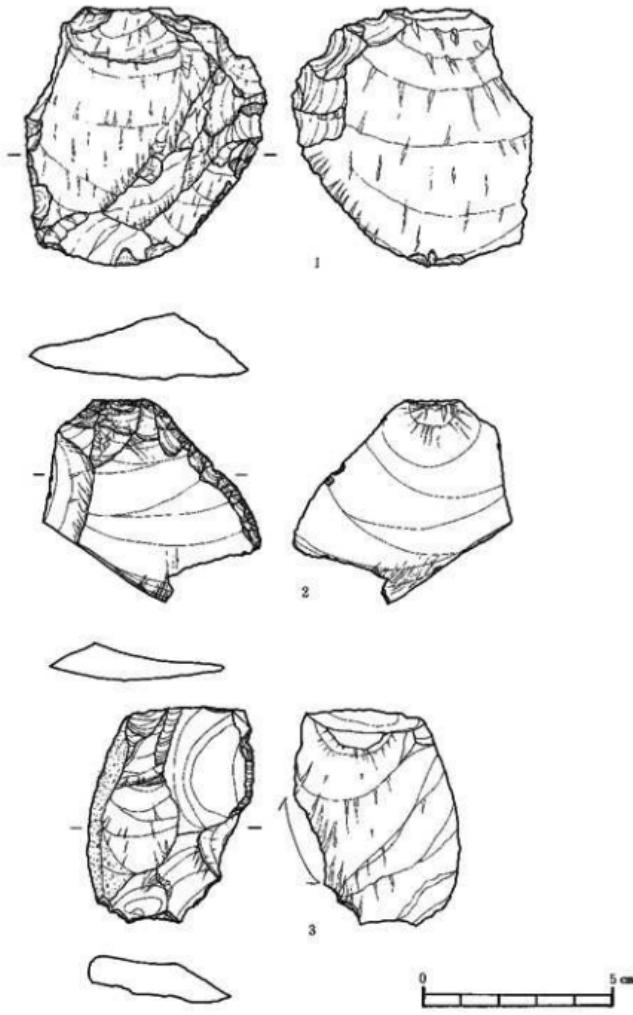
杭材は F 9 区と F12 区から各 1 点が出土している。(第203図)杭の打ち込み面は不明である。2 点とも心持ちの丸材である。前者は先端が加工されているが、後者は未加工のまま杭としている。

石器には筒状石器・石錐・不定形石器・剝片・接合資料・磨石がある。筒状石器は完形品と半分に折れたものの 2 点があり、両者とも刃部は鈍角になっている。(第204図 1・2) 石錐は 4 点ある。(第204図 4~7) この中には、無茎で基部が直線となっているもの(4)、無茎で基



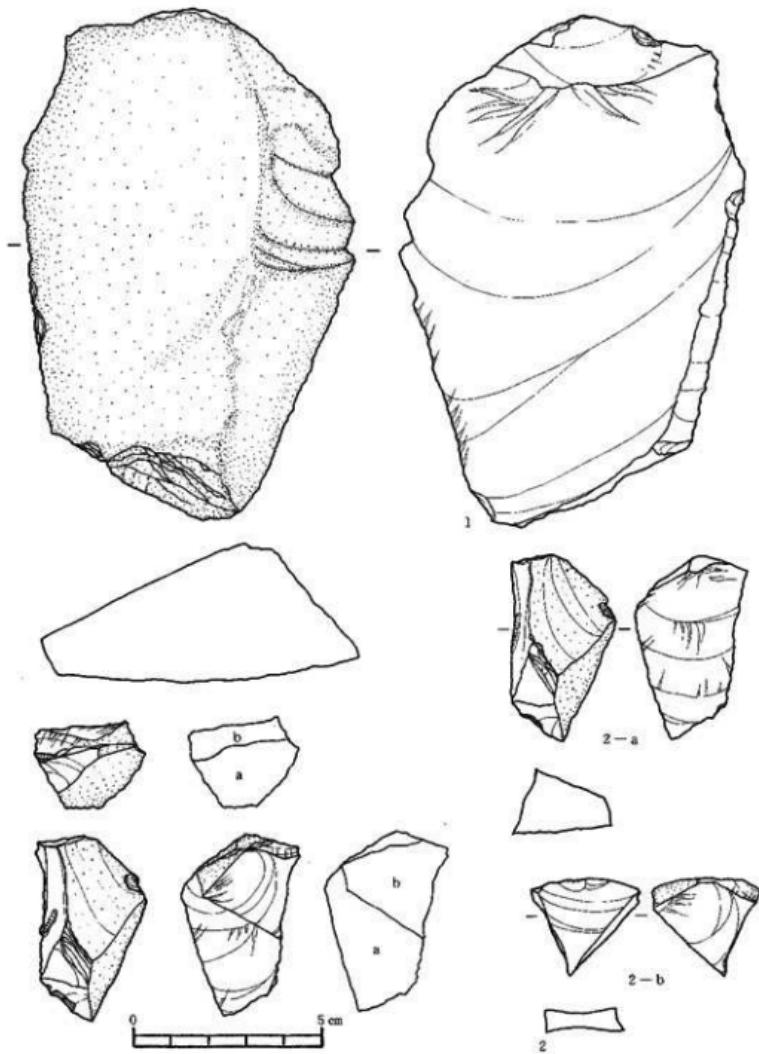
图版号	遗物编号	基本特征	出土地层	道 滴	层位	幅 面	体 素 (cm·g)				石 材	器 型	参考图版
							高	宽	厚	重			
1	K-166	单棱	D-11			△-2铁石器	7.9	5.3	1.7	59.90	燧石		292
2	K-166	单棱上部	D-12			△-2铁石器	3.6	3.1	1.5	16.90	燧石		292
3	K-183	单棱上部	E-11			△-2铁石器	5.6	6.45	1.35	54.20	燧石		292
4	K-160	单棱	N-8			刮削	2.8	1.1	0.3	1.00	燧石		293
5	K-161	单棱	E-7			刮削	1.8	1.0	0.2	0.45	燧石		293
6	K-162	单棱上部	E-10			刮削	2.8	1.8	0.3	1.00	燧石		293
7	K-154	单棱	E-3-4	SX-43	5号	刮削	2.6	1.6	0.4	0.85	燧石		293

第204图 Xu层出土遗物实测图 (1)



第205図 駿層出土遺物実測図（2）

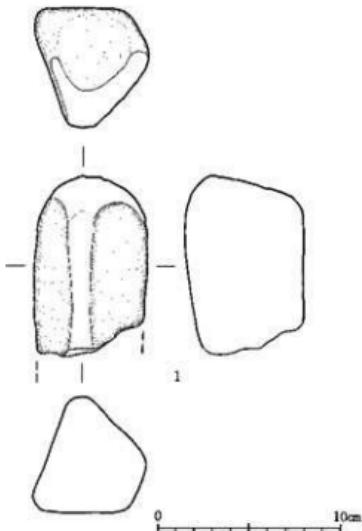
回収番号	遺物番号	基準層位	地名	道 横	標位	種 別	法 量 (cm · g)				G	M	考	寸法図
							高さ	幅	厚さ	重量				
1	K-154	駿層上部	E-11			不定形石器	6.93	6.3	1.7	29.50	圓底器			283
2	K-47	駿層	Q-3	SK-8		不定形石器	3.45	3.80	0.95	18.35	圓盤			283
3	K-155	駿層	D-4	SK-11		鉢片	2.6	4.4	1.5	26.10	圓底器	使用後		283



第206圖 XI層出土遺物實測圖（3）

測量編號	遺物編號	基本埋位	出土地點	遺 帳	編 号	類 別	法 量 (cm ³)	石 斧	石 砍	石 錐	等級
1	K-127	直壁	D-P 1-9	SX-22		刮片	12.9 8.8 3.7 464.30	塊狀石			294
2-a	K-211	直壁上面	G-12			刮片	5.0 2.75 1.7 22.60	塊狀黑色圓滑			294
2-b	K-259	直壁	G-8			刮片	7.6 2.9 0.6 3.96	塊狀黑色圓滑			294

部が浅く台形状に抉られているもの(5)、無茎で基部が半円形に抉られているもの(6・7)がある。不定形石器は3点出土している。(第204図3、第205図1・2)剝片はⅩ層上面を主とし、17点出土している。この中には使用痕の認められるもの(第205図3)や、更に石器の原材料となるような大形の剝片(第206図1)もある。接合資料はG12区とH8区の離れた地区から出土した剝片が接合したものである。(第206図2)磨石は端部の丸い三角柱状のもので途中で折れている。3本の稜線のうち最も尖っている部分と端部付近の稜線に擦痕が観察される。



調査番号	遺物番号	高木編合	出土地名	層	種類	部位	幅	測定値 (mm・g)			石	材	度	年
								長さ	幅	厚さ				
1	K-183	高木上層	D-13		磨石	断面	9.95	6.1	6.4	497.15	アラカイト			297

第207図 Ⅹ層出土遺物実測図(4)

14. 富沢中学校VI b層・X層プラント・オパール分析調査報告書

—古環境研究所—

1) はじめに

富沢遺跡(富沢中学校地区)では、発掘調査によって、中・近世(Ⅲ層)、平安時代(Ⅴ層)、古墳時代(VI b層)、古墳時代～弥生時代(Ⅶ b層)、弥生時代(Ⅷ c、X層)の合計6時期の水田跡が重層的に発見された。

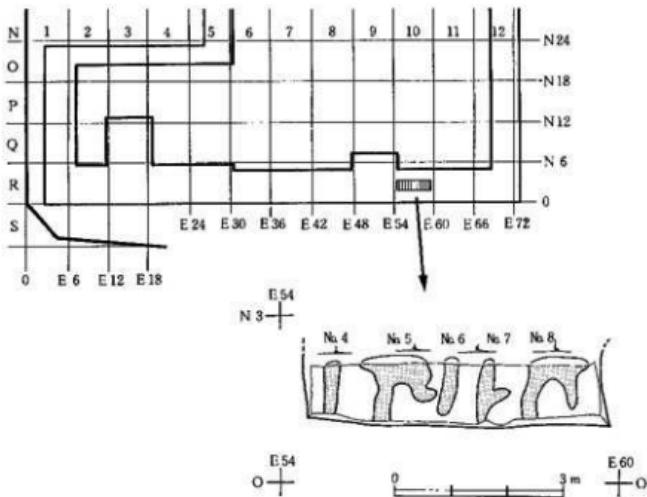
このうち、X層は洪水による砂層(Ⅸ層)で厚く埋まっており、水田区画が検出されたのは調査区南東部の限られた範囲であった。また、VI層では、調査区の南側で溝状の遺構が検出され、畑作と関係あるものと見られていた。(以上、富沢中学校区発掘調査成果説明会資料1986.12による)

今回の調査は、X層水田跡の分布域の確認、およびVI b層における溝状遺構の性格推定を目的として行なわれたものである。

以下に、プラント・オパールの分析調査の結果を報告する。

2) 試 料

現地調査は、昭和62年4月22日に行なった。VI b層の試料採取地点の位置を第208図に示す。X層については、第209図に示した47地点において土壠壁面より48点の資料を採取した。VI b層の溝状構造については、調査区南端において、溝部で9点、歫部で5点の資料を採取した。採取にあたっては、容量50ccの採土管ならびにポリ袋を用いた。



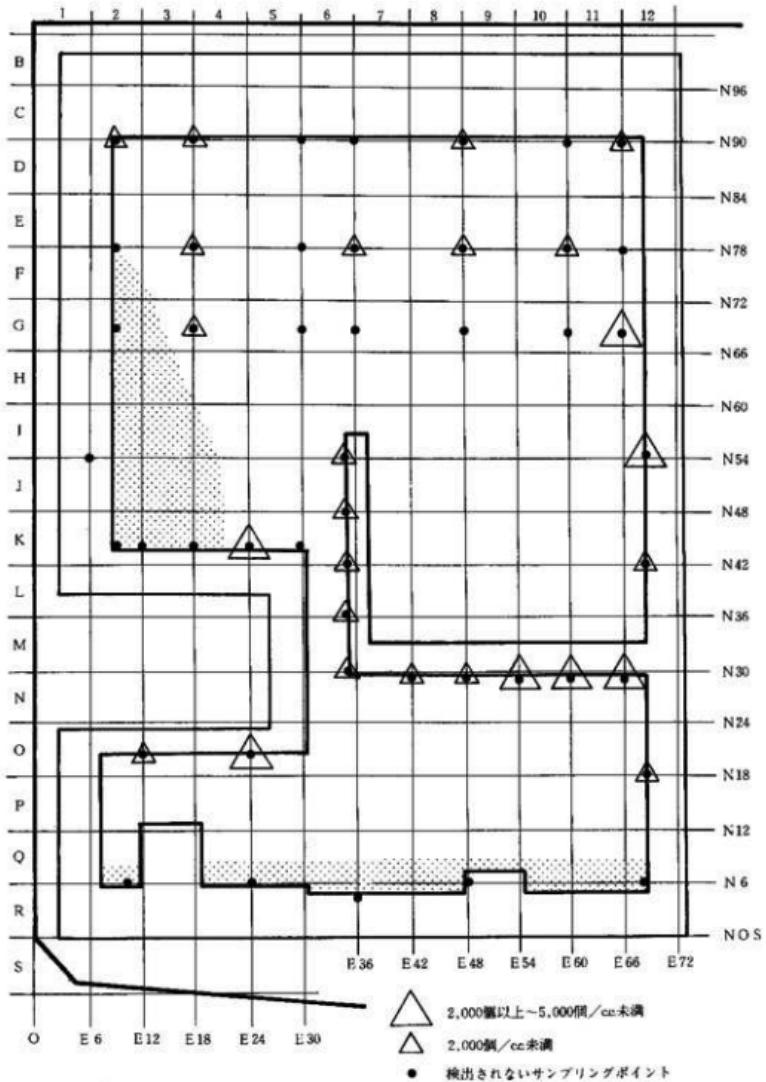
第208図 VIb層(小溝状構造)土壤採取地点位置図

3) 分析法

プラント・オパールの抽出と定量は、「プラント・オパール定量分析法（藤原、1976）」をもとに、次の順で行なった。

絶乾資料約1gにガラスピース混入（直径約40μm、約30万個）、電気炉灰化法または化酸化水素水による脱有機物処理、超音波による分散、沈底法による20μm以下の微粒子除去、乾燥、オイキット中に分散、プレパラート作成、検鏡・計数。

同定は、機動細胞に由来するプラント・オパール（以下プラント・オパールと略す）を対象に、400倍の偏光顕微鏡下で行なった。



非耕作と推察される範囲

第209図 X層イネ機動細胞プラント・オパール検出状況

計数は、ガラスピーズ個数が300以上になるまで行なった。それはほぼプレバラート1枚分の精査に相当する。試料1 gあたりのガラスピーズ個数に、計算されたプラント・オパールとガラスピーズ個数の比率をかけ、さらに仮比重をかけて単位体積あたりのプラント・オパール個数を求めた。

このようにしてイネのプラント・オパール密度を測定していくと、水田跡が埋蔵されている層にピークが現れるのが通例である。通常、イネのプラント・オパールが試料1 ccあたり5000個以上検出された場合に、水田跡の可能性があると判断している。

4) 分析結果

イネ、キビ族（ヒエなどを含む）、ヨシ属、タケア科（竹笹類）、ウシクサ族（ススキなどを含む）について同定・定量を行ない、数値データを表-8に示した。上記以外については、検出数が少ないと割愛した。

また、X層から検出されたイネのプラント・オパール密度を3段階の記号で表わし、第209図に示した。

5) 考 察

① X層水田跡の分布域について

X層については、47地点について分析を行なった。イネのプラント・オパールが検出されたのは、第209図に示した26地点である。

このうち、調査区の南東部には大きなまとまりが見られ、特にNo.37～39地点では2,000個/cc～5,000個/ccと密度が比較的高くなっている。これらは、発掘調査で水田区画が確認された区域と整合している。

調査区北部の中央や西端および南端では、イネのプラント・オパールの検出されない地点が帯び状に分布している。また、イネのプラント・オパールが検出されたところについても、大半が2,000個/cc未満とごく少量である。

これらのことから、同層の水田跡は、もともと調査区の広い範囲に分布していたが、8層の洪水によって耕作土が流出し畦畔等も流されたものと推定される。

キビ族は33地点で検出され、調査区の広い範囲に分布が見られた。同族はヒエなどの栽培種を含むが、現在のところこれらを特定するには至っていない。水田雑草としてタイヌビエなどが生えていたことも考えられる。

② VIb層の溝状遺構について

VIb層の溝状遺構では、溝部で9点、歓部で5点について分析を行なった。このうち、溝部

で採取された1点からイネのプラント・オパールが検出されたが、量的には約1,000個/ccとごく少量である。このため、上層もしくは他所から混入である可能性が考えられる。その他の試料からは、イネのプラント・オパールは全く検出されなかった。このことから、同遺構で稻作（陸稻）が行なわれていたとは考えにくい。

キビ族も、溝部の1点、歓部の1点から検出されたが、量的には約1,000個/ccとごく少量である。これも上述と同様に上層もしくは他所からの混入である可能性が考えられる。

◎参考文献

- 藤原宏志 (1976) : プラント・オパール分析法の基礎的研究(1) — 数種イネ科栽培植物の硅酸体標本と定量分析法 —、考古学と自然科学 9 : 15-29
- 藤原宏志 (1979) : プラント・オパール分析法の基礎的研究(3) — 福岡・板付遺跡（夜臼式）水田および群馬・日高遺跡（弥生時代）水田におけるイネ (*O. sativa L.*) 生産総量の推定 —、考古学と自然科学 12 : 29-41
- 杉山真二・藤原宏志 (1984) : プラント・オパール分析による水田址の探査、那珂君体遺跡II、福岡市埋蔵文化財調査報告書（福岡市教育委員会）第106集 : 11-15
- 藤原宏志・杉山真二 (1984) : プラント・オパール分析法の基礎的研究(5) — プラント・オパール分析による水田址の探査 —、考古学と自然科学 17 : 73-85

表-8 試料1ccあたりのプラント・オパール個数

VI b 層溝		イ ネ	キ ビ 族	ヨ シ 属	タ ケ 亞 科	ウ シ ク サ 族
試 料 名						
No. 1		0	0	2,200	14,400	0
No. 2		0	1,000	1,000	16,400	0
No. 3		0	0	0	12,300	1,100
No. 4		0	0	0	12,100	0
No. 5		0	0	0	16,400	0
No. 6		0	0	0	9,100	1,000
No. 7		0	0	0	17,600	1,100
No. 8		0	0	0	11,500	0
No. 9		1,100	0	1,100	10,000	0
VI b 層歓		イ ネ	キ ビ 族	ヨ シ 族	タ ケ 亞 科	ウ シ ク サ 族
試 料 名						
No. 1		0	0	0	8,700	0
No. 2		0	0	0	11,000	1,100
No. 3		0	0	1,000	8,500	0
No. 4		0	0	0	14,400	0
No. 5		0	1,000	0	12,400	0

X層

試料名	イ ネ	キ ビ 族	ヨ シ 属	タ ケ 類 科	ウ シ ク サ 族
No.1—1	300	1,200	8,200	2,200	2,200
No.1—2	0	300	1,200	1,900	300
No.2	1,400	400	2,400	3,400	900
No.3	0	500	2,500	3,000	500
No.4	0	500	2,000	1,500	500
No.5	500	0	3,000	3,500	500
No.6	0	0	2,800	9,500	0
No.7	900	3,800	1,900	11,400	4,700
No.8	0	1,400	900	6,900	2,400
No.9	900	1,400	1,900	3,400	1,900
No.10	0	900	2,900	2,900	1,900
No.11	900	400	1,900	5,700	2,800
No.12	1,400	900	2,300	7,100	2,800
No.13	900	400	1,400	5,800	2,900
No.14	0	1,400	900	9,700	3,400
No.15	0	2,600	1,300	15,700	7,800
No.16	1,200	1,200	3,600	16,800	4,800
No.17	0	3,500	2,300	19,100	3,500
No.18	0	1,100	5,800	10,400	2,300
No.19	0	1,200	6,000	19,200	3,600
No.20	0	2,400	6,000	20,400	4,800
No.21	4,400	3,300	4,400	24,600	12,300
No.22	0	0	2,400	17,300	1,200
No.23	1,100	0	8,100	18,600	8,100
No.24	4,400	1,700	1,700	12,300	2,600
No.25	400	3,900	5,700	22,100	4,400
No.26	0	4,700	4,700	17,900	4,700
No.27	0	0	0	8,100	2,300
No.28	0	2,300	2,300	20,300	3,500
No.29	3,500	2,300	2,300	20,200	4,700
No.30	0	1,200	6,200	26,100	3,700
No.31	1,600	1,600	1,600	31,100	5,800
No.32	900	0	1,800	18,900	3,600
No.33	1,000	1,000	4,000	20,200	3,000
No.34	1,000	1,000	1,000	23,200	1,000
No.35	1,000	0	1,000	17,600	2,000
No.36	1,000	1,000	2,000	24,200	4,000
No.37	2,900	0	900	26,400	4,900
No.38	2,000	0	2,000	20,900	0
No.39	3,000	0	5,000	21,200	3,000
No.40	1,000	0	1,000	22,200	3,100
No.41	3,000	1,000	2,000	18,500	3,000
No.42	1,300	1,900	2,600	24,000	2,600
No.43	0	1,000	1,000	17,600	4,100
No.44	0	0	2,000	19,100	3,000
No.45	0	0	1,000	17,500	0
No.46	0	1,900	900	19,100	1,900
No.47	0	0	0	15,900	1,900

V. 調査成果のまとめと考察

1. 弥生土器について

富沢遺跡の第24次調査では基本層のVII～X層を中心に登録総数120点に及ぶ弥生土器の出土がみられた(表10～12 登録遺物目録を参照)。水田跡からの出土としては比較的多いとはいえ、これらの大部分は小破片でしかも摩滅の著しいものが多く含まれている。しかし、特にVIIc・XII・X層を中心とした層からは、第210図に掲げたような、天王山式に相当すると考えられる図示の可能な資料が比較的多く得られた。本来ならば、層ごとの出土土器の分類・比較が必要であるが、量的に少ないため、ここでは、第210図を中心に、これらのVIIb～X層出土の天王山式土器の全体的特徴をまとめ、また層位ごとの相違点を比べ、さらに従来の天王山式との比較・検討を行いたい。

〈土器の諸特徴〉

器形—全体の器形の明らかなものはないが、残存部分から壺(B-10)、甕(B-1・4・11)、鉢(B-3)、蓋(B-34)などの器種の存在が認められる。甕では、頸部から口縁部にかけて、屈曲しそのまま開くもの(B-1・11)と受け口状に開くもの(B-5)がみられる。蓋はつまみ部が筒状のものである。

口縁部形態では、単純口縁と複合口縁の両者がみられるが、複合口縁では明らかに粘土の貼付により肥厚させているもの(B-37・38)と、それが不明瞭な程の肥厚の弱いもの(B-1・4)とがある。また、複合口縁をなすものには、口縁端部の装飾として小突起が施される例が多い(B-1・4・8)。B-4では小突起の頂部にさらに刺突が加えられている。

成形・調整—大半は粘土帯積み上げによる成形とみられ、中にはB-1のようにその痕跡を外面に残す例もある。また、全般的に器面の凹凸が認められる例が多く、成形自体あまり丁寧とは言えない。底部痕跡としては、木葉痕(B-6)をもつものもある。

器面調整としては、ナデがその主な特徴であり、その後のミガキ調整はほとんど施されていない。ナデ調整は内面を中心に一部外側にも認められ、幅2cm前後で横方向に走る。

文様—文様をもつものと地文のみられるもの、無文のものがあり、前二者には以下の特徴が認められる。

I. 文様をもつもの

口縁部資料では次の3つのタイプが認められる。

1：複合口縁の下部に沈線を施し、その下方から連続的に押圧することにより、交瓦刺突文

を作り出すもの（B-30・35・36・39）

2：複合口縁帯の下端に刺突や押圧を連続的に施すもの（B-19・37・38）

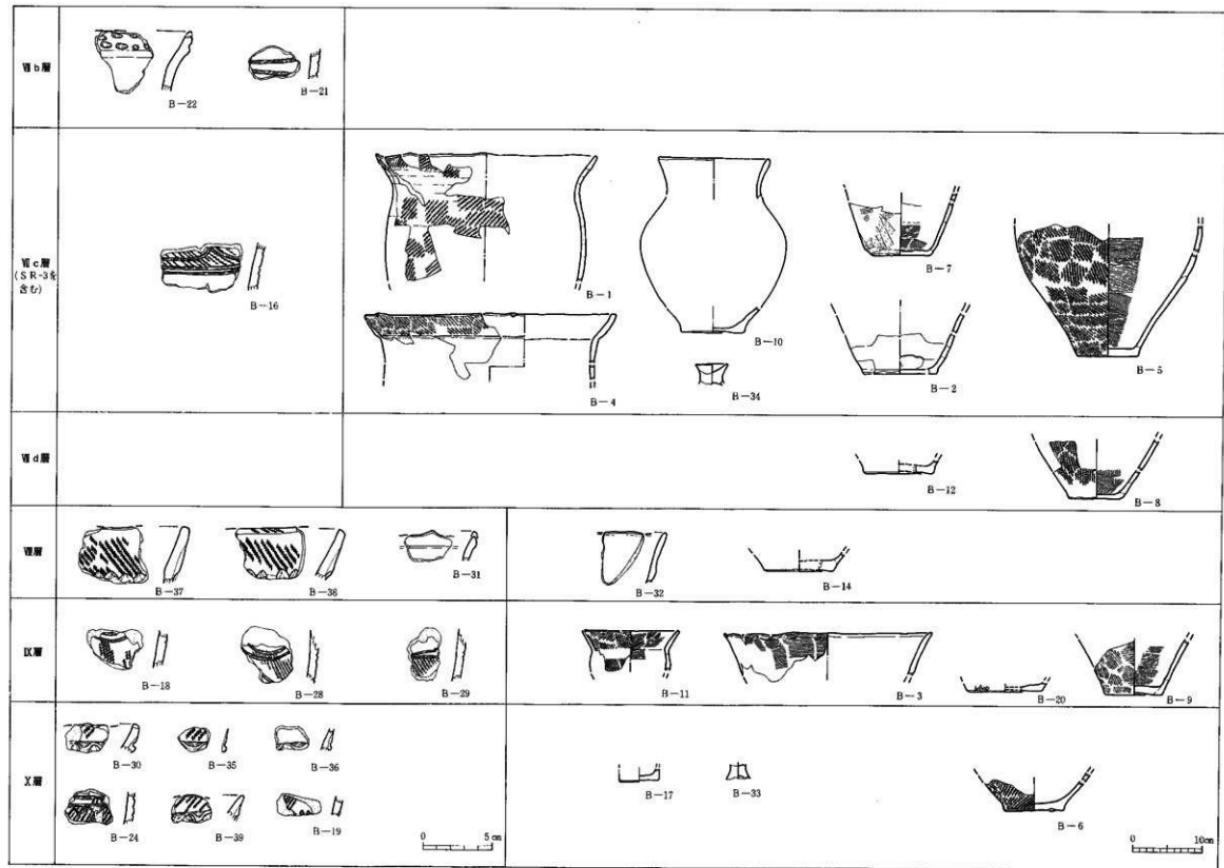
3：複合口縁帯に2段に列点刺突を施すもの（B-22）

体部資料では、地文上に沈線文を施す例が多く、磨消繩文は認められない。そのモチーフには、連続山形文（B-24）や連弧状の文様などがある。

II. 地文のみのもの

地文としては、繩文（LRとRLの両者があり）・撚糸文（しが多い）を主体に、無節の繩文もみられる。繩文では条の縱走する繩文（B-8）、撚糸文では羽状をなす撚糸文（第125図16など）なども量的には少ないが、認められる。これらは体部全体に施文されているが、B-1・4・11のように頸部を無文とし、複合口縁帯や口縁部に文様帯として施される例もある。

以上、土器の特徴をおおまかに述べたが、これらの出土したVIIb～X層からは、これらの土器の他に明らかに別型式とみられる土器が存在する。しかしこれらは極めて数が少なく、磨滅していることなどもあり、VIIb～X層の主たる時期はその大半の土器の示す天王山式期と考えられる。VIIb～X層の各層は、III章の基本層位で述べたように、VIIb・VIIc・Xの各層からは水田跡が検出された。また、VII層は砂層の自然堆積層で、洪水により堆積した層と考えられる。このVII層が調査区のかなりの広さに厚く分布しており、その後の層の形成過程、および微地形の形成に大きな影響を与えていた。これらのことから、X層からVIIb層にかけての層の形成の中で、VII層が大きな中断をもたらしたことは十分考えられる。つまりVII層の砂に覆われる以前のIX・X層の土器と砂で覆われた以後のVII～VIIb層の土器との間には明らかな時間差が存在するということである。これらをふまえた上でVII層の上下の層の土器について比較してみると、まずVII層より下層のIX・X層の土器では、複合口縁帯の下端に天王山式の1つの大きな特徴とされている交互刺突文（中村：1976）がみられるもの、体部文様として地文上に連続山形文が描かれるものの存在があげられる。ところがVII層より上層の土器では交互刺突文はみられず、複合口縁帯の下端に押圧を施したり、複合口縁帯に刺突を施すような例が見られ、下層とは異った特徴を指摘することができる。また、上層の土器をみると地文のみのものや無文のものなどが目立ち、全体的に文様装飾が乏しいことが特徴としてあげられる。中には無文で複合口縁をなすものもみられる。このように、VII層の上下の層の土器内容にはわずかながら相違点を指摘することができた。これらの相違点については、層位の違いなどからも時間差が保わっていることは当然考えられるが、資料が少ないと今後、より多くの層位的資料、および共伴資料を加え、検討していく必要がある。



第210図 Ⅷ b ~ X層出土弥生土器集成図

〈從來の天王山式との比較・検討〉

天王山式は、福島県白河市の天王山遺跡出土土器を標式資料として設定された。それらのパラエティーに富む器形や特異な文様などから、設定当初からその編年的位置についてはさまざまな意見が出されてきた（伊東：1950、坪井：1953、磯崎：1956、中村：1968・1976、日黒：1969、馬目：1980など）。これらの経過の中で、現在、天王山式土器については次第に弥生時代の土器の中でも新しい時期の一型式としての認識に落ち着いてきたといえる。

天王山式土器の特徴としては、中村五郎氏によって指摘されたように、1. 口縁の突起の発達、2. 交互刺突文、3. 条の継走する縄文、4. 体部文様帶下端の下向きの弧文（中村：1976）があげられるが、さらに日黒吉明氏により、口縁は複合口縁でほとんどの器形に磨消縄文による文様装飾がなされていることなどが（日黒：1969）、馬目順一氏により、受口状口縁の多さ、頸部の一部を横帶状に素文化する手法など（馬目：1978）が付け加えられている。

ところで天王山式の研究の中で、天王山式とは類似する要素を持ちながら諸々の点で様相の異なる内容の土器が知られるようになった。その代表的な例が西白河郡泉崎村の踏瀬大山遺跡出土土器である。天王山式と比較して、器形が単純化し突起が少なくなること、交互刺突文や磨消縄文手法などの多様な文様もほとんどなくなり、文様自体が簡素になること、そして複合口縁の下端に押圧や刺突を施すか、あるいは全く装飾を施さないものが多出すること、などが主な特徴といえるが、この差異については時期差と把え、天王山式に後続する型式として踏瀬大山式、あるいは大山式が設定された（日黒：1969、中村：1976）。近年、この踏瀬大山式に相当する良好な資料が白河市の明戸遺跡から得られた（辻他：1984）。その内容をみると、前の特徴に加え、二段の刺突または押圧をもつものや複合口縁で無文のものなどがみられる。地文では縄文・撚糸文が多用され、縄文では単節・付加条・O段多条などの各種の原体により斜走する縄文が多く施される。なお、これらの中には、いわき市の八幡台遺跡V群土器（八幡台式土器）に共通する特徴をもつ土器も多く含まれており（馬目編：1980）、浜通りと中通りの両地方の相互の関係を示している。

このような成果を踏まえて出された最近の福島県の弥生土器編年案（長島他：1987）によると、天王山式を中心とした編年では、V期として中通り地方では狭義の天王山式、浜通り地方では伊勢林前式と輪山式を、VI期として中通り地方では大山式と明戸の資料、浜通り地方では八幡台式を、それぞれ相当させている。なお、その後の最終末のVII期には十王台式が位置付けられている。

宮城県における天王山式土器については、これまで主に県北地方で研究が進められてきた。特に、興野義一氏、佐藤信行氏等により、岩出山町・一迫町などを中心にした表探資料を基に天王山式土器の紹介、細分の試みがなされてきている（興野・遠藤：1970、興野1976、佐藤他：

1978)。それらの過程の中で、県内の天王山式土器については、天王山遺跡出土土器との多くの共通する要素は認められながらも、かなり様相を異にするものも多いことがわかつてきた。興野義一氏は一迫町の天王山式土器を4類に分け、その内の交互刺突文をもつ第1類が天王山式に近い時期のものとし、その他の類は、文様がさらに退化したものなどを特徴とすることから、第1類により新しく把え、大山式と同時期かそれ以後と考えている(興野:1976)。また、佐藤信行氏等は一迫町の上ノ原A遺跡の堅穴住居跡出土土器を2群に分け、第1群土器は天王山遺跡出土土器に類似するとし、第2群土器は天王山遺跡出土土器とは細部の点で異なり、むしろ踏瀬大山式に類似するしながら、第2群土器を「上ノ原式」と仮称している。そして天王山式土器としている多種多様な土器についてグループングを試みている(佐藤他:1978)。

以上のような、狭義の天王山式とは別に踏瀬大山式に類似する土器が存在することは、県内では他に蔵王町大橋遺跡(太田:1980)・名取市清水遺跡(丹羽他:1981)、瀬峰町大境山遺跡(阿部・赤沢:1983)などでも認められている。また、最近ではそれらとは異なり、天王山式でも古い様相を示す資料が確認され始めている。例えば、色麻町色麻古墳(佐々木他:1985)・仙台市下ノ内浦遺跡(成瀬・吉岡:1984)・名取市清水遺跡神明地区(池美:1982)などの資料である。これらには交互刺突文や変形工字文、連弧文などの狭義の天王山式の特徴がみられ、また共通して複合口縁帶に縦の長い刺突を連続して施す特徴がみられる。後者の特徴などは東北地方の北部に關係の深い特徴といえる。また、これらと共に伴するかどうかは明らかではないが、共にあるいは付近から前型式の十三塚式に特徴的な平行沈線文土器が出土しており、両型式の關係について論議を呼んでいる。

このように宮城県においては、少なくとも、福島県と同様に広く天王山式に呼ばれていた土器に新しい様相を示す踏瀬大山式に相当するものと、それよりも古い狭義の天王山式に近いものとの新旧2段階が存在することが考えられる。現在、宮城県の弥生土器編年では、天王山式は5期区分の最も新しい5期としての位置付けがなされ(須藤:1984)、さらに5期を2段階に細分する案が出されている(太田:1987)。

このような研究をふまえ、今回の土器についてのその位置付けを考えてみたい。前にも述べたように、今回、基本層のⅣ層を境とした上下の層の出土土器に若干の相違点がみられた。その内、図示資料の多かった上層の土器は全体的に文様装飾が乏しく、複合口縁帶に押圧や刺突を施すなどの特徴がみられるところから、踏瀬大山式に類似し、天王山式でも新しい段階の土器群と考えられる。これらの地文には、斜走する繩文・撚糸文が多くみられるのも、県内の該期の他の遺跡と同様にこの段階の特徴といえる。これらに類する土器群は、近辺では富沢遺跡に隣接する山口遺跡(田中他:1984)からも出土している。類似するのは第V Ab類とした複合口縁のもので、中に口縁部下端に押圧がめぐるもののがみられる。また第IV類とした地文の

みの中にも類似したものがみられる。しかし、この他には今回の土器群にはみられない、縄文原体側面圧痕文なども含まれている。ところで、同じく近辺で天王山式土器が出土した遺跡に前述した下ノ内浦遺跡（成瀬・吉岡：1984）がある。この遺跡の資料はその一部しか公表されていないが、今回の土器群とは極めて様相の異なるものである。今回の調査地点からは数百メートルしか離れておらず、この点からもこのような土器内容の差異は時期的な差と考えられるのである。VII層より下層の土器については、上層の土器群よりも、層位的にも土器の特徴からも古い時期のものと考えられるが、資料が少なく、天王山式でも古い段階と考えられる土器群との関係は明らかにはできなかった。今後、資料の増加をまって検討したい。このように、今回、広く天王山式と呼ばれていたものの新しい段階の資料が、近接した層からまとまって出土した。今後、同一地域での土器の変遷を考える上での1つの重要な資料になり得る。

最後に、今回の土器の成形・調整についてふれておきたい。全体的に成形・調整ともあまり丁寧とはいはず、器面の凹凸が認められ、器面調整ではミガキの欠いたナデによる調整が主体である。このような特徴は、山口遺跡の出土土器でもうかがえられ（田中他：1984）、また県内の他の該期の遺跡でも同様な傾向が認められる。前型式までのミガキ主体の器面調整からすると極めて対照的である。このような、器面調整の簡略化ともいえる変化がどのような理由によるものなのか、今後、天王山式の土器文化を考える上での重要な課題ともいえる。

引用・参考文献（太田報文）

- 阿部 正光・赤沢 靖章：(1983)：「大境山遺跡」「瀬峰町文化財調査報告書」第4集
磯崎 正彦：(1956)：「天王山式土器の編年的位置に就いて」『上代文化』26
伊東 信雄：(1950)：「東北地方の弥生式文化」『文化』2-4
恵美 吕之：(1982)：「清水遺跡 神明閣地区」「名取市文化財調査報告書」第11集
太田 昭夫：(1980)：「大橋遺跡-東北自動車道報告書IV」「宮城県文化財調査報告書」第71集
太田 昭夫：(1987)：「宮城県における弥生式土器編年研究の現状と課題」「第2回縄文文化検討会資料」
興野 義一・遠藤 智一：(1970)：「宮城県玉造郡岩出山町の考古学遺跡」「岩出山町史」下巻
興野 義一：(1976)：「宮城県一迫町の考古学」「一迫町史」
佐々木・古川・大槻：(1985)：「香ノ木遺跡・色麻古墳群」「宮城県文化財調査報告書」第103集
佐藤 信行他：(1978)：「上ノ原A遺跡」「宮城県一迫町文化財調査報告書」第3集
須藤 隆：(1984)：「東北地方における弥生時代農耕社会の成立と展開」「宮城の研究」1
田中・主浜・佐藤：(1984)：「山口遺跡II」「仙台市文化財調査報告書」第61集
辻 秀人他：(1984)：「明戸遺跡発掘調査概報」「福島県立博物館調査報告」第8集
坪井 清足：(1953)：「福島県天王山遺跡の弥生式土器」「史林」3-1
長島 雄一他：(1987)：「福島県における弥生式土器編年研究の現状と課題」「第2回縄文文化検討会資料」

- 中村 五郎 (1968) : 「東北地方南部における弥生式土器編年」『第10回福島県考古学大会発表要旨』
- 中村 五郎 (1976) : 「東北地方南部の弥生式土器編年」『東北考古学の諸問題』
- 成瀬 茂・吉岡 恭平 (1984) : 「下ノ内浦遺跡—仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報印」『仙台市文化財調査報告書』第69集
- 馬目 順一 (1978) : 「入門講座 弥生土器—南東北」『考古学ジャーナル』
- 馬目 順一編 (1980) : 「八幡台遺跡」「いわき市埋蔵文化財調査報告書」第5冊
- 丹羽・阿部・小野寺 (1981) : 「清水遺跡—東北新幹線関係遺跡調査報告書V」『宮城県文化財調査報告書』第77集
- 目黒 吉明 (1969) : 「弥生時代」『福島県史』

2. 小溝状遺構について

本書のIV b 層検出遺溝で報告した「小溝状遺構」(または「小溝状遺構群」と呼ばれる)一連の遺溝は、昭和51年に仙台市南部の六反田遺跡(田中・1981)や仙台市の南に接する名取市北部の清水遺跡(丹羽・小野寺・阿部・1981)といった名取川流域の自然堤防上の遺跡で検出された。以後、市内の安久東遺跡(報告書未刊)、南小泉遺跡(結城・工藤・1978、1983)・下ノ内浦遺跡(渡辺・1984)・下ノ内遺跡(成瀬・1984)、山口遺跡(田中・1984)など、名取川流域またはその支流の広瀬川流域の自然堤防上で、集落と重複または隣接して相次いで検出された。

この遺構の特徴は、「①、遺物がほとんど出土しない。②、底面に凹凸があること。③、セクションで「うね状」を示すこと。④、まとまりと方向性をもつこと。⑤、…(一部略)…グラフィ化など水の流れた形跡がない。」(田中・1981、P186)などがあげられ、他の単一に存在する小規模の溝跡とは区別され、仙台市内の調査では一般に「小溝状遺構」または「小溝状遺構群」と呼ばれている。(註ーなお最近、この様な遺構の性格を「畑」として積極的に位置付けた上で、「畠状遺構」という名称で呼ぶ例…佐藤・1987…もある。)

遺構の性格としては、発見当初から田中によって「畑の凹状あるいは天地返し部分の可能性を含めて作物栽培に関係すると考える。」(田中・1981)とされて来た。これまでこの考え方には異議は出されていないが、ここでは近年の調査成果を加え改めてその特徴を整理し、作物栽培のどのような過程で形成された遺構なのか、若干の検討を加えてみたい。

まず、遺構の特徴を再整理すると次のような点があげられる。

1. 仙台市内の例では、自然堤防上または自然堤防から後背湿地にかけてのゆるやかな斜面に立地している。
2. 住居跡との重複関係は存在するが、同時期の水田域とは分布を異にする。

3. 各溝の規模（上面幅）は30cm前後で、各時期、各遺構、各遺跡に共通する。
4. 同時期の遺構は同一の方向性をもつ。
5. 同時期の遺構の間隔には、多くの場合かなりの規則性が認められる。
6. 調査面積の制約や、本来の分布範囲の広・狭の差はあるが、この遺構は一定の平面的な広がりをもつ。
7. 各溝の端部は（本調査例のVIbのように）ある一定線上に並び、掘削に際しての計画線が想定される。
8. 遺構の堆積土は、水が流れたことや堆積に長期間を要した状況を呈することがない。
9. 遺構の底面には、鋤（または歟）の痕跡と考えられる半月形ないし梢円形のピット状の凹みが連続的に観察出来る場合がある。
10. プラント・オパール分析によって、栽培を裏付けるだけのイネのプラント・オパールが検出される例（六反田遺跡、佐藤・1987）と、全く検出されない場合（本調査例）とがある。
11. 小溝状遺構が検出されている層は、古墳時代以降の堆積層である。

このような特徴を総括すると、「小溝状遺構」は比較的乾燥した土地のある一定面積を計画的に一定間隔に掘り起こすことによって有意な機能を生じた遺溝である。そしてその機能を果たしたのは、水路等のいわゆる「溝」としての役割を持たなかった溝状の窪みというより、溝状の窪みに狭まれ、溝状に掘削ことによって生じた柔らかな列状の「土」の盛上がりの方にあるとした場合、この遺構の性格として「畑」を考えるのは妥当と思われる。

では、小溝状遺構は「畑」を作る作業（作物栽培）のどのような過程で形成されたものであろうか。これまででは「畑の畠を作る」ためか「天地返し（起耕）」のためという2通りの考え方方がされている。（田中・1981、佐藤・1987）先に「天地返し」の痕跡という考え方についてみることにする。

現在、仙台市の南部の自然堤防等に立地する遺跡を調査すると、しばしば近年行なわれたいわゆる天地返しの跡が溝状の攪乱として検出される。この攪乱は遺構面に列状に平行し、溝状の窪みの幅は40cm前後で、隣の窪みとの間隔はほとんどなく境は尾根状になっている。（検出状況の実例は栗遺跡：東北学院大学考古学研究部・1979、郡山遺跡：木村・1986・1987等の遺構写真に見られる。）かつて同地区で天地返しをしたという人の話では、「まず溝みたいに1本を2尺くらい掘り、僅かに間を置いて隣を掘り、掘った土で前に掘った穴を埋めながら隣、隣と掘っていく。」ということであった。検出された天地返しの跡と、天地返しをした人の話は一致しており、いずれからも近年の天地返しが、ある一定範囲の耕地全域をくまなく掘りあげて土を柔らかくかつ深く攪拌しようとしていることが伺われる。これに対し、古代の遺構として検

出される小溝状遺構は、本調査例にしても他の調査例にても1時期の遺溝の密度はまばらで、各例くらいの密度の掘削では、耕地あるいは耕地にしようとしている土地全体の土壤を深くかつ広範囲に攪拌するという意味での天地返しとは成り得ないであろう。このように考えると、小溝状遺構は「天地返し」の跡を見るよりも、「畝」の形成に係わる遺溝としての性格の方がより妥当性が強いものと考えられる。

そこで次には、小溝状遺構を「畝」の両側に形成される畝を盛る際の掘削の痕跡とした場合について検討する。この場合小溝状遺構間の幅が問題となる。小溝状遺構間の間隔については表-9に3遺跡の例を示したが、このうち六反田遺跡（佐藤・1987）と本調査で検出された遺構の間隔は111cmから261cmまであり、特に全てに共通する間隔というものはなかった。掘削の深度に大きな差がなければ、間隔の狭い小溝状遺構群における畝は比較的高くつくられる。一方、間隔の広い小溝状遺構群における畝は低く、畝の高まりよりは溝状の窪みの方が目につくような状態であり、溝の間隔が200cmを超すような場合は、溝の掘削によって、起耕された土で畝が盛上がるような状況を呈するようなことはなかったものと想像される。

表-9 小溝状遺構の中輪間隔と方向

遺跡名・群名	溝 中 輪 間 隔	検出数	方 向	遺跡名・群名	溝 中 輪 間 隔	検出数	方 向
富沢(24点)							
地1群	150~190cm (180cmを中心)	11条	N-0°~6°-W	f	平均237cm	1条	平均N-45°-W
2	110~190cm (140cmを中心)	8条	N-14°~17°-E	g	251cm	3条	平均N-25°-W
3	180cm	2条	N-10°-E	h	260cm	7条	平均N-63°30'-W
4	100~180cm (150cmを中心)	25条	N-1°~6°-E	i	251cm	4条	約N-48°-W
5	120~180cm (140~160cmを中心)	26条	N-1°~5°-E	j	166cm	3条	約N-26°-W
				k	205cm	4条	約N-34°30'-W
				l	121cm	5条	約N-46°-W
				m	111cm	3条以上	約N-55°-W
六反田群							
畝状遺構 a	平均165cm	5条	N-17°13'-W				
b	130cm	4条	約N-45°-E	南小泉			
c	116cm	11条以上	約N-41°-W	EW 2-B	45~90cmと130~170cm	8条	(略東面)
d	142cm	3条	平均N-49°-E		の間隔を交互に		

※六反田遺跡は佐藤：1987「六反田遺跡Ⅲ」による。また南小泉遺跡は結城・工藤：1983「南小泉遺跡」による。

このように小溝状遺構に様々な間隔が生じる要因としては、栽培種の相違に因って畝の幅や間隔を変えることが考えられる。また本調査例の小溝状遺構群は、各群とも間に大きな差は認められないが、このような地区では同種の作物が広く繰返し栽培されていた可能性についても考えなくてはならないのではないだろうか。対的に六反田遺跡のように遺構の間隔が111cmから261cmまでと差が大きく、数種類の間隔と別々の方向性をもった群が水平的にあるいは垂直的に分布している場合は、栽培種の違い・耕地の使い分け・輪作といったことを考える必要があると思われる。さらに南小泉遺跡の例では、溝の間隔が45~90cmと130~170cmの間隔を交互に繰り返す地区がある。これは、間隔の狭い部分が畝となり、間隔の広い部分は空間としての役

削を果たしていたと考えられるものである。

このように見えてくると、小溝状遺構…歎…にも現在の畠地に見られる様々な形態があることが伺われる。今後小溝状遺構については、遺跡における位置と群の配置といった形態的検討と、その形態との関係をもった栽培種の特定という両面から調査が進められる必要があろう。

3. プラント・オパール分析と調査結果

本調査においては、あらかじめプラント・オパール分析によって水田跡の存在の有無の予察を行なってから調査に着手した。プラント・オパール分析のサンプル採集地点と本調査地点が多少ずれたためや、後に層を細分化したために対応の不明確なところはあるが、III層からX層に至るまで、予想された各層で水田跡が検出された。また、Q-15地点では、VI層以下の層でイネのプラント・オパールは検出されなかったが、この付近のVIb層は、畠地として使われた可能性が強く、X層は水路の南側の自然堤防の近くに位置し、水田域外と考えられるような調査結果と一致をみることができた。

また、VIb層の小溝状遺構については、イネのプラント・オパールが検出されないことから陸稻以外の作物を栽培していたと考えられる。

X層の平面的な分析からは、調査区西部の微高地以西と、調査区南部の溝跡以南は水田域外となっていることが推定され、それ以外の調査区の大部分では、畦畔はほとんど残存しておらずなかったが、水田が広く営まれていたことが明らかになった。

このようにプラント・オパール分析によって多くの情報を得ることができたが、このなかで今後検討しなければならない課題がある。それは、V-15地点のX-1・X-2層の稲穀生産総量の推定値からX-1・2の2層の期間を「260年間」と割り出している点である。

X層の年代は、樹形團式または円田式の破片1点と、寺下団式以前の弥生土器または繩文時代晩期後半頃の土器片が1点含まれるほかは、型式の明らかな多くの土器片は、いずれも天王山式に属するものであることから、天王山式期の水田跡と考えた。また、VII・IX層の介在によってX層と隔離されているVIIc層の水田跡からも天王山式の土器片が出土していることからX層水田跡が天王山式の全期間を通して営まれていたものではないようである。以上の2点を考慮すると天王山式1型式が、「260年間」以上続いたことになる。現在、宮城県内の弥生土器の編年は、弥生時代中期以降を5期に区分する方向（須藤・1984、太田・1987）で進められている。各期の存続年代は明らかではないが、天王山式の1型式が260年以上も続いたとは考え難い。この点は、プラント・オパール分析の結果と考古学調査と不整合を生じている。この問題の解決のためには、天王山式の存続年代を含め、X層の水田跡が天王山式の以前から水田と

なっていたのか、あるいは年間生産量が想像以上に高かったのか、または別に何らかの理由があるのか今後の検討が必要である。

4. まとめ

- 富沢中学校校舎建築予定地は、富沢遺跡の南西部に位置し、沖積低地中でも丘陵・段丘に近い部分にあたり、さらに自然堤防から後背湿地へと移行する地形上有る。
- 調査によって縄文時代の遺溝・遺物と、弥生時代から近世初頭に及ぶ水田跡が発見された。
- 縄文時代の遺物には、前期から後期に至る土器と石器とがあり、X層中から出土している。この時代の主な遺溝としては「陥れ穴」があり、石器等の出土と合わせて考えると、当時はこの地区で狩猟が行われていたことがうかがわれる。なお当時は、プラント・オパール分析によると、ヨシの繁茂するやや湿った環境にあったと考えられる。
- 検出された水田跡は、下層から弥生時代後期2時期・弥生時代後期から古墳時代にかけて1時期・古墳時代後期(栗田式)1時期・平安時代(10世紀前後頃)1時期・中世から近世初頭1時期の計6時期であった。
- X層の水田跡は弥生時代後期(天王山式)の水田で、プラント・オパール分析によると調査区南部の水路以南と西部の微高地を除く調査区全域に分布していたと考えられるが、畦畔の大部分は洪水により流失していた。畦畔の残存する調査区南東部では、1区画の大きさが $1.3m^2 \sim 4.1m^2$ という非常に小規模な水田が検出された。
- VIIc層の水田跡も弥生時代後期(天王山式)の水田跡で、調査区南部で部分的に検出された。区画のわかる水田の面積は約 $6.6m^2$ であった。
- VIIb層の水田跡は、弥生時代から古墳時代の水田跡で、洪水によって堆積したVIII層が形成した調査区中央の谷状の狭い窪地に形成されていた。区画のわかる水田の面積は $5.4m^2 \sim 13.5m^2$ であった。
- VIIb層の水田は、古墳時代後期(栗田式)で、VIIb層同様の谷状の窪地に形成されていた。検出された水田域の南側は東西にのびる水路で区切られ、水路の南側の自然堤防に近い部分では、畑に関係すると考えられる「小溝状遺構」が検出された。区画のわかる水田の面積は $24m^2 \sim 28m^2$ であった。
- Va層の水田跡は、10世紀前半頃を前後する平安時代の水田跡で、10世紀前半頃に降下した火山灰を作土中に含んでいた。水田は調査区の中央部から北側で検出され、区画のわかる水田の面積は $54.8m^2 \sim 96m^2$ であった。
- III層の水田跡は、中世から近世初頭にかけての水田で、調査区の中央部から北部にかけて

検出された。区画のわかる水田の面積は65.2m²であった。

11. 検出された6時期の水田跡の作土下部にはいずれも酸化鉄の集積は認められず、II層の近世以後の水田となるまでは、湿田であったことうかがわれる。

引用・参考文献 (工藤報文)

- 青森県教育委員会 (1985) : 「垂柳遺跡発掘調査報告書」『青森県埋蔵文化財調査報告書第88集』
- 赤羽 一郎 (1984) : 「常滑焼」考古学ライブラリー-23
- 板垣 直後 (1985) : 「仙台およびその周辺地域に分布する愛島軽石磨」(演旨)『東北地理』37巻 pp. 79
~80
- 梅宮・八巻 (1975) : 「田地ヶ岡遺跡」『福島県文化財調査報告書第47集』pp. 133~167
- 恵美・菅井 (1986) : 「史跡飯野坂古墳群」『名取市文化財調査報告書第17集』
- 太田 昭夫 (1987) : 「宮城県における弥生式土器編年研究の現状と課題」『第2回繩文文化検討会資料』
- 奥野 義一 (1967~70) : 「大木式土器理解のために(I)~(VI)」考古学ジャーナル13・16・18・24・32・
48
- 工藤・成瀬 (1982) : 「栗遺跡」『仙台市文化財調査報告書第43集』
- 後藤 勝彦 (1973) : 「繩文後期宮戸I b式周辺の吟味」『東北の考古・歴史論文集』
(1961) : 「陸前宮戸島里浜台圓貝塚出土の土器について」考古学雑誌48-1
- 斎藤他 (1980) : 「宮沢遺跡-東北自動車道遺跡調査報告書III」『宮城県文化財調査報告書第69集』
- 佐賀県立九州陶磁文化館 (1984) : 「国内出土の肥前陶磁」
- 佐藤 洋 (1987) : 「六反田遺跡III」『仙台市文化財調査報告書第102集』
- 庄子・山田 (1980) : 「宮城県に分布する火山灰について」『多賀城跡 昭和54年度発掘調査概報』pp. 97
~102
- 白鳥 良一 (1980) : 「多賀城跡出土土器の変遷」『研究紀要』VII 宮城県多賀城跡研究所 pp. 1~38
- 須藤 隆 (1984) : 「東北における稻作の開始」『考古学ジャーナル No. 288』
- 仙台市教育委員会 (1981) : 「山田上ノ台遺跡発掘調査報告書」『仙台市文化財調査報告書第30集』
- 〃 (1985) : 「山田上ノ台遺跡-昭和59年度発掘調査報告書」『仙台市文化財調査報告書
77集』
- 〃 (1987) : 「山田上ノ台発掘調査報告書」『仙台市文化財調査報告書第100集』
- 〃 (1982) : 「北前遺跡発掘調査報告書」『仙台市文化財調査報告書第36集』
- 〃 (1980) : 「三神峯遺跡発掘調査報告書」『仙台市文化財調査報告書第25集』
- 〃 (1984) : 「山口遺跡III」『仙台市文化財調査報告書第61集』
- 〃 (1982~87) : 「仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報 I ~ VI」『仙台市文化財報告書第40~
56・69・82・89・101集』
- 〃 (1982) : 「六反田遺跡発掘調査報告書」『仙台市文化財調査報告書第34集』
- 〃 (1984) : 「六反田遺跡II」『仙台市文化財調査報告書第72集』
- 〃 (1981~88) : 「郡山遺跡 I ~ VIII」『仙台市文化財調査報告書第29・38・46・64・74・
86・96・110集』

- 仙台市教育委員会（1978）：「南小泉遺跡」『仙台市文化財調査報告書第13集』
- 〃（1983）：「茂庭」『仙台市文化財調査報告書第45集』
- 〃（1983）：「今泉城跡」『仙台市文化財報告書第58集』
- 〃（1984）：「高沢水田遺跡」『仙台市文化財調査報告書第67集』
- 田口 昭二（1983）：「美濃燒」考古学ライブラリー-17
- 田中 則和（1981）：「六反田遺跡発掘調査報告書」『仙台市文化財報告書第34集』
- 田中 則和（1981）：「山口遺跡II」『仙台市文化財調査報告書第61集』
- 地学団体研究会〈仙台支部編〉（1980）：「新編仙台の地学」
- 東京国立博物館（1978）：「日本出土の中国陶磁」
- 東北歴史資料館編（1983）：「東北の中世陶器」
- 東北学院大学考古学研究部（1979）：「糸遺跡発掘調査報告書」『仙台市文化財調査報告書第14集』
- 土岐山 武（1980）：「安久東遺跡－東北新幹線関係遺跡調査報告書IV」『宮城県文化財調査報告書第72集』
- 中村 五郎（1976）：「東北地方南部の弥生式土器編年」『東北考古学の諸問題』東北考古学学会
- 名取市教育委員会（1975）：「宮下遺跡」『名取市文化財調査報告書第1集』
- 成瀬 茂（1984）：「下ノ内溝道路－仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報III」『仙台市文化財調査報告書第69集』
- 西村 正衛（1966）：「茨城県稻敷郡浮島貝塚」『早稻田大学学術研究第15号』pp. 73～95
- 丹羽・阿部・小野寺（1981）：「清水遺跡」『宮城県文化財調査報告書第72集』
- 丹羽 茂（1981）：「大木式土器」『縄文文化の研究』4 縄文式土器II pp. 43～60
- 藤沼 邦彦（1977）：「宮城県出土の中世陶器について」『東北歴史資料研究紀要』第3巻
- 藤間・木元（1980）：「芹沢遺跡－東北新幹線関連遺跡調査報告I」『福島県文化財調査報告書第80集』pp. 105～126
- 松井 健（1987）：「水田土壤学の考古学への応用」『土壤学と考古学』博友社
- 八賀 晋（1968）：「古代における水田開発－その土壤的環境－」『日本史研究16』
- 〃（1971）：「古代の農耕と土壤」『古代の日本2－風土と生活－』角川書店
- 渡辺 忠彦（1984）：「下ノ内遺跡－仙台市高速道関係遺跡調査概報III」『仙台市文化財調査報告書第69集』
- 結城・工藤（1978）：「南小泉遺跡－範囲確認調査報告書」『仙台市文化財調査報告書第13集』
- 結城・工藤（1983）：「南小泉遺跡－都市計画街路建設工事関係第2次調査報告」『仙台市文化財調査報告書第52集』

写 真 図 版



写真-1 富沢遺跡と周辺の遺跡



写真-2 Ⅲ層全景（南より）



写真-3 第1水口



写真-4 第2水口



写真-5　Ⅲ層南部全景（東より）



写真-6　Ⅲ層南部全景（西より）

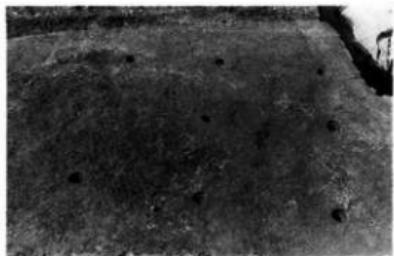


写真-7 SB-1 据立柱建物跡

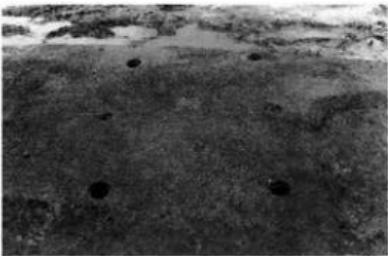


写真-8 SB-2 据立柱建物跡



写真-9 SD-1 溝跡
(東より)



写真-10 SD-1 溝跡断面A (東より)



写真-11 SD-9 溝跡掘痕 (南より)



写真-12 SD-9 溝跡断面D (東より)



写真-13 SD-10溝跡断面E（西より）



写真-14 SD-10溝跡断面F（東より）



写真-15 SD-11溝跡断面G（東より）



写真-16 SD-12溝跡断面H（南より）



写真-17 SK-3土坑（北より）



写真-18 SK-3土坑断面（西より）



写真-19 SK-4 土坑（西より）



写真-20 SK-4 土坑断面（西より）



写真-21 SD-9 溝跡杭列検出状況



写真-22 SD-9 溝跡杭列（南より）



写真-23 SD-9 溝跡杭列（南東より）



写真-24 SD-9 溝跡杭列（東より）



写真-25 S D-10溝跡シガラミ遺構検出状況
(東より)



写真-26 S D-10溝跡シガラミ遺構検出状況
(南より)



写真-27 S D-10溝跡シガラミ遺構杭列
断面南側



写真-28 S D-10溝跡シガラミ遺構杭列
断面北側



写真-29 S D-10溝跡P-12区杭列L-72~75(南より)



写真-30 SX-4 造構 (南より)

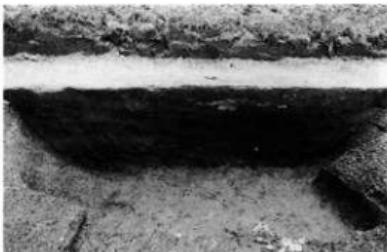


写真-31 SX-4 造構断面 (北より)



写真-32 SX-6 造構断面 (西より)



写真-34 SX-6 造構石組 (西より)



写真-33 SX-6 造構 (南より)



写真-35 SX-6 造構杭列断面 (西より)



写真-36 SX-5 遺構断面（西より）



写真-37 SX-7 遺構（東より）

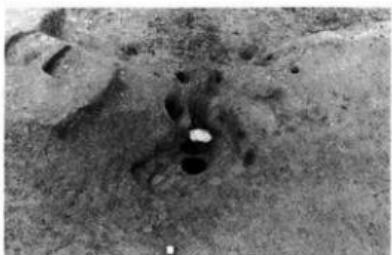


写真-38 SX-8 遺構（北より）



写真-39 SX-8 遺構断面（北より）



写真-40 SX-9 遺構（北より）



写真-41 SX-9 遺構断面（北より）

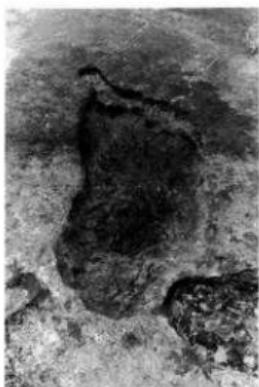


写真-42 SX-13遺構(東より)



写真-43 SX-13遺構杭列(東より)



写真-44 SX-10遺構断面(南より)



写真-45 SX-16遺構断面(北東より)



写真-46 SD-10溝跡帽出土状況



写真-47 III層鉄製品N-8検出状況



写真-48 V層北部全景（東より）



写真-49 V層中央部全景（東より）



写真-50 V層中央部全景（東より）



写真-51 V b 層畦畔（北より）



写真-52 V b 層火山灰検出状況（南より）



写真-53 V層K-2区足跡検出状況（北より）



写真-54 V層牛足跡（東より）

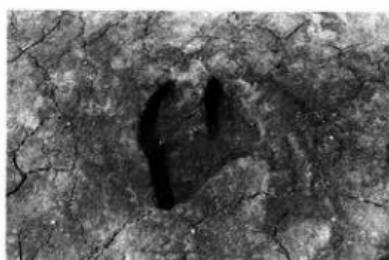


写真-55 V層牛足跡（東より）



写真-56 SD-13溝跡断面（東より）



写真-57 SX-11造構（南東より）



写真-58 SX-11造構断面（南西より）

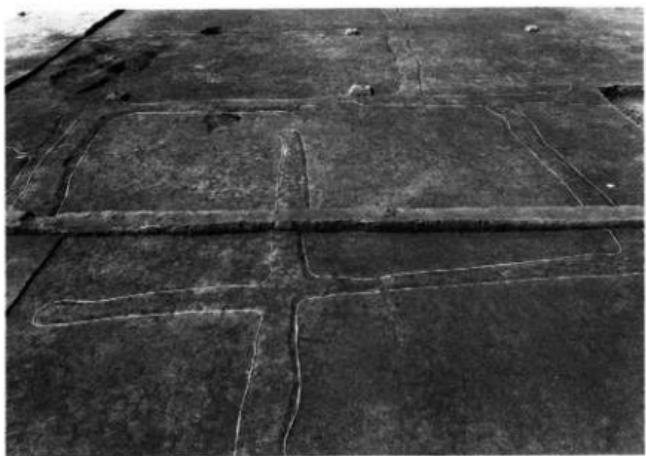


写真-59 VI層中央部全景（東より）



写真-60 VI層中央部畦群（東より）



写真-61 小溝状造構（南より）



写真-62 小溝状造構（東より）



写真-63 小溝状造構（東より）

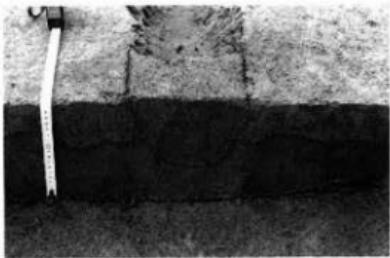


写真-64 小溝状造構断面No.4（南より）



写真-65 SD-19溝跡（東より）



写真-66 SD-19溝跡断面A（東より）



写真-67 SD-19溝跡断面B北（東より）



写真-68 SD-19溝跡断面B南（東より）

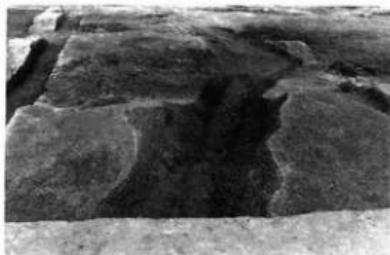


写真-69 SD-21溝跡（南より）

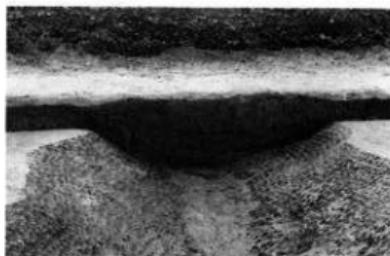


写真-70 SD-21溝跡断面（北より）



写真-71 SD-22溝跡（北より）

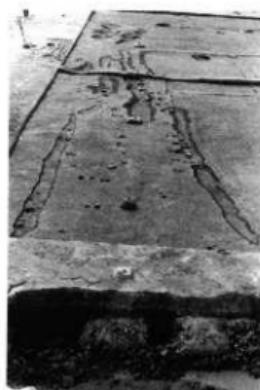


写真-72 SD-23-24-25溝跡
(東より)



写真-73 SK-5土坑（南より）

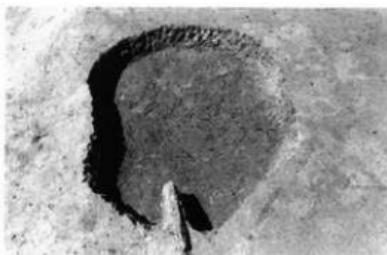


写真-74 SK-6土坑（東より）



写真-75 SD-26溝跡（南より）



写真-76 SD-26溝跡（南より）



写真-77 SD-26溝跡断面H（南より）



写真-78 SD-26溝跡土器出土状況

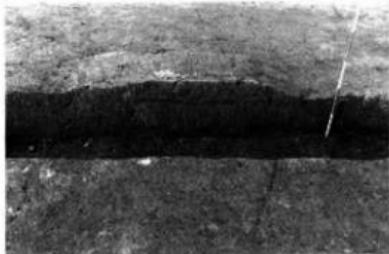


写真-79 墓14(K-9区)断面



写真-80 VII b層全景（東より）



写真-81 哉7(M-6区)(西より)



写真-82 哉7(M-6区)(東より)

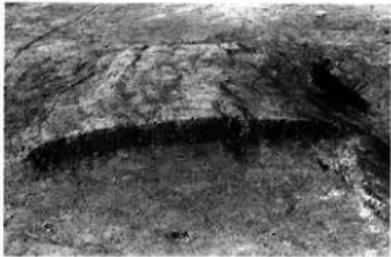


写真-83 哉13(K-9区)断面



写真-84 VII b層N・0 - 7・8区（南より）



写真-86 VII b層N・0 - 7・8
区拡大（南より）



写真-85 VII b層N・0 - 7・8区（東より）



写真-87 VII c層南部SR - 3河川跡（東より）



写真-88 SR-2 河川跡（東より）



写真-89 SR-2 河川跡断面（西より）



写真-90 SR-3 河川跡 SD-32溝跡（西より）



写真-91 SR-3 河川跡断面（東より）



写真-92 SD-52溝跡（南より）



写真-93 SD-52溝跡断面（北より）

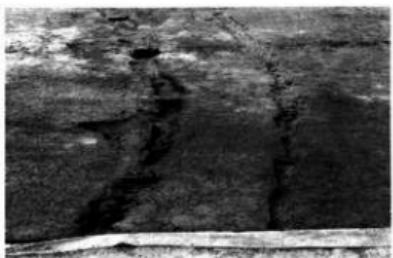


写真-94 SD-35・36溝跡（東より）

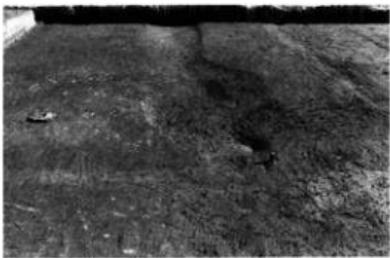


写真-95 SD-47溝跡（東より）

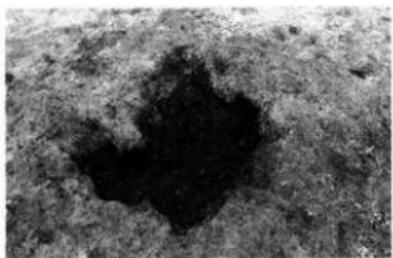


写真-96 SK-23土坑（南東より）

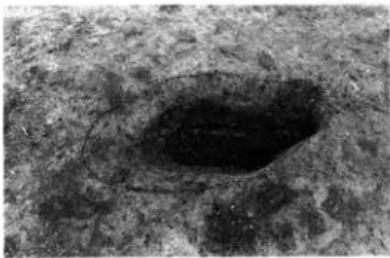


写真-97 SK-24土坑（南東より）

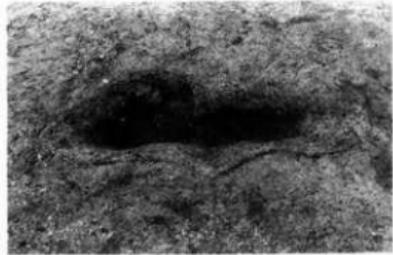


写真-98 SK-25土坑（西より）



写真-99 L-4・5区遺物出土状況



写真-100 SD-39溝跡（南東より）



写真-101 SD-39溝跡断面



写真-102 SD-38溝跡

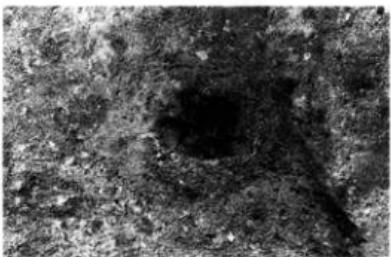


写真-103 SD-38溝跡遺物出土状況
(B-65~68)

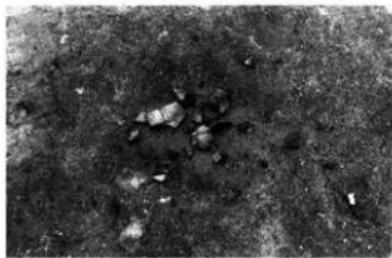


写真-104 O-7区遺物出土状況 (B-40~46)



写真-105 K-11区遺物出土状況 (B-8)



写真-106 霊廟北部全景（南より）



写真-107 霊廟北部全景（南より）



写真-108 淀川中央部全景（東より）



写真-109 淀川南部全景（東より）



写真-110 SD-30溝跡（北西より）

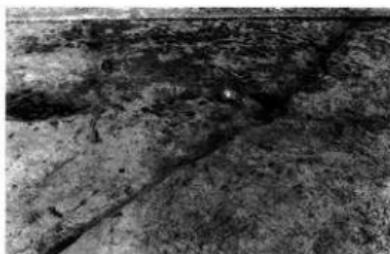


写真-111 SD-30溝跡（南より）



写真-112 SD-44・45・46溝跡（東より）

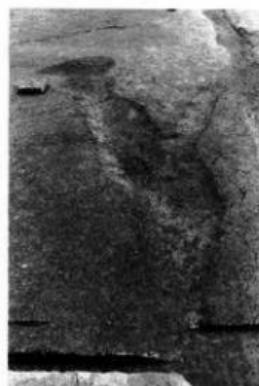


写真-113 SD-48溝跡
(西より)



写真-114 SD-49・50溝跡（西より）



写真-115 SD-61溝跡（東より）



写真-116 SD-62溝跡（東より）



写真-117 SD-63溝跡（東より）



写真-118 SD-65溝跡（東より）

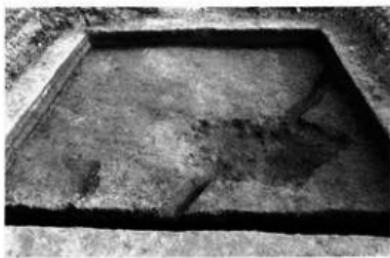


写真-119 SK-2土坑・SD-5溝跡（北より）



写真-120 SK-11土坑（南より）

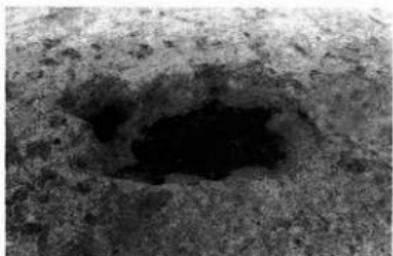


写真-121 SK-12土坑（東より）



写真-122 SK-13土坑（南東より）

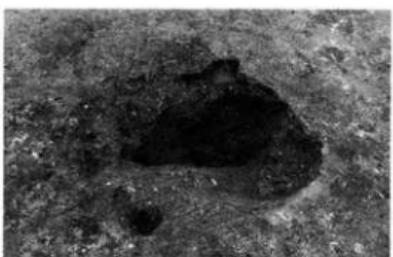


写真-123 SK-14土坑（南東より）



写真-124 SK-14土坑断面（東より）

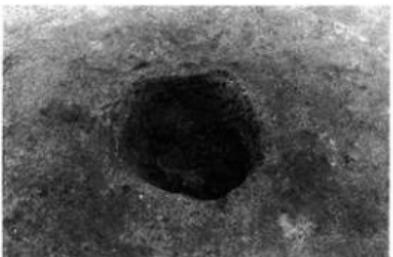


写真-125 SK-15土坑（南東より）



写真-126 SK-16土坑（東より）

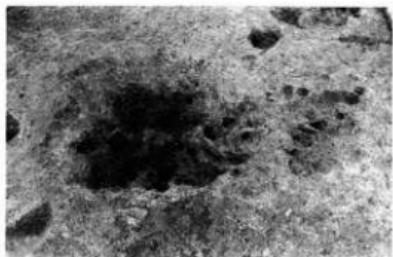


写真-127 SK-18土坑（南西より）

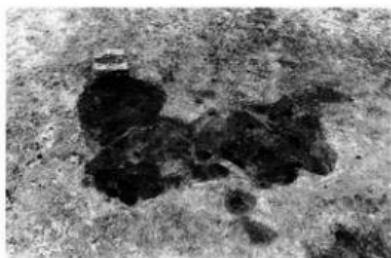


写真-128 SK-17+19土坑（南より）

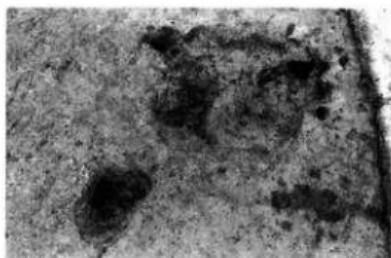


写真-129 SK-20土坑（西より）



写真-130 SK-38土坑（南より）



写真-131 SK-38土坑断面（南より）



写真-132 SK-39・40土坑（南より）



写真-133 SK-40土坑断面（南より）



写真-134 SK-43土坑（南より）

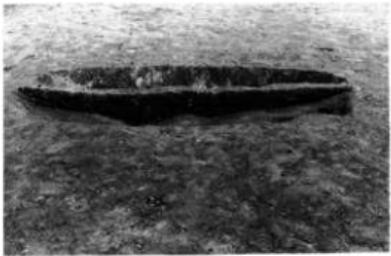


写真-135 SK-43土坑断面（南より）



写真-136 SK-44土坑（西より）



写真-137 SK-44土坑断面（西より）



写真-138 X層北部全景（南より）



写真-139 X層北部全景（南より）



写真-140 X層中央部畦畔全景（東より）



写真-141 X層中央部畦畔全景（西より）

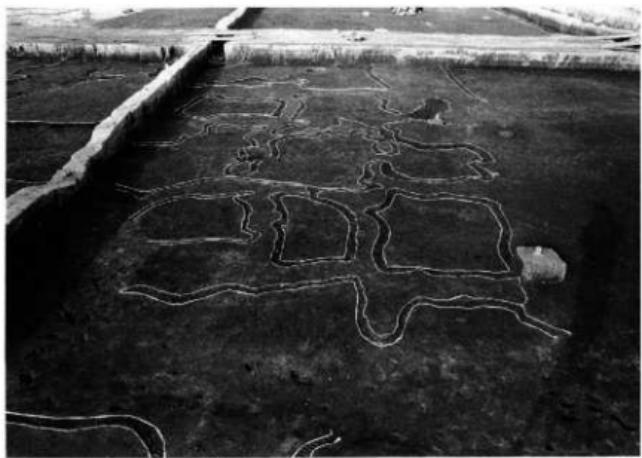


写真-142 X層南部畦畔全景（南より）



写真-143 X層南部畦畔全景（東より）



写真-144 X層L・M-6区足跡（西より）



写真-145 X層L・M-6区足跡（南より）



写真-147 X層北部足跡
(東より)



写真-146 X層北部足跡（南より）

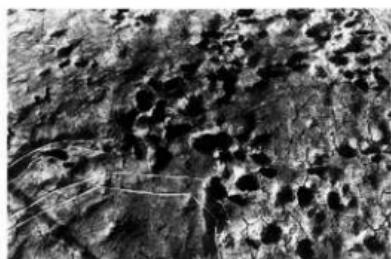


写真-148 H-8区足跡（南より）



写真-149 H-8区足跡（東より）



写真-150 X層水田④と⑦間の断面



写真-151 SD-28溝跡（東より）



写真-152 SD-28溝跡断面（東より）



写真-153 SD-27溝跡（南より）



写真-154 SD-27溝跡断面A



写真-155 SD-27溝跡断面B



写真-156 SD-54-55溝跡SK-35土壤（西より）



写真-157 SD-54溝跡断面（西より）



写真-158 SD-56-57溝跡
(南西より)



写真-159 SD-56溝跡 (西より)



写真-160 SD-56溝跡断面H (南西より)



写真-161 SD-56溝跡断面K (南西より)



写真-162 SD-58溝跡 (南西より)



写真-163 SK-10土坑（東より）

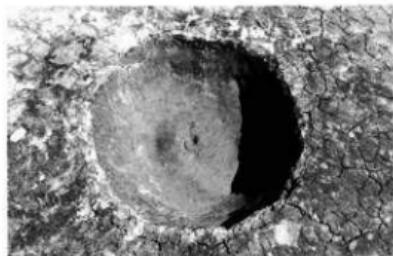


写真-164 SK-45土坑（西より）



写真-165 SK-45土坑断面（南より）



写真-166 SK-46土坑（西より）



写真-167 SK-46土坑断面（西より）



写真-168 S X - 35構造断面 a (西より)



写真-169 K - 2区遺物出土状況 (B - 6)

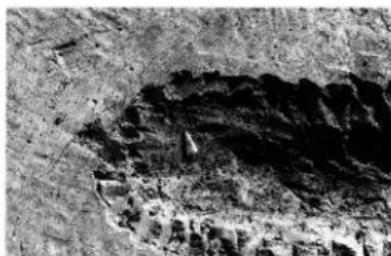


写真-170 S D - 57溝跡石錐 K - 88出土状況



写真-171 O - 6区石包丁 K - 36出土状況



写真-172 H - 2区石錐 K - 27出土状況



写真-173 KITA地区北部全景（南より）



写真-174 KITA地区北部全景（南より）



写真-175 SK-27土坑（南より）



写真-177 SK-31土坑（北東より）



写真-176 SK-27土坑断面（北より）



写真-178 SK-31土坑（東より）



写真-179 SK-31土坑断面（西より）



写真-180 第1・第2配石遺構（東より）



写真-181 第1配石遺構（北より）



写真-182 第1配石遺構断面（北より）



写真-183 第2配石遺構（北より）

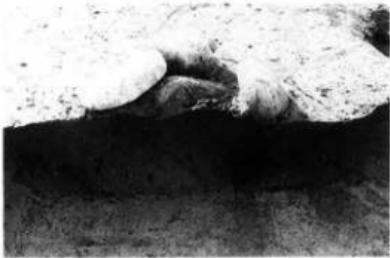


写真-184 第2配石遺構断面（北より）



写真-185 SK-28土坑（東より）



写真-186 SK-28土坑断面（東より）



写真-187 SK-29土坑（東より）



写真-188 SK-29土坑断面（東より）

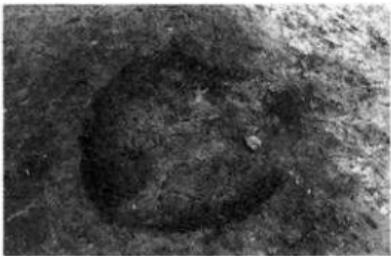


写真-189 SK-30土坑（東より）



写真-190 SK-30土坑断面（東より）



写真-191 SK-32土坑（東より）

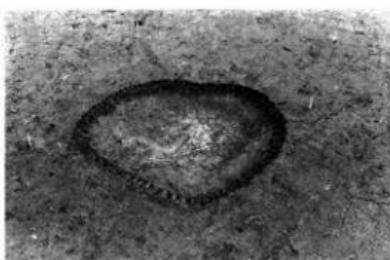


写真-192 SK-34土坑（東より）

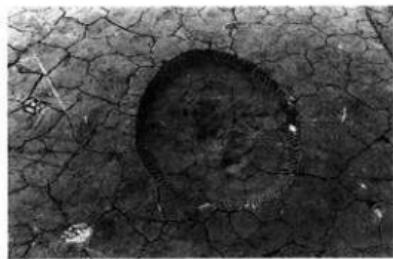


写真-193 SK-33土坑（西より）



写真-194 SK-33土坑断面（東より）

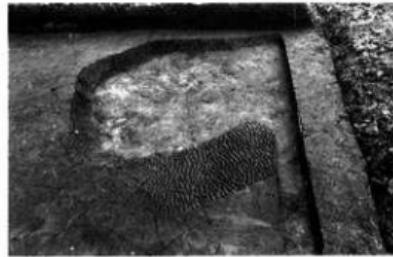


写真-195 SX-18造構（北より）



写真-196 SX-18造構断面（北より）



写真-197 SX-19遺構（東より）



写真-198 SX-19遺構断面（南東より）

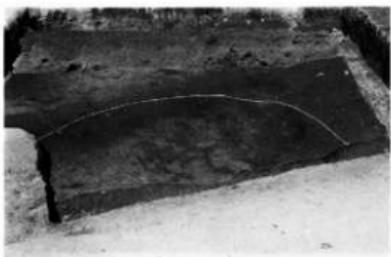


写真-199 SX-20遺構（南より）



写真-200 SX-37遺構（南西より）

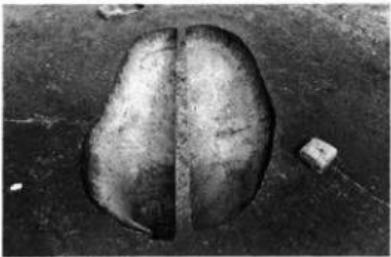


写真-201 SX-36遺構（北西より）

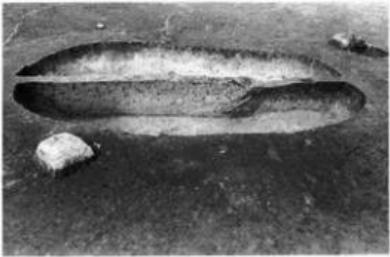


写真-202 SX-36遺構断面（南西より）



写真-203 O・P-5・6区杭列L-76~79
(南西より)



写真-204 O・P-5・6区杭列L-84~85
(北東より)



写真-205 O・P-5・6区杭列L-86~89
(東より)



写真-206 O-5区杭列L-102、L-177~179
(南より)



写真-207 XI層D-7区立木痕跡(南より)



写真-208 D・E - 4・5区杭列 (南より)



写真-209 D・E - 4・5区杭列 L - 185~188
(東より)

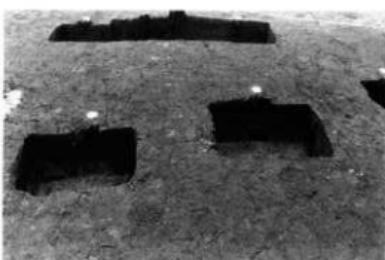


写真-210 D・E - 4・5区杭列 L - 193・194
(東より)

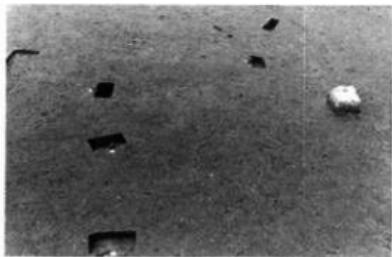


写真-211 D・E - 8・9区杭列 (南より)



写真-212 D・E - 8・9区杭列 L - 198・199
(東より)



写真-213 O-7区石器K-33出土状況



写真-214 J-6区遺物出土状況（A-2）



写真-215 L-8区遺物出土状況（南より）

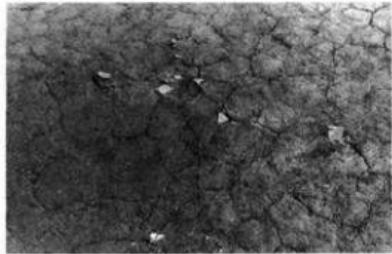


写真-216 E-3区遺物出土状況（南より）



写真-217 C・D-4・5区遺物出土状況
(A-45・46)（南より）



写真-218 駿府北部全景（南より）



写真-219 駿府北部全景（南より）



写真-220 駒層中央部全景（東より）



写真-221 駒層南部全景（東より）



写真-222 SK-7土坑(東より)

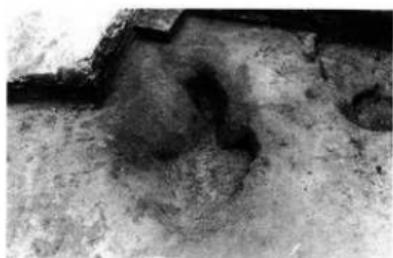


写真-223 SK-8土坑(東より)

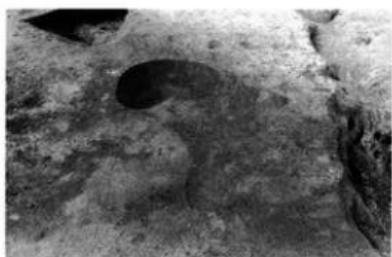


写真-224 SK-9土坑(東より)



写真-225 SK-21土坑(北東より)



写真-226 SK-21土坑(北より)



写真-227 SK-21土坑断面(北より)



写真-228 S X-22遺構（南より）



写真-229 S X-22遺構断面（南より）

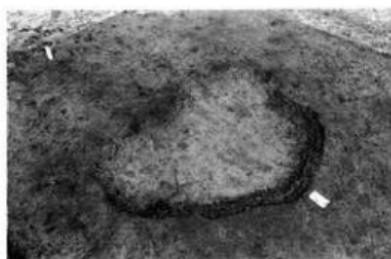


写真-230 S X-24遺構（南より）

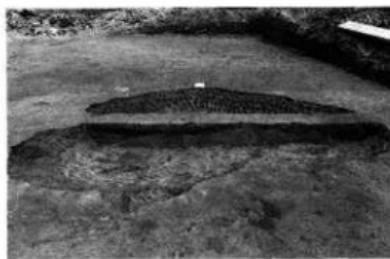


写真-231 S X-24遺構断面（西より）



写真-232 S X-25遺構（南より）



写真-233 S X-25遺構断面（南より）

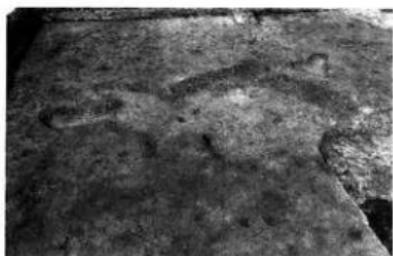


写真-234 S X-26遺構（東より）



写真-235 S X-26遺構断面（南より）



写真-236 S X-27遺構（東より）

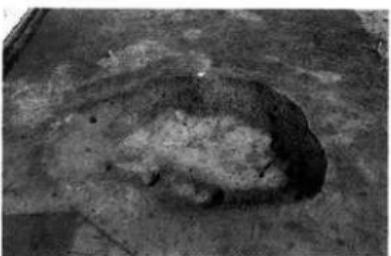


写真-237 S X-28遺構（南より）

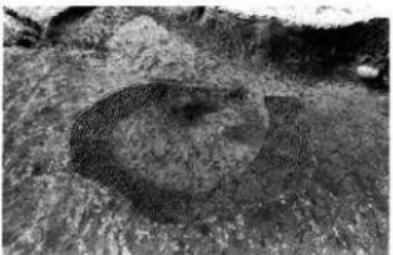


写真-238 S X-29遺構（東より）



写真-239 S X-29遺構断面（南東より）



写真-240 S X-30造構（西より）



写真-241 S X-30造構断面（西より）

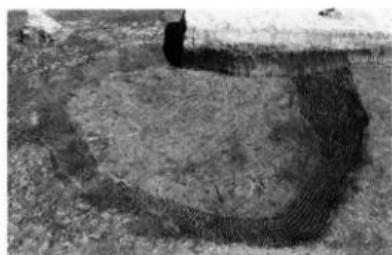


写真-242 S X-31造構（西より）



写真-243 S X-31造構断面（西より）



写真-244 S X-32造構（東より）



写真-245 S X-32造構断面（東より）



写真-246 SX-34遺構（西より）



写真-247 SX-34遺構断面（南より）

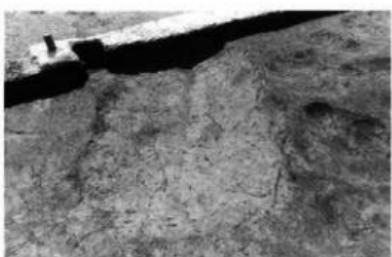


写真-248 SX-38遺構（西より）



写真-249 SX-38遺構断面（南より）

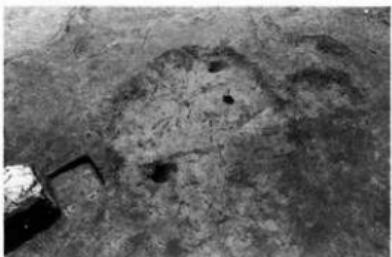


写真-250 SX-39遺構（北より）

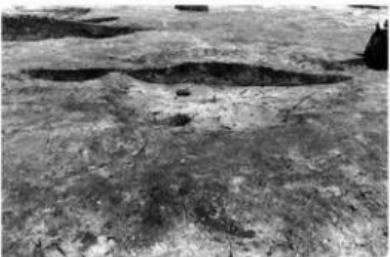


写真-251 SX-39遺構断面（東より）



写真-252 SX-40遺構（西より）



写真-253 SX-40遺構断面（東より）



写真-254 SX-41遺構（南東より）



写真-255 SX-41遺構断面（南より）



写真-256 SX-42遺構（南より）



写真-257 SX-42遺構断面（西より）

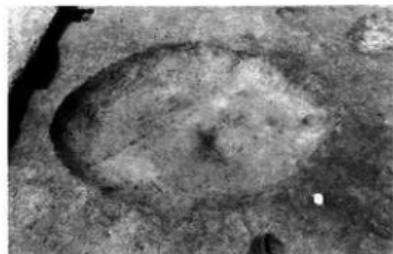


写真-258 S X - 43造構 (南より)



写真-259 S X - 43造構断面 (南東より)



写真-260 S R - 4 河川跡D トレンチ北東壁断面
(南より)



写真-261 S R - 4 河川跡D
トレンチ全景



写真-262 S R - 4 河川跡D
トレンチ北東壁



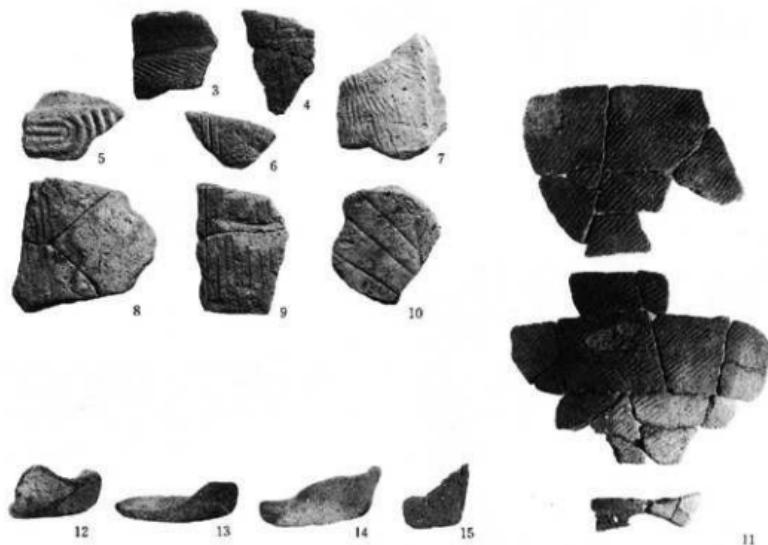
- | | | | | |
|---------------|----------------|---------------|---------------|---------------|
| 1. A-2 (N層) | 2. A-6 (N層) | 3. A-7 (N層) | 4. A-8 (N層) | 5. A-10 (N層) |
| 6. A-23 (N層) | 7. A-24 (N層) | 8. A-25 (N層) | 9. A-40 (N層) | 10. A-41 (N層) |
| 11. A-11 (N層) | 12. A-14 (N層) | 13. A-15 (N層) | 14. A-16 (N層) | 15. A-20 (N層) |
| 16. A-19 (N層) | 17. A-18 (N層) | 18. A-17 (N層) | 19. A-21 (N層) | 20. A-31 (N層) |
| 21. A-36 (N層) | 22. A-38 (Nb層) | | | |

写真-263 横文土器 (N層)



1

2



10

12

13

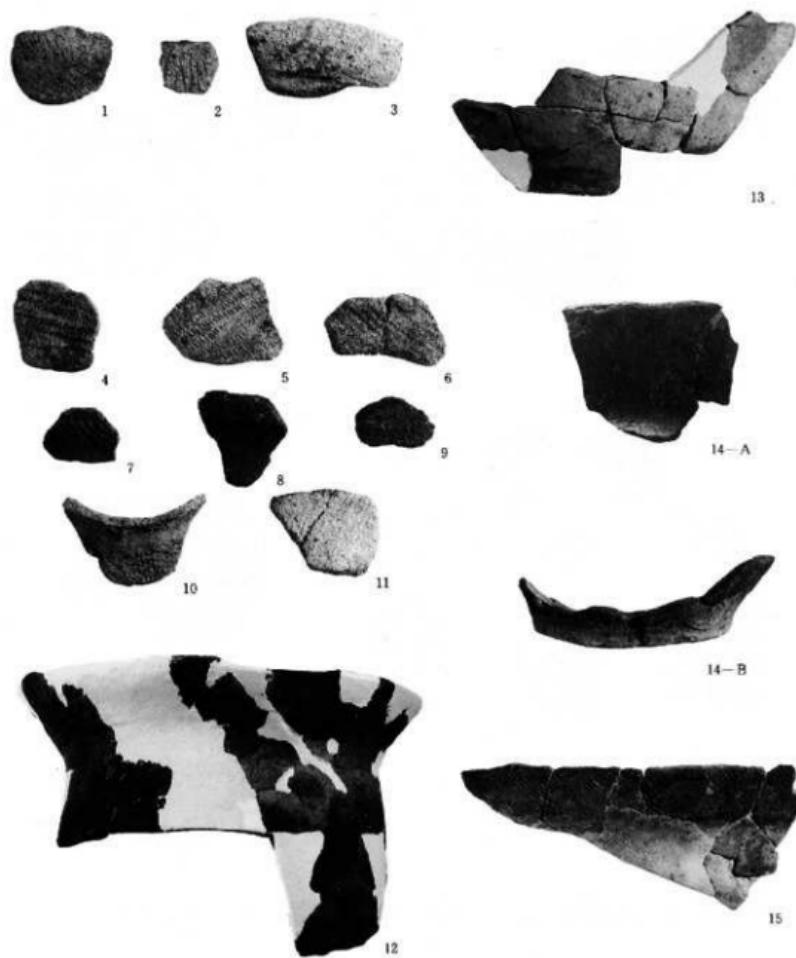
14

15

11

- | | | |
|-----------------|----------------|------------------|
| 1. A-1 (XI層上面) | 2. A-3 (XI層上面) | 3. A-30 (XI層) |
| 4. A-46 (XI層上面) | 5. A-22 (層不明) | 6. A-9 (層不明) |
| 7. A-39 (層不明) | 8. A-29 (層不明) | 9. A-12 (層不明) |
| 10. A-13 (層不明) | 11. A-45 (XI層) | 12. A-42 (XI b層) |
| 13. A-37 (XI層) | 14. A-32 (XI層) | 15. A-4 (XI層) |

写真-264 織文土器 (XI層・他)



- | | | |
|-------------------|--------------------|------------------|
| 1. B-92 (VII層) | 2. B-93 (VII層) | 3. B-106 (VII層) |
| 4. B-98 (層不明) | 5. B-97 (層不明) | 6. B-123 (V b層) |
| 7. B-72 (VII層) | 8. B-22 (VII b層) | 9. B-21 (VII b層) |
| 10. B-75 (VII c層) | 11. B-119 (VII c層) | 12. B-1 (VII c層) |
| 13. B-2 (VII c層) | 14. B-10 (VII c層) | 15. B-4 (S D-32) |

写真-265 弥生土器 (Yiqing・他)



1



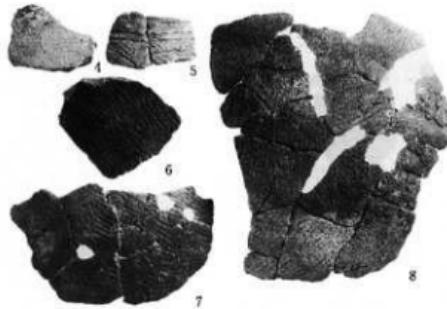
2



3

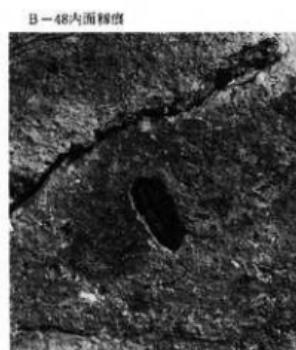
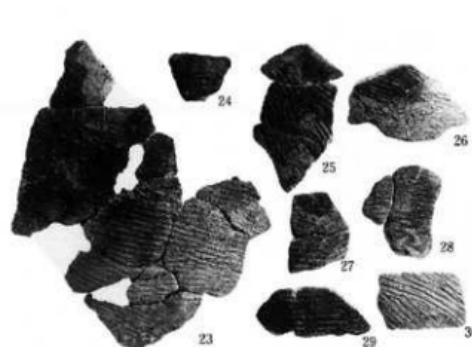
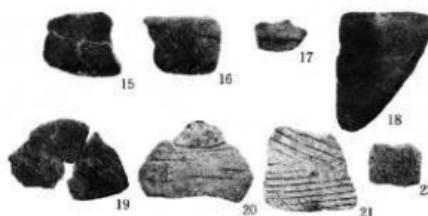
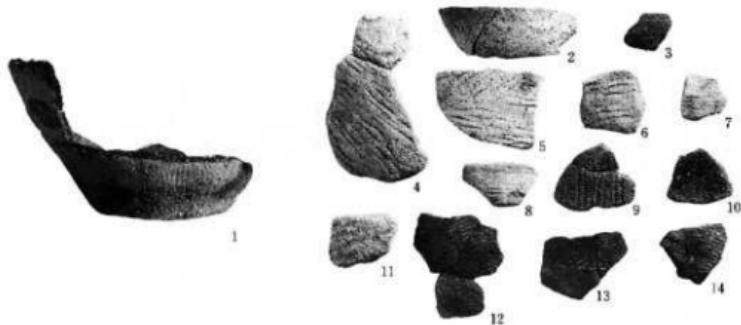


4



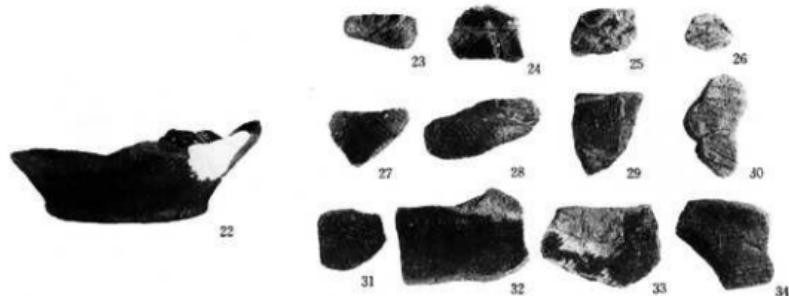
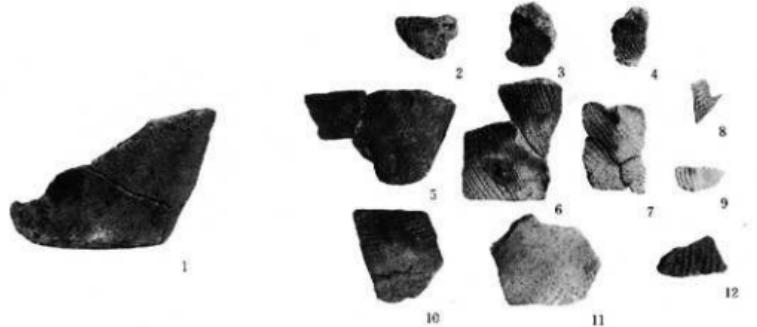
- | | | |
|-----------------|----------------|----------------|
| 1. B-34 (Mic層) | 2. B-7 (SR-3) | 3. B-5 (SR-3) |
| 4. B-114 (SR-3) | 5. B-16 (SR-3) | 6. B-83 (Mic層) |
| 7. B-47 (Mic層) | 8. B-64 (SR-3) | 9. B-3 (Mid層) |

写真-266 弥生土器 (Mic層・SR-3)



- | | | | | |
|-------------------|------------------|------------------|------------------|-------------------|
| 1. B-8 (Vld層) | 2. B-13 (Vld層) | 3. B-15 (Vld層) | 4. B-40 (Vld層) | 5. B-41 (Vld層) |
| 6. B-42 (Vld層) | 7. B-46 (Vld層) | 8. B-94 (Vld層) | 9. B-100 (Vld層) | 10. B-102 (Vld層) |
| 11. B-85 (Vld層) | 12. B-65 (SD-38) | 13. B-66 (SD-38) | 14. B-57 (SD-38) | 15. B-37 (Vld層上面) |
| 16. B-38 (Vld層上面) | 17. B-31 (Vld層) | 18. B-32 (Vld層) | 19. B-79 (Vld層) | 20. B-80 (SR-3) |
| 21. B-87 (Vld層) | 22. B-78 (SK-20) | 23. B-48 (SR-3) | 24. B-57 (Vld層) | 25. B-50 (Vld層) |
| 26. B-49 (Vld層) | 27. B-51 (Vld層) | 28. B-54 (Vld層) | 29. B-53 (Vld層) | 30. B-52 (Vld層) |

写真-267 弥生土器 (Vld層～Vld層)



- | | | | | |
|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 1. B-9 (X層) | 2. B-18 (X層上面) | 3. B-28 (SD-10) | 4. B-29 (SD-10) | 5. B-11 (X層) |
| 6. B-73 (X層) | 7. B-74 (X層) | 8. B-88 (X層) | 9. B-90 (X層) | 10. B-95 (X層) |
| 11. B-101 (X層) | 12. B-103 (X層) | 13. B-33 (X層) | 14. B-36 (X層上面) | 15. B-39 (X層上面) |
| 16. B-124 (X層上面) | 17. B-125 (X層上面) | 18. B-108 (X層上面) | 19. B-110 (X層上面) | 20. B-112 (X層上面) |
| 21. B-115 (X層上面) | 22. B-6 (X層) | 23. B-19 (X層) | 24. B-24 (X層) | 25. B-30 (X層) |
| 26. B-35 (X層) | 27. B-25 (X層) | 28. B-70 (X層) | 29. B-71 (X層) | 30. B-120 (X層) |
| 31. B-113 (X層) | 32. B-107 (第2配石) | 33. B-109 (第2配石) | 34. B-111 (第2配石) | |

写真-268 弥生土器 (Ⅳ層~Ⅹ層・第2配石)



1



2



3



4



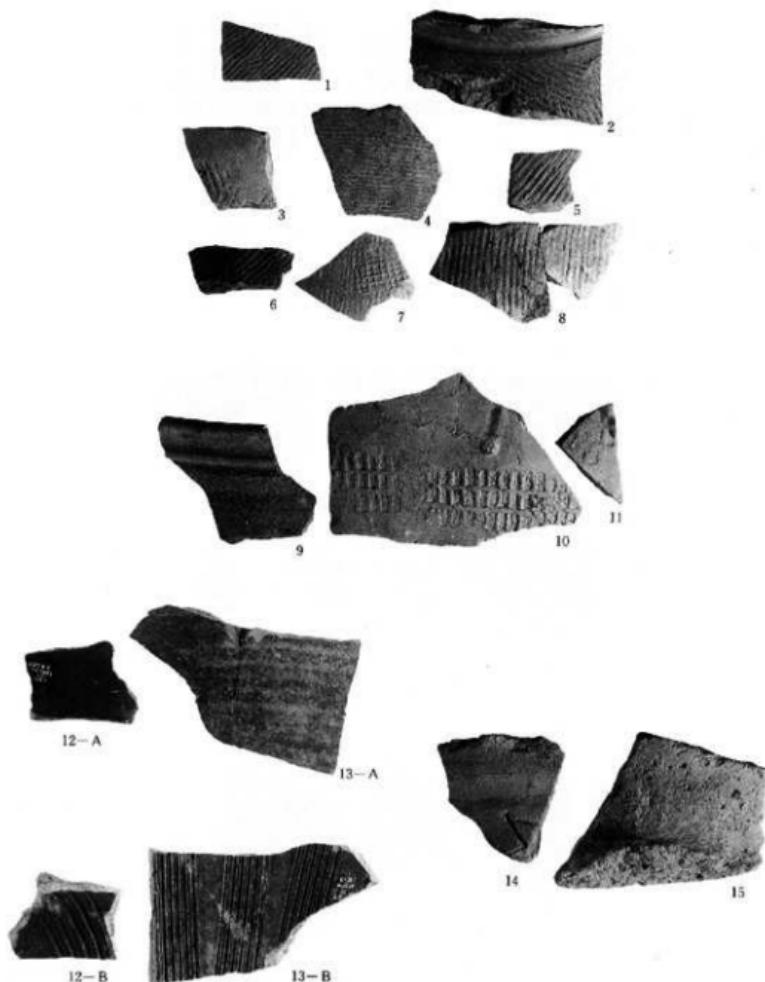
5



6

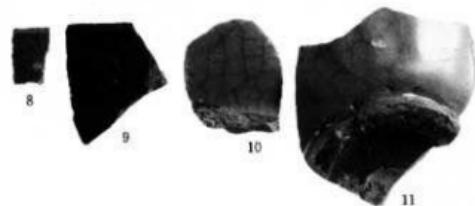
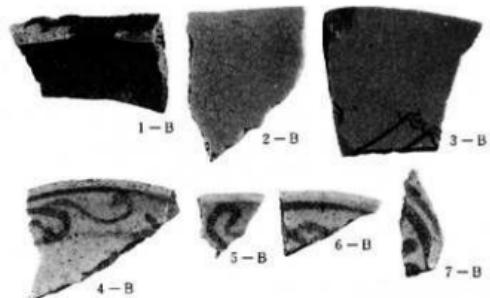
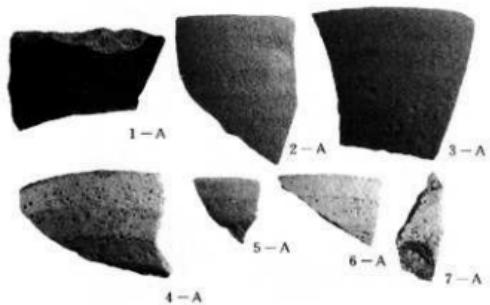
1. C-1 (SK-5) 2. C-2 (V b層) 3. C-3 (SD-19)
4. C-4 (SD-19) 5. D-8 (V b層) 6. D-9 (SD-20)

写真-269 土器 (V b層~VI b層)



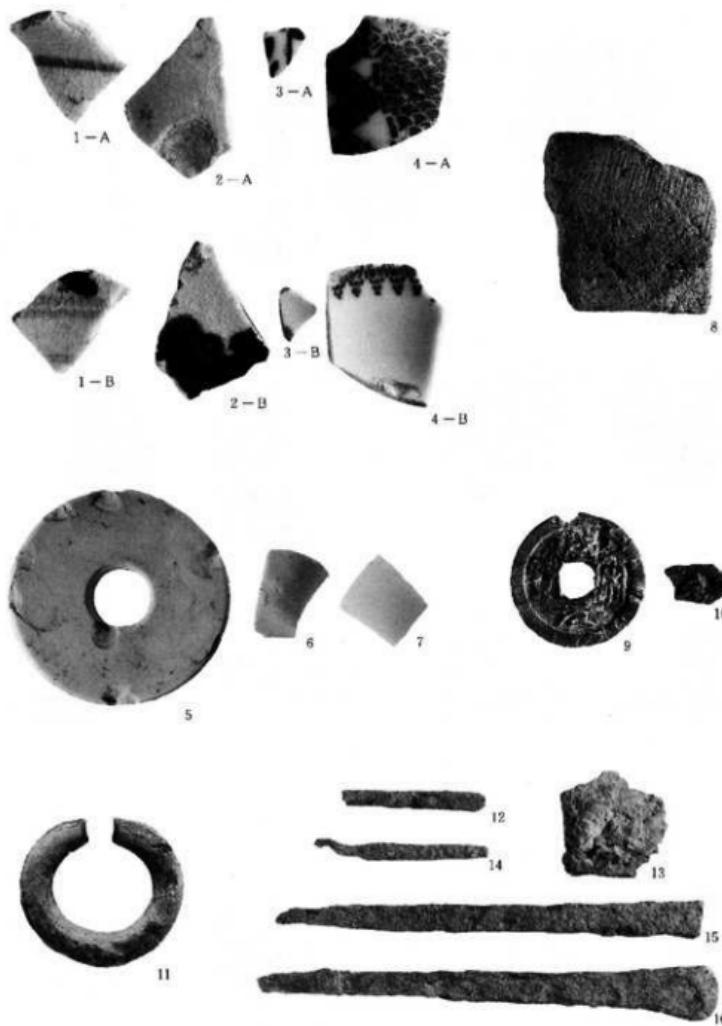
- | | | |
|-----------------|-----------------|------------------|
| 1. E-5 (II層) | 2. E-34 (III層) | 3. E-43 (II層) |
| 4. E-26 (SD-10) | 5. E-27 (SD-10) | 6. E-12 (V層) |
| 7. E-29 (Vb層) | 8. E-32 (Mb層) | 9. I-10 (SD-10) |
| 10. I-7 (SD-9) | 11. I-3 (II層) | 12. I-2 (II層) |
| 13. I-14 (II層) | 14. I-13 (IV層) | 15. I-11 (SD-10) |

写真-270 須恵器・陶器 (II層~VIb層)



- | | | |
|----------------|-----------------|----------------|
| 1. I-4 (II層) | 2. I-12 (SD-10) | 3. I-1 (I層) |
| 4. I-8 (SD-9) | 5. I-6 (第2水口) | 6. I-9 (SD-10) |
| 7. I-5 (II層) | 8. J-4 (I層) | 9. J-5 (II層) |
| 10. J-6 (III層) | 11. J-9 (III層) | |

写真-271 陶器・磁器 (I層～III層)



1. J-1 (I層) 2. J-2 (I層) 3. J-3 (II層) 4. J-8 (SD-10) 5. J-7 (SD-10)
 6. J-11 (VI層?) 7. J-10 (I層) 8. S-1 (III層上面) 9. N-1 (SX-7) 10. N-2 (V層)
 11. N-3 (V層) 12. N-6 (M層) 13. N-5 (Vb層) 14. N-7 (M層) 15. N-8 (III層)
 16. N-9 (V層)

写真-272 磁器・埴輪・金属製品 (I層～VI層)



1-A



1-B



2-A



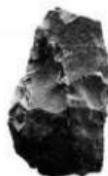
2-B



3-A



3-B



4-A



4-B



5-A



5-B



6-A



6-B

試掘トレンチ出土遺物



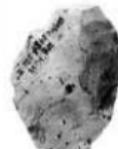
7-A



7-B



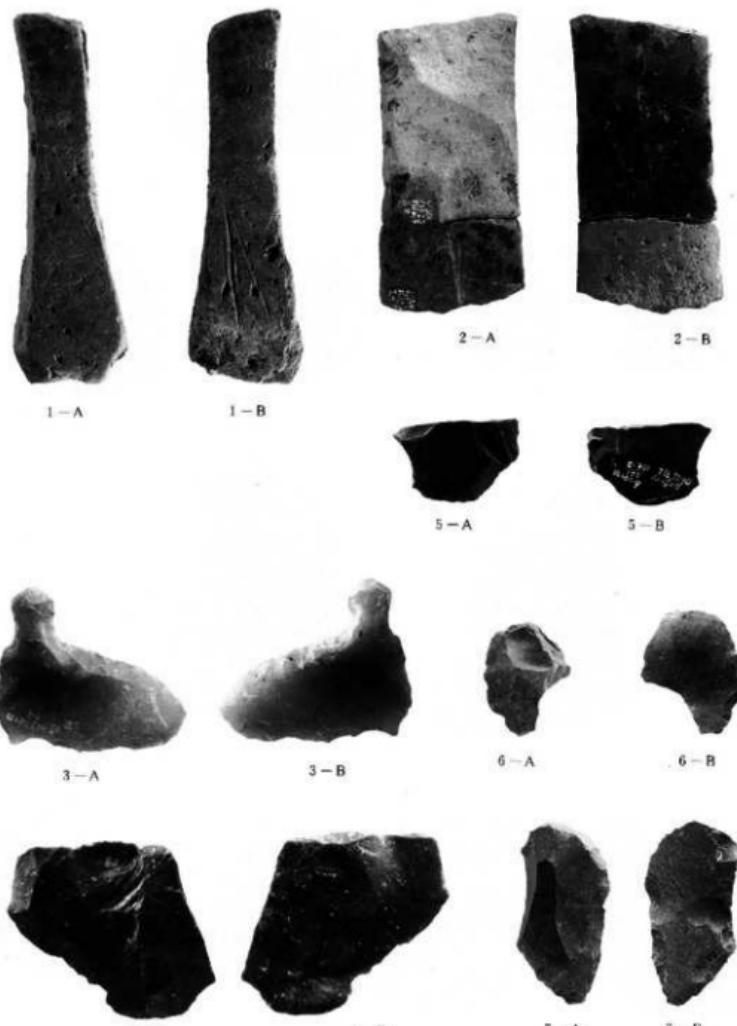
8-A



8-B

1. K-2 (D-21区)
 2. K-4 (D-27区)
 3. K-3 (D-27区)
 4. K-18 (J-15区)
 5. K-5 (D-27区)
 6. K-25 (J-27区)
 7. K-21 (S D-9)
 8. K-13 (Ⅲ層)

写真-273 石器・石製品（試掘トレンチ・Ⅲ層）



1. K-16 (Ⅲ層) 2. K-14 (Ⅲ層) 3. K-1 (Ⅲ層)
 4. K-49 (Ⅲ層) 5. K-24 (SD-10) 6. K-23 (SD-9)
 7. K-15 (Ⅳ層)

写真-274 石器・石製品 (Ⅲ層～Ⅳ層)



1-A



1-B



2-A



2-B



3-A



3-B



4-A



4-B



5-A



5-B



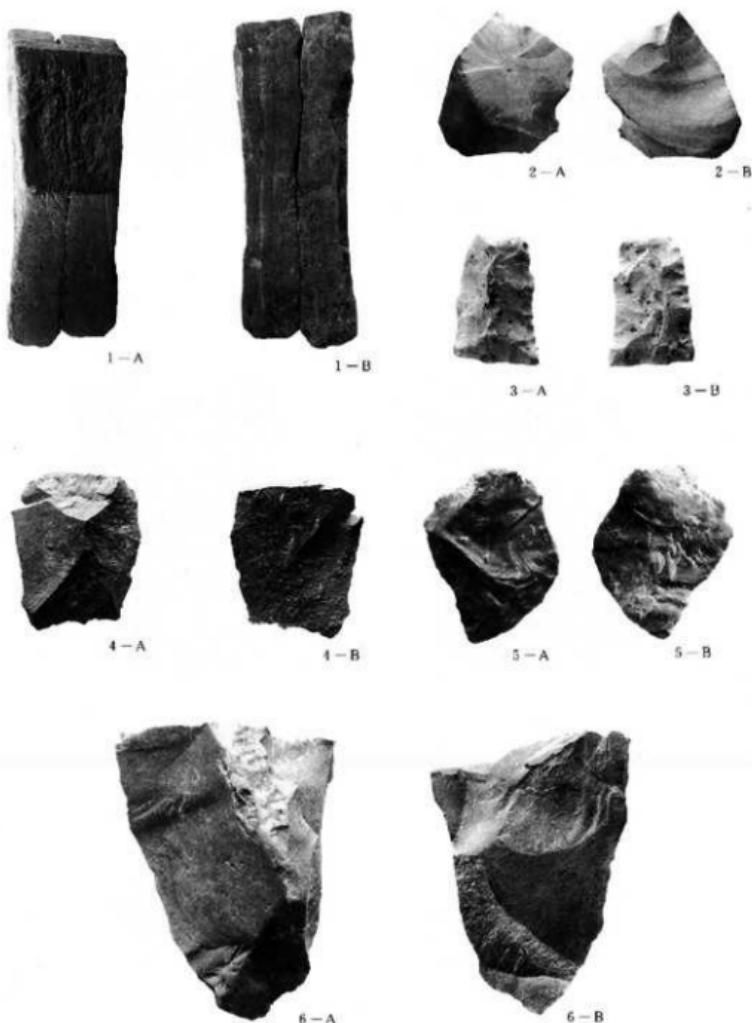
6-A



6-B

1. K-26 (V層) 2. K-45 (V層) 3. K-54 (M層)
4. K-42 (M層上面) 5. K-43 (M層) 6. K-50 (M c層)

写真-275 石器・石製品 (V層～VI c層)



1. K-53 (SK-2) 2. K-59 (K層)
4. K-40 (K層) 3. K-17 (K層)
5. K-48 (K層) 6. K-68 (K層)

写真-276 石器・石製品 (Ⅷ層～Ⅹ層)



1-A



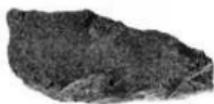
1-B



2-A



2-B



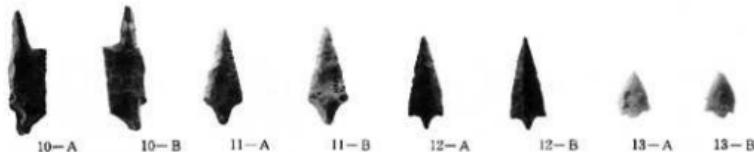
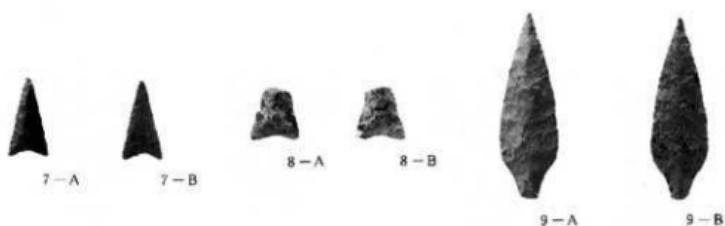
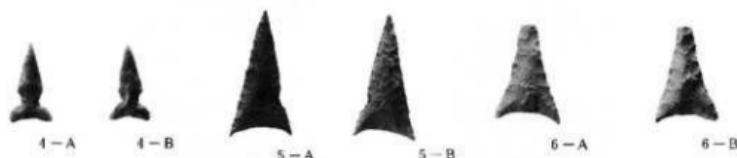
3-A



3-B

1. K-36 (X層) 2. K-27 (X層) 3. K-28 (X層)

写真-277 石器・石製品 (X層)



- | | | |
|-----------------|------------------|------------------|
| 1. K-73 (X層) | 2. K-91 (X層) | 3. K-89 (X層) |
| 4. K-152 (X層) | 5. K-90 (X層) | 6. K-151 (X層) |
| 7. K-98 (SD-56) | 8. K-148 (X層) | 9. K-150 (X層) |
| 10. K-92 (X層) | 11. K-147 (X層上面) | 12. K-88 (SD-57) |
| 13. K-149 (X層) | | |

写真-278 石器・石製品 (X層)



1-A



1-B



2-A



2-B



3-A



3-B



4-A



4-B



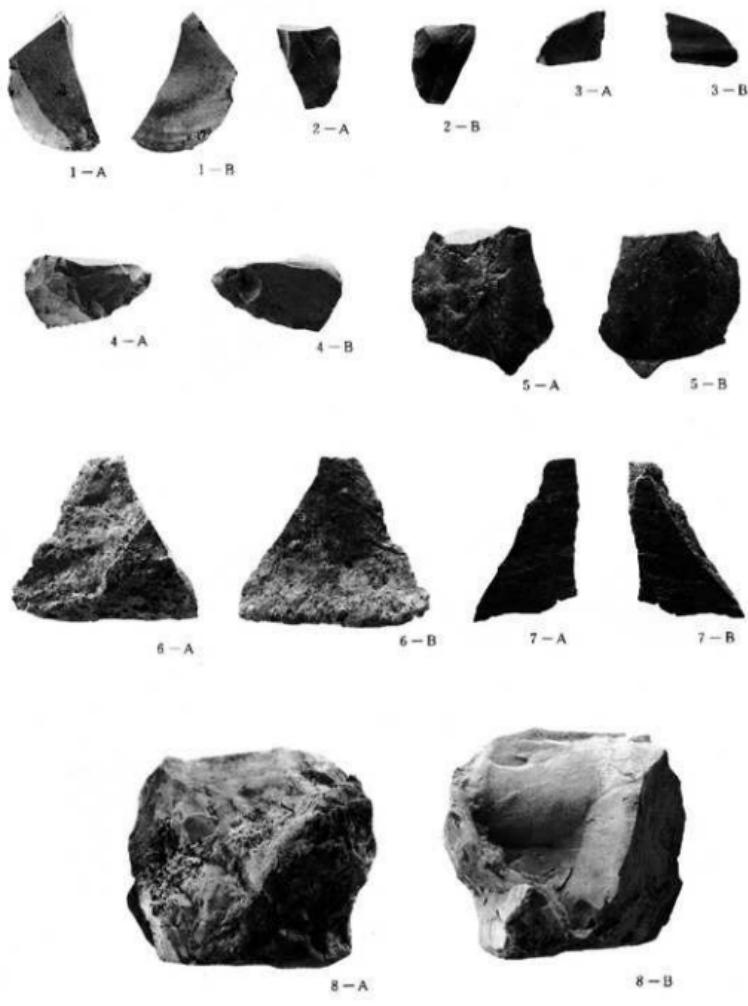
5-A



5-B

1. K-109 (X層) 2. K-44 (X層) 3. K-78 (X層)
4. K-116 (X層) 5. K-108 (X層)

写真-279 石器・石製品 (X層)

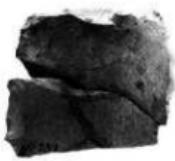


1. K-170 (X層上面) 2. K-58 (SD-27) 3. K-117 (X層)
 4. K-99 (X層) 5. K-34 (X層) 6. K-103 (X層)
 7. K-55 (X層) 8. K-57 (SD-27)

写真-280 石器・石製品 (X層)



1 - A



1 - B



2 - A



2 - B



3 - A



3 - B



4 - A



4 - B



6 - A



6 - B



5 - A



5 - B



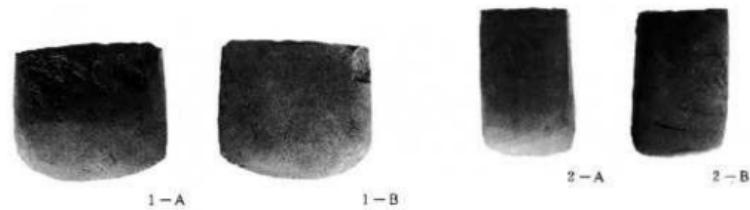
7 - A



7 - B

1. K-225 (X層) 2. K-237 (X層) 3. K-225 (X層)
4. K-60 (X層) 5. K-61 (X層) 6. K-62 (X層)
7. K-140 (X層)

写真-281 石器・石製品 (X層)



1 - A



1 - B



2 - A



2 - B



1 - C



3 - A



3 - B



4 - A



4 - B



5 - A



5 - B



6 - A



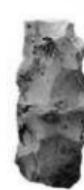
6 - B



7 - A



7 - B



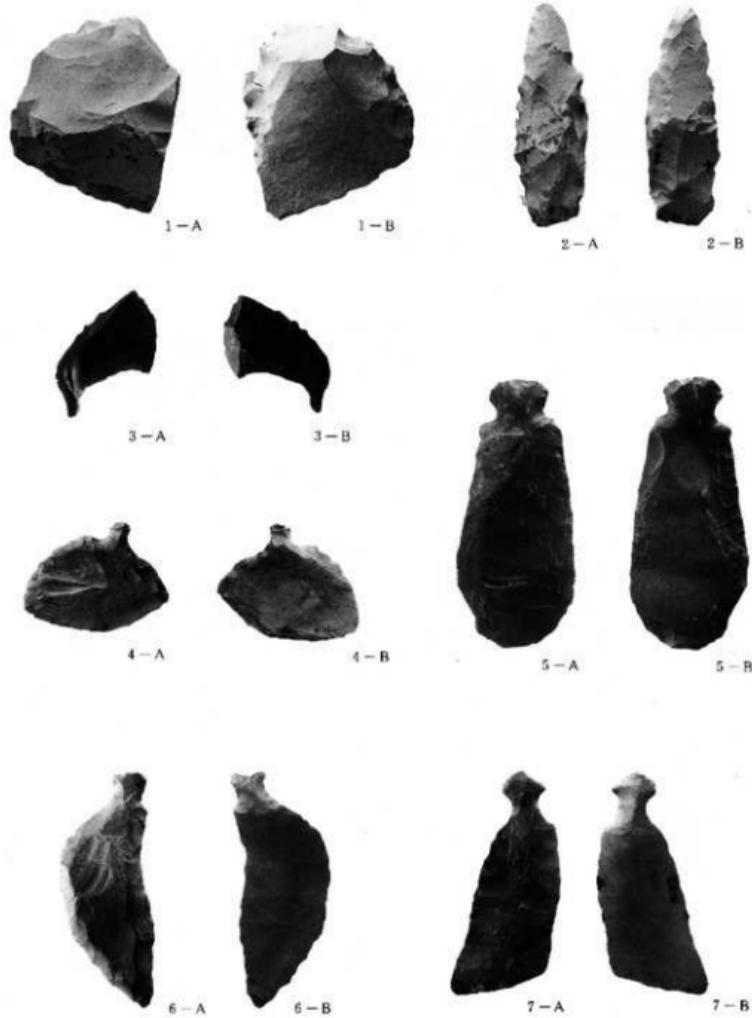
8 - A



8 - B

- 1 . K-175 (X層上面) 2 . K-30 (X層)
4 . K-80 (X層) 5 . K-79 (X層)
7 . K-86 (X層) 8 . K-167 (X層)

写真-282 石器・石製品 (X層)



1 . K-186 (X層) 2 . K-166 (X層) 3 . K-96 (X層)
 4 . K-164 (X層) 5 . K-64 (X層) 6 . K-165 (X層)
 7 . K-29 (X層)

写真-283 石器・石製品 (X層)



1 - A



1 - B



2 - A



2 - B



3 - A



3 - B



4 - A



4 - B



5 - A



5 - B



6 - A



6 - B



7 - A



7 - B



8 - A



8 - B



9 - A



9 - B



10 - A



10 - B

1. K-83 (X層)
4. K-100 (X層)
7. K-159 (X層)
10. K-112 (X層上面)

2. K-163 (S X-20)
5. K-157 (X層)
8. K-33 (X層)

3. K-87 (X層)
6. K-95 (X層上面)
9. K-76 (X層)

写真-284 石器・石製品 (X層)



1 - A



1 - B



2 - A



2 - B



3 - A



3 - B



4 - A



4 - B



5 - A



5 - B



6 - A



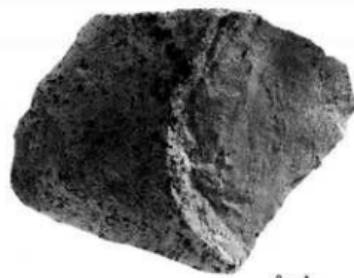
6 - B



7 - A



7 - B



8 - A



8 - B

1. K-158 (X層)

4. K-35 (X層)

7. K-155 (X層上面)

2. K-32 (X層)

5. K-94 (X層上面)

8. K-182 (X層上面)

3. K-156 (X層)

6. K-31 (X層上面)

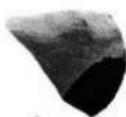
写真-285 石器・石製品 (X層)



1 - A



1 - B



2 - A



2 - B



3 - A



3 - B



4 - A



4 - B

1. K-174 (X層)
4. K-173 (X層上面)

2. K-77 (X層)

3. K-114 (X層)

写真-286 石器・石製品 (X層)



1-A



1-B



2-A



2-B



3-A



3-B



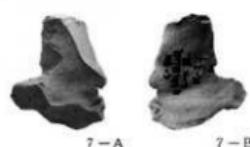
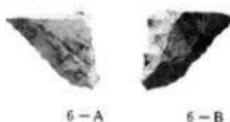
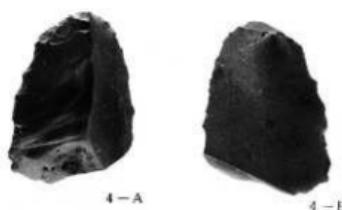
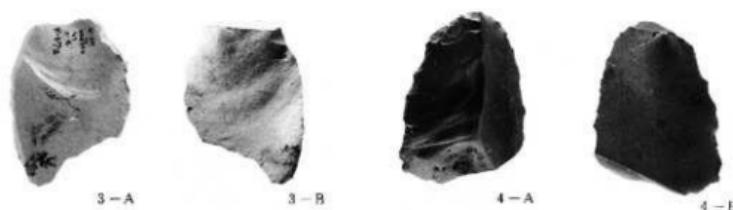
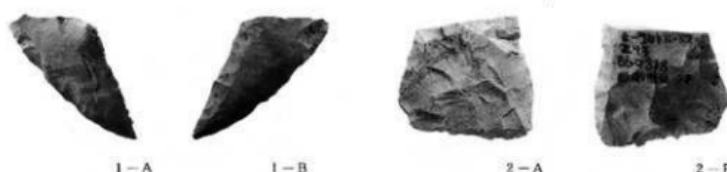
4-A



4-B

1. K-185 (SX-36) 2. K-113 (N層) 3. K-111 (X層上面)
4. K-115 (N層)

写真-287 石器・石製品 (X層)



1. K-85 (SK-31) 2. K-37 (X層) 3. K-172 (X層)
 4. K-104 (X層上面) 5. K-84 (X層上面) 6. K-171 (X層)
 7. K-39 (X層)

写真-288 石器・石製品 (X層)



1-A



1-B



2-A



2-B



3-A



3-B

1. K-66 (N層上面) K-65 (N層上面) 2. K-65 (N層上面)
3. K-66 (N層上面)

写真-289 石器・石製品 (X層)



1 - A



1 - B



2 - A



2 - B



3 - A



3 - B



4 - A



4 - B



5 - A



5 - B



6 - A



6 - B



7 - A



7 - B

1. K-252 (X層上面)

2. K-252 (X層上面)

5. K-256 (X層)

7. K-255 (X層)

K-321 (層不明)

3. K-256 (X層)

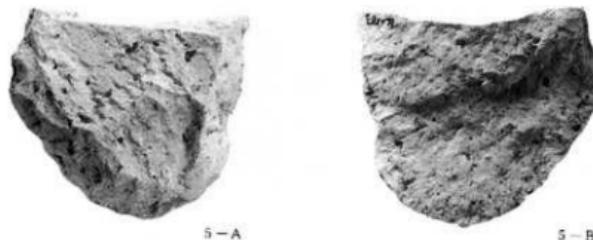
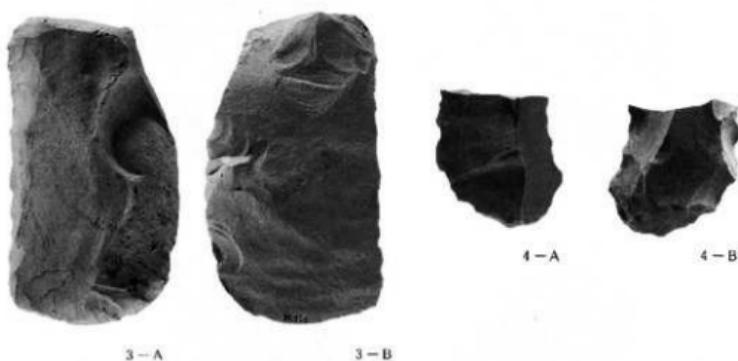
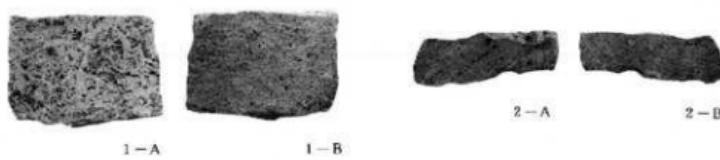
K-255 (X層)

K-260 (S X-37)

4. K-260 (S X-37)

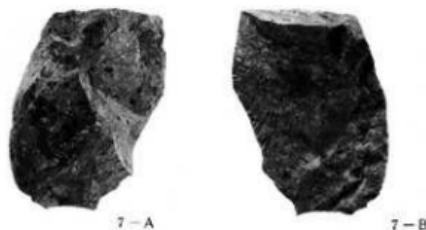
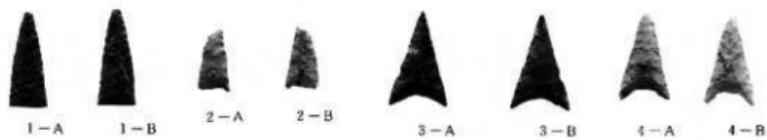
6. K-256 (X層)

写真-290 石器・石製品 (X層)



1. K-101 (X層)
2. K-63 (X層)
3. K-168 (XI層)
4. K-169 (XI層上面)
5. K-183 (XI層上面)

写真-292 石器・石製品 (X層～XI層)



- | | | |
|--------------------|--------------------|--------------------|
| 1 . K-160 (NII層) | 2 . K-161 (NII層) | 3 . K-162 (NII層上面) |
| 4 . K-154 (S X-42) | 5 . K-184 (NII層上面) | 6 . K-47 (SK-8) |
| 7 . K-153 (S X-41) | | |

写真-293 石器・石製品（猩層）



1 - A



1 - B



2 - A



2 - B



3 - A



3 - B



4 - A



4 - B

1. K-177 (S X-22) 2. K-311 (XII層上面) K-297 (XI層)
3. K-311 (XI層上面) 4. K-297 (XI層)

写真-294 石器・石製品 (XII層～XI層)



1



2 - A



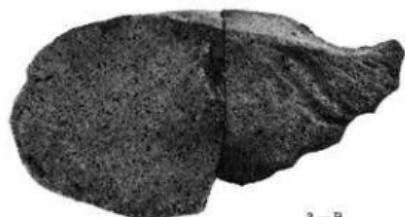
2 - B



2 - C



3 - A



3 - B



4

1. K-125(S R-3) 2. K-129(S R-3) 3. K-75(S D-27)
4. K-124(文層上面)

写真-295 磨石器(VIIc層~X層)



1



2-A



2-B



3-A



3-B



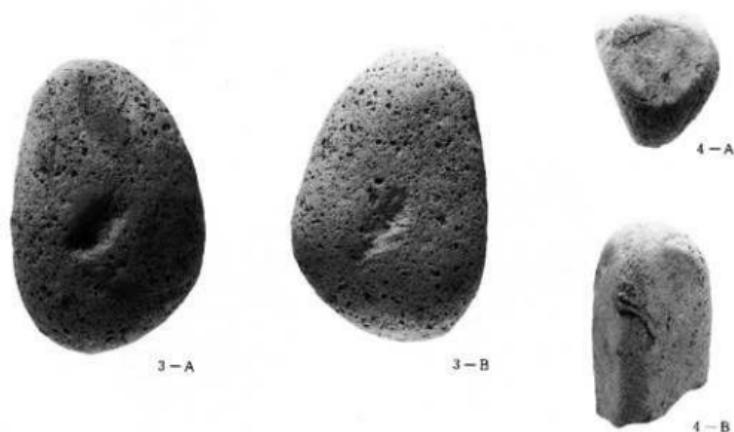
4-A



4-B

1. K-123(Ⅺ層) 2. K-126(Ⅺ層) 3. K-127(Ⅺ層上面)
4. K-131(Ⅺ層)

写真-296 磨石器(Ⅺ層)



1. K-178(刃端) 2. K-179(刃端) 3. K-180(刃端)
4. K-181(刃端上面)

写真-297 磨石器(XI層～XII層)



1



2-A



2-B



3-A



3-B



4-A



4-B



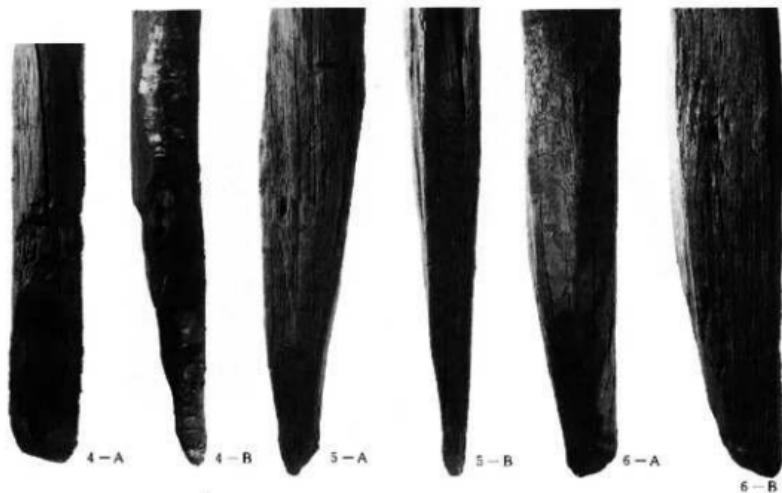
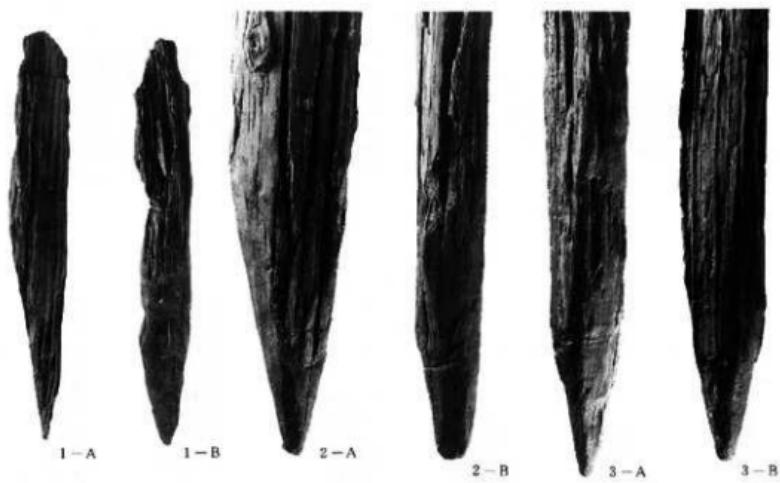
5-A



5-B

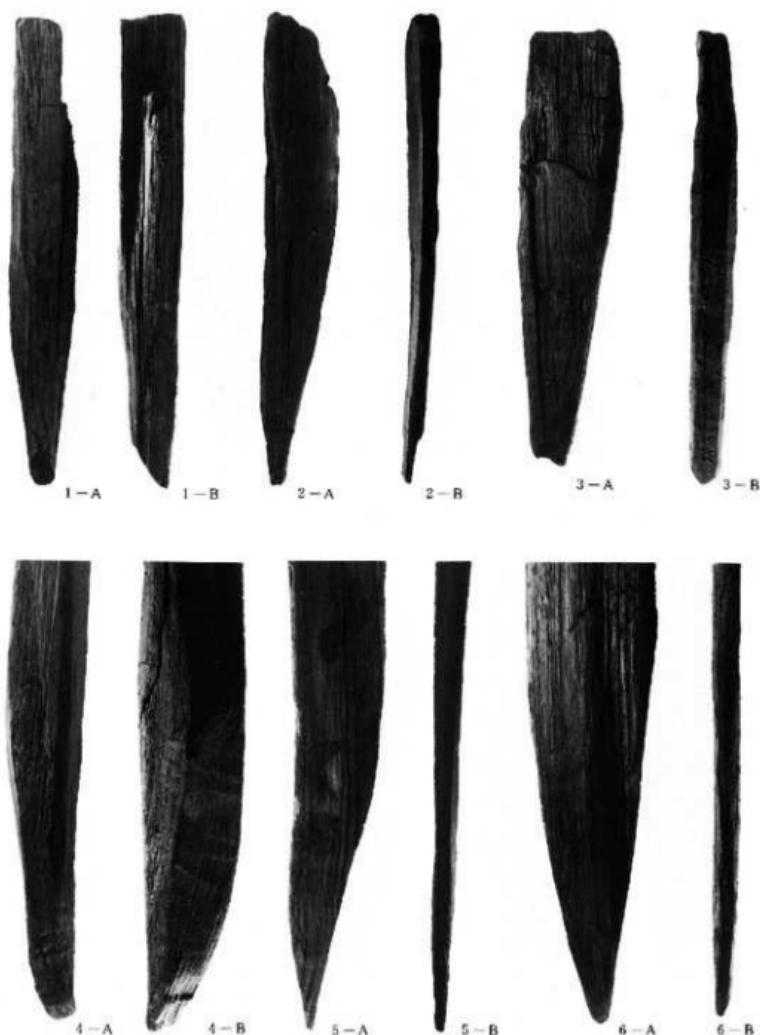
1. L-176(S D-10) 2. L-205(X層)
3. L-136(S D-10) 4. L-138(S D-10) 5. L-143(S D-10) 6. L-144(S D-10)

写真-298 木製品・杭(Ⅲ層・X層)



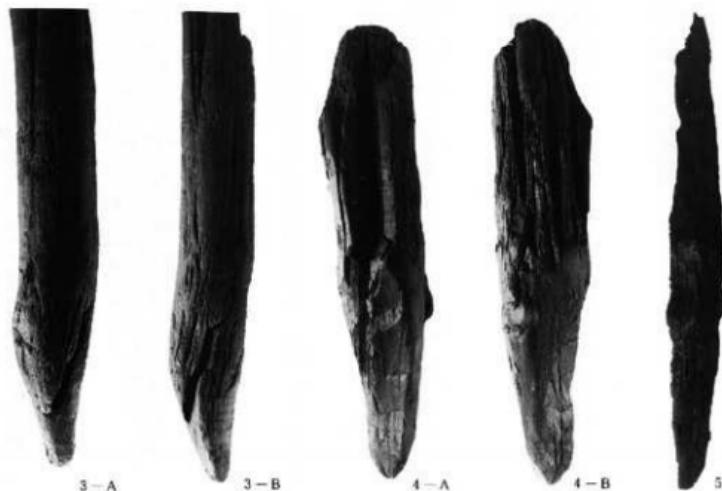
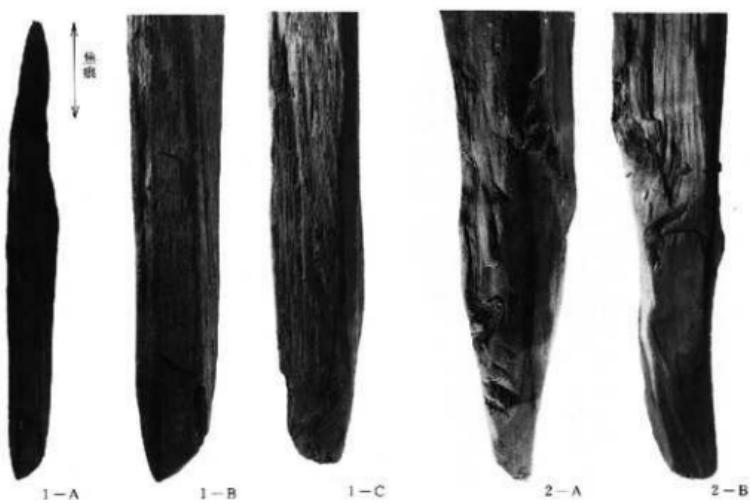
1, L-1 (SD-9) 2, L-3 (SD-9) 3, L-4 (SD-9)
4, L-5 (SD-9) 5, L-6 (SD-9) 6, L-8 (SD-9)

写真-299 SD-9溝検出杭列杭材 (Ⅲ層)



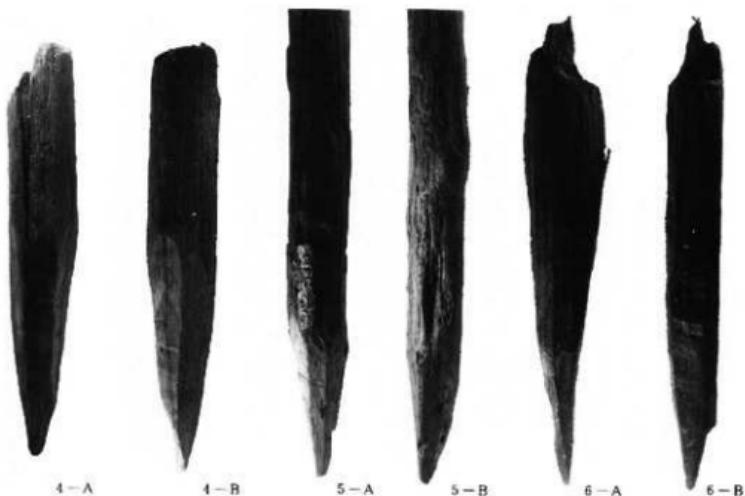
1. L-9(SD-9) 2. L-10(SD-9) 3. L-11(SD-9)
4. L-12(SD-9) 5. L-13(SD-9) 6. L-15(SD-9)

写真-300 SD-9溝検出杭材(Ⅲ層)



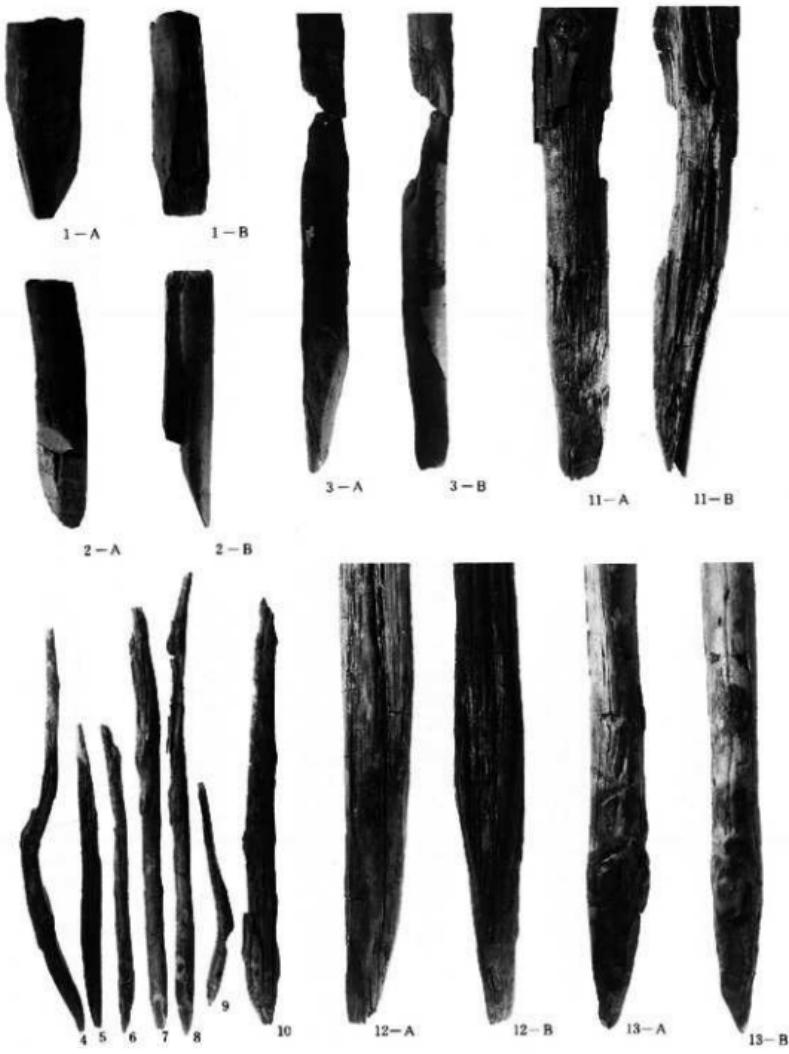
1. L-14(S D-9) 2. L-16(S D-9) 3. L-18(S D-9)
4. L-19(S D-9) 5. L-27(S D-9)

写真-301 S D - 9 满棲出杭列杭材 (Ⅲ層)



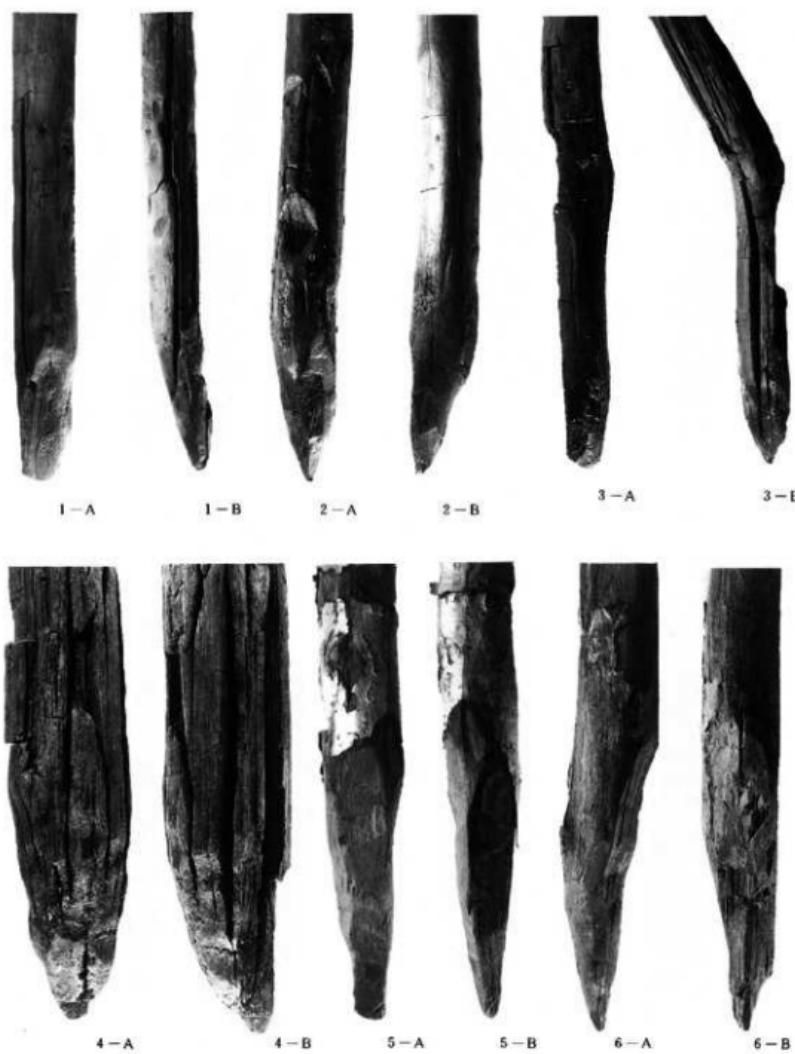
1. L-31(SD-9) 2. L-32(SD-9) 3. L-37(SD-9)
4. L-38(SD-9) 5. L-44(SD-9) 6. L-45(SD-9)

写真-302 SD-9溝検出杭列材(Ⅲ層)



- 1. L-46(S D-9) 2. L-52(S D-9) 3. L-53(S D-9)
- 4. L-60(S D-10) 5. L-61(S D-10) 6. L-63(S D-10)
- 7. L-64(S D-10) 8. L-66(S D-10) 9. L-68(S D-10)
- 10. L-71(S D-10) 11. L-60(S D-10) 12. L-61(S D-10)
- 13. L-63(S D-10)

写真-303 S D-9満・シガラミ遺構検出杭



1. L-64 (SD-10) 2. L-66 (SD-10) 3. L-68 (SD-10)
 4. L-71 (SD-10) 5. L-153 (SD-10) 6. L-154 (SD-10)

写真-304 シガラミ遺構・SD-10満検出杭



1 - A



1 - B



3

4

6

7



2 - A



2 - B



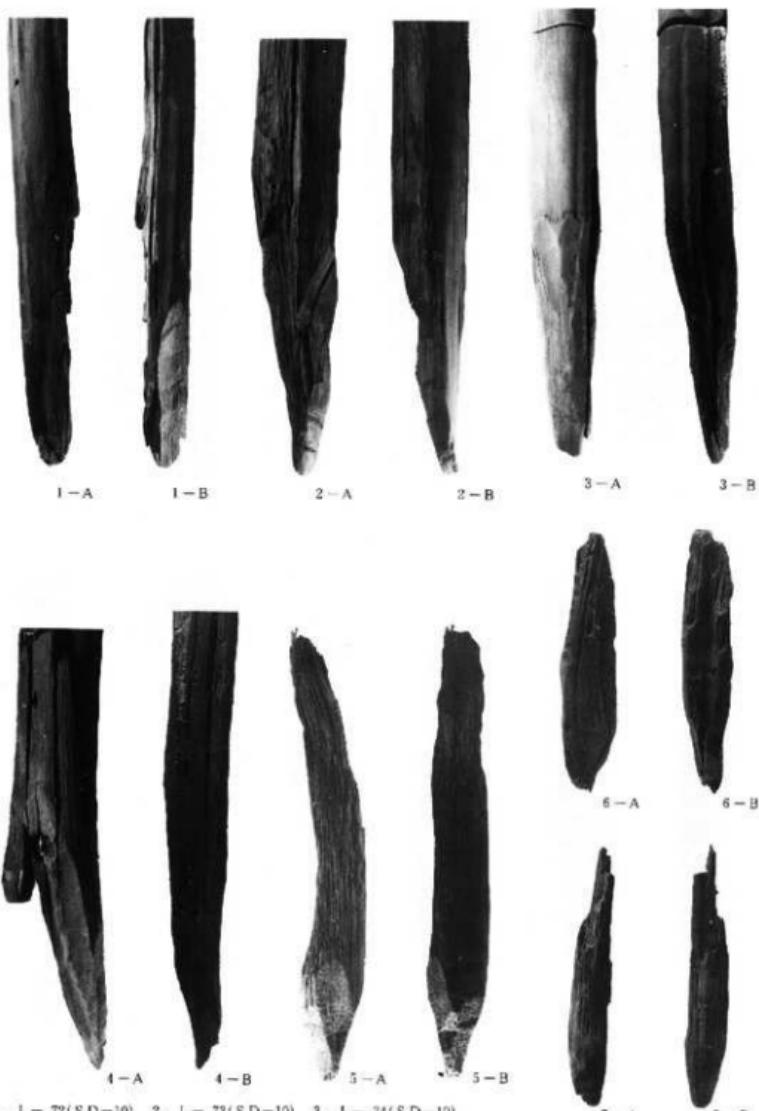
8

9

11

1. L-156(S D-10) 2. L-157(S D-10) 3. L-153(S D-10)
4. L-154(S D-10) 5. L-155(S D-10) 6. L-157(S D-10)
7. L-156(S D-10) 8. L-72(S D-10) 9. L-73(S D-10)
10. L-74(S D-10) 11. L-75(S D-10)

写真-305 P-5・6・12区検出杭(Ⅲ層)

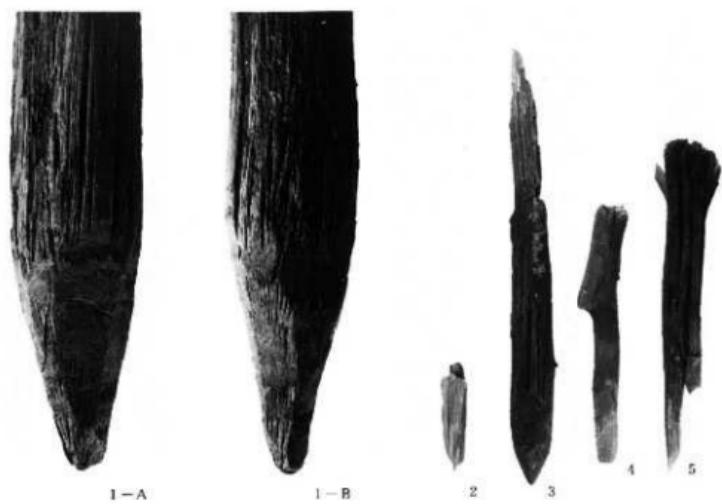


1. L - 72(S D-10) 2. L - 73(S D-10) 3. L - 74(S D-10)

4. L - 75(S D-10) 5. L-148(S X-6) 6. L-149(S X-6)

7. L-150(S X-6)

写真-306 S D-10満・S X-6遺構検出杭



1 - A

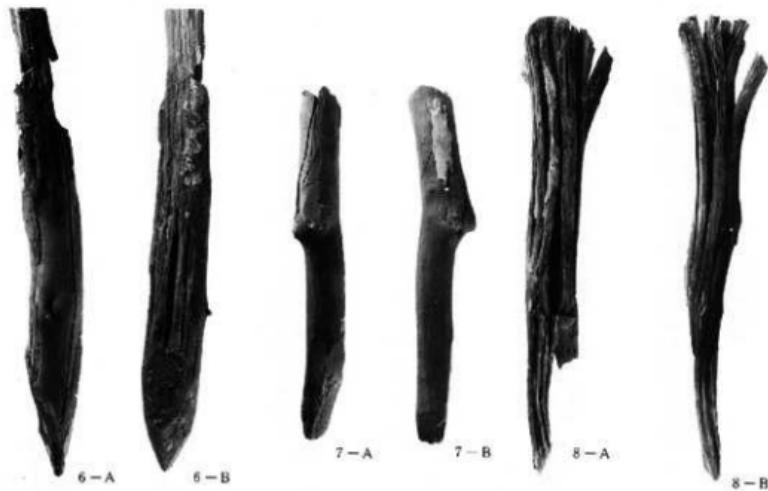
1 - B

2

3

4

5



6 - A

6 - B

7 - A

7 - B

8 - A

8 - B

1. L-151(S X-6) 2. L- 92(S X-13) 3. L-93(S X-13)
 4. L105(S X-13) 5. L-106(S X-13) 6. L-93(S X-13)
 7. L105(S X-13) 8. L-106(S X-13)

写真-307 S X-6・13遺構検出杭(Ⅲ層)



1



2-A



2-B



3-A



3-B



4-A



4-B



5-A



5-B

1. L-89(刃層) 2. L-79(X層) 3. L-102(SR-3?)
4. L-80(SR-3?) 5. L-80(SR-3?)

写真-308 O・P-5・6区検出杭(X層)



1. L-184(貝層)
 2. L-187(貝層)
 3. L-189(貝層)
 4. L-192(貝層)
 5. L-196(貝層)
 6. L-198(貝層)
 7. L-201(貝層)
 8. L-203(貝層)
 9. L-204(貝層)
 10. L-95(S.D.-10?)
 11. L-99(S.D.-10)

写真-309 D・E-8・9、D・E-4・5、O・P-7・8・9区検出坑

表-10 登録遺物目録 (1)

目 雜志十號

空氣過濾	送込方法	出力地区	通 呼	容 積	1 時 飲	吸 被	外	内	面	回転系	写真番号
B-1	壁面排	Q=10~15	壁	300,000	—	CB	1種類、半開放風扇用樹脂板	通風	106-1	265	
B-2	壁面排	Q=10	—	—	—	CB	通風のため不適	通風	106-2	265	
B-3	壁面排	D=7, P=6	壁	299,950	(6.0)	アラブ	通風	115-1	266		
B-4	壁面排	P=2	SD 20	壁	300,000	CB	1種類、半開放風扇用樹脂板	通風	114-1	265	
B-5	壁面排	P=8	SR-3	壁	300,000	CB	1種類、半開放風扇用樹脂板	通風	106-4	265	
B-6	壁面排	B-3	壁	—	—	CB	1種類、半開放風扇用樹脂板	通風	114-2	265	
B-7	壁面排	O=5	SR-2	壁	300,000	CB	1種類、半開放風扇用樹脂板	通風	114-3	265	
B-8	壁面排	K-11	壁	—	—	CB	1種類、半開放風扇用樹脂板	通風	114-4	265	
B-9	壁面排	Q=8~7	壁	—	—	CB	1種類、半開放風扇用樹脂板	通風	114-5	265	
B-10	壁面排	P=5~6	壁	300,000	CB	1種類、半開放風扇用樹脂板	通風	126-5	268		
B-11	壁面排	P=5	壁	300,000	CB	1種類、半開放風扇用樹脂板	通風	106-3	265		
B-12	壁面排	K-11	壁	—	—	CB	1種類、半開放風扇用樹脂板	通風	115-5	265	
B-13	壁面排	J=8	壁	300,000	CB	1種類、半開放風扇用樹脂板	通風	115-2	267		

表-11 登録遺物目録 (2)
B. 有生式土器

登録番号	基本番号	出土地(区)	遺物	層位	形	口	生	性	目	高	外	内	文	回収年	参考番号
B-14	遺物	X-11			厚	-	(9.0)	(2.0)	素面の凸不規		厚底	-	125-5		
B-15	遺物	K-11			-	-	3.7X3.7		丸文		厚底	113-3	267		
B-16	遺物	P-7	SR-3	3層	-	-	3.4X3.8		丸文(凸)→丸文		厚底	108-2	266		
B-17	遺物	K-10			厚	-	(5.2)	(1.7)	縦溝の凸不規		厚底	131-12			
B-18	瓦等上皿	PQ-8-9			厚	-	2.9X2.1		丸文(L.R)被り切削文		厚底	126-1	268		
B-19	瓦等	J-3			-	-	3.2X1.3		丸文(L.R)被り切削文		厚底	131-9	268		
B-20	瓦等, 瓦	OP-2-3		厚	-	-	(10.0)	(1.2)	丸文(L.R)被り切削文		ナド	126-5			
B-21	遺物	K-9			-	-	2.4X3.6		丸文		厚底	103-2	265		
B-22	遺物	K-9			-	-	4.4X4.1		丸文		厚底	103-1	265		
B-23	遺物	K-9			-	-	3.2X3.1		丸文		厚底				
B-24	瓦等	J-3			-	-	2.4X3.4		丸文(凸)→切削文		ナド	131-10	268		
B-25	瓦等	J-3			-	-	3.0X3.4		丸文(凸)→ボーダー		ナド	131-16	268		
B-26	瓦等	J-3			-	-	2.0X2.7		丸文		厚底				
B-27	瓦等	J-3			-	-	1.7X1.5		丸文		厚底				
B-28	瓦等	SD-10厚			-	-	4.1X3.7		丸文(凸)→丸文(L.R)		ナド	126-2	268		
B-29	瓦等	SD-10厚			-	-	3.9X2.4		丸文(凸)→丸文(L.R)		ナド	126-3	268		
B-30	瓦等	K-2			-	-	2.0X3.1		丸文(凸)→切削文		ナド	131-11	268		
B-31	遺物	J-8			-	-	2.2X3.4		丸文(凸)→丸文(凸)		厚底	125-3	267		
B-32	遺物	L-0-5-6		厚	-	-	7.6X6.0		1牛革		厚底	125-4	267		
B-33	瓦等	O-2-2-3			-	-	12.0X14.4	(1.2)	縦溝の凸不規		厚底	131-14	268		
B-34	遺物	Q-10			厚	-	4.2X4.6	(3.0)	軽微の鳥居彫		厚底	106-4	266		
B-35	瓦等	J-7			-	-	1.0X2.3		純正・文割れ文		厚底	131-5	268		
B-36	瓦等, 瓦	J-3			-	-	1.7X2.4		丸文(凸)		出底	131-1			
B-37	遺物, 瓦	P-10			-	-	4.1X5.0		丸文(凸)→切削文		ナド	122-3	267		
B-38	遺物, 瓦	P-10			-	-	3.7X5.0		丸文(凸)→丸文(凸)		ナド	122-2	267		
B-39	瓦等上皿	J-4			-	-	1.8X2.8		丸文(凸)→丸文(凸)		厚底	131-2	268		
B-40	遺物	O-7			-	-	11.2X9.0		熱水文(凸)被り		ナド	115-6	267		
B-41	遺物	O-7			-	-	4.0X7.2		熱水文(凸)被り		ナド	115-7	267		
B-42	遺物	O-7			-	-	4.0X4.3		熱水文(凸)被り		出底	115-8	267		
B-43	遺物	O-7			-	-	3.7X3.8		熱水文(凸)被り		厚底				
B-44	遺物	O-7			-	-	2.0X2.4		熱水文(凸)被り		ナド				
B-45	遺物	O-7			-	-	3.2X3.4		熱水文(凸)被り		ナド				
B-46	遺物	O-7			-	-	3.2X2.4		丸文(凸)R		ナド	115-9	267		
B-47	遺物	P-6			-	-	7.9X14.7		丸文(凸)被り		ナド	108-5	266		
B-48	遺物	K-7	SH-3		-	-	19.8X19.1		熱水文(凸)カーボン付着		ナド	125-8	267		
B-49	遺物	K-7			-	-	4.5X7.7		熱水文(凸)		ナド・ヘラナド	125-10	267		
B-50	遺物	K-7			-	-	8.8X5.9		熱水文(凸)カーボン付着		厚底	125-9	267		
B-51	遺物	K-7			-	-	4.8X3.9		熱水文(凸)カーボン付着		ナド・ヘラナド	125-11	267		
B-52	遺物	N-7			-	-	3.7X5.3		熱水文(凸)		ナド・ヘラナド	125-12	267		
B-53	遺物	K-7, O-6			-	-	3.1X7.1		熱水文(凸)		厚底	125-12	267		
B-54	遺物	N-7			-	-	4.4X5.2		熱水文(凸)カーボン付着		厚底	125-7	267		
B-55	遺物	N-7			-	-	4.5X3.4		熱水文(凸)カーボン付着		ナド・ヘラナド				
B-56	遺物	N-7			-	-	4.0X3.8		熱水文(凸)		厚底				
B-57	遺物	N-7			-	-	2.8X3.8		熱水文(凸)カーボン付着		ナド・ヘラナド	125-6	267		
B-58	遺物	N-7			-	-	2.4X3.0		熱水文(凸)カーボン付着		厚底				
B-59	遺物	N-7			-	-	2.4X3.8		熱水文(凸)カーボン付着		ナド				
B-60	遺物	O-6			-	-	2.5X3.5		熱水文(凸)		ナド・ヘラナド				
B-61	遺物	X-7			-	-	3.0X2.8		熱水文(凸)		ナド・ヘラナド				
B-62	遺物	X-7			-	-	2.3X4.7		熱水文(凸)カーボン付着		ナド				
B-63	遺物	X-7			-	-	1.0X2.0		熱水文(凸)		厚底				
B-64	遺物	P-7	SR-3	3層	-	-	18.0X16.4		丸文(凸)被り		ナド	108-3	266		
B-65			SD-38	瓦等	-	-	7.1X6.5		丸文(凸)被り		ナド	115-14	267		
B-66	遺物		SD-38	瓦等	-	-	4.2X4.0		丸文(凸)被り		ナド・ヘラナド	115-15	267		
B-67	遺物		SD-38	瓦等	-	-	4.3X4.2		丸文(凸)カーボン付着		ナド	115-16	267		
B-68	遺物		SD-38	瓦等	-	-	2.0X2.0		丸文(凸)カーボン付着		ナド				
B-69	瓦等				-	-	2.2X4.2		丸文(凸)カーボン付着		ナド				
B-70	瓦等	G-2			-	-	5.1X3.2		丸文(凸)		厚底	131-17	268		
B-71	瓦等	O-9			-	-	3.6X3.2		丸文(凸)		厚底	131-18	268		
B-72	遺物	O-P-2-3			-	-	2.3X3.6		丸文(凸)カーボン付着		厚底	116-1	265		
B-73	瓦等	H-6			-	-	7.1X6.0		丸文(凸)		厚底	126-7	268		
B-74	瓦等	H-6			-	-	3.8X4.0		丸文(凸)		厚底	126-8	268		
B-75	遺物	Q-5			-	-	3.5X7.0		丸文(凸)カーボン付着		ナド	106-5	265		
B-76	遺物	Q-5			-	-	1.9X3.6		丸文(凸)カーボン付着		ナド				
B-77	遺物	I-6			-	-	2.3X4.1		丸文(凸)被り		厚底				

表-12 登録遺物目録 (3)

B. 陈生式土器

登録番号	基準部位	出土地区	直 横	幅	厚	口	底	底	外	内	底	因版番号	写真番号
B-78	基盤	H-9	S.K-20	1層		2.7X3.2			縦条文L.R.	縦條		125-17	267
B-29	基盤	N-5				5.4X7.0			縦文(L.R.)	縦條		125-14	267
B-80	基盤	L-6	S.R. 3	4層		5.0X7.2			縦条文L.R.	縦條		125-15	267
B-81	基盤	T-6				3.2X3.8			縦条文L.R.	縦條			
B-82	基盤	L-6				1.4X3.1			縦文(L.R.) カーブ付着	縦條			
B-83	基盤	P-6				6.2X2.9			縦条文L.R. カーブ付着	ナマ	106-6	266	
B-84	基盤	J-10				4.0X5.9			縦条文L.R.	縦條			
B-85	基盤	J-10				3.3X3.7			縦条文L.R.	縦條		125-10	267
B-86	基盤	J-10				1.4X3.2			縦条文L.R. (1.B)	縦條			
B-87	基盤	L-O-5-6				5.3X6.0			縦条文L.R. 斜め縦文	縦條		125-16	267
B-88	基盤	P-9				2.4X2.0			縦条文(L.R.)	縦條		126-9	268
B-89	基盤	P-9				1.3X2.3			縦条文(L.R.)	縦條			
B-90	基盤	P-9				1.6X3.1			縦条文(L.R.)	縦條		126-10	268
B-91	基盤	R-7				0.9X1.7			縦条文L.R.	縦條			
B-92	基盤	J-15				3.2X4.0			縦条文L.R.	縦條		18-10	265
B-93	基盤	J-15				1.5X2.2			縦条文L.R.	縦條		18-11	265
B-94	基盤	L-11				5.2X2.8			縦条文L.R.	ナマ	115-9	267	
B-95	基盤	Q-9				5.5X5.5			縦条文(L.R.)	縦條		126-11	268
B-96	基盤	O-P-2-3				1.9X2.7			縦条文(L.R.)	ナマ		126-12	
B-97	不明					3.9X5.9			縦条文(L.R.)	縦條		34-7	265
B-98	不明					1.0X4.0			縦条文(L.R.)	縦條		34-8	265
B-99	基盤	L-11				3.9X1.6			縦条文(L.R.)	縦條			
B-100	基盤	L-11				4.5X5.4			縦条文(L.R.)	ナマ	115-12	267	
B-101	基盤	P-R-8-9				5.5X6.9			縦条文(L.R.)	縦條		126-13	268
B-102	基盤	J-8				5.3X4.3			縦条文(L.R.)	縦條		115-13	267
B-103	直縁	O-16				2.3X4.3			縦条文(L.R.)	縦條		126-14	268
B-124	直縁	O-19				2.0X3.6			縦条文(L.R.)	縦條			
B-105	直縁	O-19				1.9X2.7			縦条文(L.R.)	縦條			
B-106	直縁	J-15				2.4X6.6			縦条文(L.R.) 縦縫合部	縦縫		18-12	265
B-107	直縁	N-10				3.7X6.1			縦条文(L.R.)-ナマ	ナマ	169-9	268	
B-108	直縁	N-O-12-11				3.2X5.5			縦条文(L.R.)-ナマ	縦縫		131-5	268
B-109	直縁	K-10				3.5X5.0			縦条文(L.R.) カーブ付着	縦縫		169-10	268
B-110	直縁	N-O-10-11				3.5X4.3			縦条文(L.R.)	縦縫		131-6	268
B-111	直縁	N-10				4.0X4.0			縦条文(L.R.)-ナマ カーブ付着	ナマ	169-11	268	
B-112	直縁	N-O-10-11				3.0X3.4			縦条文(L.R.)	縦縫		131-7	268
B-113	直縁	I-4				2.5X3.0			縦条文(L.R.) カーブ付着	ナマ	169-8	268	
B-114	直縁	S.R-3	4層			4.7X3.6			縦条文(L.R.)	縦縫		108-7	266
B-115	直縁	N-O-10-11				2.4X4.0			縦条文(L.R.) カーブ付着	縦縫		131-8	268
B-116	直縁	N-O-10-11				1.9X3.4			縦条文(L.R.) カーブ付着	ナマ			
B-117	直縁	N-O-10-11				3.2X3.5			縦条文(L.R.)	縦縫			
B-118	直縁	N-O-10-11				2.3X2.4			縦条文(L.R.)	縦縫			
B-119	直縁	L-11				3.6X5.0			縦条文(L.R.)	縦縫		106-6	265
B-120	直縁	I-J-5				4.0X2.3			縦条文L.R.	縦縫		131-19	268
B-121	欠多												
B-122	欠多												
B-123	V字縁	D-10				2.9X3.9			縦条文(L.R.) 安永鉢文	縦縫		88-1	265
B-124	V字縁	E-9				2.6X4.9			縦条文(L.R.)	縦縫		131-3	268
B-125	V字縁	E-9				2.6X4.3			縦条文L.R.	縦縫		131-6	268

C. 非口縁土器

登録番号	基準部位	出土地区	直	横	厚	種別	器形	口	浮	底	底	外	内	底	因版番号	写真番号
C-1	V字縁	I-9	S.K-5	1層		少	縦縫	縦縫	-	(15.1)	-	(15.2)	口縫合部コリナ付底	縦縫	19-1	269
C-2	V字縁	H-11				上縫合	縦縫	-	-	-	-	ハサメ	下子ナマ	ハサメ	19-1	269
C-3	V字縁	S.D-19	土和田	縦縫	--	--	--	(5.5)	刺繍			ナマ		91-2	269	
C-4	V字縁	F-4	S.D-19	土和田	縦縫	--	--	(4.9)	刺繍			ナマ		91-3	269	

D. 土器類(口縁)

登録番号	基準部位	出土地区	直	横	厚	種別	器形	口	浮	底	底	外	内	底	因版番号	写真番号
D-1	V字縁	O-11	S.D-13	1層	少	縦縫	縦縫	-	5.8	(1.7)	ナマ	ナマ	刺繍	底	84-1	
D-2	II縁					土和田	縦縫	-	(6.0)	(1.7)	ナマ	ナマ	刺繡	底	84-2	
D-3	II縁		S.D-1	1層	少	赤絹土器	高台付	-	7.6	(1.5)	ナマ	ナマ	刺繡	底	87-1	

表-13 登録遺物目録 (4)
D. ロクロ土器類

登録番号	出土年	出土地区	地	種	甲	乙	丙	丁	戊	己	庚	辛	壬	内	外	出
D-4 V型	J-13		上野町	16		(3.0)	1.05	ロクロ調整 底部 着底	黑色處理 ヘラミガキ調査	18-9						
D-5 V型	J-27		上野町	16		(5.0)	1.45	ロクロ調整 底部 着底	黑色處理 ヘラミガキ調査	18-16						
D-6 V型	D-21		上野町	16	(13.0)		1.45	着底	黑色處理 ヘラミガキ調査	18-3						
D-7 Ⅲ型	L-8	SD-17	2号	上野町	16	(16.0)		(3.0)	ロクロ調整	黑色處理 ヘラミガキ調査	49-1					
D-8 V型			上野町	高台付	16	(4.0)			ロクロ調整 底部 両側 赤褐色のものロクロナシ	黑色處理 ヘラミガキ調査	88-4	269				
D-9 V型	SD-26		上野町	16	15.0	6.8	4.2	ロクロ調整 底辺 着底	黑色處理 ヘラミガキ調査	85-1	269					
D-10 V型	X-12		上野町	16	15.0	(2.0)		ロクロ調整	黑色處理 ヘラミガキ調査	88-7						
D-11 V型	L-7		上野町	高台付	16	(8.0)	(3.0)	ロクロ調整 底部 V型 赤褐色のものロクロナシ	黑色處理 ヘラミガキ調査	81-1						
D-12 V型			老松土器	16	(13.0)		(3.0)	ロクロ調整	ロクロ調整	88-5						
D-13 Ⅲ型			赤褐色土器	16		(3.0)		ロクロ調整	ロクロ調整	33-6						
D-14 V型	D-11	SD-13	赤褐色土器	16		(6.0)	(1.0)	ロクロ調整	ロクロ調整	88-2						
D-15 V型	D-5	SD-19	老松土器	16	(15.0)		(2.0)	ロクロ調整	ロクロ調整	91-1						
D-16 Ⅲ型	SD-9		上野町	高台		(8.0)	(3.0)	低鉄量ロクロ調整	着底	37-2						
D-17 Ⅲ型	G-H-6	SK-15	上野町	16	(16.0)		(2.0)	ロクロ調整	黑色處理 ヘラミガキ新規	120-1						
D-18 V型			上野町	16		5.7	(1.0)	ロクロ調整 底部 研磨 角部分	黑色處理 ヘラミガキ調査	88-3						
D-19 Ⅲ型	L-8	SD-18	2号 土器	16		(7.0)	(1.0)	ロクロ調整 表面 着底	黑色處理 ヘラミガキ調査	49-2						
D-20 Ⅲ型	L-8	SD-15	2号 土器	16	(16.0)	(4.0)	4.7	ロクロ調整	黑色處理 ヘラミガキ調査	49-2						

E. 須恵器

登録番号	出土年	出土地区	地	種	甲	乙	丙	丁	戊	己	庚	辛	壬	内	外	出
E-1 Ⅲ型		SD-10	16		14.7	7.0	1.35	ロクロ調整 多数 亂れあり 底付	ロクロ調整	37-2						
E-2 Ⅲ型			16			(9.0)	+2.0	ロクロ調整 亂れあり 底付	ロクロ調整	33-1						
E-3 V型	D-21		16		(5.4)	(6.6)	5.0	ロクロ調整 亂れあり 底付	ロクロ調整	18-6						
E-4 V型	D-21		16		(8.0)	(1.0)		ロクロ調整 亂れあり 底付	ロクロ調整	18-5						
E-5 Ⅲ型			16		4.0X7.3			平行脚 両側	黒漆地の下に白漆	33-9	210					
E-6 Ⅲ型	Q-15		史		4.0X5.0			平行脚 両側	黒漆地の下に白漆	18-17						
E-7 Ⅲ型	Q-L		史		4.0X4.3			平行脚 両側	黒漆地の下に白漆	18-18						
E-8 Ⅲ型	SD-9	16			19.0	(1.2)	2.70	ロクロ調整 亂れあり 底付	ロクロ調整	37-3						
E-9 Ⅲ型	K-8・9	SK-5	史				(6.0)	ロクロ調整 亂れあり 底付	ロクロ調整	98-1						
E-10 Ⅲ型	K-2		16		(3.0)		+2.0	ロクロ調整 亂れあり 底付	ロクロ調整	88-7						
E-11 V型	K-9		16			(7.4)	(6.0)	ロクロ調整 亂れあり 底付	ロクロ調整	81-3						
E-12 V型	1-7		史			2.6X7.2		平行脚 両側	当て目刷	81-2	220					
E-13 不規	L-Q-5-6(新規)		史		3.0X6.3			子孫の所持物	子孫の所持物	34-9						
E-14 V型	M-9		16		(16.0)	6.0	4.0	ロクロ調整 亂れあり 底付	ロクロ調整	88-6						
E-15 Ⅲ型	P-8	SK-10	史		(30.0)		3.35	ロクロ調整 亂れあり 底付	ロクロ調整	75-1						
E-16 Ⅲ型	J-27		史			6.5X5.1		平行脚 両側	黒漆地の下に白漆	18-13						
E-17 Ⅲ型	佐土ア		史			3.7X8.3		平行脚 両側	黒漆地の下に白漆	33-2						
E-18 Ⅲ型	J-27		史			5.5X8.0		平行脚 両側	カタマリ	34-10						
E-19 Ⅲ型			史					平行脚 両側	ロクロ調整	33-8						
E-20 Ⅲ型			史			(16.0)	(2.0)	ロクロ調整	ロクロ調整	40-2						
E-21 Ⅲ型			史					平行脚 両側	黒漆地の下に白漆	40-13						
E-22 Ⅲ型	J-27		史					平行脚 両側	黒漆地の下に白漆	46-5						
E-23 Ⅲ型	H-2		史			2.5X8.8		平行脚 両側	当て目刷	46-8						
E-24 Ⅲ型	北畠東池	SD-10	史		11.0X11.7			平行脚 両側	当て目刷	46-4						
E-25 Ⅲ型	北畠北池	SD-10	史		3.6X11.8			平行脚 両側	黒漆地の下に白漆	46-6	220					
E-26 Ⅲ型	北畠南池	SD-10	史		7.8X9.5			平行脚 両側	当て目刷	46-7	220					
E-27 Ⅲ型	北畠大池	SD-10	史		7.8X5.2			平行脚 両側	当て目刷	46-7	220					

表-14 登録遺物目録 (5)
E. 須 意 器

登録番号	基準番号	古墳時代	造 塗	材質	寸 法	性 能	記 注	外 備	内 容	出 口	回収年月	分類番号
F-28	目録	後期文政	SD-10	漆	3.7X4.5			平行四辺形	56-2			
E-29	V字型	M-6		漆	6.1X7.4			椅子脚の付目録	88-8	220		
F-30	E字型		SD-10	1台	7.1X2.8			椅子脚の付目録	46-3			
E-31	直角			漆	7.8X2.5			椅子脚の付目録	46-3			
F-32	角付直角	G-9		漆	7.5X2.5			椅子脚の付目録	46-4			
E-33	直角			漆	4.5X12.8			椅子脚の付目録	46-5			
E-34	直角			漆	6.0X6.3			椅子脚の付目録	46-6	220		
F-35	各種	G-F-9-11		漆	6.0X5.3			椅子脚の付目録	46-7			
F-36	直角			漆	1.7X1.2			椅子脚の付目録	46-7			
E-37	直角			漆				椅子脚の付目録	46-8			
F-38	V字型?	D-21		漆				椅子脚の付目録	46-9			
E-39	直角		SD-10	漆	6.0X4.5			椅子脚の付目録	46-9			
E-40	直角	J-27		漆	5.1X3.1			椅子脚の付目録	46-10			
E-41	V字型	O-11	SD-12	漆	6.2X4.9			椅子脚の付目録	46-11			
F-42	直角	J-15		漆	3.7X4.5			椅子脚の付目録	46-12	220		
E-43	直角	G-II-12-11		漆	5.6X8.0			椅子脚の付目録	46-13			
E-44	V字型			漆	(14.0) 7.6 (4.2)			椅子脚の付目録	46-14	220		
F-45	V字型	B-11		漆	(6.6) (3.4)			椅子脚の付目録	46-15			

G. 瓦

登録番号	基準番号	古墳時代	造 塗	材質	寸 法	性 能	記 注	外 備	内 容	出 口	回収年月	分類番号
G-1	瓦			瓦				瓦片標	46-13			

I. 開 器

登録番号	基準番号	古墳時代	造 塗	性 能	器 形	高 度	广 底	深 底	直 三	外 備	内 容	出 口	回収年月	分類番号
I-1	1号			漆	漆桶形	直	1.8		12.0	漆桶		33-3	220	
I-2	2号			漆	漆桶形	直				漆桶		33-10	220	
I-3	3号			漆	漆桶形	直				漆桶		33-11	220	
I-4	4号			漆	漆桶形	直?				漆桶		33-12	220	
I-5	5号			漆	漆桶形	直	12.0		12.0	漆桶	漆桶	49-10	220	
I-6	6号	D-4	漆	漆	漆桶形	直	12.0		12.0	漆桶	漆桶	49-11	220	
I-7	7号	SD-9	漆	漆	漆桶形	直				漆桶		49-12	220	
I-8	8号	SD-9-3号	漆	漆	漆桶形	直				漆桶		49-13	220	
I-9	9号	SD-10	漆	漆	漆桶形	直				漆桶		49-14	220	
I-10	10号	SD-10	漆	漆	漆桶形	直				漆桶		49-15	220	
I-11	11号	SD-10-2号	漆	漆	漆桶形	直	31.0	12.0		漆桶		49-16	220	
I-12	12号	SD-10-3号	漆	漆	漆桶形	直	31.0	12.0		漆桶		49-17	220	
I-13	13号	D-15			漆桶形	直	31.0	12.0	14.0	漆桶(深入)	漆桶(深入)	49-18	220	
I-14	14号	J-15			漆桶形	直?				漆桶		49-19	220	
I-15	15号				漆桶形	直?				漆桶		49-20	220	
I-16	16号				漆桶形	直?				漆桶		49-21	220	
I-17	17号				漆桶形	直?				漆桶		49-22	220	
I-18	18号				漆桶形	直?				漆桶		49-23	220	
I-19	19号				漆桶形	直?				漆桶		49-24	220	
I-20	20号				漆桶形	直?				漆桶		49-25	220	
I-21	21号	O-8			漆桶形	直?				漆桶		49-26	220	
I-22	22号	SD-10			漆桶形	直				漆桶		49-27	220	
I-23	23号				漆桶形	直				漆桶		49-28	220	
I-24	24号				漆桶形	直				漆桶		49-29	220	
I-25	25号				漆桶形	直?				漆桶		49-30	220	
I-26	26号				漆桶形	直?				漆桶		49-31	220	
I-27	27号				漆桶形	直?				漆桶		49-32	220	
I-28	28号				漆桶形	直?				漆桶		49-33	220	
I-29	29号				漆桶形	直?				漆桶		49-34	220	
I-30	30号	Q-22			漆桶形	直?				漆桶		49-35	220	
I-31	31号	D-21			漆桶形	直?				漆桶		49-36	220	
I-32	32号	J-21			漆桶形	直?				漆桶		49-37	220	
I-33	33号	J-21			漆桶形	直?				漆桶		49-38	220	
I-34	34号	Q-9			漆桶形	直?				漆桶		49-39	220	
I-35	35号	Q-9			漆桶形	直?				漆桶		49-40	220	
I-36	36号	Q-9			漆桶形	直?				漆桶		49-41	220	
I-37	37号	Q-15			漆桶形	直?				漆桶		49-42	220	

表-15 登録遺物目録 (6)
J. 磁器

登録番号	発掘場所	出土地点	地質	性質	目次番号	年	名	形	大きさ	年代	状態	参考番号
J-1 丁目			砂質粘土	陶器			瓦器・瓦類	瓦器・瓦類		20-4	277	
J-2 丁目			砂質粘土	陶器			瓦器・瓦類	瓦器・瓦類		20-5	272	
J-3 丁目			砂質粘土	陶器			瓦器・瓦類	瓦器・瓦類		20-13	272	
J-4 丁目			砂質粘土	陶器			瓦器・瓦類	瓦器・瓦類		20-14	271	
J-5 丁目			砂質粘土	陶器			瓦器・瓦類	瓦器・瓦類		20-15	271	
J-6 丁目			砂質粘土	陶器			瓦器・瓦類	瓦器・瓦類		20-16	271	
J-7 丁目	SB-5	SB-16	砂質粘土	陶器			瓦器・瓦類	瓦器・瓦類		20-17	272	
J-8 丁目	SD-6	SD-16	砂質粘土	陶器			瓦器・瓦類	瓦器・瓦類		20-18	272	
J-9 丁目	D-21		砂質粘土	陶器			瓦器・瓦類	瓦器・瓦類		20-19	271	
J-10 丁目	J-25		砂質粘土	陶器	15.5	1.5	瓦器・瓦類	瓦器・瓦類		20-20	271	
J-11 丁目	J-25		砂質粘土	陶器			瓦器・瓦類	瓦器・瓦類		20-21	272	

K. 石器・石製品

登録番号	発掘場所	出土地点	地質	性質	目次番号	年	名	形	大きさ	年代	状態	参考番号
K-1 田原			粘土	石器	4.73	8.55	1.1	石器	可成り大きめ	40-	274	
K-2 田原	D-21		砂質粘土	石器	6.7	5.55	1.4	石器	可成り大きめ	19-	273	
K-3 田原	U-27		砂質粘土	石器	3.8	2.8	0.7	石器	可成り大きめ	19-5	273	
K-4 田原上	D-22		粘土	石器	2.3	1.5	0.4	石器	可成り大きめ	19-2	273	
K-5 田原上	D-27		粘土	石器	2.8	4.0	1.55	石器	可成り大きめ	19-4	273	
K-6 田原	D-25		粘土	石器	3.75	7.7	1.55	石器	可成り大きめ	40-	274	
K-7 田原	D-14		粘土	石器	4.7	3.95	0.55	石器	可成り大きめ	19-	273	
K-8 田原	U-15		粘土	石器	2.0	1.2	.55	石器	可成り大きめ	19-5	273	
K-9 田原	D-16		粘土	石器	5.25	6.45	1.8	石器	可成り大きめ	19-6	273	
K-10 田原	D-3		粘土	石器	4.1	3.35	0.65	石器	可成り大きめ	40-	274	
K-11 田原	J-5		粘土	石器	7.6	4.15	1.8	石器	可成り大きめ	19-5	273	
K-12 田原	D-28		粘土	石器	7.5	3.2	1.1	石器	可成り大きめ	19-6	273	
K-13 田原	U-26-27		粘土	石器	4.25	3.0	1.1	石器	可成り大きめ	40-3	273	
K-14 田原			粘土	石器	6.0	1.2	1.1	石器	可成り大きめ	40-2	274	
K-15 田原	H-7		粘土	石器	5.9	2.5	0.5	石器	可成り大きめ	40-2	274	
K-16 田原			粘土	石器	10.6	3.1	2.6	石器	可成り大きめ	4-1	274	
K-17 田原	J-2		粘土	石器	.75	1.5	0.4	石器	可成り大きめ	127-2	276	
K-18 田原	J-15		粘土	石器	4.45	3.0	0.65	石器	可成り大きめ	19-5	273	
K-19 田原	J-9		粘土	石器	4.45	2.2	0.9	石器	可成り大きめ	40-	274	
K-20 田原	J-14		粘土	石器	2.9	4.9	1.9	石器	可成り大きめ	40-3	273	
K-21 田原	U-3 SD-9		粘土	石器	3.2	2.25	0.65	石器	可成り大きめ	40-3	273	
K-22 田原	D-21		粘土	石器	3.95	1.9	0.95	石器	可成り大きめ	40-3	273	
K-23 田原	SD-3	SD-10	粘土	石器	2.1	2.4	0.6	石器	可成り大きめ	40-3	273	
K-24 田原	SD-10		粘土	石器	3.25	3.4	0.7	石器	可成り大きめ	40-4	274	
K-25 田原上	J-27		粘土	石器	1.5	2.2	0.6	石器	可成り大きめ	19-6	273	
K-26 田原	H-7		粘土	石器	2.05	4.2	0.65	石器	可成り大きめ	82-1	274	
K-27 田原	H-7		粘土	石器	5.6	6.25	1.85	石器	可成り大きめ	120-2	277	
K-28 丁目	H-2		粘土	石器	1.8	6.15	0.9	石器	可成り大きめ	182-3	277	
K-29 田原	Q-2		粘土	石器	4.85	3.25	0.6	石器	可成り大きめ	179-2	283	
K-30 田原	O-8		粘土	石器	4.3	2.6	1.1	石器	可成り大きめ	179-3	282	
K-31 田原	O-8		粘土	石器	4.6	2.05	0.2	石器	可成り大きめ	173-14	285	
K-32 田原	J-13		粘土	石器	3.95	1.3	0.3	石器	可成り大きめ	173-16	285	
K-33 田原	O-7		粘土	石器	1.9	2.4	0.95	石器	可成り大きめ	173-5	284	
K-34 田原	J-5		粘土	石器	4.3	4.1	1.0	石器	可成り大きめ	135-7	280	
K-35 田原	J-2		粘土	石器	2.6	1.35	0.65	石器	可成り大きめ	173-12	285	
K-36 田原	O-5		粘土	石器	4.0	6.65	2.6	石器	可成り大きめ	120-1	277	
K-37 田原			粘土	石器	3.2	1.35	0.2	石器	可成り大きめ	175-6	286	
K-38 田原	Q-2		粘土	石器	3.1	3.0	0.7	石器	可成り大きめ			
K-39 田原	L-33		粘土	石器	3.2	2.55	0.7	石器	可成り大きめ			
K-40 田原	Q-2		粘土	石器	2.5	2.9	0.65	石器	可成り大きめ	127-4	276	
K-41 田原	Q-2		粘土	石器	4.3	3.6	1.3	石器	可成り大きめ			
K-42 田原上	J-3		粘土	石器	6.8	5.4	1.0	石器	可成り大きめ	187-1	275	
K-43 田原	H-2		粘土	石器	5.05	4.6	1.4	石器	可成り大きめ	187-7	275	
K-44 田原			粘土	石器	6.2	3.75	0.9	石器	可成り大きめ	134-2	279	
K-45 田原	G-8		粘土	石器	2.0	7.95	0.95	石器	可成り大きめ	83-2	275	
K-46 田原	Q-3 SD-24		粘土	石器	5.3	3.2	1.0	石器	可成り大きめ			
K-47 田原	Q-3 SD-8		粘土	石器	5.45	5.90	0.95	石器	可成り大きめ	209-2	293	
K-48 田原	O-P-24		粘土	石器	5.6	3.1	0.4	石器	可成り大きめ	121-3	276	
K-49 田原	Q-8		粘土	石器	5.3	1.25	0.55	石器	可成り大きめ	274		
K-50 田原	K-3		粘土	石器	4.1	5.5	1.35	石器	可成り大きめ	117-3	275	

表-16 登録遺物目録 (7)
K. 石器・石製品

登録番号	基準番号	出土場所	法	種類	長さ	幅	厚さ	重さ	形	材	寸	備考	回収年	発見年
K-5 豊富	O-P-23	石器												
K-52 須崎	Q-3				8.0	2.1	1.2	3.90	丸芯				119-1	276
K-53 須崎	J-9 SK-2	石器			8.5	2.0	1.0	2.05	丸芯				102-1	275
K-54 石器					6.1	2.7	0.8	12.40	丸芯				136-2	280
K-55 石器	J-3				4.75	3.1	0.5	5.15	丸芯				136-1	276
K-56 石器	J-3				2.8	2.8	0.8	7.30	丸芯				136-2	280
K-57 石器	K-4 SD-27 3号	石器			6.15	6.7	1.0	16.75	丸芯				136-2	280
K-58 石器	K-5 SD-27 3号	石器			2.3	1.8	0.5	1.10	丸芯				135-4	260
K-59 石器	O-3	石器			3.9	2.8	1.1	12.00	丸芯				132-1	275
K-60 石器	H-7-10	石器			2.75	6.3	0.75	21.25	丸芯				138-1	261
K-61 石器	H-6-10	石器			7.2	6.1	0.2	38.50	丸芯				138-2	261
K-62 石器	H-9-10	石器			3.9	6.0	0.6	11.15	丸芯				138-3	261
K-63 石器	H-10	石器			2.12	6.3	0.5	10.25	丸芯				136-6	259
K-64 石器	H-6	石器			8.5	2.8	0.8	25.00	丸芯				172-3	261
K-65 石器上品	H-9	石器			9.0	6.8	0.8	110.00	丸芯			K-66+组合	177-1-a	269
K-66 石器上品	H-8	石器			10.35	7.80	2.75	75.95	丸芯			K-65+组合	177-1-a	269
K-67 石器	F-10	石器			6.0	5.1	1.0	10.80	丸芯					
K-68 H	Q-9	石器			7.35	5.25	2.3	75.80	丸芯				127-5	276
K-69 L器	Q-6-7 SD-28	石器			3.9	4.7	1.4	17.35	丸芯					
K-70 石器	石器中品	石器			4.4	4.25	1.1	12.50	丸芯					
K-71 石器	I-2	小形石器			2.1	2.65	0.65	6.75	丸芯					
K-72 石器	I-5	石器												
K-73 石器	I-2	石器			3.25	1.9	0.9	4.70	丸芯				133-1	278
K-74 石器	I-6	石器			3.35	3.00	0.95	4.70	丸芯				139-6	282
K-75 石器	Q-5-6 SD-27 3号	石器			8.8	7.5	2.5	75.25	丸芯				140-2	293
K-76 石器	Q-4-5	石器			2.0	1.7	0.3	1.00	丸芯				173-7	284
K-77 石器	Q-4	石器			2.05	2.45	0.5	5.75	丸芯				178-2	286
K-78 石器	G-1	不規則形			3.1	3.8	0.9	10.15	丸芯				134-3	279
K-79 石器	K-2	磨研石器			2.6	3.8	0.55	4.20	丸芯				170-5	282
K-80 石器	I-10	石器			2.9	3.2	0.55	1.45	丸芯				170-4	287
K-81 I器	QE-36-17	石器							丸芯					
K-82 石器	H-9	石器			4.8	2.95	1.2	3.65	圓柱				172-1	264
K-83 石器	L-8	石器			6.5	2.5	0.7	19.80	圓柱				175-5	265
K-84 石器上品	K-9	石器			8.2	2.7	0.95	32.65	圓柱				176-4	260
K-85 石器	H-4 SK-31	不規則石器			2.4	3.5	0.6	1.25	圓柱				175-5	265
K-86 石器	H-4	石器			5.9	3.50	1.4	20.20	圓柱				171-1	262
K-87 石器	L-8	石器			2.7	3.1	0.4	1.75	圓柱				173-1	264
K-88 X器	J-7 SD-27 1号	石器			2.9	1.7	0.6	0.90	圓柱				133-12	276
K-89 X器	I-11	石器			2.6	2.3	0.4	0.95	圓柱				133-3	276
K-90 X器	J-11	石器			3.75	1.85	0.4	1.60	圓柱				133-5	275
K-91 X器	I-11	石器			3.75	1.45	0.4	1.80	圓柱				133-2	276
K-92 Y器	L-10	石器			3.75	1.3	0.65	1.85	圓柱				133-10	276
K-93 Y器	J-7 SD-26 1号	石器			3.75	2.0	0.3	3.65	圓柱				133-7	276
K-94 Y器	I-10	石器			7.3	1.3	0.4	0.95	圓柱				173-13	265
K-95 石器上品	K-15	石器			2.8	1.85	0.3	0.90	圓柱				172-4	264
K-96 石器	M-4	石器			3.15	3.7	3.7	5.60	圓柱				171-5	263
K-97 石器	H-1	石器			5.0	3.15	1.3	10.20	圓柱					
K-98 石器	X-10 第3配分	石器			3.8	3.50	1.0	12.15	圓柱					
K-99 石器	G-2	小形石器			2.2	3.5	1.0	8.25	圓柱				135-6	265
K-100 石器	N-7	石器			4.35	1.85	4.5	2.00	圓柱				172-2	264
K-101 石器	H-11	石器			1.35	6.05	0.65	42.55	圓柱				176-5	262
K-102 石器	O-5-5	石器			4.55	4.8	1.85	17.30	丸ノイ					
K-103 石器	H-10	石器			3.8	5.7	1.3	35.95	丸ノイ				136-1	261
K-104 石器	I-6	3-2形石器			4.6	3.6	1.05	17.35	黑色圓柱				176-2	268
K-105 石器	K-2	石器			4.4	4.0	0.7	12.35	黑色圓柱					
K-106 石器	I-7	石器							黑色圓柱					
K-107 石器	J-12	石器			3.7	1.4	1.4	11.15	圓柱					
K-108 石器	X-0-P-8	小形石器			3.7	3.4	0.9	15.65	圓柱				135-2	279
K-109 石器	L-7	不規則石器			13.3	6.35	2.1	56.00	丸ノイ				131-1	279
K-110 X器	K-0-P-9	石器			5.0	5.0	1.4	19.25	圓柱					
K-111 石器上品	L-11	不規則石器			4.7	3.6	0.8	19.00	圓柱				175-3	267
K-112 石器	I-11	石器			2.75	1.4	0.45	1.85	圓柱				173-8	264
K-113 石器	L-11	不規則石器			9.7	3.75	0.6	33.15	圓柱				175-2	267
K-114 石器	L-8	不規則石器			3.0	2.2	0.7	7.05	丸ノイ				174-4	266

表-17 登録遺物目録 (8)
K. 石器・石製品

登録番号	系別	種類	材質	長	幅	厚	重	名	備考
K-315	工具	石刀	石	6.25	6.2	1.1	20.50	石刀	135-4 287
K-316	工具	石刀	石	4.1	3.9	0.95	11.05	石刀	135-1 279
K-317	工具	石刀	石	1.85	2.5	0.2	1.40	石刀	135-5 280
K-318	矢頭								
K-319	矢頭								
K-320	矢頭								
K-321	矢頭								
K-322	矢頭								
K-323	工具	石刀	石	11.35	6.0	5.7	29.45	石刀	135-1 256
K-324	工具	石刀	石	19.3	9.9	5.1	225.75	石刀	140-1 296
K-325	石器	S-R-3 4号	石	7.0	7.8	3.2	25.00		139-1 285
K-326	工具	石刀	石	19.4	7.95	2.7	247.85	石刀	135-2 286
K-327	工具	石刀	石	9.6	5.1	3.8	108.45	石刀	135-3 286
K-328	工具	M-6	石	6.6	5.6	2.5	106.5	石刀	135-4 286
K-329	工具	K-9	石	6.6	5.6	2.5	106.5	石刀	135-5 286
K-330	工具	P-67 S-R-3	石	9.3	7.7	4.0	130.25	石刀	139-2 295
K-331	工具	L-10	石	10.5	—	—	137.25		
K-332	工具	L-7	石	13.1	3.8	6.8	137.7	石刀	135-4 286
K-333	矢頭	S-R-3	石	7.8	5.8	1.4	26.75	石刀	135-1 256
K-334	矢頭	S-D 26.3号	石	7.5	4.1	2.05	36.30	石刀	135-2 256
K-335	工具	石刀	石	9.5	3.0	1.1	27.00	石刀	135-3 256
K-336	工具	石刀	石	4.3	3.5	0.55	7.05	石刀	135-4 256
K-337	工具	石刀	石	5.85	4.5	3.3	39.90	石刀	135-5 256
K-338	工具	J-35	石	3.6	3.0	0.8	6.95	石刀	135-1 256
K-339	工具	J-34	石	4.5	2.95	0.7	8.70	石刀	135-2 256
K-340	工具	J-5	石	6.9	3.05	1.15	41.30	石刀	135-3 256
K-341	工具	J-8	石	—	—	—	66.75	石刀	135-4 256
K-342	矢頭								
K-343	矢頭								
K-344	矢頭								
K-345	矢頭								
K-346	矢頭								
K-347	工具	E-3	石	9.0	1.3	0.35	1.05	石刀	135-1 278
K-348	工具	K-36	石	1.7	1.15	0.4	3.25	石刀	135-2 278
K-349	工具	F-20	石	1.5	1.1	0.2	3.25	石刀	135-3 278
K-350	工具	F-30	石	5.4	1.7	0.6	1.00	石刀	135-4 278
K-351	工具	F-35	石	2.85	1.9	0.5	1.55	石刀	135-5 278
K-352	工具	K-5	石	2.45	1.5	4.5	0.65	石刀	135-1 278
K-353	工具	D-4 S-X-4	石	5.8	4.4	1.15	30.50	石刀	135-2 293
K-354	工具	Z-2-Z S-Y-42 5号	石	2.6	1.6	0.4	0.85	石刀	135-3 293
K-355	工具	Z-5	石	1.6	1.1	0.3	0.45	石刀	135-4 293
K-356	工具	D-8	石	3.05	1.75	0.35	1.35	石刀	135-5 293
K-357	工具	F-12	石	3.3	1.8	0.75	3.15	石刀	135-1 284
K-358	工具	F-9	石	3.2	1.8	0.4	2.25	石刀	135-2 285
K-359	工具	F-10	石	2.9	1.5	0.3	1.15	石刀	135-3 285
K-360	工具	X-8	石	2.8	1.1	0.3	1.05	石刀	135-4 285
K-361	工具	E-7	石	1.8	1.0	0.2	0.45	石刀	135-5 285
K-362	工具	E-10	石	2.8	1.8	0.5	1.30	石刀	135-1 293
K-363	工具	Q-R-3 S-X-20 Z-26	石	4.95	2.3	0.7	6.80	石刀	135-2 284
K-364	工具	E-11	石	5.5	4.5	0.75	9.20	石刀	135-3 284
K-365	工具	F-2	石	7.1	2.8	0.7	7.05	石刀	135-4 284
K-366	工具	H-10	石	6.35	2.8	1.0	12.20	石刀	135-5 284
K-367	工具	H-12	石	5.2	2.4	1.1	12.25	石刀	135-1 282
K-368	工具	H-11	石	7.8	3.3	1.7	18.90	石刀	135-2 282
K-369	工具	H-12	石	3.6	3.1	1.5	16.95	石刀	135-3 282
K-370	工具	H-10	石	4.35	2.7	0.3	8.15	石刀	135-4 282
K-371	工具	H-10	石	2.8	2.7	0.3	1.65	石刀	135-5 282
K-372	工具	G-9	石	4.2	2.7	0.4	5.50	石刀	135-1 282
K-373	工具	F-9	石	3.2	4.4	0.45	13.10	石刀	135-2 282
K-374	工具	E-12	石	5.3	6.0	1.9	18.05	石刀	135-3 282
K-375	工具	F-1	石	4.0	4.5	1.75	40.95	石刀	135-4 282
K-376	工具	E-E	石	2.6	4.12	1.9	32.75	石刀	135-5 282
K-377	工具	(?)	石	13.9	6.8	1.7	484.30	石刀	135-1 284
K-378	工具	J-5	石	5.9	1.1	3.1	590.95	石刀	135-2 284

表-18 登録遺物目録 (9)
K. 石器・石製品

登録番号	遺跡名	出土位置	種類	形状	長	幅	厚	重	材	原	地	登録番号	参考番号
K-279	羽野	F-3	石器	打制石器	22.0	7.3	3.4	32.0	青銅時代			184-2	797
K-280	羽野	D-8	石器	打制石器	26.1	9.3	3.2	97.2	新石器時代			184-3	297
K-281	羽野	B-11	石器	磨石	9.85	6.1	0.4	69.15	アラヤ文化			207-1-1	297
K-282	羽野	D-12	石器	打制石器	6.2	8.1	1.7	70.70	新石器時代			174-1	295
K-283	羽野	E-1'	石器	打制石器	3.6	6.45	1.25	66.20	新石器時代			204-3	295
K-284	羽野	F-11	石器	打制石器	6.80	6.2	1.7	76.50	新石器時代			205-1	295
K-285	羽野	E-2-10/SX-36	石器	打制石器	7.35	6.3	2.0	61.35	新石器時代			175-1	297
K-286	羽野	F-1	石器	打制石器	3.6	4.8	2.1	61.36	新石器時代			171-2	293
K-287	1号		石器										
K-288	1号		石器										
K-289	1号	J-33	石器										
K-290	1号	J-15	石器										
K-291	1号		石器										
K-292	1号	P-12	SX-2	石器									
K-293	1号	G-3	石器										
K-294	1号		石器										
K-295	1号		石器										
K-296	1号		石器										
K-297	1号	CF-11	石器										
K-298	1号	CF-9-L	石器										
K-299	1号	H-7	石器										
K-300	V器		石器										
K-301	V器	-L-2-12	石器										
K-302	V器	CF-7-9	石器										
K-303	V器	CF-7-9	石器										
K-304	V器	CF-7-6	石器										
K-305	V器	D-11	石器										
K-306	V器	D-11	石器										
K-307	V器	D-11	石器										
K-308	V器	D-11	石器										
K-309	V器	D-11	石器										
K-310	V器	D-11	石器										
K-311	V器	D-11	石器										
K-312	V器	D-11	石器										
K-313	V器	H-6	石器										
K-314	V器	J-3	石器										
K-315	V器	J-3	石器										
K-316	V器	J-3	石器										
K-317	V器	J-3	石器										
K-318	X器	D-0	石器										
K-319	X器	F-5	石器										
K-320	X器	G-2	石器										
K-321	X器	J-3	石器										
K-322	X器	J-5	石器										
K-323	X器	Q-9	石器										
K-324	X器	Q-9	石器										
K-325	X器	C-11	石器		5.5	4.5	1.3	62.25	縄文時代	K-237と整合	137-1-a	281	
K-326	X器	C-12	石器										
K-327	X器	C-12	石器										
K-328	X器	C-12	石器										
K-329	X器	C-12	石器										
K-330	X器	C-12	石器										
K-331	X器	C-2	石器										
K-332	X器	D-2	石器										
K-333	X器	D-9	石器										
K-334	X器	D-9	石器										
K-335	X器	D-12	石器		6.5	3.3	1.8	62.30	縄文時代	K-273, 274, 281, 282, 283と整合	137-1-c	291	
K-336	X器	D-12	石器										
K-337	X器	D-12	石器										
K-338	X器	D-12	石器										
K-339	X器	D-12	石器										
K-340	X器	D-12	石器										
K-341	X器	D-12	石器										
K-342	X器	I-2	石器										
K-343	X器	I-2	石器										
K-344	X器	I-2	石器										
K-345	X器	I-2	石器										
K-346	X器	I-2	石器										
K-347	X器	I-2	石器										
K-348	X器	I-2	石器										
K-349	X器	I-2	石器										
K-350	X器	I-2	石器										
K-351	X器	I-2	石器										
K-352	X器	I-2	石器										
K-353	X器	I-2	石器										
K-354	X器	I-2	石器										
K-355	X器	I-2	石器										
K-356	X器	I-2	石器										
K-357	X器	I-2	石器										
K-358	X器	I-2	石器										
K-359	X器	I-2	石器										
K-360	X器	I-2	石器										
K-361	X器	I-2	石器										
K-362	X器	I-2	石器										
K-363	X器	I-2	石器										
K-364	X器	I-2	石器										
K-365	X器	I-2	石器										
K-366	X器	I-2	石器										
K-367	X器	I-2	石器										
K-368	X器	I-2	石器										
K-369	X器	I-2	石器										
K-370	X器	I-2	石器										
K-371	X器	I-2	石器										
K-372	X器	I-2	石器										
K-373	X器	I-2	石器										
K-374	X器	I-2	石器										
K-375	X器	I-2	石器										
K-376	X器	I-2	石器										
K-377	X器	I-2	石器										
K-378	X器	I-2	石器										
K-379	X器	I-2	石器										
K-380	X器	I-2	石器										
K-381	X器	I-2	石器										
K-382	X器	I-2	石器										
K-383	X器	I-2	石器										
K-384	X器	I-2	石器										
K-385	X器	I-2	石器										
K-386	X器	I-2	石器										
K-387	X器	I-2	石器										
K-388	X器	I-2	石器										
K-389	X器	I-2	石器										
K-390	X器	I-2	石器										
K-391	X器	I-2	石器										
K-392	X器	I-2	石器										
K-393	X器	I-2	石器										
K-394	X器	I-2	石器										
K-395	X器	I-2	石器										
K-396	X器	I-2	石器										
K-397	X器	I-2	石器										
K-398	X器	I-2	石器										
K-399	X器	I-2	石器										
K-400	X器	I-2	石器										
K-401	X器	I-2	石器										
K-402	X器	I-2	石器										
K-403	X器	I-2	石器										
K-404	X器	I-2	石器										
K-405	X器	I-2	石器										
K-406	X器	I-2	石器										
K-407	X器	I-2	石器										
K-408	X器	I-2	石器										
K-409	X器	I-2	石器										
K-410	X器	I-2	石器										
K-411	X器	I-2	石器										
K-412	X器	I-2	石器										
K-413	X器	I-2	石器										
K-414	X器	I-2	石器										
K-415	X器	I-2	石器										
K-416	X器	I-2	石器										
K-417	X器	I-2	石器										
K-418	X器	I-2	石器										
K-419	X器	I-2	石器										
K-420	X器	I-2	石器										
K-421	X器	I-2	石器										
K-422	X器	I-2	石器										
K-423	X器	I-2	石器										
K-424	X器	I-2	石器										
K-425	X器	I-2	石器										
K-426	X器	I-2	石器										
K-427	X器	I-2	石器										
K-428	X器	I-2	石器										
K-429	X器	I-2	石器										
K-430	X器	I-2	石器										
K-431	X器	I-2	石器										
K-432	X器	I-2	石器										
K-433	X器	I-2	石器										
K-434	X器	I-2	石器										
K-435	X器	I-2	石器										

表-19 登録遺物目録 (10)
K. 石器・石製品

登録番号	出土地名	出土年月日	名	成	性	形	量	寸	度	分	秒	記	種	方	通	登録番号
K-243	工具	K-1			鉄的							鐵鋸刃				
K-244	工具	K-2			鉄的							鐵鋸刃				
K-245	工具	K-10			鉄的							鐵鋸刃				
K-246	工具	D-11			鉄的							鐵鋸刃				
K-247	工具上部				鉄的							鐵鋸刃				
K-248	工具上部	G-10			鉄的							鐵鋸刃				
K-249	工具上部	J-7			鉄的							鐵鋸刃				
K-250	工具上部	G-11			鉄的							鐵鋸刃				
K-251	工具上部	E-11			鉄的							鐵鋸刃				
K-252	工具上部	D-11			鉄的		5.3	4.85	1.8	15.35		鐵鋸刃		K-240, 241と結合	179-1-a	290
K-253	工具	D-27			鉄的							鐵鋸刃				
K-254	工具	D-12			鉄的							鐵鋸刃				
K-255	工具	D-12			鉄的							鐵鋸刃				
K-256	工具	D-17			鉄的							鐵鋸刃				
K-257	工具上部	D-22			鉄的							鐵鋸刃				
K-258	工具	D-12			鉄的							鐵鋸刃				
K-259	工具	D-12	SX-37		鉄的							鐵鋸刃				
K-260	工具	D-2	SX-37		鉄的		5.7	3.0	2.0	17.25		鐵鋸刃		K-250, 251と結合	179-1-e	290
K-261	工具	D-12	SX-37		鉄的							鐵鋸刃				
K-262	工具	D-2	SX-37		鉄的							鐵鋸刃				
K-263	工具	D-2	SX-37		鉄的							鐵鋸刃				
K-264	工具	F-2			鉄的							鐵鋸刃				
K-265	工具	E-9			鉄的							鐵鋸刃				
K-266	工具	E-11			鉄的							鐵鋸刃				
K-267	工具	E-11			鉄的							鐵鋸刃				
K-268	工具	E-11			鉄的							鐵鋸刃				
K-269	工具	E-11			鉄的							鐵鋸刃				
K-270	工具	E-11			鉄的							鐵鋸刃				
K-271	工具	F-6			鉄的							鐵鋸刃				
K-272	工具	E-9			鉄的							鐵鋸刃				
K-273	工具	F-9			鉄的		6.0	5.4	3.65	20.20		鐵鋸刃		K-254, 255, 256, 257と結合	181-1-a	291
K-274	工具	F-11			鉄的							鐵鋸刃				
K-275	工具	G-10			鉄的							鐵鋸刃				
K-276	工具	G-11			鉄的							鐵鋸刃				
K-277	工具	H-10			鉄的							鐵鋸刃				
K-278	工具	I-8			鉄的							鐵鋸刃				
K-279	工具	J-5			鉄的							鐵鋸刃				
K-280	工具	E-5			鉄的							鐵鋸刃				
K-281	工具	D-9			鉄的							鐵鋸刃				
K-282	工具	E-2			鉄的							鐵鋸刃				
K-283	工具	K-11			鉄的		7.8	3.7	3.5	134.00		鐵鋸刃		K-244, 245, 246, 247と結合	182-1-d	291
K-284	工具	E-9			鉄的							不明				
K-285	工具	K-15			鉄的							鐵鋸刃				
K-286	工具	E-15			鉄的							鐵鋸刃				
K-287	工具	V-5			鉄的							鐵鋸刃				
K-288	工具	P-5			鉄的							鐵鋸刃				
K-289	工具	V-9			鉄的							鐵鋸刃				
K-290	工具	F-10			鉄的							鐵鋸刃				
K-291	工具	V-10			鉄的							鐵鋸刃				
K-292	工具	F-11			鉄的		3.5	0.0	1.8	37.15		鐵鋸刃				
K-293	工具	G-2			鉄的							鐵鋸刃				
K-294	工具	H-5			鉄的							鐵鋸刃				
K-295	工具	H-5			鉄的							鐵鋸刃				
K-296	工具	H-8			鉄的		3.2	2.6	0.9	34.40		鐵鋸刃		K-291と結合	179-1-b	290
K-297	工具	H-5			鉄的		3.5	4.4	1.5	20.00		鐵鋸刃		K-291と結合	179-1-a	290
K-298	工具	H-5			鉄的		2.6	2.9	0.6	3.90		鐵鋸刃		K-311と結合	206-2-b	294
K-299	工具	I-9			鉄的							鐵鋸刃				
K-300	工具	J-7			鉄的							鐵鋸刃				
K-301	工具	J-8			鉄的							鐵鋸刃				
K-302	工具	K-5			鉄的							鐵鋸刃				
K-303	工具上部	D-11			鉄的							鐵鋸刃				
K-304	工具上部	D-11			鉄的							鐵鋸刃				
K-305	工具上部	D-11			鉄的							鐵鋸刃				
K-306	工具上部	D-11			鉄的							鐵鋸刃				

表-20 登録遺物目録 (11)

大·石器·石製品

L. 木器・木製品

测点序号	高程单位	采土区	地类	坡向		坡度		平均高程		第二圈山脊		高程	测点备注	
				上坡	下坡	左坡	右坡	高程	坡度	高程	坡度			
L-1	米	田地	Q-9	SD-9	16.1	17.3	2.8	2.6%	分水岭	○	1	3	8.8	52-1
L-2	米	田地	Q-9	SD-9	2	14.2	3.6	2.2%	分水岭	○	1	3	9.6	52-2
L-3	米	田地	Q-9	SD-9	3	19.2	7.5	4.5%	分水岭	○	1	4	21.6	52-3
L-4	米	田地	Q-9	SD-9	4	32.0	5.2	4.7%	分水岭	○	4	5	23.1	52-4
L-5	米	田地	Q-9	SD-9	5	43.0	3.8	5.1%	分水岭	○	1	7	37.7	52-5
L-6	米	田地	Q-9	SD-9	6	46.5	6.0	5.0%	分水岭	○	2	21	51.1	52-6
L-7	米	田地	Q-9	SD-9	7	47.0	1.9	4.3%	分水岭	○	1	7	48.5	52-7
L-8	米	田地	Q-9	SD-9	8	50.6	3.5	4.2%	分水岭	○	5	11	60.6	52-8
L-9	米	田地	Q-9	SD-9	9	59.8	6.8	4.6%	分水岭	○	4	8	51.5	53-1
L-10	米	田地	Q-9	SD-9	10	36.1	5.6	2.8%	分水岭	○	2	4	21.4	53-2
L-11	米	田地	Q-9	SD-9	11	35.1	2.5	2.6%	分水岭	○	4	6	25.7	53-3
L-12	米	田地	Q-9	SD-9	12	38.2	6.1	4.3%	分水岭	○	2	7	28.7	54-1
L-13	米	田地	Q-9	SD-9	13	42.7	6.6	3.2%	分水岭	○	2	5	26.5	54-2
L-14	米	田地	Q-9	SD-9	14	43.1	4.9	4.1%	分水岭	○	4	3	22.6	54-3
L-15	米	田地	Q-9	SD-9	15	49.4	8.6	2.0%	分水岭	○	2	3	2.5	54-4
L-16	米	田地	Q-9	SD-9	16	47.2	7.7	6.1%	分水岭	○	4	8	32.7	54-5
L-17	米	田地	Q-9	SD-9	17	49.7	5.6	5.1%	分水岭	○	1	2	11.0	55-1
L-18	米	田地	Q-9	SD-9	18	35.1	4.3	4.4%	分水岭	○	3	5	8.2	55-2
L-19	米	田地	Q-9	SD-9	19	39.4	4.3	2.3%	分水岭	○	1	3	21.5	55-3
L-20	米	田地	Q-9	SD-9	20	35.3	5.9	3.1%	分水岭	○	2	9.3	55-4	
L-21	米	田地	Q-9	SD-9	21	10.5	3.3	2.9%	分水岭	○	3	11.0	55-5	
L-22	米	田地	Q-9	SD-9	22	28.6	3.6	2.8%	分水岭	○	5	3	18.0	56-1
L-23	米	田地	Q-9	SD-9	23	38.0	4.0	4.0%	分水岭	○	5	1	16.7	56-2
L-24	米	田地	Q-9	SD-9	24	13.2	3.5	2.5%	分水岭	○	3	1	9.6	56-3
L-25	米	田地	Q-9	SD-9	25	38.7	5.1	3.6%	分水岭	X			56-4	
L-26	米	田地	Q-9	SD-9	26	27.3	3.3	1.9%	分水岭	○			56-5	
L-27	米	田地	Q-9	SD-9	27	36.8	3.9	3.6%	分水岭	X			56-6	
L-28	米	田地	Q-9	SD-9	28	29.8	4.1	2.5%	分水岭	X			56-7	
L-29	米	田地	Q-9	SD-9	29	86.2	5.0	4.3%	分水岭	○	5	4	48.6	56-8
L-30	米	田地	Q-9	SD-9	30	52.3	5.2	4.0%	分水岭	○	4	2	9.2	56-9
L-31	米	田地	Q-9	SD-9	31	30.1	6.1	3.3%	分水岭	○	5	3	16.7	57-1
L-32	米	田地	Q-9	SD-9	32	3.6	2.1	4.8%	分水岭	○	4	3	8.1	57-2
L-33	米	田地	Q-9	SD-9	33	25.4	3.4	3.1%	分水岭	○	2	3	10.8	57-3
L-34	米	田地	Q-9	SD-9	34	5.3	2.0	3.1%	分水岭	X			57-4	
L-35	米	田地	Q-9	SD-9	35	17.3	3.9	2.7%	A-A'	○	2	7	2.5	57-5
L-36	米	田地	Q-9	SD-9	36	35.2	4.5	2.2%	分水岭	○	2	2	16.4	57-6
L-37	米	田地	Q-9	SD-9	37	56.2	4.6	-A-A'	分水岭	○	6	2	11.7	57-7
L-38	米	田地	Q-9	SD-9	38	27.2	4.6	4.2%	A-A'	○	6	1	15.5	57-8
L-39	米	田地	Q-9	SD-9	39	23.0	4.6	1.8%	分水岭	X			58-1	
L-40	米	田地	Q-9	SD-9	40	3.7	2.6	2.6%	分水岭	X			58-2	
L-41	米	田地	Q-9	SD-9	41	9.5	2.3	1.2%	分水岭	○	1		6.1	58-3
L-42	米	田地	Q-9	SD-9	42	18.5	4.9	3.6%	A-A'	○	2	9.1	58-4	
L-43	米	田地	Q-9	SD-9	43	6.8	1.6	1.0%	分水岭	○	4	1	6.7	58-5

表-21 登録遺物目録 (12)
L. 木器・木製品

登録番号	登録年	出土地點	品名	所持者	現 代		古 時		現 代	古 時	現 代	古 時	
					現 代	古 時	現 代	古 時					
L-44 鎌	Q-9	SD-9	546	33.4 4.8 3.8 大 細	○	6	3	18.5	櫛目付	58-7	302		
L-45 鎌	Q-9	SD-9	47	31.4 5.3 3.3 分割付	○	6	4	19.7		58-8	302		
L-46 鎌	Q-9	SD-9	46	30.1 4.9 2.6 分割付	○	4	2	18.1	櫛目付	58-9	303		
L-47 鎌	Q-9	SD-9	47	17.2 3.9 2.3 分割付	○	2	2	9.9		59-1			
L-48 鎌	Q-9	SD-9	48	20.0 2.3 2.0 大 細	○	2	2	1.0		59-2			
L-49 鎌	Q-9	SD-9	49	21.2 2.6 2.3 大 細	○	5	3	12.3		59-3			
L-50 鎌	Q-9	SD-9	50	21.1 2.4 2.0 大 細	○	2	2	1.2		59-4			
L-51 鎌	Q-9	SD-9	51	21.5 2.7 2.1 分割付	○	1	2	7.9		59-5			
L-52 鎌	Q-9	SD-9	52	21.0 2.8 2.4 大 細	○	2	1	5.7	櫛目付	59-6	303		
L-53 鎌	Q-9	SD-9	53	25.5 1.5 2.2 大 細	○	1	1	8.0	櫛目付	59-7	303		
L-54 鎌	Q-9	SD-9	54	17.5 2.1 1.1 分割付	○	2	1	4.6		59-8			
L-55 鎌	Q-9	SD-9	55	20.2 2.7 1.7 大 細	○	1	1	1.0		59-9			
L-56 鎌	Q-9	SD-9	56	21.6 3.9 2.7 大 細	○	1	1	11.6		59-10			
L-57 鎌	P-7	SD-10	501	56.0 3.5 2.9 大 細	○	3	2	3.6	からみ透抜	60-1			
L-58 鎌	P-7	SD-10	2	68.6 2.0 2.2 大 細	○	2	1	4.6	からみ透抜	62-2			
L-59 鎌	P-7	SD-10	3	54.2 1.8 4.2 大 細	○	6	5	12.1	からみ透抜	62-3			
L-60 鎌	P-7	SD-10	4	60.1 5.1 4.3 大 細	○	3	4	13.5	からみ透抜	62-4	303		
L-61 鎌	P-7	SD-10	5	69.8 4.5 3.8 分割付	○	6	7	20.2	からみ透抜	62-5	303		
L-62 鎌	P-7	SD-10	6	29.8 2.9 2.7 大 細	○	1	1	1.0	からみ透抜	62-6	5		
L-63 鎌	P-7	SD-10	7	68.9 3.6 3.2 大 細	○	4	3	12.1	からみ透抜	62-7	303		
L-64 鎌	P-7	SD-10	8	92.6 5.4 5.0 大 細	○	2	2	19.6	からみ透抜	62-8	303		
L-65 鎌	P-7	SD-10	9	79.4 3.9 3.1 大 細	○	1	1	5.4	からみ透抜	62-9			
L-66 鎌	P-7	SD-10	10	98.0 4.6 4.1 大 細	○	4	2	8.7	からみ透抜	62-10	303		
L-67 鎌	P-7	SD-10	11	37.4 2.3 2.1 大 細	○	2	1	3.5	からみ透抜	62-11			
L-68 鎌	P-7	SD-10	12	42.7 2.8 3.4 大 細	○	4	1	8.6	からみ透抜	62-12	303		
L-69 鎌	P-7	SD-10	13	35.4 3.1 2.7 大 細	○	2	1	3.0	からみ透抜	62-13			
L-70 鎌	P-7	SD-10	14	48.7 4.6 4.5 大 細	○	1	1	6.3	櫛目付からみ透抜	62-14			
L-71 鎌	P-7	SD-10	15	67.3 7.4 7.3 大 細	○	4	4	12.4	櫛目付からみ透抜	62-15			
L-72 鎌	P-7	SD-10	16	48.5 3.1 2.7 大 細	○	3	2	17.4		65-1	305		
L-73 鎌	P-12	SD-10	2	54.8 3.4 2.9 大 細	○	6	4	11.1		65-2	305		
L-74 鎌	P-12	SD-10	3	49.2 3.6 3.0 大 細	○	4	2	12.6		65-3	305		
L-75 鎌	P-12	SD-10	4	32.5 3.9 2.1 大 細	○	4	3	15.9		65-4	305		
L-76 鎌	O-P-5-6	SR-2-1	56	22.3 3.2 2.7 大 細	○	3	2	8.9	櫛目付	154-1			
L-77 三脚鉢	O-P-5-6	SR-2-1	2	99.6 2.3 2.3 大 細	○	2	2	6.5		154-2			
L-78 三脚鉢	O-P-5-6	SR-3-1	3	74.8 2.4 2.3 大 細	○	2	2	8.8	櫛目付	154-3			
L-79 三脚鉢	O-P-5-6	SR-3-1	4	74.4 6.4 6.3 大 細	○	-	-	24.2	櫛目付 工具付上	154-4	308		
L-80 三脚鉢	O-P-5-6	SR-3-2	5	46.1 6.3 5.1 大 細	○	5	5	26.1		155-1	308		
L-81 三脚鉢	O-P-5-6	SR-3-2	6	46.0 3.7 3.1 大 細	○	2	4	10.3		155-2			
L-82 三脚鉢	O-P-5-6	SR-3-2	7	50.0 2.8 2.7 大 細	○	1	1	3.0		155-5			
L-83 三脚鉢	O-P-5-6	SR-3-2	8	32.7 8.0 7.9 大 細	○	2	2	7.3	櫛目付 先端破損	155-3			
L-84 三脚鉢	O-P-5-6	SR-3-2	9	7.5 1.1 2.1 分割付	○	1	1	5.4		155-4			
L-85 三脚鉢	O-P-5-6	SR-3-2	10	8.3 4.3 0.9 分割付	×	-	-	-		155-6			
L-86 三脚鉢	O-P-5-6	SR-3-2	11	24.5 4.5 2.4 分割付	○	1	3	5.7		156-1			
L-87 三脚鉢	O-P-5-6	SR-3-2	12	21.1 3.5 1.9 大 細	○	3	2	5.4		156-2			
L-88 三脚鉢	O-P-5-6	SR-3-2	13	16.5 3.3 1.9 分割付	○	2	2	2.2		156-3			
L-89 三脚鉢	O-P-5-6	SR-3-2	14	8.6 3.9 2.6 分割付	○	-	-	3.5		156-4	308		
L-90 三脚鉢	O-P-5-6	SR-3-2	15	5.4 2.3 1.6 分割付	○	1	2	2.4		156-5			
L-91 三脚鉢	O-P-5-6	SR-3-2	16	14.0 3.2 3.5 分割付	×	6	1	1.9		156-6			
L-92 三脚鉢	H-6	SD-13	761	6.5 7.0 1.5 分割付	○	3	2	6.5		78-1	307		
L-93 三脚鉢	H-6	SD-13	762	32.6 3.2 3.2 大 細	○	3	1	6.4	櫛目付	78-2	307		
L-94 三脚鉢	O-P-7-5-9	SD-19	31	25.5 1.7 1.8 大 細	○	2	2	3.2		161-1			
L-95 三脚鉢	O-P-7-5-9	SD-19	2	13.1 2.3 1.7 大 細	○	1	1	0.9		161-2	309		
L-96 三脚鉢	O-P-7-5-9	3	16.6 2.9 1.5 大 細	○	2	1	2.6			161-3			
L-97 三脚鉢	O-P-7-5-9	4	8.5 1.5 1.4 大 細	○	1	1	2.5			161-4			
L-98 三脚鉢	O-P-7-5-9	5	13.7 2.4 2.0 大 細	○	2	2	6.3			161-5			
L-99 三脚鉢	O-P-7-5-9	6	34.7 2.9 2.7 大 細	○	6	1	1.9			161-6	309		
L-100 三脚鉢	O-P-7-5-9	7	14.5 2.9 1.6 大 細	×						161-7			
L-101 三脚鉢	O-V-7-8-9	8	8.9 1.2 1.6 大 細	×						161-8			
L-102 三脚鉢	O-3	SB-3-2	7612	52.6 7.0 5.9 分割付	○	4	1	20	25.7		156-9	308	
L-103 三脚鉢			4	36.2 2.9 2.4 大 細	○	1	3	12.1	櫛目付	78-3	307		
L-104 三脚鉢	H-7	SD-13	45	20.2 2.5 1.6 大 細	○	3	2	4.6	櫛目付	78-4	307		

表-22 登録遺物目録 (13)
L. 木器・木製品

登録番号	基準名	出土場所	式年	断面形状	規格	材種	材質	表面状況	内部構造	長さ(厘米)	測定値		測定者	測定日	保管場所	
											高さ	幅	厚さ			
L-37 欠番																
L-38 欠番																
L-39 欠番																
L-40 欠番																
L-41 欠番																
L-42 欠番																
L-43 欠番																
L-44 欠番																
L-45 欠番																
L-46 欠番																
L-47 欠番																
L-48 欠番																
L-49 箔屏 Q-9			SD 9	No.9-1	47.1	6.3	2.1	金銀材	×						36-1	
L-50 箔屏 Q-9			SD 9	No.9	42.2	4.2	4.0	金銀材	×						36-2	
L-51 箔屏 Q-9			SD 9	No.9	28.1	1.7	0.7	金銀材	×						36-3	
L-52 欠番																
L-53 欠番																
L-54 欠番																
L-55 欠番																
L-56 欠番																
L-57 欠番 Q-F			SD-10	2	45.1	1.9	0.6	○	1	1	5.0				36-3	286
L-58 欠番 Q-F			SD-10	4	36.5	3.3	1.0	○	2	1	13.9				36-5	286
L-59 欠番 Q-F			SD-10	5	12.0	2.1	2.1	丸材	○	1	1	6.8			36-7	286
L-60 欠番 Q-F			SD-10	6	25.3	4.3	1.0	丸材	○	2	1	10.1			36-1	
L-61 欠番 Q-F			SD-10	7	32.1	4.1	1.8	金銀材	×						36-3	
L-62 欠番 Q-F			SD-10	8	39.7	3.6	7.0	金銀材	×						36-3	
L-63 欠番 Q-F			SD-10	9	31.3	4.3	2.3	金銀材	×						36-4	286
L-64 欠番 Q-F			SD-10	10	12.6	7.9	1.3	金銀材	×						36-5	286
L-65 欠番 Q-F			SD-10	11	27.9	8.0	0.7	金銀材	×						36-6	
L-66 欠番 Q-F			SR-3													
L-67 1号			SD-26													
L-68 欠番 P-2-9			SX-6	No.1	36.0	4.3	1.0	丸材	○	6	4	9.4			71-1	306
L-69 欠番 P-2-9			SX-6	2	15.3	3.7	2.7	丸材	○	5	2	6.6			71-2	306
L-70 欠番 P-2-9			SX-6	3	12.3	2.6	2.1	丸材	○	3	3	5.6			71-3	306
L-71 欠番 P-2-9			SX-6	4	6.7	2.0	3.0	丸材	○	10-3	3	11.1			71-4	307
L-72 欠番 P-2-6			SD-10	1	5.2	2.1	1.6	金銀材	○	1	1	7.6			64-1	
L-73 欠番 P-2-6			SD-10	2	44.1	3.7	8.5	丸材	○	3	7	4.9			64-2	304
L-74 欠番 P-2-6			SD-10	3	50.1	4.0	3.5	丸材	○	4	5	14.5			64-3	304
L-75 欠番 P-2-6			SD-10	4	37.6	4.7	3.2	丸材	○	3	1	2.1			64-4	305
L-76 欠番 P-2-6			SD-10	5	42.6	3.0	—	丸材	○	3	3	13.9			64-5	305
L-77 欠番 P-2-6			SD-10	6	25.7	4.6	1.0	丸材	○	3	4	11.6			64-6	305
L-78 欠番 P-6-7			SR-3													
L-79 欠番 D-2-6			No.1	No.1	26.1	2.2	1.8	金銀材	○	1	—	9.9			16-1	
L-80 欠番 D-2-6			2	24.1	2.8	2.1	金銀材	○	1	—	—	9.9			16-2	
L-81 欠番 D-2-6			3	23.1	2.5	1.6	金銀材	○	1	1	—	—			16-3	
L-82 欠番 D-2-6			361													
L-83 欠番 D-2-6			2													
L-84 欠番 D-2-6			4													
L-85 欠番 Q-3			SD-5		19.3	2.8	1.5	金銀材	×						39-1	
L-86 欠番 Q-3			SD-5		10.9	2.2	1.8	—	×						39-2	
L-87 欠番 Q-3			SD-9		20.1	4.1	3.1	金銀材	×						39-3	
L-88 欠番 Q-3			SD-9		16.2	3.7	1.6	—	×						39-4	
L-89 欠番 P-1-1			SK-6		32.1	2.9	1.9	金銀材	×						100-1	

表-23 登録遺物目録 (14)
L. 木器・木製品

登録番号	基本番号	出土地区	遺 品	取 手	材 名	形 状	材 材	寸 長	面 幅	段 数	幅(横長)	規 格		備 考	測量番号	写真番号	
												高さ	幅	厚さ			
L-370	足 e 箱		SR-2														
L-371	足 e 箱		SR-3														
L-372	直筒		SD-9														
L-373	直筒	P-7	SD-10	35.0	2.8	一 丸 材	○	1	4	10.0							
L-374	直筒	P-7	SD-10														
L-375	直筒	P-7	SD-10														
登録番号 基本番号 出土地区			遺 品	取 手	材 名	形 状	寸 長	面 幅	厚さ	段 数	幅(横長)	規 格	内	外	測量番号	写真番号	
L-376	直筒	P-12	SD-10	6.0×2.0	角			5.0	1.5	1.0	2.0	直筒×4枚	内径 12mm	外径 14mm	60-1	300	
登録番号 基本番号 出土地区			遺 品	取 手	材 名	形 状	寸 長	面 幅	厚さ	段 数	幅(横長)	規 格	内	外	測量番号	写真番号	
L-377	直筒	O-5	SR-3?	Nel7													
L-378	直筒	O-5	SR-3?	Nel9	26.7	2.7	2.3	丸 材	○	2	2	11.0			60-7		
L-379	直筒	O-5	SR-3?	Nel9	9.0	2.7	—	丸 材	○	7	2	9.4			60-8		
L-380	直筒		SD-9													30-5	
L-381	直筒		SD-9													30-6	
L-382	直筒	L-30															
L-383	直筒	北区区		No1	6.5	3.3	1.5	丸 材	○	1	6	7.5			60-1		
L-384	直筒	北区区			2	8.5	4.1	3.6	丸 材	○	1	4	5.7			60-2	300
L-385	直筒	北区区		4	7.6	2.3	1.1	丸 材	○	1	1	4.0			60-3		
L-386	直筒	北区区		5	27.3	2.3	—	丸 材	×						60-4		
L-387	直筒	北区区		6	34.9	2.7	2.6	丸 材	×						60-5	300	
L-388	直筒	北区区		7													
L-389	直筒	北区区		8	10.5	2.8	2.1	丸 材	○	1	2	3.2			60-6	300	
L-390	直筒	北区区		9	11.8	2.4	1.9	丸 材	○	3	2	3.6			60-7		
L-391	直筒	北区区		10	13.8	1.6	3.0	丸 材	○	4	3	7.0			60-8		
L-392	直筒	北区区		11	26.7	3.7	3.2	丸 材	○	2	2	7.7			60-9	300	
L-393	直筒	北区区		12	10.3	2.3	1.4	丸 材	○	2	1	2.6			60-10		
L-394	直筒	北区区		13	3.7	2.3	2.0	丸 材	×						60-12		
L-395	直筒	北区区		14	20.5	2.5	2.1	丸 材	○	1	3	5.3			60-14		
L-396	直筒	北区区		15	32.2	1.9	1.0	丸 材	×						60-15	300	
L-397	直筒	北区区		16	11.9	3.7	1.7	丸 材	○	2	2	8.6			60-16		
L-398	直筒	北区区		No1	7.4	2.6	1.8	丸 材	○	1	7	2			60-1	300	
L-399	直筒	北区区		9	17.1	3.0	2.6	丸 材	○	1	1	3.7			60-2		
L-400	直筒	北区区		10	6.5	3.9	2.5	丸 材	○	1	1	3.1			60-3		
L-401	直筒	北区区		4	26.2	3.1	2.5	丸 材	○	1	5	12.5			60-4	300	
L-402	直筒	北区区		5	16.5	1.4	1.3	丸 材	○	1	3	4.0	中空人		60-6		
L-403	直筒	北区区		6	34.0	2.1	1.7	丸 材	○	1	1	1.3	小空穴		60-7		
L-404	直筒	北区区		7	22.1	7.1	6.0	丸 材	○	6	13	2.1			60-8	300	
登録番号 基本番号 出土地区			遺 品	取 手	材 名	形 状	寸 長	面 幅	厚さ	段 数	幅(横長)	規 格	内	外	測量番号	写真番号	
L-405	箱	P-13		手取	3.2	2.5	1.8	木箱							60-1	200	
登録番号 基本番号			遺 品	取 手	材 名	形 状	寸 長	面 幅	厚さ	段 数	幅(横長)	規 格	内	外	測量番号	写真番号	
L-396	直筒	SD-27	pH														
L-397	直筒	SD-25															
L-398	直筒																
L-399	直筒																

S. 磯 輪

登録番号	基本番号	出土地区	遺 品	取 手	材 名	形 状	寸 長	面 幅	厚さ	段 数	幅(横長)	規 格		備 考	測量番号	写真番号
												高さ	幅			
S-1	直筒上														40-1	272
S-2	直筒上															

N. 金 屬 製 品

登録番号	基本番号	出土地区	遺 品	取 手	材 名	形 状	寸 長	面 幅	厚さ	段 数	幅(横長)	規 格		備 考	測量番号	写真番号
												高さ	幅			
N-1	直筒	H-1-2	SD-7	2層	鋸切	丸材	馬蹄形空洞(馬蹄形切妻)直径約10mm 内側底面(馬蹄形切妻)直径約10mm					60-1				
N-2	V型	H-3			鋸切	丸材	馬蹄形空洞(馬蹄形切妻)直径約10mm 内側底面(馬蹄形切妻)直径約10mm					60-7				
N-3	直筒	L-8			鋸切	丸材	馬蹄形空洞(馬蹄形切妻)直径約10mm 内側底面(馬蹄形切妻)直径約10mm					60-8				
N-4	直筒	J-27			鋸切	丸材	直筒1.4 内側底面1.4g					12-2				
N-5	V型	J-21			鋸切	丸材	直筒1.5cm 内側底面1.5cm 直筒2.0cm 内側底面2.0cm 直筒2.4cm 内側底面2.4cm					12-1				
N-6	V型	J-27			鋸切	丸材	直筒1.6cm 内側底面1.6cm 直筒2.0cm 内側底面2.0cm					12-3				
N-7	直筒	J-27			鋸切	丸材	直筒1.6cm 内側底面1.6cm 直筒2.0cm 内側底面2.0cm					12-4				
N-8	直筒	P-9			鋸切	丸材	直筒1.6cm 内側底面1.6cm 直筒2.0cm 内側底面2.0cm					90-14				
N-9	V型	K-8			鋸切	丸材	直筒1.6cm 内側底面1.6cm 直筒2.0cm 内側底面2.0cm					90-6				

表-24 出土遗物统计表(1)

表-25 出土遺物集計表(2)

	A	B	C	D	E	FG	Ia	Ib	J	K	L	M	N	S	X	測
	萬 石	千 石	百 石	十 石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	考
Ⅲ層 SR-1					3											
SD-1					2											
SD-9 1号				4	4		1				1	1				
2号					-							1				
4号					2					1						
6号					15	2	2	1			1	62				
SD-10 1号				1	2		2	1								
2号					-		1									
SD-12 1号					13	5	1	1	2	2		2				
SD-17 2号					-	6										
SX-4					1											
SX-5					-											
SX-6					-							4				
SX-7 2号					-							1				
SX-8					-											
SX-10					-		1									
Vb層 SD-15					11	12	1									
SD-20					-	1										
Vb層 SD-12					7	11										
SD-26 1号					-	2										
2号					-	1										
SD-27				1	-	4										
SK-1					-											
SK-6					-											
Vb層 SD-37					6	13										
Vc層 SD-32					1											
SD-35					-	4										
SK-15					2											
SR-2 2号					-							1				
SD-29					3	2										
SR-3 2号					2	8										
3号					-	5										
3号					-	5										
4号					-	2						2	2			
SD-38					-							1				
SD-39					-											
SK-2					-							1				
SK-12					-											
SK-18					-											
SK-30 1号					-											
Ⅳ層 SD-27 3号					-							2				
SD-30					1											
SD-31					-											
SD-32					-											
SK-33					-											
SK-34					-											
SD-35					-											
SD-36					-											
SD-37					-											
SD-38					-											
SK-39					-											
SK-40					-											
SK-41					-											
SK-42					-											

職 員 錄

文化財課		調査係	調査係
課長	早坂春一	係長 佐藤 隆 主事 結城博一 教諭 太田昭夫 土事 篠原信彦 木村清二 佐藤 洋 金森安孝 佐藤甲一 小川淳一 吉岡泰平 渡部弘美 工藤哲司 橋本光一 主事 主浜光朗	主事 斎野裕彦 佐藤良文 長島榮一 千葉 仁 松本清一 及川 格 中富 洋 平間亮輔 渡辺雄二 宮崎 明 佐藤 淳 松本素明 渡部 紀 大江美智代 （併任）工藤信一郎
管理係			
係長	成田時雄		
上任	岩澤克輔		
主事	白幡靖子		
々	山口 宏		

仙台市文化財調査報告書刊行目録

- 第1集 天然記念物靈鳳下セコイア化石林高森報告書（昭和39年4月）
 第2集 仙台城（昭和42年3月）
 第3集 仙台市燕沢考古寺横穴古墳群調査報告書（昭和43年3月）
 第4集 史跡陸奥國分尼寺跡環境整備並びに調査報告書（昭和44年3月）
 第5集 仙台市東小泉法隆寺跡周囲調査報告書（昭和47年8月）
 第6集 仙台市荒巻五本松高麗碑発掘調査報告書（昭和48年10月）
 第7集 仙台市益沢裏町古墳発掘調査報告書（昭和49年3月）
 第8集 仙台市向山裏石山横穴群発掘調査報告書（昭和49年5月）
 第9集 仙台市柴井町奈良寺横穴群発掘調査報告書（昭和51年3月）
 第10集 仙台市中山町日安久東遺跡発掘調査概報（昭和51年3月）
 第11集 史跡遠見塚古墳環境整備予備調査概報（昭和51年3月）
 第12集 史跡遠見塚古墳環境整備第二次予備調査概報（昭和52年3月）
 第13集 南小京跡一範地蔵跡調査報告書一（昭和53年3月）
 第14集 采造跡発掘調査報告書（昭和54年3月）
 第15集 史跡遠見塚古墳昭和53年度環境整備予備調査概報（昭和54年3月）
 第16集 六反田遺跡発掘調査（第2・3次）のあらまし（昭和54年3月）
 第17集 北屋敷遺跡（昭和54年3月）
 第18集 梅江遺跡先史陶器報告書（昭和55年3月）
 第19集 仙台市地下鉄関係分布調査報告書（昭和55年3月）
 第20集 史跡遠見塚古墳昭和54年度環境整備予備調査概報（昭和55年3月）
 第21集 仙台市開発関係遺跡調査報告書（昭和55年3月）
 第22集 終ヶ峰（昭和55年3月）
 第23集 年報1（昭和55年3月）
 第24集 今泉城跡発掘調査報告書（昭和55年8月）
 第25集 三神峯遠見塚古墳昭和55年度環境整備予備調査概報（昭和56年3月）
 第26集 史跡遠見塚古墳昭和55年度環境整備予備調査概報（昭和56年3月）
 第27集 史跡陸奥國分寺跡昭和55年度発掘調査概報（昭和56年3月）
 第28集 年報2（昭和56年3月）
 第29集 郡山遺跡I（昭和56年3月）
 第30集 山田上ノ台遺跡発掘調査概報（昭和56年3月）

- 第31集 仙台市開発関係遺跡調査報告書 2 (昭和56年 3月)
第32集 鴻ノ果遺跡発掘調査報告書 (昭和56年 3月)
第33集 山口遺跡発掘調査報告書 (昭和56年 3月)
第34集 六反田遺跡発掘調査報告書 (昭和56年12月)
第35集 南小泉遺跡一都市計画道路建設工事関係第1次調査報告 (昭和57年 3月)
第36集 北前立遺跡発掘調査報告書 (昭和57年 3月)
第37集 仙台平野の遺跡群Ⅰ 昭和56年度発掘調査報告書一 (昭和57年 3月)
第38集 鶴山遺跡Ⅱ 一昭和56年度発掘調査概報一 (昭和57年 3月)
第39集 燕沢遺跡発掘調査報告書 (昭和57年 3月)
第40集 仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報 I (昭和57年 3月)
第41集 年報 3 (昭和57年 3月)
第42集 郡山遺跡一宅地造成に伴う緊急発掘調査一 (昭和57年 3月)
第43集 葉遺跡 (昭和57年 8月)
第44集 鴻ノ果遺跡発掘調査報告書 (昭和57年12月)
第45集 度庭一茂庭住宅用地造成工事地内遺跡発掘調査報告書一 (昭和58年 3月)
第46集 郡山遺跡Ⅲ 一昭和57年度発掘調査概要一 (昭和58年 3月)
第47集 仙台平野の遺跡群Ⅱ 一昭和57年度発掘調査報告書 - (昭和58年 3月)
第48集 史跡遠見塔古墳群と昭和57年度環境整備予備調査概報 (昭和58年 3月)
第49集 仙台市文化財分布調査報告書 1 (昭和58年 3月)
第50集 岩切畠中遺跡発掘調査報告書 (昭和58年 3月)
第51集 仙台市文化財分布地図 (昭和58年 3月)
第52集 南小泉遺跡一都市計画道路建設工事関係第2次調査報告 (昭和58年 3月)
第53集 中田畠中遺跡発掘調査報告書 (昭和58年 3月)
第54集 神明社遺跡発掘調査報告書 (昭和58年 3月)
第55集 南小泉遺跡一青葉女子学園移転新校工事地内調査報告 (昭和58年 3月)
第56集 仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報 II (昭和58年 3月)
第57集 年報 4 (昭和58年 3月)
第58集 今泉城跡 (昭和58年 3月)
第59集 下ノ内浦遺跡 (昭和58年 3月)
第60集 南小泉遺跡一倉庫建築に伴う緊急発掘調査報告書一 (昭和58年 3月)
第61集 山口遺跡Ⅱ 仙台市体育館建設予定地一 (昭和59年 2月)
第62集 燕洲遺跡 (昭和59年 3月)
第63集 史跡除馬山分寺跡昭和58年度発掘調査概報 (昭和59年 3月)
第64集 郡山遺跡Ⅳ 一昭和58年度発掘調査概要 - (昭和59年 3月)
第65集 仙台平野の遺跡群Ⅲ 一昭和58年度発掘調査報告書一 (昭和59年 3月)
第66集 年報 5 (昭和59年 3月)
第67集 富田水田遺跡一第1回一泉崎前地区 (昭和59年 3月)
第68集 南小泉遺跡一都市計画道路建設工事関係第3次調査報告 (昭和59年 3月)
第69集 仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅲ (昭和59年 3月)
第70集 戸内遺跡発掘調査報告書 (昭和59年 3月)
第71集 後河原遺跡 (昭和59年 3月)
第72集 六反田遺跡Ⅱ (昭和59年 3月)
第73集 仙台市文化財分布調査報告書 II (昭和59年 3月)
第74集 郡山遺跡 V 一昭和59年度発掘調査概報一 (昭和60年 3月)
第75集 仙台平野の遺跡群Ⅳ (昭和60年 3月)
第76集 仙台城二ノ丸跡発掘調査報告書 (昭和60年 3月)
第77集 山田上ノ台遺跡一昭和59年度発掘調査報告書一 (昭和60年 3月)
第78集 中山畠中遺跡Ⅰ 第2次発掘調査報告書一 (昭和60年 3月)
第79集 次ノ上Ⅰ 遺跡発掘調査報告書 (昭和60年 3月)
第80集 南小泉遺跡一第12次発掘調査報告書一 (昭和60年 3月)
第81集 南小泉遺跡一第13次発掘調査報告書一 (昭和60年 3月)
第82集 仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅳ (昭和60年 3月)
第83集 年報 6 (昭和60年 3月)
第84集 仙台市文化財分布調査報告書Ⅲ (昭和60年 3月)
第85集 宮城県仙台市安田山後跡横穴古墳発掘調査報告書 (昭和60年 8月)
第86集 郡山遺跡Ⅴ (昭和61年 3月)
第87集 仙台平野の遺跡群V 一昭和60年度発掘調査報告書一 (昭和61年 3月)
第88集 上野跡発掘調査報告書 (昭和61年 3月)
第89集 仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報 V (昭和61年 3月)

- 第 90集 若林城跡一平安時代の集落跡（昭和61年 3月）
第 91集 東北電力鉄塔関係遺跡発掘調査報告書（昭和61年 3月）
第 92集 五城中北竜勝発掘調査報告書（昭和61年 3月）
第 93集 仙台市文化財分布調査報告書Ⅳ（昭和61年 3月）
第 94集 年報？（昭和61年 3月）
第 95集 横生（昭和62年 3月）
第 96集 郡山遺跡群一昭和61年度発掘調査概報一（昭和62年 3月）
第 97集 仙台平野の遺跡群Ⅰ—昭和61年度発掘調査報告書一（昭和62年 3月）
第 98集 岩沢遺跡（昭和62年 3月）
第 99集 五本松窯跡発掘調査報告書（昭和62年 3月）
第100集 山田上ノ台発掘調査報告書（昭和62年 3月）
第101集 仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅱ（昭和62年 3月）
第102集 八戸田遺跡発掘調査報告書（昭和62年 3月）
第103集 元貢川遺跡発掘調査報告書（昭和62年 3月）
第104集 岩沢遺跡一東北地方建設局長町宿舎建設工事に伴う発掘調査報告書一（昭和62年 3月）
第105集 北前遺跡発掘調査報告書（昭和62年 3月）
第106集 仙台市文化財分布調査報告書Ⅴ（昭和62年 3月）
第107集 年報 8（昭和62年 3月）
第108集 春日杜古墳・鳥居塚古墳発掘調査報告書（昭和62年 8月）
第109集 南小泉遺跡一第14次発掘調査報告書一（昭和62年11月）
第110集 鶴山遺跡場一昭和62年度発掘調査概報一（昭和63年 3月）
第111集 仙台平野の遺跡群Ⅱ—昭和62年度発掘調査報告書一（昭和63年 3月）
第112集 東光寺遺跡発掘調査報告書（昭和63年 3月）
第113集 富沢遺跡第24次調査報告書（昭和63年 3月）
第114集 富沢遺跡第28次発掘調査報告書（昭和63年 3月）
第115集 下ノ内浦遺跡発掘調査報告書（昭和63年 3月）
第116集 燕沢遺跡（昭和63年 3月）
第117集 富沢遺跡第33次発掘調査報告書（昭和63年 3月）
第118集 富沢遺跡第34次発掘調査報告書（昭和63年 3月）
第119集 泉崎浦遺跡発掘調査報告書（昭和63年 3月）
第120集 鮎ヶ丘ニユータウン開発遺跡調査報告書（昭和63年 3月）
第121集 仙台市文化財分布調査報告書Ⅵ（昭和63年 3月）
第122集 年報 9（昭和63年 3月）

仙台市文化財調査報告書第113集

富沢遺跡

24次調査 富沢中学校地区

昭和63年3月

発行 仙台市教育委員会

仙台市宮町三丁目 7-1

文化財課 022(261)1111

印刷 株式会社 東北プリント

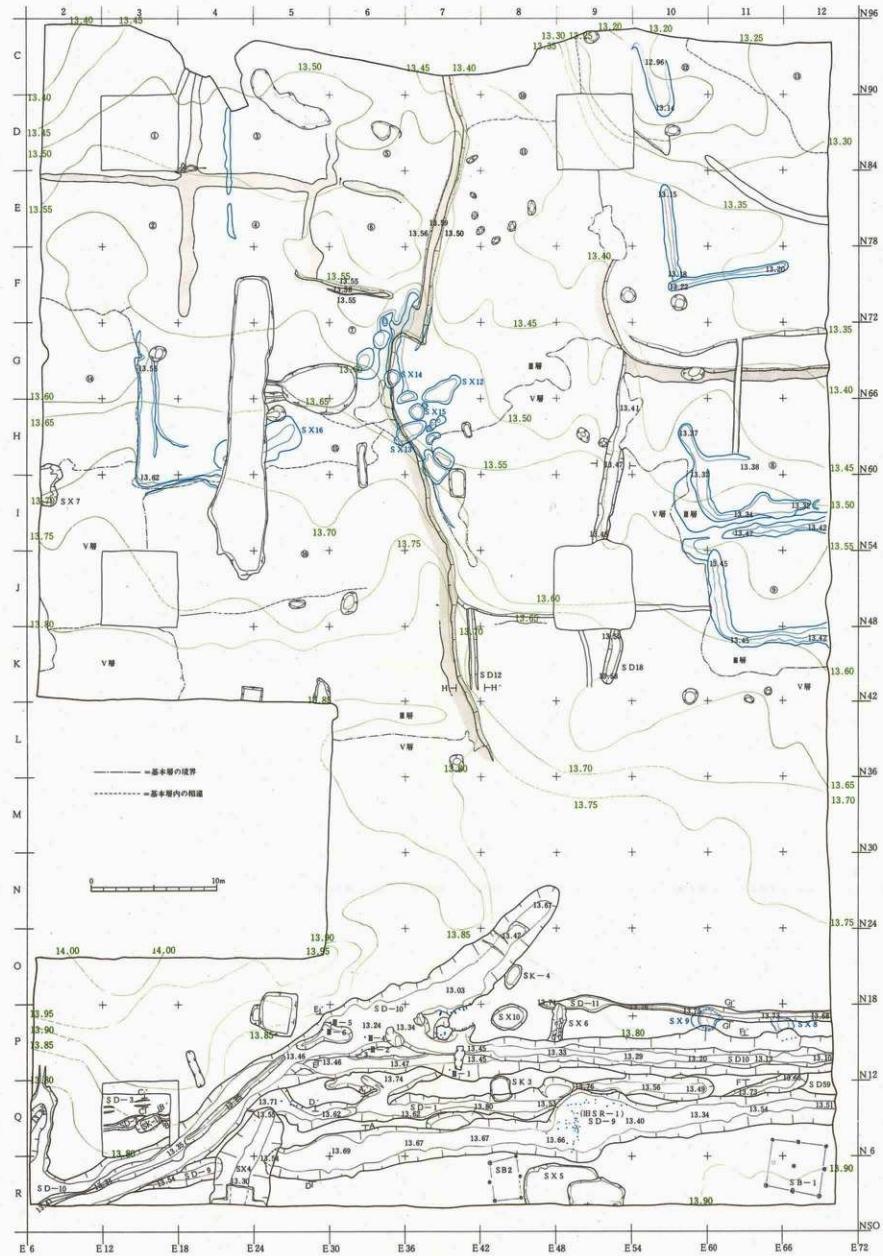
仙台市立町24-24 TEL 263 1166

仙台市文化財調査報告書第113集

富沢遺跡(24次調査)

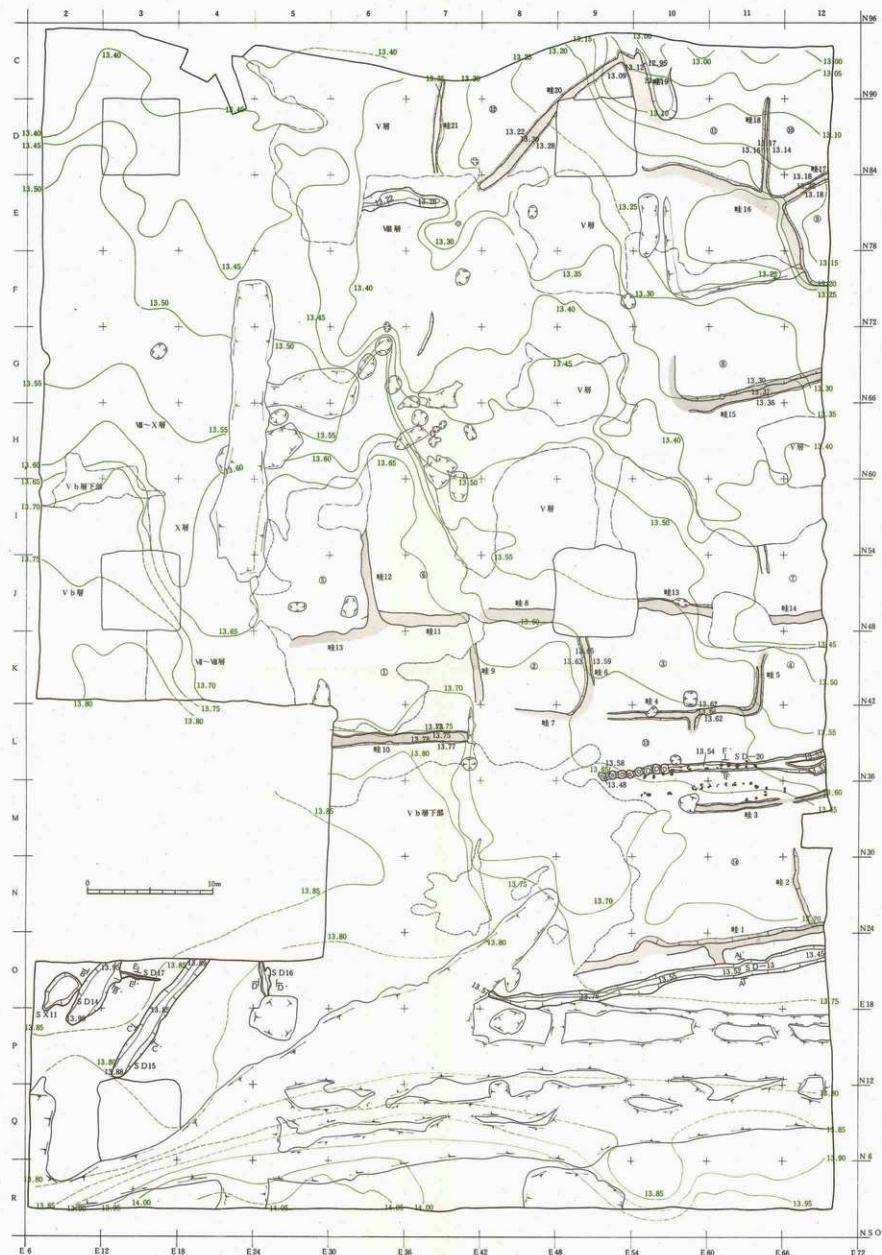
付図一 1 ~ 9

付図1 III層遺構配置図



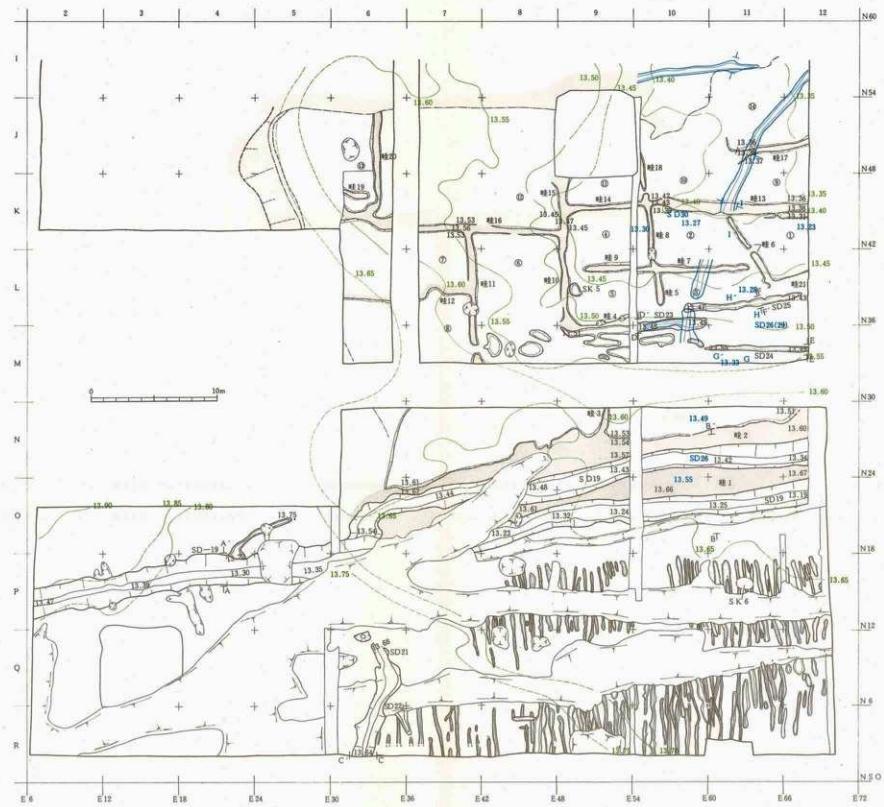
付図1 Ⅲ層遺構配置図

付図2 V層遺構配置図



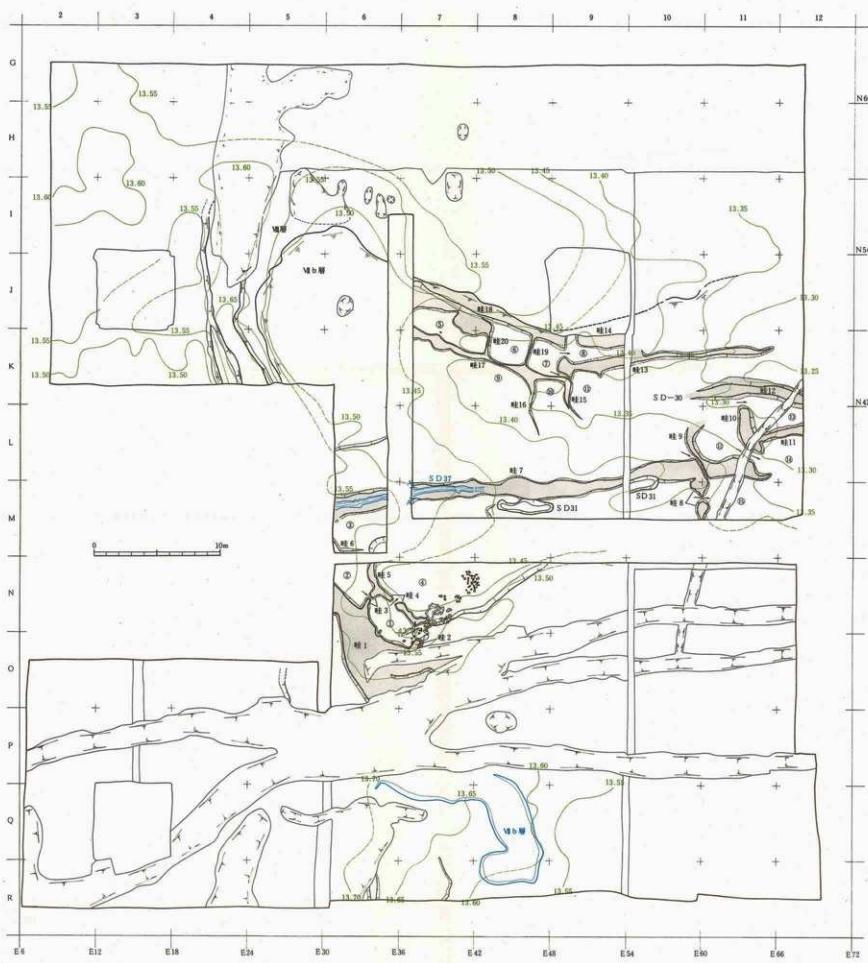
付図2 V層遺構配置図

付図3 Vb層構造配置図



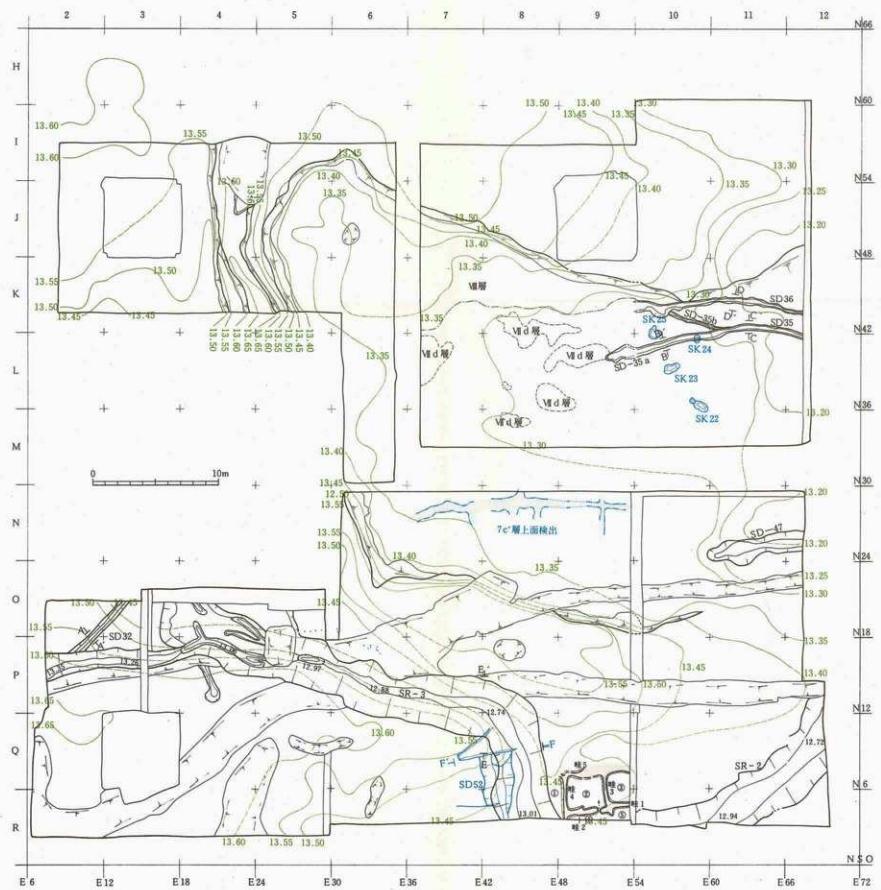
付図3 VI b層遺構配置図

付図 4 VII b 層遺構配置図



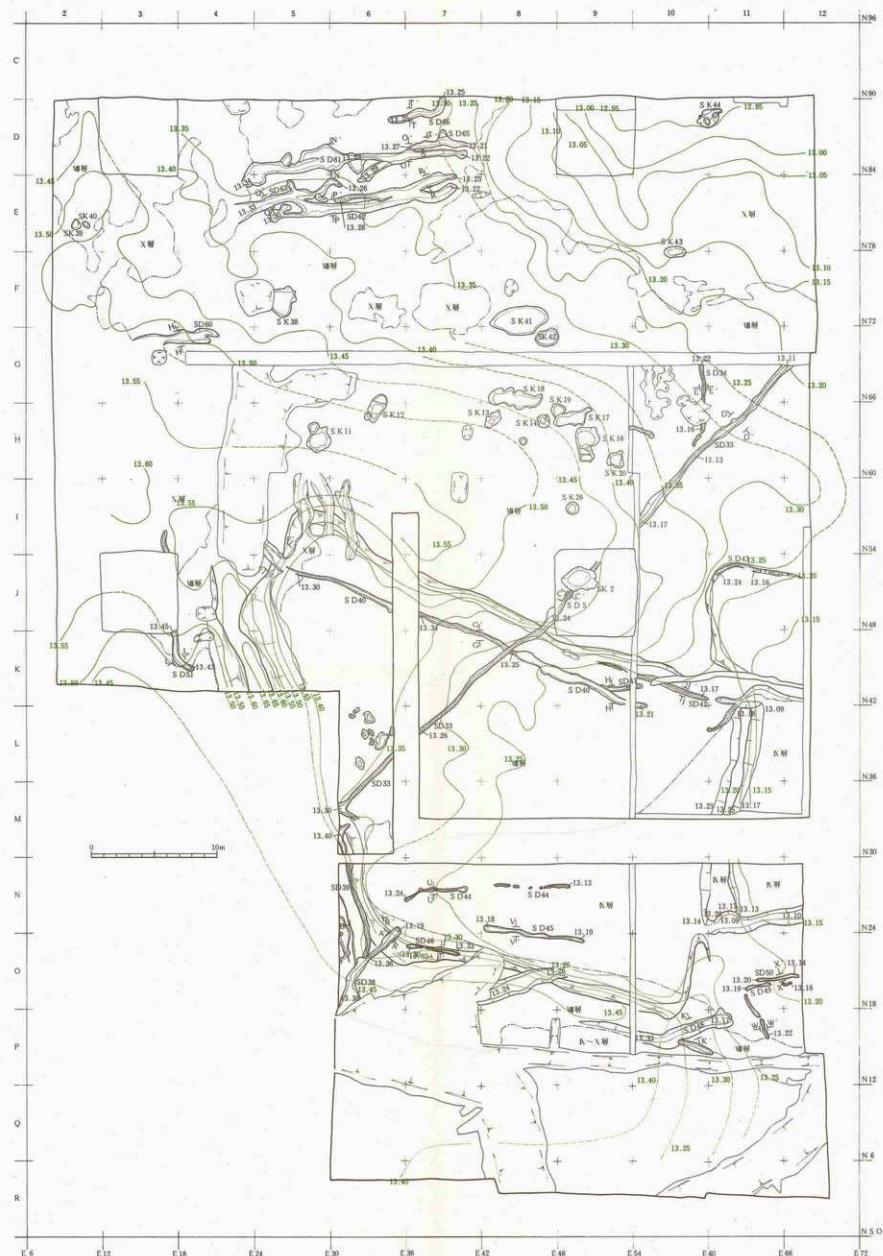
付図 4 VII b 層遺構配置図

付図 5 VIIc 層遺構配置図



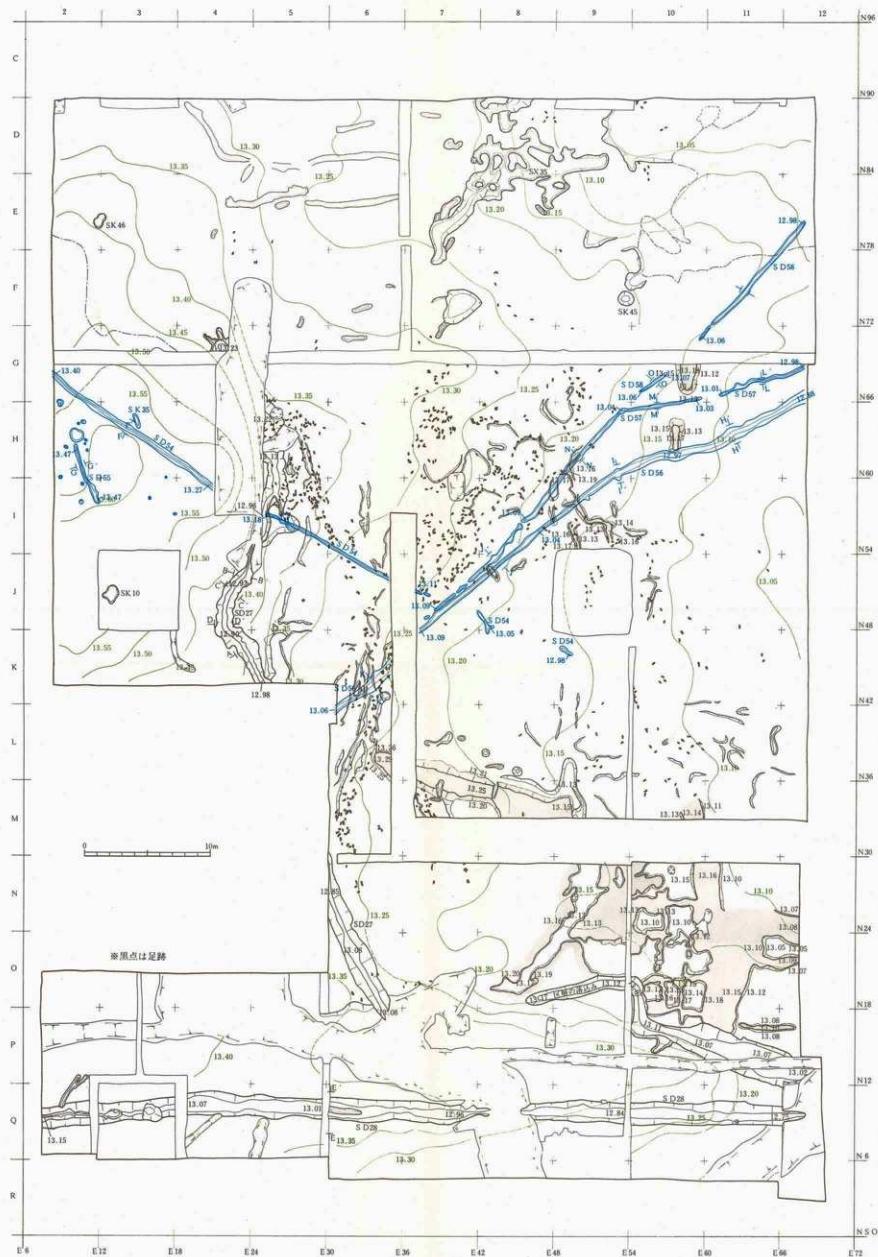
付図 5 VIIc 層遺構配置図

付図 6 VIII・IX層遺構配置図



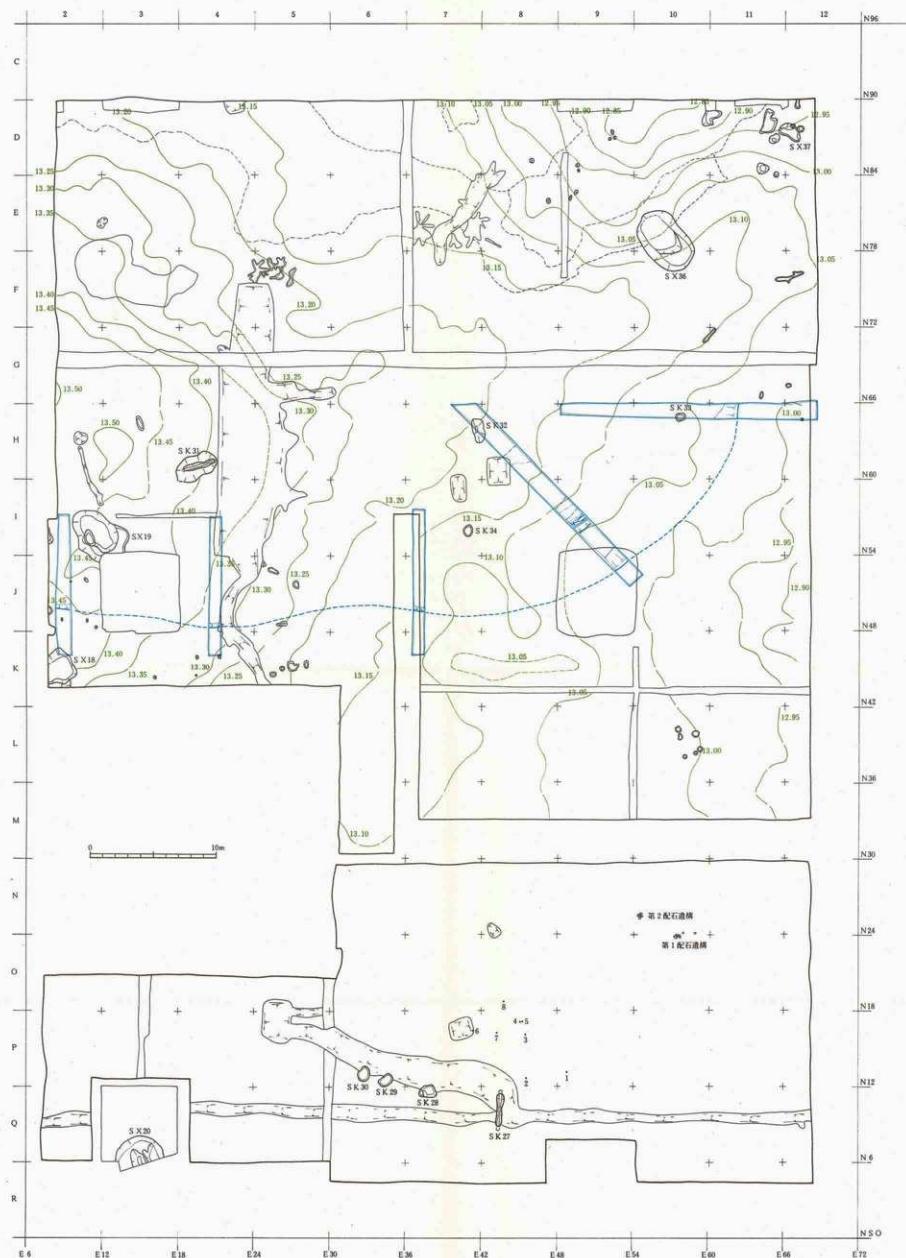
付図 6 VIII・IX層遺構配置図

付図7 X層構造配置図



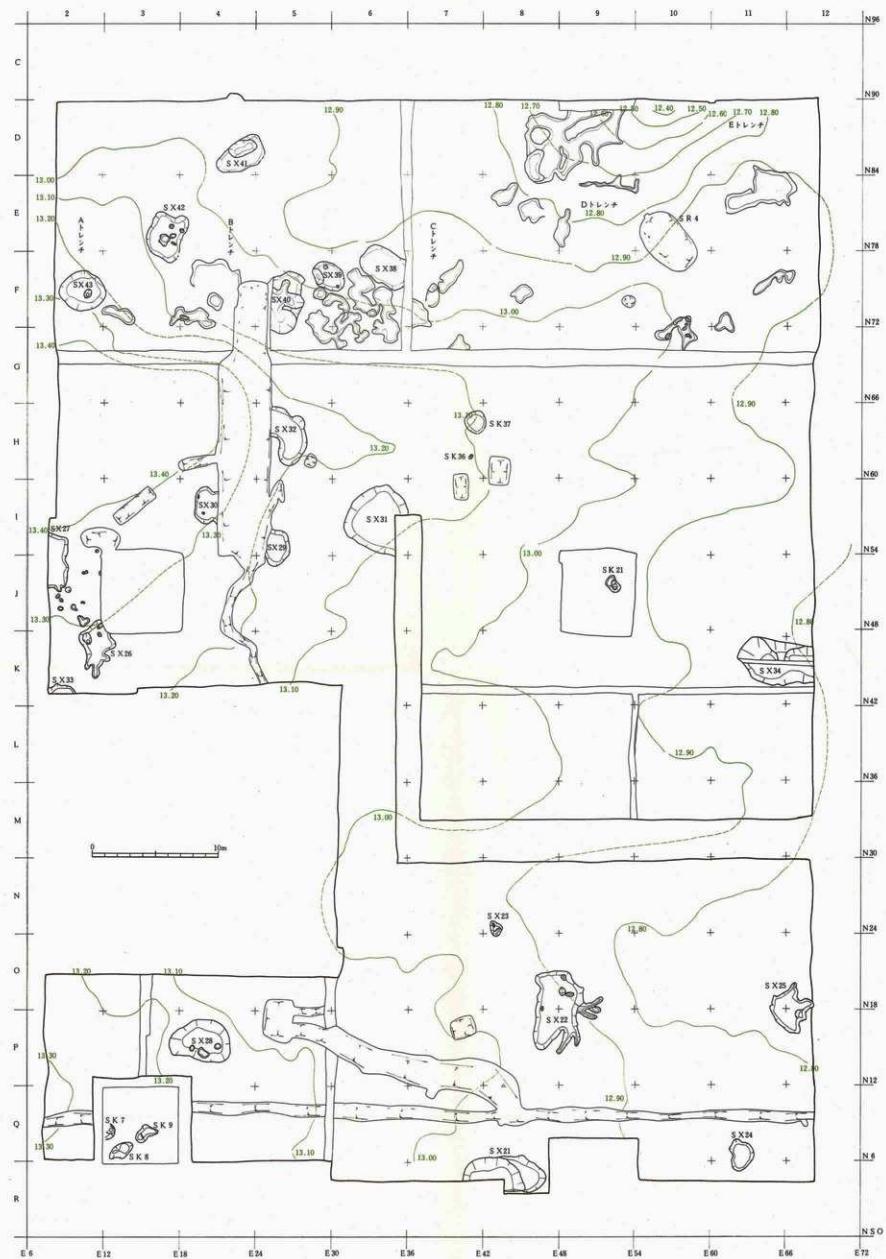
付図7 X層遺構配置図

付図 8 XI層遺構配置図



付図 8 XI層遺構配置図

付図9 XII層遺構配置図



付図9 XII層遺構配置図

